

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1 - (1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表

(単位:件) 平成27年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	125,766	130	954	116,268	87	634	7,109	27	180	1,877	13	111	512	3	29
絵画	13,575	34	202	11,154	20	101	2,039	9	55	294	4	42	88	1	4
書跡	3,331	35	170	1,811	14	59	1,330	15	77	145	5	28	45	1	6
彫刻	1,418	1	45	1,105	0	22	145	0	1	146	1	16	22	0	6
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,030	3	54	16,415	1	17	438	2	24	163	0	11	14	0	2
刀剣	3,459	20	57	3,436	19	57				16	0	0	7	1	0
陶磁	3,925	0	18	2,947	0	12	863	0	2	81	0	0	34	0	4
漆工	4,414	6	30	3,793	4	20	363	0	2	100	2	5	158	0	3
染織	4,738	2	26	3,696	0	19	915	1	6	92	1	1	35	0	0
考古	30,112	4	76	28,644	4	55	685	0	11	734	0	8	49	0	2
民族資料	1,308	0	1	1,197	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	1
歴史資料	5,934	0	5	5,608	0	4	282	0	1	0	0	0	44	0	0
和書	17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋	絵画	685	4	31	685	4	31	/	/	/	/	/	/	/	/
	書跡	1,693	10	12	1,693	10	12								
	彫刻	799	0	20	799	0	20								
	金工	1,033	0	0	1,033	0	0								
	陶磁	3,045	0	10	3,045	0	10								
	漆工	529	0	4	529	0	4								
	染織	592	0	1	592	0	1								
	考古	5,880	0	2	5,880	0	2								
	民族	3,484	0	0	3,484	0	0								
法隆寺献納宝物	321	11	183	321	11	183									
黒田記念館収蔵品	816	0	2	816	0	2									
準歴史資料(含和書)	2	0	2	2	0	2									

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり
 京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
 * 列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にするし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
 * 東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

(参考)

【奈良文化財研究所】

〇保管及び所蔵文化財・資料概要(主なもの)

平成27年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料(重要文化財)	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森濠資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部(平城地区)]	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡(重要文化財)	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡(重要文化財)	1,785点
平城宮跡内膳司推定地出土木簡(重要文化財)	483点
興福寺旧境内土壌(一乗院宸殿跡下層)出土品(重要文化財)	一括
平城宮・京出土土器・土製品	30,379
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	34,967
平城宮・京出土瓦類	999,708
平城宮・京出土木簡	209,221
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
[都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約36,053点
丸瓦・平瓦 土嚢袋	約167,843袋
丸瓦・平瓦 整理箱	約38,611箱
土器 整理箱	約16,354箱
土製品	約15,061点
木器・木製品	約34,007点
木簡	約355,155点
建築部材	約2,971点
金属製品	約19,858点
石器・石製品	約14,276点
漏刻復元模型	1点
帷帳復元模型(台付き)	一式
飛鳥大仏頭部複製(模刻)	1点
藤ノ木古墳鞍復元模型	1点
富本銭枝銭復元模型	一式
基盤復元模型	1点
鉄釜鑄造土坑復元模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獸葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舍利荘嚴具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品(重要文化財)	一括
和田麁寺鷗尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所屬))	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊佛	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等)	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復元	1点
飛鳥京復元模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト5号古墳石室	1点
十二支拓本(表装済み・収納箱あり)	一式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
キトラ古墳模型	1点
山東省濟南市解放橋北唐墓石棺 青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式
武人復元	1点
山田寺灯籠復元	1点
貝注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鍍付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鍍付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像(夢違観音)複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝2年戸籍残簡複製品	2点
人頭石(光永寺)複製品	1点
鰐淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財園勝寺銅壺鑄造模型(下道園依母婦人骨蔵器)	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料(15遺跡)	一式
千葉県曾谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛸沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曾利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木岡貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式

1-(1)-① (参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5カ年)

(単位:件) 平成27年3月31日現在

		平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・ 寄託品 合計	国立博物館 計	134,077	315	2,128	134,668	316	2,126	135,044	317	2,136	136,215	323	2,143	137,610	325	2,162
	東京国立博物館	115,984	137	886	116,586	137	883	116,925	136	884	118,172	140	878	119,332	143	890
	京都国立博物館	12,589	110	789	12,634	110	787	12,622	112	789	12,613	114	801	13,110	113	803
	奈良国立博物館	3,774	65	423	3,776	66	425	3,785	66	431	3,856	66	432	3,861	66	435
	九州国立博物館	1,730	3	30	1,672	3	31	1,712	3	32	1,574	3	32	1,307	3	34
収蔵品	国立博物館 計	122,102	130	943	122,802	130	946	123,378	130	950	124,729	130	952	125,766	130	954
	東京国立博物館	113,258	87	629	113,897	87	631	114,362	87	631	115,653	87	633	116,268	87	634
	京都国立博物館	6,584	27	177	6,621	27	177	6,708	27	179	6,721	27	179	7,109	27	180
	奈良国立博物館	1,827	13	109	1,831	13	109	1,834	13	111	1,862	13	111	1,877	13	111
	九州国立博物館	433	3	28	453	3	29	474	3	29	493	3	29	512	3	29
寄託品	国立博物館 計	11,975	185	1,185	11,866	186	1,180	11,666	187	1,186	11,486	193	1,191	11,844	195	1,208
	東京国立博物館	2,726	50	257	2,689	50	252	2,563	49	253	2,519	53	245	3,064	56	256
	京都国立博物館	6,005	83	612	6,013	83	610	5,914	85	610	5,892	87	622	6,001	86	623
	奈良国立博物館	1,947	52	314	1,945	53	316	1,951	53	320	1,994	53	321	1,984	53	324
	九州国立博物館	1,297	0	2	1,219	0	2	1,238	0	3	1,081	0	3	795	0	5

1-(1)-② 平成26年度新収品一覧表

(単位：件)

平成27年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,037			615			388			15			19		
計	47	484	506	9	100	506	9	379	0	15	0	0	14	5	0
絵画	13	52	0	3	3	0	2	49	0	4	0	0	4	0	0
書跡	3	28	0	1	11	0	0	17	0	1	0	0	1	0	0
彫刻	3	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	5	71	0	0	14	0	1	56	0	4	0	0	0	1	0
刀剣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	0	86	0	0	0	0	0	86	0	0	0	0	0	0	0
漆工	8	162	0	1	1	0	5	161	0	1	0	0	1	0	0
染織	4	7	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	3	0	0
考古	5	12	0	0	6	0	0	3	0	3	0	0	2	3	0
民族資料	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
歴史資料	2	0	506	0	0	506	0	0	0	0	0	0	2	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	0	0	/			/			/		
	書跡	0	0	0	0	0									
	彫刻	0	0	0	0	0									
	金工	0	1	0	0	1									
	陶磁	0	0	0	0	0									
	漆工	0	0	0	0	0									
	染織	4	0	0	4	0									
	考古	0	62	0	0	62									
民族	0	1	0	0	1										
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

(単位：件)

	平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	591			701			576			1,351			1,037		
小計	65	70	456	34	176	491	26	153	397	23	513	815	47	484	506
絵画	12	16	0	11	23	1	9	10	0	6	11	28	13	52	0
書跡	9	12	1	7	33	0	3	36	0	2	12	1	3	28	0
彫刻	1	2	1	2	0	0	1	2	0	2	1	0	3	1	0
建築	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	13	4	0	1	1	0	0	0	0	2	417	155	5	71	0
刀剣	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	38	0	0	0
陶磁	2	0	0	0	5	0	1	61	0	1	1	15	0	86	0
漆工	5	11	0	0	24	0	1	0	0	1	29	33	8	162	0
染織	13	7	0	5	7	0	1	1	0	3	5	65	4	7	0
考古	3	2	0	1	0	1	4	23	0	1	1	109	5	12	0
民族資料	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0
歴史資料	6	2	453	7	0	489	6	1	397	3	1	334	2	0	506
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	書跡	0	0	0	0	44	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	金工	0	0	0	0	0	0	16	0	0	29	1	0	1	0
	陶磁	0	2	0	0	34	0	1	0	0	0	4	0	0	0
	漆工	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	染織	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	0	0
	考古	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	62	0
民族	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	1	0	
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0

1-(1)-③ 平成26年度新収品一覧

【東京国立博物館】(615件)

(1) 購入 (9件)

<絵画>(3件)

- 1 ○名称 柿本人麻呂像(かきのものひとまるぞう)
○時代 室町時代・15世紀
○品質 絹本着色
○員数 1幅
○寸法等 縦75.4cm 横38.3cm
○作品概要 掛幅装。牙軸。豹皮の上に坐す歌聖・柿本人麻呂が、肘をつき筆を持った右手を頬にあて、料紙を持った左手を脇息に置く姿で描かれている。人麻呂の前には、中国風の団扇の上に二つ折りにした料紙の束と、竹で編まれたと思しき硯箱が置かれる。
- 2 ○名称 融通念仏縁起絵断簡(ゆうずねんぶつえんぎえだんかん)
○時代 南北朝時代・14世紀
○品質 紙本着色
○員数 1幅
○寸法等 縦31.8cm 横90.6cm
○作品概要 掛幅装。牙軸。平安時代の後期、大原の良忍上人(1073-1132)によって始められた融通念仏の功德を描く「融通念仏縁起絵」の断簡。本図は、融通念仏の教えが畜類にも広まったという場面である。屋根の上に毘沙門天が出現し、縁先には良忍上人が立ち、庭には鼠が、樹木の枝には鶯の姿が描かれる。重美認定時には、本図は六図からなる零巻であった。
- 3 ○名称 桜下美人図(おうかびじんず)
○作者等 長沢芦雪(1754~99)筆
○時代 江戸時代・18世紀
○品質 絹本着色
○員数 1幅
○寸法等 縦126.0cm 横55.1cm
○作品概要 掛幅装。牙軸。しだれ桜の下、若い娘を大きくとらえ、背後に侍女を描く。娘は、薄紫の紋付振袖、裏地に墨竹図、青海波絞りの緋襦袢、雲竜模様の蝦夷錦の帯、鼈甲や赤い布の髪飾り、といった具合に豪華に装い、裾から素足をのぞかせる。生彩な目、精緻な髪を生え際、眉、まつ毛、精細な文様の着物の入念な描写が秀逸である。桜の花びらが枝の間にちらほらと舞い落ちる。それを受けとめようと娘は右の手のひらを上に向け、左手で着物を押さえて全身に弓形の姿をつくる。右袖の手前に、花びらをひとひらスナップショット風にとらえ、右下に3頭の蝶を宙に舞わせて、上から下への動きを生んでいる。

<書跡>(1件)

- 4 ○名称 関戸本古今和歌集切「梅の香を」(せきどぼんこきんわかしゅうきれ うめのかを)
○作者等 伝藤原行成(972~1027)筆
○時代 平安時代・11世紀
○品質 彩箋墨書
○員数 1幅
○寸法等 本紙 縦21.2cm 横35.0cm
○作品概要 旧状別帖装本の『古今和歌集』に含まれる薄緑色の料紙一葉を相剥ぎして2枚とし、掛幅装に仕立てる。本文は巻第一の46番「よみひと不知梅の香を袖に移して留めては春は過ともかたみならまし」から49番「つらゆき ことしよりはるしりそむるさくらはなちるてふことはならはざらなむ」の途中までを書く。

<漆工>(1件)

- 5 ○名称 花卉漆絵片口(かきうるしえかたくち)
○時代 安土桃山時代・16世紀
○品質 木製漆塗
○員数 1口
○寸法等 短径20.1cm 長径(注口含)26.4cm 高13.3cm
○作品概要 口縁に注ぎ口をつくりだし、高台を付けた片口。表面は外側を黒漆塗、内側を朱漆塗とする。胴の上部には朱漆で雲形をかたどり、その内に切箔で菱格子文を表わす。また胴の下部には朱漆で澤瀉、山葡萄、松に竹の図柄を描いている。

<東洋染織>(4件)

- 6 ○名称 スレندان(肩衣) 茜地草花文様緯緋浮紋織(すれんだん(かたぎぬ)あかねじくさばなもんようよこがすりうきもんおり)
○時代 19世紀
○品質 絹製
○員数 1枚
○寸法等 幅78.5cm 長さ350.5cm
○作品概要 茜で染めた絹糸を平織にし、両端に燃金糸で火焰状の文様を織り出したスレندان(肩衣)である。通常のスレندانは長さ250cmあまりであるが、本品は350cmもあることから、貴族の葬礼に際し遺体を被うのに用い、その後、死者の片身として大切に保管された可能性がある。紋織に用いられる燃金糸は、紙に金箔を擦り細く裁断した平金糸を絹糸にコイル状に巻きつけた、中国産特有のものである。中国から輸入した燃金糸を用いてスマトラ島で織られたものであろう。中央部には、緯糸を緋に染めた糸を織り込み、インドの経緯緋であるパトラを模した草花文様を表わす。中央を境に、左右で緯緋の文様を変えている点が珍しい。このような緯緋のことを、スマトラ島ではリマル・ムント(Limar Mentok)と称する。多彩に染めた緯糸で文様を織り出す緯緋はパレンバンの特徴である。
- 7 ○名称 頭巾 紫地段幾何文様浮紋織(ずきんむらさきじだんきかもんよううきもんおり)
○時代 19世紀
○品質 絹・木綿
○員数 1枚
○寸法等 幅50.2cm 長さ253.5cm
○作品概要 経糸に茜色の絹糸、緯糸に紫色の木綿糸を用いて平織にした頭巾。両端には、緑・黄色・紫・赤などに染めた絹糸を緯糸にして段状に織り入れ、さらに金糸による浮紋織で、さまざまな幾何文様を対称に表わす。ミナンカバウ族では、文様のない部分を頭部の周囲に巻き、文様の部分を頭の左右に円錐状の突起を形作り、頭巾とする。浮紋織に用いられる金糸は、薄く延ばした金箔を細く裁断し、黄色に染められた絹糸にコイル状に巻きつけたもので、インド産と考えられる。ここに、古くからインドと交易を行ってきた西スマトラ地域の織物の特色がうかがえる。浮紋織で織り出された文様のヴァリエーションは20種類もあり、細い燃金糸で繊細に織り出されている。燃金糸による緊密な幾何文様の繰り返しはミナンカバウ族の特色である。

- 8 ○名称 帯 茜地段幾何文様浮紋織（おびあかねじだんきかもんようきもんおり）
 ○時代 19世紀
 ○品質 絹製
 ○員数 1枚
 ○寸法等 幅23.8cm 長さ200.0cm
 ○作品概要 茜色に染めた絹糸を平織にし、撚銀糸で文様を織り出した帯である。村長が儀式の際に飾帯として用い、代々受け継がれてきたものであろう。両端には、紫や緑の緯糸を段状に織り込み、それぞれの段に異なった文様を撚銀糸による浮紋織で表わす。中間部には縁にのみ、撚銀糸で菱繋ぎ文様の浮紋織が施される。また、両端にはヨーロッパから輸入したと考えられるモール（金属紐）で縁飾りをつける。浮紋織に用いられる撚銀糸は、薄く延ばした銀箔を細く裁断し、黄色に染められた絹糸にコイル状に巻きつけたもので、インド産と考えられる。その文様のヴァリエーションは菱形や石畳文、鱗形などを組み合わせた26種類におよび、幾何文様の豊かさを示す。ミナンカバウ族が織る浮紋織よりも、段文様の数がさらに多く、織も繊細で古様であることから、バリアンガンで製作されたと考えられる。
- 9 ○名称 スレンダン（肩衣） 茜地段幾何文様浮紋織（すれんだん（かたぎぬ）あかねじだんきかもんようきもんおり）
 ○時代 19世紀後半～20世紀初頭
 ○品質 絹製
 ○員数 1枚
 ○寸法等 幅41.0cm 長さ207.5cm
 ○作品概要 黒味があった茜色の絹糸を平織にし、撚金糸による浮紋織で文様を織り出したスレンダン（肩衣）である。文様は、山道に菱を繋げた縁文様を表わし、全体に段状にさまざまな幾何文様を表わす。文様のヴァリエーションは18種類である。このような撚金糸の浮紋織は、西スマトラ州のものと同様だが、布の周囲に額状の縁文様を織り出すのがパセマの特徴である。浮紋織に用いられる撚金糸は、紙に金箔を押し細く裁断した平金糸を絹糸にコイル状に巻きつけた、中国産特有のものである。中国から輸入した撚金糸を用いてスマトラ島で織られたものであろう。撚金糸が19世紀のものと比較してやや太めで文様もやや繊細さに欠けることから、19世紀後半から20世紀初頭に製作されたものと考えられる。全面に撚金糸で文様を織り出した豪華な肩衣である。

(2) 寄贈 (100件)

<絵画> (3件)

- 1 ○名称 林逋帰亭図屏風（りんぼきていずびょうぶ）
 ○作者等 池大雅（1723～76）筆
 ○時代 江戸時代・18世紀
 ○品質 紙本淡彩
 ○員数 6曲1双
 ○寸法等 縦154.2cm 横359.3cm
 ○作品概要 屏風装。6曲1双の左隻には、画面いっぱいに山と松、右上隅に飛翔する鶴が見え、右隻には、橋上に高士たち、右方過半をしめる満開の梅と家が見える。山から帰ってきた高士たちを、玄閣で童子が待ち受ける構成である。画面を支配する梅の林、宙を舞う鶴の描写から、梅を愛し鶴と暮らしたという北宋の詩人、林和靖（林逋）が自亭に帰る場面とみなせる。各隻に大雅の印が捺され、山や松樹の描法、人物の描法や表情は、大雅の筆の特徴をよくしめす。
- 2 ○名称 年中行事図屏風（ねんちゅうぎょうじびょうぶ）
 ○作者等 狩野益信（洞雲）（1625～1694）筆
 ○時代 江戸時代・17世紀
 ○品質 紙本金地着色
 ○員数 6曲1隻
 ○寸法等 縦154.6cm 横386cm
 ○作品概要 屏風装。6曲1隻に東山の山並みを背景として、第1・2扇の上段に正月の弓初め、下段に咲き誇る梅の下での小弓遊びと独楽遊びを描く。第3扇から第6扇に鶯舞や傘鉦、太刀や鎧で飾られた、応仁の乱以前の様相を示す祇園祭の山鉾行列とそれを見物する町家の人々を描いている。画中モチーフの多くは、原本の制作が応仁の乱以前に遡る当館所蔵の「月次風俗図屏風」（模本・A-2425）と同様が一致するため、室町時代の原本からモチーフを踏襲したものと考えられ、本来、年中行事を6曲1双に描いた屏風の春・夏部分である右隻に相当する。
- 3 ○名称 当麻曼荼羅図（たいまんだら）
 ○作者等 神田宗庭隆信（1794～1844）筆
 ○時代 江戸時代・天保7年（1836）
 ○品質 絹本着色描表装
 ○員数 1幅
 ○寸法等 総寸法（含描表装） 縦165.0cm 横156.0cm；除描表装 縦124.5cm 横132.5cm
 ○作品概要 鎌倉時代以降の浄土教の隆盛により多くの転写本が制作された当麻曼荼羅の転写本。二分の一、四分の一、六分の一、八分の一など様々な縮小率のものが制作されたが、本図はほぼ八分の一サイズの作例で、江戸時代に版画として開板され流行したサイズである。画面下辺の九品来迎図は坐像形式、銘文帯は全文を収録する形式をとり、当麻寺文庫本に代表される系統の形式を示している。

<書跡> (11件)

- 4 ○名称 李花集抄（りかしゅうしょう）
 ○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
 ○時代 昭和25年（1950）
 ○品質 彩箋墨書
 ○員数 1巻
 ○寸法等 本紙 縦24.5cm 横360cm
 ○作品概要 卷子装。宗良親王の私家集「李花集」から、「たつなみも かすみをそへて あら玉の としやこゆらん すゑの松山」など3首を書く。
- 5 ○名称 いにしへの（万葉集）（いにしへの まんようしゅう）
 ○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
 ○時代 昭和55年（1980）頃
 ○品質 紙本墨書
 ○員数 1面
 ○寸法等 本紙 縦143cm 横56.5cm
 ○作品概要 額装。『百人一首』にも収載されている伊勢大輔の「いにしへの ならのみやこの 八重桜 今日九重に 薫ひぬる哉」を書く。
- 6 ○名称 タ立や（ゆうだちや）
 ○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
 ○時代 昭和58年（1983）
 ○品質 紙本墨書
 ○員数 1面

- 寸法等 本紙 縦 231cm 横 53cm
○作品概要 額装。蕪村の「夕立や くさ葉をつかむ むら雀」を書く。
- 7 ○名称 山里は（やまざとは）
○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
○時代 昭和 60 年（1985）
○品質 紙本墨書
○員数 1 面
○寸法等 本紙 縦 69.5cm 横 177cm
○作品概要 額装。西行の「山里は かすみわたれる けしきにて そらにや春の たつをしるらん」など和歌 6 首を書く。
- 8 ○名称 秋ぎりの（あきぎりの）
○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
○時代 昭和時代・20 世紀
○品質 紙本墨書
○員数 1 幅
○寸法等 本紙 縦 138cm 横 35cm
○作品概要 掛幅装。『新千載和歌集』所載の永福門院作「秋ぎりの むらむらはるる たえ間より めれていろきき 山の紅葉は」を書く。
- 9 ○名称 万葉の歌「妹がため」（まんようのうた いもがため）
○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
○時代 昭和 63 年（1988）
○品質 紙本墨書
○員数 1 巻
○寸法等 本紙 縦 29.7cm 横 176.8cm
○作品概要 卷子装。『万葉集』巻第七所載の「妹為菅野実探行吾山路或此日暮」などを書く。
- 10 ○名称 古今和歌集 春の歌抄（こきんわかしゅう はるのうたしょう）
○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
○時代 平成時代・21 世紀
○品質 彩箋墨書
○員数 1 巻
○寸法等 本紙 縦 35.2cm 横 544.8cm
○作品概要 卷子装。『古今和歌集』巻第一の「としのうちに はるはきにけり ひととせを こぞとやいはむ 今年とやいはむ」など春の歌を抄出して書く。
- 11 ○名称 はるたてば（はるたてば）
○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
○時代 平成 21 年（2009）
○品質 紙本墨書
○員数 4 曲 1 隻
○寸法等 本紙 1cm 扇 縦 135cm 横 34cm
○作品概要 屏風装。『古今和歌集』巻第一所収の「はるたてば 花とやみらん しらゆきの かかれるえだに うぐひすのなく」など 4 首を書く。
- 12 ○名称 三十六歌仙かるた（さんじゅうろくかせんかるた）
○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
○時代 平成 25 年（2013）
○品質 彩箋墨書
○員数 1 組
○寸法等 各 縦 13.8cm 横 12.5cm
○作品概要 「佐竹本三十六歌仙」所載の和歌を 1 首ずつ装飾料紙のかるた札に書く。
- 13 ○名称 臨元永本古今和歌集 上（りんげんえいほんこきんわかしゅう じょう）
○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
○時代 昭和 33 年（1958）
○品質 彩箋墨書
○員数 1 帖
○寸法等 縦 21.3cm 横 16.5cm
○作品概要 列帖装。装飾料紙に元永本古今和歌集を全臨する。
- 14 ○名称 臨関戸本古今和歌集（りんせきどほんこきんわかしゅう）
○作者等 高木聖鶴（1923～）筆
○時代 昭和 56 年（1981）
○品質 彩箋墨書
○員数 1 帖
○寸法等 縦 21.0cm 横 17.5cm
○作品概要 列帖装。装飾料紙に関戸本古今和歌集を全臨する。

<彫刻> (1 件)

- 15 ○名称 押出如来立像（おしだしによらいりゅうぞう）
○時代 飛鳥～奈良時代・7～8 世紀
○品質 銅板押出鍍金
○員数 1 枚
○寸法等 縦 19.5cm 横 9.2cm
○作品概要 銅板押出のうえ鍍金。目には墨によると見られる線を入れる。銅版は長方形に裁断され、周囲に固定用の釘穴 11 箇所が残る。頭部を素髪とする如来の立像を表わし、裙の上から大衣を偏袒右肩に着す。右肩に覆肩衣を着けるか。大衣の末端は左肘に掛ける。正面に三弁を表わした蓮華座上に立ち、光焰を發する頭光を負う。また上方に対葉花文を五つ連ねた天蓋を表し、六条の瓔珞を垂らす。また天蓋の上下左右に雲気および蓮華座を伴う宝珠形を表現する。

<金工> (14 件)

- 16 ○名称 唐草双鳥八稜鏡（からくさそうちょうはちりょうきょう）
○時代 平安時代・11 世紀

- 品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径7.8cm 縁高0.1cm
○作品概要 八稜形、蒲鉾式中縁、素鈕、細線単圈。中央に鈕を据え、鈕の上下左右に唐草文を表し、外区にも唐草文の単位を均等に配する。
- 17 ○名 称 唐草双鳥鏡（からくさそうちょうきょう）
○時 代 平安時代・11～12世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径8.3cm 縁高0.15cm
○作品概要 円形、蒲鉾式低縁、素鈕、無圈。鏡背の中央に鈕を据え、鈕の上下に双鳥、左右に唐草文を表す。
- 18 ○名 称 瑞花双鳥八稜鏡（ずいかそうちょうはちりょうきょう）
○時 代 平安時代・12世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径12.0cm 縁高0.6cm
○作品概要 八稜形、蒲鉾式中縁、菊座鈕、へ字八花形段圈。内区は中央に鈕を据え、左右に双鳥、間地に瑞花文を表す。外区には瑞花の単位を均等に配する。
- 19 ○名 称 七宝繫双鳥鏡（しっぽうつなぎそうちょうきょう）
○時 代 平安時代・12世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径8.6cm 縁高0.2cm
○作品概要 円形、蒲鉾式低縁、素鈕、無圈。鏡背の中央に鈕を据え、左右斜め下方に七宝繫文、上方に双鳥を配する。上方に円孔1箇所がある。鈕に紫組紐を通す。
- 20 ○名 称 芙蓉薄双鳥鏡（ふようすすきそうちょうきょう）
○時 代 平安時代・12世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径9.9cm 縁高0.5cm
○作品概要 円形、外傾式高縁、菊座鈕、細線単圈。中央に鈕を据え、圈線をまたいで下方から左過半に立ち上がる薄および円周に添って左回りに円転する菊花を表し、鈕の上部に双鳥を配する。鈕に紫丸組紐を結ぶ。
- 21 ○名 称 水草萩双鳥鏡（みずくさはぎそうちょうきょう）
○時 代 平安時代・12世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径10.7cm 縁高0.5cm
○作品概要 円形、直角式中縁、菊座鈕、細線単圈。中央に鈕を据え、圈線をまたいで下部に流水と水草、左下部から上部に円転する萩を表し、上部左に双鳥を配する。
- 22 ○名 称 松喰双鶴鏡（まつくいそうかくきょう）
○時 代 平安時代・12世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径10.2cm 縁高0.5cm
○作品概要 円形、直角式中縁、菊座鈕、細線単圈。鏡背の中央に鈕を据え、内区の鈕の上下に双鶴、内区・外区にわたって松葉文を散らし表す。
- 23 ○名 称 菊花双鳥鏡（きくかそうちょうきょう）
○時 代 平安～鎌倉時代・12～13世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径9.75cm 縁高0.5cm
○作品概要 円形、直角式中縁、菊座鈕、中線単圈。内区下部より上方に展開する菊花と枝および双鳥を表す。鈕に革紐を結ぶ。
- 24 ○名 称 蓬萊方鏡（ほうらいほうきょう）
○時 代 平安～鎌倉時代・12～13世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 方10.3cm 縁高0.3cm
○作品概要 方形、蒲鉾式中縁、素鈕、無圈。中央に鈕を据え、下半に洲浜と流水、洲浜から立ち上がる岩と松樹を表し、上方に雲および2羽の鶴を配する。
- 25 ○名 称 洲浜菊花双鳥鏡（すはまきくかそうちょうきょう）
○時 代 鎌倉時代・13世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径9.4cm 縁高0.5cm
○作品概要 円形、外傾式中縁、菊座鈕、中線単圈。鏡背の中央に鈕を据え、内区の下部に洲浜および双鳥、内区の円周に添って展開する菊花、外区に連続する流水を表す。
- 26 ○名 称 洲浜牡丹双鳥鏡（すはまぼたんそうちょうきょう）
○時 代 鎌倉時代・14世紀
○品 質 銅鑄造
○員 数 1面
○寸 法 等 径20.0cm 縁高0.45cm
○作品概要 円形、蒲鉾式厚縁、素鈕、中線単圈。中央に鈕を据え、圈線をまたいで、下部に洲浜と取水、洲浜の右から円周に沿って左回りに円転する牡丹を表し、内区の左に2羽の尾長鳥および松葉を配する。

- 27 ○名称 孔雀文磬（くじゃくもんけい）
 ○時代 平安時代・12世紀
 ○品質 銅鑄造
 ○員数 1面
 ○寸法等 肩幅17.0cm 裾幅18.9cm 高10.1cm 縁高0.5cm
 ○作品概要 銅鑄造、山形、片面式。縁の内側に1条の圏線を出だして子持縁とし、中央に蓮華をかたどった撞座を表し、撞座の左右に孔雀文を対向して配する。上縁の左右二箇所に吊環を鑄出する。
- 28 ○名称 孔雀文磬（くじゃくもんけい）
 ○時代 鎌倉時代・13世紀
 ○品質 銅鑄造・鍍金
 ○員数 1面
 ○寸法等 肩幅17.0cm 裾幅16.1cm 高9.6cm 縁高0.6cm
 ○作品概要 銅鑄造、山形、両面式。縁の内側に1条の圏線を出だして子持縁とし、中央に蓮華をかたどった撞座を表し、撞座の左右に孔雀文を対向して配する。上縁の左右二箇所に吊環を鑄出する。全体に鍍金を施す。
- 29 ○名称 自在蟻螂置物（じざいとうろうおきもの）
 ○作者等 高瀬好山(1869-1934)作
 ○時代 大正～昭和時代・20世紀
 ○品質 銀鍛造
 ○員数 1個
 ○寸法等 体長9.4cm
 ○作品概要 銀鍛造、蟻螂の体、顔、足、羽などを銀板の鍛造で成形し、各部にややゆるぎを持たせて鎮留めする。

<漆工> (1件)

- 30 ○名称 桔梗蒔絵螺鈿聖龕（ききょうまきえらでんせいがん）
 ○時代 安土桃山～江戸時代・16～17世紀
 ○品質 木製漆塗
 ○員数 1基
 ○寸法等 縦18.3cm 横15.2cm 厚3.0cm
 ○作品概要 長方形の額縁の側面に細長い穴を穿って引戸を通し、内に「殉教聖女キリアケと諸聖女、キリスト」の銅製アイコンを納めた小型の聖龕。表面は全体を黒漆塗として、額縁には正面から側面にかけて、南蛮唐草や鋸歯文、葛の文様などを、金銀平蒔絵と螺鈿によって描いている。また引戸の表裏にも同様に、桔梗や花菱繫文、朝顔や葛の文様を表わす。

<考古> (6件)

- 31 ○名称 銅製経筒（どうせいきょうづつ）
 ○時代 平安～鎌倉時代・12～13世紀
 ○品質 銅鑄造
 ○員数 1個
 ○寸法等 蓋 口径8.8cm 高2.9cm；筒身 口径8.5cm 高20.0cm
 ○作品概要 被蓋式の経筒であり、蓋と筒身からなる。蓋は傘蓋を呈し宝珠形の鈕を有する。筒身は円筒で、底部は和鏡（菊花双鳥鏡か）を転用し、鏡面を底面とし、筒身に嵌め込んでいる。
- 32 ○名称 銅製経筒（どうせいきょうづつ）
 ○時代 平安時代・康治元年（1142）
 ○品質 銅鑄造
 ○員数 1個
 ○寸法等 蓋 口径8.0cm 高3.2cm 筒身 口径5.2cm 高24.3cm
 ○作品概要 被蓋式の経筒であり、蓋と筒身からなる。蓋は傘蓋を呈し乳頭状の鈕を有する。筒身は円筒で、底部は高台状をなす。筒身に三行の銘文が刻まれており、康治元年（1142）製と判断される。筒身底裏にも銘文が刻まれているが、詳細不明。経巻残欠が筒身内に納められていたと考えられる。
- 33 ○名称 経巻残欠（きょうかんざんけつ）
 ○時代 平安時代・康治元年（1142）
 ○品質 紙本
 ○員数 1巻
 ○寸法等 現存長23.0cm 現存軸径2.7cm
 ○作品概要 経巻の残欠。巻かれた状態で軸木に固着。文字の記載等は不明。康治元年銘の経筒の付属品。
- 34 ○名称 方格規矩四神鏡（ほうかくきくしんきょう）
 ○時代 後漢時代・1世紀
 ○品質 青銅鑄造
 ○員数 1面
 ○寸法等 径18.2cm 縁高0.8cm
 ○作品概要 円形。円鈕、四葉文鈕座。方格内に十二支銘を配す。内区に規矩文、四神文のほか、鳥・獣などの文様を表す。外区に「□氏作鏡真大巧 上有□□不知老 渴飲玉泉口食糞 寿而（如？）□（金？）石」の銘帯をめぐらす。縁部には三角鋸歯文、水波雲文からなる文様帯を飾る。
- 35 ○名称 磨製石斧（ませいせきふ）
 ○作者等 神奈川県小田原市久野出土
 ○時代 弥生時代(中期)・前2～前1世紀
 ○品質 石製
 ○員数 1個
 ○寸法等 最大長10.5cm 刃部幅6.1cm 最大厚2.2cm 重量280.5cm g
 ○作品概要 石製の片刃石斧で、薄いその形状から扁平片刃石斧と呼ばれる大陸系磨製石器の一種。扁平片刃石斧は、稲作とともに伝えられた木製農具の製作に使用したと考えられ、関東地方では弥生時代中期以降に出土する。
- 36 ○名称 磨製石戈（ませいせつか）
 ○作者等 群馬県富岡市富岡鍋川河床出土
 ○時代 弥生時代(中期)・前2～前1世紀
 ○品質 石製
 ○員数 1個

- 寸法等 最大長 8.4cm 最大幅 10.0cm 最大厚 1.95cm 重量 132.5cm g
 ○作品概要 石製の戈。戈とは長い柄の先に直角に装着して使う武器。本例は援(刃部)が極めて短く、援の下半が外反して突出する胡や内(茎)の表現も簡略化されている。援には樋および穿(孔)をもつ。

<東洋金工> (1件)

- 37 ○名称 走獸花枝文八稜鏡 (そうじゅうかしもんはちりょうきょう)
 ○時代 唐時代・8~9世紀
 ○品質 青銅鑄造
 ○員数 1面
 ○寸法等 幅 17.7cm 縁高 0.9cm
 ○作品概要 八稜形。円鈕。鈕の左右に狻猊(獅子)と思しき動物文を対置させ、上下に花枝文を飾る。縁部には花と蜂・蝶といった虫の文様を交互に配す。

<東洋考古> (62件)

- 38 ○名称 アンフォリスコス (あんふおりすこす)
 ○作者等 地中海東部出土
 ○時代 前3~前1世紀
 ○品質 ガラス製
 ○員数 1口
 ○寸法等 高 14.5cm、胴径 5.8cm、口径 2.7cm
 ○作品概要 コア技法により作られた典型的なアンフォラ形の香油容器。濃紺色の本体に水色、黄色のガラス紐を巻きつけた後加熱し、平行線、平行波状文を表している。無色のガラス紐を口縁部下から肩部に1対接着して両把手としている。底部は球状。
- 39 ○名称 アンフォリスコス (あんふおりすこす)
 ○作者等 地中海東部出土
 ○時代 前6~前4世紀
 ○品質 ガラス製
 ○員数 1口
 ○寸法等 高 8.7cm、胴径 4.6cm、口径 2.2cm
 ○作品概要 コア技法により作られたやや頸部の短いアンフォラ形の香油容器。濃紺色の本体に黄色(口縁部)、白色のガラス紐を巻きつけた後加熱し、平行線、平行波状文を表している。本体と同色のガラス紐を口縁部下から肩部に1対接着して両把手としている。底部は平坦。
- 40 ○名称 アンフォリスコス (あんふおりすこす)
 ○作者等 地中海東部出土
 ○時代 前5世紀
 ○品質 ガラス製
 ○員数 1口
 ○寸法等 高 9.2cm、胴径 4.8cm、口径 2.6cm
 ○作品概要 コア技法により作られた香油容器。典型的なアンフォラ形をなす。濃紺色の本体に黄色、水色のガラス紐を巻きつけて、平行線、平行波状文を表し、本体と同色のガラス紐を口縁部下から肩部に1対接着して両把手としている。底部はやや平坦。
- 41 ○名称 アンフォリスコス (あんふおりすこす)
 ○作者等 地中海東部出土
 ○時代 前6~前5世紀
 ○品質 ガラス製
 ○員数 1口
 ○寸法等 高 14.2cm、胴径 4.8cm、口径 6.1cm
 ○作品概要 コア技法により作られ、典型的なアンフォラ形をなす。濃紺色の本体に赤色、白色のガラス紐を巻きつけて、平行線、フェストゥーン文を表し、無色のガラス紐を口縁部下から肩部に1対接着して両把手としている。底部は球形。
- 42 ○名称 アラバストロン (あらばすとろん)
 ○作者等 地中海東部出土
 ○時代 前6~前5世紀
 ○品質 ガラス製
 ○員数 1口
 ○寸法等 高 10.2cm、胴径 3.2cm、口径 3.5cm
 ○作品概要 コア技法により作られた円筒形の香油容器。白色の本体に紫色のガラス紐を巻きつけて平行線、ジグザグ文を表し、本体と同色のガラスによる小輪と小突起を各1対接着して両耳としている。丸底。
- 43 ○名称 アラバストロン (あらばすとろん)
 ○作者等 地中海東部出土
 ○時代 前4~前3世紀
 ○品質 ガラス製
 ○員数 1口
 ○寸法等 高 17.0cm、胴径 4.0cm、口径 5.3cm
 ○作品概要 コア技法により作られた円筒形の香油容器。紺色の本体に黄色、白色、水色のガラス紐を巻きつけてジグザグ文を表し、本体と同色のガラスによる小輪と小突起を各1対接着して両耳としている。丸底。
- 44 ○名称 アラバストロン (あらばすとろん)
 ○作者等 地中海東部出土
 ○時代 前6~前5世紀
 ○品質 ガラス製
 ○員数 1口
 ○寸法等 高 11.4cm、胴径 2.5cm、口径 2.6cm
 ○作品概要 コア技法により作られた円筒形の香油容器。紺色の本体に黄色のガラス紐を巻きつけて平行線、ジグザグ文を表し、本体と同色のガラスによる小さな両耳としている。やや平底。
- 45 ○名称 オイノコエ (おいのこえ)
 ○作者等 地中海東部出土
 ○時代 前6~前4世紀
 ○品質 ガラス製

- 員数 1口
○寸法等 高9.4cm、胴径5.3cm
○作品概要 コア技法により作られた香油容器。濃紺色の本体に白色、黄色のガラス紐を巻きつけて加熱し、平行線、ジグザグ文を表す。本体と同色のガラス紐を口縁部から肩部に1本接着して片把手とし、口縁部は工具で摘まみだしている。底部は小さな高台をなす。
- 46 ○名称 パテラ杯（ばてらはい）
○作者等 地中海東部出土
○時代 前1～後1世紀
○品質 ガラス製
○員数 1口
○寸法等 高4.2cm、口径9.8cm、底径4.0cm
○作品概要 口縁部の下に1段括れがつき、断面が「3」に似た小型の杯で、古代ローマ人はパテラと呼んだ。本作品はモザイクガラスで作られ、千華文（ミルフィオリ）と呼ばれる華やかな作品。白色、黄色、濃紺色、緑色などのガラスで作られた棒を輪切りにした数種のモザイク片多数を鑄型に敷き詰めて加熱鑄造したもの。底部は低い輪高台。
- 47 ○名称 瓶（へい）
○作者等 地中海東部出土
○時代 1～2世紀
○品質 ガラス製
○員数 1口
○寸法等 高10.0cm、胴径6.4cm、口径2.5cm
○作品概要 球形の胴部と筒状の頸部からなる瓶。3種の濃度の紺色のガラス板を重ねて加熱、宙吹きによって成形した大理石文様の容器。底部はやや平坦で自立する。白く見える部分は経年変化による結晶化（銀化）によるもの。
- 48 ○名称 瓶（へい）
○作者等 地中海東部出土
○時代 ローマ時代、2～3世紀
○品質 ガラス製
○員数 1口
○寸法等 高15.4cm、胴径10.5cm、口径7.5cm
○作品概要 無色ガラスを型吹きした極めて薄い容器。やや下膨れの球状の胴部と筒状の頸部、大きく開いた口縁部からなる。口縁部内面に沈線が1条めぐり、胴部全体に幅1.0センチの縦畝が施される。底部はほぼ平坦で自立可能。
- 49 ○名称 首飾（くびかざり）
○作者等 地中海東部出土
○時代 ローマ時代、前1～後1世紀
○員数 1連（29珠）
○寸法等 各珠長0.5cm～3.4cm
○作品概要 縞模様の大玉と単色（ほとんどは青色）の小玉を綴った首飾。大玉は扁平な楕円形、紡錘形などの形をしており、緑色、白色、黒色、褐色ガラスに金箔が挟み込まれている。
- 50 ○名称 円形切子碗（えんけいきりこわん）
○作者等 イラン出土
○時代 ササン朝時代、6世紀
○品質 ガラス製
○員数 1口
○寸法等 口径10.2cm、高7.5cm
○作品概要 無色透明ガラスの酒杯。厚手に吹いた碗の表面に円形の切子装飾を施してある。上から第1段目には径2.0×2.5センチの円形切子が15個、第2段目には径2.0センチの円形切子が15個、第3段目には径2.0センチの円形切子が13個、第4段目には径2.5センチの円形切子が7個、底部は径3.8センチの円形切子1個が施される。東大寺正倉院献納宝物と類似。
- 51 ○名称 切子長頸瓶（きりこちょうけいへい）
○作者等 イラン出土
○時代 ササン朝時代、9世紀
○品質 ガラス製
○員数 1口
○寸法等 高15.0cm、胴径6.5cm、底径3.1cm
○作品概要 器表のほぼ全体を切子で装飾された無色ガラスの厚手の容器。球状の胴部と細長い頸部からなる。肩部に幅広の沈線が1条めぐり、その下は円形切子で装飾される。それは上・中・下の3段からなり、径0.6～0.7センチの円形切子が、各段に13個施される。頸部は3段の六角柱、底部は低い高台をなすが、いずれも切子によるもの。
- 52 ○名称 トウエリス女神像（とうえりすめがみぞう）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝～プトレマイオス朝時代、前4世紀
○品質 ファイアンス製、青釉
○員数 1軀
○寸法等 高6.6cm、幅1.5cm、奥2.0cm
○作品概要 女性用髪をつけ、河馬の頭、ライオンの四肢、鱈の尾、人間の乳房をもち、妊婦の特徴を示す女神トウエリスの立像。その名は「偉大なるもの」を意味する古代エジプト語タア・ウレトのギリシア語版。その容貌から、家庭と出産の守護神とされていた。
- 53 ○名称 バステト女神像（ばすてとめがみぞう）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝～プトレマイオス朝時代、前4世紀
○品質 本体青銅鑄造、金製耳飾
○員数 1軀
○寸法等 高14.2cm、幅4.5cm
○作品概要 金の耳輪をつけ、縞模様の半袖長衣を着た猫頭の女神立像。右手にシストラム（ハトホル女神と関連する女性神官が持つ楽器）、左腕には籠を掲げ、左手にはアイギスの盾を持つ。バステトは音楽、保護、多産などを象徴する神で、その信仰はデルタ地帯のプバステスに始まり、各地に広まった。
- 54 ○名称 双耳壺（そうじこ）

- 作者等 エジプト出土
○時代 ローマ時代、2世紀
○品質 ファイアンス製、青釉
○員数 1口
○寸法等 高18.3cm、幅19.2cm、胴部最大径16.5cm、底部径11.8cm
○作品概要 鐔状に水平に開いた口縁部と太くて短い頸部、張り出した肩と大きな底部、低い輪高台、口縁部の端と肩部をつなぐ1対の直線的な把手からなる。肩部には連続ジグザグ文、胴部には貼り付けによる植物文がめぐらされる。青色の釉が器の内外面全体にかけられている。高台にはトチン痕が見られる。メンフィスカデルタ地帯のナウクラティスあるいはアレクサンドリアで作られたもの。
- 55 ○名称 浮彫 神官頭部と鳥（うきぼり しんかんとうぶととり）
○作者等 エジプト出土
○時代 ブトレマイオス朝・前4～前3世紀
○品質 石灰岩製
○員数 1枚
○寸法等 高14.3cm、幅14.2cm、厚2.7cm
○作品概要 浮き彫り製作の手本として各地の神殿に配布された「彫刻用モデル」。片面には剃髪的神官頭部、他の面には隼（ホルス神）が上下逆位で表される。両側面中央に穴が開けられており、現在はそこに金属製の軸棒を入れて回転可能としているが、穴は本来のものと考えられる。
- 56 ○名称 山羊形リュトン（やぎがたりゆとん）
○作者等 イラン出土
○時代 鉄器時代・前13～前7世紀
○品質 土器
○員数 1口
○寸法等 長27.3cm、幅8.0cm、高19.5cm
○作品概要 四足で立つ山羊を模した儀式用の酒器リュトン。オレンジ色胎土の土器で、表面の磨耗、修復の痕跡が見られるが、全形を留めている。使用法は、背中から注入した酒を口の孔から注ぎ出し、酒杯で受けて飲むというもの。動物形のリュトンは、イランの初期鉄器時代文化を彩る要素の一つである。
- 57 ○名称 フィアレ杯（ふいあれはい）
○時代 前6～前4世紀
○品質 青銅製
○員数 1口
○寸法等 径21.3cm、高4.3cm
○作品概要 打ち出し技法によって、4重30枚の花弁文様が施された青銅製フィアレの優品。フィアレ杯は前9世紀頃メソポタミアからフェニキアにいたる地域で製作が始まり、アケメネス朝時代には西アジアや地中海東部に広まった儀式用酒器。リュトンから注ぎ出した酒を受けて飲む。そのために、器の中心部に「臍」があり、底部のくぼみに中指をかけて持ちやすいように工夫されている。
- 58 ○名称 無文地連弧文鏡（むもんじれんこもんきょう）
○時代 戦国時代・前5～前3世紀
○品質 青銅鑄造
○員数 1面
○寸法等 径18.1cm 縁高0.6cm
○作品概要 円形。三弦鈕、七面縁。地文のない背面に、鈕を中心とする凹んだ圏帯をめぐらせ、その外側に11弧の連弧文を凸線で表す。
- 59 ○名称 蟠螭葉文鏡（ばんちようもんきょう）
○時代 戦国時代・前4～前3世紀
○品質 青銅鑄造
○員数 1面
○寸法等 径11.9cm 縁高0.6cm
○作品概要 円形。三弦鈕、円鈕座、七面縁。文様は雲雷文からなる地文を施し、そのうえに四葉文と蟠螭文からなる主文を均等に配す。
- 60 ○名称 雲雷文地連弧文鏡（うんらいもんじれんこもんきょう）
○時代 戦国時代・前4～前3世紀
○品質 青銅鑄造
○員数 1面
○寸法等 径16.0cm 縁高0.7cm
○作品概要 円形。三弦鈕、円鈕座、七面縁。鈕座の周囲を圏帯と絡縄文がめぐる。その外側に雲雷文を地文とする、7弧の内向きの連弧文を主文として配す。
- 61 ○名称 鳥獸文鏡（ちようじゅうもんきょう）
○時代 戦国時代・前4～前3世紀
○品質 青銅鑄造
○員数 1面
○寸法等 径18.2cm 縁高0.5cm
○作品概要 円形。半環鈕、円鈕座、12弧の連弧文縁。細かい雲雷文を地文とする。鈕座の四方に四葉文を置き、葉と葉のあいだに2頭の怪獣と2羽の鳥を交互に配す。
- 62 ○名称 草葉文鏡（そうようもんきょう）
○時代 前漢時代・前2～前1世紀
○品質 青銅鑄造
○員数 1面
○寸法等 径13.2cm 縁高0.6cm
○作品概要 円形。円鈕、四葉文鈕座、16連弧文縁。方格内に「見日之光、天下大明」の銘文を施す。方格外の四辺には、1個の乳釘を中心として、その左右に麦穂状の草葉文をそれぞれ均等に配す。
- 63 ○名称 獸面文帶鉤（じゅうめんもんたいこう）
○時代 戦国～前漢時代・前4～前2世紀
○品質 青銅鑄造・鍍金
○員数 1個
○寸法等 長8.0cm 幅1.8cm
○作品概要 細い柄に長方形の板状鉤面が付く。弓なりで、鉤尾に獸面を飾る。鉤面には2本の凸稜が走る。全体に鍍金を施す。

- 64 ○名称 玉帯鉤（ぎょくたいこう）
 ○時代 戦国時代・前4～前3世紀
 ○品質 玉
 ○員数 1個
 ○寸法等 長15.2cm 幅1.8cm
 ○作品概要 柄に長方形の板状鉤面が付く青銅製の帯鉤を玉で象つたもの。弓なりで、鉤面には縦方向に2本の凹線が走る。鉤首は簡略化された獣面形をなす。柄、鉤面、鈕ともに横断面は長方形を呈する。
- 65 ○名称 絡獣形帯鉤（らくじゅうがたたいこう）
 ○時代 戦国～前漢時代・前4～前2世紀
 ○品質 青銅鑄造・鍍金、トルコ石象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長17.5cm 幅4.2cm
 ○作品概要 細い柄に板状鉤面が付く。弓なりで、鉤面は2頭の怪物が絡みあった姿を表す。全体に鍍金を施し、鉤面4箇所にも円形のトルコ石を象嵌する。
- 66 ○名称 獣面文帯鉤（じゅうめんもんたいこう）
 ○時代 戦国～前漢時代・前4～前2世紀
 ○品質 青銅鑄造・鍍金、トルコ石象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長20.2cm 幅1.2cm
 ○作品概要 鉤首から鉤尾にかけて、幅がほぼ一定。鉤体中央が大きく曲がり、鉤首と鉤尾が逆に反って、全体が波打った形になる。断面はほぼ半円形で、鉤面の両端と鉤首の計3箇所と同じ獣面を飾る。全体に鍍金を施し、トルコ石を象嵌する。
- 67 ○名称 羽渦文帯鉤（うかもんたいこう）
 ○時代 戦国～前漢時代・前4～前2世紀
 ○品質 青銅鑄造・金銀象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長17.6cm 幅1.8cm
 ○作品概要 鉤首から鉤尾にかけて、幅がほぼ一定。弓なりで、断面は円形を呈する。鉤体は両端および中位の3箇所において3本1組の金象嵌帯で2区画に分けられる。各区画内には一対の金銀象嵌羽渦文を交差させて配す。裏面には鳥文と花文、鉤尾には花文、鈕には円渦文をそれぞれ金銀象嵌で飾る。
- 68 ○名称 菱田文帯鉤（ひしえんもんたいこう）
 ○時代 戦国時代・前4～前3世紀
 ○品質 青銅鑄造・金、トルコ石象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長21.4cm 幅2.5cm
 ○作品概要 細長い琵琶形を呈する。弓なりで、鉤面上に3面および側面の面取りを施す。鉤面上にはトルコ石象嵌で表した菱形の文様帯が展開する。菱形文の内側には円文と雲気文をそれぞれ金象嵌で飾る。
- 69 ○名称 菱田文帯鉤（ひしえんもんたいこう）
 ○時代 戦国時代・前4～前3世紀
 ○品質 青銅鑄造・金、トルコ石象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長18.2cm 幅1.9cm
 ○作品概要 細長い琵琶形を呈する。弓なりで、鉤面上に3面および側面の面取りを施す。鉤面上にはトルコ石象嵌で表した菱形の文様帯が展開する。菱形文の内側には円文と雲気文をそれぞれ金象嵌で飾る。
- 70 ○名称 獣面文帯鉤（じゅうめんもんたいこう）
 ○時代 戦国～前漢時代・前4～前2世紀
 ○品質 青銅鑄造・鍍金・トルコ石、ガラス象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長15.6cm 幅2.7cm
 ○作品概要 細い柄に長方形の板状鉤面が付く。弓なりで、鉤面の両端に獣面を飾り、長辺の両側には綾杉状に凹凸を連ねる。中軸線上には円形のトルコ石2片と長方形のガラス板3枚を象嵌する。全体に鍍金を施す。
- 71 ○名称 雲気文帯鉤（うんきもんたいこう）
 ○時代 戦国時代・前4～前3世紀
 ○品質 青銅鑄造・金銀象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長23.7cm 幅2.5cm
 ○作品概要 細長い琵琶形を呈する。弓なりで、鉤面上に3面および側面の面取りを施す。鉤面・側面には銀糸と幅広の金片による象嵌で表した雲気文を飾る。
- 72 ○名称 楕円獣形帯鉤（だえんじゅうけいたいこう）
 ○時代 戦国～前漢時代・前4～前2世紀
 ○品質 青銅鑄造・鍍金・トルコ石もしくはガラス象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長10.2cm 幅4.8cm
 ○作品概要 細い柄に楕円形の板状鉤面が付く。弓なりで、鉤面は外向きの獣面と、それをとりまくように巻きつく胴体を表す。全体に鍍金を施す。円形の窪みと獣面文の両眼には恐らくトルコ石かガラスが象嵌されていたものと推定される。
- 73 ○名称 羽渦文帯鉤（うかもんたいこう）
 ○時代 戦国～前漢時代・前4～前2世紀
 ○品質 青銅鑄造・金銀象嵌
 ○員数 1個
 ○寸法等 長13.2cm 幅1.6cm
 ○作品概要 鉤首から鉤尾にかけて、幅がほぼ一定。弓なりで、断面は円形を呈する。鉤体は両端および中位の3箇所において2本1組の金銀象嵌帯で2区画に分けられる。各区画内には同形の金銀象嵌羽渦文を配す。鉤尾と鈕には円文をそれぞれ銀象嵌で飾る。

- 74 ○名称 夔龍形帯鉤（きりゅうがたたいこう）
○時代 戦国時代・前4～前3世紀
○品質 青銅鑄造
○員数 1個
○寸法等 長12.0cm 幅3.5cm
○作品概要 細長い柄に鉤面が付く。弓なりで、鉤面は全体で夔龍の側面形を半立体的に表す。柄は夔龍の口から伸び出ている。
- 75 ○名称 短剣（たんけん）
○時代 春秋時代・前6～前5世紀
○品質 青銅鑄造
○員数 1本
○寸法等 長27.7cm 幅3.5cm 剣首径2.7cm
○作品概要 柱脊の明瞭な刃部、獣面文を飾る格、断面が八角形の柄、透彫り状の装飾を施した球形の剣首からなる。柄は中位が竹の節状にやや隆起する。
- 76 ○名称 色ガラス断片（いろがらすだんぺん）
○作者等 エジプト出土
○時代 新王国時代～初期イスラム時代・前16世紀～後8世紀頃
○品質 ガラス
○員数 80点
○寸法等 0.7cm～2.9cm×0.8cm～5.8cm
○作品概要 ガラスは紀元前15世紀にエジプトに伝わったとされ、以来、様々な工芸品に用いられた。本コレクションは様々な形、大きさをした破片群であるものの、古代エジプトのガラス工芸品の色味や技術をよく示している。
- 77 ○名称 象嵌用の眼（ぞうがんようのめ）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝時代～プトレマイオス朝時代初期・前7世紀～前3世紀頃
○品質 ガラス
○員数 1個
○寸法等 高2.5cm 幅6cm 厚さ1.6cm
○作品概要 人形の木棺に象嵌されていたと思われる左眼。眼球の白目は白色、黒目は黒色、縁取りは青色のガラスで作られている。
- 78 ○名称 象嵌用の腕（ぞうがんようのうで）
○作者等 エジプト出土
○時代 プトレマイオス朝時代・前3世紀～前1世紀
○品質 ガラス
○員数 1個
○寸法等 長さ3.6cm 幅0.8cm 厚さ0.6cm
○作品概要 家具や祠堂に象嵌されていたと思われるオシリス神の右腕。淡青色で、手は握った状態。
- 79 ○名称 象嵌用の衣服断片（ぞうがんようのいふくだんぺん）
○作者等 エジプト出土
○時代 プトレマイオス朝時代・前3世紀～前1世紀
○品質 モザイク・ガラス
○員数 1個
○寸法等 縦2.0cm 横1.8cm 厚さ0.6cm
○作品概要 家具や祠に象嵌されていたと思われる網目模様の部分。赤色の地に濃紺、黄色のガラスで連続する4弁の花柄を表す。通常この文様はイシスなどの女神の衣服に用いられる。一部に2次加工を試みた形跡がある。
- 80 ○名称 ガラス象嵌蓋（がらすぞうがんふた）
○作者等 エジプト出土
○時代 新王国時代 前16世紀～前12世紀頃
○品質 木、ガラス
○員数 1個
○寸法等 長さ14.5cm 幅5.9cm 厚さ1.8cm
○作品概要 何らかのケースの蓋のように見えるが用途は分からない。長円形の厚めの木板に彫刻を施し、上面と側面に青、赤、黄色のガラス部品を象嵌して、ロゼット、帯、斜め帯などの文様をあらわしていた。ガラスの一部が残存する。上面の両端にパピルス、ロータス（上下エジプトの象徴植物）の象嵌が施されていたと思われるが、現存しない。
- 81 ○名称 彩色板絵 神々と王（さいしきいたえ かみがみとおう）
○作者等 エジプト出土
○時代 ローマ時代・前1世紀～後2世紀
○品質 木板、漆喰、彩色
○員数 1枚
○寸法等 縦30cm 横42.7cm 厚さ1.1cm
○作品概要 本来は木棺の一部であったと考えられるが、全体の形状は不明。表面に漆喰を塗り、その上にピンク、黒、黄土色の顔料を用いて描画。パハレイヤ・オアシスなどの地方的様式。主たるモチーフは右手を挙げて左向きに並んだ4柱の神と王で、白地に粗雑な黒線で表現される。それぞれの像の前には銘文を記すべき欄があるがいずれも空白のままである。それらの頭上には、黒地に5弁の花（本来は星を意味する）を連続配置している。さらにその上には、中心に白点を配した黒、黄土、赤色の長方形と3本の縦白線が交互に並ぶ文様帯が配される。また主モチーフの下には、黒線のアウトラインに赤・黄土色の顔料で着色した8弁の花文が、ピンク色の地に5個配される。
- 82 ○名称 彩色板絵 船上人物（さいしきいたえ せんじょうじんぶつ）
○作者等 エジプト出土
○時代 第3中間期～ローマ時代・前11世紀～後2世紀
○品質 木板、漆喰、彩色
○員数 1枚
○寸法等 縦12.4cm 横37.9cm 厚さ1.9cm
○作品概要 本来は人形棺の足台部分であった。足台は、葬送儀礼の際に木棺を垂直に立てるために必要であったとされ、本作品に描かれている葦舟も被葬者を送る葬送のモチーフと捕らえることができる。葦舟の左右にウアス、アヌク、ネブの組み文字が表されている。ピンク、赤、緑、深青色（エジプシャンブルー）などの顔料がよく残っている。
- 83 ○名称 セティ1世像断片（せていっせいぞうだんぺん）

- 作者等 エジプト出土
○時代 第19王朝時代・前13世紀頃
○品質 彩色パピルス
○員数 1枚
○寸法等 縦30cm 横21cm
○作品概要 天蓋の中に立つ人物が描かれており、頭にはヘムヘム冠を被り、両手には笏を持つ。傍らには蓮の花が置かれている。カルトゥーシュ（王名粹）から彩色で描かれた人物は第19王朝のセティ1世であることがわかる。セティ1世は紀元前13世紀初頭のファラオで、有名なラムセス2世の父親。オシリス神の姿をしていることから、本作品は葬祭関連文書であったことが明らかで、王の縁者の「死者の書」の一部である可能性がある。緻密な筆使いによる見事な線画であり、社会的地位の高い人物のものであったと考えられる。
- 84 ○名称 葬祭文書断片（そうさいもんじょだんぺん）
○作者等 エジプト出土
○時代 プトレマイオス朝時代・前3世紀～前1世紀頃
○品質 亜麻布墨書
○員数 1枚
○寸法等 縦220cm 横38.2cm
○作品概要 黒色顔料で記入された、縦2欄からなる聖刻文字（ヒエログリフ）の文。字体がかなり崩れているため、プトレマイオス朝時代の文書と推測される。葬祭に関連する文書の一部であった可能性が高く、右欄には供物（牛やパンなど）が列挙されている。
- 85 ○名称 人面刺繍織物断片（じんめんししゅうおりものだんぺん）
○作者等 エジプト出土
○時代 コプト時代・4世紀～8世紀頃
○品質 亜麻布、染色羊毛
○員数 1枚
○寸法等 縦19.6cm 横14.4cm
○作品概要 ループ織りの亜麻布に赤、橙、緑、黒色の羊毛の糸で人面らしきものを刺繍で表わしたもの。縦長の菱形の中に、両眼と口が単純化されて表現されている。
- 86 ○名称 アメン神官のウシャブティ（あめんしんかんのうしゃぶてい）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝時代・前664～前332年頃
○品質 ファイアンス
○員数 1軀
○寸法等 高20.8cm 幅6.4cm 奥行3.3cm
○作品概要 ファイアンス製で、表面には青釉が施されている。型式、銘文ともに、典型的な第30王朝のウシャブティ。ウシャブティとは墓に納められたミイラ形の人形で、「答える者」の意。あの世で死者に課せられる強制労働を肩代わりすると考えられた。本作品も、両手に鋤とツルハシを持ち、背中には収穫物を入れる籠を背負っている。銘文によれば、死者はアメン神に仕える者、ヘル・イブ・ネイトの子だが、本人の名前の部分は碑文が不明瞭で解読できない。アメン神官と思われる。
- 87 ○名称 「兵士の長」のウシャブティ（「へいしのちょう」のうしゃぶてい）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝時代・前664～前332年頃
○品質 ファイアンス
○員数 1軀
○寸法等 高16.0cm 幅3.7cm 奥行3.8cm
○作品概要 ファイアンス製で、表面には青釉が施されている。型式、銘文ともに、典型的な第30王朝のウシャブティ。ウシャブティとは墓に納められたミイラ形の人形で、「答える者」の意。あの世で死者に課せられる強制労働を肩代わりすると考えられた。本作品も、手には鋤とツルハシを持ち、背中には籠を背負う。銘文によれば、死者の名前は「兵士の長、プサメティックの息子、アंक（ワア・イブ・ラー）メリ・ネイト」。
- 88 ○名称 ホルス神を抱くイシス女神倚像（ほるすしんをいだくいしすじょしんいぞう）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝時代～プトレマイオス朝時代初期・前7世紀～1世紀頃
○品質 ファイアンス
○員数 1軀
○寸法等 高13.7cm 幅3.7cm 奥行7.5cm
○作品概要 幼児（ホルス）に授乳する母親（イシス）の倚像。ファイアンス製で黄緑色及び赤褐色の釉薬が施されている。イシスは大地の神ゲブと天空の女神ヌトの娘で、死者の神オシリスの妹であり妻。ホルスの母、妹、妻。頭上に神名を示す聖刻文字を載せる。この像では、女神の冠と顔面、ホルスの顔付近に赤色の、その他の部分には黄緑色の釉がかけられている。この種の母子像は、後世、キリスト教における聖母子像に影響を及ぼした。
- 89 ○名称 ホルス神像（ほるすしんぞう）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝時代・前664～前332年頃
○品質 青銅製
○員数 1軀
○寸法等 高12.0cm 幅4.6cm 奥行6.7cm
○作品概要 ホルスはオシリス神とイシス女神の息子。本作品は本来別鑄の母イシス像の膝上に載っていたが、分離してしまったもの。首飾のみを身に着けた裸の幼児の姿をしており、両手は腿の脇に添えられる。両足は揃えて台座に載せられる。頭部は剃られ、右側頭部に少年神と王子に特有の髪束が下がっている。この髪束も別鑄。
- 90 ○名称 隼形アミュレット（はやぶさがたあみゆれっと）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝時代（前664～前332年頃）前後か
○品質 石灰岩
○員数 1個
○寸法等 高2.2cm 幅1.4cm 奥行2.0cm
○作品概要 ホルス神の化身とされた隼の座った姿を象った垂飾。頭の後ろに吊り下げ用の小輪が作られている。魔除けとして使用されたもの。
- 91 ○名称 ウジャト眼の垂飾（うじゃとめのすいしょく）
○作者等 エジプト出土
○時代 末期王朝時代・前664～前332年頃

- 品 質 ファイアンス製、青釉・黒色釉
○員 数 1 個
○寸 法 等 縦 3.6cm 横 4.2cm 厚さ 0.6cm
○作品概要 透かし細工でウジャト眼を表わした長方形の垂飾。肩部分のみ黒色釉、その他には青色釉が施され、中央部に横方向の 1 孔が貫通している（径約 2mm）。ウジャトとは「健全な」を意味し、化粧した人間の眼とホルス神の化身である隼の眼を合成したものの。神話では、セト神との戦いで破壊され、トト神によって回復されたホルス神の左眼。左眼が太陽を意味するのに対して、右眼は月を意味するので、本作品は表裏でその両方を表わしている。
- 92 ○名 称 アメン神立像（あめんしんりゆうぞう）
○作 者 等 エジプト出土
○時 代 プトレマイオス朝時代～ローマ時代・前 3 世紀～後 1 世紀頃
○品 質 木彫、彩色
○員 数 1 躯
○寸 法 等 高 24.7cm 幅 6.5cm 奥行 7.7cm
○作品概要 右足を一步踏み出した男子の立像。国家神アメンを表わしたもの。右手は垂らし、左手は肘を曲げて前方に向けられる。両足の下にはホゾが作り出されている。頭には緑なし帽冠（モルチエ）を被り、身には縦髪のある神々の腰布をつけている。また頸には編んだつけ鬚が下がっている。両腕は別造りで、左腕はさらに肘の部分で 2 つに分かれる。帽冠の上面には横方向に幅 0.4 センチ、深さ 0.6 センチの溝があり、2 本の羽（及び太陽円盤）の形をしたものが取り付けられていたと思われるが、失われている。また両手はアंक（生命の象徴）とウウス（神の杖）を握っていたと思われるが、うしなわれている。白目に白彩、眉、黒目、つけ鬚等に黒彩、顔、胸、ベルトなどに金彩の痕跡が残る。冠や持物といった付属品は失われている。
- 93 ○名 称 セクメト女神倚像（せくめとじょしんいぞう）
○作 者 等 エジプト出土
○時 代 末期王朝時代～プトレマイオス朝時代初期・前 7 世紀～前 3 世紀頃
○品 質 ファイアンス製、青釉
○員 数 1 躯
○寸 法 等 高 5.6cm 幅 1.2cm 奥行 3.3cm
○作品概要 セクメトは雌ライオンの頭をもった女性像で表される女神。メンフィスのプタハ神の妻で、息子はネフェルテム神。その名は「力強きもの」を意味し、国王の強さを象徴している。古代エジプトを代表する神の 1 柱である。本作品は椅子にすわり、左手に「アイグスの盾」を持っている。釉薬がトルコ石のように発色している。
- 94 ○名 称 鴞像（ときぞう）
○作 者 等 エジプト出土
○時 代 末期王朝時代・前 664～前 332 年頃
○品 質 木彫、金彩、一部青銅
○員 数 1 躯
○寸 法 等 本体 全長 14.7cm 高 10.8cm 幅 4.2cm；木製台 長さ 14.3cm 幅 5.3cm 高 3.4cm
○作品概要 鴞（アフリカクロトキ）の小像。鴞はその知覚能力から「知恵の神」トトを表す動物として尊ばれ、特に末期王朝時代に小像が多数製作された。本作品は歩行中の鴞を表している。目の象嵌や金属製の尾羽を失われているが、羽根の塗金はよく残っている。足は太く、薄い台と一体となり、木台に取りつけられている。嘴の下には奉納人物像あるいは奉納台があったと考えられる。
- 95 ○名 称 オクシリンコス（おくしりんこす）
○作 者 等 エジプト出土
○時 代 末期王朝時代・前 664～前 332 年頃
○品 質 青銅製、赤色象嵌による目
○員 数 1 躯
○寸 法 等 長さ 10.6cm 高 7.1cm 幅 2.3cm
○作品概要 オクシリンコスは、ナイル川にも生息する特徴的な「鼻」（下顎）をエレファントノーズフィッシュをモデルとする「聖魚」。古代エジプトの神話では、殺害され解体されたオシリス神の体の一部を飲み込んだ魚として、特に末期王朝時代に神聖視された。プトレマイオス朝時代には同名の都市が建設された。本作品は頭上に太陽円盤と角からなるハトホル風の冠をいただく典型的な姿で、下部は 2 本の支柱（鱧）で板状の台とながっている。冠の後ろには小輪があり、両目には赤色の玉（ガラス？）が象嵌されている。
- 96 ○名 称 冠断片（かんむりだんぺん）
○作 者 等 エジプト出土
○時 代 第 24～25 王朝・前 8 世紀頃
○品 質 銅、色ガラス
○員 数 1 個
○寸 法 等 高 28.5cm 幅 13.8cm 厚さ 1.9cm
○作品概要 青銅製。神像や王像にとりつけられた冠の一部である。サイズから判断すると、かなり大きな像の頭部を飾っていたものと推測できる。鳥の羽、頭上に太陽円盤を頂くコブラ、動物の角からなる冠の右部分で、中央部と左部分を欠く。コブラには空色、赤色、黄色のガラスが象嵌されている。類品が大英博物館に所蔵される。
- 97 ○名 称 鉢（はち）
○作 者 等 エジプト出土
○時 代 プトレマイオス朝時代・前 3 世紀～前 1 世紀
○品 質 ファイアンス製、青釉
○員 数 1 口
○寸 法 等 口径 9.8cm 高 3.8cm 底径 5.6cm
○作品概要 やや丸みを帯びた完形品のファイアンス製鉢。底部には、低い輪高台がつき、ハリと呼ばれる、焼成時に用いられた粘土の小塊が残存している。
- 98 ○名 称 彩文土器 双把手付甕（さいもんどきそうとってつきかめ）
○作 者 等 エジプト出土
○時 代 先王朝時代・前 4 千年紀後半
○品 質 彩文土器
○員 数 1 口
○寸 法 等 高 13.7cm 口径 8.1cm 底径 3.0cm
○作品概要 エジプト先王朝時代のナカダ期に典型的な彩文土器。黄褐色の地肌に暗褐色の彩文が施される。卵形の本体に 1 対の小把手が取り付けられ、底部は平坦。口縁部下から底部にかけて波線による梯子状の文様が描かれ、鏝状の口縁部にも波線による二重円文が描かれている。
- 99 ○名 称 黒頂土器 甕（こくちようどき かめ）
○作 者 等 エジプト出土

- 時代 先王朝時代・前4千年紀後半
- 品質 土器
- 員数 1口
- 寸法等 像高14.3cm 口径5.9cm 底径4.2cm 最大幅8.7cm
- 作品概要 黒頂土器 (black-topped ware) と呼ばれるエジプト先王朝時代、特にナカダ文化を代表する土器様式の優品。器形は卵形で、単純な口縁部と小さな平底をもつ。把手や器面装飾はなく、上部約4分の1が黒色、その余は赤褐色で、いずれも光沢を放つほどによく研磨されている。色調の違いは還元炎と酸化炎の違いと思われる。

<東洋民族> (1件)

- 100 ○名称 団扇 (だんせん)
- 時代 20世紀
- 品質 木、紙、真鍮
- 員数 5柄
- 寸法等 最大幅28.5cm
- 作品概要 紙製団扇。柄と骨は木製。柄は先が扇形、要は宝珠の形で、黒漆を塗る。地紙に要を囲むように黒い紙で切絵風の様をあらわし、要の宝珠を縁取るように朱を塗る。要には真鍮製の五弁の花形の金具が2つ縦にならぶ。地紙向かって右下に「羅州邑団扇商会製品」と印を押す。

(3) 編入 (506件)

<歴史資料>

- 1 ○名称 歴史資料 (れきしりょう)
- 時代 江戸～昭和時代
- 品質 卷子、掛軸等／紙本墨書、紙本着色、拓本等
- 員数 506件
- 作品概要 「歴史資料(P)」と称される分野は、昭和13年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時の列品から「学芸課資料」として再編成された資料群を基礎としている。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれ、その内容は多様である。今回編入分には、黒川真頼旧蔵の金石拓本類、表慶館の設計図面、幕末明治期の画家菊池容斎旧蔵の資料、第二次大戦後の寄贈・購入による資料が含まれる。

【京都国立博物館】 (計 388 件)

(1) 購入 (9 件)

<絵画> (2 件)

- 1 ○名称 仏涅槃図 (ぶつねはんず)
- 作者等 不詳
- 時代 平安時代～鎌倉時代 (12～13 世紀)
- 品質 絹本着色
- 員数 1 幅
- 寸法等 縦 99.0 cm、横 67.6 cm
- 作品概要 近年新たに発見された、絹本着色 2 副 1 鋪の小型の仏涅槃図。図像的には、応徳 3 年 (1086) の和歌山・金剛峯寺蔵仏涅槃図と共通する要素が多い。月及び叢雲に銀泥を刷く点は、12 世紀後半の感覚をよくとどめると言える。一方、釈迦に見られる明度の高い色彩感覚は、新しい感覚を見せる。よって、本図の制作年代は、12 世紀末から 13 世紀前半を想定すべきものと推測される。本図の最大の特徴は、その小型の法量である。仏涅槃図でこのような小型のものはこの時期には非常に珍しく、本図は十二世紀に文献上確認される小規模な涅槃講で使用されていたと推測される。藤末鎌初作品が発見されること自体が貴重であり、仏教史的な意義も高い作品である。
- 2 ○名称 重要文化財 鍾秀齋図 (しょうしゅうさいず)
- 作者等 祥啓 (しょうけい) 筆
- 時代 室町時代 (16 世紀)
- 品質 紙本墨画
- 員数 1 幅
- 寸法等 縦 78.7 cm 横 27.6 cm
- 作品概要 鎌倉建長寺第百六十四世で文筆僧としても有名な玉隠英瑛 (一四三二～一五二四) と、円覚寺第百四十七世を務めた子明紹俊 (?～一五三六) の賛をもつ山水図である。筆者の祥啓 (生没年不詳) は建長寺の画僧で道号は賢江、職階は書記であった。文明十年 (一四七八) 画の修行のために上京し、幕府の唐物奉行・芸阿弥 (一四三一～八五) に師事すること三年。帰郷するにあたり、そのはなむけと修了証書の代わりとして、芸阿弥から「観瀑僧図」(根津美術館蔵) を描き与えられたことも知られる。祥啓の山水図にはやはりその芸阿弥の画風にならう厳格な楷体描写をとるものが多いが、本図ではむしろ柔和な筆遣いを駆使することによって、平明かつ瀟洒な雰囲気醸成している。

<金工> (1 件)

- 3 ○名称 七宝唐花文手付盆 (しっぽうからはなもんでつきぼん)
- 時代 江戸時代 (18～19 世紀)
- 品質 銅・七宝
- 員数 1 口
- 寸法等 縦 24.9 cm 横 40.5 cm 高 16.5 cm
- 作品概要 アーチ状の取手と花先形の小脚をもうけた銅製の盆に有線七宝を施したもの。見込みを斜めに二分分割する片身替の構成や、変形の菊菊紋を各所に散らすなど、その意匠と図様構成に明らかな日本的感性が見られる。その一方で、図様の中で最も大きく描かれた如意頭形八弁唐花文や掬十弁唐花文に中国的な要素の混入を認める。本品は明時代の七宝を参考に江戸中期の日本の工人によって製作されたものであると考えられる。これほどまでに大型で、状態の良い江戸時代の七宝盆は大変珍しく、日本的要素と中国的要素を取り混ぜた作例として江戸時代の七宝を代表する作品である。加賀藩家老横山家の旧蔵品。

<漆工> (5 件)

- 4 ○名称 千鳥蒔絵手箱 (ちどりまきえてばこ)
- 時代 室町時代 (15 世紀)
- 作者等 不詳
- 品質 木製 漆塗 蒔絵
- 員数 1 合
- 寸法等 縦 30.8cm 横 24.2cm 高 16.4cm
- 作品概要 隅丸長方形、甲盛、塵居、胴張、畳付を面取とし、錫縁をつけた合口造の手箱。黒漆地に無数の千鳥を金研出蒔絵で散らし描いた後、淡い平目地を作り、蓋裏には同技法で浜松に千鳥を描く。内部には七宝花蔓地に菊花文様を唐織で表した錦を貼る。東京国立博物館所蔵の千鳥蒔絵手箱によく似るが、本品は千鳥の数がより多く、東京国立博物館の手箱の蓋裏が外面同様の千鳥散らしてあるのに対し、本品は、波に囲まれた土坡に松が伸びる景色の中に千鳥を舞わせる点が異なる。中世の手箱の貴重な例である。

- 5 ○名 称 桐蓮鷹羽蝶紋蒔絵筆筥（きりちがいたかのはちょうもんまきえたんす）
○時 代 桃山時代（16世紀末～17世紀初頭）
○作 者 等 不詳
○品 質 木製 漆塗 蒔絵
○員 数 1基
○寸 法 等 幅41.8cm 奥行30.7cm 高45.9cm
○作品概要 長方形、椗負蓋造、両短側面に銅製提手をつけた筆筥。外部は黒漆地に金平蒔絵、絵梨地、付描で、各面に桐紋、丸に蓮鷹羽紋、揚羽蝶紋を配し、いわゆる高台寺蒔絵の様式を示す。浅野幸長（1576-1613）と池田恒興の娘（輝政の異母姉妹）の婚姻に関わる調度であった可能性がある。内部は桧材の枠に二段の棚板を渡した旅筆筥に改造されており、江戸時代以降の数寄者たちの間で高台寺蒔絵が流行したことを物語る。正面の扉に亀裂があり修理を必要とするが、平成知新館オープン記念展にも陳列されたように、近世初頭の蒔絵の好例として今後も活用が見込まれる。
- 6 ○名 称 野分蒔絵扇形箱（のわかまきえおうぎがたばこ）
○時 代 江戸時代（17世紀）
○作 者 等 不詳
○品 質 木製 漆塗 蒔絵
○員 数 1合
○寸 法 等 縦21.6cm 横29.5cm 高5.6cm
○作品概要 扇形、印籠蓋造の箱。扇面部分は扇の折り目を山や谷として彫り出す。現在内部は硯箱の体裁だが、後世に整えられた構造と思われる。詰梨地に金銀平蒔絵、薄肉高蒔絵、金金貝、付描、描割などの技法で『源氏物語』の「野分」の帖を表し、蓋裏には籬に秋草を描く。丁寧かつ伸びやかな描線は桃山時代の表現を踏襲する。17世紀には扇形の漆器が輸出されたことが貿易記録からわかり、実際に海外の伝世例が多いが、国内にはあまりない。本品は、江戸時代前期に遡りうる扇形の箱として貴重であり、また展示効果の高い華やかな作品である。
- 7 ○名 称 舟橋蒔絵酒盆（ふなばしまきえしゅぼん）
○時 代 江戸時代（18～19世紀）
○作 者 等 不詳
○品 質 木製 漆塗 蒔絵 螺鈿 鉛板
○員 数 1枚
○寸 法 等 幅35.0cm 奥行23.8cm 高3.0cm
○作品概要 隅入長方形、縁付、四足付の盆。外箱墨書に従えば「酒盆」。黒漆地に金平蒔絵、金薄肉高蒔絵、螺鈿、鉛板の象嵌の手法で、波、舟、橋を描き、『後撰和歌集』の歌から「東路・の・さのの（舟橋）・かけて・のみ・思・わたる・を知・人そ・なき」の文字を散らす。東京国立博物館所蔵の国宝「舟橋蒔絵硯箱」を横長の画面に写したものである。光悦作として知られる品は、特に近代以降の名のある蒔絵師たちによって忠実に模倣される場合が多いが、本品のように形を変えた、江戸時代に遡りうるような大らかな作風は珍しい。琳派の流行を探る上で重要な品である。
- 8 ○名 称 胡蝶扇面蒔絵硯箱（こちょうせんめんまきえすずりばこ）
○時 代 江戸時代（17世紀末～18世紀）
○作 者 等 不詳
○品 質 木製 漆塗 蒔絵
○員 数 1合
○寸 法 等 縦23.8cm 横22.0cm 高4.6cm
○作品概要 隅切方形、面取、被蓋造の硯箱。円形銅製鍍金の水滴と方形硯を仕込んだ下水板1枚と懸子1枚を納める。梨地に金銀平蒔絵、研出蒔絵、金銀切金、銀鈿、描割、針描、付描などの諸技法で3本の扇を表す。扇面のうち1面は菊の咲く殿舎の庭、1面は金銀の瓶子と「その・秋まつむし」の文字を散し『源氏物語』『胡蝶』の帖の「花園の胡蝶をさへや下草に秋まつ虫は疎く見るらむ」の歌意を描く。見込に「道甫作」と読まれてきた蒔絵銘があるが、二文字目は「秋」の字のように見える。読み方の結論は出ていないが、文様、技法とも、五十嵐派の特徴を示す入念作であり、江戸時代中期の五十嵐派の動向を探る上で、またとない研究資料でもある。

<染織> (1件)

- 9 ○名 称 紅縹子地吉祥挿花車文様繡掛下帯（べにしゅすじきしょうそうかくるまもんようぬいかけしたおび）
○時 代 江戸時代（19世紀）
○作 者 等 不詳
○品 質 絹（縹子地・繡）
○員 数 1筋
○寸 法 等 長171.0cm 幅26.0cm
○作品概要 掛下帯とは、打掛着装時に使用する幅の狭い帯である。打掛は、小袖形式の衣服のうち最も格式の高い場に用いる衣裳であるため、帯も刺繍で豪華な文様を施す例が多い。この掛下帯は、鮮やかな紅縹子地に、松、竹、梅、菊などの吉祥の植物を活けた籠を載せた花車が波間を進む様子が、すべて刺繍であらわされる。金糸と白・黄・紅・萌葱濃淡・茶・黒の絹刺繍糸を使用し、金糸の駒繡と平繡で文様を表現する。一枚の生地を半分折って仕立てるため、文様は帯の表裏にわたって配置されている。結ぶことによって傷みが生じるため、帯の作例はたいへん少ないのが現状であり、市場に出ることは多くない。本来、きものと帯はともに用いるものであり、両者の取り合わせによる展示での活用が期待される。

(2)寄贈(379件)

<絵画> (49件)

- 1 ○名 称 花鳥人物図扇面貼交屏風（かちょうじんぶつぜんめんはりまぜびょうぶ）ほか
○時 代 室町時代～昭和時代（16～20世紀）
○員 数 44件
○作品概要 大阪の旧家に伝わった文化財から、初期狩野派による「花鳥人物図扇面貼交屏風」6曲1双、大岡春卜筆「裏四季草花図・表天保九如图屏風」6曲1双、狩野益信筆「太公望図」6曲1双、酒井抱一筆「梅に鶯・椿に雀図屏風」2曲1隻、司馬江漢筆「富岳遠望之図」1面、狩野永岳筆「六歌仙図小襖」2面、河鍋暁斎筆「梅に鳥」1幅、橋本閑雪筆「売花娘図」1幅など、中世から近現代までの絵画、44件。
- 45 ○名 称 人物鳥獸画巻 長澤蘆雪筆（じんぶつちょうじゅうがかん ながさわろせつひつ）
○時 代 江戸時代（18世紀）
○作 者 等 長澤蘆雪筆
○品 質 紙本着色
○員 数 1巻
○寸 法 等 31.1×1610.0cm
○作品概要 布袋唐子・福神や花鳥モチーフを季節の推移とともに描く。画風と署名の書体等から、天明6年（1786）の南紀滞在をさかのぼる若い時期の制作とみられる。主題・描法の多彩さ、機知に富む画面構成、大巻であること等鑑みて、芦雪初期の代表作といって差し支えない。しかも、芦雪の巻子作品はこれまで2点しか知られていない。これらはいずれも晩年作で、若い時期の巻子作品としては類例がなく貴重である。

- 46 ○名称 板絵千仏画像部分模写 三井田久子筆 (いたえせんぶつがぞうぶぶんもしゃ みいだひさこひつ)
 ○時代 昭和時代 (20世紀)
 ○作者等 三井田久子筆
 ○品質 紙本淡彩
 ○員数 4枚
 ○寸法等 (1) 縦36.1cm、横33.0cm (四方四仏B群a面)、(2) 縦41.8cm、横41.6cm (四方四仏A群a面)
 (3) 縦30.3cm、横16.8cm (千仏二体分)、(4) 縦36.3cm、横24.5cm (千仏六体分)
 ○作品概要 板絵千仏画像 (京都国立博物館所蔵、A甲390) の部分模写。オリジナルの表面は、長年の燻染で描写が確認困難となっているが、本図によってその概要がうかがえる。1980年頃の模写。
- 47 ○名称 白描伊勢物語絵料紙梵字陀羅尼経断簡下絵白描模写 三井田久子筆 (はくびょういせものがたりえりょうしぼんじだらにきょうだんかんしたえはくびょうもしゃ みいだひさこひつ)
 ○時代 昭和時代 (20世紀)
 ○作者等 三井田久子筆
 ○品質 紙本墨画
 ○員数 1幅
 ○寸法等 縦24.8cm、横36.9cm
 ○作品概要 白描伊勢物語絵料紙梵字陀羅尼経断簡 (東京芸術大学所蔵) の下絵白描模写。筆者三井田氏の師・吉田善彦東京芸術大学教授所蔵速水御舟遺墨二片の内一片を授与され使用されたという。吉田氏は、速水御舟義兄・吉田幸三郎の従兄弟にあたる。
- 48 ○名称 釈迦金棺出現図部分白描模写 三井田久子筆 (しゃかきんかんしゅつげんずぶぶんはくびょうもしゃ みいだひさこひつ)
 ○時代 昭和時代 (20世紀)
 ○作者等 三井田久子筆
 ○品質 紙本墨画
 ○員数 1幅
 ○寸法等 縦159.8cm、横48.6cm
 ○作品概要 釈迦金棺出現図 (京都国立博物館所蔵、A甲373) の部分白描模写。昭和五二年度文化庁模写事業「釈迦金棺出現図」(奈良国立博物館蔵、原本京都国立博物館蔵、吉田善彦監修、林功・井上耐子・富沢千砂子・宮城真・三井田久子筆) 製作時の下絵。分担者毎に統一表装保存。本図は画面右端五分の一分に相当する。修理前の状況を伝える貴重な模本。
- 49 ○名称 江邨漁隠図巻 (こうそんぎょいんずかん)
 ○時代 中国・清時代 道光21年 (1841)
 ○作者等 黄均筆
 ○品質 紙本墨画淡彩
 ○員数 1巻
 ○寸法等 縦22.1cm、長226.8cmセンチ
 ○作品概要 清時代後期の画家・黄均 (1775~1850) の筆になる山水の画卷で、江南の穏やかな秋の情景を描く。黄均は字を穀原といい、香疇、墨華居士と号した。元和 (蘇州) の人。本図は、北宋初期の范寛の筆意を真似て、山峰に密集した樹叢をあらわす点苔を多用するが、全体の基調をなす潤いのある墨線や淡い彩色は同時代の山水図の典型である。巻頭には道光、咸豊、同治帝を教え「三代帝師」と称された祁寯藻 (1793~1866) の題がつく。
- <書跡> (17件)**
- 50~65 ○名称 重要美術品 消息 豊臣秀吉筆 (しょうそく とよとみひでよしひつ) ほか
 ○時代 桃山時代~昭和時代 (16~20世紀)
 ○品質 紙本墨書
 ○員数 16件
 ○作品概要 豊臣秀吉 (1536~98) が文禄元年 (1592) 12月、上原二郎右衛門にあてた消息。当時、秀吉は朝鮮に出兵するため、肥前の名護屋にあった。これに従軍させる意図があったらしく、来春早々に自分の許まで来るよう命令し、築城がはじまったばかりの伏見城の普請については前田玄以に指示をだしたとのべる。末尾の署名は、これまで使用していた「てんか (天下)」にかえ、「大かう (太閤)」となっている。大阪府貝塚市の旧家よりの寄贈品で、ほか三条西実隆筆「和歌懐紙 (春日同詠雨後花和歌)」1幅、日野内光筆「和歌懐紙 (七夕同詠星名言志和歌)」1幅、近衛基熙筆「和歌懐紙 (春日詠若菜知時和歌)」1幅など、桃山時代から昭和時代までの消息・和歌懐紙・文人の書を中心とした書跡、16件。
- 66 ○名称 五言絶句 (ごごんぜっく)
 ○時代 中国・清時代 (18世紀)
 ○品質 紙本墨書
 ○員数 1幅
 ○作品概要 明時代末期の官僚で書画に秀でた張瑞図 (1570~1641) の筆との伝称をもつ作品。張瑞図は字を長公、号を二水、白毫菴主、果亭山人といい、福建晋江の人。独自の書風で人気を博し、「明末四大家」の一人に数えられる。日本でも江戸時代以降、福建を拠点とした黄檗宗が隆盛したことにとともに、数多くの張瑞図作品がもたらされた。本作もその一つと考えられるが、落款印章の相違や筆勢の弱さから真筆とは認めがたい。ただし、戦後比較早い時期に京都の書道界が主催した展覧会に出品されており、近現代日本の中国書画鑑賞史を理解するうえで資料的価値を有する。
- <金工> (56件)**
- 67~122 ○名称 唐犬釜 (とうけんがま) ほか
 ○時代 桃山時代~昭和時代 (17~20世紀)
 ○品質 鉄・銅・七宝ほか
 ○員数 56件
 ○作品概要 大阪の旧家に伝わった文化財から、孫三郎作「七宝釜」、辻与次郎作「尾垂釜」をはじめとする京釜。中川浄益作「秋田銀板灰匙」など茶道具類。「七宝雄形香炉」など七宝器。加賀・陀羅尼勝家作「短刀 銘勝家」など刀剣・鉄砲類など、桃山時代から昭和時代までの金工品、56件。
- <陶磁> (86件)**
- 123~207 ○名称 黒楽茶碗 樂了入作 (くろらくちやわん らくりょうにゅうさく) ほか
 ○時代 明時代、清時代、朝鮮時代 (17世紀)、奈良時代、江戸時代~明治時代 (17~19世紀)
 ○品質 陶器、磁器、須恵器、玉器
 ○員数 85件
 ○作品概要 大阪の旧家に伝わった文化財から、樂了入作「黒楽茶碗 銘数寄太郎」、「御本刷毛目茶碗」、「青磁四方花卉文花入」、「銚絵松竹梅文水指 志賀焼」などの茶道具を中心に、「掛分船形鉢 一方堂焼」、「銚絵白泥大根文鉢 仁阿弥道八作」、「染付周茂叔愛蓮図茶壺 尾形周平作」、「染付山水人物文水注 清水六兵衛作」などといった京焼の作品を含む陶磁器の品、85件。
- 208 ○名称 三彩婦女立俑 (さんさいふじょりゅうよう)
 ○時代 唐時代 8世紀

- 品 質 陶器
- 員 数 一躯
- 作品概要 姿勢よく胸を張り、袖口を合わせて両手を包んだ気品ある姿の女子俑である。足元に何かをくわえた狎を従えている。青、緑、黄の釉薬が鮮やかで下裳（したも）に七曜文を施した衣装は華やかである。顔や口元には赤い釉薬がほんのり残り、頭部は双髻（そうけい）と呼ばれる、左右二ヶ所で結った髻が二つある髪型をしている。

<漆工> (161 件)

- 209～369 ○名 称 屈輪唐草堆朱天目台（ぐりからくさついしゅてんもくだい）ほか
- 時 代 明時代、江戸時代～昭和時代（17～20 世紀）
 - 品 質 竹、籐、象牙、木製、漆塗、蒔絵、螺鈿、漆絵、彫漆ほか
 - 員 数 161件
 - 作品概要 大阪の旧家に伝わった文化財から、柴田是真作「青海塗菓子銘々盆」、中山胡民作「富士蒔絵盆」、小島漆壺斎作「七宝花菱唐草鯉鱒棗」、勝軍木庵光英作「菊蒔絵棗」など有名蒔絵師の作品をはじめ、表千家歴代の花押の入った棗や茶杓といった茶道具、初代早川尚古斎や初代田邊竹雲斎など幕末近代の竹細工の名工による花籠など、多種多様な漆工および木竹工の品、161 件。

<染織> (7 件)

- 370 ○名 称 御殿雛飾り（ごてんびなざり）
- 時 代 江戸時代（天保 15 年・1844 頃）
 - 品 質 御殿：木製、一部漆塗蒔絵 人形：桐塑胡粉塗 衣裳絹製、道具：木製漆塗蒔絵
 - 員 数 1 式
 - 作品概要 正徳年間から続く京都の商家に伝わった雛飾り。京阪地方に多い御殿の内部と周囲に人形を飾る御殿雛飾りで、御殿の幅は 235 センチにも及ぶ。古今雛形式の男雛と女雛に、三人官女、雅楽を奏でる五人囃子を御殿内に配し、階下の左右に随人、仕丁二体を置く。五人囃子を納める箱の蓋裏に天保 15 年の初節句に贈られたとの墨書がある。雛御殿および雛道具一式には、黒漆塗地に抱菊花紋を金蒔絵で施す。
- 371 ○名 称 髪飾り類（かみかざりるい）
- 時 代 大正～昭和時代（20 世紀）
 - 品 質 亀甲、銀、珊瑚、翡翠、真珠ほか
 - 員 数 一括
 - 作品概要 和歌山の商家で、大正年間を中心に購入された髪飾り類で、39 種 54 点。多くは亀甲細工で、洋髪に用いたピン類が多く含まれる。大阪の高島屋などで購入した際の箱や伝票が付随しており、近代の大阪圏の消費文化を示す。
- 372 ○名 称 帯留類（おびどめるい）
- 時 代 大正～昭和時代（20 世紀）
 - 品 質 金・銀・貴石・珊瑚・絹製組紐ほか
 - 員 数 1 括
 - 作品概要 和歌山の商家で、大正年間を中心に購入された帯留め類で、8 種 15 点。帯留めは近代の帯結びで用いられ始めた和装小物で、貴金属や貴石が用いられている。大阪の越後屋亀甲店で購入した際の箱が付随しており、近代の大阪圏の消費文化を示す。
- 373 ○名 称 人形類 本咲和子コレクション（にんぎょうるいほんさきかずここれくしょん）
- 時 代 江戸時代～昭和時代（19～20 世紀）
 - 品 質 桐塑胡粉塗 衣裳絹製
 - 員 数 1括（内訳 46種54点）
 - 作品概要 大阪の旧家に伝わった文化財から、寄贈者の実母である本咲和子氏が京都で収集した日本人形類。節供人形、衣裳人形、御所人形、三つ折人形、市松人形、賀茂人形が含まれる。多くは御所人形で、江戸時代から近代までの作例が含まれている。
- 374 ○名 称 白地柳に鷺文様天鷲絨友禅染帯（しろやなぎにさぎもんようびろうどゆうぜんぞめおび）
- 時 代 明治時代 二十世紀
 - 品 質 絹 描絵
 - 員 数 1筋
 - 寸 法 等 長402.5cm、幅33.0cm。
 - 作品概要 女物の丸帯である。表裏に柳の枝にとまって憩う鷺一羽を、墨を基調に淡彩を交えながら描く。垂れ部分に「栖鳳寫 栖鳳（朱文方印）」との落款があり、京都画壇の大家である竹内栖鳳（1864～1942）筆と知られる。棲鳳から栖鳳へと名を改めるのは明治33年であり、本作への染筆はそれ以降であろう。明治の漢学者として名高い依田學海（1834～1909）の令嬢のために制作された。
- 375 ○名 称 衣裳御所人形 稚児輪袴着立姿（いしょうごしょにんぎょうちごうはかまぎたちすがた）
- 時 代 江戸時代 十九世紀
 - 品 質 木胎胡粉塗、絹
 - 員 数 1軀
 - 寸 法 等 高23.5cm。
 - 作品概要 立姿の御所人形で、毛植えの髪を稚児輪に結び、白平絹の振袖に紗絞形に蘭菊文様を織り出した浅葱地輪子の袴を着用する。「いづくら衣裳人形」との貼札のある桐箱が附属する。住友財閥で活躍し、歌人としても知られた川田順夫人の遺品と伝える。
- 376 ○名 称 唐美人押絵（とうびじんおしえ）
- 時 代 江戸時代 十七世紀
 - 品 質 紙胎絹包
 - 員 数 1面
 - 寸 法 等 高38.0cm。
 - 作品概要 羽子板に見られる押絵の技法で作られた中国風の衣裳をまとった立姿の女性像。国内での類例としては、東福門院和子（1607～78）の手になる押絵観音像や歌仙絵が数例知られる。唐人物の作例としては、ドイツのバーデンバーデンに所在するファヴォリート城の壁面装飾に転用された例が知られ、この城の装飾は 1710 年代から 20 年代になされている。佐渡の名家に伝わった品で、流刑地の佐渡にて没した小倉実起（1622～84）からの拝領品と考えられている。

<考古> (3件)

- 377 ○名 称 麻江型銅鼓（まこうがたどうこ）
- 時 代 清時代（18～19 世紀）
 - 作 者 等 不詳
 - 品 質 青銅鑄造
 - 員 数 1口
 - 寸 法 等 面径 50.0cm。高さ 28.0cm
 - 作品概要 紀元前に始まる中国南部からインドシナ半島に展開した銅鼓のうち最も新しい型式の銅鼓である。主に貴州省の山間部に多く分布するので、本例もその付近の出自と推定される。円形の鼓面と屈曲する胴部からなる。胴部に 4 本の取手を持ち、ここに綱を架けて銅鼓を垂下させて打ち鳴らす。

らす。本例は麻江型銅鼓の典型例であり保存状態も良好。銅鐸関連遺物として展示するに相応しい。大阪府貝塚市の旧家に伝来していたもの。

- 378 ○名称 青磁輪花碗（破片） 越州窯（せいじりんかわん（はへん） えっしゅうよう）
 ○時代 北宋
 ○品質 青磁
 ○員数 1個
 ○寸法等 現存高 5.5cm、現存長径は 13.4cm
 ○作品概要 北宋代の越州窯製の青磁碗片。口縁部はなく、底部と体部みの破片。胎土は灰白色、釉は草色。焼成は非常に硬い。底面にヘラで「大」の字が施される。1975年頃に京都府宇治市木幡の畑地で採集されたものという。この地は平安時代に藤原氏の累代墓やそれを供養する淨妙寺などが造られた場所である。この青磁碗はそれらに関連する副葬品あるいは寺院の什器であった可能性ある。付属品なし。
- 379 ○名称 縄文土器片・石器類ほか（じょうもんどきへん・せつきるいほか）
 ○時代 縄文時代～古墳時代
 ○品質 縄文土器片・須恵器片・石器・化石等
 ○員数 縄文土器片 256点、須恵器片 5点、石器 51点、化石等 10点
 ○寸法等 磨製石斧の全長 18.0cm ほか
 ○作品概要 京都府在住の個人の方から近年亡くなられたご主人が実家である福島県内などで採集された縄文土器・石器を主とするコレクションの寄贈である。ご実家は福島県田村市滝根町菅谷猿内であるという。内容は縄文時代後期頃の土器片が主であり、磨製石斧や打製石鏃など同じ縄文時代の石器とその石材など、さらに一部に関西の古墳時代の須恵器などを含む。また二枚貝の化石も含まれる。状態は良好とは言いがたく一部だけが展示に耐えるものだが、文化財の保存と研究および教育資料として活用したい。

【奈良国立博物館】（計 15 件）

(1) 購入 (15 件)

<絵画> (4 件)

- 1 ○名称 絹本着色春日宮曼荼羅（けんぼんちやくしよくかすがみやまんだら）
 ○時代 鎌倉時代 13世紀
 ○品質 絹本着色 掛幅装
 ○員数 1幅
 ○寸法等 本紙 縦 87.3cm 横 41.8cm 表具 縦 175.5cm 横 59.3cm
 ○作品概要 西から東を向いた視点で春日社の景観を描く作品。一の鳥居を起点として参道をたどり、上部に社殿、さらに春日山を描く。その上に五個の円相を配し、その中に春日の若宮を含めた五柱の神の本地仏を表す。この種の作品のなかでもとりわけ古様を示し、春日宮曼荼羅の初期の様相を示す貴重な作品。
- 2 ○名称 絹本着色釈迦十六善神像（けんぼんちやくしよくしゃかじゅうろくぜんじんざう）
 ○時代 鎌倉時代 13世紀
 ○品質 絹本着色 掛幅装
 ○員数 1幅
 ○寸法等 本紙 縦 176.5cm 横 122.4cm 表具 縦 258.2cm 横 140.4cm
 ○作品概要 大画面の中央に釈迦如来坐像、その周囲に大般若経の守護神である十六善神ほかの諸尊を配する。賦彩の手法や全体の作風から、鎌倉時代前期に南都で制作された作品とみられ、この種の作品のなかでも古い時期の大作として貴重なもの。なお箱書によって大コレクターとして名高い武藤山治の旧蔵品と判明する点も興味深い。
- 3 ○名称 愛染明王印仏（あいぜんみょうおういんぶつ）
 ○時代 鎌倉時代 14世紀
 ○品質 紙本朱印
 ○員数 1枚
 ○寸法等 縦 16.4cm 横 48.5cm
 ○作品概要 奈良・元興寺の重要文化財・木造弘法大師坐像の納入品であったと見られる愛染明王の印仏。同像の納入品として今も付属する 42枚の愛染明王印仏は、印捺される愛染明王の尊容・像高や、料紙 1紙あたり 3体 16列、合計 48体前後を表す構成も、本品と共通する。色鮮やかな朱色の印影を残す、展示効果の高い作品。
- 4 ○名称 最勝曼荼羅（さいしょうまんだら）
 ○時代 室町時代 文安元年（1444）
 ○品質 絹本着色 掛幅装
 ○員数 1幅
 ○寸法等 縦 335.0cm 横 202.8cm 総縦 383.7cm 総横 218.8cm
 ○作品概要 室町時代の興福寺では数年に 1度、祈雨のため『金光明最勝王経』6部の書写と「最勝曼荼羅」の制作・祈禱が行われたが、本品はこの法要のため描かれ祈禱されたことが確定できるもの。年紀をともない、このときの法要については『大乗院寺社雑事記』などの文献にも記録がある。文献と実作例が結びつく点において、稀少かつ貴重な美術作品。

<書跡> (1 件)

- 5 ○名称 天永二年十一月二十一日東大寺注進状案（紙背 遠江国条里坪付帳断簡）（てんえいにねんじゅういちがつにじゅういちにちとうだいじちゅうしんじょうあん（しはい とおとうみのくにじょうりつぽつけしょうだんかん））
 ○時代 平安時代 天永 2年（1111）
 ○品質 紙本墨書 未装丁
 ○員数 1通
 ○寸法等 縦 28.8cm 横 97.4cm
 ○作品概要 天永 2年 10月に設置された記録所に関する数少ない史料のひとつとして、学会では著名なものである。伊賀国黒田荘の領有権をめぐる東大寺と興福寺の相論に関わる内容で、日本の荘園史上の重要文書。裏面は遠江国条里坪付帳の断簡。「遠江倉印」が捺された現存唯一の文書として、これも重要かつ著名なもの。

<彫刻> (2 件)

- 6 ○名称 木造如来立像（もくぞうによらいりゅうざう）
 ○時代 平安時代 10～11世紀
 ○品質 木造 彩色
 ○員数 1軀
 ○寸法等 像高 147.8cm 髮際高 137.9cm
 ○作品概要 櫃の一材から根幹部を彫成する一木彫像で、周尺にもとづく六尺像とみられる。肘を脇につけたやや窮屈な姿勢や、着衣の襷の形式、顔の表情や耳のかたちなどから、南都を中心に散見する、古代の金銅仏を木彫に写した作品とみなされる。像内の墨書から、いずこかの春日社に伝

来した可能性があり、神仏習合の遺品と考えられる。

- 7 ○名称 銅造光背（どうぞうこうはい）
○時代 平安時代 12世紀
○品質 銅製 鍍金
○員数 1面
○寸法等 総高28.9cm 最大幅22.4cm
○作品概要 銅造透彫の光背。中央部は八葉蓮華を中心とする二重円相光で、雲文を表した周縁部がこれに付く。モチーフや構造技法及び寸法の一一致する作品に、京都・醍醐寺の銅造阿彌陀如来坐像（重要文化財）光背があり、本品とはその制作工房・制作時期を同じくするものと思われ、平安後期の工房制作の実態を考えるうえで貴重なもの。

<金工> (4件)

- 8 ○名称 金銅火焰宝珠形舍利容器（こんどうかえんほうじゅがたしやりようき）
○時代 鎌倉～南北朝時代 14世紀
○品質 銅製 鍍金
○員数 1基
○寸法等 総高13.2cm 框座径6.8cm 舍利容器高3.7cm 同径3.7cm
○作品概要 金銅製の蓮台上に水晶製の宝珠形舍利容器が乗るつくりで、舍利容器は金銅板製の火焰で固定されている。釈迦牟尼仏の骨になぞらえられる舍利に対する信仰は古代から存在するが、鎌倉時代以降、とくに盛んとなり、多くの舍利容器が作られたが、本品はそのなかでも精巧なつくりを示し、この種遺品を代表するに足るもの。
- 9 ○名称 金銅能作性塔（こんどうのうさしょうとう）
○時代 南北朝～鎌倉時代 14～15世紀
○品質 銅製 鍍金
○員数 1基
○寸法等 総高25.5cm 框径14.5cm 宝珠高7.4cm 同径7.5cm
○作品概要 蓮台上に火焰宝珠を安置する形式をとる。宝珠は内部を空洞とし、鍍金を施しており、ここに能作性珠を奉納できる構造。能作性珠は釈迦の遺骨である舍利と密教の最高尊である大日如来とを同一視する思想を背景としており、とくに醍醐寺系の真言密教において重視された。本品は醍醐寺系密教の影響を受けた西大寺等真言律宗において製作・安置された可能性がある。
- 10 ○名称 金銅蓮華形磬（こんどうれんげがたけい）
○時代 鎌倉時代 13世紀
○品質 銅製 鍍金
○員数 1面
○寸法等 最大縦9.6cm 最大幅17.3cm
○作品概要 仏具のなかでも音を仏に供する梵音具に属する遺品。通常の磬と異なり、蓮華形をなす点に特徴があるが、平安時代以降、他にも若干の作例がある。他の類品との形状の比較から、13世紀後半頃の制作期が推定される。鍍金もおおむねよく残り、保存状態は良い。
- 11 ○名称 金銅都五鈷杵（こんどうすべごこしよ）
○時代 南北朝時代 14世紀
○品質 銅製 鍍金
○員数 1口
○寸法等 全長12.3cm
○作品概要 密教法具の一遺品。鈷部が五叉に分岐する五鈷杵だが、脇鈷が中鈷に向かってすばまり、独鈷杵に近い形状を示し、いわゆる都五鈷杵と呼ばれるもの。都五鈷杵は重要文化財に指定される京都・仁和寺の作品を代表として、数例が知られている。形状の特徴から、14世紀頃の制作と目される。

<漆工> (1件)

- 12 ○名称 愛染明王彩繪舍利厨子（あいぜんみょうおうさいえしやりずし）
○時代 室町時代 弘治2年（1556）
○品質 木製 黒漆塗
○員数 1基
○寸法等 高20.0cm
○作品概要 銘文によって舍利奉納のための厨子であることが判明する作品。奈良・正暦寺円満院の僧興盛の発願により、春日社西之屋の地藏菩薩の宝前に寄進されたことがわかる。奥壁には愛染明王像を描いており、舍利ないし宝珠と愛染明王の信仰が重層的に結びついた密教修法である「如法愛染法」に関わる遺品と考えられる。

<考古> (3件)

- 13 ○名称 人面付蓮華文鬼瓦（八島廃寺出土）（じんめんつきれんげもんおにがわら（やしまはいじしゅつど））
○時代 飛鳥時代 7世紀
○品質 瓦製
○員数 1面
○寸法等 高22.1cm 幅23.0cm 厚2.9cm
○作品概要 滋賀県長浜市に所在する飛鳥時代（白鳳期）の寺院遺跡である八島廃寺から出土したとみられる鬼瓦。中央に蓮華文をおき、周囲に童子風の人面を配する。このモチーフは朝鮮半島からの影響を受けたものと考えられ、渡来系氏族との関連が指摘されている。7世紀の日韓交流史を考えるうえで重要な資料。
- 14 ○名称 伝滋賀県比叡山根本如法堂付近出土品（でんしがけんひえいざんこんぼんによほうどうふきんしゅつどひん）
○時代 平安時代 12世紀
○品質 外容器：陶製 和鏡：銅製 青白磁合子・小壺：磁製 ガラス小壺・水滴：ガラス製
○員数 一括
○寸法等 外容器：総高33.0cm 和鏡：径8.4～10.0cm 青白磁合子：総高2.9～3.1cm 青白磁小壺：総高6.2cm ガラス小壺：身高3.2cm ガラス水滴：高4.2cm
○作品概要 天台宗の総本山延暦寺の所在する比叡山の横川根本如法堂付近は、慈覚大師円仁が行った法華経如法書写ならびに埋経への結縁の意識により、多数の経塚が営まれた地域だが、本品もその付近からの出土と伝えられる。猿投か常滑で焼かれたらしい陶製外容器や2面の和鏡、中国・宋代の青白磁合子および小壺、同じく宋代のガラス小壺、ガラス水滴等からなる。とくにガラス水滴は世界でも唯一の現存遺品と目され、きわめて貴重な遺品。
- 15 ○名称 伝奈良県葛城市出土品（銅製骨藏器）（でんならけんかつらぎししゅつどひん（どうせいこつぞうき））
○時代 奈良時代 8世紀

- 品 質 銅製
- 員 数 1口
- 寸法等 口径19.2cm 現状高12.8cm
- 作品概要 奈良県葛城市(旧新庄町)の城山から出土したと伝えるもの。形状の特徴から奈良時代の遺品と見られ、内部にはわずかに骨片状物質が付着している。銅製の骨蔵器で奈良時代にさかのぼる遺品は西日本に約十例がある程度で、その意味でも貴重。

【九州国立博物館】(計19件)

(1) 購入 (14件)

<絵画> (4件)

- 1 ○名 称 絹本着色釈迦三尊二比丘十六羅漢図(けんぼんちゃくしよくしゃかさんぞんにびくじゅうろくらかんず)
 - 時 代 鎌倉時代・13世紀
 - 品 質 絹本着色
 - 員 数 1幅
 - 寸法等 本紙:縦103.7cm 横55.4cm 表具:縦181.0cm 横73.8cm 軸長78.8cm
 - 作品概要 釈迦三尊と十大弟子のうちの阿難・迦葉、さらに十六羅漢を加えた計23尊を描いた、きわめて珍しい組み合わせの諸尊図。制作年代については、描線や色彩感覚が鎌倉時代・13世紀に描かれた「観経十六観変相図」(重要文化財、京都・長香寺所蔵)などに近似し、諸尊の体軀や衣文線の重ね方に北宋・雍熙2年(985)造立の「釈迦如来像」(国宝、清凉寺所蔵)胎内に納められた「靈山変相図」(国宝、北宋時代)に近い造形感覚を示すことなどから、宋代絵画、とくに版画あるいは拓本を祖本とする13世紀の作と推測される。異色の図像として稀少であると共に、鎌倉時代における宋代絵画の受容を考えるうえで欠かすことのできない貴重な作品である。
- 2 ○名 称 紙本墨画淡彩陶淵明愛菊図 伝周文筆・瑞溪周鳳賛(しほんぼくがたんさいとうえんめいあいきくず でんしゅうぶんひつ・ずいけいしゅうほうさん)
 - 作 者 等 伝周文筆・瑞溪周鳳賛
 - 時 代 室町時代・15世紀 文明4年(1472)賛
 - 品 質 紙本墨画淡彩
 - 員 数 1幅
 - 寸法等 本紙:縦78.2cm 横23.9cm 表具:縦151.5cm 横26.4cm 軸長30.6cm
 - 作品概要 中国・六朝時代の詩人・陶潜(陶淵明、365-427)が、道服をつけ杖をもって歩む姿を描く。作者については足利將軍家の御用絵師・周文(?-1454-)の伝承があり、上部には鹿苑僧録をつとめた文筆僧・瑞溪周鳳(1392-1473)が81歳で記した賛文がある。陶淵明は、自然を愛して田園生活を送った隠逸詩人として、日本ではすでに平安時代にはよく知られた存在であるが、関連する古い絵画作品は数少ない。新出資料である本図は、室町時代における中国文人文化の受容を考える上で重要な資料である。その人物の姿形は、東アジアにおいて伝統的に描き継がれた図像を受け継いでおり、とくに応永32年(1425)着賛の陶淵明賞菊図(重要文化財、梅澤記念館所蔵)に共通しており興味深い。
- 3 ○名 称 紙本墨画山水図 伝狩野玉染筆(しほんぼくがさんすいず でんかのうぎょくらくひつ)
 - 作 者 等 伝狩野玉染筆
 - 時 代 室町時代・16世紀
 - 品 質 紙本墨画
 - 員 数 1幅
 - 寸法等 本紙:縦85.6cm 横31.5cm 表具:縦167.4cm 横43.6cm 軸長48.4cm
 - 作品概要 墨一色で晩夏から初秋にかけての景観を細やかに描き出す。その特徴は墨点で立体感を描写する米法山水の主山である。この表現は中国・宋時代の文人画家の山水画に由来するもので、とくに元時代に盛行したが、日本・室町時代には作例が多くない。そのため米点や無根樹などの描法を採用する本図は、米法山水の表現を学んだ室町水墨画の一つとして貴重である。作者については、狩野元信(1477-1559)に学び小田原で活躍した狩野玉染の伝承がある。そのため本図は、京都の狩野派に学んだ関東水墨画の優品として重要であり、文化交流の観点からも独自の位置づけを持つ米法山水として貴重である。
- 4 ○名 称 紙本墨画松に叭叭鳥・柳に白鷺図 六曲屏風 狩野永徳筆(しほんぼくがまつにははちょう・やなぎにしらさきず ろつきょくびょうぶかのうえいとくひつ)
 - 作 者 等 狩野永徳筆
 - 時 代 室町-安土桃山時代・16世紀
 - 品 質 紙本墨画
 - 員 数 1双
 - 寸法等 本紙:各縦160.5cm 横351.0cm 折畳時:各縦176.3cm 横62.0cm 厚11.4cm
 - 作品概要 近年再発見された、狩野永徳(1543-1590)の花鳥図の大作である。本作品は、数少ない永徳の大画面花鳥画であることに加え、その代表作「花鳥図」(国宝、京都・大徳寺聚光院所蔵)に酷似しており、日本美術史において極めて重要な価値をもつ。右隻では、松のまわりを叭叭鳥が舞い、勢よく流れる滝や葦などが澗刺とした春の景色を表している。左隻は、芦が茂る穏やかな秋の水辺の景で、柳のそばで白鷺が羽根を休める。安定感のある構図に、春と秋、静と動、黒い叭叭鳥と白い鷺を対比的に表わした、理知的な構成である。永徳の祖父・元信が確立した端正な花鳥図を継承しつつ、桃山時代の豪壮な様式の到来を予感させる、極めて重要な作品である。

<書跡> (1件)

- 5 ○名 称 藍紙墨書大方広華嚴経巻第十五(泉福寺焼経)(らんしほくしよだいほうこうぶつけごんきょうまきだいじゅうご(せんぶくじやけぎょう))
 - 時 代 平安時代・12世紀
 - 品 質 藍紙墨書
 - 員 数 1巻
 - 寸法等 縦25.5cm 全長1279.1cm
 - 作品概要 「泉福寺焼経」は平安時代12世紀初期の装飾経の優品で、河内国・泉福寺に伝来した。ある時期に火災に遭い、経巻の上下端が焼損したことからこの名で呼ばれる。澱染めの藍色の料紙に、金の捺箔を散らし、金泥界を引いた中に、『大方広華嚴経』(旧訳華嚴経、仏駄跋陀羅訳、60巻本)を楷書体で書写する。本作品は、巻子装で、巻第十五(「如来昇兜率天宮一切宝殿品第十九」「兜率天宮菩薩集讚仏品第廿」)が1行17字詰で26紙にわたって書写される。「泉福寺焼経」は、戦後に10巻前後が巻間に出て、存在が知られるようになった。巻子のかたちで伝わる僚巻が、東京・京都・奈良の国立博物館、根津美術館、立命館大学などに所蔵される。本作品も僚巻同様、和様の筆致で一貫して書写されるが、点画の丸みが強調される以前の端正な楷書体の字姿を留める。また、本作品は、焼損痕も含めてうぶな状態であり、巻末の軸木と上端の軸先を遺存する点も貴重である。

<彫刻> (1件)

- 6 ○名 称 阿弥陀如来坐像(あみだによらいざどう)
 - 時 代 平安時代・10世紀
 - 品 質 木造 漆箔・彩色 彫眼
 - 員 数 1軀

- 寸法等 像高 56.0cm
 ○作品概要 両手屈臂として腹前で左手の上に右手を重ね置く弥陀定印を結び、右足を外にして結跏趺坐する阿弥陀如来像。両腕の遊離部を含めて広葉樹(ケヤキか)の縦一材から彫出し、内割りを施さない古式の一木彫像である。大きく張り出す胸肉、圧倒的に肥満した体軀、翻衣式の名残が認められる幅広の衣襷など9世紀彫像の特徴を濃厚に示すが、肉髻と地髪を段を不明瞭で尖っているようにみえる頭部の形、仰月形の目と小さな鼻や唇を配する面貌など、京都や琵琶湖周辺に伝存する10世紀の天台系如来像に見出される特徴が多く認められる。よく整えられた衲衣の衣襷、右足首にまとわる裳先の折り返しを幅広い真円形に表現する点、衲衣を通して左胸肉の張りや右足の指先を明瞭に表現する点など、本像では着衣の質感と肉身性の強調に特別の関心が払われていることが注目される。

<漆工> (1件)

- 7 ○名称 龍鳳彫彩漆合子(りゅうほうちょうさいしつごうす)
 ○時代 中国・明時代・嘉靖年間(1522-66)
 ○品質 木製漆塗
 ○員数 1合
 ○寸法等 径 29.2cm 高 13.3cm
 ○作品概要 木製漆塗。円形、印籠蓋造の合子。蓋表中央に雲芝をあらわし、その上に丸枠で囲んだ寿字を篆書体であらわして、上に逆卍をあらわす。その左右には鳳凰と龍を、間隙を雲文地とし、雲芝雲をあらわしている。さらに肩と尻の部分には、波文地に朱色と緑色の龍を二匹ずつ交互に配し、龍と龍の間には雲芝雲をあらわす。色漆を塗り重ねた漆層に文様を彫り表す彫彩漆技法は、明時代・嘉靖年間に隆盛を迎えた。また、さまざまな吉祥文や文字を組み合わせて器物を飾る作風は、明時代・嘉靖年間から盛んになり、後の隆慶年間(1567-72)、万暦年間(1573-1620)へ引き継がれた。本作は嘉靖期彫彩漆の典型作であり、同趣の作例は、北京・故宫博物院や台北・国立故宫博物院などに所蔵されている。

<染織> (3件)

- 8 ○名称 浅葱地椿燕文紅型衣裳(あさぎじつばきつばめもんびんがたいしょう)
 ○作者等 琉球
 ○時代 琉球・第二尚氏時代-明治時代・190-20世紀
 ○品質 木綿単糸平織
 ○員数 1領
 ○寸法等 丈 120.0cm 桁 64.3cm
 ○作品概要 型染め、両面染め。単仕立て。牡丹文を主文として、瑞雲、飛翔する燕を配した大文様の紅型衣裳。浅葱色の地色上に赤、黄、茶、緑、藍色にて文様を染めている。肩山で文様の向きを変え染め方はせず、前身左右ともに模様は上向きで、後身は下向きとなっている。本品は、広袖で身八つ口の開口部分をつくらぬなど琉服の形を残すが衿は和服の特徴である棒衿に変化している。
- 9 ○名称 黄地松皮菱繫ぎ檜扇団扇菊椿文紅型胴衣(きじまつかわびしつなぎひおうぎうちわきくつばきもんびんがたどうじん)
 ○時代 琉球・第二尚氏時代・19世紀
 ○品質 木綿単糸平織
 ○員数 1領
 ○寸法等 丈 91.5cm 桁 64.5cm
 ○作品概要 型染め、片面染め。元は袷仕立てと考えられるが現状は裏地なし。松皮菱繫ぎ文に、檜扇、団扇を中心に椿、菊を配した大模様の胴衣で、松皮菱に市松文様を充填させた文様は、鹿の子絞りあるいは摺田を模したものと考えられる。黄色の地色上に赤、橙、紫、茶、緑、藍色にて文様を染めている。胴衣には脇(体側)にスリットをいれるものもあるが、本品は脇を縫い閉じている。衿付けは袋縫いで上前衿には3本髪を入れる。胴衣(ドウジン)とは上衣のことで、カカンと呼ばれる裙(巻きスカート)とともに二部式の衣裳として着用された。
- 10 ○名称 茜地幾何学文更紗儀礼用布(あかねじきかがくもんさらさぎれいようふ)
 ○作者等 インド・コロマンデル海岸か
 ○時代 17-18世紀
 ○品質 木綿単糸平織
 ○員数 1枚
 ○寸法等 縦 656.0cm 横 83.5cm
 ○作品概要 木綿単糸平織。両面染め、媒染模様染め・蠟防染模様染め(手描き)。蠟防染で染め抜かれた3本線が中央部と周囲を区画する。中央部には、方形を組み合わせた「格天井」文様をの中心に花形を表す幾何学文様と、破風のような三角形に十字を組み合わせた建物風の文様を交互に配す。周囲のうち長辺の両側の区画は、一方は正方形をピラミッド状に積み上げた山形を連続させ、もう一方は三角形と凸形を組み合わせた文様を連続させる。切り取りによる欠失部が1か所あるものの、完形をほぼ残す点で貴重である。

<考古> (2件)

- 11 ○名称 伝青森県五所川原市十三五月女泡出土 四脚付鉢形土器(でんあおもりけんごしょがわらしじゅうさんそとめやしゅつど しきやくつきはちがたどき)
 ○時代 縄文時代・前1000年-前400年
 ○品質 土製
 ○員数 1点
 ○寸法等 径 16.0cm 高 10.0cm
 ○作品概要 直立する4つの脚を持つ鉢形の土器。口縁部には工字状の文様が施されている。東北地方の縄文時代晩期の文化として著名な亀ヶ岡文化の土器で、本例のような形態を持つものは大変希少である。この文化の後半は、西日本では既に水田稲作が伝わっており、弥生時代が始まっている。亀ヶ岡文化の土器は、西日本各地でも出土し、弥生土器の成立にも大きな影響を与えており、当時の文化交流を考える上で大変重要である。
- 12 ○名称 伝青森県つがる市森田町床舞出土 長胴異形壺形土器(でんあおもりけんつがるしもりたまちとこまいしゅつど ちょうどういぎょうつぼがたどき)
 ○時代 縄文時代・前1000年-前400年
 ○品質 土製
 ○員数 1点
 ○寸法等 径 6.8cm 高 33.2cm
 ○作品概要 非常に長い胴部を持つ壺形もしくは徳利形の土器。器壁は手握土器風の凹凸を持ち、肩部から胴部にかけて全面に雲形の磨消縄文が施されている。東北地方の縄文時代晩期の文化として著名な亀ヶ岡文化の土器で、本例のような形態を持つものは大変希少である。この文化の後半は、西日本では既に水田稲作が伝わっており、弥生時代が始まっている。亀ヶ岡文化の土器は、西日本各地でも出土し、弥生土器の成立にも大きな影響を与えており、当時の文化交流を考える上で大変重要である。

<歴史資料> (2件)

- 13 ○名称 紙本墨書徳川家康御内書(しほんぼくしょとくがわいえやすごないしょ)
 ○時代 江戸時代・慶長10年(1605)
 ○品質 紙本墨書
 ○員数 1幅
 ○寸法等 本紙:縦 23.2cm 横 59.1cm 表具:縦 104.8cm 横 61.5cm 軸長 66.8cm

○作品概要 徳川家康(1542-1616)が対馬の大名・宗義智(1568-1615)に宛てた御内書。差出書の部分に「源家康」と刻する重廓黒文楕円印を捺し、宛所は「対馬侍従殿」とする。文書様式・内容からみて、発給年月は慶長10年(1605)5月と考えられる。文禄・慶長の役(1592-98)後の日朝講和交渉の過程において、慶長10年3月、宗義智は対馬を訪れた使僧惟政(松雲大師)を京都・伏見城まで誘導し、大御所徳川家康・將軍秀忠との会見を実現させた。家康は義智の功績を賞するとともに、朝鮮王朝から正式の外交使節を招聘するよう命じている。本文中で「無事之儀、弥相調候様」と指示するのは、正式な講和成立のため奔走するよう指示したものと解される。

14 ○名称 紙本着色長崎唐館図及蘭館図(しほんちゃくしよくながさきとうかんずおよびらんず)
○時代 江戸時代・18-19世紀
○品質 紙本着色
○員数 2巻
○寸法等 (唐館図)本紙:縦36.6cm 横485.5cm(4紙) 表具:縦36.6cm 横521.3cm
(蘭館図)本紙:縦36.6cm 横404.3cm(3紙) 表具:縦36.6cm 横440.4cm

○作品概要 江戸時代・18世紀初頭の長崎の唐人屋敷と出島オランダ商館とにおける生活・風俗を描いた絵巻。唐館図には、唐人店(香餅・焼酒)、唐人部屋での宴席と中国楽器の演奏、土神堂の礼拝、広場での博打、小間物・食料品市など11の場面が、蘭館図には、水門、カピタン部屋の宴席と洋楽器の演奏、庭園、涼所(遊戯所)とビリヤード、など7つの場面が描かれている。両図ともに、構図が類似する諸本が神戸市立博物館など複数伝来する。景観年代は、渡辺秀石が長崎巡見に訪れた幕府勘定奉行・荻原重秀の命(元禄12年・1699)により描いた「絵図」(『唐通事会所日録』・『長崎オランダ商館日記』)との関連性から、18世紀初頭と判断される。

(2) 寄贈 (5件)

<金工> (1件)

1 ○名称 金剛鈴(こんごうれい)
○作者等 インドネシア
○時代 時代・世紀 15世紀
○品質 銅・鋳造
○員数 1口
○寸法等 総高16.2cm 鈴身高5.8cm 鈴口径8.5cm
○作品概要 銅製鋳造の密教法具。本品は、インドネシアの各種鋳造品に特有な蠟型による制作と考えられ、鉦と把、鈴身は、それぞれ別鋳して接合する。鉦は、把上につくり出した平坦面から3本の鉦が垂直に伸びる三鉦形をなし、鑄を立てず平板に仕上げる。脇鉦は刃を外側にに向けた片刃状で、その根元から箆手状に外側から内側へ向けて巻き込みを伴う。一方、中鉦は両刃状で下部に逆刺をもつ。3本の鉦を受ける把は、中央にやや扁平な珠形を設け、その上下に円盤状の突帯を2つずつ添える。また、鈴身は、椀を伏せたようなかたちをとり、口縁部分を厚手につくり出す。なお、鈴身の内側には環を設け、そこから本体と同じ材質でつくられた舌を吊り下げる。

<考古> (3件)

2 ○名称 金銅装馬具他(こんどうそうばぐほか)
○時代 縄文時代-江戸時代(主体となるのは古墳時代)
○品質 青銅鋳造、金銅製、鉄製、鉄地金銅製、石製、鉄地金貼り
○員数 23件
○寸法等 玉類等:縦0.02cm-3.76cm 横0.3cm-2.12cm 広形銅矛:長83.4cm 幅13.7cm 厚5.0cm
○作品概要 個人から寄贈を受けた福島仙掌庵コレクションは、豊前地域から出土した縄文時代から江戸時代にかけての考古資料として重要な意義を持ち、とくに古墳時代が充実している。なかでも、青銅鉦鈴・青銅三鈴杏葉は出土例が少なく貴重である。また、小玉類も多彩であり、さまざま時代の鏡、武器形青銅器(広形銅矛・中広形銅矛)についても特筆される。さらに、金銅半龍環頭柄頭はみやこ町彦徳横穴墓出土品として明治年間に刊行された『筑前豊前考古図譜』にも記され、出土の分かる学術的に重要なものである。このうち、金銅装馬具は整理の結果、3組あることが分かり、うち1組は奈良県藤ノ木古墳出土品に類例がある。豊前地域の地域史を復原する上で、欠くことのできない資料と言える。

3 ○名称 大分県丹生遺跡群出土 石器(おおいたけんにゆういせきぐんしゆつど せつき)
○時代 旧石器時代-縄文時代・3万年前-6000年前
○品質 石製
○員数 13点
○寸法等 縦10.7cm 横10.9cm 厚6.0cmほか
○作品概要 縄文時代の礫器6点とその素材6点、旧石器時代の石核1点で構成されている。本資料の中で主体となる礫器は、使用石材や加工技術から縄文時代草創期・早期に位置づけられる礫器の典型例である。昭和30年代後半に丹生遺跡群から採集された本資料と同形態の礫器は、その所属時期をめぐって「丹生論争」や「前期旧石器存否論争」と呼ばれる当時の日本考古学会を二分するほどの大論争を巻き起こした。本資料はその丹生遺跡から出土した礫器であり、考古学的にも大変重要な資料である。太田亘氏旧蔵。

4 ○名称 タイ・バンチェン遺跡出土 土器他(たい・ばんちえんいせきしゆつど どきほか)
○時代 新石器時代:アフガニスタン、青銅器時代-スコータイ時代:タイ、先クメール時代-クメール時代:カンボジア
○品質 石製、土製、青銅鋳造、金銅
○員数 23件
○寸法等 小玉類:径0.1cm-0.5cm 土器:径16.2cm 高10.0cm
○作品概要 個人から寄贈を受けたコレクションは、タイ、カンボジア、アフガニスタンから出土した新石器時代からスコータイ時代ないしくメール時代のものだが、その中核をなすのがバンチェン文化出土品である。バンチェン文化は東北タイにある東南アジア最古の青銅・鉄器文化である。1966-1967年にアメリカのペンシルバニア大学の考古学的調査で当該文化期に属する墓葬が調査され、スリッパ掛け胎土に赤色で彩文を描いた土器は後期バンチェン文化に該当し、中国・ベトナムの青銅器文化の影響を受けた青銅器や鉄器も共存することが分かった。当館で以前購入したバンチェン文化出土品に加え、東南アジア考古資料を充実させるものとして重要である。

<民族資料> (1件)

5 ○名称 蓋付壺他(ふたつきつぼほか)
○時代 蓋付壺:現代(20世紀)・タイ タタキ板・当て具:現代(20世紀)・ミャンマー
○品質 土製、木製
○員数 2件
○寸法等 蓋:径11.5cm 高5.8cm 壺:径16.5cm 高12.5cm タタキ板:長27.0cm 幅7.3cm 厚2.9cm 当て具:径9.5cm 高7.0cm
○作品概要 現代の東北タイで作られている土器である。ロクロを使用せずに、土器製作者自身が土器のまわりをまわりながら成形する点が特筆される。土器成形の基本技法は「タタキ」技法である。前期バンチェン文化土器に代表されるように、東南アジアでは紀元前20世紀には、土器づくりに「タタキ」技法を用いていた。現在の東北タイの土器づくりも、その系譜に連なるものと言える。あわせて個人から寄贈を受けたタタキ板・当て具は隣国のミャンマーで使用されていたものだが、東南アジアにひろく分布する「タタキ」技法の実態を伝える資料として重要である。

1-(1)-④ 寄託品一覧表

(単位:件) 平成27年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館			
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	
合計	11,844	195	1,208	3,064	56	256	6,001	86	623	1,984	53	324	795	0	5	
絵画	3,330	56	418	476	13	66	2,108	28	246	591	15	105	155	0	1	
書跡	1,672	67	271	396	12	29	905	42	203	316	13	37	55	0	2	
彫刻	882	12	208	248	2	37	256	1	65	373	9	105	5	0	1	
建築	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
金工	917	13	90	133	5	18	535	1	40	238	7	32	11	0	0	
刀剣	249	10	68	213	8	55				34	2	13	2	0	0	
陶磁	1,209	1	7	137	0	3	779	1	3	11	0	0	282	0	1	
漆工	693	13	52	99	6	15	455	4	15	107	3	22	32	0	0	
染織	861	7	36	286	2	4	497	3	31	49	2	1	29	0	0	
考古	916	12	32	168	4	13	427	6	10	228	2	9	93	0	0	
民族資料	120	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	109	0	0	
歴史資料	91	0	10	5	0	0	35	0	10	29	0	0	22	0	0	
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	
東洋	絵画	170	2	11	170	2	11	/			/			/		
	書跡	39	1	3	39	1	3									
	彫刻	31	0	0	31	0	0									
	金工	5	0	1	5	0	1									
	陶磁	124	1	0	124	1	0									
	漆工	33	0	1	33	0	1									
	染織	9	0	0	9	0	0									
	考古	487	0	0	487	0	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									

* 東京国立博物館は、列品管理規定による「旧東洋課所掌分」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
 * 東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-⑤ 寄託品増減表

(単位:件) 平成27年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館							
	25年度		26年度	25年度		26年度	25年度		26年度	25年度		26年度	25年度		26年度					
	計	新規	返却	計	新規	返却	計	新規	返却	計	新規	返却	計	新規	返却					
合計	11,486	785	427	11,844	2,519	604	59	3,064	5,892	162	53	6,001	1,994	7	17	1,984	1,081	12	298	795
絵画	3,201	218	89	3,330	392	86	2	476	2,003	122	17	2,108	592	1	2	591	214	9	68	155
書跡	1,670	45	43	1,672	378	26	8	396	890	18	3	905	322	0	6	316	80	1	26	55
彫刻	799	114	31	882	147	104	3	248	255	5	4	256	374	3(4)*	4	373	23	2	20	5
建築	4	0	0	4	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1,026	17	126	917	168	6	41	133	529	9	3	535	238	2	2	238	91	0	80	11
刀剣	246	3	0	249	210	3	0	213				34	0	0	34	2	0	0	2	2
陶磁	1,220	8	19	1,209	134	4	1	137	792	4	17	779	11	0	0	11	283	0	1	282
漆工	701	20	28	693	84	16	1	99	461	3	9	455	107	1	1	107	49	0	17	32
染織	724	218	81	861	69	217	0	286	496	1	0	497	49	0	0	49	110	0	81	29
考古	911	12	7	916	157	12	1	168	427	0	0	427	230	0	2	228	97	0	4	93
民族資料	121	0	1	120	5	0	0	5	0	0	0	6	0	0	6	110	0	1	109	
歴史資料	87	4	0	91	1	4	0	5	35	0	0	35	29	0	0	29	22	0	0	22
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0
東洋	絵画	149	22	1	170	149	22	1	170	/			/			/				
	書跡	24	15	0	39	24	15	0	39											
	彫刻	11	20	0	31	11	20	0	31											
	金工	1	4	0	5	1	4	0	5											
	陶磁	70	55	1	124	70	55	1	124											
	漆工	25	8	0	33	25	8	0	33											
	染織	9	0	0	9	9	0	0	9											
	考古	485	2	0	487	485	2	0	487											
	民族	0	0	0	0	0	0	0	0											

* () 新規寄託品は4件であるが、うち1件は既に寄託されている作品1件に点数の追加としたため、合計値には含まない。

1-(1)-⑥ 登録美術品一覧表

(単位:件) 平成27年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	27	0	2	25	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	3	0	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歴史資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(2) 収蔵品の管理・保存
 1-(2)-① 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】

平成27年3月31日現在

合計		1,721		
計	列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時	
	695	334	692	
絵画	110	19	244	
書跡	49	3	1	
彫刻	216	6	7	
建築	0	0	0	
金工	21	3	0	
刀剣	9	220	0	
陶磁	50	3	3	
漆工	30	2	0	
染織	20	2	7	
考古	52	31	5	
歴史資料	30	2	17	
民族資料	3	2	0	
和書	11	6	102	
東洋	絵画	33	8	17
	書跡	14	3	4
	彫刻	3	3	0
	金工	0	0	0
	陶磁	15	2	5
	漆工	5	0	3
	染織	7	1	69
	考古	10	4	2
民族	0	0	0	
法隆寺献納宝物	2	11	0	
その他(黒田含)	5	3	206	

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	204	115	75
絵画	50	41	12
書跡	8	10	2
彫刻	1	21	0
建築	0	0	0
金工	9	9	2
刀剣		0	0
陶磁	52	0	1
漆工	51	6	0
染織	2	0	5
考古	30	28	6
民族資料	0	0	0
歴史資料	1	0	1
和書	0	0	0
その他	0	0	46

1-(2)-② 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
本館	展示会場	09:00~17:00	11~30℃	22~77%
	収蔵庫	09:30~17:00	15~26℃	25~82%
平成館	展示会場	09:00~17:00	19~29℃	39~63%
	収蔵庫	09:30~17:00	21~26℃	48~64%
東洋館	展示会場	09:30~17:00	15~29℃	23~64%
	収蔵庫	09:30~17:00	11~28℃	43~68%
宝物館	展示会場	24時間運転	22~26℃	49~60%
	収蔵庫	24時間運転	21~24℃	51~60%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
明治古都館 (特別展示館)	展示会場	09:00~18:00	18~25℃	57~60%
	収蔵庫	09:00~17:30	18~22℃	55~60%
平成知新館 (新平常展示館)	展示会場	9:00~17:00	20~23℃	50~60%
	収蔵庫	9:00~17:00	20~23℃	50~60%
北収蔵庫		9:00~17:30	18~25℃	55~60%
東収蔵庫		09:00~17:30	18~22℃	55~60%
文化財保存修理所		09:00~17:30	22~24℃	57~60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)			湿度(年間)
			冬	夏	中	
なら仏像館	展示会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展示会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展示会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展示会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
3階展示会場		8:00~19:00	22~26℃	55±5%
4階展示会場		7:00~21:00	22~26℃	55±5%
収蔵庫		8:30~21:30	22~24℃	材質別に50±2%、 55±2%、 60±2%

1-(3) 収蔵品の修理

1-(3)-① 本格修理件数

平成27年3月31日現在

	計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合計	121	78 (14)	11	9	23
絵画	25	8	4	4	9
書跡	4	1	0	1	2
彫刻	1	1	0	0	0
建築	0	0	0	0	0
金工	5	3	1	0	1
刀剣	3	3	0	0	0
陶磁	4	3	0	0	1
漆工	3	2	1	0	0
染織	21	12	3	1	5
考古	39	31 (14)	1	3	4
歴史資料	2	0	1	0	1
和書	1	1	0	0	0
民族資料	0	0	0	0	0
東洋	絵画	3	3		
	書跡	1	1		
	彫刻	0	0		
	金工	0	0		
	陶磁	2	2		
	漆工	1	1		
	染織	1	1		
	考古	4	4		
	民族	0	0		
法隆寺献納宝物	0	0			
黒田記念館収蔵品	0	0			
館史資料(収蔵品外)	1	1			

※東京国立博物館()内は考古相互貸借経費、内数。

1-(3)-② 修理概況

【東京国立博物館】 (78件)

〈絵画〉(8件)

- 1 ○列品番号 A-56
○名称 牧馬図屏風(ぼくばずびょうぶ)
○指定 重文
○指定年月 平成17年(2005)6月9日 絵第2014号
○時代 安土桃山時代
○年代世紀 16c
○品質 紙本着色
○員数 6曲1双
○寸法等 156.6×342.5 cm
○施工会社 榎岡墨光堂
○修理内容 1. 屏風装を解体する。2. 絵具層の剥落止めを行なう。3. 表打ちを行ない、画面を保護する。4. 旧裏打ち紙、補紙を除去する。5. 欠損部に補紙を、亀裂部分に補強紙をあてる。6. 補紙に補彩を行なう。7. 新規裏打ちを行なう。8. 屏風下地を新調し、下地に本紙、裂、裏貼紙を貼り込む。9. 製木や金具を新調する。(平成26年度は②の途中まで、平成27年度は⑦の途中まで)
- 2 ○列品番号 A-122
○名称 藤・牡丹・楓図(ふじ ぼたん かえです)
○時代 江戸
○年代世紀 17c
○品質 絹本着色
○員数 3幅
○寸法等 109.0×37.8 cm
○施工会社 榎半田九清堂
○修理内容 1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部の補綴を行なう。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補綴部分に補彩を施す。6. 表装裂、軸首は可能な限り再使用し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。(平成25年度は2まで)
- 3 ○列品番号 A-9972
○名称 鷹見泉石像(たかみせんせきぞう)
○指定 国宝
○指定年月 昭和26年(1951)6月9日
○時代 江戸
○年代世紀 天保8年(1837)
○品質 絹本着色
○員数 1幅
○寸法等 本紙 縦115.0 横57.2、表具 縦190.7 横69.2 cm
○施工会社 榎半田九清堂
○修理内容 1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去する。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 表装裂、軸首は可能な限り再使用し、掛幅装に仕立てる。6. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。(平成25年度は2まで)
- 4 ○列品番号 A-11180
○名称 山水図(さんすいず)
○時代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品質 紙本墨画淡彩
○員数 2幅
○寸法等 各119.2×55.0 cm
○施工会社 アソシエイトフェロー
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 旧裏打ち紙を除去する。4. 欠失部に補修紙を施す。5. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せをする。6. 補紙部分に地色合わせの補彩をする。7. 上下裂地は新調、一文字・中廻しは再使用する。8. 太巻添軸、保存箱を新調する。(平成26年度は④の途中まで)
- 5 ○列品番号 A-11182
○名称 林和靖図(りんなせいず)
○時代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品質 紙本墨画淡彩
○員数 1幅
○寸法等 119.2×55.0 cm
○施工会社 アソシエイトフェロー
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 旧裏打ち紙を除去する。4. 欠失部に補修紙を施す。5. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せをする。6. 補紙部分に地色合わせの補彩をする。7. 上下裂地は新調、一文字・中廻しは再使用する。8. 太巻添軸、保存箱を新調する。(平成26年度は④の途中まで)
- 6 ○列品番号 A-12087
○名称 坪内老大人像画稿(つぼうちろうたいじんぞうがこう)
○時代 江戸
○年代世紀 文政元年(1818)
○品質 紙本墨画淡彩
○員数 1幅
○寸法等 本紙 縦82.0 横74.4、表具 縦145.0 横82.5 cm
○施工会社 アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容 1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部の補綴を行なう。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 補紙に補彩を施す。6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。(平成25年度は2まで)
- 7 ○列品番号 A-12336
○名称 坪内老大人像(つぼうちろうたいじんぞう)
○時代 江戸

- 年代世紀 19c
 ○品 質 絹本着色
 ○員 数 1幅
 ○寸 法 等 本紙 縦149.7 横73.3、表具 縦196.8 横76.7 cm/ 附本紙 縦136.3 横62.4、附表具 縦191.8 横73.0 cm
 ○施工会社 アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
 ○修理内容 1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部の補綴を行なう。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補綴部分に補綴を施す。6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。(平成25年度は2まで)
- 8 ○列品番号 A-12105
 ○名 称 釈迦三尊像(しゃかさんぞんぞう)
 ○時 代 南北朝~室町
 ○年代世紀 14~15c
 ○品 質 絹本着色
 ○員 数 1幅
 ○寸 法 等 135.7×60.4 cm
 ○施工会社 榎岡墨光堂
 ○修理内容 1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、料絹の欠損部に補綴を行なう。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補綴部分に補綴を施す。6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。(平成25年度は2まで)
- 〈東洋絵画〉(3件)**
- 9 ○列品番号 TA-160
 ○名 称 二菩薩立像(にぼさつりゅうぞう)
 ○時 代 五代~北宋
 ○年代世紀 10c
 ○品 質 麻布着色
 ○員 数 1面
 ○寸 法 等 153.0×126.1 cm
 ○施工会社 榎テラ
 ○修理内容 1. 作品を額装から外す。2. クリーニングを行なう。3. 変形修正を行なう。4. アクリル板付の額を新調し「プレッシャーマウント方式」で作品を固定し、額装する。(平成25年度は4.の途中まで) 1. 作品を額装から外す。2. クリーニングを行なう。3. 変形修正を行なう。4. アクリル板付の額を新調し「プレッシャーマウント方式」で作品を固定し、額装する。(平成25年度は4.の途中まで)
- 10 ○列品番号 TA-618
 ○名 称 放猿図(ほうとくず)
 ○指 定 重文
 ○指定年月 昭和34年(1959)6月27日 絵第1455号
 ○時 代 元時代
 ○年代世紀 14c
 ○品 質 絹本墨画
 ○員 数 1幅
 ○寸 法 等 本紙108.0×46.5 cm
 ○施工会社 榎半田九清堂
 ○修理内容 1. 解体し、クリーニングする。2. 旧裏打紙除去、欠損部に補綴をして、新規裏打ち、折れ伏せを行ない、補綴に補綴する。3. 上下裂は新調、一文字・中廻し、軸首は再使用する。4. 太巻添軸、保存箱を新調する。(平成26年度は②の途中まで)
- 11 ○列品番号 TA-642
 ○名 称 雪景山水図(せつけいさんすいず)
 ○指 定 国宝
 ○指定年月 平成19年(2007)6月8日
 ○時 代 南宋~元
 ○年代世紀 13~14c
 ○品 質 紙本墨画淡彩
 ○員 数 1幅
 ○寸 法 等 本紙 縦110.3 横49.7 cm
 ○施工会社 榎岡墨光堂
 ○修理内容 1. 解体する。2. 裏打ち等補綴を施す。3. 表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。4. 桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成25年度は2の途中まで)
- 〈書跡〉(1件)**
- 12 ○列品番号 B-2936
 ○名 称 拾遺抄切(しゅういしょうぎれ)
 ○時 代 平安時代
 ○年代世紀 12c
 ○品 質 彩箋墨書
 ○員 数 1幅
 ○寸 法 等 本紙 縦21.2 横12.7 cm
 ○施工会社 榎岡墨光堂
 ○修理内容 1. 表装を解体する。2. 剥落止めを行なう。3. クリーニングする。4. 旧裏打紙を除去し、新規に裏打ちを行なう。5. 表装裂などを新調し、軸首を再使用し、もとの形に仕立てる。6. 太巻添軸、保存箱を新調する。(平成26年度は4の途中まで)
- 〈東洋書跡〉(1件)**
- 13 ○列品番号 TB-1445
 ○名 称 楷書四字額「丹宸冊府」(かいいしよよじがくたんしんさつぷ)
 ○時 代 清
 ○年代世紀 19c
 ○品 質 紙本墨書
 ○員 数 1面
 ○寸 法 等 本紙 縦56.3 横159.5 cm
 ○施工会社 榎岡墨光堂
 ○修理内容 1. 額装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙料絹の欠損部の補綴を行なう。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 補綴に補綴を施す。6. 縁木を新調し、額装に仕立てる。7. 中性紙保存箱を新調する。(平成25年度は2まで)

《彫刻》(1件)

- 14 ○列品番号 C-1018
 ○名称 独尊磚仏(如来坐像) (どくそんせんぶつ (によらいざどう))
 ○時代 奈良時代
 ○年代世紀 8c
 ○品質 土製
 ○員数 1個
 ○寸法等 高5.0 幅3.5 厚1.8 cm
 ○施工会社 巖山隆司
 ○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所を補彩する。

《金工》(3件)

- 15 ○列品番号 E-14970
 ○名称 白磁合子(はくじごうす)
 ○時代 平安
 ○年代世紀 12c
 ○品質 磁製
 ○員数 1個
 ○寸法等 高4.2 口径8.1 cm
 ○施工会社 榎東都文化財保存研究所
 ○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所を補彩する。(平成25年度は2まで)
- 16 ○列品番号 E-15159
 ○名称 白磁合子蓋(はくじごうすふた)
 ○時代 平安
 ○年代世紀 12c
 ○品質 磁製
 ○員数 1個
 ○寸法等 高1.7 口径8.3 cm
 ○施工会社 巖山隆司
 ○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所を補彩する。(平成25年度は2まで)
- 17 ○列品番号 E-15248
 ○名称 カワラケ(かわらけ)
 ○時代 平安時代~鎌倉時代
 ○年代世紀 11~14c
 ○品質 陶製
 ○員数 1括
 ○寸法等 高1.5~2.5 口径7.0~12.0 cm
 ○施工会社 南武蔵野文化財修復研究所
 ○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所を補彩する。(平成26年度は2まで)

《刀剣》(3件)

- 18 ○列品番号 F-15812
 ○名称 太刀 銘 恒遠(たち めい つねとう)
 ○時代 平安時代
 ○年代世紀 12c
 ○品質 鍛鉄製
 ○員数 1口
 ○寸法等 刃長78.0 反2.6 cm
 ○施工会社 小野博
 ○修理内容 1. 全身を研磨する(下地研ぎ)。2. 白鞘を新規製作する。3. 全身を研磨する(仕上げ研ぎ)。(平成26年度は2まで)
- 19 ○列品番号 F-17053
 ○名称 短刀 銘 備州長船住長義 正平十七年十月日(たんとう めい)
 ○時代 南北朝
 ○年代世紀 正平17年(1362)
 ○品質 鍛鉄製
 ○員数 1口
 ○寸法等 刃長27.6 反り0.2 cm
 ○施工会社 本阿彌道弘
 ○修理内容 1. 全身を研磨する。2. 白鞘を製作する。(平成25年度は1の途中まで)
- 20 ○列品番号 F-20094-2
 ○名称 脇指 銘 筒井越中守藤原輝邦入道紀充 南無妙法蓮華経行年七十七歳(わきざし めい なんぶにすまうかなぼうひょうえのじょうまさつぐ)
 ○時代 江戸
 ○年代世紀 18c
 ○品質 鍛鉄製
 ○員数 1口
 ○寸法等 刃長43.1 反1.0 cm
 ○施工会社 本阿彌道弘
 ○修理内容 1. 全身を研磨する。2. 白鞘の搔き入れを行う。(平成25年度は1の途中まで)

《陶磁》(3件)

- 21 ○列品番号 G-32
 ○名称 銚絵観鴈角皿(さびえかんおうすかくざら) 尾形光琳・深省合作
 ○指定 重要文化財
 ○指定年月 昭和58年(1983)6月6日 工第2487号
 ○時代 江戸
 ○年代世紀 18c

- 品 質 陶製
 ○員 数 1 枚
 ○寸 法 等 高 2.9 径 22.2 cm
 ○施工会社 蘭山隆司
 ○修理内容 1. オーバーペイントを除去し、破損箇所を解体する。2. 破損箇所を接合する。3. 欠失部分がある場合は補填する。4. 接合および補填箇所に最低限の色合わせを行なう。(平成 25 年度は 1 まで)
- 22 ○列品番号 G-214
 ○名 称 瑠璃地金彩唐草文仙蓋瓶(るりじきんさいからくさもんせんさんびん) 四代高橋道八作
 ○時 代 明治
 ○年代世紀 明治 6 年(1873)
 ○品 質 磁製
 ○員 数 2 口の内 1 口
 ○寸 法 等 高 27.9 口径 5.8 底径 8.6 cm
 ○施工会社 陶磁器修復たま工房
 ○修理内容 1. オーバーペイントを除去し、折損箇所を解体する。2. 折損箇所を再接合する。3. 欠失がある場合は補填する。4. 接合および補填箇所に最低限の色合わせを行なう。
- 23 ○列品番号 G-4218
 ○名 称 大燈籠(だいとうろう)
 ○時 代 明治時代
 ○年代世紀 明治 41 年(1908)
 ○品 質 陶製
 ○員 数 1 基
 ○寸 法 等 総高 130.0 基礎高 14.0 竿高 53.0 火袋高 66.0 傘高 47.0 宝珠高 67.0 cm
 ○施工会社 文化財修理工房明舎
 ○修理内容 1. クリーニングする。2. 亀裂を補強する。3. 欠失部に補填、補彩を行なう。4. 補強材を設置する。5. もとの位置にある土台部分をクリーニングする。6. もとの位置でもとの形に組み立て直す。(平成 26 年度は 2 まで、平成 27 年度は 4 まで)

《東洋陶磁》(2 件)

- 24 ○列品番号 TG-959
 ○名 称 青花龍文大皿(せいかりゅうもんおおざら) 景德鎮窯
 ○時 代 明
 ○年代世紀 嘉靖年間(1522~66 年)
 ○品 質 磁製
 ○員 数 1 枚
 ○寸 法 等 高 10.5 径 52.9 高台径 30.9 cm
 ○施工会社 ますぶち工房
 ○修理内容 1. クリーニングする。2. 破損箇所を接合する。3. 破損箇所に欠失がある場合は補填する。4. 接合および補填箇所に最低限の色合わせを行なう。(平成 25 年度は 2 の途中まで)
- 25 ○列品番号 TG-1014
 ○名 称 粉彩牡丹文大瓶(ふんさいぼたんもんたいへい) 景德鎮窯
 ○時 代 清
 ○年代世紀 雍正年間(1723~35 年)
 ○品 質 磁製
 ○員 数 1 口
 ○寸 法 等 高 51.1 口径 12.0 底径 16.2 cm
 ○施工会社 ますぶち工房
 ○修理内容 1. 旧修理のオーバーペイントを除去する。2. 解体する。3. 再接合する。4. 欠失部分へ状況に応じて補填する。5. 接合・補填部分に補彩する。(平成 25 年度は 2 の途中まで)

《漆工》(2 件)

- 26 ○列品番号 H-438
 ○名 称 蓬萊沈金手箱(ほうらいちんきんてばこ)
 ○時 代 室町
 ○年代世紀 16c
 ○品 質 木製漆塗
 ○員 数 1 合
 ○寸 法 等 総高 24.5 幅 34.0 奥行 22.8 cm
 ○施工会社 (株)小西美術工藝社
 ○修理内容 1. クリーニングする。2. 塗膜の浮きをおさえる。3. 亀裂箇所に補填、補彩を施す。(平成 25 年度は 2 の途中まで)
- 27 ○列品番号 H-3502
 ○名 称 葵牡丹紋竹蔭絵女乗物(あおいぼたんもんたけまきえおんなのもの)
 ○時 代 江戸時代
 ○年代世紀 寛文 4 年 (1664)
 ○品 質 木製漆塗
 ○員 数 1 挺
 ○寸 法 等 駕籠 127.3×90.9×121.2 担ぎ棒 長 454.5cm
 ○施工会社 (株)修護
 ○修理内容 1. (絵画) 絵画面の付着物を除去し、必要に応じて表打ちなどの養生を絵画面に行なう。2. (絵画・漆工) 絵画面および金箔紙を乗物内部から取り外す。3. (絵画) 絵画面の汚れを除去し、剥落止めを行ない、旧裏打ち紙を除去する。また、類似した補修材を作製して欠失箇所に補填し、染色した襖紙を用いて肌裏打ちを行なう。4. (絵画) 増裏打ちを行なった後、補填箇所に補彩を施す。5. (漆工) 乗物の内外装、担ぎ棒の補修を行なう(必要に応じて金物、部材を取り外す)。6. (絵画) 乗物内部に 3 層程度の下貼をして下地を整え、補修を終えた絵画面および金箔紙を原状通りに貼り戻す。7. (漆工) 染織品の破損箇所を修繕し、金物および木部材を原状通りに取り付ける。8. (絵画・漆工) 木綿製のカバーを作製し、取り付ける。(平成 26 年度は絵画が 3 の一部終了まで、漆工は 5 の途中まで)

《東洋漆工》(1 件)

- 28 ○列品番号 TH-439
 ○名 称 朱漆化粧筆筒(しゅうろくしけしょうだんす)
 ○時 代 朝鮮

○年代世紀 19～20c
○品 質 木製漆塗
○寸 法 等 高 27.0 幅 23.0 奥行 32.5 cm
○員 数 1 基
○施工会社 ㈱小西美術工芸社
○修理内容

1. クリーニングする。2. 脚部の欠失部分を木材で復元し、色合わせをする。3. 虫損、亀裂箇所を補填、補強し、塗膜の浮きをおさえる。4. 外れた部材を元に戻す。5. 保存箱、包装を新調する。(平成 25 年度は 3 まで)

《染織》(12 件)

- 29 ○列品番号 I-4072
○名 称 黒紅地熨斗藤模様繡箔小袖(くろべにじのしふじもよう)
○指 定 重文
○指定年月 昭和 57 年(1982)6 月 5 日 工第 2480 号
○時 代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品 質 絹製、綸子地に刺繍、絞り、摺箔
○員 数 1 領
○寸 法 等 丈 140.8 衿 64.0 cm
○施工会社 ㈱松鶴堂
○修理内容 1. もとの縫い目に留意しながら解体し、表裂と裏裂を分ける。2. 糸印や穴をつまんだ部分など、後世の使用で追加された部分については、作品に支障がない範囲で除去する。3. 白地の部分に当てる似寄りの綸子地を新調し、横切れの箇所^{へら}に地模様を合わせながら裏から綸子をあてて縫い留める。4. 肩山の切れなど、黒紅地の部分の横切れについては、似寄りの綸子地を黒紅地に染めた後、裏から当てて縫い留める。5. 裏地を新調し、中綿を入れて、小袖の状態に戻す。(平成 26 年度は 2 の途中まで。平成 27 年度は 4 の途中まで)
- 30 ○列品番号 未登録品
○名 称 上代裂(ガラス多重挟み)(じょうだいぎれ(がらすたじゅうばさみ))
○時 代 奈良時代 他
○年代世紀 8c 他
○品 質 絹製、刺繍 他
○員 数 1 括
○寸 法 等 14.5×10.5 cm 他
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れなどを除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする(検討を要する)。5. マット装にする。
- 31 ○列品番号 I-337-178
○名 称 黄地亀甲紫花葉文錦幡足垂端飾(きじきっこうつなぎかようもんにしきばんそくすいたんかざり)
○時 代 奈良時代
○年代世紀 757 年
○品 質 絹・紙(芯)製
○員 数 1 枚
○寸 法 等 13.1×11.5 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-179 とともに低加圧式マット装にする。
- 32 ○列品番号 I-337-179
○名 称 緑地唐花獅子文錦幡足垂端飾(みどりじからはなしもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時 代 奈良時代
○年代世紀 757 年
○品 質 絹・紙(芯)製
○員 数 1 枚
○寸 法 等 12.4×11.7 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-178 とともに低加圧式マット装にする。
- 33 ○列品番号 I-337-180
○名 称 淡紅地花鳥文錦幡足垂端飾(うすべにじかちようもんにしきばんそくすいたんかざり)
○時 代 奈良時代
○年代世紀 757 年
○品 質 絹・紙(芯)製
○員 数 1 枚
○寸 法 等 12.3×11.6 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-181 とともに低加圧式マット装にする。
- 34 ○列品番号 I-337-181
○名 称 黄緑地鹿雲文錦幡足垂端飾(きみどりじしかうんもんにしきばんそくすいたんかざり)
○時 代 奈良時代
○年代世紀 757 年
○品 質 絹・紙(芯)製
○員 数 1 枚
○寸 法 等 13.0×11.8 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-180 とともに低加圧式マット装にする。
- 35 ○列品番号 I-337-182
○名 称 紫地唐花文錦幡足垂端飾(むらさきじからはなもんにしきばんそくすいたんかざり)
○時 代 奈良時代
○年代世紀 757 年
○品 質 絹・紙(芯)製
○員 数 1 枚

- 寸法等 11.5×10.8 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-183 とともに低加圧式マット装にする。
- 36 ○列品番号 I-337-183
○名称 黄地亀甲繫花葉文錦幡足垂端飾 (きじきっこうつなぎかようもんにしきばんそくすいたんかざり)
○時代 奈良時代
○年代世紀 757年
○品質 絹・紙(芯)製
○員数 1枚
○寸法等 13.5×12.0 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-182 とともに低加圧式マット装にする。
- 37 ○列品番号 I-337-192
○名称 紫地唐花獅子文錦幡足垂端飾 (むらさきじからはなししもんにしきばんそくすいたんかざり)
○時代 奈良時代
○年代世紀 757年
○品質 絹・紙(芯)製
○員数 1枚
○寸法等 13.3×11.2 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-193 とともに低加圧式マット装にする。
- 38 ○列品番号 I-337-193
○名称 緑地錦幡足垂端飾 (みどりじにしきばんそくすいたんかざり)
○時代 奈良時代
○年代世紀 757年
○品質 絹・和紙製
○員数 1枚
○寸法等 12.3×11.0 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-192 とともに低加圧式マット装にする。
- 39 ○列品番号 I-337-194
○名称 長斑花文錦幡足垂端飾 (ちょうはんかもんにしきばんそくすいたんかざり)
○時代 奈良時代
○年代世紀 757年
○品質 絹・紙(芯)製
○員数 1枚
○寸法等 13.0×10.5.5 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-195 とともに低加圧式マット装にする。
- 40 ○列品番号 I-337-195
○名称 黄緑地唐花文錦幡足垂端飾 (きみどりじからはなもんにしきばんそくすいたんかざり)
○時代 奈良時代
○年代世紀 757年
○品質 絹・紙(芯)製
○員数 1枚
○寸法等 13.1×11.8 cm
○施工会社 澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容 1. ガラスを外して裂を取り出す。2. 汚れ等を除去する。3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。4. I-337-194 とともに低加圧式マット装にする。

〈東洋染織〉(1件)

- 41 ○列品番号 TI-418-3
○名称 コート 金茶色縹子地花唐草文様刺繍(きんちやいろしゆすじはなからくさもんようししゅう)
○年代世紀 19c
○品質 絹、襦子地に絹糸と金銀モール糸で刺繍
○員数 1着
○寸法等 丈88.5 肩幅34.5 袖長49.5 cm
○施工会社 株式会社 榎染技連
○修理内容 1. 部分的に解体する。2. 損傷箇所にも補修裂をあてて縫いとめる。3. 可能な箇所についてシミ抜きをする。4. 刺繍のほつれをとめる。5. しわをのばす。6. 保存箱、包装(羽二重)、布団を新調する。(平成25年度は1まで)

〈考古〉(31件)

- 42 ○列品番号 J-20
○名称 須恵器 ハソウ(すえき はそう)
○時代 古墳
○年代世紀 6c
○品質 陶製
○員数 1個
○寸法等 高21.0 口径17.8 cm
○施工会社 株式会社 榎東都文化財保存研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所にも補彩する。(平成25年度は2まで)
- 43 ○列品番号 J-21
○名称 須恵器 ハソウ(すえき はそう)
○時代 古墳
○年代世紀 6c
○品質 陶製

- 員数 1個
○寸法等 高14.0 口径12.1 cm
○施工会社 榎東都文化財保存研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 44 ○列品番号 J-38
○名称 須恵器 有蓋脚付長頸壺(すえき ゆうがいきやくつきちようけいこ)
○時代 古墳
○年代世紀 6c
○品質 陶製
○員数 1個
○寸法等 高28.5 胴径15.0 cm
○施工会社 藤山隆司
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 45 ○列品番号 J-43
○名称 須恵器 脚付長頸壺(すえき きやくつきちようけいこ)
○時代 古墳
○年代世紀 6c
○品質 陶製
○員数 1個
○寸法等 高25.9 胴径14.0 口径8.8 cm
○施工会社 尙武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 46 ○列品番号 J-57
○名称 須恵器 平瓶(すえき ひらべ)
○時代 古墳
○年代世紀 6c
○品質 陶製
○員数 1個
○寸法等 高13.1 長15.0 口径5.7 cm
○施工会社 尙武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 47 ○列品番号 J-598
○名称 刀子(とうず)
○時代 古墳時代
○年代世紀 6c
○品質 鉄製
○員数 1本
○寸法等 長10.7 幅1.3 cm
○施工会社 榎東都文化財保存研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 脱塩処理する。3. 強化する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。
- 48 ○列品番号 J-1521
○名称 壺形土器(つぼがたどき)
○時代 縄文時代(晩期)
○年代世紀 前1000~前400年
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高9.6 胴部最大径7.2 cm
○施工会社 尙武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。
- 49 ○列品番号 J-1540
○名称 深鉢形土器(ふかばちがたどき)
○時代 縄文 後期
○年代世紀 前2000~前1000年
○品質 土製
○員数 1本
○寸法等 高21.0 口径13.0 cm
○施工会社 尙武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 50 ○列品番号 J-1991
○名称 壺形土器(つぼがたどき)
○時代 弥生 後期
○年代世紀 1~3c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高17.7 口径11.0 cm
○施工会社 尙武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 51 ○列品番号 J-4136
○名称 鐔(つば)
○時代 古墳
○年代世紀 6c
○品質 鉄製
○員数 2個

- 施工会社 有武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 脱塩処理する。3. 強化する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 52 ○列品番号 J-7663
○名称 須恵器 脚付壺 (すえき きやくつきわん)
○時代 古墳時代
○年代世紀 6c
○品質 陶製
○員数 1個
○寸法等 高11.7 口径12.4 脚径11.2cm
○施工会社 有武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。
- 53 ○列品番号 J-7672
○名称 土師器 長頸壺 (はじき ちょうけいこ)
○時代 古墳時代
○年代世紀 6c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高21.3 口径10.7 胴径15.0cm
○施工会社 有武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 旧修理材料の余剰分を除去する。3. 欠失部を補填、復元する。4. 補填箇所に補彩する。
- 54 ○列品番号 J-8054
○名称 内耳土器 (ないじどき)
○年代世紀 14~16c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高10.0 口径17.5×25.0cm
○施工会社 株式会社文化財保存研究所
○修理内容 1. 解体する。2. 付着物を保護しながらクリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 55 ○列品番号 J-8057
○名称 鉢形土器 (はちがたどき)
○時代 オホーツク文化併行期
○年代世紀 6~8c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高12.5 口径11.0cm
○施工会社 株式会社文化財保存研究所
○修理内容 1. 解体する。2. 付着物を保護しながらクリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 56 ○列品番号 J-12002
○名称 注口付壺形土器 (ちゅうこうつきつぼがたどき)
○時代 縄文後期
○年代世紀 前2000~前1000年
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高24.0cm
○施工会社 株式会社文化財保存研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 57 ○列品番号 J-22925
○名称 壺形土器 (つぼがたどき)
○時代 縄文時代中期
○年代世紀 前3000~前2000年
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高11.6 口径9.6 底径7.2cm
○施工会社 有武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。
- 58 ○列品番号 J-22931
○名称 触角式柄頭銅剣 (しょっかくしきつかがしらどうけん)
○時代 弥生 中期
○年代世紀 前2~前1c
○品質 青銅製
○員数 1本
○寸法等 長48.6 柄頭幅8.6cm
○施工会社 飛鳥工房
○修理内容 1. クリーニングする。2. 強化する。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成25年度は2まで)
- 59 ○列品番号 J-22943
○名称 壺形土器 (つぼがたどき)
○時代 弥生時代中期
○年代世紀 前200~前100年
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高33.6 底径10.1cm
○施工会社 有武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。

- 60 ○列品番号 J-23059
○名称 甕 (かめ)
○時代 弥生時代後期
○年代世紀 1～3 c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高19.2 口径5.3 cm
○施工会社 有武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。
- 61 ○列品番号 J-34374
○名称 河童形土偶 (かっぱがけどき)
○時代 縄文時代中期
○年代世紀 前3000～前2000年
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高30.0 幅19.1 厚8.7 cm
○施工会社 有武蔵野文化財修復研究所
○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。(平成26年度は2まで)
- 62 ○列品番号 J-36636-4
○名称 土師器 小型埴 (はじき こがたかん)
○時代 古墳時代
○年代世紀 4～5 c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高7.4 口径8.0 胴径7.3 cm
○施工会社 株東都文化財保存研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 欠失部を補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。
- 63 ○列品番号 J-36636-9
○名称 土師器 甗 (はじき こしき)
○時代 古墳時代
○年代世紀 4～5 c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高12.0 口径18.0 cm
○施工会社 株東都文化財保存研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 亀裂の補填とともに表面を強化する。3. 欠失部を補填、復元する。4. 補填箇所に補彩する。
- 64 ○列品番号 J-36636-18
○名称 土師器 埴 (はじき かん)
○時代 古墳時代
○年代世紀 4～5 c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高11.0 口径7.0 胴径11.0 底径5.0 cm
○施工会社 株東都文化財保存研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 表面を強化する。3. 欠失部を補填、復元する。4. 補填箇所に補彩する。
- 65 ○列品番号 J-36636-19
○名称 土師器 甗 (はじき こしき)
○時代 古墳時代
○年代世紀 4～5 c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高10.5 口径15.0 底径5.0 cm
○施工会社 株東都文化財保存研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 欠失部を補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。
- 66 ○列品番号 J-36636-20
○名称 土師器 甗 (はじき こしき)
○時代 古墳時代
○年代世紀 4～5 c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高13.9 口径15.3 胴径15.7 底径5.5 cm
○施工会社 株東都文化財保存研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 亀裂の補填とともに表面を強化する。3. 欠失部を補填、復元する。4. 補填箇所に補彩する。
- 67 ○列品番号 J-36636-32
○名称 土師器 埴 (はじき かん)
○時代 古墳時代
○年代世紀 4～5 c
○品質 土製
○員数 1個
○寸法等 高5.4 口径7.8 胴径9.6 cm
○施工会社 株東都文化財保存研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 欠失部を補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。

- 68 ○列品番号 J-36788
 ○名称 鉄戈 (てつか)
 ○時代 弥生 中期
 ○年代世紀 前2～前1c
 ○品質 鉄製
 ○員数 1本
 ○寸法等 長23.6 胡幅6.5 cm
 ○施工会社 (有)武蔵野文化財修復研究所
 ○修理内容 1. クリーニングする。2. 脱塩処理する。3. 強化する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所ニ補彩する。(平成25年度は2まで)
- 69 ○列品番号 J-37538
 ○名称 深鉢形土器 (ふかばちがたどき)
 ○時代 縄文時代中期
 ○年代世紀 前3000～前2000年
 ○品質 土製
 ○員数 1個
 ○寸法等 高25.5 cm
 ○施工会社 (有)武蔵野文化財修復研究所
 ○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所ニ補彩する。(平成26年度は2まで)
- 70 ○列品番号 J-38864-4
 ○名称 土師器 高坏形土器 (はじき たかつきがたどき)
 ○時代 古墳時代
 ○年代世紀 3～4c
 ○品質 土製
 ○員数 1個
 ○寸法等 高9.0～12.0 口径11.5～22.5 cm
 ○施工会社 (株)東都文化財保存研究所
 ○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所ニ補彩する。
- 71 ○列品番号 J-38868
 ○名称 土師器 壺形土器 (はじき つぼがたどき)
 ○時代 古墳時代
 ○年代世紀 4c
 ○品質 土製
 ○員数 1本
 ○寸法等 高13.5 口径9.5 cm
 ○施工会社 (株)東都文化財保存研究所
 ○修理内容 1. 解体する。2. クリーニングする。3. 接合する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所ニ補彩する。
- 72 ○列品番号 J-39374
 ○名称 漆塗籠棺残片 (うるしぬりかごかんざんぺん)
 ○時代 古墳(飛鳥)時代
 ○年代世紀 7c
 ○品質 籠製漆塗
 ○員数 1括
 ○寸法等 厚1、棧部約1.5 cm
 ○施工会社 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
 ○修理内容 1. 構造調査、成分分析を行なう。2. 樹脂含浸・強化・乾燥を行なう。3. 表面を強化する。(平成26年度は①の途中まで、平成27年度は②の途中まで)
- 〔東洋考古〕(4件)**
- 73 ○列品番号 TJ-997
 ○名称 鉄鉞戟(てつえつげき)
 ○時代 漢
 ○年代世紀 前2～後3c
 ○品質 鉄鍛造
 ○員数 1本
 ○寸法等 長43.3 幅15.3 cm
 ○施工会社 (株)東都文化財保存研究所
 ○修理内容 1. クリーニングする。2. 脱塩処理する。3. 強化する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所ニ補彩する。(平成25年度は2まで)
- 74 ○列品番号 TJ-998
 ○名称 鉄鉞戟(てつえつげき)
 ○時代 漢
 ○年代世紀 前2～後3c
 ○品質 鉄鍛造
 ○員数 1本
 ○寸法等 長43.3 幅15.3 cm
 ○施工会社 (株)東都文化財保存研究所
 ○修理内容 1. クリーニングする。2. 脱塩処理する。3. 強化する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所ニ補彩する。(平成25年度は2まで)
- 75 ○列品番号 TJ-2209
 ○名称 鉄鉞戟(てつえつげき)
 ○時代 漢
 ○年代世紀 前2～後3c
 ○品質 鉄鍛造
 ○員数 1本
 ○寸法等 長43.3 幅15.3 cm
 ○施工会社 (株)東都文化財保存研究所
 ○修理内容 1. クリーニングする。2. 脱塩処理する。3. 強化する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所ニ補彩する。(平成25年度は2まで)

- 76 ○列品番号 TJ-2224
○名称 鉄剣(てっけん)
○時代 前漢
○年代世紀 前2~前1c
○品質 鉄製、格：青銅製
○員数 1本
○寸法等 長106.9 幅4.8 cm
○施工会社 株式会社 株東都文化財保存研究所
○修理内容 1. クリーニングする。2. 脱塩処理する。3. 強化する。4. 補填、復元する。5. 補填箇所へ補彩する。(平成25年度は2まで)

〈館資〉(1件)

- 77 ○列品番号 館資 671
○名称 重要雑録(じゅうようざつろく)
○時代 明治
○年代世紀 明治15年(1882)
○品質 紙本墨書・インク・鉛筆
○員数 1冊
○施工会社 ㈱東京修復保存センター
○修理内容 1. 冊子本を解装する。2. 各頁ごとに折れや皺をのます。3. 劣化が著しい箇所には両面より典具帖紙による補強を行う。4. 欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。5. 表紙は新調し、題簽、ラベルなどは再用する。6. 封筒や付箋は、補紙等を施し、元の場所に貼り付ける。7. 冊子本に仕立てる。

〈和書〉(1件)

- 78 ○列品番号 QA-4216
○名称 近江国図(おうみのくにず)
○時代 江戸
○年代世紀 19c
○品質 紙本着色、折仕立
○員数 1鋪
○寸法等 92.8×145.1 cm
○施工会社 株墨仁堂
○修理内容 1. 本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所へ補紙を施す。3. 美濃紙にて裏打ちを行う。4. 表紙は補修して再使用する。5. もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

【京都国立博物館】(11件)

〈絵画〉(4件)

- 1 ○名称 病草紙(やまいのそうし)
○指定 国宝
○時代 平安時代(12世紀)
○品質 紙本着色
○員数 10面
○寸法等 縦25.9~26.0cm 横25.3~49.3cm
○施工会社 株式会社 岡墨光堂
○修理内容 1 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2 台紙貼り装の解体を行う。3 膠水溶液にて絵具層の剥落止めを行う。4 浄化水にて本紙の汚れを除去する。5 布海苔を用い、養生紙にて表打ちを行う。6 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。7 調査に基づいて補修紙を作成し、料紙欠失箇所へ補紙を行う。8 染薄美濃紙にて肌裏打ちを行い、表打ちの養生紙を除去する。9 軸首を5巻分新調する。10 美濃紙にて増裏打ちを行う。11 折れ伏せを入れ、折れを直す。12 美濃紙にて中裏打ちを行う。13 混合紙にて総裏打ちを行い、仮張りし乾燥させる。14 軸首を4巻分新調し、表紙裂、見返し紙を新調する。15 補紙の箇所に補彩を行う。16 隔及び軸巻紙を本紙料紙に合わせて作成し、本紙同様の裏打ちを施す。17 表紙裂及び見返しは、肌裏を打ち、合わせて表紙の形に仕立てる。18 本紙に、隔、軸巻紙、表紙を継ぎ、新調した軸首、中軸、紐等を取り付け巻装に仕上げる。19 桐製太巻添軸、桐製屋郎箱を新調し、本紙を納入する。(24年度より4ヶ年事業)
- 2 ○名称 地藏菩薩像(じぞうぼさつぞう)
○時代 南北朝時代(14世紀)
○品質 絹本着色
○員数 1幅
○寸法等 本紙縦105.4cm 本紙横56.6cm 総縦186.5cm 総横74.0cm
○施工会社 株式会社 松鶴堂
○修理内容 1 損傷状態について調査・撮影記録を行う。2 顔料剥落箇所へ剥落止めを行う。3 表装を解装し、表装裂と本紙を外す。4 クリーニングを行う。5 折伏・旧肌裏紙の除去を行う。6 旧補紙を除去する。7 本紙欠失箇所へ補紙を施す。8 薄美濃紙にて本紙に肌裏打ちを施す。9 美濃紙にて増裏打ちを施す。10 本紙の折損脆弱箇所へ折伏せによる補強補修を施す。11 美濃紙にて2度目の増裏打ちを施す。12 補紙箇所に補彩を行う。13 表装裂地については相応しいものに新調する。14 表装裂地に肌裏打ち、増裏打ちを施し、一時仮張り乾燥させる。15 本紙・表装裂地を仮張りから外し、付廻しを行う。16 美濃紙にて中裏打ち、宇陀紙で総裏打ちを施し、上巻絹を施す。17 仮張りを行い、十分に乾燥させる。18 紐・軸木(上下一組)は新調、軸首は清浄にし再用し、軸装に仕立てる。19 包裂・桐太軸巻(木口詰)・桐屋郎箱・紙帙を新調する。20 完成後の写真撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。(24年度より3ヶ年事業)
- 3 ○名称 紙本淡彩耕作図(しほんたんさいこうさくず)
○指定 重要文化財
○時代 江戸時代(17世紀)
○品質 紙本淡彩
○員数 6曲1双
○寸法等 本紙(各)縦151.0cm 横347.0cm
○施工会社 株式会社 岡墨光堂
○修理内容 1 修理前の調査・写真撮影を行う。2 金具、襲木を取り外し、本紙を下地骨から取り外す。3 クリーニングを行う。4 絵具の剥落止めを行う。5 肌裏紙を含む旧裏打ち紙を除去する。6 本紙欠失箇所へ補修紙を補填する。7 肌裏打ちを行う。8 増裏打ちを行う。9 新たに補填した補修紙に地色補彩を施す。10 新調した下地骨に充分な下貼りを行う。11 本紙を屏風下地に張り付ける。12 大縁、小縁の裂を本紙の周囲に取り付ける。13 屏風裏面に雀型唐紙を貼る。14 新調した襲木を取り付け、隅金具、飾金具、散鉾を取り付ける。15 修理後の調査・写真撮影を行う。16 報告書を作成する。(26年度より3ヶ年事業)
- 4 ○名称 竹石図(ちくせきず)

- 時代 中国・明時代 (16世紀)
 ○品質 絹本墨画
 ○員数 1幅
 ○寸法等 本紙 縦 143.3cm 横 80.9cm
 ○施工会社 株式会社 光影堂
 ○修理内容 1 本紙の状態確認を行い、写真撮影をする。 2 掛軸装を解体し、本紙の肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。 3 濾過水を用いて本紙のクリーニングを行う。 4 本紙の肌裏紙を除去する。 5 本紙欠失箇所に電子線劣化絹で補絹を施す。 6 本紙の色調に合わせて、新たに肌裏紙を施す。 7 増裏打を行う。 8 表装裂地を新調し、肌裏を打つ。 9 折れが発生している箇所に折れ伏せを施す。 10 本紙と表装裂とを付け廻しする。 11 中裏打をする。 12 総裏打をする。 13 上下軸などを新調し、元のような袋表具装とする。 14 太巻添軸、屋郎箱を新調して、本軸を取める。 15 写真撮影をして、修理報告書を作成する。

<金工> (1件)

- 5 ○名称 刀 無銘 (名物島津正宗) (かたな むめい (めいぶつしまづまさむね))
 ○時代 鎌倉時代 (13~14世紀)
 ○品質 鉄・鍛造
 ○員数 1口
 ○寸法等 刃長 68.7cm
 ○施工会社 本阿彌道弘
 ○修理内容 1 刀身の状況に応じて、研磨作業の方針を定める。 2 白鞘より解体し、全体を洗浄する。 3 名倉砥で小さな錆を除去し、細名倉砥で、砥石目を一層細かくする。 4 内曇砥 (刃砥・地砥) を用い、細名倉砥の砥石目を完全に除去し、地肌と刃文の動きを整え、下地研磨を終える。 5 白鞘作成を鞘師に依頼する。 6 刀工の独自色が発揮される地肌を現すために、柔らかめの地艶砥から始め、順次堅めの地艶砥を用いる。 7 刃艶砥を用い、内曇砥の砥石目を除去する。本修理の要である「金肌拭い」を施す。 8 この間、刃文部が黒くなるので刃艶砥も用いて、刃文と地肌を整える。錆地も同様に整える。 9 帽子部分のなるめ作業を行う。竹の定規とへらを用い、厚めの刃艶砥で横手線を決める。帽子部分を、なるめ台に載せた薄い刃艶砥でなるめ、帽子部分を完成させる。 10 棟と錆地部分は、磨きへらと磨き棒を用いて、磨き仕上げを行う。 11 以上の作業を終えた後、全体の様子を確認し、研磨作業を終える。 12 修理前は全身のカット、修理後は全身・部分 (刃文) ・なかご両面などのカットを撮影する。(昨年度からの繰り越し事業)

<漆工> (1件)

- 6 ○名称 花鳥蒔絵螺鈿書筆筒 (かちょうまきえらでんしよたんず)
 ○時代 桃山時代 (16世紀)
 ○品質 木造、漆塗、蒔絵、螺鈿、金銅製金具
 ○員数 1基
 ○寸法等 幅 60.8cm 奥行 34.7cm 高 43.3cm
 ○施工会社 北村繁
 ○修理内容 1 修理前の写真撮影を行う。 2 作業中に剥落の恐れがある螺鈿や漆塗膜を和紙片で養生する。 3 クリーニングを行う。 4 剥離した螺鈿や漆塗膜を圧着する。 5 漆塗の表面を漆固めで強化する。 6 螺鈿の欠失部の周囲は際錆を施す。 7 漆塗膜の欠失部は刻字や漆下地で補う。 8 木地の欠失部は刻字漆、檜材の埋め木、漆下地で補う。 9 前扉の本体側蝶番金具を、所定の位置に打ち込んで扉を固定する。 10 修理後の写真撮影を行う。(25年度より3ヶ年事業)

<染織> (3件)

- 7 ○名称 紺地鴛鴦金欄 (こんじえんおうきんらん)
 ○時代 中国・明時代 (17世紀)
 ○品質 紺地
 ○員数 1裂
 ○寸法等 長 9.4cm 幅 11.8cm
 ○施工会社 株式会社 染技連
 ○修理内容 1 作品および旧畳紙・名称小札を台紙および表紙から安全に取り外す。 2 作品に間接的に湿気を与え、クリーニングを行うとともに、裁断部のほつれを整える。 3 中性紙製の新しい台紙を作成し、旧畳紙・名称小札もともに収納し、タイベック性の袋に納める。
- 8 ○名称 浅黄小蔓金欄 (あさぎこづるきんらん)
 ○時代 中国・元~明時代 (14~15世紀)
 ○品質 水浅葱地
 ○員数 1裂
 ○寸法等 長 24.5cm 幅 15.2cm
 ○施工会社 株式会社 染技連
 ○修理内容 1 作品および旧畳紙・名称小札を台紙および表紙から安全に取り外す。 2 作品に間接的に湿気を与え、クリーニングを行うとともに、裁断部のほつれを整える。 3 中性紙製の新しい台紙を作成し、旧畳紙・名称小札もともに収納し、タイベック性の袋に納める。
- 9 ○名称 紫地角龍金欄 (むらさきじかくりゅうきんらん)
 ○時代 中国・宋時代 (13世紀)
 ○品質 紫地
 ○員数 1裂
 ○寸法等 長 20.4cm 幅 12.7cm
 ○施工会社 株式会社 染技連
 ○修理内容 1 作品および旧畳紙・名称小札を台紙および表紙から安全に取り外す。 2 作品に間接的に湿気を与え、クリーニングを行うとともに、裁断部のほつれを整える。 3 中性紙製の新しい台紙を作成し、旧畳紙・名称小札もともに収納し、タイベック性の袋に納める。

<考古> (1件)

- 10 ○名称 神人歌舞画像鏡 飯岡トツカ古墳出土 (しんじんかぶがざうきょう いのおかとづかこふんしゅつど)
 ○時代 古墳時代 (5世紀)
 ○品質 青銅
 ○員数 1面
 ○寸法等 面径 19.7cm
 ○施工会社 公益財団法人元興寺文化財研究所
 ○修理内容 1 銅鏡の現状についての詳細な観察と記録、写真撮影を行う。 2 修理に先立ってX線写真撮影を行う。 3 銅鏡表面の錆汚染物質の除去を行う。 4 樹脂含浸および樹脂塗布によって鏡体の強化をはかる。 5 防錆処理を行う。 6 欠損部を樹脂で補い彩色する。 7 処理後の銅鏡を保存する箱を新調する。

<歴史資料> (1件)

- 11 ○名称 賀茂御祖神社絵図 (かもみおやじんじゃえず)
 ○時代 室町時代 (15世紀)

- 品質 絹本著色
- 員数 1枚
- 寸法等 本紙 縦214.0cm 横193.0cm 総丈 縦225.0cm 横202.0cm
- 施工会社 株式会社 光影堂
- 修理内容 1 修理前の損傷状態について、調査・記録を行う。 2 脆弱化している本紙の絵具層の養生を行う。 3 表面の汚れを可能な限り除去する。 4 解装に耐えられない可能性のある絵具層にたいし、剥落止を行う。 5 表装裂地と本紙を取り外し、仮裏を打つ。 6 濾過水を噴霧し、本紙の汚れを除去する。 7 絵具層の剥落止を行う。 8 裏打紙を除去する。 9 新規に補修紙を作成し、本紙欠失箇所にも補紙を補填する。 10 新たな肌裏を打つ。 11 増裏打を行う。12 折れ伏せを施し、補強を行う。 13 仮張りを行う。 14 表装裂地を新調し、肌裏を打つ。 15 仮張りされた本紙、および表装裂地を袋表装の形に付け廻しする。 16 中裏を打つ。 17 総裏を打ち、仮張りし十分な乾燥期間を置く。 18 補紙を施した箇所にも補彩を行う。 19 上巻絹、発装、中軸、軸首等を新調し、掛軸装に仕立てる。 20 太巻添軸、桐屋郎箱（一重）を新調し、羽二重の包装に包み納入する。（26年度より・2ヶ年事業）

【奈良国立博物館】(9件)

<絵画>(4件)

- 1 ○名称 絹本著色六字経曼荼羅（けんぼんちゃくしよくろくじきょうまんだら）
○員数 1幅
○時代 鎌倉時代 13世紀
○品質 絹本著色
○寸法等 縦79.5cm 横38.6cm
○施工会社 (株)文化財保存
○修理内容 解体修理。経年による硬化で失われた掛軸装としてのしなやかさの回復を図り、本品觀賞の妨げになっている旧肌裏紙を張り替えるため、表装を解体し裏打紙を全て取り替える。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。過去の修理で施された伏裏絹や補絹は、折りの組織が異なるため、全て除去して、欠失箇所にも本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所にも地色補彩を行う。全面に発生した折れは、それを軽減するために折れ伏せを施す。太巻添軸、表装裂、上下軸、軸首、桐製保存箱、裂貼四方帙は新調する。（継続2か年事業のうちの第2年目）
- 2 ○名称 絹本著色山越阿彌陀図（けんぼんちゃくしよくやまごしあみだず）
○員数 1幅
○時代 鎌倉時代 14世紀
○品質 絹本著色
○寸法等 縦146.9cm 横94.3cm
○施工会社 (株)文化財保存
○修理内容 解体修理。表装を解体し、裏打紙を取り替える本格修理を行う。過去の修理や損傷の状態について詳細な損傷図を作成し、旧補絹の除去及び再使用については修理過程で綿密に検討する。軸装を解体の上、クリーニングを施し、剥落止めを行う。表打ちをし、可能な範囲で旧肌裏紙、旧補絹を除去。新たな補絹、肌裏紙を施し、折れ伏せを行う。軸首は再使用、表装裂、太巻、印籠蓋箱、四方帙は新調。（継続3か年事業のうちの第1年目）
- 3 ○名称 紙本著色泣不動縁起（しほんちゃくしよくなきふどうえんぎ）
○員数 2巻
○時代 室町時代 16世紀
○品質 紙本著色
○寸法等 上巻：縦31.7cm 横504.3cm 下巻：縦31.7cm 横553.0cm
○施工会社 (株)文化財保存
○修理内容 解体修理。料紙の折れや欠失部分、絵具の剥離・剥落に対する処置を行い、表面に付着した汚れ等はクリーニングを施す。卷子装を解体し、現在の裏打紙は適切な厚みと材質のものに全て取り替え、一般的な日本の絵巻の形式に則して一紙毎に総裏打ちまで行った後に継ぐ。表紙は新調するが、見返しは再使用とし、間に隔紙を入れて補強する。軸首は再使用し、八双・太巻添軸・軸巻紙・桐印籠箱・紐を新調する。付属品は旧箱とともに別保存とする。（継続2か年事業のうちの第1年目）
- 4 ○名称 絹本著色東大寺曼荼羅（けんぼんちゃくしよくとうだいじまんだら）
○員数 1幅
○時代 室町時代 16世紀
○品質 絹本著色
○寸法等 縦132.2cm 横71.9cm
○施工会社 (株)文化財保存
○修理内容 解体修理。本紙料絹の欠失や折れなどの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。旧補絹は全て除去して、欠失箇所にも本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所にも地色補彩を行う。全面に発生した折れを軽減するために折れ伏せを施し、新たに裏打ち紙をあてる。表装については、筋付きの二段仏表具に改装し、軸首・軸木・啄木を新調。太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調。（継続2か年事業のうちの第1年目）

<書跡>(1件)

- 5 ○名称 紺紙金字五苦章句経（こんしきんじごくしよくきょう）
○指定 重要美術品
○員数 1巻
○時代 平安時代 12世紀
○品質 紺紙金字
○寸法等 縦26.3cm 横603.2cm
○施工会社 (株)文化財保存
○修理内容 解体修理。欠失箇所は、料紙に合わせ作成した補修紙により補修を行う。表紙は、旧補修紙を除去するが、困難な場合は随時検討する。八双、紐は新調する。本紙の不適切な紙継箇所は、継ぎ直しを行い修整する。また毛羽立ちを押えるため、プレス作業や布海苔を用いた処置を行う。巻末は、本紙への負担を軽減するため軸巻紙を新調する。軸首は再使用、軸木は新調する。保存箱は新調する。

<染織>(1件)

- 6 ○名称 刺繍釈迦如来説法図（ししゅうしゃかによらいせつぼうず）
○指定 国宝
○員数 1面
○時代 奈良または中国・唐時代 8世紀
○品質 絹製 刺繍
○寸法等 縦207.0cm 横157.0cm
○施工会社 (株)文化財保存
○修理内容 解体修理。過去の修理や経年・構造による損傷の軽減を図るため、装丁を解体する。装丁は全て復元新調するが、床に接する下端には薄い浅縁を付ける。額装扉が刺繍面に直接当たらないように、本紙周囲に厚みを付ける。現行の縁まわしをめくり、刺繍面を全てあらわす。縁まわし裂は現行のものを復元した裂を新調する。剥落の危険がある箇所を接着し、剥落止めを施す。旧補修箇所は表から剥落止めし、オリジナル部分との高低差をなくす処置を施しつつ、現行より刺繍になじむ色となるよう調整する。裂けている部分や画面全体の安定のため裏打ち紙を打ち替える。銘文は現行に準じた箇所にも貼り付ける。取り扱い及び収納用の木枠を作製し、木枠ごと収納する箱を作製する。箱は作品を立てて保管する仕様とする。（継続4か年事業のうちの第3年目）

<考古>(3件)

- 7 ○名称 鉄製品 (二塚古墳出土)(てつせいひん【ふたつかこふんしゅつど】)
 鐵銹、鉄銹、挂甲小札、鉄銹まか
 ○員数 一括
 ○時代 古墳時代 6世紀
 ○品質 鉄製
 ○施工会社 (財)元興寺文化財研究所
 ○修理内容 鉄錆の進行による脆弱化を軽減するため、過去修理時に樹脂が塗布されているものは、その古い樹脂を除去する。遺存している有機質を損傷しないよう、錆などのクリーニングを行い、脱塩処理と樹脂含浸処置を施す。その後、接合及び形状復元の為に樹脂補填する。錆化を止めるための樹脂を塗布して仕上げる。(継続2カ年事業のうちの第2年目)
- 8 ○名称 銅碗(靈安寺塔跡出土)(どうわん【りょうあんじとうせきしゅつど】)
 ○員数 2口
 ○時代 平安時代 8~9世紀
 ○品質 鑄銅製
 ○施工会社 (財)元興寺文化財研究所
 ○修理内容 クリーニング、脱塩、樹脂含浸。復元・補強。但し、非常に薄い為通常の樹脂による復元は難しく、一部和紙を用いての復元または補強となる可能性が高い。これに関しては担当者との打ち合わせによって状態を見ながら方針を立てる。中性紙保存箱作成。
- 9 ○名称 双鳳文杏葉・忍冬唐草文鏡板(珠城山古墳出土)(そうほうもんぎょうよう・にんどうからくさもんかがみいた【たまきやまこふんしゅつど】)
 ○員数 1点・1個
 ○品質 鉄地 金銅製
 ○施工会社 (財)元興寺文化財研究所
 ○修理内容 クリーニング、脱塩、樹脂含浸。接合・復元。中性紙保存箱作成。

【九州国立博物館】(23件)

<絵画>(9件)

- 1 ○名称 扇面画帖(七十二図)(せんめんがちょう) 1帖(24年度より継続・3カ年計画)
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 室町時代・15-16世紀
 ○品質 絹本着色、画帖、表紙:白茶地二重蔓牡丹唐草文金襴
 ○寸法等 本紙 縦30.2cm 横51.0cm 高7.0cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟
 ○修理内容 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2. 現装の解体を行う。3. 膠などの接着剤を用い剥落止めを施す。4. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを除去する。5. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。6. 旧肌裏紙および旧補紙を除去する。7. 本紙裏面より料紙欠失箇所へ補紙を行う。8. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。9. 表打の養生紙を除去する。10. 折れ伏せを入れ、折れを直す。11. 和紙を新糊にて重ね厚みを調整し台紙を作成する。12. 和紙を新糊にて重ね厚みを調整しマットを新調する。13. マット表面、台紙裏面貼付の装飾紙(金砂子・切箔散し)、見返しを作成する。14. マットを扇面の形にくり抜き、台紙に本紙を貼り、重ねて接着する。15. 本紙を貼り込んだ台紙を36帖毎に蝶番紙で繋ぎ、天地に縁紙を取り付ける。16. 表紙を新調する。17. 表紙背表紙を、繋いだ台紙に取り付け上下2帖の画帖に仕上げる。18. 下足板付桐野郎箱を新調し、包裂に包み納める。26年度は12~18を施工
- 2 ○名称 紙本墨画 布袋図(しほんぼくが【ほていず】) 1幅(25年度より継続・2ヶ年計画)
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 中国 南宋~元時代・13世紀
 ○品質 紙本墨画
 ○寸法等 (本紙) 縦96.5cm 横41.3cm (表具) 縦191.0cm 軸長62.6cm (外箱) 縦70.0cm 横13.4cm 高さ13.5cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟
 ○修理内容 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。3. 詳細な本紙料紙の損傷(欠失)図面を作成する。この調査結果によっては肌裏を除去する可能性がある(肌裏除去は別途費用が必要)。4. 作業中に移動する恐れのある汚れを出来る限り除去する。5. 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。6. 本紙裏面より欠失箇所へ補紙を行う。7. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。8. 表装裂地は元使いし、肌裏を打つ。9. 美濃紙にて増裏打を行い、仮張りをする。10. 折れ伏せを入れ、折れを直す。11. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。12. 美濃紙にて中裏打を行い、仮張りをする。13. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。14. 補紙の箇所へ補彩をする。15. 中軸、発装、打込銀、啄木等を新調し軸装に仕立てる。なお、表装裂、軸首は元の物を使用することを基本方針とするが、修理の過程で裂の再使用に支障があると判断した時は九州国立博物館支給の裂を使用する。風袋の裏裂は後補のものであり、九州国立博物館支給の裂にて新調する。16. 桐太巻添軸・桐印籠箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。26年度は4~16を施工
- 3 ○名称 両界曼荼羅(りょうかいまんたら) 2幅(25年度より継続・3ヶ年計画)
 ○所蔵者 奈良国立博物館
 ○時代 室町時代・応永4年(1397)
 ○品質 絹本着色
 ○寸法等 縦169.0cm 横134.4cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟
 ○修理内容 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止めを行う。4. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。6. 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。7. 本紙裏面より料紙欠失箇所へ劣化絹にて補紙を行う。8. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。9. 表打の養生紙を除去する。10. 美濃紙にて増裏打を行い、仮張りをする。11. 折れ伏せを入れ、折れを直す。12. 九州国立博物館支給の裂に肌裏打ち、増し裏打ちを行い仮張りをする。13. 本紙と裂を表装の形態に付け廻しを行う。14. 美濃紙にて2層の中裏打を行う。15. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。16. 補紙の箇所へ補彩をする。17. 軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。18. 桐太巻添軸2本、桐印籠箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。26年度は6~8を施工
- 4 ○名称 絹本墨画 羅漢図(けんぼんぼくが【らかんず】) 1幅
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 中国 南宋~元時代・13世紀
 ○品質 絹本墨画
 ○寸法等 縦109.0cm 横51.8cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟
 ○修理内容 1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿り(湿式)にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2. 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3. 経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨線に、免膠水溶液1~2%を用い剥落止めを行う。4. 肌裏及び伏せ裏を除去する。5. 天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。6. 肌裏前もしくは肌裏後に、本紙料紙欠失箇所へ電

子線劣化網を用い、本紙と似寄りの組成で出来た劣化網にて補綴を施す。7. 肌裏打ち後、染色した美楮紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。8. 表装裂地は全て新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、美楮紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊を半々に混ぜた糊にて本紙と裂との付け直しを行う。9. 本紙と裂の付け直し後、美楮紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、2 段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。10. 補綴箇所に補綴を施す。11. 軸首、座繰、八双、軸木、啄木等を新調し掛軸装に仕立てる。12. 桐太巻添軸を新調し、太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、中箱は桐屋野郎箱、外箱は黒漆塗桐台差し箱を新調し納める。

- 5 ○名称 紙本著色 北野天神縁起絵巻（しほんちやくしよくきたのてんじんえんぎえまき） 1巻
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 南北朝時代・14世紀
 ○品質 紙本著色
 ○寸法等 縦 31.2 cm 横 983.0 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装演師連盟
 ○修理内容

1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、継を外し、卷子装を解体する。2. 筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3. 墨線の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある墨線に対して、兎膠水溶液 1~2%を用い、剥落止めを行う。4. 本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5. 経年変化による劣化により膠着力が低下している本紙表面の墨線に対して、1~2%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6. レーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7. 虫損による料紙欠失箇所に、裏面より本紙基調色に染色した本紙と同繊維の補綴紙を製作し、補綴を施す。表紙裂も同様に欠失箇所に似寄りの組織の平絹具引き加工を施して補綴を施す。8. 本紙を、薄美濃紙（染色は天然染料にて行う）にて新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9. 表紙裂と見返しを、新糊と布海苔の混合糊にて合わせ、仮張りし十分な乾燥期間をおく。10. 折れ伏せ後、楮と雁皮の混合紙を用いて、新糊と布海苔の混合糊にて総裏打ちを行う。総裏打ち後は仮張りし、十分な乾燥期間をおく。11. 補綴箇所に補綴を施す。12. 各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。軸首は元のものを再使用し、軸木、八双、紐は新調して卷子装に仕立てる。13. 桐太巻添軸を新調し、卷子を太く巻き保存する。新調した包み裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。

- 6 ○名称 紙本墨画 月夜山水図（しほんぼくがげつやさんすいず） 1幅
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 室町~安土桃山時代・16世紀
 ○品質 紙本墨画
 ○寸法等 縦 93.2 cm 横 39.8 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装演師連盟
 ○修理内容

1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿り（湿式）にて肌裏紙以外の旧裏打ち紙を除去する。2. 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3. 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨に兎膠水溶液 1~2%を用い、墨の剥落止めを行う。4. 肌裏除去について、間接的に湿りを与え（湿式）、最小限の湿りにて肌裏紙の除去を行う。5. 本紙欠失箇所に、本紙と同質の繊維による補綴紙を製作し、新糊を用いて補綴を行う。6. 本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、天然染料を用いて染色した美楮紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7. 表装裂地は全て新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美楮紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け直しを行う。8. 本紙と裂の付け直し後、美楮紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、2 段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9. 補綴箇所に補綴を施す。10. 軸首は再使用し、座繰、八双、軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。11. 桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。

- 7 ○名称 紙本著色 物語図 二曲屏風（しほんちやくしよくものがたりずきよくびょうぶ） 2曲1双
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 江戸時代・17世紀
 ○品質 紙本著色
 ○寸法等 縦 122.5 cm 横 271.1 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装演師連盟
 ○修理内容

1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、本紙に負担がかけないように屏風装を解体し、本紙を下地より取り外す。2. 本紙裏面の周囲に補助紙を貼り付け、補助紙にて仮張りを行う。筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3. 絵具層の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、兎膠水溶液 1~3%を用い、剥落止めを行う。4. 本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5. クリーニング後の本紙表面の調査を行い、膠着力が低下している絵具層に対して 1~3%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6. 布海苔水溶液とレーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う乾式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7. 本紙欠失箇所に、裏面より補綴を行う。8. 薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、さらに薄美濃紙を用いて 2 回目の裏打ちを行う。9. 縁裂は、大縁と小縁の金襴に薄美濃紙にて新糊を用い、肌裏打ちを行う。裏面の唐紙を新調し、新糊を用いて肌裏打ちを行う。10. 材杉を用い総納絹隅止めとした下地を 2 枚新調する。新調した下地の両面に石州紙を用いて 6 種 8 層の下貼りを施し、よく乾燥させる。下貼りを施した下地に蝶番を取り付け、屏風装の形に組み立てる。11. 補綴箇所に補綴を施す。12. 屏風装に組み立てられた下地に、補綴の完了した本紙に新糊を用いて上貼りを行う。裏面には裏打ちされた唐紙に新糊を用いて上貼りする。上貼り後、縁裂に新糊を用いて付け直しを行う。13. 飾り金物は再使用し、襲木を新調し、屏風装に仕立てる。14. 新調した包み裂に本紙を包み納める。

- 8 ○名称 絹本著色 釈迦如来像（けんぼんちやくしよくしやくにょらいぞう） 1幅（26年度より2カ年計画）
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 中国 元時代・14世紀
 ○品質 絹本著色
 ○寸法等 本紙 縦 139.0 cm 横 60.9 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装演師連盟
 ○修理内容

1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、掛軸装を解体し、本紙を表装より取り外す。2. 本紙裏面の周囲に補助紙を貼り付け、補助紙にて仮張りを行う。筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3. 絵具層の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、兎膠水溶液 1~3%を用い、剥落止めを行う。4. 旧肌裏紙以外の裏打ち層の除去を最小限の湿りにて行い、仮裏打ちを行う。5. 本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。6. クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している絵具層に対して 1~3%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。7. 料紙欠失箇所を裏彩色層が残留している箇所に対して、表面より本紙基調色に染色した電子線劣化網を用いて補綴を施す。8. 布海苔水溶液とレーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う乾式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。9. 表補綴を施した箇所以外の本紙欠失箇所に、裏面より電子線劣化網にて補綴を行う。10. 染色した薄美濃紙（染色は天然染料にて行う）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、天然染料を用いて染色した美楮紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。11. 表装裂地は、中廻し風帯の金襴と総縁の綾裂に、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美楮紙にて古糊を用いて増裏打ちを施し、仮張りを行う。12. 表装裂地の仮張り後、新糊と古糊の混合糊にて本紙と裂地との付け直しを行う。13. 本紙と裂地の付け直し後、美楮紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、2 段目以降は宇陀紙を用いて、古糊にて総裏打ちを行う。14. 補綴箇所に補綴を施す。15. 軸首は再使用し、座繰、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。16. 桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。26年度は1~9を施工

- 9 ○名称 紙本金地著色 柳に柴垣図 六曲屏風 (左隻) (しほんきんじちやくしよくやなぎにしはがきずろつきよくびょうぶ) 6曲1隻 (26年度より2カ年計画)
 ○所蔵者 梅林寺
 ○時代 江戸時代・17世紀
 ○品質 紙本金地著色
 ○寸法等 本紙 各縦 150.4 cm 横 314.0 cm 折畳時 各縦 168.8 cm 横 57.0 cm 厚 10.8 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟
 ○修理内容 1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、屏風装を解体し、本紙を下地より取り外す。2. 筆や刷毛を用いて、ドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3. 絵具層の調査を行い、今後の作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、膠水溶液1~3%を用い、剥落止めを行う。4. 必要最小限の湿りを用いて、本紙裏面より肌裏紙、及び旧補修紙の除去を行う。5. 本紙欠失箇所に対して、本紙と同質の補修紙を用いて、本紙裏面より補修を行う。6. 楮紙を用い、新糊にて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、胡粉入り楮紙を用い、新糊にて2回目の裏打ちを行う。7. 杉材を用い総納組隅止めとした下地を12枚新調する。8. 両面に8度下貼りを施し、よく乾燥させる。9. 補紙の箇所に補彩を行う。10. 下地に本紙及び縁装を上貼りする。裏には新調の唐紙を貼る。11. 元の金物を洗い調整する。12. 襲木を新調し、屏風装に仕立てる。26年度は1~6を施工。27年は7~12を施工予定。施工会社は未定。修理内容は概要のため、変更の可能性あり。

<書跡> (2件)

- 10 ○名称 栄花物語 (えいがものがたり) 17帖 (24年度より継続・3カ年計画)
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 鎌倉時代・13世紀
 ○品質 紙本墨書
 ○寸法等 (大型本) 縦 30.6 cm 横 24.2 cm (小型本) 縦 16.3 cm 横 14.9 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟
 ○修理内容 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2. 必要に応じて冊子を解体する。3. 本紙の汚れをクリーニングする。4. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5. 本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補修を行う。6. 本紙の折れ・シワを伸ばす。7. 本紙をプレス乾燥する。8. 本紙を元の冊子装に綴じ直す。9. 箱帙を新調して本紙を納め、新調した桐印籠箱2号に納入する。26年度は冊子番号5-10を施工
- 11 ○名称 孤峯覺明墨蹟 与保樹大姉法語 (こほうかくみょうぼくせき よほじゅだいしほうご) 1幅 (25年度より継続・2カ年計画)
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 南北朝時代 14世紀
 ○品質 紙本墨書
 ○寸法等 本紙 縦 31.2 cm 横 87.3 cm 表装 縦 120.0 cm 横 89.0 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟
 ○修理内容 1. 写真撮影及び赤外線調査を行い、本紙の状態を調査する。各紙ごとに紙質調査を行う。2. 軸装を解体後、本紙の旧裏打紙を除去し、仮裏打ちによるクリーニングを行う。3. 必要に応じて、本紙欠失箇所に、本紙料紙に類似した補修紙を用いて補修を行う。4. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。5. 元の表装裂地に補修調整を行い、肌裏を打つ。6. 美洒紙にて増裏打を行い、仮張りをする。7. 折れ伏せを入れ、折れを直す。8. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをやる。9. 美洒紙にて中裏打を行い、仮張りをする。10. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。11. 補修箇所に補彩をやる。12. 軸首、打込鏝は再用し、中軸、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。13. 桐太巻添軸、桐印籠箱を新調し、羽二重の包製に包み納入する。26年度は6~13を施工

<金工> (1件)

- 12 ○名称 朱漆花鳥草樹螺鈿二層 (しゆうるしかちようそうじゅらでんにそう) 1基 (25年度より継続・2カ年計画)
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 朝鮮 近代・20世紀前半
 ○品質 木製漆塗
 ○寸法等 幅 46.1 cm 横 91.3 cm 高 150.5 cm
 ○施工会社 目白漆芸文化財研究所
 ○修理内容 1. 修理前撮影・記録。2. クリーニング・剥落止め。3. 内貼り紙の除去。4. 偶金具の取り外し。構造安定等の作業に必要な箇所のみ取り外しを行う。5. 構造安定処置。充填接着用に調合した漆を溶剤で希釈して流し入れる。6. 塗膜接着。亀裂部より塗膜接着用に調合した漆を溶剤で希釈し、塗膜下に流し入れ、溶剤が揮発し漆が締まった状態で圧着固定する。7. 螺鈿接着。膠で圧着固定をやる。8. 刻字。木地の割れや木地構造接合部の隙間には刻字を充填する。打損等による欠損部は刻字で形態を復元する。9. 下地付け。10. 隙鏝。刻字の肌面を整え、復元箇所と漆塗膜との段差部に極少量の下地を付ける。11. 支え棒制作。下段扉の開閉を改善するため、筆筒内に上段筆筒の重量を受けるための取り外し可能な支え棒を制作する。12. 台の調整。筆筒と台の間に薄板を入れ安定させる。13. 受け台制作。筆筒の重量を支えるための受け台座を作成する。14. 偶金具、取付け。15. 内貼り新補。内張りの紙は九州国立博物館支給の紙を用いる。16. 修理後撮影。17. 報告書作成。26年度は7の70%と8~17を施工

<陶磁> (1件)

- 13 ○名称 白磁薫炉 (はくじくろ) 1点
 ○所蔵者 福岡県立アジア文化交流センター
 ○時代 中国 隋-唐時代初期・7世紀
 ○品質 磁器
 ○寸法等 口縁 5.7 cm 高 18.5 cm 底径 17.5 cm
 ○施工会社 芸匠
 ○修理内容 1. 資料の現状を把握し、接合面を確認しながら接着剤による接合・復元部分を解体し、クリーニングを行う。2. エポキシ系接着剤 (ハイスーパー5) で接合後隙間をエポキシ樹脂 (アラルダイト XNR-6504: 主剤、XNH-6504: 硬化剤)、パラロイド B72 (溶剤アセトン) とマイクロバレーン及び顔料を混合したものを使用して充填成形する。3. 脆弱部分にパラロイド B72 (アセトン希釈: 5%程度) を塗布し、樹脂による強化を行う。4. 復元部分には、エポキシ樹脂 (アラルダイト XNR-6504: 主剤、XNH-6504: 硬化剤)、パラロイド B72 (溶剤アセトン) とマイクロバレーン及び顔料を混合した物を使用して充填復元を行う。5. 修理部分に、アクリル絵具で補彩色を施す。

<染織> (5件)

- 14 ○名称 ショール 縞格子文様金糸織織 (しよーる しまこうしもんようきんしもんおり) 1枚 (24年度より継続・3カ年計画)
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 20世紀前半
 ○品質 絹、撚銀糸、平織、銀糸浮織織
 ○寸法等 幅 56.5 cm 長さ 204.0 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟
 ○修理内容 1. 写真撮影を行い、生地、縁、房の状態を調査する。2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をやる。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をやる。4. 旧補修糸の補修効果や性質などの検討をやる。生地に負荷をかけている場合は生地優先。5. 生地感や損傷状況を観察すると全体的な補修裂あても考えられるが、今回は裏面も考慮して可能な限り最小限の部分補修とする。生地の欠失箇所の裏面から部分的、あるいは

は、帯状に補修裂(薄地平絹)をあてて補修糸(極細絹糸)で縫い綴じ、端口の補修をする。6. 房を可能な限り整える。縁位置から帯状補修裂をあて縫い綴じ、房の付け際と縁の補修補強をする。26年度は5~6を施工

- 15 ○名称 ショール 緋地花文様両面刺繍(しよーる かすりじはなもんようりょうめんししゅう)1枚 (24年度より継続・3カ年計画)
○所蔵者 九州国立博物館
○時代 20世紀前半
○品質 絹、スパンコール、平織、緯緋、刺繍(平織・サテンステッチ)。
○寸法等 幅93.0cm 長さ203.8cm
○施工会社 一般社団法人国宝修理装飾師連盟
○修理内容 1. 写真撮影を行い、生地、刺繍、スパンコール、付着物の状態を調査する。2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。4. 生地に負荷をかけている場合は生地優先で付着物はピンセットで小さくするなどして生地の損傷に繋がらない範囲で除去をする。5. 生地を整え、裏面から全体的、あるいは、刺繍・スパンコールのある四辺の全体的に補修裂(薄地平絹)をあて補修糸(極細絹糸)で縫い綴じ、欠損端口の補修をする。あてる範囲については生地の状態と見え方とを検討して決定する。6. 金糸の大きな浮きは補修裂を支えにして補修糸(極細絹糸)で縫い綴じる。7. スパンコールは欠けたものはそのままとする。留め糸は弱っているので全て補修糸(極細絹糸)を入れ留める。26年度は5~7を施工
- 16 ○名称 ショール 緋緋幾何学文様浮織(しよーる しまかすりきかがくもんよううきもんおり)1枚 (24年度より継続・3カ年計画)
○所蔵者 九州国立博物館
○時代 19-20世紀
○品質 木綿、平織、経緋、経浮、緯浮、両端カードウィーブ
○寸法等 幅87.0cm 長さ265.0cm
○施工会社 一般社団法人国宝修理装飾師連盟
○修理内容 1. 写真撮影を行い、生地、房、くすみ、付着物の状態を調査する。2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。4. 旧補修糸の補修効果や性質などの検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。5. 付着物はピンセットで小さくするなどして生地の損傷に繋がらない範囲で除去をする。6. 生地の折り皺を伸ばす。次のくすみ処置にも連動するので現状では決定ではないが、まずは湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。7. 生地のくすみの状態を観察の上、その軽減処置の検討をする。水の使用が想定されるが、その使い方、加減については生地の状態と染色との兼ね合いになる。8. 生地の裏面から部分的に補修裂(薄地平絹)をあて補修糸(極細絹糸)で縫い綴じ、欠損端口の補修をする。耳のほつれは補修糸で留める。9. 房の絡まりを直し整える。26年度は9を施工
- 17 ○名称 装飾布 茜地花葉文様更紗(そうしよくふ あかがねじかようもんようさらさ)1枚 (24年度より継続・3カ年計画)
○所蔵者 九州国立博物館
○時代 19世紀
○品質 木綿、平織、手描端防染、両面染
○寸法等 幅98.0cm 長さ324.0cm
○施工会社 一般社団法人国宝修理装飾師連盟
○修理内容 1. 写真撮影を行い、生地、旧補修、汚れの状態を調査する。2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。4. 旧補修糸の補修効果や性質などの検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。5. 付着物はピンセットで小さくするなどして生地の損傷に繋がらない範囲で除去をする。6. 生地の折り皺を伸ばす。次のくすみ処置にも連動するので現状では決定ではないが、まずは湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。7. 生地の汚れの状態を観察の上、その軽減処置の検討をする。水の使用が想定されるが、その使い方、加減については生地の状態と染色との兼ね合いになる。8. 生地の裏面から部分的、または、帯状に補修裂(極薄地)をあて補修糸(極細絹糸)で縫い綴じ、欠損端口の補修をする。26年度は8を施工
- 18 ○名称 ショール 赤緋地金銀歯文様縫取織(しよーる あかがすりじきんぎんきよしもんようぬいとりおり)1枚 (24年度より継続・3カ年計画)
○所蔵者 九州国立博物館
○時代 20世紀
○品質 絹、平織、緯緋、金糸紋織
○寸法等 幅42.0cm 長さ260.0cm
○施工会社 一般社団法人国宝修理装飾師連盟
○修理内容 1. 写真撮影を行い、生地、旧補修の状態を調査する。2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。4. タブリのあるままでは生地に影響するので、旧補修は糸を短く切りながら取り外す。5. 生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。6. 解体後の生地の状態を観察して脆弱度によって補修の範囲を決める。裂けやすい生地と思われるので、生地の裏面から全体的に補修裂(薄地平絹)をあて補修糸(極細絹糸)で縫い綴じ、補強し、欠損端口の補修を想定する。7. 両端の房を整える。26年度は6~7を施工

<考古> (4件)

- 19 ○名称 伝青森県出土 屈折像土偶(でんあおもりけんしゅつど くっせつどぐう) 1点
○所蔵者 九州国立博物館
○時代 縄文時代・前2000年 - 前1000年
○品質 土製
○寸法等 高10.3cm 幅7.1cm 奥行8.3cm
○施工会社 芸匠
○修理内容 1. 資料の現状を把握し、接合面を確認しながら石膏及び接着剤による接合・復元部分を解体し、クリーニングを行う。2. 解体後、接合面の洗浄を行う。3. エポキシ系接着剤で接合後、隙間をエポキシ樹脂、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバレーン及び顔料を混合したものを使用して充填成形する。4. 脆弱部分にパラロイドB72(アセトン希釈:5%程度)を塗布し、樹脂による強化を行う。5. 復元部分には、エポキシ樹脂、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバレーン及び顔料を混合した物を使用して充填復元を行う。6. 修理部分に、アクリル絵具で補彩色を施す。
- 20 ○名称 伝青森県つがる市木造ヶ岡出土 中空土偶(でんあおもりけんつがるしきづくりかめがおかしゅつど ちゅうくうどぐう) 1点
○所蔵者 九州国立博物館
○時代 縄文時代・前2000年 - 前1000年
○品質 土製
○寸法等 高12.5cm 幅18.0cm 奥行5.1cm
○施工会社 株式会社 芸匠
○修理内容 1. 資料の現状を把握し、接合面を確認しながら樹脂及び接着剤による接合・復元部分を解体し、クリーニングを行う。2. 解体後、接合面の洗浄を行う。3. エポキシ系接着剤で接合後、隙間をエポキシ樹脂、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバレーン及び顔料を混合したものを使用して充填成形する。4. 脆弱部分にパラロイドB72(アセトン希釈:5%程度)を塗布し、樹脂による強化をおこなう。5. 復元部分には、エポキシ樹脂、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバレーン及び顔料を混合した物を使用して復元を行う。6. 修理部分に、アクリル絵具で補彩色を施す。7. 木製黒漆塗の台座を作製する。

- 21 ○名称 青森県岩木川流域出土 深鉢形土器 (あもりけんいんけいけいりゅういしきゆつど ふかみちがたどき) 1点
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 縄文時代・前1000年 - 前400年
 ○品質 土製
 ○寸法等 高 44.8 cm 最大径 46.0 cm 底径 14.0 cm
 ○施工会社 株式会社 芸匠
 ○修理内容 1. 資料の現状を把握し、接合面を確認しながら石膏及び接着剤による接合・復元部分を解体し、クリーニングを行う。2. 解体後、接合面の洗浄を行う。3. エポキシ系接着剤で接合後、隙間をエポキシ樹脂、パラロイドB72 (溶剤アセトン) とマイクロバレン及び顔料を混合したものを使用して充填成形する。4. 脆弱部分にパラロイドB72 (アセトン希釈: 5%程度) を塗布し、樹脂による強化を行う。5. 復元部分には、エポキシ樹脂、パラロイドB72 (溶剤アセトン) とマイクロバレン及び顔料を混合した物を使用して充填復元を行う。6. 修理部分に、アクリル絵具で補彩色を施す。
- 22 ○名称 石棒 (「田島外雄収集考古資料」のうち) (せきぼう (たじまほかおしゅうしゅうこうこしりょうのうち)) 1点
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 縄文時代・前2000年 - 前400年
 ○品質 石製
 ○寸法等 長 67.3 cm 幅 5.2 cm 厚 4.5 cm
 ○施工会社 株式会社 芸匠
 ○修理内容 1. 資料の現状を把握し、接合面を確認しながら接着剤による接合・復元部分を解体し、クリーニングを行う。2. エポキシ系接着剤で接合後、隙間をエポキシ樹脂、パラロイドB72 (溶剤アセトン) とマイクロバレン及び顔料を混合したものを使用して充填成形する。3. 脆弱部分 (破断面) にパラロイドB72 (アセトン希釈: 5%程度) を塗布し、樹脂による強化を行う。4. 修理部分に、アクリル絵具で補彩色を施す。

<歴史資料> (1件)

- 23 ○名称 対馬宗家関係資料 (つしまそうけかんけいしりょう) 18箱 12巻 (26年度より4カ年計画)
 ○所蔵者 九州国立博物館
 ○時代 江戸時代・18世紀
 ○品質 紙本墨書
 ○寸法等 本紙 縦 18.0-34.5 cm 横 45.5-56.9 cm
 ○施工会社 一般社団法人国宝修理装飾師連盟
 ○修理内容 1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、継を外し、卷子装を解体する。2. 筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3. 墨線の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある墨線に対して、珉膠水溶液 1~2%を用い、剥落止めを行う。4. 本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5. クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している墨線に対して 1~2%珉膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6. レーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7. 虫損による料紙欠失箇所、裏面より本紙基調色に染色した本紙と同繊維の補修紙を作製し、補修を施す。表紙裂も同様に欠失箇所に似寄りの組織の平絹具引き加工を施して補修を施す。8. 本紙に薄美濃紙 (染色は天然染料にて行う) を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9. 表紙裂と見返しを、新糊と布海苔の混合糊にて合わせ、仮張りし十分な乾燥期間をおく。10. 折れ伏せ後、楮と雁皮の混合紙を用いて、新糊と布海苔の混合糊にて総裏打ちを行う。総裏打ち後は仮張りし、十分な乾燥期間をおく。11. 表紙裂の地色を基調色とし、補修箇所に補彩を施す。12. 各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。軸木、紐は再使用し、卷子装に仕立てる。13. 桐太巻添軸を新調し、卷子を太く巻き保存する。新調した包み裂に本紙を包み、中性紙箱を新調し納める。26年度は巻 1~3 を施工

1-(3)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

単位：件 平成27年3月31日現在

	計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合計	276	86	113 (4,573)	77 (686)
絵画	82	10	48 (1,832)	24 (234)
書跡	39	0	23 (1,032)	16 (160)
彫刻	49	0	29 (1,260)	20 (188)
建築	1	0	0 (15)	1 (1)
金工	5	2	0 (1)	3 (4)
刀剣	2	2	0 (0)	0 (0)
陶磁	1	1	0 (1)	0 (0)
漆工	9	0	0 (39)	9 (59)
染織	37	29	4 (172)	4 (6)
考古	28	28	0 (13)	0 (0)
歴史資料	4	2	2 (175)	0 (31)
和書	0	0	0 (0)	0 (0)
民族資料	0	0	0 (3)	0 (2)
その他	9	2	7 (30)	0 (1)
東洋	絵画	3	3	
	書跡	2	2	
	彫刻	2	2	
	金工	0	0	
	陶磁	1	1	
	漆工	0	0	
	染織	1	1	
	考古	0	0	
	民族	0	0	
法隆寺献納宝物	0	0		
黒田記念館収蔵品	0	0		
館史資料(収蔵品外)	1	1		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、()内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の()内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1) 展示の充実

2-(1)-① 来館者数推移（入館料別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(1)-② 来館者数推移（展覧会別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(1)-③ 入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成27年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	92%
131件(外国語)	63件(外国語)	65件(外国語)	50件(外国語)
131件(日本語)	63件(日本語)	65件(日本語)	54件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計131件(外国語)/131件(日本語)

- ・総合文化展（特集を除く） 99件(外国語) / 99件(日本語) 含国宝室
- ・特集陳列 22件(外国語) / 22件(日本語)
- ・黒田記念館 10件(外国語) / 10件(日本語) (27年1月開館)

※参考 本館2階陳列「日本美術の流れ」案内・解説パンフレットを作成・配布した。(日本語のテーマ解説はスマートフォンアプリ「トーハクナビ」(日・英)へ26年11月より以降。パンフレット(英・中・韓)の配布は継続した)

【京都国立博物館】計63件(外国語)/63件(日本語) 3月末の数字

- ・名品ギャラリー（特集陳列等を除く） 60件(外国語) / 60件(日本語)
- ・特別展観「島根鰐淵寺の名宝」、「天野山金剛寺の名宝」 2件(外国語) / 2件(日本語)
- ・特集陳列「雛まつりと人形」 1件(外国語) / 1件(日本語)

【奈良国立博物館】計65件(外国語)/65件(日本語)

- ・名品展（なら仏像館） 19件(外国語) / 19件(日本語)
- ・名品展（珠玉の仏像美術） 5件(外国語) / 5件(日本語)
- ・名品展（青銅器館） 12件(外国語) / 12件(日本語)
- ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」 4件(外国語) / 4件(日本語)
- ・特集展示「新たに修理された文化財」 5件(外国語) / 5件(日本語)
- ・特別陳列「お水取り」 2件(外国語) / 2件(日本語)
- ・仏像写真展「大和の仏たち－奈良博写真技師の眼－」 18件(外国語) / 18件(日本語)

【九州国立博物館】計50件(外国語)/54件(日本語)

- ・文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く） 40件(外国語)/47件(日本語)
- ・文化交流展示 音声ガイド 3件(外国語)/0件(日本語)
- ・文化交流展示 トピック展示・特別公開
 - うち「館蔵近世絵画名品展」 1件(外国語)/1件(日本語)
 - 「中国を旅した禅僧の足跡」 1件(外国語)/1件(日本語)
 - 「全国高等学校 考古名品展」 1件(外国語)/1件(日本語)
 - 「特別公開 海を越えた再開－クリーブランド美術館の仲間たち－」 1件(外国語)/1件(日本語)
 - 「新春特別公開 徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」 1件(外国語)/1件(日本語)
 - 「大涅槃展」 1件(外国語)/1件(日本語)
 - 「柿右衛門－受け継がれる技と美」 1件(外国語)/1件(日本語)

2-(1)-⑤ 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

2-(2) 教育活動の充実

2-(2)-① 学習機会の提供（過去5カ年）

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	35校	37校	38校	43校	44校
京都国立博物館	29校	30校	30校	29校	29校
奈良国立博物館	28校	28校	27校	26校	27校
九州国立博物館	27校	28校	24校	24校	24校
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等 実施回数	126回	112回	126回	131回	127回
講演会等 参加者数	13,319人	12,664人	13,193人	15,777人	14,419人
①講演会	39回 9,290人	32回 8,224人	31回 6,952人	30回 7,184人	30回 6,735人
アンケート結果	91%	91%	82%	84%	92%
(内訳)					
・月例講演会等	11回 1,637人	13回 2,457人	12回 1,791人	12回 1,951人	12回 1,893人
アンケート結果	89%	91%	82%	80%	88%
・記念講演会	12回 3,467人	15回 4,669人	12回 3,682人	11回 3,368人	13回 3,651人
アンケート結果	91%	89%	85%	88%	85%
・テーマ別講演会	1回 180人	3回 775人	4回 1,051人	6回 1,709人	4回 1,096人
アンケート結果	92%	—	77%	84%	96%
・その他講演会	15回 4,006人	1回 323人	3回 428人	1回 156人	1回 95人
アンケート結果	—	—	78%	83%	98%
②列品解説（ギャラリートーク等）	83回 3,659人	76回 3,963人	90回 5,805人	98回 8,205人	94回 7,326人
③連続講座	1回（3日） 278人	1回（3日） 380人	1回（3日） 303人	1回（3日） 354人	1回（3日） 320人
アンケート結果	81%	89%	75%	95%	87%
④公開講座	3回 92人	3回 97人	4回 133人	2回 34人	2回 38人
アンケート結果	100%	97%	94%	97%	97%
京都国立博物館					
講演会等 実施回数	17回	15回	19回	21回	36回
講演会等 参加者数	2,313人	1,450人	3,150人	2,062人	4,596人
①土曜講座	15回 2,076人	13回 1,199人	16回 2,682人	10回 1,257人	31回 3,888人
アンケート結果	81%	77%	84%	87%	80%
②記念講演会	—	—	1回 215人	1回 190人	1回 193人
アンケート結果	—	—	89%	88%	—
③夏期講座	1回（3日） 205人	1回（3日） 193人	1回（3日） 213人	1回（3日） 219人	1回（3日） 206人
アンケート結果	92%	78%	92%	91%	89%
④社会科教員のための向上講座	1回 32人	1回 58人	1回 40人	1回 30人	1回 66人
⑤セミナー・シンポジウム等	—	—	—	—	2回 243人
⑥ギャラリートーク	—	—	—	8回 366人	—
⑦ギャラリートーク	—	—	—	8回 366人	—
奈良国立博物館					
講演会等 実施回数	28回	28回	29回	26回	27回
講演会等 参加者数	3,349人	3,006人	3,454人	3,219人	3,525人
①特別展等講座	15回 2,172人	15回 1,839人	16回 2,172人	13回 1,682人	14回 1,986人
アンケート結果	93%	87%	85%	85%	86%
②夏期講座	1回（3日） 556人	1回（3日） 522人	1回（3日） 438人	1回（3日） 587人	1回（3日） 561人
アンケート結果	95%	90%	95%	95%	91%
③サンデートーク	12回 621人	12回 645人	12回 844人	12回 950人	12回 978人
アンケート結果	88%	88%	85%	85%	87%
④大学との合同公開講座	—	—	—	—	—
アンケート結果	—	—	—	—	—
⑤世界遺産学習特別勉強会の共同開催	—	—	—	—	—
アンケート結果	—	—	—	—	—
九州国立博物館					
講演会等 実施回数	64回	89回	102回	90回	82回
講演会等 参加者数	3,996人	7,833人	8,354人	7,276人	4,694人
①特別展記念講演会	9回 1,410人	7回 1,500人	5回 966人	6回 1,108人	4回 980人
アンケート結果	—	—	—	—	—
②講演及びシンポジウム	11回 1,266人	39回 4,592人	45回 4,918人	38回 4,450人	26回 2,132人
アンケート結果	—	—	—	—	—
③ミュージアムトーク	44回 1,320人	43回 1,741人	52回 2,470人	47回 1,718人	52回 1,582人
○大学等との連携事業					
奈良国立博物館					
①放送大学の面接授業	1回	0回	0回	0回	0回
②奈良女子大学との連携講座	7人	7人	10人	9人	8人
③神戸大学との連携講座	10人	10人	7人	8人	16人
九州国立博物館					
①放送大学の面接授業	2回 50人	1回 50人	1回 50人	1回 50人	2回 50人

2-(2)-② キャンパスメンバーズ

平成27年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
44校	29校 (※)	27校 (※)	24校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入22校

【東京国立博物館】

①加入校数 (44校)

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,591人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,478人	20年4月1日	
3	文化学園 (文化学園大学, 文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化服装学院広島校, 文化外国語専門学校)	8,127人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,734人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,440人	20年4月1日	
6	東京大学	34,203人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,673人	20年4月1日	
8	杉野学園 (杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学院)	1,419人	20年4月1日	
9	大正大学	5,218人	20年4月1日	
10	東海大学	33,227人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	23,071人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	805人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,156人	20年4月1日	
14	立教大学	23,631人	20年4月1日	
15	首都大学東京	10,246人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	4,028人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,965人	20年4月1日	
18	法政大学	38,687人	20年4月1日	
19	筑波大学	20,620人	20年4月1日	
20	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	5,973人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	4,581人	20年5月1日	
22	東洋大学	31,497人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,137人	20年6月1日	
24	日本大学 (芸術学部)	4,427人	20年6月1日	
25	文教大学	9,440人	20年7月1日	
26	上智学院 (上智大学, 上智短期大学部, 上智社会福祉専門学校)	15,380人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,268人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,891人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,456人	22年4月1日	
30	学習院大学	9,491人	22年4月1日	
31	東京工業大学	12,032人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,764人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	3,088人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	6,353人	23年6月1日	
35	神奈川大学	20,012人	24年6月1日	
36	日本工業大学	5,000人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,987人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	3,407人	25年4月1日	
39	中央大学	32,366人	25年6月1日	
40	麗澤大学	2,705人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	42,963人	25年8月1日	
42	一橋大学	6,792人	25年11月1日	
43	共立女子大学・共立女子短期大学	5,963人	26年4月1日	
44	成城大学 文芸学部	1,910人	26年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期 間	9月8・9日 (計7回実施)
開催場所	平成館大講堂
参加者数	215人
担当研究員数	7人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期 間	9月8～13日 (6日間)
開催場所	全館

参加者数	34人
担当研究員数	10人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

① 加入校数 (29校)

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	19,593人	19年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
2	奈良教育大学	1,396人	18年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学人文科学部	1,115人	20年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
4	学校法人同志社	39,797人	19年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	4,148人	19年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
6	学校法人 関西大学	33,188人	23年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
7	学校法人 京都産業大学	14,707人	24年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
8	帝塚山大学・附属高等学校	4,248人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
9	奈良女子大学	2,720人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
10	京都造形芸術大学	9,384人	18年6月1日	京博のみ	京博	
11	京都工芸繊維大学	4,061人	19年6月1日	奈良博との2館併用	京博	
12	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学	893人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
13	京都精華大学	3,755人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
14	龍谷大学・龍谷短期大学	19,840人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
15	京都女子大学・京都女子短期大学	7,429人	18年7月1日	京博のみ	京博	
16	京都橘大学	3,982人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
17	京都教育大学・附属高等学校	2,447人	20年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
18	成安造形大学	826人	18年8月1日	京博のみ	京博	
19	京都市立芸術大学	1,084人	20年8月1日	京博のみ	京博	
20	京都大学	23,493人	18年9月1日	奈良博との2館併用	京博	
21	近畿大学文芸学部	2,212人	18年9月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
22	花園大学	2,198人	18年11月1日	京博のみ	京博	
23	奈良先端科学技術大学院大学	1,099人	19年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
24	大谷大学・大谷短期大学	3,716人	18年12月1日	京博のみ	京博	
25	大阪大学	24,650人	20年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
26	京都文教大学	2,892人	21年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
27	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,921人	21年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
28	京都府立大学	2,185人	23年7月1日	京博のみ	京博	
29	立命館大学	36,372人	26年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	

【奈良国立博物館】

①加入校数 (27校)

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良学園大学 (奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良文化女子短期大学部、奈良学園登美ヶ丘高等学校)	2,245人	18年10月1日	奈良博のみ	奈良産業大学より名称変更
2	奈良佐保短期大学	349人	18年11月29日	同上	
3	天理大学	3,434人	20年7月1日	同上	
4	奈良県立大学	656人	21年4月1日	同上	
5	奈良工業高等専門学校	1,119人	23年7月1日	同上	
6	奈良教育大学	1,396人	18年4月4日	京博との2館併用	
7	帝塚山大学	4,248人	18年5月8日	同上	
8	奈良女子大学	2,720人	18年5月15日	同上	
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	893人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	3,755人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	3,982人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	19,840人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	23,493人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学 文芸学部、近畿大学大学院文芸学研究科	2,205人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	19,593人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	4,148人	19年5月2日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,061人	19年6月1日	同上	
18	学校法人 同志社 (同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校)	39,797人	19年6月1日	同上	
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,099人	19年11月7日	同上	
20	就実大学 人文科学部	1,100人	20年4月1日	同上	
21	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,447人	20年7月1日	同上	
22	大阪大学	24,650人	20年12月1日	同上	
23	京都文教大学、京都文教短期大学	2,892人	21年6月1日	同上	
24	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,921人	21年8月1日	同上	
25	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,188人	23年6月1日	同上	
26	立命館大学、立命館大学大学院	36,372人	26年4月1日	同上	
27	学校法人 京都産業大学 (京都産業大学、京都産業大学付属高等学校)	14,707人	26年4月1日	同上	今年度より2館利用 (京博申込分)

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内 容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のレポート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、来館毎にスタンプを押印し、3回目と6回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

① 加入校数 (24校)

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	11,279人	25年4月1日	
2	九州情報大学	546人	26年4月1日	
3	九州大学	19,174人	26年4月1日	
4	久留米大学	7,460人	25年4月1日	
5	西南学院大学	8,209人	25年4月1日	
6	筑紫女学園大学	2,684人	24年4月1日	
7	日本赤十字九州国際看護大学	477人	26年4月1日	
8	日本経済大学 (福岡キャンパス)	2,685人	26年5月1日	
9	福岡教育大学	5,703人	26年4月1日	
10	福岡国際大学	445人	25年4月1日	
11	福岡女子大学	847人	24年4月1日	
12	福岡大学	20,790人	25年4月1日	
13	放送大学福岡学習センター	2,330人	26年4月1日	
14	早稲田大学大学院情報生産システム研究科 (北九州キャンパス)	376人	26年4月1日	
15	九州造形短期大学	244人	25年4月1日	
16	筑紫女学園大学短期大学部	402人	24年4月1日	
17	福岡女子短期大学	391人	25年4月1日	
18	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	152人	25年4月1日	
19	久留米大学附設高等学校	608人	25年4月1日	
20	西南学院高等学校	1,297人	25年4月1日	
21	筑紫女学園高等学校	1,743人	24年4月1日	
22	筑紫台高等学校	1,508人	24年4月1日	
23	福岡大学附属大濠高等学校	1,963人	25年4月1日	
24	福岡大学附属若葉高等学校	1,032人	25年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「体験－ミュージアムで学ぶアジア」	
開催日	4月22日、4月29日、4月30日、5月13日、6月11日、6月25日 (計6日)
開催場所	筑紫女学園大学、文化交流展示室、体験型展示室「あじっば」
出席校	筑紫女学園大学
参加者数	72人
事業内容	博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験を実施

2-(2)-③ 講座・講演会等の開催実績

平成27年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	127回・14,419人 講演会 30回・6,735人 列品解説（ギャラリートーク等）94回・7,326人 連続講座 1回（3日）・320人 公開講座 2回・38人	36回・4,596人 土曜講座31回・3,888人 記念講演会1回・193人 夏期講座1回（3日）・206人 社会科教員のための向上講座 1回・66人 セミナー・シンポジウム等2回・243人	27回・3,525人 特別展等講座 14回・1,986人 （公開講座 12回・1,600人、シンポジウム1回・192人） 記念講座&座談会1回・194人 夏季講座 1回（3日）・561人 サンデートーク12回・978人	82回・4,694人 特別展記念講演会 4回・980人 講演及びシンポジウム 26回・2,132人 ミュージアムトーク 52回・1,582人
	その他展示に関連する事業 18回・817人	その他展示に関連する事業 2回・57人	その他展示に関連する事業 11回・774人	その他展示に関連する事業 23回・143,786人

【東京国立博物館】

1) 講演会 30回 参加者数 6,735人

①月例講演会 計12回 参加者数1,893人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
4月5日	端午の節句 鎧と兜 講師：池田宏（上席研究員）	86	2	76%
5月24日	帝室博物館のアイヌ・琉球展示について 講師：佐々木利和（北海道大学アイヌ・先住民研究センター特任教授）	117	2	91%
6月7日	高雄曼荼羅—金銀で描かれた密教の世界 講師：沖松健次郎（保存修復課主任研究員） 安藤香織（徳川美術館）	129	2	60%
7月19日	伊能忠敬の日本図 講師：田良島哲（調査研究課長）	220	2	91%
8月23日	夏休みの宿題—わたしの仏像自由研究— 講師：浅見龍介（東洋室長） 飯島可琳（生駒市子ども学芸員1号）	200	2	87%
9月6日	米内山陶片と米色青磁 特集 日本人が愛した官窯青磁と横河コレクションについて 講師：佐藤サアラ（常盤山文庫） 三笠景子（保存修復室研究員）	280	2	95%
10月11日	中国青銅器をめぐる旅 4千年のものがたり 講師：川村佳男（列品管理課主任研究員）	202	2	88%
11月8日	縄文土器のうつわを考える 講師：井出浩正（考古室研究員）	141	2	89%
12月6日	「法隆寺と聖徳太子をめぐる空間と美術」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 阿部泰郎（名古屋大学教授）	224	2	99%
27年1月10日	「博物館に初もうで〜ひつじと吉祥図様を探す旅」 講師：金井裕子（特別展室研究員）	84	2	86%
27年2月21日	「平成の大修理を終えた国宝檜図屏風」 講師：神庭信幸（保存修復課長） 田沢裕賀（絵画・彫刻室長）	130	2	100%
27年3月14日	「保存の道を探求して」 講師：神庭信幸（保存修復課長）	80	2	92%

②記念講演会 計13回 参加者数3,651人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
4月12日	栄西と建仁寺「栄西と茶の歴史」 講師：千宗屋（武者小路千家 家元後嗣）	380	2	91%
4月19日	栄西と建仁寺「建仁寺ゆかりの美術」 講師：田澤裕賀（絵画・彫刻室長）	347	2	89%
4月26日	キトラ古墳壁画展「キトラ古墳壁画保護の歩み」 ①「キトラ古墳壁画保護の歴史」 講師：建石徹（文化庁文化財部古墳壁画室・古墳壁画対策調査官） ②「キトラ古墳壁画の取り外しと修理」 講師：川野邊渉（東京文化財研究所文化遺産国際協力センター長） ③「キトラ古墳壁画の材料調査」 講師：高妻洋成（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長） ④鼎談「キトラ古墳壁画の保護から学ぶもの」 講師：建石徹・川野邊渉・高妻洋成 コーディネーター：齊藤孝正（上席研究員）	340	2	81%
5月3日	キトラ古墳壁画展「キトラ古墳壁画に迫る—高松塚古墳壁画との比較から—」 講師：有賀祥隆（東北大学名誉教授）	380	2	63%
6月28日	故宮博物院「故宮コレクションと「倣古」—青銅器・玉器のかたちに象徴された伝統」 講師：川村佳男（展示調整室主任研究員）	380	2	73%

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
7月5日	中国皇帝コレクションの意味—書画における復古と革新— 基調講演「国立故宮博物院書画コレクションの淵源」 講師：何傳馨(国立故宮博物院副院長) ①「王羲之と小野道風」 講師：丸山猶計(九州公立博物館) ②皇帝コレクションにおける模写・模造事業—乾隆帝の書画コレクションと狩野派— 講師：塚本麿充(東洋室研究員) ③徽宗と義満—日本における皇帝コレクションの意味— 講師：畑靖紀(九州国立博物館) ④蘇軾「寒食帖」と米芾「草聖帖」—台北と大阪を結ぶ縁— 講師：弓野隆之(大阪市立美術館)	233	2	85%
7月6日	⑤元宋四大家—文人画の確立— 講師：湊信幸(客員研究員・名誉館員) ⑥公主の雅集—モンゴル皇室と書画鑑蔵活動— 講師：陳韻如(国立故宮博物院) ⑦乾隆帝が見た江南山水画—伝巨然「蕭翼賺蘭亭図」を中心に— 講師：竹浪遠(黒川古文化研究所) ⑧乾隆帝と澄心堂紙 講師：何炎泉(国立故宮博物院) ⑨徽宗の七壺と乾隆帝の八壺について 講師：富田淳(列品管理課長) 総合討論	189	2	80%
7月26日	故宮博物院「文物がつくる社会—中国書画・故宮コレクションからアジア世界へ—」 講師：塚本麿充(東洋室研究員)	300	2	95%
9月27日	東アジアの華 陶磁名品展 記念講演会 講師：杜衛民(中国国家博物館保管一部副研究員) 具一會(韓国国立扶余博物館長、前韓国国立博物館美術部長) 伊藤嘉章(学芸企画部長)	220	2	95%
11月1日	日本国宝展「国宝指定制度と日本国宝展」 講師：伊藤信二(広報室長)	312	2	91%
11月22日	日本国宝展「国宝縄文のビーナスと国宝仮面の女神誕生の地・ハヶ岳山麓北山浦の縄文文化」 講師：鶴飼幸雄(尖石縄文考古館前館長)	350	2	92%
27年1月24日	みちのくの仏像展「みちのくの仏像」 講師：丸山士郎(平常展調整室長)	122	2	85%
27年3月11日	シンポジウム「文化財を守る絆—津波被災文化財再生への挑戦」 講師：熊谷賢氏(陸前高田市立博物館 副主幹) 赤沼英男氏(岩手県立博物館 首席専門学芸員) 前川さおり氏(遠野文化研究センター調査研究課 課長補佐) 真鍋真氏(国立科学博物館 地学研究部 生命進化史研究グループ グループ長) 半田昌之氏(日本博物館協会 専務理事)、神庭信幸氏(東京国立博物館 保存修復課 課長)	98	2	-

③テーマ別講演会 計4回 参加者数1,096人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
8月20日	台北 国立故宮博物院—神品至宝—展席上揮毫会 講師：榎本樹邨(読売書法会常任総務) 星弘道(読売書法会常任総務) 高木聖雨(読売書法会常任理事)	277	2	94%
8月21日	台北 国立故宮博物院—神品至宝—展席上揮毫会 講師：石飛博光(毎日書道会常任理事) 仲川恭司(毎日書道会理事) 永守蒼穹(毎日書道会理事)	350	2	-%
9月14日	趙之謙の書画と北魏の書画 講師：鍋島稲子(書道博物館主任研究員) 富田淳(列品管理課長)	219	2	94%
10月25日	第2回石橋財団レクチャーシリーズ 考古学をめぐる日欧交流の物語 講師：サイモン・ケイナー(セインズベリー日本藝術研究所 考古・文化遺産学センター長) オリバー・クレイグ(イヨーク大学 考古学准教授) 白井克也(考古室長)	250	2	100%

④その他講演会 計1回 参加者数95人

実施日	内容	参加者数(人)	担当研究員(人)	“良い”の割合
10月3日	井浦新と楽しむアジアの仏像の旅 講師：井浦新、小泉恵英(企画課長)	95	2	98%

2) ギャラリートーク (旧称：列品解説) 94回 参加者総数 7,326人

①ギャラリートーク 61回 参加者総数 6,046人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
4月1日	十二ヶ月花鳥図屏風 講師：遠藤楽子(出版企画室研究員)	180	2
4月2日	屏風に咲く桜 講師：山下善也(絵画彫刻室主任研究員)	90	2
4月8日	名物「岡山藤四郎」について 講師：酒井元樹(保存修復室研究員)	80	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
4月9日	桜でつくられた仏像 講師：丸山士郎（平常展調整室長）	80	2
4月15日	新しくなった「近代の美術」の展示室 講師：伊藤嘉章（学芸研究部長）・松嶋雅人（特別展室長）	98	2
4月15日	新しくなった本館17室のみどころ 講師：土屋裕子（保存修復室長）	77	2
4月15日	《本館リニューアル》と《正門プラザ》 講師：木下史青（デザイン室長）	74	2
4月22日	アイヌの人びとの祈り 講師：品川欣也（考古室研究員）	72	2
4月22日	歴史の記録 講師：高橋裕次（博物館情報課長）	70	2
5月13日	熊めぐり 講師：神辺知加（教育講座室主任研究員）	78	2
5月20日	平成25年度の新たな館蔵品 講師：田良島哲（調査研究課長）	65	2
5月27日	3つの形象土器 講師：白井克也（東洋館10室）	49	2
6月10日	考古展示が語る日本の歴史時代 講師：田島太良（登録室アソシエイトフェロー）	80	2
6月17日	人の頭を2つもつ鳥の話 講師：勝木言一郎（出版企画室長）	63	2
6月24日	海外に渡った縄文土器 講師：鈴木希帆（登録室アソシエイトフェロー）	80	2
7月1日	トーハクの石榴 講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）	130	2
7月8日	鎌倉彫刻の魅力 講師：西木政統（絵画・彫刻室アソシエイトフェロー）	130	2
7月15日	インドネシアのワヤン 講師：白井克也（平常展調整室長）	70	2
7月25日	田園詩人、久隅守景の納涼図 講師：山下善也（絵画彫刻室主任研究員）	125	2
7月29日	経塚というタイムカプセル 講師：井出浩正（考古室研究員）	78	2
8月1日	美しき春日野の風景 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）	68	2
8月5日	紅型 講師：高木結美（特別展室アソシエイトフェロー）	57	2
8月12日	『瀟湘臥遊図巻』の物語 講師：塚本麿充（東洋室研究員）	163	2
8月19日	インドネシアの染織 講師：小山弓弦葉（教育普及室長）	125	2
8月26日	趙之謙の書画と北魏の書 講師：富田淳（列品管理課長）	194	2
9月2日	甕った飛鳥・奈良染織の美 講師：澤田むつ代（客員研究員）	98	2
9月5日	法隆寺染織の文様世界 講師：三田覚之（工芸室研究員）	80	2
9月9日	呉春筆山水図屏風 講師：小野真由美（貸与特別観覧室）	100	2
9月30日	漆芸に見る東西交流 講師：竹内奈美子（工芸室長）	82	2
10月1日	絵画をめぐる旅 講師：塚本麿充（東洋室研究員）	100	2
10月2日	楽の音が聞こえる シルクロードの美術 講師：勝木言一郎（出版企画室長）	96	2
10月4日	仏さまの物語 講師：三田覚之（工芸室研究員）	116	2
10月5日	仏像はなぜ作られた？ 講師：小泉惠英（企画課長）	50	2
10月7日	インド細密画の世界 講師：小泉惠英（学芸企画課長）	58	2
10月8日	考古で比べる日本と中国 講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）	80	2
10月9日	縄文土器の個性をさぐる旅 講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）	100	2
10月10日	アジアの染織文様を旅する 講師：小山弓弦葉（教育普及室長）	100	2
10月12日	馬でめぐるアジア 講師：白井克也（考古室長）	120	2
10月13日	アジア、青磁の旅 講師：三笠景子（保存修復室研究員）	100	2
10月21日	西日本の埴輪の造形・変遷と伝播 講師：古谷毅（列品管理課主任研究員）	80	2
10月28日	横河民輔と中国陶磁 講師：三笠景子（保存修復室研究員）	106	2
10月21日	円筒埴輪と形象埴輪の見方 講師：河野正訓（考古室アソシエイトフェロー）	45	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
11月11日	シリア青銅器時代の墓出土品 講師：後藤健（特任研究員）	81	2
11月18日	「唐物」を考える 講師：横山梓（特別展室研究員）	150	2
11月21日	陶棺レリーフに見る7世紀の風景と日本古代文化史 講師：古谷毅（平常展調整室主任研究員）	93	2
11月28日	国宝 破墨山水 雪舟筆 講師：教仁郷秀明（貸与特別観覧室長）	90	2
12月2日	特集 中国書画精華 明清絵画の愉しみ 講師：塚本鷹充（東洋室研究員）	74	2
12月9日	天部のほとけ 講師：浅瀨 毅（教育講座室長）	95	2
27年1月6日	松林図屏風 講師：金井裕子（特別展室研究員）	230	2
27年1月20日	世尊寺家の古筆 講師：島谷弘幸（副館長）	146	2
27年1月27日	水滴を楽しむ 講師：伊藤信二（教育普及室長）	72	2
27年2月3日	旗をなびかせた新羅の馬 講師：白井克也（平常展調整室長）	120	2
27年2月17日	永徳一門による檜図 講師：山下善也（絵画彫刻室主任研究員） 檜図屏風平成の大修理 講師：神庭信幸（保存修復課長）	164	2
27年2月24日	絵画・書跡修理の現場から 講師：沖松健次郎（保存修復室主任研究員）	128	2
27年3月3日	予防保存と修理保存 講師：和田浩（環境保存室長）	60	2
27年3月10日	愛染明王の事と、その修理前後 講師：鷲塚麻季（調査研究課主任研究員）	157	2
27年3月17日	中国江南の文化都市・南京の書画の魅力 講師：塚本鷹充（東洋室研究員）	140	2
27年3月18日	屏風に描かれた桜 講師：小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	171	2
27年3月24日	黒田記念館へ行こう 講師：木下史青（デザイン室長）	92	2
27年3月25日	着物に描かれた桜 講師：小山弓弦葉（教育普及室長）	96	2

②特別展関連ギャラリートーク 4回 参加者総数 478人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
6月25日	故宮の白菜 講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）	62	2
6月25日	故宮の白菜 講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）	115	2
6月25日	故宮の白菜 講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）	71	2
1月31日	ミニ講演会「被災現場からの報告」 講師：赤沼英男(岩手県立博物館学芸第2課長) 前田浩士(陸上自衛隊富士学校機甲科部車両生徒班長) ギャラリートーク「被災現場からの報告」 講師：熊谷賢(陸前高田市立博物館副主幹) 神庭信幸(保存修復課長)	230	2

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク等 29回 参加者総数 802人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
6月29日、7月9日、7月26日、8月6日、8月24日、9月10日、9月13日、9月14日10月19日10月25日	10	ギャラリートーク「突起装飾坏ができるまで一作ってみてわかったこと」	林佳美、治部亜美香、日暮花里、近岡令、岡田麻里恵、渡辺諒子、斉藤祐、藤枝奈々、栗田絵莉子、小池俊起、佐々木怜央、小池俊起	166
8月27日	1	スライドトーク「突起装飾坏ができるまで一作ってみてわかったこと」	林佳美、治部亜美香、日暮花里	33
12月14日、12月16日、12月18日、12月23日、1月15日、1月22日	6	ギャラリートーク「若沖と鶏」	日比野杏香	275
1月8日、1月11日、1月25日、1月29日、2月3日、2月8日	6	近代日本彫刻としての佐藤朝山「シャクンタラ姫とドウシャンタ王」	山崎泰行	155
1月20日、1月27日、2月1日、2月5日、2月10日、2月12日	6	ひび割れたうつわ	菅沢そわか	173

3) 連続講座「日本国宝展」 計1回(3日) 参加者総数 320人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合

8月8日	第1講「日本国宝展と工芸の国宝」 講師：伊藤信二（広報室長） 第2講「絵画の国宝1号—トーハクと国宝の絵画」 講師：沖松健次郎（保存修復室主任研究員）	320	2	87%
8月9日	第3講「国宝元興寺五重小塔を探る」 講師：狭川真一（公益財団法人元興寺文化財研究所研究部長） 第4講「指定制度と仏像・神像の国宝」 講師：川瀬由照（文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官） 第5講「国宝彫刻の修理」 講師：藤本青一（公益財団法人美術院国宝修理所所長）			
8月10日	第1講「発掘の成果と国宝」 講師：品川欣也（考古室主任研究員） 第2講「美と歴史を語る国宝の書」 講師：田島良哲（保存修復室主任研究員）			

4) 公開講座 計2回 参加者総数38人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
27年3月5日	見学ツアー 保存と修理の現場へ行こう 講師：神庭信幸（保存修復課長）ほか	19	2	100%
27年3月6日	見学ツアー 保存と修理の現場へ行こう 講師：神庭信幸（保存修復課長）ほか	19	2	94%

5) その他展示に関連する事業 計18回 参加者総数 817人

実施日	内容	会場	参加者数(人)	担当研究員(人)
5月11日	恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 上野の山でクマめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	45	2
10月4日	博物館でYOGA体験「朝YOGA 仏像と始める一日」	東京国立博物館東洋館第1室	18	2
10月4日	韓国伝統芸能 2回	東京国立博物館東洋館前	300	2
10月5日	博物館でYOGA体験「朝YOGA 仏像と始める一日」	東京国立博物館東洋館第1室	17	2
10月5日	中国伝統芸能 2回	東京国立博物館平成館大講堂	400	2
10月8日	博物館でYOGA体験「夜YOGA 仏像と過ごす夕べ」	東京国立博物館東洋館第1室	17	2
10月9日	博物館でYOGA体験「夜YOGA 仏像と過ごす夕べ」	東京国立博物館東洋館第1室	20	2
1月31日	特別展「3・11大津波と文化財の再生」関連イベント オルガン演奏 3回 演奏：中村由利子氏	東京国立博物館本館大階段	—	2
2月21日	特別展「3・11大津波と文化財の再生」関連イベント オルガン演奏 3回演奏：相田南穂子氏	東京国立博物館本館大階段	—	2
3月14日	特別展「3・11大津波と文化財の再生」関連イベント オルガン演奏 3回演奏：伊藤園子氏	東京国立博物館本館大階段	—	2

【京都国立博物館】

1) 土曜講座31回 参加者総数 3,888人

特別展覧会関連などの講座

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月26日	南山城の歴史と文化	企画室長 宮川禎一	193
5月10日	古代南山城の観音像	同志社大学教授 井上一稔	186
5月17日	一休さんと酬恩庵の絵画	上席研究員 山本英男	171
5月24日	浄瑠璃寺と当尾の里	浄瑠璃寺副住職 佐伯功勝	165
5月31日	南山城の仏像と慶派仏師	東京国立博物館教育講座室長 浅秋 毅	174
6月7日	万葉歌にみる馬場南遺跡（神雄寺）と恭仁京のトポス	京都府教育庁文化財保護課 伊藤 太	157
9月20日	京の都の成り立ち	副館長 松本伸之	193
9月27日	国宝 雪舟筆天橋立図	上席研究員 山本英男	195
10月4日	天野山金剛寺の大日如来・不動明王坐像	列品管理室長 浅見龍介	159
10月11日	明恵上人と高山寺の文化財	北海道大学名誉教授 石塚晴通	193
10月18日	高山寺の仏画	主任研究員 大原嘉豊	138
10月25日	鳥獣戯画の愉しさ—後世の画家に及ぼした影響—	同志社大学教授 狩野博幸	200
11月1日	古典の日記念 料紙装飾	主任研究員 羽田 聡	119
11月8日	国宝 金銅藤原道長経筒をめぐって	企画室長 宮川禎一	146
11月22日	京都ミュージアムズ・フォー連携講座 高山寺と版本—宋版を中心に—	上席研究員 赤尾栄慶	113
11月29日	名物裂 茶席を彩る染織の背景	教育室長 山川 暁	91
12月6日	愛刀家とは何か—コレクションからみる人物像—	研究員 末兼俊彦	58
12月13日	南蛮漆器から紅毛漆器へ—海外向け特注品のプロデューサーは誰か—	主任研究員 永島明子	52
12月20日	北京・上海・広東の近代絵画	研究員 呉 孟晋	39
1月10日	古墳時代の銅鏡	企画室長 宮川禎一	88
1月17日	室町絵巻のイメージ—日高川草紙を中心に—	研究員 鬼原俊枝	65
1月24日	禅僧の書 —墨蹟—	主任研究員 羽田 聡	71
1月31日	「中世出雲国 鱒淵寺の歴史」	鳥根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員 佐伯徳哉	106
2月7日	鱒淵寺と天台の密教法具	研究員 末兼俊彦	105
2月14日	仏涅槃図の世界	主任研究員 大原嘉豊	129
2月21日	中国の吉祥絵画—音と形から読み解く—	研究員 呉 孟晋	60
2月28日	人形コレクションの近代—守る人・蒐める人—	教育室長 山川 暁	83
3月7日	近世の障壁画—「場」を飾るということ—	研究員 福士雄也	95
3月14日	金剛寺学術調査の成果について	上席研究員 赤尾栄慶	130

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
3月21日	『日月山水図屏風』の基層	静岡県立美術館学芸部長 泉 万里	139
3月28日	開山堂に納められた高麗青磁	研究員 降矢哲男	75

2) 記念講演会 1回 193人

実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
9月13日	京都国立博物館—未来を見つめて—	館長 佐々木丞平	193

3) 夏期講座 1回 (3日) 206人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月30日	第1講「威信財としての袈裟—東福寺伝法衣—」	教育室長 山川 暁	206
	第2講「仏画と寺院—仏画をとりまく環境—」	主任研究員 大原嘉豊	
	第3講「中近世イタリアの祭壇画—儀礼の場とその演出—」	西南学院大学国際文化学部教授 松原知生	
7月31日	第1講「禅宗寺院の建築にみる日中交流」	奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室研究員 鈴木智大	206
	見学 東福寺		
8月1日	第1講「イスラム宗教建築とその周辺」	東京大学東洋文化研究所教授 樹屋友子	206
	第2講「文化財とコーパス—土蔵でみつける漆器のものさし—」	主任研究員 永島明子	
	第3講「寺院における文書の整理—「かたまり」からみえること—」	主任研究員 羽田 聡	

4) 社会科教員のための向上講座 1回 66人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月22日	講演「秀吉と京都について」 館内実地研修「京へのいざない」展 館内実地研修「国宝 鳥獣戯画と高山寺」展	主任研究員 羽田 聡	66

5) セミナー・シンポジウム等 2回 243人

開講日	テーマ・講師	参加者数(人)
11月15日	「鳥獣戯画を語る」 日 時 2014年11月15日(土) 13:00~17:00 第1部「絵巻と戯画」 講師: 上野友愛氏(サントリー美術館学芸員) ジャクリーヌ・ベルント氏(京都精華大学・マンガ学部・教授) 鼎談: 上野友愛氏、ジャクリーヌ・ベルント氏、大原嘉豊(京都国立博物館 学芸部) 第2部「鳥獣戯画の修理」 講師: 岡墨光堂 岡岩太郎氏 鼎談: 岡岩太郎氏、鬼原俊枝(京都国立博物館 学芸部)、赤尾栄慶(京都国立博物館 学芸部)	168
27年1月25日	国際研究セミナー「日仏漆交流史を学ぶ」 主任研究員 永島明子 パリ装飾美術館 主任学芸員 アンヌ・フォレ・キャルリエ	75

6) その他展示に関連する事業 2回 57人

実施日	内容	講師	参加者数(人)
5月11日	小中学生向け鑑賞会「みほとけめぐり！」	研究員 水谷亜希	21
5月18日	小中学生向け鑑賞会「みほとけめぐり！」	研究員 水谷亜希	36

【奈良国立博物館】

1) 特別展等講座 14回 参加者総数 1,986人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月19日	「中世律宗の鎌倉進出と善派仏師」	学芸部研究員 山口隆介	106
5月10日	「鎌倉の仏像に見るエキゾチズム」	三井記念美術館長 清水真澄	111
5月31日	「鎌倉地方で花開いた肖像彫刻」	鎌倉国宝館副館長 内藤浩之	127
7月26日	「醍醐寺と南都の密教絵画」	学芸部保存修理指導室長 谷口耕生	130
8月 2日	「醍醐寺の造営と創建期の仏像」	東京文化財研究所主任研究員 皿井舞	149
8月 9日	「醍醐寺の文化財」	総本山醍醐寺公室室長 長瀬福男	77
9月 6日	「醍醐寺の密教修法と聖教」	学芸部研究員 斎木涼子	194
10月25日	「鳥毛立女屏風と唐時代絵画」	東京大学東洋文化研究所教授 板倉聖哲	194
11月 2日	「正倉院宝物の性格について」	元宮内庁正倉院事務所長 北啓太	192
	「正倉院宝物にみる資源の有効利用について」	宮内庁正倉院事務所保存課調査室長 飯田剛彦	
	「日本工芸の源流としての正倉院宝物」	学芸部長 内藤栄	
	パネルディスカッション	北啓太、飯田剛彦、内藤栄	
11月 3日	「正倉院宝物の科学的調査」	宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員	126
11月 8日	「正倉院の武器・武具」	学芸部研究員 岩戸晶子	116
27年1月10日	「おん祭と威儀物」	春日大社権宮司 岡本彰夫	78
27年2月28日	「和紙—文化財を支える日本の紙—」	上窪良二、岡岩太郎、湯山賢一	194
27年3月 8日	「東大寺二月堂修二会(お水取り)の行法」	東大寺長老 森本公誠	192

2) 夏季講座 第43回「醍醐寺と南都の密教」 1回 (3日間) 561人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
8月19日	「聖宝理源大師の祈り—南都への思い」	総本山醍醐寺百三世座主 仲田順和	561
	「醍醐寺・南都の仏教建築と境界曼荼羅」	京都大学大学院工学研究科准教授 富島義幸	
	「醍醐寺の仏画」	東京藝術大学客員教授 有賀祥隆	

8月20日	「国宝醍醐寺文書聖教の史的価値について」	日本女子大学文学部教授 永村真
	「醍醐寺の仏像—国宝薬師三尊像と弥勒堂弥勒菩薩像を中心に—」	大正大学文学部歴史学科教授 副島弘道
	「中世の醍醐寺と修験道」	埼玉県立文書館学芸員 関口真規子
	「醍醐寺の舍利信仰と南都」	当館学芸部長 内藤栄
8月21日	「中世における醍醐寺」	総本山醍醐寺霊宝館学芸員 藤井雅子
	「醍醐寺のすべて—展覧会紹介—」	当館学芸部研究員 齋木涼子

3) サンデートーク 12回 参加者総数 978人

実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
4月20日	「密教法具の始まりを求めて」	学芸部長 内藤栄	72
5月18日	「平安時代の写経 九・十世紀篇」	学芸部企画室長 野尻忠	71
6月15日	「幸せの王国 ブータン Part2」	学芸部研究員 岩戸晶子	72
7月20日	「続・山形の話」	学芸部主任研究員 清水健	67
8月17日	「仏像の〈中国化〉をめぐって—5・6世紀の如来像を中心に—」	学芸部教育室長 岩井共二	137
9月21日	「第5回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」	学芸部情報サービス室長 吉澤悟	61
10月5日	「仏像調査からわかること その3」	学芸部上席研究員 岩田茂樹	68
11月16日	「文化財を科学する」	学芸部主任研究員 鳥越俊行	73
12月21日	「文化財を撮る—信頼のおける写真を求めて—」	学芸部資料室員 佐々木香輔	75
1月18日	「内山永久寺と南都の密教絵画」	学芸部保存修理指導室長 谷口耕生	106
2月15日	「阿弥陀来迎図をめぐって」	学芸部研究員 北澤菜月	116
3月15日	「文化財とアーカイブズ 奈良国立博物館の取り組みから」	学芸部資料室長 宮崎幹子	60

4) その他展示に関連するイベント 11回(内、中止1回) 参加者総数 774人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
5月3日	チャッピー岡本のカブリモノ変心塾〜仏像になってみよう!〜	地下回廊	11
8月10日	消しゴムはんこで、ほとけさまを彫ってみよう!	地下回廊	※台風接近のため中止
8月11日	夏休み親子講座「守ろう!知ろう!文化財」	講堂	84
10月24日 ~11月12日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	—
11月1日	古典の日講演会「東大寺献物帳と光明皇后」	講堂	110
11月2日	正倉院学術シンポジウム2014 「正倉院宝物に日本文化の源流をみる」	奈良県新公会堂	192
11月3日	第66回正倉院展 親子鑑賞会	講堂・展示室	171
12月17日	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園、西新館南側ピロティ	84
12月20日	奈良トライアングルミュージアムズ 東京セミナー ~冬の奈良の魅力~	奈良まほろば館	63
12月21日	仏像を撮ってみよう!	講堂、地下写場	24
2月14日	お水取り「講話」と「粥」の会	講堂・展示室・茶室控室・東大寺二月堂	35

【九州国立博物館】

1) 特別展記念講演会 4回 参加者総数 980人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月19日	特別展「近衛家の国宝」関連 特別記念講演会「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝」	公益財団法人陽明文庫文庫長 名和修	250
7月13日	特別展「クリーブランド美術館展」関連 特別記念講演会「アメリカ人の目利き—シャーマン・リーとクリーブランド美術館コレクション」	明治学院大学教授 山下裕二	275
11月1日	特別展「台北 國立故宮博物院—神品至宝—」関連 特別講演会「皇帝を魅了した名品たち—中国書跡を中心に—」	東京国立博物館列品管理課長 富田淳	150
1月27日	特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘」 特別講演会「七支刀と百済研究の最前線」	石上神宮宮司 森正光 韓国国立公州博物館長 金鍾萬 韓国国立中央博物館研究企画部学芸研究官 李炳鎬 福岡県教育庁文化財保護課長 赤司善彦	305

2) 講演及びシンポジウム等 26回 参加者数 2,132人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月13日	文化財保存国際交流セミナー 「バンコク国立博物館における保存修復」	タイ王国芸術局国立博物館部保存科学専門官 シリチャイ・ワンチャルントラクン	35
4月25日	特別展「近衛家の国宝」関連 しつこ九博!「近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」解説講座(筑紫野市)	九州歴史資料館学芸調査室学芸員(元九州国立博物館展示課主任研究員) 酒井芳司	24
4月26日	特別展「近衛家の国宝」関連 リレー講座 近衛家の国宝展の魅力に迫る 「近衛家の曙光—藤原道長の登場—」 「信尹と家熙—近衛家が生んだ桃山・江戸の文化人—」	元展示課主任研究員 酒井芳司 文化財課資料登録室主任研究員 荒木和憲	68
5月3日	特別展「近衛家の国宝」関連 関連講演会 「藤原道長『御堂関白記』と世界記憶遺産への道程」	国際日本文化研究センター教授 倉本一宏	190
5月10日	特別展「近衛家の国宝」関連 リレー講座 近衛家の国宝展の魅力に迫る 「近衛家の成立—藤原道長以後—」 「陽明文庫の書の魅力」	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 渡部史之 文化財課資料登録室主任研究員 丸山猶計	70

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
5月30日	文化財保存交流セミナー 「文化財科学研究の発展を辿る—考古学を中心に—」	東京学芸大学名誉教授 大沢真澄	25
6月28日	特別展「クリーブランド美術館展」関連 アクロス文化学び塾 プレ講座 「準備万端! クリーブランド美術館展の楽しみ方」	企画課研究員 鷲頭桂	70
7月11日	特別展「クリーブランド美術館展」関連 しつこ九博! 「クリーブランド美術館展 名画でたどる日本の美」解説講座 (筑紫野市)	企画課研究員 鷲頭桂	24
7月16日	特別展「クリーブランド美術館展」関連 講演会「夏の夜の日本美術入門」 (公益財団法人 九州経済調査協会)	企画課研究員 鷲頭桂	30
7月19日	特別展「クリーブランド美術館展」関連 リレー講座 「日本絵画入門: 千年の歴史をたどる」	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀 企画課研究員 鷲頭桂	80
8月16日	トピック展示「高等学校所蔵考古名品展」関連 全国高等学校考古学フォーラム in 九州国立博物館 2014	福島県立磐城高等学校 西山結衣氏 東邦大学付属東邦高等学校 伊東雄也氏 熊本県立鹿本高等学校 堀啓太氏 福岡県立糸島高等学校 風呂ノ上拓志氏	93
10月23日	「建中寺文化財建造物の塗装材料調査」	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 赤田昌倫	60
10月25日	特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」関連 シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味—工芸における復古と革新—」 「乾隆帝收藏の汝窯磁器と関連する諸問題」 「日本でつくられた倣中国製彫漆器」 「乾隆帝の玉器評価基準」 「考古資料から見た徽宗の青銅器文化復興」	国立故宮博物院 器物処副所長 余佩瑾 企画課文化交流展室主任研究員 川畑憲子 国立故宮博物院 器物処科長 張麗端 東京国立博物館 学芸研究部長 谷豊信	150
10月25日	特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」関連 しつこ九博! 「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」解説講座 (筑紫野市)	企画課文化交流展室主任研究員 川畑憲子	47
11月8日	特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」関連 講演会「中国における文物の意義—皇帝たちが受け継いだ名画—」	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀	50
27年 1月13日	九州国立博物館の魅力を学ぼう!! ①	展示課情報サービス室研究員 小嶋篤	60
27年 1月20日	九州国立博物館の魅力を学ぼう!! ②	展示課情報サービス室主任研究員 進村真之	30
27年 1月22日	九州国立博物館の魅力を学ぼう!! ③	展示課展示調整室主任研究員 岸本圭	60
27年 1月23日	九州国立博物館の魅力を学ぼう!! ④	企画課文化交流展室長 河野一隆	200
27年 1月24日	特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」関連講演会「文化財科学は解き明かす 自然災害Ⅲ『文化遺産と科学—過去に学ぶ防災—』」 「1.17から3.11 - 文化財の危機管理意識 -」 「八重山諸島の巨大津波を探る」 「西日本沿岸の巨大津波痕跡から将来を考える」 「地震考古学と九州の地震災害」	館長 三輪嘉六 石垣市教育委員会文化財係長 島袋綾野 高知大学総合研究センター特任教授 岡村眞 産業技術総合研究所客員研究員 寒川旭	110
27年 1月30日	特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」関連 しつこ九博! 「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」 解説講座 (筑紫野市)	展示課展示調整室主任研究員 岸本圭	78
27年 2月1日	特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」関連 リレー講座 九博研究員が語る! 考古学を100倍楽しむ方法 「獣帯鏡の謎」 「右片袖の思想—日本の横穴式石室のはじまり」	展示課展示調整室主任研究員 岸本圭 企画課文化交流展室長 河野一隆	120
27年 2月7日	文化趣味講座 「九州国立博物館 古代日本と百済の交流」鑑賞教室	展示課展示調整室 岸本圭	25
27年 2月22日	特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」関連 リレー講座 九博研究員が語る! 考古学を100倍楽しむ方法 「激動の7世紀を戦った兵士」 「発掘された日本列島2014の見どころ」	展示課情報サービス室研究員 小嶋篤 展示課情報サービス室主任研究員 進村真之	90
27年 3月8日	トピック展示「栴右衛門 受け継がれる技と美」関連 国際シンポジウム「世界のアリタ —有田焼の伝統と未来へ続く創造性—」	元佐賀県立九州陶磁文化館館長 大橋康二 メゾ・フィツキー氏	253
27年 3月14日	「進化する博物館Ⅲ」特別シンポジウム 「装飾古墳がやってくる」~e-Heritageへの招待~ 第1部「九州装飾古墳群」 第2部「VR作品特別上演会」 VR作品「アンコール遺跡バイヨン寺院」特別上演解説 VR作品「百舌鳥古墳群」特別上演 映像作品「装飾古墳バーチャルシアター作品上映」	東京大学大学院情報学環教授 池内克史 東京文化財研究所保存修復科学センター修復材料研究室長 朽津信明 企画課文化交流展室長 河野一隆	90

3) ミュージアムトーク 52回 参加者総数 1,582人

- ・担当研究員数 延べ 32人
- ・事業内容 文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
(原則として毎週火曜日の午後3時より15~30分間)

実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
4月1日	須恵器のまつり	企画課文化交流展室長 河野一隆	20
4月8日	蒙古襲来絵詞と関連遺物	文化財課資料登録室主任研究員 荒木和憲	15
4月15日	近世絵画名品展(3)	企画課特別展室研究員 鷲頭桂	30

実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
4月22日	近世絵画名品展(4)	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀	30
4月30日	アジアの民族造形	展示課長 楠井隆志	20
5月7日	大宰府と鬼瓦	展示課情報サービス室研究員 小嶋篤	69
5月13日	神話のふるさと日向の考古学	展示課展示調整室主任研究員 岸本圭	20
5月20日	解剖書に見る東洋と西洋	元展示課主任研究員 酒井芳司	30
5月27日	博物館の環境管理について	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	20
6月3日	中国を旅した禅僧の足跡	文化財課資料登録室主任研究員 丸山猶計	40
6月10日	針聞書のひみつ	交流課教育普及室主任研究員 池内一誠	30
6月17日	受け継がれる正倉院宝物	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 渡部史之	20
6月24日	火焰土器と3Dプリンタ	博物館科学課長 今津節生	30
7月1日	和漢三才図絵(わかんさんさいずえ)	文化財課長 富坂賢	25
7月8日	御玉貫(うたますき)について	文化財課資料登録室アソシエイトフェロー 望月規史	25
7月15日	クリーブランドの仲間たちpart1	企画課特別展室研究員 鷲頭桂	20
7月23日	クリーブランドの仲間たちpart2	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀	97
7月29日	クリーブランドの仲間たちpart3	企画課特別展室研究員 森實久美子	40
8月5日	高校考古エピソード集	企画課特別展室主任研究員 市元壘	32
8月12日	見て さわって 聞いて 楽しい展示	展示課情報サービス室主任研究員 進村真之	20
8月15日	銅鐸の輝きと音色	神戸市立博物館 橋詰清孝	30
8月19日	寿司屋の銅鐸	学芸部長 井上洋一	25
8月26日	高校と考古学の歴史	企画課特別展室主任研究員 市元壘	25
9月2日	田中丸コレクション	展示課展示調整室研究員 遠藤啓介	20
9月9日	江戸時代の婚礼調度	企画課文化交流展室主任研究員 川畑憲子	30
9月17日	縄文時代の石器について	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	30
9月25日	アジアの辞令書	交流課教育普及室主任研究員 池内一誠	10
9月30日	ガンダーラにおける仏伝図	企画課課長 臺信祐爾	30
10月7日	古文書に親しむ	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 渡部史之	20
10月14日	お金の歴史	文化財課資料登録室主任研究員 荒木和憲	30
10月21日	豊前求菩提山について	展示課長 楠井隆志	30
10月29日	展示室(文化交流展示3室)から眺める古墳時代	展示課情報サービス室研究員 小嶋篤	45
11月5日	倭人の暮らし	展示課情報サービス室主任研究員 進村真之	30
11月11日	人物埴輪のよそおい	展示課展示調整室主任研究員 岸本圭	30
11月18日	宮地獄古墳出土 国宝超大型大刀の復原製作	企画課文化交流展室長 河野一隆	30
11月25日	筑紫君と宗像君	展示課情報サービス室研究員 小嶋篤	40
12月2日	梵音具の魅力	文化財課資料登録室アソシエイトフェロー 望月規史	15
12月9日	対馬宗家文書	展示課展示調整室研究員 一瀬智	15
12月16日	朝鮮通信使	文化財課長 富坂賢	18
27年1月6日	国宝 初音の調度	企画課文化交流展室主任研究員 川畑憲子	20
27年1月14日	日中韓の書法の競演	文化財課資料登録室主任研究員 丸山猶計	26
27年1月20日	トピック展示「大涅槃展」の楽しみ方	企画課研究員 森實久美子	60
27年1月27日	四天王について	企画課長 臺信祐爾	40
27年2月3日	広開土王碑を語り継ぐ	企画課特別展室主任研究員 市元壘	50
27年2月10日	円筒埴輪のおもしろさ	展示課情報サービス室研究員 小嶋篤	60
27年2月17日	装飾古墳の色を調査する	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 赤田昌倫	28
27年2月24日	桃山時代の華 - 円満院宸殿の障壁画について -	企画課研究員 鷲頭桂	15
27年3月3日	柿右衛門窯の歩み	企画課特別展室アソシエイトフェロー 酒井田千明	50
27年3月10日	火焰土器と3Dプリンタ	博物館科学課長 今津節生	20
27年3月17日	貝塚について	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	30
27年3月24日	青銅器の色	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	20
27年3月31日	古墳時代の武装	展示課情報サービス室研究員 小嶋篤	27

4) その他展示に関連するイベント 23回 参加者数 143,786人

展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数(人)
文化交流展	7月20日、27日、 8月3日、10日、 17日、24日、31 日	関連展示「小中学生からの考古学」 関連企画 考古学者と話そう!	文化交流展示室	160
	8月16日	全国高等学校考古学フォーラムin九州国立博物館2014 福島県立磐城高等学校「天冠埴輪の発掘とその特色」 東邦大学附属東邦高等学校(千葉県)「東邦大学校内に残る習志野騎兵連隊兵舎 周辺調査」 熊本県立鹿本高等学校「鹿本高校考古学部の歴史と現在の活動」 福岡県立糸島高等学校「火山(ひやま)の烽火台を訪ねて」	ミュージアムホール	100
	2月15日	九州国立博物館開館9周年記念イベント 小編成ガムラン「ガドン」の開催	文化交流展示室 関連第9室	100

展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数(人)
特別展「近衛家の国 宝」	5月5日	「ちはやふる」の世界 一かるたクイーンに学ぶ競技かるた」	ミュージアムホール	150
	5月11日	「源氏物語 千年の謎」上映会	ミュージアムホール	236
	5月17日	つづけ字しおりワークショップ	エントランス	95
	5月25日	書の甲子園優勝!太宰府高校芸術科生徒による書道実演&つづけ字しおりワーク ショップ	エントランス	200
特別展「グリーブランド美術館展」	7月5日~8月31 日	紹介パネル展示	エントランス	132,526
	7月15日~27日 8月5日~17日	「雷神めり絵はがき」ワークショップ	エントランス	2,600
	7月24日	親子鑑賞会「親子で楽しむグリーブランド美術館展」	研修室	34
	8月3日	尺八の演奏とともに楽しむグリーブランド美術館展	ミュージアムホール	520
	8月10日	夏休み親子工作「てづくりカメラ」つくって、覗いて、描いてみよう!	研修室	27
	8月22日~23日	日本画ワークショップ「琳派の燕子花を描く」	交流サロン	15
特別展「台北 国立故宮 博物院―神品至宝―」関 連	9月11日	イベント①セミナー&ランチ「台北故宮展を先取り! 至宝のレシピを一挙公開」	鼎泰豊(博多阪急5階)	40
	9月14日	イベント②谷原章介×九州国立博物館学芸員トークショー「谷原章介が現地で 出逢った!台北故宮の魅力とは?」	FFGホール(福岡市中央区 天神2-13-1)	600
	11月8日~16日	8Kスーパーハイビジョン「故宮の美」上映会	4階文化交流展示室 スーパーハイビジョンシ アター	5,304
特別展「古代日本と百済の交流―大宰 府・飛鳥そして公州・扶餘―関連	27年1月11日	スペシャルサポーター・SHUI スペシャルコンサート	ミュージアムホール	390
	27年1月18日	九州国立博物館を愛する会による影絵公演「水城跡のものがたり ひとつこ山 と父子島」	ミュージアムホール	295
	27年1月25日	ウォーキングツアー「考古学者と行く!史跡探訪」てくてく水城コース	九州国立博物館、観世音 寺、大宰府政庁跡、水城 跡	12
	27年2月8日	ウォーキングツアー「考古学者と行く!史跡探訪」健脚向き 大野城登山コース	九州国立博物館、大野城 跡、県民の森センター、 岩屋城跡、大宰府政庁跡	12
	27年2月15日	もうすぐ九博10周年イベント「福岡発市民ミュージカル“ASUKA”」	ミュージアムホール	360
特別展「日本 発掘発掘さ れた日本列 島2014 」関連	27年1月18日	なりきり考古学者体験 スペシャル・バージョン	大宰府政庁跡	7
	27年2月15日	なりきり考古学者体験 スペシャル・バージョン	大宰府政庁跡	3

2-(2)-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業

平成27年3月31日現在

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	通年
開催場所	本館19室みどりのライオン体験コーナー、本館地下教育普及スペース、東洋館6室オアシス
入場者数	197,544 (※東洋館6室オアシスと本館19室参加者数を計数)
担当研究員数	10人
事業内容	4月16日から本館19室に「みどりのライオン体験コーナー」を開設。伝統模様のスタンプでポストカードを作る「トーハクでデザイン」、作品の制作工程や技法がわかる「トーハクで〇〇ができるまで」、e 国宝がさらに使いやすくなった「トーハクで国宝をさぐる」、3Dの作品画像を自由に動かせる「トーハクをまわそう」の5つの体験コーナーを設置した。各種レクチャーや体験型プログラムなどを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。また、総合文化展鑑賞の手引きとして、ワークシート4種を制作し、通年配布した。

2) 「親と子のギャラリー」

「仏像のみかた」	
開催期間	6月10日～8月31日(74日間)
開催場所	本館11,14室
入場者数	206,884人(※本館入館者数を計数)
担当研究員数	3人
事業内容	家族での来館のきっかけ、および、総合文化展鑑賞の一助となることを目的に、わかりやすいテーマ設定のもと時代やジャンルを超えた作品を展示する教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。仏像を自分の目で見るという切り口でわかりやすく伝えることを目指した。仏像の表現や制作技法の豊かさに触れ、「ほんもの」の作品の鑑賞を通して、歴史のなかで培われてきた日本文化のすばらしさを伝える。関連ギャラリートークも実施。
関連事業	・ファミリーワークショップ「仏像のみかた」 7月27日 (※詳細は 2-(2)-④ 3)③ワークショップを参照)

3) 体験型プログラムの実施 参加者数計204,765人、

① 平常展示関連体験型プログラム 参加者数計 203,044人

ハンズオン体験型展示	総合文化展(東洋館)関連「アジアの占い体験」	
	期 間	4月1日～12月23日
	開催場所	東洋館6室オアシス
ハンズオン体験型展示	総合文化展(本館)「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐる」「トーハクをまわそう」	
	期 間	4月15日～12月23日
	開催場所	本館19室みどりのライオン体験コーナー
アクティビティ	特集陳列「博物館に初もうで」(本館特別1・特別2室)関連「トーハク 羊めぐり」	
	期 間	27年1月2日～1月3日
	開催場所	本館特別4室
	参加者数	5,500人

② 平常展示関連 ワークショップ及び関連事業 回数 25回 参加者数計1,721人

ワークショップ及び関連事業	桜ワークショップ むり絵 日本のデザイン、色づかい	
	期 間	①4月5日、②4月6日
	開催場所	平成館ラウンジ
	参加者数	①192人、②228人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展(本館)関連 中高生のためのワークショップ「学芸員に挑戦！」(事前申込制)	
	期 間	5月27日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	7人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展(本館)関連 おとなのためのワークショップ「学芸員に挑戦！」(事前申込制)	
	期 間	5月27日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	18人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展(本館)関連 ワークショップ「季節のもようのお血作り」(事前申込制)	
	期 間	①6月6日、②6月7日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	①16人 ②18人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「親と子のギャラリー 仏像のみかた 鎌倉時代編」(本館11・14室)関連 ファミリーワークショップ「仏像のみかた」(事前申込制)	
	期 間	7月27日 ①10時～ ②14時～
	開催場所	本館11・14室
	参加者数	①9人 ②11人
	担当研究員数	3人

ワークショップ及び関連事業	総合文化展「特集 古文書の世界」(本館15室)関連 中高生のためのワークショップ「古文書のかたち」(事前申込制)	
	期 間	8月8日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	7人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「特集 古文書の世界」(本館15室)関連 ファミリーワークショップ「古文書のかたち」(事前申込制)	
	期 間	8月9日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	19人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「特集 古文書の世界」(本館15室)関連 ワークショップ「古文書のかたち」(事前申込制)	
	期 間	8月9日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	22人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	特集「趙之謙の書画と北魏の書—悲盒没後130年—」(東洋館8室)関連 ファミリーワークショップ「趙之謙&北魏の書に挑戦!」(事前申込制)	
	期 間	8月23日 ①10時~ ②14時~
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	①12人 ②21人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」(本館7室)関連 ファミリーワークショップ「屏風体験!」(事前申込制)	
	期 間	9月6日 ①10時~ ②14時~
	開催場所	応挙館
	参加者数	①11人 ②20人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展(東洋館)関連 ファミリーワークショップ 親子でぶつぞう探検 in ナイト・ミュージアム	
	期 間	10月12日
	開催場所	東洋館展示室
	参加者数	65人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「特集国宝再現—田中親美と模写の世界—」(平成館企画展示室)関連 おとなのためのワークショップ「唐紙の魅力、料紙の魅力」	
	期 間	①10月24日、②10月25日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	①18人、②18人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「特集国宝再現—田中親美と模写の世界—」(平成館企画展示室)関連 ファミリーワークショップ「きらきら光る唐紙を摺ろう」	
	期 間	10月25日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	10人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「金工」(本館13室)関連 ファミリーワークショップ「エビを作ってみよう」	
	期 間	①11月29日 ②11月30日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	①16人 ②21人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	桜ファミリーワークショップ ふれて納得! 茶の湯の茶碗	
	期 間	3月21日 ①10時~ ②15時~
	開催場所	九条館
	参加者数	①23人 ②20人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	桜ワークショップ 春らんまん 桜ぬりえ	
	期 間	①3月28日 ②3月29日
	開催場所	本館2階ラウンジ
	参加者数	①468人 ②451人
	担当研究員数	3人

4) 東博スクールプログラム

期 間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校27校1,267人/中学校91校2,923人/高校51校 1,404人/中高一貫0校0名 計169校5,594人 ※児童・生徒のみを計数。この他引率教員が529人 ※特別支援学校、特別支援学級で「盲学校のスクールプログラム」以外を受講した場合も計数 盲学校のためのスクールプログラム 3校 17名
担当研究員数	3人

事業内容	総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、ガイダンスや対話形式の伝統文化理解のための鑑賞教育プログラムを児童・生徒に実施した。スクールプログラムのパンフレットは近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。 視覚障害者の鑑賞支援プログラム「盲学校のためのスクールプログラム」を継続実施した。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5) 職場体験の受入

期 間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校16校51人／高校 3校12人、計19校63人
担当研究員数	2名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。生涯学習ボランティアとともに、お客様案内やアクティビティの補助等、お客様サービスに関わる業務の体験をする。要項は近隣学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。

6) 教員を対象とした事業の実施

① 教員鑑賞会の実施

期 間	①8月5日（親と子のギャラリー）、②10月18日（特別展「日本国宝展」）、③1月17日（特別展「みちのくの仏像」）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	①20人、②272人、③177人、計469人
担当研究員数	5人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム「スクールプログラム」を中心とした博物館利用方法、特別展観覧の手引きとして作成したジュニアガイドの活用方法の説明とともに、展示の解説を行った上で実際に展示を観覧することで、博物館利用についての興味関心、理解を深める。また、指導要領と関連した授業案を提案した。

② 全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

期 間	7月30日～8月1日
開催場所	本館地下教育普及スペース、展示室、会議室／東京芸術大学
参加者数	41人
担当研究員数	3人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象とした研修会。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めることを目指す。今年度は第10回目として「日本の陶磁」をテーマに博物館では歴史に関する講義と鑑賞、大学では実技研修を実施した。

【京都国立博物館】

1) 少年少女博物館くらぶ

事業名：小・中学生向け鑑賞会「みほとけめぐり！」	
実施日	5月11日、18日
対象	小学生から中学生
参加者数	小中学生23人、保護者34人

2) 博物館Dictionaryの発行 4回

- ・発行部数 8,000部
- ・配布先 館内観覧者等

3) 児童・生徒の無料入場

- ・特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」 中学生以下の入場料を無料
- ・平成知新館「名品ギャラリー」 高校生以下の入場料を無料

4) 特別展覧会「南山城の古寺巡礼」こども向けワークシート作成

- ・発行部数 50,000部
- ・配布先 館内観覧者

5) 特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」鑑賞ガイド作成

- ・発行部数 140,000部
- ・配布先 館内観覧者

6) 「さわって発見！ミュージアム・カート」の実施

事業名：	
実施日	9月13日～3月31日の開館日 10:15～16:15
場所	平成知新館 2階、3階
対象	子どもを含む来館者全員
参加者数	定員なし
事業内容	新規に立ち上げたボランティアである「京博ナビゲーター」が、館内に設置された「ミュージアム・カート」で来館者と対話しながら、文化財の魅力を発信し、展示品への理解を深める手助けをした。考古・彫刻・絵画の三分野に関するハンズオン教材を、ミュージアム・カートの教材として開発・作成し、活用した。

7) 訪問授業

①文化財ソムリエによる京都市内の小中学校への訪問授業 7回 488人

事業名：文化財に親しむ授業	
実施概要	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館 文化財に親しむ授業講師）が担当した。
対象	京都市内の小中学校
主催	文化財に親しむ授業実行委員会（京都国立博物館、NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会）
実施内容	6月10日 京都市立醒泉小学校 6年生37名 「風神雷神図屏風」 俵屋宗達筆 7月9日 京都市立朱雀第一小学校 6年生100人 「松鷹図」（二条城） 9月2日 京都市立祥豊小学校 6年生61人 「風神雷神図屏風」 俵屋宗達筆 10月7日 京都市立烏丸中学校 1・2年生94人 「八橋図屏風」 尾形光琳筆 10月30日 京都市立葵小学校 6年生66人 「風神雷神図屏風」 俵屋宗達筆 11月19日 京都市立衣笠小学校 6年生65人 「風神雷神図屏風」 俵屋宗達筆 12月10日 京都市立伏見住吉小学校 5年生65人 「風神雷神図屏風」 俵屋宗達筆

② 研究員による訪問授業 2回 93人

事業名：文化財に親しむ授業	
実施日	11月14日
場所	京都聖母学院高等学校
対象	京都聖母学院高等学校 3年生
参加者数	75人
担当研究員数	1人
主催	文化財に親しむ授業実行委員会（京都国立博物館、NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会）
事業内容	「風神雷神図屏風」（俵屋宗達筆）、「松鷹図」（二条城）の高精細複製を教材として、ワークショップもまじえた授業を行った。
事業名：文化財に親しむ授業	
実施日	2月19日
場所	京都市立洛南中学校
対象	京都市立洛南中学校 PTA
参加者数	18人
担当研究員数	1人
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業内容	「風神雷神図屏風」（俵屋宗達筆）の高精細複製を教材として、子どもと一緒に文化財を楽しむためのヒントを保護者に伝えるための授業を行った。

8) 教員を対象とした事業の実施

① 社会科教員のための向上講座 1回 66人

実施日	10月22日
開催場所	平成知新館及び明治古都館
参加者数	66人
担当研究員数	1人
事業内容	京都市教育委員会との連携事業。研究員による講義のあと、平成知新館オープン記念展「京へのいざない」展のギャラリートークと質疑応答、特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」の観覧を実施した。小中学校社会科教員と総合支援学校全教員を対象とする。

② 教員研修への協力 3回 66人

事業名：（中・総）美術科夏季研修講座	
実施日	7月28日
開催場所	京都市総合教育センター
参加者数	27人
担当研究員数	1人
事業内容	京都市教育委員会と京都市立中学校教育研究会美術部会が主催する、美術科の教員向けの研修講座にて、文化財複製を用いた授業実践のための講義を行った。
主催	京都市教育委員会、京都市立中学校教育研究会美術部会
事業名：（小・総）授業実践力向上講座〈図画工作①〉	
実施日	6月18日
開催場所	京都市総合教育センター
参加者数	32人
担当研究員数	1人
事業内容	京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会が主催する、小学校教員向けの図画工作の研修講座にて、文化財複製を用いた授業実践のための講義を行った。
主催	京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会
事業名：臨地研修	
実施日	10月22日
開催場所	京都国立博物館 平成知新館研修室・明治古都館展示室
参加者数	7人
担当研究員数	1人
事業内容	社会科教員に向けて、展示品に関する解説・展示見学を行った
主催	神戸市立葺合高等学校（兵庫県）

③ 文化財の複製を用いた授業に関する交流会 1回 29人

実施日	8月2日
開催場所	NPO 法人京都文化協会 会議室
参加者数	29人

担当研究員数	2人
事業内容	京都市内の小中学校教員、文化財ソムリエ、京都国立博物館・京都文化協会職員、その他文化財の複製を用いた教育活動に関心のある人々を交えて、「文化財に親しむ授業」の活動紹介や、意見交換を行った。過去の授業例紹介は、文化財ソムリエ（学生ボランティア）や卒業生が行った。
主催	文化財に親しむ授業実行委員会（京都国立博物館、NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会）

④高精細複製を用いた授業実践への協力

事業概要	高精細複製を用いた授業実践を希望する学校に対して、実践例の紹介や資料の提供、当日の設営・授業の補助などを行った。
対象	京都市内の小中学校
実施内容	10月9日 朱雀第六小学校 6年生27人 「松鷹図」（二条城） 11月8日 烏丸中学校 3年生2クラス 「八橋図屏風」尾形光琳筆 11月21日 翔鷲小学校 6年生27人 「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 27年1月22日 粟陵中学校 2年生160人 「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆

9) 来館学校団体等への対応 7回 161人

内容	解説や体験プログラム等を提供する
対象	解説や体験を希望した学校団体等
実施内容	5月13日 川根本町立本川根中学校（静岡県）生徒5人・引率1人、博物館業務に関するインタビュー・体験活動 5月14日 佐賀市立金泉中学校（佐賀県）生徒5人・引率1人、博物館業務に関するインタビュー 5月31日 静岡市立城山中学校（静岡県）生徒5人、展示見学・文化財に関する質問 9月20日 鴨沂高等学校（京都府）生徒20人・引率1人、ワークショップ・展示品に関する解説・展示見学 10月18日 鴨沂高等学校（京都府）生徒20人・引率1人、ワークショップ・展示品に関する解説・展示見学 10月21日 銅駝美術工芸高等学校（京都府）生徒94人・引率6人、展示品に関する解説・展示見学 11月9日 ジュニア京都観光大使2人、「家庭教育新聞」記事作成のための取材（展示品に関する解説・展示見学）

10) 館外でのワークショップ 3回 700人

事業名：岩絵具でつくる 夏のキラキラ☆はがき	
実施日	7月21日
開催場所	仙台市産業情報プラザ
参加者数	500人
事業内容	「子どもひかりプロジェクト」が主催する「ミュージアム・キッズ・フェア」にブース出展し、日本の伝統的な絵具の材料をつかった、吉祥文様のハガキづくりワークショップを行った。ブース運営には子どもひかりユース（東北地方の大学生ボランティア）や、京都国立博物館の文化財ソムリエ（大学生ボランティア）も参加した。
事業名：京都国立博物館ワークショップ こども美術ひろば	
実施日	8月24日
開催場所	ゼスト御池（京都市）
参加者数	80人
事業内容	ゼスト御池の子ども向け学習体験イベントの「ゼスト寺子屋」に参加し、日本の伝統的な絵具の材料をつかった、吉祥文様のハガキづくりワークショップを行った。
事業名：岩絵具でつくるキラキラ☆年賀状	
実施日	12月23日
開催場所	アエル（仙台市）
参加者数	120人
事業内容	「子どもひかりプロジェクト」が主催する「ミュージアムストリート2014」にブース出展し、日本の伝統的な絵具の材料をつかった、吉祥文様のハガキづくりワークショップを行った。ブース運営には子どもひかりユース（東北地方の大学生ボランティア）や、京都国立博物館の文化財ソムリエ（大学生ボランティア）も参加した。

【奈良国立博物館】

1) 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

- ・期間 事前申し込み制
- ・場所 展示会場・講堂等
- ・学校団体案内数 18件、計1,045名
- ・担当職員数 3人（ボランティア室）
- ・事業内容 当館ボランティアによるスライド学習と展示会場での作品の解説

2) 世界遺産学習への対応

- ・期間 4月～12月 事前申し込み制
- ・対応実績 奈良市内の小中学校35校（5年生の全クラスを対象） 計2,281名
- ・担当職員数 3人（ボランティア室）
- ・事業内容 奈良市教育委員会との共同で、市内の全小中学校5年生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。
当館ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

3) 子ども向け音声ガイドの制作

- ・特別展「天皇皇后両陛下傘寿記念 第66回正倉院展」で制作、計1,218台の利用があった。

4) 子ども向けイベントの実施

実施日	内 容	会 場	参加者数
5月3日	チャッピー岡本のカブリモノ変心塾～仏像になってみよう～	地下回廊	11
8月10日	消しゴムはんこで、ほとけさまを彫ってみよう！	地下回廊	（台風接近のため中止）

10月24日 ～11月12日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	—
11月3日	第66回正倉院展 親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：清水 健（奈良国立博物館学芸部主任研究員）	講堂	171

5) 職場体験の受入

期 間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校3校12名 (2年生)
担当職員数	1名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。券売業務や監視業務、ミュージアムショップや館内レストラン等に関わる業務の体験をする。

【九州国立博物館】

1) 博物館における体験型事業の充実

① 教育普及ゾーン（体験型展示室「あじっば」）で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっば」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムの開発 新規開発キット、プログラム：「藍の生葉で繭を染めてみよう」「藍の生葉でたき染めをしてみよう」「考古・自然史融合プログラム【南の貝の物語】」「ガムランと三線のコラボ演奏」
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	開館時は常時開放

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっば夏祭り」	
内容	「あじっば」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。平成26年度は、「花に花を咲かせよう」「紙着物」「拓本」「タングラム」「ひも結び」のコンテンツを提供した。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	7月26日（土）、27日（日）
九博子どもフェスタ	
内容	“博物館っておもしろいところ”をテーマに楽しいものづくりや色々な体験ができるイベント
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	九博ボランティア122名、愛する会 約60名、香崎市立一支国博物館6名、参加者のべ2,773名
実施	27年2月22日
茶道体験（「親子で茶道体験」、「はじめての茶道体験」）	
内容	茶室にて茶道初心者に対して茶道体験を実施
対象	「親子で茶道体験」小・中・高校生とその保護者、「はじめての茶道体験」中学生以上
人数	「親子で茶道体験」30名程度、「はじめての茶道体験」10名程度
実施	各月1回実施

③ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっば」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7カ国の文物を屋台風風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をととして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。 「あじっば」における特集展示 ①「あじ庵」：「桃の節句」「ひと針に込めた思い」「楽器のいろいろ」「装う」 ②「あじぎやら」：「はらのなかのはらっぱで」「木から生まれるもの」「花と鳥（アジア各国の工芸品に表現された花と鳥）」「インドネシアの伝統文化」「郷土人形」 ③ディスプレイ：「インドネシア」「オランダ」「ちょっとひと休み（アジア各国の喫茶具）」「日本・韓国・中国のお正月」 ④あじっば屋台展示替え：日本屋台を中心に5回
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放

④ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験、なりきり考古学者体験	
内容	①なりきり学芸員体験：作品の扱い方、展示の方法を通して学芸員の仕事を紹介する。 ②なりきり考古学者体験：作品の調書の作成、拓本体験を通して考古学者の仕事を紹介する。
対象	小学校中学年以上
人数	1回につき最大6名
実施	「なりきり考古学者」8回、「なりきり学芸員」10回（計18回）

2) 学校教育との連携事業の実施

① 職場体験の受け入れ

中学生・高校生の職場体験	
内容	中学校・高等学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、博物館への理解を促進する。
人数	1校につき最大6名
実施	23校から101名（のべ51日間）を受け入れ（受け入れ校：太宰府市立太宰府中学校、福岡県立輝翔館中等教育学校、祐誠高等学校、小郡市立三國中

	学校、福岡県立太宰府高等学校、福岡雙葉中学校、宇美町立宇美南中学校、春日市立春日北中学校、福岡市立筑紫丘中学校、大野城市立大利中学校A、大野城市立大利中学校B、筑紫野市立筑山中学校、大野城市立大野東中学校、太宰府市立太宰府東中学校、太宰府市立学業院中学校、春日市立春日野中学校、大野城市立大野中学校、大野城市立御陵中学校、筑紫野市立二日市中学校、筑紫野市立筑紫野中学校、宇美町立宇美中学校、春日市立春日南中学校、筑紫野市立筑紫野南中学校)
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	高校生を対象に、学芸業務体験を通して博物館に親しむ機会を提供する。博物館の活動を高校生と学校に理解してもらうことで、今後の博学連携に向けての布石とする。今年度は体験型展示室「あじっば」をお客様により親しんでもらえる方策について企画した。
人数	9校24名
実施	11月～3月の日曜日を中心に全8回（参加校：福岡大学附属若葉高等学校、筑紫台高等学校、久留米大学附設高等学校、福岡県立武蔵台高等学校、福岡県立春日高等学校、筑紫女学園高等学校、福岡県立筑紫高等学校、福岡県立太宰府高等学校、福岡県立筑紫丘中学校）

③ 教員研修の受け入れ

社会体験研修	
内容	教員を対象に社会貢献等の体験の場を提供し、教員の資質向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進を図る。
人数	4校6名
実施	平成26年8月9日～11日（初任者6名）

④ 教員を対象としたプログラムの実践

内容	教員を対象に博物館機能や展示内容、学校貸出キットなどについて解説し、博物館活動への理解を深め、学校による博物館利用を促進する。
人数	40名
実施	平成26年8月29日 福岡県教育センターキャリアアップ講座「博物館を活用した社会科授業づくり」（40名）

⑤ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し

学校貸出キット「きゅうぱっく」	
内容	博物館の展示に関連するハンズオン資料をバック化して貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。
対象	学校、社会教育団体等
実施	計67件（小学校30件、中学校19件、高等学校9件、特別支援学校4件、大学2件、その他3件）

⑥ 出前講座・授業実践支援事業への対応

出前講座への対応	
内容	学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に向いて博物館の機能やアジア各地・日本の歴史・文化についての講義を行う。また、学校貸出キット「きゅうぱっく」を活用した授業に関して、交流課職員がチーム・ティーチングなどで活動のサポートを行う。
対象	研究員による出前講座・授業実践支援事業を希望した学校
実施	計7校 5月2日 春日市立須玖小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 5月28日 太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座のガイダンス） 6月18日 太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座の一環として「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 7月2日 福岡県立小倉高等学校（来館の事前学習として「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 7月16日 太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座の一環として学芸員体験のワークショップ） 12月18日 福津市立福岡東中学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 2月13日 那珂川町立岩戸小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援）

⑦ 来館学校団体への対応

来館学校団体への対応	
内容	体験プログラムやバックヤード見学等を提供する。
対象	来館した学校団体のうち、体験や支援等を希望した学校
実施	計14校 4月24日 宇美町立原田小学校（「きゅうぱっく」を活用したハンズオン体験） 4月30日 麻生建築&デザイン専門学校（「きゅうぱっく」を活用したハンズオン体験） 5月13日 みやま市立瀬瀬中学校（ガイダンス、バックヤード見学） 6月6日 筑紫野市立筑紫野中学校（九博敷地内でのスケッチ大会 および 展示見学）※雨天のため当日中止 6月9日 福岡県立城南高等学校（進路学習に伴う博物館業務の説明） 6月15日 福岡県立筑紫丘高等学校（郷土研究部のフィールドワークに伴うワークショップやバックヤード見学） 7月15日 福岡教育大学附属福岡中学校（総合学習に於ける調査としてアジアの楽器について説明） 7月31日 福岡市立南福岡特別支援学校（車いす利用でのあじっば体験） 8月1日 福岡県立小倉高等学校（博物館機能と学芸業務についての講義、見学<文科省スーパーサイエンスハイスクール事業>） 9月18日 太宰府市立太宰府小学校（九州国立博物館のバリアフリー施設に関する調査活動） 10月23日 福岡県立香椎高等学校（博物館機能と学芸業務についての講義、見学） 11月6日 筑陽学園中学校（博物館機能と学芸業務についての講義、見学） 11月21日 福岡市立南福岡特別支援学校（車いす利用でのあじっば体験） 12月11日 大野城市立大利中学校（ふるさと学習の一環としての展示見学） ※展示解説を希望した学校団体への対応は含まない（別項ボランティアの欄に含む）

3) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業の実施

特別展「近衛家の国宝」体験コーナー	
内容	一般的には難しいと思われる書の楽しみ方を伝える体験コーナー。タブレットを使って、展示されている書の作品の一部を書く体験。ひらがなの成り立ちや書かれた時の筆の動きが理解できる内容とした。
開催場所	特別展示室
実施	4月15日～6月8日
特別展「近衛家の国宝」つづけ字しおりワークショップ	

内容	ワイヤーを使ってかなが書かれた時の筆の跡をなぞり、しおりを作るワークショップ。かな文字の形の美しさや筆の動きなどを認識し、書の世界に親しんでもらう目的で行った。
開催場所	エントランスホール
人数	190名(小学生以上)
実施	5月17日・25日
特別展「クレーブランド美術館展」体験コーナー	
内容	写真鏡のレプリカを実際に手にとってもらって体験コーナー。展示作品である渡辺華山作「大空武左衛門」が写真鏡を使って描かれたことを、体験を通して知ってもらうことが目的。
開催場所	特別展示室
実施	7月8日～8月31日
トピック展示「中国を旅した禅僧」展 漢字しおりワークショップ	
内容	展示された書の作品の中の漢字一文字をワイヤーでしおりにするワークショップ。書かれた時の筆の動きを、楽しみながら学ぶ。
人数	20名
開催場所	エントランスホール
実施	7月3日
トピック展示「全国高等学校考古名品」プロモーションビデオ	
内容	高校生にも展示会に興味を持ってもらえるよう、出品される埴輪などのミニチュアを粘土で作り、コマ撮り映像を作成。
開催場所	ホームページ
実施	7月15日～9月23日
特別展「クレーブランド美術館展」てづくりカメラワークショップ	
内容	親子を対象にした「てづくりカメラワークショップ」を行い、写真鏡の製作と写真鏡を使って絵を描く体験を行った。
開催場所	研修室
人数	27名
実施	8月10日(午前と午後の2回実施)
特別展「古代日本と百済の交流」わかりやすい作品解説、パネルなど	
内容	考古の専門用語を極力避けたわかりやすい章解説、作品解説、コラムを掲出。コラムにはイラストを用いて親しみやすい内容とした。
開催場所	特別展示室
実施	1月1日～3月1日
特別展「古代日本と百済の交流」ウォーキングツアー「考古学者と行く！史跡探訪」	
内容	展示会関連史跡を当館考古学担当者が案内するウォーキングツアーを実施。
開催場所	九博から水城跡まで歩く①「てくてく水城コース」と九博から四王寺山に登る②「健脚向け 大野城登山コース」の2コース。
人数	①12名 ②12名
実施	①1月25日 ②2月8日
特別展「日本発掘」考古学者のメモ帳「野帳」公開	
内容	展示物が出土した遺跡で使用された野帳を6冊展示。また、当館考古学担当者の野帳も合わせて展示。考古学者の仕事を知ってもらうことが目的。
開催場所	特別展示室
実施	1月1日～3月1日
特別展「日本発掘」ワークショップ なりきり考古学者体験	
内容	考古学者の仕事を経験するワークショップ。遺跡調査方法の一つ、平板測量を体験。2回実施。
実施場所	大宰府政庁跡
人数	①7名 ②3名
実施	①1月18日 ②2月15日

4) 高等教育との連携

① 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップ

内容	筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催 (筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。)
実施期間	5月6日(火)、7月6日(日)、8月10日(日)、10月4日(土)、1月25日(日) 計5回
開催場所	1階ミュージアムホール
参加者数	毎回28人

5) 館外の文化施設等における体験型ワークショップ

内容	館への理解促進・生涯学習支援の活動として館外の文化施設等において体験型ワークショップを実施した。
対象	子どもおよび親子連れを中心とした一般の方
実施	計11件(参加総数 1,526人) 実施箇所等は以下のとおり(人数は当館担当ブースの体験者数) 5月 3日(土) : 広島県立博物館(参加192人) 7月22日(火) : 仙台AER(参加100人) 8月 2日(土) : 香川県立一支部博物館(参加100人) 8月19日(火) : 大和公民館(参加40人) 9月20日(土) : ムシテックワールド、田村市船引公民館(参加440人) 10月11日(土) : 九州芸文館(参加235人) 10月25日(土) : 吉野ヶ里歴史公園(参加75人) 11月1日(土) : 兵庫県立考古博物館(参加56人) 11月2日(日) : 兵庫県立人と自然の博物館(参加30人) 11月23日(日) : 福岡県立少年自然の家「玄海の家」(参加138人) 12月23日(火) : 仙台AER(参加120人)

2-(2)-⑤ 大学生・大学院生を対象とした教育事業

平成27年3月31日現在

1) 大学等との連携事業

【京都国立博物館】

内 容	京都大学大学院人間・環境学研究所の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	6人
担当研究員数	6人

内 容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
実施期間	9月6日
開催場所	京都国立博物館
参加者数	18人
担当研究員数	2人

【奈良国立博物館】

内 容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施期間	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	前期 4人、後期 4人
担当研究員数	1人

内 容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	16人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

内 容	放送大学の面接授業 「美術工芸品にみる文化交流の諸相」
実施期間	11月15日～16日
開催場所	九州国立博物館1階研修室
参加者数	50人

内 容	筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「ミュージアムで学ぶアジア」 (博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験)
実施期間	4月22日、4月29日、4月30日、5月13日、6月11日、6月25日(計6日)
開催場所	筑紫女学園大学、九州国立博物館文化交流展示室、体験型展示室「あじっば」
参加者数	72人

内 容	博物館実習生の受け入れ
実施期間	8月20日～9月1日の間、延べ10日間実施
参加者数	15人(11大学)

内 容	カフェコンサート(福岡女子短期大学の学生による演奏)
実施期間	4月18日、5月23日、6月20日、7月11日、8月8日、8月15日、11月7日、12月19日、1月16日、2月13日、3月6日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス(オープンカフェ)

2) インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月23日～27年3月31日
受入部署	学芸企画部 デザイン室、教育普及室、教育講座室、広報室 学芸研究部 上席研究員、東洋室、保存修復課、平常展調整室
参加者数	11人(11大学)
担当研究員数	のべ20人
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。

【京都国立博物館】

受入期間	8月18日～9月19日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	1人(1大学)
担当研究員数	2人
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、文化財修復に関わる加盟大学院生1名のインターンを受け入れた。12月10日には平成知新館4F研修室にて2名による報告会を行った。(出席者42名)

【奈良国立博物館】

受入期間	8月11日～8月15日
受入部門	総務課
参加者数	3人(1大学)
担当職員数	1人(総務係)
事業概要	立命館大学とのインターンシップに関する覚書に基づき、将来博物館の運営業務(事務系)への就職を検討している学生を募集し、3名

	の学生を受け入れた。
--	------------

【九州国立博物館】

受入期間	8月18日～22日の5日間
受入部署	博物館科学課
参加者数	6人 (4大学)
担当研究員数	2人
事業内容	当館の文化財保存修復施設の機能と利点を生かし、西日本地域の大学で装こう技術による文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施した。

3) 学生ボランティア

【東京国立博物館】

実施日	①ギャラリートーク(研究発表)班 12月14日、12月16日、12月18日、12月23日、1月8日、1月11日、1月15日、1月20日、1月22日、1月25日、1月27日、1月29日、2月1日、2月3日、2月5日、2月8日、2月10日、2月12日 (計18回) ②調査研究班 展示：4月15日～(通年) ギャラリートーク：6月29日、7月9日、7月26日、8月6日、8月24日、9月10日、9月13日、9月14日、10月19日、10月25日 (計10回) スライドトーク：8月27日
開催場所	①本館7室、18室、東洋館10室 ②東京藝術大学構内、本館19室みどりのライオン体験コーナー、本館地下みどりのライオン
参加者数	①インターン3人 聴講者603人 ②インターン12人 聴講者199人
担当研究員数	①4人 ②3人
事業内容	①東京藝術大学大学院インターンシップギャラリートーク班により入館者に対する総合文化展でのギャラリートークを実施。 ②東京藝術大学大学院インターンシップ調査研究班により「突起装飾坏(TJ-5401)」の工程見本の展示および教育普及事業を実施。

【京都国立博物館】

文化財ソムリエに向けたスクーリング	
実施日	26年5月21日、5月28日、6月4日、6月11日、6月25日、7月2日、7月16日、7月23日、8月6日、9月10日、9月17日、10月1日、10月15日、10月22日、11月5日、11月12日、11月26日、12月3日、27年1月21日、2月18日、2月25日 (計21回)
開催場所	京都国立博物館
参加者数	22人
担当研究員数	3人
内容	京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。
文化財ソムリエによる訪問授業の実施	
実施日	26年6月10日、7月9日、9月2日、10月7日、10月30日、11月19日、12月10日 (計7回)
開催場所	京都市内の小中学校
参加者数	ボランティア22人、聴講者488人 (小学校6校 聴講者394人、中学校1校 聴講者94人)
担当研究員数	2人
内容	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内で訪問授業等を実施した。

4) 見学対応

【東京国立博物館】

期 間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	12件254人 (大学6件、135人/専門学校6件119人)
担当研究員数	3人
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。

【京都国立博物館】

期 間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	5件20人 (大学5件、20人)
担当研究員数	1人
事業内容	大学生や大学院生を対象に、京都国立博物館の展示や事業についての解説等を行った。

【九州国立博物館】

期 間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	16件 (大学14件316人/短期大学2件175人 計491人)
担当研究員数	2人
事業内容	大学生等を対象に、九州国立博物館の概要についての講義、博物館施設・展示室等の見学を実施した。

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績
(後述の資料に記載) ◎共通資料b

2-(2)-⑦ 友の会・パスポート等

1) 会員数

友の会 平成27年3月31日現在

館名	友の会会員数 (年会費 10,300円) ※継続：9,800円/東京国立博物館
東京国立博物館	2,145人
九州国立博物館	192人

パスポート 平成27年3月31日現在

館名	区分 (年会費)	パスポート 会員数	一般 (4,100円)	一般 (3,100円)	29歳以下 (3,000円)	学生 (2,500円)	学生 (2,100円)	家族 (6,200円)
東京国立博物館		20,302人	18,716人	—	368人	1,218人	—	—
京都国立博物館		6,522人	—	6,372人			150人	—
奈良国立博物館		3,162人	—	3,026人	—	—	99人	37人
九州国立博物館		4,990人		2,687人			2,303人	

ベーシック (26年4月1日より新設)

平成27年3月31日現在

館名	区分 (年会費)	ベーシック 会員数	一般 (1,500円)	29歳以下 (1,100円)	学生 (900円)
東京国立博物館		1,038人	911人	79人	48人

2) 友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートの鑑賞割引、当館ミュージアムショップの商品の一部割引、レストラン・カフェでの飲食料金の割引、総合文化展招待券の配布。

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

2-(2)-⑧賛助会

1) 会員数

平成27年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館
		(社団法人清風会)	(ミュージアム・パートナー)	
件数	414件	350人	1件	73件
内訳	プレミアム会員(個人): 2人 特別会員(団体): 20団体 特別会員(個人): 6人 維持会員(団体): 41団体 維持会員(個人): 345人	賛助会員: 32人 特別会員: 63人 普通会員: 255人	団体会員: 1件	特別支援会員: 5団体 特別会員: 4団体 一般会員(団体): 18団体 一般会員(個人): 46人

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

- ①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
- ②各特別展開会式へのご招待
- ③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
- ④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
- ⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
- ⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

- ①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
- ②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
- ③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
- ④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
- ⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

- ①当館平常展、特別展の無料観覧
- ②各特別展開会式へのご招待
- ③展覧会図録の1冊贈呈
- ④『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
- ⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
- ⑥当館レストランでの飲食料金の割引
- ⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
 - ・ 4月8日（火） 特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 —迫真とエキゾチズム—」
特別鑑賞会 参加人数36名
 - ・ 7月23日（水） 特別展「国宝 醍醐寺のすべて —密教のほとけと聖教—」
特別鑑賞会 参加人数51名
 - ・ 10月24日（金） 特別展「第66回正倉院展」
特別鑑賞会 参加人数129名

2-(2)-⑨ 渉外活動

平成 27 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供 9 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数 (人)
4 月 3 日	展示会	エルメネジルド ゼニア「クチュール コレクション」	平成館ラウンジ	約 150
6 月 25 日	懇親会	ESDユネスコ世界会議周知のためのエクスカーショ(非公式教育大臣会合(第17回 OECD/Japan セミナー) エクスカーショ・レセプション)	法隆寺宝物館	約 200
9 月 8 日	懇談会	「タリスカーストーム」PR イベント	法隆寺宝物館	約 150
9 月 25 日	懇親会	JAPAN NIGHT 2014	法隆寺宝物館	約 1,500
10 月 20 日	講演会	第 8 回資料保存シンポジウム	法隆寺宝物館	約 250
10 月 20 日	懇親会	Red Bull Music Academy presents The Garden Beyond	平成館	約 500
11 月 11 日 ～11 月 18 日	展示会	台東区主催によるイベント (伝統工芸職人展)	表慶館	—
12 月 1 日	懇親会	特別エキシビジョン「エルメス レザー・フォーエバー」レセプション	法隆寺宝物館	約 460
12 月 2 日 ～12 月 23 日	展示会	特別エキシビジョン「エルメス レザー・フォーエバー」	表慶館	約 45,000

2) 館主催・協カイベント 27 件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数 (人)	備考
4 月 1 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2014「林はるか (チェロ)」	法隆寺宝物館	273	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 1 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2014「東博でバッハ vol. 20」川崎洋介	法隆寺宝物館	80	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 6 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2014「Vive!サクソフォン・コンサート」	正門内池前	214	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 10 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2014「東博でバッハ vol. 21」ウェン=シン・ヤン	法隆寺宝物館	118	東京・春・音楽祭実行委員会共催
5 月 14 日	音楽会	ピノキオコンサート～大人と子どものための音・学・会 at 東京国立博物館～	平成館ラウンジ	232	公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団共催
6 月 1 日	イベント	東博寄席	平成館大講堂	254	当館主催
6 月 8 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館ラウンジ	415 (2 回計)	東京クワリネット・クワイア共催 上野のれん会、東京国立博物館協カ会協賛
6 月 22 日	音楽会	東京国立博物館 初夏のコンサート	平成館ラウンジ	228	サロン・ド・ソネット共催
9 月 21 日	音楽会	東京国立博物館 秋のコンサート	平成館ラウンジ	178	サロン・ド・ソネット共催
10 月 4 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO 2014 まちなかコンサート	表慶館	97	東京文化会館他共催
10 月 9 日 ～11 月 2 日	イベント	柳瀬荘アート・教育プロジェクト	柳瀬荘	226 人	日本大学芸術学部共催
10 月 10 日 10 月 11 日	イベント	博物館で野外シネマ 映画「時をかける少女」(2006 年、細田守監督) 上映	本館前	約 8600 (2 回計)	当館主催
10 月 11 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO 2014 まちなかコンサート	表慶館	100	東京文化会館他共催
10 月 11 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル「中国青銅器をめぐる旅 4 千年のものがたり」	平成館大講堂	202	上野の山文化ゾーン連絡協議会
10 月 30 日 ～11 月 2 日	イベント	創エネ・あかりパーク 2014 に伴うライトアップ	本館前庭	—	「創エネ・あかりパーク 2014」実行委員会共催
11 月 6 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	256	東大寺共催
12 月 14 日	音楽会	東京国立博物館 クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	248	サロン・ド・ソネット共催
1 月 2 日	イベント	和太鼓 (批懸鼓)	本館前	839	当館主催
1 月 2 日	イベント	太神楽 (仙丸)	本館前	579	当館主催
1 月 2 日	イベント	獅子舞 (東部葛西囃子睦会)	本館前	882	当館主催
1 月 3 日	イベント	和太鼓 (白梅太鼓)	本館前	753	当館主催
1 月 3 日	イベント	クラリネット (ジュリアンズ)	法隆寺宝物館	996	当館主催
1 月 3 日	イベント	獅子舞 (東部葛西囃子睦会)	本館前	909	当館主催
27 年 3 月 17 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2015「東博でバッハ vol. 22」安田謙一郎	平成館ラウンジ	118	東京・春・音楽祭実行委員会共催
27 年 3 月 19 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2015「Vive! サクソフォン・クワルテット」	正門内池前	90	東京・春・音楽祭実行委員会共催
27 年 3 月 24 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2015「加藤えりな 無伴奏ヴァイオリン・コンサート」	法隆寺宝物館	139	東京・春・音楽祭実行委員会共催
27 年 3 月 26 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2015「東博でバッハ vol. 23」松尾俊介	法隆寺宝物館	117	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1) 会場提供 64件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月5日	音楽会	音燈華 vol.5 押尾コータロー、ジュスカ・グランペール	明治古都館横広場	600	寧屋舎中合同会社
4月23日	茶席	茶会	茶室	16	内藤貴美子
4月24日	茶席	茶会	茶室	8	吉田市蔵
5月6日	撮影	撮影会	茶室	10	安藤史緒
5月10日	茶席	茶会	茶室	10	松井幸雄
5月11日	茶席	茶会	茶室	50	松井幸雄
5月13日	茶席	茶会	茶室	7	麻柄清
5月14日	茶席	茶会	茶室	27	麻柄清
5月25日	講義	特別展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	200	ジャパン・ゴールド・アカデミー
5月31日	茶席	茶会	茶室	5	前田寿子
6月1日	茶席	茶会	茶室	80	前田寿子
6月24日	撮影	撮影会	茶室	5	吉永健太郎
6月27日	撮影	結婚式前撮り写真撮影	噴水前広場、明治古都館前広場	2	佐野友美
8月2日	撮影	撮影会	茶室	20	黒川智久沙
8月28日	撮影	ドラマ撮影	噴水前広場、正門前広場	40	東映
9月3日 ~9月5日	講演会	日本展示学会「展示論講座」	平成知新館、管理棟	30	主催：日本展示学会 当館共催
9月13日	イベント	平成知新館開館記念セレモニーパーティー	平成知新館	100	ハイアットリージェンシー京都
9月21日 ~9月28日	展示会	レクサス車両展示	平成知新館前芝生	350	トヨタ自動車
9月24日	研修会	実地研修会	平成知新館講堂	30	京都仏具協同組合
9月27日	特別鑑賞会	そうだ京都、行こう 平成知新館特別鑑賞会「京博でナイトミュージアム」	平成知新館	100	JR 東海 京都・奈良・近江文化情報事務局
9月28日	講義	平成知新館オープン記念展鑑賞のための講義	平成知新館講堂	5	京都ホテルオークラ
10月17日	研修会	京都市内博物館施設連絡協議会 研修会	平成知新館講堂	200	京都市内博物館施設連絡協議会
10月18日	講演会	第22回「コロンブス技術の保存と印刷文化を考える会」	平成知新館講堂	80	便利堂
10月20日 ~10月24日	講義	第9回指定文化財企画・展示セミナー	平成知新館大会議室	25	文化庁文化財部美術学芸課
10月21日	茶席	茶会	茶室	5	栗岡史歩
10月22日	特別鑑賞会		茶室	5	京都ホテルオークラ
10月24日	講義	大阪倶楽部 美術茶話会	平成知新館講堂	40	阪急交通社
10月27日	撮影	佛教大学 大学案内用写真撮影	噴水前広場、明治古都館前広場	8	佛教大学 長尾秀則
10月27日	特別鑑賞会	平成知新館特別鑑賞会	平成知新館	120	ハースト婦人画報社
10月27日	特別鑑賞会	平成知新館および明治古都館特別鑑賞会「三越の旅」	平成知新館、明治古都館	194	三越伊勢丹
11月3日	撮影	撮影会	茶室	10	安藤史緒
11月5日	茶席	授業	茶室	50	京都府立すばる高等学校
11月5日	講義	特別展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	200	神慈秀明会
11月5日	研修会	研修会	平成知新館講堂	50	京都美術商協同組合
11月8日	特別鑑賞会	そうだ京都、行こう 明治古都館特別鑑賞会「京博でナイトミュージアム」	明治古都館	70	JR 東海 京都・奈良・近江文化情報事務局
11月9日	講義	第3回「美術工芸 都のかたち」	平成知新館大会議室	52	慈照寺
11月10日	展示会	CHAUMET 宝飾品の新商品展示発表ディナー会	平成知新館グランドロビー	25	K2
11月12日	撮影	撮影会	茶室	20	片井博行
11月17日	講演会	健康長寿産業シンポジウム	平成知新館講堂	120	ジェイアール東日本企画
11月23日	茶席	茶会	茶室	6	菊地原節子
11月29日	講演会	京都国立博物館スタディツアー	平成知新館大会議室	10	京都文化協会
11月30日	茶席	茶会	茶室	3	永井由佳梨
11月30日	音楽会	音燈華 ジュスカ・グランペール情熱快適コンサート	平成知新館講堂	200	寧屋舎中合同会社
12月9日	特別鑑賞会	熊本県立熊本高校 平成知新館特別鑑賞会	平成知新館	415	JTB九州熊本
12月13日	茶席	茶会	茶室	15	北詰宜史
12月14日	茶席	茶会	茶室	15	北詰宜史
12月20日	撮影	メンズスーツカタログ制作のための写真撮影	明治古都館前広場	20	こばやし事務所
12月23日	講演会	ICOM フォーラム京都	平成知新館講堂	100	日本博物館協会
1月11日	茶席	茶会	茶室	20	前田寿子
1月30日	撮影	広告制作のための写真撮影	茶室	4	有限会社スタジオ・コーソ

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
1月31日	茶席	茶会	茶室	30	五条坂茶わん坂ネットワーク
2月11日	講演会	展覧会鑑賞に係る解説	平成知新館講堂	15	ハイアットリージェンシー京都
2月23日	記者発表・記念式典	大型電気路線バスお披露目会及び運行開会式	平成知新館講堂	80	京都急行バス株式会社
2月28日	茶席	茶会	茶室	15	平金昌人
3月2日	講演会	平成26年度京都美風シンポジウム	平成知新館講堂	200	京都商工会議所 産業振興部
3月16日	撮影	カタログ制作のための写真撮影	平成知新館グランドロビー	15	株式会社パイロット
3月19日	講演会	京都商工会議所女性会 会員の集い講演会	平成知新館講堂	50	京都商工会議所女性会
3月20日	茶席	茶会	茶室	10	栗岡史歩
3月28日	記念式典・パーティー	経営コンサルティング会社 20周年記念事業	平成知新館講堂・グランドロビー	105	ハイアットリージェンシー京都
3月29日	撮影	撮影会	茶室	3	安達彩実
3月30日	撮影	結婚式前撮り写真撮影	茶室	5	エル・ピューバ (elle pupa)
3月11日～15日	イベント	琳派400年記念プロジェクトマッピング「21世紀の風神・雷神伝説」	明治古都館前広場 噴水前広場 正門前広場	16,100	琳派400年記念プロジェクトマッピング委員会
3月14日～15日	展示販売	伝統工芸品の展示販売	西の庭	800	京都府染織・工芸課
3月29日	音楽会	中国琵琶・古筝コンサート 櫻花情緒	平成知新館講堂	180	

2) 館主催・協カイベント 12件

期間	種類	タイトル	会場	出席者(人)	備考
5月4日	音楽会	二胡コンサート	平成知新館講堂	615	
5月16日	落語	京都・らくご博物館(春)～新緑寄席～	平成知新館講堂	200	
5月18日	講演	京博で間香体験と講演会	平成知新館講堂	107	
6月19日 ～6月20日	見学会	明治古都館屋根修理現場 他の見学会	明治古都館屋上	62	
7月12日 ～7月13日	見学会	平成知新館事前見学会	平成知新館	448	
8月23日	音楽会	音燈華 vol.5 ～DEPAPEPE コンサート～	庭園	584	大和ハウス工業共催 特別協賛:京阪電気鉄道株式会社
10月31日	落語	京都・らくご博物館(秋)～紅葉寄席～ 平成知新館開館記念公演	平成知新館講堂	202	
11月2日 ～11月3日	落語	京都・らくご博物館(秋)～紅葉寄席～ 米朝アンドロイド落語会	平成知新館講堂	265	
11月8日	音楽会	秋の夜間クラシックコンサート	平成知新館グランドロビー	136	
12月6日 ～12月23日	イベント	庭園内イルミネーション	庭園	約200	
12月21日	音楽会	クリスマス・ハンドベルコンサート	平成知新館グランドロビー	260	
12月24日	音楽会	クリスマス・バロックコンサート	明治古都館中央室	100	

【奈良国立博物館】

1) 会場提供 36件(内、中止1件)

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月23日	会議	奈良県文化財保安連絡会	会議室	20	奈良県警察本部
4月24日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	170	山梨大学教育人間科学部附属中学校
4月28日	キャンペーン	交通安全啓発活動	西新館北側敷地内通路	—	奈良県奈良警察署
5月23日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	175	横浜市立菅田中学校
5月26日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	110	大田区立東蒲中学校
6月21日	講演	「民際-知と文化」出版記念フォーラム in Nara	講堂	60	NPO 法人東アジア隣人ネットワーク
6月21日	展示	「民際-知と文化」出版記念フォーラム in Nara 実施にかかるパネル展	講堂出入口付近スペース	60	奈良県知事公室国際課
6月24日	茶会	茶会	茶室	7	小林順子
6月25日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	128	市川市立大洲中学校
8月9日	コンサート	音燈華 ジュスカ・グランペール(ギター・バイオリンの演奏)	庭園・西新館南側ピロティ	—	寧屋舎中合同会社 (台風接近のため中止)
8月12日	講義	第26回夏季中学高校生セミナー	講堂	55	NPO 法人まほろば教育事業団
9月6日	講義	学習の旅「心に刻む名刹～長谷寺・室生寺～」	講堂	43	学校法人NHK学園

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
9月29日	コンサート	音燈華 ジュスカ・グランパール(ギター・バイオリンの演奏)	庭園・西新館南側ピロティ	150	寧屋舎中合同会社
10月24日 ~11月12日	茶席	正倉院展「野点のお茶席」	西新館南側ピロティ 庭園	17,819	結の会
10月24日 ~11月12日	休憩所	休憩所及び甘味の販売	新館西側敷地	—	(株)鶴屋吉信
10月24日 ~11月12日	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	新館西側敷地	—	(有)日本クリーンシステムズ
10月24日 ~11月12日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	校倉な会
10月24日 ~11月12日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	なら和み館
10月24日 ~11月12日	キャンペーン	記念切手の販売	新館西側敷地	—	郵政事業株式会社
10月24日 ~11月12日	キャンペーン	記念写真の撮影・販売	新館西側敷地	—	小路谷写真(株)
10月24日 ~11月12日	キャンペーン	正倉院展 図録、グッズ等の販売	西新館、地下回廊	—	(財)仏教美術協会
10月29日	講義	第5回東アジア地方政府会合エクスカッション 参観者への展示品等の説明	講堂	69	奈良県知事公室国際課
11月28日 ~11月29日	茶会	茶会	茶室	13	小林順子
11月30日	茶会	茶会	茶室	53	橋本玲子
12月16日	セミナー	おん祭りについてのセミナー	講堂	16	株式会社J-MIND
12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
1月11日	茶会	茶会	茶室	17	三木ひとみ
1月25日	茶会	茶会	茶室	19	中村多津子
1月31日	講演会	柳澤吉保没後300年記念講演会	講堂	146	公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会
2月7日	特別観覧	奈良の冬キャンペーン期間中における奈良国立博物館(新館)夜間特別観覧	展示室	38	奈良うまし冬めぐり実行委員会
2月8日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	28	オーシャンフロント
2月12日	茶会	第二回珠光茶会	茶室・西新館南側ピロティ	94	奈良市
2月19日	講座	福島大学の授業科目「日本文化史演習旅行」による実地演習	講堂	6	福島大学人間発達文化学類
2月21日	特別観覧	奈良の冬キャンペーン期間中における奈良国立博物館(新館)夜間特別観覧	展示室	87	奈良うまし冬めぐり実行委員会
2月28日	特別観覧	奈良の冬キャンペーン期間中における奈良国立博物館(新館)夜間特別観覧	展示室	16	奈良うまし冬めぐり実行委員会
3月12日	セミナー	お水取りについてのセミナー	講堂	7	株式会社J-MIND

2) 館主催・協カイベント 47件(内、中止1件)

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月8日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	36	
4月9日 4月10日	鑑賞会	タクシー・ホテルなど関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	35	
4月24日	鑑賞会	わいず倶楽部 解説付き小ツアー	奈良仏像館	第1回 22 第2回 19 第3回 20 第4回 15	主催:わいず倶楽部事務局
4月26日	講義	特別展鑑賞のための講義	講堂	22	読売新聞大阪本社企画事業部
4月26日	イベント	第2回庭園・茶室案内ツアー	庭園・茶室	第1回 19 第2回 20	
4月26日	イベント	仏教美術資料研究センター公開	仏教美術資料研究センター	第1回 212 第2回 234	
4月27日	イベント	第2回庭園・茶室案内ツアー	庭園・茶室	第1回 23 第2回 21	
4月27日	イベント	仏教美術資料研究センター公開	仏教美術資料研究センター	第1回 277 第2回 485	
5月3日	イベント	チャッピー岡本のカプリモノ変心塾~仏像になってみよう!~	地下回廊	11	
6月26日	コンサート	ムジークフェストなら2014「宝の館で聴くヴィオラ・ダ・ガンバ」	地下回廊・応接室	140	主催:ムジークフェストなら2014実行委員会
6月28日	コンサート	ムジークフェストなら2014「明治の館とバロックの花」	仏教美術資料研究センター	163	主催:ムジークフェストなら2014実行委員会

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
7月23日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	51	
7月24日 7月25日	鑑賞会	タクシー・ホテルなど関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	65	
8月5日～14日	観光 イベント	「なら燈花会」オブジェ等を配置	新館周辺	—	主催：なら燈花会の会
8月10日	イベント	消しゴムはんこで、ほとけさまを彫ってみよう!	地下回廊	—	台風接近のため中止
8月11日	イベント	夏休み親子講座「守ろう!知ろう!文化財」	講堂	84	協力:奈良市消防局
8月19日	法話	醍醐寺展法話	会議室	26	醍醐寺
8月22日	講義・観覧	「国宝 醍醐寺のすべて」展に関するレクチャー	講堂	11	(株)日経カルチャー
8月31日	取材	「国宝 醍醐寺のすべて」展に関する取材対応	応接室 会議室	20	日本経済新聞社大阪本社
9月5日	講義・観覧	「国宝 醍醐寺のすべて」展に関するレクチャー	講堂	11	(株)日経カルチャー
9月6日	講演	アジアフォーラム「奈良と醍醐時と密教と」	講堂	194	日本経済新聞社大阪本社
9月23日	イベント	ライトアップコンサート 「言霊と音霊の夜会-第六章-」	仏教美術資料研究センター	139	主催:ライトアッププロムナード・なら実行委員会
9月27日	イベント	ワークショップなら2014「オリジナル散華を作ろう」	地下回廊	70	
10月10日 ～12月15日	敷地提供	大古事記展に係る看板設置のための敷地提供	敷地内のフェンス	—	奈良県観光局
10月24日	観光 イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し「奈良の柿」をPR	新館前広場	—	主催:奈良県農林部 奈良県農業協同組合
10月24日 ～11月12日	観光 イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	正倉院展読売新聞ブース	—	主催:はじまりは正倉院展実行委員会
10月24日 ～11月12日	展示	正倉院展「いけばな展示」 法華寺御流のいけばな展示	西新館1階ロビー	—	
10月24日 ～11月12日	展示	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	—	主催:奈良国立博物館 読売新聞社
10月24日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂・展示室	129	
10月25日	セミナー	正倉院展特別セミナー	仏教美術資料研究センター	96	
10月27日 10月28日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	210	
11月1日	イベント	古典の日講演会「東大寺献物帳と光明皇后」	講堂	110	
11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室	98	
11月2日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム2014 「正倉院宝物に日本文化の源流をみる」	奈良県新公会堂	192	
11月3日	鑑賞会	第66回正倉院展 親子鑑賞会	講堂・展示室	171	
11月15日～16日	特別観賞	関西文化の日	青銅器館	1日目222 2日目284	
12月17日	茶会	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園、西新館南側ピロティ	84	主催:裏千家 泉本宗悠
12月20日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズ 東京セミナー ～冬の奈良の魅力～	奈良まほろば館	63	
12月21日	イベント	仏像を撮ってみよう!	講堂、地下写場	24	
12月24日	特別鑑賞会	奈良国立博物館文化財修復プレミアム・ミュージアム・ビューイング	講堂・展示室・茶室・庭園・仏教美術資料研究センター	27	
1月15日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・修理所	第1回目35 第2回目37 第3回目38	
2月3日～16日	イベント	「なら瑠璃絵」オブジェの設置	新館前池、園路	—	主催:なら瑠璃絵実行委員会
2月10日	講演会	なら瑠璃絵特別講演会「正倉院宝物と大仏さま」	講堂	97	主催:なら瑠璃絵実行委員会
2月14日	講演・特別鑑賞	お水取り「講話」と「粥」の会	講堂・展示室・茶室控室・東大寺二月堂	35	
3月1日～ 11、13、14日	特別鑑賞	修二会期間中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	103	奈良交通株式会社
3月4日～5日	見学会	なら仏像館修理工事現場特別見学会	なら仏像館	1日目57 2日目47	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
3月6日	講演	お水取り展鑑賞とお松明	講堂・展示室	167	主催: 結の会

【九州国立博物館】

1) 会場提供 7件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月21日 4月22日	貸館	九州茶道文化交流協会茶会	茶室	10	主催: 九州茶道文化交流協会
4月26日 4月27日	貸館	ひびのこぶえワークショップ「虫をつくろう」	研修室/和室	190	主催: NPO 法人太宰府アートのたね
8月9日	貸館	エレキット夏休み工作教室	研修室	26	主催: 株式会社イーケイジャパン
8月17日	貸館	一支国座	ミュージアムホール / 研修室	150	主催: 香崎市立一支国博物館
12月15日~22日	貸館	諸富家具コレクション	ミュージアムホール	1,165	主催: 諸富家具振興協同組合
27年2月3日~ 2月13日	貸館	マークエステル 日本神話展	ミュージアムホール	-	主催: 九州国立博物館振興財団
27年3月15日	貸館	太宰府ロータリークラブ 知的障がい者音楽バンド ビュアアートコンサート	ミュージアムホール	210	主催: 太宰府ロータリークラブ

2) 館主催・協カイベント 101件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月18日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	40	主催: 九州国立博物館/福岡女子短大
4月19日	主催	特別展「近衛家の国宝」関連記念講演会「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝」	ミュージアムホール	250	主催: 九州国立博物館/西日本新聞社
4月26日	主催	特別展「近衛家の国宝」関連リレー講座 近衛家の国宝展の魅力に迫る『近衛家の曙光-藤原道長の登場-』『信尹と家熙-近衛家が生んだ桃山・江戸の文化人-』	ミュージアムホール	68	主催: 九州国立博物館/西日本新聞社
4月27日	主催	第119回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	140	主催: 九州国立博物館
4月27日	主催	第34回 はじめての茶道体験	茶室	18	主催: 九州国立博物館
5月3日	主催	特別展「近衛家の国宝」関連講演会「藤原道長『御堂関白記』と世界記憶遺産への道程」	ミュージアムホール	190	主催: 九州国立博物館/西日本新聞社
5月5日	主催	特別展「近衛家の国宝」関連イベント「ちはやふる」の世界 -かるたクイーンに学ぶ競技かるた-	ミュージアムホール	150	主催: 九州国立博物館/西日本新聞社
5月6日	主催	第1回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	28	主催: 九州国立博物館
5月10日	主催	特別展「近衛家の国宝」関連リレー講座 近衛家の国宝展の魅力に迫る『近衛家の成立-藤原道長以後-』『陽明文庫の書の魅力』	ミュージアムホール	70	主催: 九州国立博物館/西日本新聞社
5月11日	主催	特別展「近衛家の国宝」関連上映会「源氏物語-千年の謎-」	ミュージアムホール	236	主催: 九州国立博物館/西日本新聞社
5月15日	共催	日韓伝統音楽コンサート「遙かなる百済へ」	ミュージアムホール	250	主催: 日韓伝統音楽国際ネットワーク協議会
5月17日	主催	特別展「近衛家の国宝」関連イベント「つづけ字しおりワークショップ」	エントランス	95	主催: 九州国立博物館
5月17日	後援	つくしフォーラム	ミュージアムホール / 和室	288	主催: つくし青年会議所
5月23日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	主催: 九州国立博物館/福岡女子短大
5月24日	主催	第120回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	210	主催: 九州国立博物館
5月24日	主催	第40回 親子で茶道体験	茶室	51	主催: 九州国立博物館
5月25日	主催	第35回 はじめての茶道体験	茶室	7	主催: 九州国立博物館
5月25日	主催	特別展「近衛家の国宝」関連イベント「書の甲子園優勝! 太宰府高校芸術科生徒による書道実演&つづけ字しおりワークショップ」	エントランス	200	主催: 九州国立博物館
6月3日~8日	共催	第3回ステンドグラスアート・九州会作品展“希望”	ミュージアムホール	2,926	主催: ステンドグラスアート・九州会
6月3日~ 7月13日	共催	アジア代表日本2014 展示	エントランス	57,129	主催: アジア代表日本2014 実行委員会
6月20日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催: 九州国立博物館/福岡女子短大
6月21日	主催	第121回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	90	主催: 九州国立博物館
6月21日	主催	第41回 親子で茶道体験	茶室	40	主催: 九州国立博物館
6月22日	主催	第36回 はじめての茶道体験	茶室	10	主催: 九州国立博物館
6月29日	共催	まほろばコンサート	ミュージアムホール	605	主催: 太宰府市吹奏楽団
7月5日~ 8月31日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連パネル展示	エントランス	132,526	主催: 九州国立博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
7月6日	主催	第2回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	20	主催：九州国立博物館
7月11日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
7月12日	主催	第122回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館
7月12日	主催	第37回 はじめての茶道体験	茶室	3	主催：九州国立博物館
7月13日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連記念講演会「アメリカ人の目利き－シャーマン・リーとクリーブランド美術館コレクション」	ミュージアムホール	275	主催：九州国立博物館／西日本新聞社
7月15日～27日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連ぬり絵はがきワークショップ	エントランス	1,300	主催：九州国立博物館
7月19日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連リレー講座「日本絵画入門：千年の歴史をたどる」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館／西日本新聞社
7月24日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連イベント「親子で楽しむクリーブランド美術館展」	研修室	34	主催：九州国立博物館／西日本新聞社
7月24日 7月25日	主催	太宰府ブランド創造協議会「ゆかた de 太宰府」コラボイベント 茶室でポーズ	茶室	22	主催：九州国立博物館
7月26日 7月27日	主催	第42・43回 親子で茶道体験	茶室	87	主催：九州国立博物館
7月26日 7月27日	主催	いこうよ！あじっば夏祭り2014	ミュージアムホール	400	主催：九州国立博物館
7月29日～ 8月3日	主催	九州国立博物館、北九州市立自然史・歴史博物館連携・交流事業	エントランス	12,944	主催：北九州市立自然史・歴史博物館
8月2日	主催	第38回 はじめての茶道体験（夏の特別編）	茶室	25	主催：九州国立博物館
8月2日	主催	第123回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	220	主催：九州国立博物館
8月3日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連イベント「尺八の演奏とともに楽しむクリーブランド美術館展」	ミュージアムホール	520	主催：九州国立博物館／西日本新聞社
8月5日～17日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連ぬり絵はがきワークショップ	エントランス	1,300	主催：九州国立博物館
8月8日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
8月9日	共催	あなたを韓流の世界に	ミュージアムホール	135	主催：九州国立博物館振興財団
8月9日 8月10日	主催	第44・45回 親子で茶道体験	茶室	39	主催：九州国立博物館
8月10日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連イベント夏休み親子工作「てづくりカメラ」つくって覗いて、描いてみよう！	研修室	27	主催：九州国立博物館
8月10日	主催	第3回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	28	主催：九州国立博物館
8月15日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
8月19日	共催	東九州 神楽人の祭展～京築神楽（福岡）と西米良神楽（宮崎）を愉しむ オープニングイベント	ミュージアムホール／エントランス／研修室	300	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進協議会
8月19日～31日	共催	東九州 神楽人の祭展～京築神楽（福岡）と西米良神楽（宮崎）を愉しむ パネル展示	エントランス	42,543	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進協議会
8月22日 8月23日	主催	特別展「クリーブランド美術館展」関連イベント日本画ワークショップ「琳派の燕子花（かきつばた）を描く」	交流サロン	15	主催：九州国立博物館
8月23日 8月24日	共催	吉野ヶ里Days in 九博	ミュージアムホール	1,045	主催：佐賀県教育委員会／国営海の中道海浜公園事務所（国営吉野ヶ里歴史公園）／吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体、吉野ヶ里公園管理センター
8月30日 8月31日	共催	東九州 神楽人の祭展～京築神楽（福岡）と西米良神楽（宮崎）を愉しむ	ミュージアムホール／エントランス	-	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進協議会
9月2日～15日	共催	第13回太宰府の香り・風景写真コンテスト入賞作品展	エントランス	18,096	主催：太宰府観光協会
9月2日～23日	主催	考古パネル展示	エントランス	25,236	主催：九州国立博物館
9月7日	主催	第39回 はじめての茶道体験	茶室	27	主催：九州国立博物館
9月12日～28日	主催	ガムラン展示	ミュージアムホール	-	主催：九州国立博物館
9月15日	主催	第46回 親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館
9月18日 9月19日	主催	先生向けガムランワークショップ	ミュージアムホール	31	主催：九州国立博物館
9月20日 9月21日	主催	ボランティアイベント「お月見」	エントランス	80	主催：九州国立博物館
9月25日	主催	第124回 きゅーはくミュージアムコンサート in 古都の光	エントランス／屋外	170	主催：九州国立博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
10月4日	主催	第4回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	27	主催:九州国立博物館
10月18日	主催	第40回 はじめての茶道体験	茶室	17	主催:九州国立博物館
10月21日~26日	主催	特別展「台北国立故宮博物院展」関連台湾グルメフェア	屋外	-	主催:九州国立博物館/西日本新聞社
10月25日	主催	第47回 親子で茶道体験	茶室	50	主催:九州国立博物館
10月25日	主催	特別展「台北国立故宮博物院展」関連シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味-工芸における復古と革新-」	ミュージアムホール	150	主催:九州国立博物館/西日本新聞社
11月1日	主催	特別展「台北国立故宮博物院展」関連特別講演会「皇帝を魅了した名品たち-中国書跡を中心に-」	ミュージアムホール	150	主催:九州国立博物館/西日本新聞社
11月3日	主催	第41回 はじめての茶道体験(留学生限定)	茶室	25	主催:九州国立博物館
11月3日	主催	留学生向け 文化交流ツアーin九博	文化交流展示室/研修室/茶室	19	主催:九州国立博物館
11月7日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	200	主催:九州国立博物館/福岡女子短大
11月8日	主催	特別展「台北国立故宮博物院展」関連講演会「中国における文物の意義-皇帝たちが受け継いだ名画-」	ミュージアムホール	50	主催:九州国立博物館/西日本新聞社
11月16日	主催	家族の日関連イベント「家族で茶室」	茶室	21	主催:九州国立博物館
11月24日	主催	第48回 親子で茶道体験	茶室	46	主催:九州国立博物館
12月6日 12月7日	主催	九州国立博物館9周年記念ガムランコンサート 青銅の響き・悠久の舞	ミュージアムホール/エントランス/文化交流展示室	800	主催:九州国立博物館
12月13日	主催	第42回 はじめての茶道体験	茶室	19	主催:九州国立博物館
12月13日	共催	キャンパスフェスタ	ミュージアムホール/エントランス	1,335	主催:太宰府キャンパスネットワーク会議
12月15日	主催	九州国立博物館開館9周年記念イベント 小編成ガムラン「ガドン」の開催	文化交流展示室 関連展示室第9室	100	主催:九州国立博物館
12月19日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	40	主催:九州国立博物館/福岡女子短大
12月20日	主催	第49回 親子で茶道体験	茶室	54	主催:九州国立博物館
12月23日	主催	第125回 きゅーはくミュージアムコンサート ~絵本と音の玉手箱~	ミュージアムホール	105	主催:九州国立博物館
27年1月12日	主催	第126回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	245	主催:九州国立博物館
27年1月12日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート関連イベント「お茶室で学ぼう『茶の湯』の世界」	茶室	39	主催:九州国立博物館
27年1月12日	主催	ボランティアイベント「新春餅つき会」	屋外	400	主催:九州国立博物館
27年1月16日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	40	主催:九州国立博物館/福岡女子短大
27年1月20日~ 2月1日	共催	ひなの国九州フェスタ 2015	エントランス	-	主催:九州のひなまつり広域振興協議会
27年1月24日	主催	第43回 はじめての茶道体験	茶室	14	主催:九州国立博物館
27年1月25日	主催	第50回 親子で茶道体験(第50回記念特別企画 お茶会編)	茶室	47	主催:九州国立博物館
27年1月31日	共催	博多にわか笑演会 in九州国立博物館	ミュージアムホール	130	主催:博多仁和加振興会
27年2月7日	主催	第127回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	600	主催:九州国立博物館
27年2月10日~ 15日	共催	「宗像・沖ノ島と関連遺産群」パネル展、シンポジウム	ミュージアムホール/エントランス	-	主催:「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議
27年2月15日	主催	九州国立博物館開館9周年記念イベント 小編成ガムラン「ガドン」の開催	文化交流展示室 関連第9室	100	主催:九州国立博物館
27年2月20日	共催	博多伝統芸能~博多芸妓の世界~	ミュージアムホール	500	主催:九州国立博物館振興財団
27年2月21日	主催	第44回 はじめての茶道体験	茶室	7	主催:九州国立博物館
27年2月22日	主催	第51回 親子で茶道体験	茶室	61	主催:九州国立博物館
27年2月24日	共催	平成26年度筑紫地区文化財写真展 ちくし再発見 ~いのりの風景~	ミュージアムホール/エントランス	-	主催:筑紫地区社会教育振興協議会
27年2月24日~ 3月1日	後援	甲木恵都子五十周年個展「女人平家物語」	ミュージアムホール	-	主催:甲木工房
27年3月6日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	75	主催:九州国立博物館/福岡女子短大
27年3月21日	主催	第128回 きゅーはくミュージアムコンサート:天上の響き2015 サキタハチメ ミュージカルソーコンサート~4年ぶりに九博へ帰ってきました~	エントランス	150	主催:九州国立博物館
27年3月21日	主催	第45回 はじめての茶道体験	茶室	4	主催:九州国立博物館
27年3月22日	主催	第52回 親子で茶道体験	茶室	55	主催:九州国立博物館
27年3月22日	共催	東日本大震災復興ボランティア「CLOVERS MUSIC」活動報告『東日本大震災』あの日から4年	ミュージアムホール/エントランス	150	主催:CLOVERS MUSIC

2-(2)-⑩ 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10月11日(土) 9:30~22:00	○参加者数 1021人《663人》 留学生 935人《568人》 同伴者 86人《95人》 ・無料観覧(総合文化展のみ) ・ボランティアによる茶会 参加者数:36人(2回計) ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数:324人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数:289人	・アンケート実施せず
京都国立博物館 11月7日(金) 9:30~19:30	○参加者数 73人《128人》 留学生 73人《124人》 同伴者 0人《4人》 ・平成知新館オープン記念展「京へのいざない」、 平成知新館講堂映像プログラム(4Kシアター) の無料観覧 ・特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」の観覧 料割引	・留学生アンケート回答者数16人 (回収率22%) ・来館頻度:初めて95%、2回目以降5% ・認知経路:友人・教師71%、ポスター・チラシ 18% 他 ・出身国:中国31%、台湾13%、ドイツ13% 他 ・名品ギャラリーの満足度:94% ・特別展の満足度:61%
奈良国立博物館 11月1日(土) 9:00~19:00 (正倉院展会期中 のため9:00開館)	○来館者数 15,346人《15,158人》 留学生 98人《92人》 ・「正倉院展」(特別展)の無料観覧	・アンケート実施せず (正倉院展開催中につき実施困難)
九州国立博物館 11月3日(月・祝) 9:30~17:00	○来館者数 文化交流展(平常展) 2,613人《2,528人》 留学生 15人《29人》 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展(平常展)のみ無料観覧 ・留学生向け 文化交流ツアー in 九博 ・留学生限定 はじめての茶道体験	・留学生アンケート回答者数17人(回収率100%) ※一部重複回答あり ・出身国:中国59%、フランス24% 他 ・来館頻度:初めて82%、2回目17% 他 ・認知経路(複数回答):学校関係者から5人、友 達から3人、ウェブサイト4人 他 ・来館理由(複数回答):日本文化や歴史をもっと 知りたいから13人、博物館に来るのが好きだか ら3人 他 ・参加イベント:文化交流ツアー59%、茶道体験 82% ・文化交流展満足度:76% ・文化交流ツアー参加者19人 ・茶道体験参加者25人

* 来館者数、参加者数等:《 》内は平成25年度

2-(3) 快適な観覧環境の提供

2-(3)-① 高齢者、障がい者等に配慮した設備等

平成27年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障がい者用トイレ	14カ所 (本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2(要介添え))	8カ所 (平成知新館4、明治古都館1、南門施設1(乳児ベッド併設)、屋外トイレ1、文化財保存修理所1)	3カ所 (東新館1、地下回廊2)	6カ所 (本体建物)
障がい者用エレベータ	10基 (本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1)	5基 (平成知新館4) 昇降装置1基 (管理棟1)	4基 (なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1)	2基 (本体建物)
スロープ	5カ所 (本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館)	4カ所 (平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1)	3カ所 (なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1)	—
ハンディキャップ優先駐車	2台	2台	足の不自由な方に対して有	23台
車椅子	26台 (正門・正門プラザ3、本館4、東洋館2、平成館14、法隆寺宝物館2、資料館1)	22台 (検札2台、明治古都館12台、平成知新館8台)	13台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 2台 ○ベビーシート 15カ所 ○ベビーカーチェア 12カ所 ○授乳室 1カ所	○ベビーカー 6台 ○ベビーシート 12カ所 ○ベビーカーチェア 11カ所 ○授乳室 2カ所	○ベビーシート 2カ所 ○ベビーカー 1カ所 ○おむつ交換台 1カ所	○ベビーカー 11台 ○ベビーシート 15カ所 ○ベビーカーチェア 6カ所 ○幼児用補助便座 6カ所
26年度整備事項	新設された正門プラザ内に授乳室を開設した。	平成知新館内に、授乳室を開設した。		身障者トイレに幼児用補助便座を取り付けた。(6カ所：1階、3階、4階)

2-(3)-② 音声ガイド実施状況

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
26年度計：261,241台	26年度計：76,671台	26年度計：55,466台	26年度計：67,665台
・特別展「栄西と建仁寺」 26年度期間(26.4.1~5.18) 42,536台 (全期間 46,378台)	・特別展 「南山城の古寺巡礼」 (日本語版) 8,753台	特別展 「鎌倉の仏像—迫真とエキゾチズム—」 (日本語版・一般向け) 2,565台	・文化交流展示 5,550台 (英語版 1,864台) (中国語版 1,193台) (韓国語版 2,493台)
・特別展「キトラ古墳壁画」 30,468台	・平成知新館オープン記念展 「京へのいざない」 (日本語版) 16,856台 (英語版) 534台 (中国語版) 721台 (韓国語版) 105台	・特別展 「国宝 醍醐寺のすべて—密教のほとけと聖教—」 (日本語版・一般向け) 8,636台	・特別展 「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」 8,955台
・特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」 78,600台	・特別展 「国宝 鳥獣戯画と高山寺」 (日本語版) 40,328台	・特別展 「天皇后両陛下傘寿記念 第66回正倉院展」 (日本語版・一般向け) 42,803台	・特別展 「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美」 7,416台
・日本国宝展 77,347台	・平成知新館名品ギャラリー (日本語版) 6,687台 (英語版) 711台 (中国語版) 1,681台 (韓国語版) 295台	(英語版・一般向け) 244台	・特別展 「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」 39,633台
・特別展「みちのくの仏像」 26年度期間(27.1.14~3.31) 27,240台		(日本語版・子供向け) 1,218台	・特別展 「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして広州・扶餘—」 同時開催 「日本発掘—発掘された日本列島2014—」 6,111台
・特別展「コルカタ・インド博物館所蔵インドの仏教美術の源流」 26年度期間(27.3.17~3.31) 4,644台			
・特集「趙之謙の書画と北魏の書」 406台			
(参考) 今年度ダウンロード件数 ・「トーハクナビ」 Android版 2,615件 iOS版 5,995件 ・「法隆寺宝物館30分ナビ」 iOSアプリ 1,071件			

2-(4) 文化財情報の発信と広報の充実

2-(4)-① 収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像 79件	画像 5,536件 文字 10,679件	画像 5,154件 文字 5,447件	画像 776件

2-(4)-② 収集した情報資料数（総数）

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館		
	26年度新規	総数	26年度新規	総数	26年度新規	総数	26年度新規	総数	
写真原板(フィルム)	77件	321,114件	557件	257,681件	7件	361,488件	4件	23,622件	
デジタル撮影	10,643件	56,540件	4,370件	8,204件	5,471件	31,179件	1,163件	8,780件	
資料	模造								
	模写								
	その他								
	計								
図書	和書	6,367冊	188,913冊	9,758冊	138,613冊	2,563冊	80,213冊	(*1)29,196冊	110,928冊
	漢書	362冊	39,514冊	11冊	21,580冊	36冊	5,137冊	0冊	0冊
	洋書	120冊	12,785冊	14冊	4,396冊	54冊	1,783冊	(*1)79冊	2,445冊
	計	6,849冊	241,212冊	9,783冊	164,589冊	2,653冊	87,133冊	29,275冊	113,373冊
映画フィルム	巻	巻	巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻	
スライド	本 コマ	本 コマ	0本 0コマ	26本 2,779コマ	0本 0コマ	21本 2,192コマ	0本 0コマ	0本 12コマ	
マイクロフィルム	0巻	3,657巻	0巻	359巻	0巻	68巻	0巻	515巻	

※(*1)の項目については、平成26年4月に新システムを導入し、旧システムに登録されていなかったため総計上に表れなかった図書(和書15,647冊、洋書29冊)も加えた。平成26年度に純粋に増えた冊数は、和書13,549冊、洋書50冊である。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
利用者数	2,796人	3,385人	4,828人	5,661人	6,118人
閉架図書（閲覧）	3,138件	3,032件	3,571件	3,909件	3,800件
マイクロフィルム（閲覧）	994件	573件	603件	466件	562件
レファレンスサービス	3,339件	2,783件	6,249件	6,802件	4,401件
コピーサービス	26,210枚	19,983枚	25,419枚	23,801枚	26,200枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

2-(4)-③ 特別観覧件数

申請件数

平成27年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合 計	377	16	361	173	6	167	57	5	52	69	2	67	78	3	75
写 真 撮 影	88	5	83	4	0	4	21	2	19	29	1	28	34	2	32
映 画 撮 影							0	0	0		0	0	0	0	0
テ レ ビ 撮 影	12	9	3	6	6	0	3	3	0	1	0	1	1	0	1
ビ デ オ 撮 影							0	0	0				1	0	1
模 写	12	0	12	2	0	2	0	0	0	3	0	3	4	0	4
模 造							1	0	1				2	0	2
熟 覧	265	2	263	161	0	161	32	0	32	36	1	35	36	1	35

点数

平成27年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合 計	2,476	29	2,447	1,255	11	1,244	283	10	273	607	4	603	331	4	327
写 真 撮 影	490	7	483	28	0	28	49	2	47	259	2	257	154	3	151
映 画 撮 影							0	0	0	0	0	0	0	0	0
テ レ ビ 撮 影	22	19	3	11	11	0	8	8	0	1	0	1	1	0	1
ビ デ オ 撮 影							0	0	0				1	0	1
模 写	15	0	15	2	0	2	0	0	0	6	0	6	4	0	4
模 造							1	0	1				2	0	2
熟 覧	1,949	3	1,946	1,214	0	1,214	225	0	225	341	2	339	169	1	168

2-(4)-④ 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平成27年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画 像 利 用	フィルムでの提供	モノクロ	3	2	1	(画像提供業務を外部へ委託)	/			/			3	2	1
		カラー	2	2	0								2	2	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,107	725	382		695	514	181	282	157	125	8	1	7
		カラー								122	53	69			
	プリントでの提供	モノクロ	100	88	12		97	87	10	3	1	2	/		
カラー		3	2	1	0	0	0	3	2	1					
画像再利用		164	98	66					158	94	64	6	4	2	

点数

平成27年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画 像 利 用	フィルムでの提供	モノクロ	5	2	3	(画像提供業務を外部へ委託)	/			/			5	2	3
		カラー	6	6	0								6	6	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	7,268	2,216	5,052		3,511	1,604	1,907	1,336	469	867	59	3	56
		カラー								2,362	140	2,222			
	プリントでの提供	モノクロ	523	203	320		262	201	61	261	2	259	/		
カラー		33	5	28	0	0	0	33	5	28					
画像再利用		382	193	189					326	140	186	56	53	3	

2-(4)-⑤ 広報実績一覧

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特集「趙之謙の書画と北魏の書—悲倉没後130年—」

会期：26年7月29日（火）～9月28日（日）

ターゲット：書道愛好家

重点項目：新聞及び書・美術専門雑誌に向けてのプロモート

特記事項：台東区立書道博物館、朝倉彫塑館との連携企画。

リリースの配信（約280件）

2館連携報道内覧会の実施（7月28日、15人出席）

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	台東区書道博物館から送付
交通広告	駅貼り広告（JR上野、鶯谷、日暮里、秋葉原、品川など11駅22面、東京メトロ 上野、浅草、表参道、六本木、大手町、銀座など11駅22面）
新聞・雑誌広告	朝日半5段 1回
テレビ広告	—
新聞掲載	毎日新聞 ほか
テレビ／ラジオ	—
雑誌掲載	月刊書道界（藤樹社） ほか
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信

・特別企画

「博物館でアジアの旅」

会期：26年9月30日（火）～10月13日（月・祝）

ターゲット：一般の美術愛好家、若年層特に20～30代女性、国内外からの観光客、留学生

重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項：同時期開催の特別展「東アジアの華 陶磁名品展」と併せ、「アジアフェス in トーハク」として広報展開。リリース配信（約550件）。

報道内覧会（9月19日 43人）

FMラジオ局J-WAVEとのコラボによるリスナー招待コンサート開催。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件（1都3県博物館・美術館・高校・中学・小学校（台東・墨田・文京）・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等）
交通広告	駅貼り広告（JR上野、鶯谷、日暮里、秋葉原、品川など22駅、東京メトロ 上野、浅草、表参道、六本木、大手町、銀座など11駅、京成線10駅、京王線4駅、東急線5駅）、JR上野駅ADビジョン
新聞・雑誌広告	朝日新聞1回、読売新聞2回
テレビ広告	—
新聞掲載	朝日新聞、東京新聞 東洋経済日報、陶業時報 ほか
テレビ／ラジオ	アートのステージ（TOKYO MX）、zappa（J-WAVE）
雑誌掲載	CREA（文藝春秋）、美しいキモノ（ハースト婦人画報社）、TOKYO WALKER（角川書店）、目の眼（目の眼）、アートコレクターズ（生活の友社） ほか
博物館ニュース	告知2回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジン・SNSでの情報配信

・特別企画

「留学生の日」

会期：26年9月21日（土）

ターゲット：留学生

重点項目：学校を通じた広報

特記事項：ポスター・チラシの制作、学校へのDM

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約500件（大学、語学専門学校等）
交通広告	駅貼り広告（京王線新宿駅、明大前など4駅）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
新聞掲載	—
テレビ／ラジオ	—
雑誌掲載	—
博物館ニュース	告知2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信

(2) 特別展・共催展等（海外展・巡回展を含む）

展覧会名：開山・栄西禅師800年遠忌特別展「栄西と建仁寺」

会期：26年3月25日（火）～5月28日（日）

ターゲット：一般の歴史及び美術ファン、禅宗文化ファン

重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付 ジュニア用ワークシートDM送付	約7,000件(博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート: 東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布
交通広告	JR山の手ベストボード(19駅25面)、メトロUボード(17駅20面) ポスター駅貼り(京成62駅、西武全駅、京成他)、上野商店街フラッグ
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞
テレビ広告	—
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞、日経新聞、毎日新聞、東京新聞ほか
テレビ/ラジオ	日曜美術館本編(NHK)、ひるまほっと(NHK)、首都圏ニュース(NHK)、ぶらぶら美術博物館(BS日テレ)、美の巨人たち ほか
雑誌掲載	美術手帳(美術出版ホールディングス)、美術の窓(生活の友社)、月刊美術(サンアート)、目の眼(目の眼)、サンデー毎日(毎日新聞社)、週刊新潮(新潮社)ほか多数
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社、NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 インターネットミュージアム(丹青社)、WEDGE Infinity(ウェッジ)、Yahoo!ニュース(ヤフー)、MSN産経ニュース(産経デジタル) ほか

②パブリシティ情報掲載・放映

新聞 101件、雑誌 375件、テレビ/ラジオ 25件、インターネット 39件

③報道発表会 25年10月28日 平成館大講堂にて (88人出席)

④報道内覧会 26年3月24日 (197人出席)

展覧会名: 特別展「キトラ古墳壁画」

会期: 26年4月22日(火)~5月28日(日)

ターゲット: 広く一般の美術・考古ファン

重点項目: マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付 ジュニア用ワークシートDM送付	約7,000件(博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、ギャラリー、書団体、古美術商、ホール、会館、書店、図書館等) ジュニア用ワークシート: 1都3県小中学校に送付
交通広告	駅ボード/JR: NT(87駅94面)、山手ステーションボード(17駅20面)、上野駅3×4 ポスター駅貼り・車内吊等(京王、京成 多数) 電飾看板(20駅20面)
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	—
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞、日経新聞、毎日新聞、東京新聞 ほか
テレビ/ラジオ	ニュース(NHK)、ゆうどき(NHK)、情報まるごと(NHK)、首都圏ネットワーク(NHK)、Nスタ(TBS)、ニュース23(TBS)、サンデーモーニング(TBS)、グッドモーニング(TB朝日) ほか
雑誌掲載	美術手帳(美術出版ホールディングス)、美術の窓(生活の友社)、月刊美術(サンアート)、目の眼(目の眼)、サンデー毎日(毎日新聞社)、週刊新潮(新潮社)、和楽(小学館)、日経おとなのOFF(日経BP)、大人の隠れ家(日経BP) ほか多数
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジン・SNSでの情報配信、公式ホームページ、共催者(朝日新聞社)ウェブサイトでの紹介 インターネットミュージアム(丹青社)、WEDGE Infinity(ウェッジ)、Yahoo!ニュース(ヤフー)、MSN産経ニュース(産経デジタル) ほか

②パブリシティ情報掲載・放映

新聞 351件、雑誌 57件、テレビ/ラジオ 14件、インターネット 40件

③報道発表会 26年1月19日 VRシアターにて (26人出席)

④報道内覧会 26年4月21日(137人出席)

⑤教員内見会 26年7月26日(119人出席)

展覧会名: 特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」

会期: 26年6月24日(火)~9月15日(月)

ターゲット: 広く一般の歴史及び美術ファン、中国美術・東洋美術ファン

重点項目: マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

特記事項: 共催のNHK、NHKプロモーション、読売新聞社、参詣新聞社、フジテレビジョン、朝日新聞社、毎日新聞社、東京新聞、特別協力のTBS、テレビ朝日、日本テレビ、共同通信社による広範な広報展開

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付 ジュニア用ワークシートDM送付	約6,500件(博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、ギャラリー、図書館等)

交通広告	JR上の駅大型ボード、JR山の手ベストボード(19駅25面)、メトロUボード(17駅20面) ポスター駅貼り(京成ドア横、京王ニューボード他)、上野商店街フラッグ
新聞・雑誌広告	毎日新聞(連載、広告各2回)、日経新聞(1回)
テレビ広告	—
新聞掲載	読売新聞、毎日新聞、正論(産経新聞)ほか
テレビ/ラジオ	ニュース(NHK)、日曜美術館(NHK)、スーパーニュース(フジテレビ)、今感テレビ(RKB) ゆうがた5(調布エフエム)ほか
雑誌掲載	月刊美術(サン・アート)、美術の窓(生活の友社)、炎藝術(安部出版)書道ジャーナル(書道ジャーナル研究所)和楽(小学館)、日経おとなのOFF(日経BP)、エクラ(集英社)ほか多数
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信 インターネットミュージアム(丹青社)、マイナビニュース(マイナビ)、日経ウーマンオンライン(日経BP)、レッツエンジョイトーキョー(株式会社ぐるなび)ほか

②パブリシティ情報掲載・放映

新聞 126件、雑誌 45件、テレビ/ラジオ 8件、インターネット 13件

③報道発表会 26年1月29日 平成館大講堂にて(141人出席)

④報道内覧会 26年6月23日(341人出席)

展覧会名：2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華 陶磁名品展」

会期：26年9月20日(土)～11月24日(月・祝)

ターゲット：一般の美術愛好家、陶磁器愛好家

重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項：同時期開催の特別企画「博物館でアジアの旅」と併せ、「アジアフェスintorhak」として広報展開。リリース配信(約550件)。
報道内覧会(9月19日 43人)

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件(1都3県博物館・美術館・高校・中学・小学校(台東・墨田・文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り広告(JR上野、鶯谷、日暮里、秋葉原、品川など22駅、東京メトロ 上野、浅草、表参道、六本木、大手町、銀座など11駅、京成線10駅、京王線4駅、東急線5駅)、JR上野駅ADビジョン
新聞・雑誌広告	朝日新聞1回、読売新聞2回
テレビ広告	—
新聞掲載	朝日新聞、東京新聞 東洋経済日報、陶業時報ほか
テレビ/ラジオ	アートステージ(TOKYO MX)、zappa(J-WAVE)
雑誌掲載	CREA(文藝春秋)、美しいキモノ(ハースト婦人画報社)、TOKYO WALKER(角川書店)、目の眼(目の眼)、アートコレクターズ(生活の友社)ほか
博物館ニュース	告知2回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジン・SNSでの情報配信

②パブリシティ情報掲載・放映

新聞 15件 雑誌 12件 テレビ・ラジオ 3件 インターネット 6件

③報道内覧会 26年9月19日(43人出席)

展覧会名：「日本国宝展」

会期：26年10月15日(水)～12月7日(日)

ターゲット：広く一般の歴史及び美術ファン

重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約9,800件(博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、ギャラリー、図書館、百貨店、ホテルほか ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布)
交通広告	駅ボード/JR：NTI(87駅101面)、JR+私鉄：SSボード(91駅91面)、東京メトロUボード(13駅21面)私鉄：PLボード(東急、京急、京王、小田急、東武、西武、相模)18駅22面)、京王ニューボード(新宿駅16面) ポスター駅貼り・車内吊等(JR、京王、西武 多数) 東急ドア横、JR品川駅大型フラッグ、西武池袋駅フラッグ
新聞・雑誌広告	読売新聞 5回、朝日新聞 2回、雑誌特集ページ(美術手帖、美術の窓、目の眼、洋泉社MOOK、和楽、サライ、日経おとなのOFF)
テレビ広告	—
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞、日経新聞、毎日新聞、東京新聞 ほか
テレビ/ラジオ	ひるまえほっと(NHK)、ねまきでアート(NHK)、日曜美術館(NHK)、日本美インパクト(NHKBSプレミアム)、ぶらぶら美術博物館(BS日テレ)、アート・ステージ(TOKYO MX)、美の巨人たち(テレビ東京)、グッド!モーニング(テレビ朝日)、もしもツアーズ(フジテレビ)ほか
雑誌掲載	美術手帖(美術出版ホールディングス)、美術の窓(生活の友社)、目の眼(目の眼)、洋泉社MOOK、(洋泉社)、和楽(小学館)、サライ(小学館)、日経おとなのOFF(日経BP)、女性自身(光文社)ほか多数
博物館ニュース	告知2回、特集2回

インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事13回、メールマガジン/SNSでの情報配信、公式ホームページでの紹介 インターネットミュージアム（丹青社）、マイナビニュース（マイナビ）、日経ウーマンオンライン（日経BP）、レッツエンジョイトーキョー（株式会社ぐるなび）、ハフィントンポスト日本版ほか
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②パブリシティ情報掲載・放映

新聞 426件、雑誌 127件、テレビ/ラジオ 13件、インターネット 66件

③報道発表会 26年4月4日 平成館大講堂にて（73人出席）

④報道内覧会 26年10月14日（254人出席）

⑤教員内見会 26年10月17日（272人出席）

展覧会名 特別展「みちのくの仏像」

会期：27年1月14日（水）～4月5日（日）

ターゲット：広く一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン

重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件（1都3県博物館・美術館・高校・中学・小学校（台東・墨田・文京）・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等）
交通広告	駅貼り広告（JR上野、鶯谷、日暮里、秋葉原、品川など）、東京メトロ 上野、浅草、表参道、六本木、大手町、銀座など）、東武線、京王線など44駅、有楽町Bic Vision
新聞・雑誌広告	朝日新聞1回、読売新聞3回
テレビ広告	—
新聞掲載	朝日新聞、東京新聞 東洋経済日報、陶業時報ほか
テレビ/ラジオ	アートのステージ（TOKYO MX）、ひるまほっと（NHK）、ぶらぶら美術博物館（BS日テレ）
雑誌掲載	SANKEI EXPRESS、三陸河北新報、目の眼、和楽、東京ウォーカーほか
博物館ニュース	告知2回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジン・SNSでの情報配信

②パブリシティ情報掲載・放映

新聞 11件、雑誌 38件、テレビ/ラジオ 5件

③報道発表会 26年9月16日 平成館大講堂にて（41人出席）

④報道内覧会 27年1月13日（94人出席）

展覧会名：3.11大津波と文化財の再生

会期：27年1月14日（水）～3月15日（日）

ターゲット：一般観覧者

重点項目：被災文化財の状況と修復の取り組みを、実際の被災・修復文化財の展示により広く伝える

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	毎日新聞、朝日新聞、産経新聞、聖教新聞、赤旗新聞、ほか
テレビ/ラジオ	NHKラジオ、NHK「情報まるごと」、NHK「首都圏ネットワーク」、NHK「おはよう日本」
雑誌掲載	週刊SPA！（扶桑社）
博物館ニュース	告知1回、特集1回

【京都国立博物館】

(1) 平常展（名品ギャラリー）

展覧会名：オープン記念展「京へのいざない」

会 期：26年9月13日～11月16日（56日間）

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等

記者発表会：26年3月18日、5月26日、9月10日、10月14日に実施

展覧会名：特別展観「山陰の古刹 島根鰐淵寺の名宝」

会 期：27年1月2日～2月15日（39日間）

広報媒体：ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等

展覧会名：特集陳列「雛まつりと人形」

会 期：27年2月21日～4月7日（39日間）

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等

記者発表会：27年2月20日に実施（予定）

展覧会名：特別展観「天野山金剛寺の名宝」

会 期：27年3月4日～3月29日（23日間）

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等

記者発表会：27年3月3日に実施

(2) 特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「南山城の古寺巡礼」

会 期：26年4月22日～6月15日（49日間）
 広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
 記者発表会：26年4月21日、5月26日に実施

展覧会名：特別展「修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺」
 会 期：26年10月7日～11月24日（43日間）
 広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
 記者発表会：5月26日、7月7日、10月6日に実施

【奈良国立博物館】

(1) 名品展（平常展）

広報媒体：博物館だより、新聞、テレビ等

(2) 特別展・共催展等

展覧会名：特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 追真とエキゾチズム」

会期：26年4月5日～6月1日
 広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展「国宝 醍醐寺のすべて ―密教のほとけと聖教―」

会期：26年7月19日～9月15日
 広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：天皇后両陛下下傘寿記念「第66回正倉院展」

会期：26年10月24日～11月12日
 広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、駅構内看板、テレビ特集番組等

(1) 名品展（平常展）

広報媒体：博物館だより、新聞、テレビ等

【九州国立博物館】

(1) 文化交流展（平常展）

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 350 件（学校・公共施設・ホテル・旅行会社等）
交通広告	ポスター駅貼り等（JR・西鉄）、チラシの設置（JR・西鉄）、車内窓広告（文化交流展示室展示替 300 回以上、年間パスポート）（西鉄）
新聞掲載	朝日新聞「名宝細見」、西日本新聞 記事掲載
雑誌掲載	太宰府市の広報誌に博物館コラムを毎月掲載、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載（年 4 回）、九州王国、飛翔（西日本シティ銀行広報誌）、西日本リビング新聞に掲載（年 2 回）、e p（高速バス車内等で配付）
テレビ	CM を制作
季刊情報誌「アジアージュ」	年 4 回発行（4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、27 年 1 月 1 日） 特別展、文化交流展示解説、トピック展示特集、博物館ニュース、イベントスケジュール等を掲載。
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	・文化交流展示室にてトピック展示のスタンプラリーを開催した。 ・ガイドブック「きゅーはく攻略本」を増刷し、県内全小中学校及び館内で配付した。

・トピック展示「館蔵近世絵画名品展」

会期：前期：26年2月25日（火）～4月6日（日）
 後期：26年4月8日（火）～5月18日（日）

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 200 件（友の会・太宰府市内公民館等）
新聞掲載	毎日新聞、西日本新聞、読売新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・国宝 琉球国王尚家関係資料修理完成記念特別公開

会期：26年4月8日（火）～5月18日（日）

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
季刊情報誌「アジアージュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・国宝「西光寺梵鐘」特別公開

会期：26年4月22日（火）～8月31日（日）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・特別公開「解剖書に見る東洋と西洋－ファブリカからターヘル・アナトミアへ－」

会期：26年5月20日(火)～7月13日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	マスコミ内覧会の開催 4社出席

・トピック展示「中国を旅した禅僧の足跡」

会期：26年5月27日(火)～7月6日(日)

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター等送付	約530件(博物館、美術館、文化施設等)
新聞掲載	朝日新聞「名宝細見」、西日本新聞、大分合同新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング福岡、e p、西鉄ニュースに等掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	マスコミ内覧会の開催 4社出席

・特別公開「海を越えた再会－クリーブランド美術館の仲間たち－」

会期：26年7月15日(火)～8月24日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング福岡、e p、西日本新聞「金鷲旗、玉竜旗」企画広告、西鉄ニュース、スターフライヤー機内誌等に掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	特集2回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	マスコミ内覧会の開催 10社出席 JR駅デジタルポスター、バス停広告掲出

・トピック展示「全国高等学校 考古名品展」

会期：26年7月15日(火)～9月23日(火・祝)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約150件(友の会)
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞 日経新聞、読売新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング福岡、e p、西日本新聞「金鷲旗、玉竜旗」企画広告、西鉄ニュース、スターフライヤー機内誌等に掲載
テレビ	TVQ、NHK、RKBのニュースで紹介
季刊情報誌「アジアージュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	マスコミ内覧会の開催 10社出席 JR駅デジタルポスター、バス停広告掲出

・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」

会期：27年1月1日(木・祝)～1月25日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約50件(太宰府市内公民館等)
新聞掲載	新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載、e p、SUNDAY下関等に掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	JR駅デジタルポスター、西鉄福岡駅ポスター掲示

・トピック展示「大涅槃展」

会期：27年1月14日(火)～2月15日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約200件(友の会)

新聞掲載	朝日新聞（名宝細見）、新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載、e p、SUNDAY下関等に掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	マスコミ内覧会の開催 社出席 JR駅デジタルポスター

・トピック展示「柿右衛門－受け継がれる技と美－」

会期：27年3月3日(火)～5月10日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、佐賀新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	予告1回、特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	マスコミ内覧会の開催 8社出席 JR駅デジタルポスター、バス停広告掲出

・長期的な広報

西鉄太宰府駅 広告ボードの設置 (21年～26年)

福岡空港 宣伝用看板(電照広告)の設置 (22年～)

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」

会期：26年4月15日(火)～6月8日(日) (49日間)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約1,150件(博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等)
交通広告	駅ボード(西鉄・JR)、ポスター駅貼り等(西鉄・JR)、ポスター車内(西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス)
新聞掲載	西日本新聞(展示解説を連載)、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、大分合同新聞、長崎新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー 特集1回
テレビ	TVQにて告知CM・番組での紹介
季刊情報誌「アジアージュ」	告知1回、特集1回、送付 約30,000件(博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等)
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載

②記者発表会 26年1月22日(11社出席)

② 報道内覧会 4月17日(15社出席)

展覧会名：特別展「クレーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」

会期：26年7月8日(火)～8月31日(日) (49日間)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約3,650件(博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等)
交通広告	駅ボード(西鉄・JR)、ポスター駅貼り等(西鉄・JR)、ポスター車内(西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス)
新聞掲載	西日本新聞(展示解説を連載)、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、公明新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー 特集1回、リビング福岡、e p、西日本新聞「金鷲旗、玉竜旗」企画広告、西鉄ニュース、スターフライヤー機内誌等に掲載
テレビ	TVQ、NHK、FBS、TNC番組での紹介・TVQにて告知CM
季刊情報誌「アジアージュ」	告知1回、特集1回、送付 約30,000件(博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等)
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、YouTubeで配信、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載

②記者発表会 4月22日(10社出席)

③報道内覧会 7月7日(18社出席)

展覧会名：特別展「台北 国立故宮博物院―神品至宝―」

会期：26年10月7日(火)～11月30日(日) (51日間)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約5,100件(博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館、県内全小中学校・高校・特別支援学校等)
交通広告	駅ボード(西鉄・JR)、ポスター駅貼り等(西鉄・JR)、ポスター車内(西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス)
新聞掲載	西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞(展示解説を連載)、産経新聞、大分合同新聞、報知新聞、中日新聞、台湾新聞記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー 特集1回、チャイナエアライン機内誌、ふくおか県議会だより 第10号

テレビ	TNC、TVQ、RKB、FBS、NHK、KBCの番組での紹介・TNC、TVQ、RKBにて告知CM
ラジオ	RKBにて展覧会紹介および告知CM
季刊情報誌「アジアージュ」	告知1回、特集1回、送付 約30,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、公式webサイト特別展『徳川家の至宝』展覧会ホームページ、facebook 周知活動
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 看板等…大丸地下通路電照看板、博多駅地下ビジョン、地下鉄天神駅電照看板、大丸南側看板、西日本ビジョン 書店タイアップ

- ②記者発表会 7月10日（23社出席）
③報道内覧会 10月6日（34社出席）

展覧会名：特別展「古代日本と百済の交流 一大宰府・飛鳥そして公州・扶餘」

会期：27年1月1日（木・祝）～3月1日（日）（52日間）

特記事項：次項記載の特別展と一体で実施

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約3,700件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	朝日新聞、産経新聞、西日本新聞（連載）、日経新聞、読売新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー 特集1回、e p、SUNDAY下関等に掲載
テレビ	TVQの番組での紹介および告知CM
季刊情報誌「アジアージュ」	告知1回、特集1回、送付 約31,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学・県内商業施設等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載

- ②記者発表会 10月22日（10社出席）
③ 報道内覧会 12月26日（16社出席）

展覧会名：特別展「日本発掘 発掘された日本列島2014」

会期：27年1月1日（木・祝）～3月1日（日）（52日間）

特記事項：前項記載の特別展と一体で実施

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約3,700件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞 記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー 特集1回、e p、SUNDAY下関等に掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	告知1回、特集1回、送付 約31,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学・県内商業施設等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載

- ②記者発表会 10月22日（10社出席）

【参考】

【平城宮跡資料館】

(1) 平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2) 特別展等

展覧会名：夏期企画展「平城京ビックリはくらんかい」

会 期：26年7月12日（土）～9月21日（日）

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：秋期特別展「地下の正倉院展—木簡を科学する—埋蔵文化財センターの40年」

会 期：26年10月18日（土）～11月30日（日）

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・ブログ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：ミニ展示「発掘速報展 平城2014」

会 期：26年12月6日（土）～27年2月1日（日）〈I期〉

27年2月14日（土）～27年3月31日（火）〈II期〉

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

【藤原宮跡資料室】

(1) 平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

・速報展

- ①「甘樫丘東麓遺跡の調査」
- ②「藤原宮朝堂院の調査」
- ③「東日本大震災復興調査における奈文研の取り組み」

【飛鳥資料館】

(1) 平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2) 特別展等

展覧会名：春期特別展「いにしへの匠たちーものづくりからみた飛鳥時代ー」

会 期：26年4月25日(金)～6月15日(日)

広報媒体：ポスター・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：夏期企画展「第5回写真コンテスト「飛鳥の葦」応募作品展」

会 期：26年7月25日(金)～9月7日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：企画展「津田洋 大和の美仏に魅せられて」

会 期：26年9月12日(金)～9月28日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等

展覧会名：秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどりー大地にぎざまれた記憶ー」

会 期：26年10月10日(金)～11月30日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学 2014ー縄文・弥生・古墳から飛鳥へー」

会 期：27年1月16日(金)～3月1日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

2-(4)-⑥ 広報刊行物一覽
【東京国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
東京国立博物館ニュース725号～729号	隔月刊年6回 各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者 2,115件 (パスポート同時申込 271件含) 寄贈 国内1,302件 海外85件 (国内外の美術館・博物館・大学・研究所等) 賛助会 438件 (キャンパスメンバーズ 44件含) 友の会 1,937件 (27年3月31日現在)
東京国立博物館「案内と地図」	日本語 26.4 改訂 48,000部 日本語 26.8 増刷 60,000部 英語 26.4 改訂 20,000部 英語 26.8 増刷 40,000部 中国語 (簡体字) 26.4 改訂 10,000部 中国語 (繁体字) 26.4 改訂 10,000部 韓国語 26.4 改訂 15,000部 フランス語 26.4 改訂 3,000部 フランス語 26.8 増刷 2,500部 スペイン語 26.4 改訂 3,000部 スペイン語 26.8 増刷 2,500部 ドイツ語 26.4 改訂 3,000部 ドイツ語 26.8 増刷 2,500部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校等に送付
東京国立博物館 展示・催しのご案内2014.4-2015.3	26.3 26年度版 35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊行物名	発行時期	発行部数	配布先
京都国立博物館だより	4、7、10月、27年1月	182号 (4・5・6月) 15,000部 183号 (7・8・9月) 10,000部 184号 (10・11・12月) 30,000部 185号 (26年1・2・3月) 20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Newsletter Vol. 121～124 (英文)	4、7、10月、27年1月	Vol. 121～124 各3,000部	観覧者、京都市観光案内所
特別展覧会「南山城の古寺巡礼」関連ワークシート	4月	50,000部	観覧者 (小・中学生対象)
特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」関連 鑑賞ガイド	10月	140,000部	観覧者
博物館Dictionary No. 172～175	10、11、12月 27年1月	8,000部	観覧者 (小・中学生対象)
平成26年度年間スケジュール (増刷)	9月	10,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
平成26年度留学生の日ポスター・チラシ	10月	ポスター500部、チラシ10,000部	観覧者 (関西圏の大学、専門学校へ送付)
京都国立博物館 展示案内	26年9月	日本語版 100,000部 日本語版 (27.3 増刷) 50,000部 英語版 20,000部 中国語版 10,000部 日本語版 (27.3 増刷) 10,000部 韓国語版 10,000部 仏語版 10,000部 西語版 10,000部	観覧者、京都市観光案内
平成27年度年間スケジュール	27年3月	40,000部	観覧者、パスポート会員、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
京都国立博物館シアター案内	26年9月	日本語版 5,000部 英語版 10,000部	観覧者
文化財に親しむ授業ガイドブック (増刷)	27年2月	500部	教員・教育関係者などへ無償配布
『小さな瞳にワクワクを—平成26年「文化財に親しむ授業」記録集』	27年3月	1000部	教員・教育関係者などへ無償配布

【奈良国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
奈良国立博物館だより (年4回)	春号 20,000部 夏号 20,000部 秋号 31,000部 冬号 15,000部	美術館・博物館・大学・研究所等 約120件
奈良国立博物館リーフレット	日本語版 35,000部 英語版 5,500部 フランス語版 1,000部 ドイツ語版 1,000部 中国語版 4,000部 韓国語版 1,500部 スペイン語版 1,000部	館内で来館者に配布

奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布
仏教美術資料研究センター利用案内	30,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版 80,000部 中国語版 8,000部 韓国語版 11,000部 英語版 13,000部 ドイツ語版 3,000部 フランス語版 3,000部 スペイン語版 3,000部 合計 121,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版 24,000部 中国語版 6,000部 韓国語版 3,000部 英語版 6,000部 合計 39,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版 3,000部 中国語版 300部 韓国語版 300部 英語版 500部 合計 4,100部	・視察者等に配布
季刊情報誌「アジアージュ」	春(32)号 50,000部 夏(33)号 50,000部 秋(34)号 50,000部 冬(35)号 50,000部 合計 200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行 各号14,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館 展示スケジュールのご案内	50,000部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館 わくわく通信	年5回毎回 682,000枚	・福岡市を含む博物館近隣14市町
九州国立博物館 きゅーはく攻略本	80,000部	・館内で来館者に配布 ・県内全小中学校に配布

2-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数 (後述の資料に記載) ◎共通資料 d

3 我が国における博物館の中核としての機能の強化

3-(1) 調査研究の成果の発信

3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-③

3-(1)-② シンポジウム開催実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

3-(1)-③ 論文等発表実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

3-(1)-④ 調査研究刊行物一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥

3-(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施

3-(2)-① 研究交流実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-①

3-(4) 収蔵品の貸与

3-(4)-① 公立博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成27年3月31日現在

	国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数	274	261	13	115	108	7	82	79	3	47	47	0	30	27	3
合計	1,962	1,867	95	1,130	1,059	71	582	570	12	149	149	0	101	89	12
絵画	392	366	26	134	125	9	186	174	12	59	59	0	13	8	5
書跡	92	91	1	45	44	1	34	34	0	11	11	0	2	2	0
彫刻	361	359	2	294	292	2	20	20	0	39	39	0	8	8	0
建築	3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
金工	94	84	10	34	25	9	42	42	0	16	16	0	2	1	1
刀剣	10	10	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	257	241	16	81	65	16	163	163	0	0	0	0	13	13	0
漆工	109	108	1	37	37	0	60	60	0	9	9	0	3	2	1
染織	35	35	0	14	14	0	13	13	0	0	0	0	8	8	0
考古	243	238	5	120	118	2	61	61	0	15	15	0	47	44	3
民族資料	8	4	4	8	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	36	34	2	30	30	0	3	3	0	0	0	0	3	1	2
和書	13	12	1	13	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東 洋	絵画	42	23	19	42	23	19								
	書跡	13	13	0	13	13	0								
	彫刻	5	3	2	5	3	2								
	金工	4	0	4	4	0	4								
	陶磁	28	26	2	28	26	2								
	漆工	5	5	0	5	5	0								
	染織	7	7	0	7	7	0								
	考古	10	10	0	10	10	0								
民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物	2	2	0	2	2	0									
黒田記念館収蔵品	193	193	0	193	193	0									

* 巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
貸与先件数	301	266	311	272	274	
合計	1,936	1,571	1,814	2,041	1,962	
絵画	395	376	436	461	392	
書跡	89	75	91	101	92	
彫刻	198	146	224	183	361	
建築	2	3	5	4	3	
金工	100	61	84	63	94	
刀剣	24	42	13	46	10	
陶磁	117	98	99	250	257	
漆工	92	66	57	121	109	
染織	63	152	98	47	35	
考古	350	203	327	324	243	
民族資料	9	12	2	0	8	
歴史資料	95	24	44	68	36	
和書	4	21	14	13	13	
東 洋	絵画	27	15	12	13	42
	書跡	23	9	6	13	13
	彫刻	9	9	27	9	5
	金工	0	1	0	0	4
	陶磁	91	9	29	37	28
	漆工	2	6	3	0	5
	染織	2	0	0	1	7
	考古	53	30	49	47	10
民族	0	0	0	0	0	
法隆寺献納宝物	8	2	0	0	2	
黒田記念館収蔵品	183	211	194	240	193	

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

3-(4)-② 公立博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成27年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	192	1,380	101	1,020	49	268	26	47	16	45
国・国立	30	157	11	53	12	87	4	7	3	10
地方・公立	123	1,015	68	835	25	115	20	37	10	28
私立団体	39	208	22	132	12	66	2	3	3	7
海外	12	79	7	71	2	4	0	0	3	4

○寄託品

平成27年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	115	487	18	39	50	302	32	102	15	44
国・国立	16	125	2	8	6	83	7	33	1	1
地方・公立	67	180	8	24	31	73	17	43	11	40
私立団体	32	182	8	7	13	146	8	26	3	3
海外	4	16	0	0	2	8	0	0	2	8

3-(4)-③ 海外への列品貸与

【東京国立博物館】 海外貸与先 7件 海外貸与文化財 71件[うち寄託品 0件] 平成27年3月31日現在

展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数
常設展示(長期貸与)	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館(フランス共和国パリ市)】	14年1月1日~26年12月31日	東洋彫刻2
日本美術室常設展示(長期貸与)	ヒューストン美術館【ヒューストン美術館日本美術室(アメリカ合衆国)】	24年2月17日~28年3月31日	19件 彫刻2、金工5、陶磁10、考古2
「日本所蔵の中国絵画」展	ロサンゼルスカウンティ美術館【ロサンゼルスカウンティ美術館(アメリカ合衆国)】	26年5月11日~8月3日	東洋絵画19件
企画特別展「朝鮮 青花白磁」	国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国)】	26年9月30日~11月16日	6件 陶磁4、東洋陶磁2
「パリ北斎展」	グラン・パレ・国立ギャラリー【グラン・パレ・国立ギャラリー(フランス共和国)】	26年10月1日~27年1月18日	絵画4件
特別展「琉球王国の至宝」	国立古宮博物館【国立古宮博物館(大韓民国)】	26年12月9日~27年2月8日	20件 絵画5、書跡1、金工4、陶磁1、民族4、和書1、東洋金工4
「楽一茶碗の中の宇宙」展	ロサンゼルスカウンティ美術館【ロサンゼルスカウンティ美術館(アメリカ合衆国)】	27年3月29日~27年6月7日	陶磁1件

【京都国立博物館】 海外貸与先 3件 海外貸与文化財 12件[うち寄託品 8件]

展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数(件)
「パリ北斎」展	グラン・パレ・ナショナル・ギャラリー【グラン・パレ・ナショナル・ギャラリー(フランス)】	26年9月24日~11月20日、26年12月1日~27年1月18日	絵画2
特別展「山水画、理想郷を追い求める(Landscapes: Seeking the Ideal Land)」	大韓民国国立中央博物館【大韓民国国立中央博物館】	26年7月22日~9月21日	絵画1
海外展『Ink and Gold: Art of the Kano「狩野派」展』	文化庁長官 フィラデルフィア美術館長	平成27年1月29日~平成27年5月24日	絵画9

【奈良国立博物館】 海外貸与先 0件 海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【九州国立博物館】 海外貸与先 3件 海外貸与文化財 12件[うち寄託品 8件]

展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数(件)
「第60回百済文化祭記念特別展 武寧王時代の東アジア世界」	大韓民国国立公州博物館	26年9月18日~11月28日	考古3
「琉球王国の至宝：沖縄の輝かしい歴史」	大韓民国国立古宮博物館	26年11月27日~27年2月26日	7件 絵画3、金工1、漆工1、歴史資料2
「狩野派展」	フィラデルフィア美術館	27年1月14日~27年6月19日	絵画2

3-(4)-④ 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数(件)	借用件数(件)
大阪府立近つ飛鳥博物館	50	12

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数(件)	借用件数(件)
平泉町(平泉文化遺産センター)	1	15
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	3	5
涌谷町教育委員会(涌谷町立わくや万葉の里歴史館)	1	5
色麻町(色麻町立農業伝習館)	1	0
五條市教育委員会(市立五條文化博物館)	1	7

(参考)

その他(収蔵品・寄託品以外)の貸与

【東京国立博物館】

区分	貸与件数(件)	貸与先件数(件)
古写真	4	1

3-(5) 公立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

3-(5)-① 公立博物館等に対する援助・助言

平成27年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
263件	119件	29件	58件	57件

【東京国立博物館】119件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	筆の里工房	筆の里工房 20 周年特別展の展示に関わる助言	4 月～9 月	副館長 島谷弘幸、客員研究員 恵美千鶴子
2	高知県	高知県新資料館建設会議	12 月 1 日	副館長 島谷弘幸
3	高梁市成羽美術館	特別展の展示に関わる助言	4 月～10 月	同上
4	大阪市立美術館	日本書芸院と共催の書道展に関わる助言	4 月～27 年 1 月	同上
5	公益財団法人・陽明文庫	文庫運営に関わる助言	6 月 17 日、27 年 3 月 10 日	同上
6	町田市	(仮称)町田市立国際工芸美術館整備基本計画検討委員会	5 月 27 日	学芸企画部長 伊藤嘉章
7	東京国立近代美術館	評議員	7 月 9 日、27 年 2 月 13 日	同上
8	文化庁	買取鑑査会議委員 (美術・工芸部会)	8 月 1 日	同上
9	国際交流基金・ロサンゼルスカウンティ美術館、エルミタージュ美術館、プーシキン美術館	『楽一茶碗の中の宇宙』専門委員	8 月～27 年 3 月	同上
10	可児市	可児市大萱古窯跡群調査・保存・整備指導委員会	10 月 3 日	同上
11	文化庁	文化審議会専門委員 (文化財分科会)	27 年 3 月 3～5 日	同上
12	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	27 年 2 月 23、24 日	同上
13	トリノコマリー海軍海事史博物館	展示手法、作品管理などに関する指導・助言	5 月 16 日	企画課長 小泉恵英
14	出光美術館	出光文化福祉財団 美術品修復事業助成事業への推薦	12 月 24 日	企画課特別展室長 松嶋雅人
15	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員 (審査委員)	12 月～27 年 11 月	同上
16	渋谷区立松濤美術館	展覧会における彫刻の展示台製作方法等について助言した。	8 月	企画課デザイン室長 木下史青
17	一ツ橋大学	鼻煙壺の展示について、木製棚を展示ケースとして使用する 場合の展示・照明方法、施工業者等について助言した。	9 月～10 月	同上
18	国立大学法人 福島大学 芸術による地域創造研究所	福島県喜多方の歴史的建造物である米蔵における展示・照明 デザインに関する調査・指導・助言を行った。	6 月～11 月	同上
19	東京藝術大学	指導教官 (准教授) よりの依頼で、大学美術館における作家 (大学院博士課程) の展示・照明方法等について助言した。	11 月～12 月	同上
20	東京都美術館	「Museum Start あいうえの“ティーンズ学芸員”」事業のプログラム《東洋館見学》について、展示や照明のデザインに関する レクチャー援助を行った。	27 年 1 月 7 日	同上
21	平等院	鳳翔館における文化財展示環境の調査協力および展示照明の 刷新等に関する指導・助言を行った。	6 月～27 年 3 月	同上
22	ルーブル美術館	来館者数の推移と傾向に関わる助言	26 年 1 月～12 月	企画課出版企画室長 遠藤楽子
23	国立民族学博物館	平成 26 年度「博物館学集中コース」見学研修講師	6 月 11 日	企画課国際交流室長 鬼頭智美
24	日本博物館協会	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業委員	4 月～27 年 3 月	同上
25	国際展覧会オーガナイザー会議	運営委員会委員・アジアの博物館における展覧会運営について	5 月 8 日	同上
26	シンガポール国立博物館	シンガポール建国 50 年記念展覧会に向けて日本関係資料調査についての助言	27 年 2 月 2 日	同上
27	東京都庭園美術館	スマートフォンによるアプリの開発と運用について	6 月	博物館教育課長 小林牧
28	九州国立博物館	グーグルアートプロジェクトへの参加について	7 月	同上
29	香川県立ミュージアム	同上	9 月	同上
30	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会	10 月～28 年 3 月	同上
31	仙台市立博物館	スマートフォン向けアプリ「トーハクなび」について	27 年 3 月 11 日	博物館教育課長 小林牧、博物館教育課教育講座室主任研究員 神辺知加
32	浜松市立博物館	浜松にもたらされた黄檗文化展の展覧会構成、展示への助言	10 月～11 月	博物館教育課教育講座室長 浅瀬毅
33	静岡県教育委員会	三嶋大社所蔵「三十六歌仙図刺繍額」の県指定文化財指定に関わる調査・助言	4 月～27 年 3 月	博物館教育課教育普及室長 小山弓弦葉
34	文化庁	伝統工芸技術の保護に関わる調査・助言	4 月～27 年 3 月	同上
35	東京手描友禅伝統工芸士産地委員会	東京手描友禅の伝統工芸士認定に関わる審査委員	8 月～10 月	同上
36	東京都庭園美術館	教育普及スペースと触知図設置の助言	7 月 25 日	博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
37	日本博物館協会	ドイツ国立博物館学芸員への博物館教育の助言	11 月 5 日	同上
38	日本動物園協会	ボランティアの緊急時対応・防災訓練についての助言	11 月 5 日	同上
39	横浜美術館	ボランティア制度についての助言	12 月 6、7 日、27 年 2 月 26 日	同上

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
40	北九州市立自然史・歴史博物館	盲学校のためのスクールプログラム・ユニバーサルミュージアム・ボランティア制度についての助言	27年2月3日	同上
41	富士通株式会社	ユニバーサルデザイン、視覚障害者対応についての助言	27年2月24日	同上
42	文化庁	第9回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師(文化財情報システム構築とネットワーク活用)	7月7日、10月20日	博物館情報課情報管理室長 村田良二
43	東京国立近代美術館	「海外日本美術資料専門家(司書)の招聘・研修・交流事業2014」研修講師	12月3日	博物館情報課長 高橋裕次、 博物館情報課情報管理室長 村田良二、博物館情報課情報 資料室専門職員 住広昭子
44	奈良文化財研究所	平成24年度文化財担当者専門研修「遺跡情報記録調査課程」講師	12月18日	博物館情報課情報管理室長 村田良二
45	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4 国内委員会委員	27年1月16日	同上
46	山梨県	山梨県指定文化財調査委員	10月31日	広報室長 伊藤信二
47	久能山東照宮	金陀美具足及び白檀塗具足保存修理検討会議	6月25日	同上
48	文化庁、春日大社	春日大社国宝古神宝類の復元模造製作事業	7月3、4日	同上
49	國學院高等学校	日本文化史資料館の収蔵品の展示・保存の助言	8月27日、11月22日	同上
50	文化庁	文化財買取協議会(工芸品)	9月8日	同上
51	歴史に憩う榎原市博物館	「特別展 新沢千塚」の展示および梱包における協力・助言等	6月28、29日、9月10日	列品管理課主任研究員 古谷毅
52	国立歴史民俗博物館	鑑査委員会(購入資料:館外委員)における評価・助言等	11月17日	同上
53	岡田美術館	収蔵品の作品解説に関わる助言	8月5日～9月9日	列品管理課平常展調整室主任 研究員 川村佳男
54	文京区立森鷗外記念館	運営協議会委員として、館の運営について助言	4月～27年3月	調査研究課長 田良島哲
55	文化庁	買取鑑査会議委員(美術・工芸部会)	8月1日	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕實
56	第37回日本の象牙彫刻展組織委員会	第36回日本の象牙彫刻展審査委員	7月6日	調査研究課工芸室長 竹内奈美子
57	東京都生活文化局	東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会(資料評価部会)臨時委員	10月30日	調査研究課工芸室長 竹内奈美子
58	東京文化財研究所	在外日本古美術品保存修復協力事業に係る調査	27年1月25日～30日	調査研究課工芸室長 竹内奈美子
59	国立歴史民俗博物館 木更津市郷土博物館金のすず	金鈴塚古墳出土遺物の調査研究に関わる助言	4月～27年3月	調査研究課工芸室 三田覚之
60	韓国国立中央博物館	同館の金工展示室のリニューアルにかかわる助言	5月1日	企画課デザイン室長 木下史青、 企画課デザイン室主任研究員 矢野賢一、 保存修復課環境保存室長 和田浩、 調査研究課考古室長 白井克也
61	韓国国立古宮博物館	同館の特別展開催にかかわる助言	6月25日	調査研究課考古室長 白井克也、 調査研究課考古室主任研究員 品川欣也
62	国立歴史民俗博物館	同上	10月3日	調査研究課考古室長 白井克也
63	山梨県立博物館	同上	10月6日	同上
64	韓国国立中央博物館	同上	12月5日	調査研究課考古室長 白井克也、 調査研究課考古室 井出浩正、 調査研究課考古室アシエイトフェロー 河野正訓
65	国立科学博物館	国際博覧会など、相互の館史にかかわる今後の研究計画について、助言	27年2月19日	学芸企画部長 伊藤嘉章、 博物館情報課長 高橋裕次、 調査研究課長 田良島哲、 調査研究課考古室長 白井克也
66	韓国国立中央博物館	同館の特別展開催にかかわる助言	27年2月26日	学芸研究部長 谷豊信、 調査研究課考古室長 白井克也、 調査研究課考古室主任研究員 品川欣也、 調査研究課考古室 井出浩正
67	島根県立古代出雲歴史博物館	三木文雄氏寄贈資料の調査	8月26～28日	調査研究課考古室主任研究員 品川欣也
68	島根県立古代出雲歴史博物館	同館の特別展開催にかかわる助言	6月26日	調査研究課考古室研究員 井出浩正
69	アイヌ文化財団	同上	27年2月25～26日	調査研究課考古室主任研究員 品川欣也、 調査研究課考古室研究員 井出浩正
70	NPO 法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル2・A 陸前高田学校 講師	7月28日～8月3日	保存修復課長 神庭信幸
71	NPO 法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル1・B 講師	9月1日～9月11日	同上
72	公益財団法人日本博物館協会	「博物館研究」編集委員会委員	27年1月26日	同上
73	イコム日本委員会	委員	5月19日	同上

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
74	民俗共生の象徴となる空間における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会	施設整備専門部会委員	4月23日、5月28日、8月27日、12月11日	同上
75	大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト	実行委員会委員	8月1日、8月2日、11月21日、1月30日	同上
76	渋谷区立松涛美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	25年10月1日～4月1日	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩
77	榎原市千塚資料館	同上	25年11月29日～6月26日	同上
78	岡田文化財団パラミタミュージアム	同上	25年7月1日～26年7月8日	同上
79	都城市立美術館	同上	7月25日～10月3日	同上
80	ヤマザキマザック美術館	同上	6月5日～10月3日	同上
81	三菱一号館美術館	同上	8月1日～11月10日	同上
82	大分県立美術館	同上	12月5日～27年3月31日	同上
83	富有柿の里古墳と柿の館	同上	8月26日、27年3月31日	同上
84	イラク共和国スレイマニア博物館	資料保存環境、修理について	7月22日	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
85	中国陝西歴史博物館	保存環境、保存修復材料についての助言	7月23日	同上
86	島根県立古代出雲歴史博物館	写真資料の保存、紙資料の保存と修理、コレクションマネジメントとボランティアの関わりについての助言	8月27、28日	同上
87	NPO 法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル2・A 講義「接着剤」講師	9月2日	同上
88	学習院大学資料館	文化財収蔵施設環境についての助言	9月20日	同上
89	大阪市立東洋陶磁美術館	陶磁器の修理についての助言	9月28日	同上
90	東京大学東洋文化研究所	写真技法のアイデンティフィケーションと保存についての助言	27年1月13日	同上
91	上海博物院	エックス線 CT の文化財撮影についての設定・助言	27年3月23日	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー 宮田将寛、企画課国際交流室アソシエイトフェロー 楊鋭
92	天理大学、天理大学附属天理参考館	「古代オリエントにおける都市遺跡の盛衰に関する考古学的研究」による、テル・ゼロール遺跡出土資料の調査研究への援助・助言	11月18日～11月24日	企画課特別展室アソシエイトフェロー 小野塚拓造
93	豊田市	茶道具の寄贈に関わる助言	6月～10月	学芸企画部長 伊藤嘉章、企画課特別展室 横山梓、客員研究員 恵美千鶴子
94	中国四川省成都博物院	出土織機の組み立て等に関する助言	11月30日	客員研究員 澤田むつ代
95	文化庁文化審議会文化財分科第四専門調査会	平成26年度選定保存技術の選定・認定について	6月27日	同上
96	文化庁分科審議会文化財分科会第一専門調査会	国宝・重要文化財・登録有形文化財の指定・登録等について	27年3月2日～4日	同上
97	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	8月1日～27年3月31日	総務部長 栗原祐司
98	文化庁	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会委員、組織運営専門部会委員	6月13日～27年3月31日	総務部長 栗原祐司
99	観光庁	MICE アンバサダー	9月2日～28年3月31日	総務部長 栗原祐司
100	観光庁	ユニークベニュー利用促進協議会委員	25年8月19日～27年3月31日	総務部長 栗原祐司
101	群馬県	上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会の助言	27年3月18日	総務部長 栗原祐司
102	田川市	世界記憶遺産活用等推進委員会委員	25年12月20日～27年12月20日	総務部長 栗原祐司
103	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	6月1日～28年5月31日	総務部長 栗原祐司
104	南九州市	南九州市世界記憶遺産推進会議アドバイザー	27年1月8日～28年3月31日	総務部長 栗原祐司
105	舞鶴市	舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議委員	24年12月26日～27年3月31日	総務部長 栗原祐司
106	独立行政法人日本スポーツ振興センター	秩父宮記念スポーツ博物館・図書館展示基本業務に係る建設コンサルタント選定委員会委員長	6月9日～8月10日	総務部長 栗原祐司
107	公益財団法人日本博物館協会	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進委員会委員、同検討会議委員、同企画会議委員	4月15日～27年3月31日	総務部長 栗原祐司、国際交流室長 鬼頭智美
108	公益財団法人日本博物館協会	博物館の登録制度の在り方に関する調査研究に関する委員会委員	7月15日～28年3月31日	総務部長 栗原祐司
109	Museum2015 実行委員会	Museum2015 実行委員会監事	4月15日～27年3月31日	総務部長 栗原祐司
110	上野の山文化ゾーン連絡協議会	上野の山文化ゾーン連絡協議会幹事	5月29日、8月29日	総務部長 栗原祐司
111	上野「文化の杜」新構想推進会議	上野「文化の杜」新構想推進会議ワーキンググループ委員	26年1月29日～27年3月31日	総務部長 栗原祐司

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
112	全国美術館会議	全国美術館会議総会（広島市）において講演	5月22日	総務部長 栗原祐司
113	国宝修理装こう師連盟	国宝修理装こう師連盟評議員	9月4日	総務部長 栗原祐司
114	明日の京都文化遺産プラットフォーム	明日の京都文化遺産プラットフォーム幹事会において講演	9月24日	総務部長 栗原祐司
115	人権資料・展示全国ネットワーク	人権資料・展示全国ネットワーク総会において講演	9月25日	総務部長 栗原祐司
116	名古屋大学博物館	名古屋大学博物館において講演	11月5日	総務部長 栗原祐司
117	せとうち美術館ネットワーク	せとうち美術館ネットワーク総会において講演	11月15日	総務部長 栗原祐司
118	文化庁	ミュージム・マネジメント研修会において講義	12月11日	総務部長 栗原祐司
119	岩手県旧出生小学校 (現：陸前高田市博物館)	文化財レスキュー事業 講話	7月31日～8月1日	館長 銭谷真美

【京都国立博物館】 29件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	大津市教育委員会	大津曳山祭総合調査の指導	4月25日	企画室研究員 末兼俊彦
2	国際仏教学大学院大学	公開研究会に参加し助言	5月10日	上席研究員 赤尾栄慶
3	大津市教育委員会	大津曳山祭総合調査の指導	5月17日	企画室研究員 末兼俊彦
4	ICOM 日本委員会	総会に参加し助言	5月19日	アソシエイトフェロー リンネ マリサ
5	福井市愛宕坂茶道美術館	収蔵作品調査の指導	6月19日～20日	保存修理指導室主任研究員 羽田 聡
6	大津市教育委員会	大津曳山祭総合調査の指導	6月21日	企画室研究員 末兼俊彦
7	奥田元宋・小由女美術館	作品撤収・点検の指導	7月7日～9日	同上
8	福島県立美術館	特別展出品作品交渉への助言	7月18日～19日	列品管理室長 浅見龍介
9	上海・復旦大学中華文明国際研究中心	国際検討会へ参加し助言	7月19日～21日	上席研究員 赤尾栄慶
10	碧南市藤井達吉現代美術館	作品展示の指導	9月8日	企画室研究員 末兼俊彦
11	静岡県立美術館	展覧会撤収作業の指導	9月8日	美術室研究員 福士雄也
12	パラミタミュージアム	展示作品撤収の指導	9月30日～10月2日	企画室研究員 末兼俊彦 工芸室研究員 降矢哲男
13	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業実行委員会事務局	応用美術の博物館とコレクションに関する国際委員会2014年大会へ参加し助言	10月14日～16日	アソシエイトフェロー リンネ マリサ
14	香川県立ミュージアム	作品展示の指導	10月17日	上席研究員 赤尾栄慶
15	碧南市藤井達吉現代美術館	作品撤収・梱包の指導	10月20日	企画室研究員 末兼俊彦
16	海住山寺	公開展示作業の指導	10月24日	保存修理指導室主任研究員 羽田 聡
17	浜松市博物館	作品展示の指導	10月28日	列品管理室研究員 呉 孟晋
18	福井市愛宕坂茶道美術館	福井市愛宕坂茶道美術館に寄贈の作品調査の指導	10月31日	保存修理指導室主任研究員 羽田 聡
19	唐津市教育委員会	唐津焼美術館（仮称）検討委員会に参加し助言	10月31日～11月1日	工芸室研究員 降矢哲男
20	香川県立ミュージアム	作品撤収作業の指導	11月4日	保存修理指導室主任研究員 羽田 聡
21	プリンストン大学	シンポジウムに参加し助言	11月5日～8日	アソシエイトフェロー リンネ マリサ
22	海住山寺	撤収作業の指導	11月10日	保存修理指導室主任研究員 羽田 聡
23	福井市愛宕坂茶道美術館	所蔵品調査の指導	11月14日～15日	工芸室研究員 降矢哲男
24	土岐市美濃陶磁歴史館	出土陶片調査の指導	12月5日	同上
25	米子市埋蔵文化財センター	調査の指導	12月13日	同上
26	河内長野市文化振興財団	講演会で講演	12月17日	同上
27	新潟市新津美術館	展示の指導	27年1月19日	企画室研究員 末兼俊彦
28	徳島市立德島城博物館	資料調査に助言	27年2月15日～16日	工芸室研究員 降矢哲男
29	島根県	文化財保護審議会へ出席し助言	27年3月16日	教育室長 山川 暁

【奈良国立博物館】 58件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展—聖徳太子と平和への祈り—」における出陳品借用作業立会	4月7日、9日、10日 6月6日	上席研究員 岩田茂樹 研究員 岩戸晶子 研究員 北澤菜月
2	同上	同上	4月14日～19日 6月9日～13日 8月4日～7日	学芸部長 内藤 栄 上席研究員 岩田茂樹 研究員 北澤菜月
3	同上	同上	5月18日、19日 7月14日 9月7日、8日	研究員 北澤菜月
4	同上	同上	6月1日～4日 7月27日～30日 9月21日～24日	学芸部長 内藤 栄 上席研究員 岩田茂樹 研究員 北澤菜月

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
5	同上	同上	9月25日、26日、29日～ 10月2日、6日	学芸部長 内藤 栄 上席研究員 岩田茂樹 企画室長 野尻 忠 研究員 岩戸晶子 研究員 北澤菜月
6	雲辺寺	雲辺寺所蔵品修復に関して指導・助言	4月23日	保存修理指導室長 谷口耕生 研究員 北澤菜月
7	公益社団法人 日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員会に委員として出席し助言	4月24日	館長 湯山 賢一
8	九州国立博物館	三次元データに基づく文化財研究に関する助言	4月28日～29日	主任研究員 鳥越俊行
9	インドネシア・ジャカルタ特別州文化財センター	保存修復状況に関する助言	5月15日	館長 湯山賢一 保存修理指導室長 谷口耕生
10	一般財団法人 文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事会に理事として出席し助言	5月23日	保存修理指導室長 谷口耕生
11	京大大学生存圏研究所	シロアリ被害材X線CT測定に関して指導・助言	5月30日 11月26日	主任研究員 鳥越俊行
12	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会に委員として出席し助言	6月5日	学芸部長 内藤 栄
13	京都国立博物館	文化財保存修理所運営委員会に委員として出席し助言	6月9日	同上
14	公益財団法人 大和文華館	評議員会に評議員として出席し助言	6月10日	同上
15	奈良女子大学	経営協議会に委員として出席し助言	6月18日 27年1月27日	館長 湯山賢一
16	公益財団法人 仏教美術協会	評議員会に評議員として出席し助言	6月19日	館長 湯山賢一
17	島根県立八雲立つ風土記の丘	考古資料相互活用促進事業に関する指導・助言	6月19日	研究員 岩戸晶子
18	公益財団法人 仏教美術研究上野記念財団	評議員会及び理事会に理事として出席し助言	6月23日	館長 湯山賢一
19	文化庁	文化審議会文化財分科会第四専門調査会に委員として出席し助言	6月27日	同上
20	島根県立八雲立つ風土記の丘	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財輸送	7月9日～11日	研究員 岩戸晶子
21	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展—聖徳太子と平和への祈り—」における講演会にて講演	7月13日	研究員 北澤菜月
22	公益財団法人 四国民家博物館	貸与作品の展示に伴う指導・助言	7月13日	研究員 山口隆介
23	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展—聖徳太子と平和への祈り—」における講演会にて講演	7月21日 9月7日	上席研究員 岩田茂樹
24	涌谷町	考古資料相互活用促進事業に関する指導・助言	7月31日	研究員 岩戸晶子
25	国立歴史民俗博物館	人間文化研究機構連携研究「正倉院文書の高度情報化」における研究会に出席し助言	7月31日	企画室長 野尻 忠
26	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会に委員として出席し助言	7月31日	上席研究員 岩田茂樹
27	奈良教育大学	奈良ESDコンソーシアム構成団体連絡会議に出席し助言	7月31日 11月9日	教育室長 岩井共二
28	九州国立博物館	貸与作品の修理に関する指導・助言	7月31日	保存修理指導室長 谷口耕生 研究員 北澤菜月
29	天理市教育委員会	天理市文化財保護審議会に委員として出席し助言	8月1日	保存修理指導室長 谷口耕生
30	米沢市教育委員会	米沢市上杉博物館資料収集委員会に委員として出席し助言	8月5日	館長 湯山賢一
31	文化庁	イタリアにおける仏教美術展企画会議に議員として出席し助言	8月15日	上席研究員 岩田茂樹
32	平泉町	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財輸送	8月21日～26日	研究員 岩戸晶子
33	奈良市教育センター	教職員研修講座にて講演	8月26日	学芸部長 内藤 栄
34	文化庁	熊本県所在文化財の調査に関して助言	9月2日	館長 湯山賢一
35	一般社団法人 国宝修理装演師連盟	理事会・評議員会に顧問として出席し助言	9月4日	同上
36	愛知県美術館	愛知県美術館所蔵品修理検討委員会に委員として出席し助言	9月5日	保存修理指導室長 谷口耕生
37	沖縄県立博物館・美術館	旧首里城正殿鐘保存状態調査に関して助言	9月9日	主任研究員 鳥越俊行
38	読売新聞大阪本社	「正倉院フォーラム2014 東京」にて講演	9月27日	学芸部長 内藤 栄
39	同上	「正倉院展の楽しみ方～まほろばの集い in 名古屋」にて講演	10月4日	主任研究員 清水 健
40	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会	博物館・公園等ボランティア交流会に出席し講演	10月5日	ボランティア室員 鈴木民子
41	読売新聞大阪本社	「正倉院展の楽しみ方～まほろばの集い in 福岡～」にて講演	10月11日	館長 湯山賢一
42	奈良文化財研究所	飛鳥資料館運営に関する懇談会に委員として出席し助言	11月11日	学芸部長 内藤 栄
43	奈良県教育委員会	奈良県文化財保護審議会に委員として出席し助言	11月27日	同上
44	公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所	海外招聘者に対する「文化遺産の保護に資する研修2014」にて指導・助言	12月3日	企画室長 野尻 忠
45	奈良教育大学	第7回百済文化国際シンポジウムにて講演	12月6日	学芸部長 内藤 栄
46	海外日本美術資料専門家(司書)の招聘・研修・交流事業2014実行委員会	招聘者に対する研修にて指導・助言	12月8日	資料室長 宮崎幹子
47	東大寺	東大寺経巻聖教原本調査に関して指導・助言	12月11日 12月12日	館長 湯山賢一 企画室長 野尻 忠
48	九州国立博物館	貸与作品の展示に伴う指導・助言	12月11日	教育室長 岩井共二
49	読売新聞大阪本社	平成26年正倉院展作文コンクール審査会に出席し審査	12月15日	館長 湯山賢一 学芸部長 内藤 栄
50	同上	同上	12月18日	館長 湯山賢一

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
51	唐招提寺・凸版印刷株式会社	大型オルソスキャナーによる唐招提寺所蔵品のスキャン作業に伴う指導・助言	27年1月20日～26日	学芸部長 内藤 栄 企画室長 野尻 忠 教育室長 岩井共二 研究員 北澤菜月 研究員 原瑛莉子
52	「2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」実行委員会	実行委員会に委員として出席し助言	27年1月24日	主任研究員 鳥越俊之
53	奈良県教育委員会	奈良県文化財保護審議会に委員として出席し助言	27年2月19日	学芸部長 内藤 栄
54	文化庁	文化審議会文化財分科会第一専門調査会に委員として出席し助言	27年3月1日	館長 湯山賢一
55	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会に委員として出席し助言	27年3月2日	上席研究員 岩田茂樹
56	松伯美術館	理事会に理事として出席し助言 臨時評議員会に評議員として出席し助言	27年3月10日	館長 湯山賢一
57	公益財団法人 大和文華館	理事会に理事として出席し助言 臨時評議員会に評議員として出席し助言	27年3月10日	館長 湯山賢一
58	沖縄県立博物館・美術館	旧首里城正殿鐘保存状態調査委員会に委員として出席し助言	27年3月25日	主任研究員 鳥越俊之

【九州国立博物館】57件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	文化庁	文化審議会美術品補償制度部会専門調査会にて保存修理に係る助言	4月11日	学芸部長 井上洋一
2	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	第14回事業委員会にて運営に係る助言	4月15日	館長 三輪嘉六
3	公益社団法人日本工芸会	第61回日本伝統工芸展運営委員会にて運営に係る助言	4月24日	同上
4	日本学術会議	文化財の保護と活用に関する分科会にて保存に係る助言	5月2日	学芸部特任研究員 本田光子
5	松浦市	平成26年度第1回松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会合同会議にて調査に係る助言	5月21日	博物館科学課長 今津節生
6	公益財団法人文化財虫菌害研究所	平成26年第1回評議員会にて運営に係る助言	5月26日	館長 三輪嘉六
7	文化庁	文化財審議会第3専門調査会にて調査に係る助言	5月22日	学芸部特任研究員 本田光子
8	一般社団法人文化財保存修復学会	平成26年度理事会にて運営に係る助言	5月23日	同上
9	沖縄県博物館協会	平成26年度沖縄県博物館協会総会における講演	5月29日	交流課主任研究員 池内 一誠
10	文化庁	文化審議会美術品補償制度部会専門調査会（第2回）にて保存修理に係る助言	5月30日	学芸部長 井上洋一
11	全国大学博物館学講座協議会	平成26年度全国大会での講演	6月6日～7日	同上
12	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第36回文化財の虫菌害・保存対策研修会での講師	6月13日	学芸部特任研究員 本田光子
13	文化庁	国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議にて保存修理に係る助言	6月20日	企画課主任研究員 川畑憲子
14	阿蘇火山博物館	博物館教育のあり方にかかる助言	6月20日	交流課主任研究員 池内 一誠
15	首里城公園	博物館教育のあり方にかかる助言	6月27日	同上
16	日本学術会議	博物館・美術館等の組織運営に関する分科会にて運営に係る助言	7月17日	学芸部長 井上洋一
17	大野城市	第13回（仮称）大野城心のふるさと館整備検討委員会にて運営に係る助言	7月23日	学芸部特任研究員 本田光子
18	文化庁	文化庁買取監査会議にて保存に係る助言	8月1日	学芸部長 井上洋一
19	「次世代のチカラ FUKUOKA」	ふくおかの歴史に関する講演	8月4日	交流課主任研究員 池内 一誠
20	鳥根県立古代出雲歴史博物館	博物館教育のあり方に関する助言	8月6日	同上
21	文化遺産国際協力コンソーシアム	第19回東アジア・中央アジア分科会にて調査に係る助言	8月26日	博物館科学課長 今津節生
22	大分県立歴史博物館	平成26年度大分県立歴史博物館協議会にて運営に係る助言	8月27日	学芸部特任研究員 本田光子
23	熊本博物館	平成26年度第1回熊本博物館協議会にて運営に係る助言	9月5日	同上
24	ベトナム歴史博物館	博物館教育のあり方に関する助言	9月6日	交流課主任研究員 池内一誠
25	岡山県立博物館	平成26年度博物館講座での講演	9月7日	学芸部長 井上洋一
26	白石町教育委員会	佐賀県史跡龍王崎古墳群6号墳保存対策における指導助言	9月11日	博物館科学課長 今津節生
27	延岡市	第1回内藤記念館再整備基本構想・基本計画検討専門者会議にて運営に係る助言	9月19日	学芸部長 井上洋一
28	文部科学省	平成26年度博物館長研修講師	10月9日	学芸部特任研究員 本田光子
29	文化庁	国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議にて保存修理に係る助言	10月17日	文化財課主任研究員 畑靖紀
30	文化庁	水中遺跡調査検討委員会にて調査に係る助言	10月19日	博物館科学課長 今津節生
31	瑞浪市教育委員会	第2回瑞浪市櫻堂薬師調査指導委員会にて調査に係る助言	10月23日	館長 三輪嘉六
32	佐賀県	第1回九州陶磁文化館のあり方検討委員会にて運営に係る助言	10月30日	同上
33	中城村教育委員会	博物館教育のあり方に関する助言	11月14日	交流課主任研究員 釜瀬進一郎
34	高知県立埋蔵文化財センター	平成26年度職員専門研修での講師	11月20日～21日	博物館科学課長 今津節生
35	一般社団法人文化財保存修復学会	平成26年度第3回理事会にて運営に係る助言	11月28日	学芸部特任研究員 本田光子
36	宮内庁	宮内庁陵墓管理委員会にて調査に係る助言	12月3日～4日	館長 三輪嘉六

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
37	大分県芸術文化スポーツ振興財団	おおいた姫島黒曜石フォーラムにて調査に係る助言	12月8日	学芸部長 井上洋一
38	同上	大分公立美術館・博物館担当者意見交換会における講演	12月11日	同上
39	鹿児島県歴史資料センター黎明館	鶴丸城跡保全整備事業に係る専門家・有識者会議にて保存修理に係る助言	12月11日	博物館科学課長 今津節生
40	福岡県	国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈発見50周年記念シンポジウムでの講演	12月14日	学芸部長 井上洋一
41	松浦市	平成26年度第2回松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会合同会議にて調査に係る助言	12月15日	博物館科学課長 今津節生
42	北海道開拓記念館	シンポジウム：文化財調査におけるX線CTの活用での講演	12月20日	同上
43	日本学術会議	文化財の保護と活用に関する分科会にて保存修理に係る助言	12月22日	学芸部長 井上洋一
44	一般財団法人環境文化創造研究所	座談会ミュージアムIPMの現状と課題での講演	12月24日～25日	学芸部特任研究員 本田光子
45	一般社団法人環境文化創造研究所	座談会ミュージアムIPMの現状と課題での講演	12月25日	館長 三輪嘉六
46	日本学術会議	博物館・美術館等の組織運営に関する分科会にて運営に係る助言	12月25日～26日	学芸部長 井上洋一
47	世界記憶遺産推進会議	第1回世界記憶遺産推進会議にて運営に係る助言	27年1月8日～9日	学芸部特任研究員 本田光子
48	唐津市	平成26年度第1回鶴殿石仏群保存整備検討委員会にて保存修理に係る助言	27年1月15日	博物館科学課長 今津節生
49	文化庁	文化審議会第4期美術品補償制度部会専門調査会（第4回）での保存修理に係る助言	27年1月19日	学芸部長 井上洋一
50	福岡県	国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈発見50周年記念講演会での講演	27年1月25日～26日	同上
51	文化庁	文化審議会文化財分科会第三専門調査会埋蔵文化財委員会での現地調査に係る助言	27年1月26日～28日	学芸部特任研究員 本田光子
52	佐賀県庁	第1回九州陶磁文化館のあり方検討委員会での運営に係る助言	27年2月4日	館長 三輪嘉六
53	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財虫菌害研究所IPMコーディネーター委員会での運営に係る助言	27年2月16日～17日	学芸部特任研究員 本田光子
54	南九州市	南九州市世界記憶遺産推進会議での運営に係る助言	27年3月1日～2日	学芸部特任研究員 本田光子
55	同上	知覧特攻平和会館保存検討委員会での保存修理に係る助言	27年3月1日～2日	同上
56	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第37回大会学術発表プログラム作成委員会での運営に係る助言	27年3月6日	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子
57	福岡市美術館	平成26年度美術資料収集（古美術）の審査	27年3月10日	企画課主任研究員 原田あゆみ

4 文化財に関する調査及び研究の推進

4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

- 4-(1)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②
- 4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③
- 4-(1)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤
- 4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥

4-(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

- 4-(2)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②
- 4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③
- 4-(2)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤
- 4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥

4-(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、 先端的調査研究等の推進

- 4-(3)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②
- 4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③
- 4-(3)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤
- 4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥

4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

- 4-(4)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②
- 4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③
- 4-(4)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤
- 4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥

4-(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

- 4-(5)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②
- 4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③
- 4-(5)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤
- 4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥
- 4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑦
- 4-(5)-⑥ 客員研究員一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑧

5 文化財保護に関する国際協力の推進

5-(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

5-(1)-① 調査研究テーマ一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧

【東京文化財研究所】

	研修・ワークショップ	実施時期	回数	適用
1	キルギス共和国及び中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業「史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ」	7月3日～14日	1回	一部受託
2	キルギス共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野におけるワークショップ	10月27日～11月1日	1回	一部受託
3	アルメニア文化省とのワークショップ	5月20日～27日	1回	一部受託
4	Workshops on Conservation of Japanese Artworks on Paper and Silk 会場：ベルリン国立博物館アジア美術館（ベルリン・ドイツ）	12月3日～5日 12月8日～12日	2回	
5	Workshop on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese Lacquer ware) 会場：ケルン市博物館東洋美術館（ケルン・ドイツ）	11月15日 11月18日～21日 11月25日～28日	3回	
6	国際研修「紙の保存と修復2014」（日本国内研修）	8月25日～9月12日	1回	
7	ICROM-LATAMプログラムにおけるInternational Course on Paper Conservation in Latin America（メキシコ研修）	11月5日～30日	1回	
8	タイ・ラチャプラディット寺院の螺鈿及び漆絵の施された部材各1点の調査と試験的な修理、専門家の研修	9月16日～26日	1回	受託
9	ブータン王国の伝統的建造物保存に関する拠点交流事業：ワークショップ	12月20日～24日	1回	受託
10	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：木造建造物保存研修	5月30日～6月15日 27年1月11日～24日	2回	受託
11	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：壁画の保存修復に関する研修	6月10日～6月18日 27年1月18日～27日 27年3月8日～3月13日	3回	受託
12	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：文化財建造物保存研修	8月20日～30日	1回	受託
13	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：考古遺跡の保存管理と考古遺物の記録法に関する研修	11月23日～29日 27年1月17日～26日	2回	受託
14	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務： <現地研修（計12回）> 「第2回保存修復材料学研修」 「国外視察研修（LACONA X）」 「第8回所内移動・梱包研修」 「第4回労働安全衛生研修」 「第2回木材研修」 「国外視察研修（ICOM-CC）」 「第3回学術研究シンポジウム」 「第4回染織品研修」 「第9回所内移動・梱包研修」 「第3回彩色文化財研修」 「第4回保存科学概論研修」 「第4回マネージメント計画策定研修」 <本邦研修（計3回）> 「第2回保存修復材料としての和紙研修」 「第3回保存修復材料としての和紙研修」 「第4回微生物管理研修」	5月4日～15日 6月9日～13日 6月11日～26日 8月10日～12日 8月17日～28日 9月15日～19日 11月3日～5日 11月16日～27日 27年2月8日～22日 27年2月10日～19日 27年2月25日～3月9日 27年3月25日～26日 8月7日～15日 11月4日～28日 27年1月19日～2月6日	15回	受託

5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-③

5-(1)-④ 論文等発表実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

5-(2)-① 調査研究テーマ一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【東京文化財研究所】

※5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧にまとめて記載

【奈良文化財研究所】 4件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2014（個人研修）	7月31日～8月22日	23日	バヌアツ人専門家	2人
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2014（集団研修）	9月2日～10月3日	32日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの。	16人
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2014（個人研修）	11月11日～12月5日	25日	ブータン人専門家	3人
4	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（バングラデシュで開催）	27年1月11日～1月16日	6日	バングラデシュ人専門家	15人

5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

- 5-(4)-① 研究交流実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-①
- 5-(4)-② 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②
- 5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③
- 5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-④
- 5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤
- 5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥
- 5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数 (後述の資料に記載) ◎共通資料d

6 情報発信機能の強化

6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	26年度受入件数	総件数	26年度受入件数	総件数
図 書	10,388冊	261,218冊	7,653冊	343,240冊

6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信

6-(2)-① 公開講演会、現地説明会

【東京文化財研究所】

公開講演会 1件 (2日)

○公開講演会「第48回企画情報部 オープンレクチャー「モノノイメージとの対話」

- ・開催日：10月31日（金）
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：108人
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
「一流相承系図（絵系図）の構想と機能」
「院政期絵画における二つの美の原理—似絵の成立をめぐる—」

- ・開催日：11月1日（土）
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：55人
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
「仙台・昭忠碑、被災から復興へ向けて」
「戦争の「表象と本物」」

【奈良文化財研究所】

公開講演会 5件

○公開講演会「飛鳥資料館春期特別展『いにしへの匠たち—ものづくりからみた飛鳥時代—』記念座談会」

- ・開催日：5月11日
- ・開催場所：飛鳥資料館講堂
- ・主催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
- ・参加人数：51人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「いにしへの技術を語る—現代の「匠」と考古学者—」

○公開講演会「第114回公開講演会」

- ・開催日：6月28日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：236人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「藤原宮の地鎮と富本銭」
「役人を育てる」
「壁画古墳の世界—星宿と四神—」

○公開講演会「第115回公開講演会」

- ・開催日：10月4日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：210人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「和同開珎1文の価値は？」
「植物種実からみた古代の食生活」
「文化的景観の味わい方」

○公開講演会「特別講演会（東京会場）『遺跡の年代を測る ものさしと奈文研』」

- ・開催日：10月25日
- ・開催場所：有楽町朝日ホール
- ・主催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：480人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「年代を測るものさしの作り方」
「古代土器の年代推定—都の調査・研究成果と地方の視点—」
「時を測るものさしとしての木簡」
「土器の年代と木簡の年紀」
「白鳳か天平か、瓦が解決した「薬師寺論争」」
「木の年輪で作った年代を測るものさし—年輪年代学の成果—」

○公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展『はぎとり・きりとり・かたどり—大地にきざまれた記憶—』記念講演会」

- ・開催日：11月1日
- ・開催場所：飛鳥資料館講堂
- ・主催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
- ・参加人数：40人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「もうひとつの遺跡保存—土層転写と遺構切り取り—」

現地説明会 2件

○現地説明会「飛鳥藤原第182次（藤原宮大極殿院）発掘調査」

- ・開催日：11月8日
- ・開催場所：橿原市高殿町
- ・主催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：794人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。

発掘調査

○現地見学会「飛鳥藤原第183次（藤原宮東方官衙北地区）発掘調査」

- ・開催日：12月14日
- ・開催場所：橿原市高殿町
- ・主催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：622人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。

発掘調査

6-(2)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

6-(2)-③ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

6-(2)-④ ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

6-(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

6-(3)-① 来館者数推移（入館料別）（過去5ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

6-(3)-② 来館者数推移（展覧会別）（過去5ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

6-(3)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展
（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力

6-(4)-① ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言

平成27年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
1,335件	916件	419件

【東京文化財研究所】916件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保存、展示に関する指導助言	23件
2	無形文化遺産に関する助言	13件
3	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	48件
4	文化財の虫菌害に関する調査・助言	37件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	15件
6	美術館・博物館等の環境調査と指導・助言	780件

【奈良文化財研究所】419件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	384件
2	地方公共団体等が行う平城京域発掘調査等への協力・援助	6件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	10件
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	19件

7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

平成27年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
16件	1件	15件

【東京文化財研究所】1件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当 学芸員研修	7月14日～ 7月25日	9日	博物館・美術館等の文化財 の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸 問題についての講義と実習	31人	100%

【奈良文化財研究所】15件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	建築遺構調査課程	6月9日 ～6月13日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	発掘調査で検出される建築遺構や出土 建築部材に関して必要な、上部構造の専 門的知識や発掘方法などについての研 修	9人	100%
2	植物遺体調査課程	6月16日 ～6月20日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	木材、種実、花粉、プラント・オパール などの植物遺体を発掘調査現場で扱う ための専門的知識と調査方法の取得を 目的とした研修	10人	100%
3	庭園・自然名勝等保存活用 基礎課程	6月23日 ～6月27日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	歴史的庭園の保護をはじめとして、名勝 の調査及び保存管理・修理等について、 基本的な考え方から実務に至る基礎知 識を習得することを目的とする研修	19人	100%
4	報告書作成Ⅰ（編集基礎） 課程	7月7日 ～7月11日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	文化財調査に必要な不可欠な報告書等 の学術出版物制作にあたって、編集に必 要な基礎知識と印刷工程の基礎知識につ いての研修	15人	100%
5	報告書作成Ⅱ（応用制作） 課程	7月14日 ～7月18日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	報告書等の出版物制作にあたり、実際 の編集作業に必要な知識や技術、特にデ ジタル編集の実習を通じて制作のノウ ハウを学べる研修	9人	100%
6	自然科学的年代測定法課程	9月1日 ～9月5日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	文化財調査に年輪年代測定や放射性炭 素年代測定など自然科学的年代測定を 積極的に取り入れるための基礎知識や 留意点の習得を目指す研修	5人	100%
7	文化的景観調査計画課程	9月8日 ～9月12日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	文化的景観の保護にこれから取り組む 担当者を対象に、文化的景観の歴史・概 念、保護制度、調査手法及び保存計画立 案についての基礎知識を習得すること を目的とする研修	12人	100%
8	遺跡測量課程	9月29日 ～10月3日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	『発掘調査のてびき』（文化庁）に準拠 した遺跡の測量および外注に必要な専 門的知識と技術の研修	10人	100%
9	保存科学基礎Ⅰ（金属製遺 物）課程	10月7日 ～10月16日	7日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	金属製遺物の材質および劣化状態に応 じた保存処理法の策定、仕様書の作成を おこなうことができるよう、金属製遺物 の材質、劣化状態および保存処理に関 する基礎知識を習得することを目的と する研修	9人	100%
10	保存科学基礎Ⅱ（木製遺物）	10月16日	7日	地域の中核となる地方公	木製遺物の樹種、木取りおよび劣化状態	6人	100%

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
	課程	～10月24日		共同体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	に応じた保存処理法の策定、仕様書の作成をおこなうことができるよう、木製遺物の劣化状態および保存処理に関する基礎知識を取得することを目的とする研修		
11	古文書歴史資料調査基礎課程	12月8日 ～12月12日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎知識の習得を目指す研修	18人	100%
12	遺跡情報記録調査課程	12月16日 ～12月19日	4日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	遺跡・遺物の正確な記録とその保存活用手法としてGISやデータベースの利用、遺跡情報の公開に関する知識の取得を目指す研修	18人	94%
13	文化財写真課程	1月13日 ～1月23日	9日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	文化財の記録についての中核をなす記録写真撮影について、様々な文化財分野の写真についての基礎的知識と実習による実技を習得できる研修	13人	100%
14	出土文字資料調査課程	1月26日 ～1月30日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	木簡・墨書土器・漆紙文書など、出土文字資料の調査のための実践的な技術や知識の習得を目的とする研修	6人	100%
15	保存科学基礎Ⅲ（応急処置）課程	2月16日 ～2月20日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	発掘調査において出土した脆弱遺物の取り上げ、保存処理までの一時保管方法等の遺物の取り扱いに関する応急処置について、講義と実習を通して習得することを目的とする研修	12人	100%

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

Ⅱ-1 一般管理費の削減

Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

平成27年3月31日現在

○件数

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合計	総件数	1,615	1,165	664	63	117	321	450	164	286
	うち有償	651	613	402	57	34	120	38	12	26
	うち無償	964	552	262	6	83	201	412	152	260
茶室	総件数	193	193	111	27	10	45			
	うち有償	107	107	56	27	6	18			
	うち無償	86	86	55	0	4	27			
講堂等 (講堂、会議室、研修室)	総件数	966	551	289	20	30	212	415	164	251
	うち有償	225	201	83	16	7	95	24	12	12
	うち無償	741	350	206	4	23	117	391	152	239
その他 (左記以外の建物、敷地)	総件数	166	131	9	11	66	45	35	0	35
	うち有償	55	41	8	11	21	1	14	0	14
	うち無償	111	90	1	0	45	44	21	0	21
撮影利用	総件数	290	290	255	5	11	19	0	0	0
	うち有償	264	264	255	3	0	6	0	0	0
	うち無償	26	26	0	2	11	13	0	0	0

○有償利用の利用金額

(単位：千円)

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合計	86,843	82,559	72,731	5,457	2,752	1,619	4,284	202	4,082
茶室	4,606	4,606	3,870	389	133	214			
講堂等 (講堂、会議室、研修室)	7,760	7,383	4,909	988	151	1,335	377	202	175
その他 (左記以外の建物、敷地)	46,071	42,164	35,671	3,974	2,468	51	3,907	0	3,907
撮影利用	28,406	28,406	28,281	106	0	19	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移 (入館料別)

平成27年3月31日現在

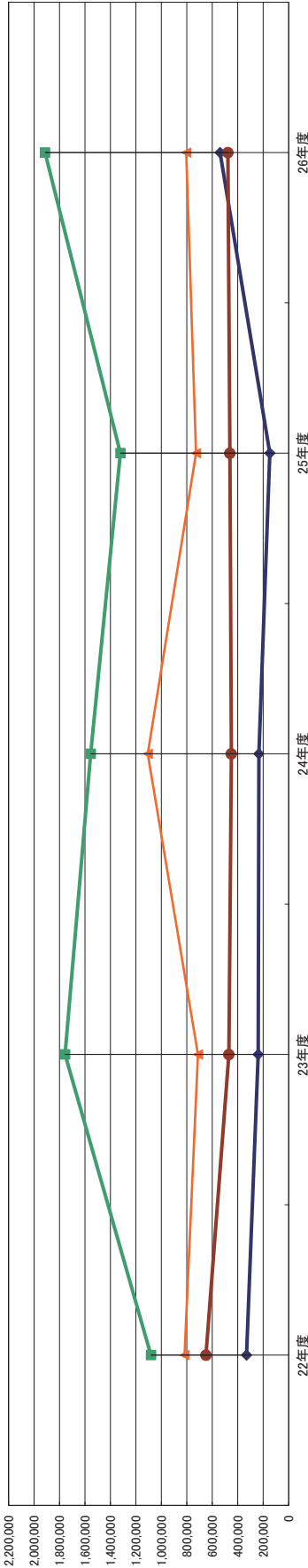
年 度		22	23	24	25	26		
国立文化財機構	平常展	総来館者数	3,392,243	3,356,159	3,520,384	2,818,511	3,890,178	
		計	947,439	913,409	1,109,550	1,011,274	1,372,538	
		有料	一般	344,070	293,323	355,419	373,417	522,569
			大学生	34,579	27,778	34,218	36,886	59,208
			小・中・高生	—	—	—	546	537
		無料	友の会	67,151	53,383	86,938	89,509	123,720
			一般(黒田含む)	212,611	96,561	74,968	47,371	85,285
	小・中・高生		156,236	173,323	173,386	166,233	165,340	
	招待者等	132,792	269,041	384,621	297,312	415,879		
	計	2,444,804	2,442,750	2,410,834	1,807,237	2,517,640		
	特別展	有料	一般	1,459,486	1,585,799	1,535,741	1,132,319	1,670,944
			高・大生	88,515	89,985	82,665	66,814	93,348
			小・中生	48,563	24,501	30,770	23,243	22,149
		無料	友の会	47,012	40,845	47,758	44,592	58,421
小・中生・一般			198,991	95,130	88,927	99,764	102,343	
招待者等			602,237	606,490	624,973	440,505	570,435	
計		2,444,804	2,442,750	2,410,834	1,807,237	2,517,640		
東京国立博物館	平常展	総来館者数	1,082,269	1,756,590	1,555,694	1,322,288	1,913,643	
		計(24年度：黒田含む)	373,068	324,597	416,430	484,429	587,528	
		有料	一般	196,312	143,017	201,988	250,330	269,639
			大学生	24,140	16,073	22,155	26,117	31,324
			小・中・高生	—	—	—	—	—
		無料	友の会	58,496	44,388	76,333	77,771	96,297
			高校生	17,570	13,861	14,773	18,844	20,345
			小・中生	33,585	33,401	36,660	41,197	50,040
		招待者等	42,965	60,620	63,381	70,170	95,280	
		黒田記念館(無料)	—	13,237	1,140	—	24,603	
	計	709,201	1,431,993	1,139,264	837,859	1,326,115		
	特別展	有料	一般	424,337	972,328	729,470	561,236	926,279
			高・大生	24,169	52,296	36,874	29,955	51,690
			小・中生	—	—	—	—	—
無料		友の会	9,867	12,072	11,448	9,585	12,920	
招待者等	235,527	363,409	341,104	222,368	303,723			
計	709,201	1,431,993	1,139,264	837,859	1,326,115			
京都国立博物館	平常展	総来館者数	331,131	239,767	234,540	148,429	539,134	
		計	—	—	—	—	265,791	
		有料	一般	—	—	—	—	147,106
			大学生	—	—	—	—	16,801
			小・中・高生	—	—	—	—	—
		無料	友の会	—	—	—	—	12,764
			高校生	—	—	—	—	11,137
	小・中生		—	—	—	—	—	
	招待者等	—	—	—	—	77,983		
	計	331,131	239,767	234,540	148,429	273,343		
	特別展	有料	一般	205,194	140,395	124,569	76,358	190,015
			高・大生	18,386	13,912	13,570	10,734	14,231
			小・中生	3,856	2,375	5,022	3,224	1,683
		無料	友の会	10,953	10,719	13,228	9,174	11,978
小・中生			862	3,007	386	1,471	4,571	
招待者等			91,880	69,359	77,765	47,468	50,865	
計		331,131	239,767	234,540	148,429	273,343		
奈良国立博物館	平常展	総来館者数	649,878	469,463	450,235	461,690	476,993	
		計	71,566	130,839	145,914	122,075	92,147	
		有料	一般	36,436	56,747	56,997	44,307	31,433
			大学生	2,417	4,578	4,754	3,967	3,519
			小・中・高生	—	—	—	546	537
		無料	友の会	2,891	3,765	3,843	2,703	3,344
			小・中・高生	15,293	40,864	48,183	39,249	20,933
			招待者等	14,529	24,885	32,137	31,303	32,381
		計	578,312	338,624	304,321	339,615	384,846	
		特別展	有料	一般	428,121	243,704	227,929	258,597
	高・大生			24,411	12,508	12,304	13,756	13,403
	小・中生			19,106	9,380	8,143	7,622	9,208
	無料		友の会	15,358	9,417	10,291	11,206	14,443
	招待者等	6,107	—	—	3,067	0		
計	578,312	338,624	304,321	339,615	384,846			
九州国立博物館	平常展	総来館者数	818,034	712,594	1,107,036	727,603	804,663	
		計	274,545	358,366	460,525	349,848	357,362	
		有料	一般	105,638	86,974	91,786	75,827	71,014
			大学生	7,560	6,561	6,831	6,571	7,251
			小・中・高生	—	—	—	—	—
		無料	友の会	5,764	5,230	6,762	9,035	11,315
			高校生	35,990	28,625	26,193	26,305	22,494
			小・中生	50,295	51,740	43,351	38,785	38,507
		招待者等	69,298	179,236	285,602	193,325	206,781	
		計	543,489	354,228	646,511	377,755	447,301	
	特別展	有料	一般	343,079	219,615	443,965	224,247	271,895
			高・大生	19,068	10,570	19,108	11,482	13,249
			小・中生	25,601	12,746	17,605	12,397	11,258
		無料	友の会	10,834	8,637	12,791	14,627	19,080
招待者等	144,907	102,660	153,042	115,002	131,819			
計	543,489	354,228	646,511	377,755	447,301			
黒田記念館	平常展	総来館者数	18,458	(東京国立博物館平常展に含む)	(東京国立博物館平常展に含む)	(東京国立博物館平常展に含む)	(東京国立博物館平常展に含む)	
	特別展	計	18,458	—	—	—	—	
平城宮跡資料館	平常展	総来館者数	354,346	132,295	124,515	108,896	109,188	
	特別展	計	189,338	80,353	64,318	39,502	52,221	
藤原宮跡資料室	平常展	総来館者数	4,815	2,971	9,510	7,869	8,461	
	特別展	計	4,815	2,971	9,510	7,869	8,461	
飛鳥資料館	平常展	総来館者数	133,312	42,479	38,854	41,736	38,096	
		計	15,649	16,283	12,853	7,551	9,028	
		有料	一般	5,684	6,585	4,648	2,953	3,377
			大学生	462	566	478	231	313
			小・中・高生	3,503	4,832	4,226	1,853	1,884
		招待者等	6,000	4,300	3,501	2,514	3,454	
		計	117,663	26,196	26,001	34,185	29,068	
	特別展	有料	一般	58,755	9,757	9,808	11,881	9,181
			大学生	2,481	699	809	887	775
			小・中・高生	11,713	8,293	7,976	11,117	9,302
		招待者等	44,714	7,447	7,408	10,300	9,810	
		計	117,663	26,196	26,001	34,185	29,068	
		無料	友の会	—	—	—	—	—
		招待者等	—	—	—	—	—	

※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、春期特別展(22)及び特別公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含みます。
※京都国立博物館における平常展については高校生以下の区別せず。

独立行政法人国立文化財機構 展覧会来館者数 (22～26年度)

22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
総合計	来館者数	総合計	来館者数	総合計	来館者数	総合計	来館者数	総合計	来館者数
合計	3,992,243	3,358,150	3,520,384	2,810,511	3,990,176	2,810,511	3,990,176	2,810,511	3,990,176
平常展のみ	2,445,804	2,442,750	1,109,550	1,011,274	1,372,539	1,011,274	1,372,539	1,011,274	1,372,539
特別(共催)展計	1,546,439	1,915,400	2,410,834	1,807,237	2,517,640	1,807,237	2,517,640	1,807,237	2,517,640

1) 国立博物館



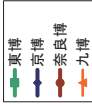
26年度

25年度

24年度

23年度

22年度



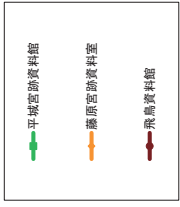
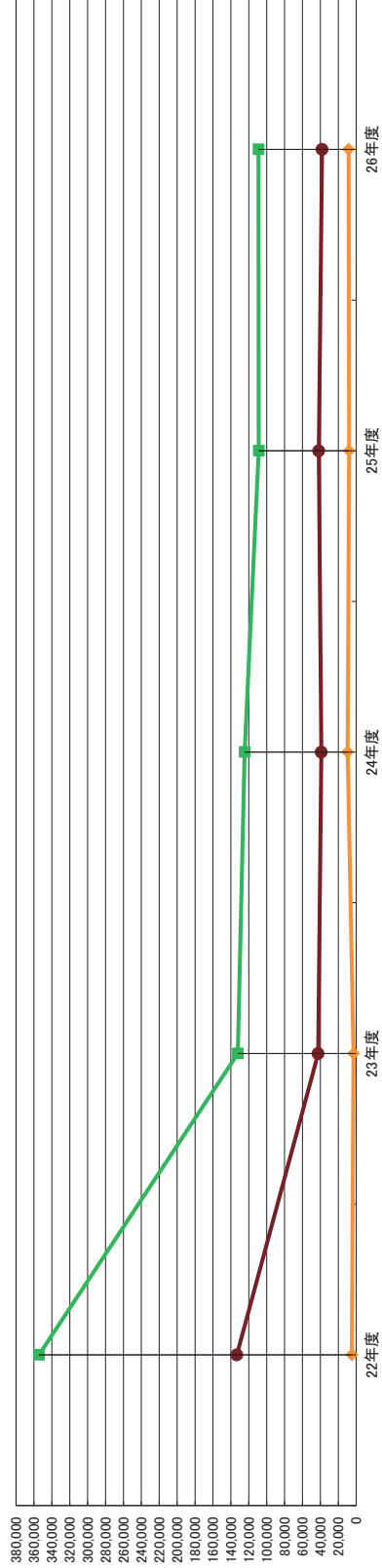
	22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
	総合計	来館者数	総合計	来館者数	総合計	来館者数	総合計	来館者数	総合計	来館者数
計	2,881,312	719,179	3,178,414	813,602	3,347,505	1,022,669	2,660,010	956,352	2,810,511	3,794,433
平常展のみ	1,629,133	1,082,269	2,364,632	1,756,390	2,324,636	1,555,694	1,322,288	1,322,288	1,322,288	2,431,605
特別(共催)展計	1,252,179	636,910	813,782	637,212	1,022,869	466,972	1,337,724	634,058	1,488,223	1,362,828
平常展のみ	709,201	373,068	1,431,993	324,597	1,139,264	1,139,264	837,859	837,859	837,859	1,326,115
特別(共催)展計	182,470	263,842	381,789	312,615	889,601	347,708	499,865	499,865	499,865	640,703
平常展のみ	105,538	57,716	229,628	134,882	486,683	252,567	20,544	20,544	20,544	229,994
特別(共催)展計	232,791	206,126	152,161	177,733	402,918	115,141	189,321	189,321	189,321	199,269
平常展のみ	188,402	108,612	287,800	108,612	137,646	141,507	104,571	104,571	104,571	169,748
特別(共催)展計	140,000	97,514	234,911	178,599	140,000	141,507	104,571	104,571	104,571	169,748
平常展のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別(共催)展計	331,131	0	239,767	239,767	234,510	234,510	148,479	148,479	148,479	268,791
平常展のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	273,915
特別(共催)展計	244,347	217,055	84,682	35,239	101,006	79,218	85,811	85,811	85,811	69,413
平常展のみ	217,055	192,297	106,536	106,536	79,218	79,218	79,218	79,218	79,218	203,900
特別(共催)展計	19,291	24,758	78,146	28,703	24,699	24,699	38,929	38,929	38,929	0
平常展のみ	37,535	37,535	13,290	13,290	25,216	25,216	0	0	0	0
特別(共催)展計	8,247	0	0	0	4,401	4,401	0	0	0	0
平常展のみ	649,878	649,878	469,463	469,463	450,235	450,235	461,690	461,690	461,690	476,993
特別(共催)展計	71,566	71,566	130,839	130,839	122,075	122,075	92,147	92,147	92,147	384,846
平常展のみ	578,312	578,312	338,624	338,624	304,321	304,321	339,615	339,615	339,615	0
特別(共催)展計	202,166	202,166	35,672	35,672	24,317	24,317	54,114	54,114	54,114	37,022
平常展のみ	81,342	81,342	63,364	63,364	41,985	41,985	39,269	39,269	39,269	78,476
特別(共催)展計	294,804	294,804	239,581	239,581	238,019	238,019	246,269	246,269	246,269	269,348
平常展のみ	818,034	818,034	712,594	712,594	1,107,036	1,107,036	727,603	727,603	727,603	804,663
特別(共催)展計	274,545	274,545	358,366	358,366	460,525	460,525	349,848	349,848	349,848	357,362
平常展のみ	543,489	543,489	354,228	354,228	646,511	646,511	377,755	377,755	377,755	447,301
特別(共催)展計	84,738	84,738	46,536	46,536	110,047	110,047	71,192	71,192	71,192	60,808
平常展のみ	42,022	42,022	118,528	118,528	75,415	75,415	77,554	77,554	77,554	70,794
特別(共催)展計	53,409	53,409	75,880	75,880	224,324	224,324	133,448	133,448	133,448	256,070
平常展のみ	354,311	354,311	113,290	113,290	236,725	236,725	89,561	89,561	89,561	59,629
特別(共催)展計	9,009	9,009	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上。

※2 この特別展会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。

独立行政法人国立文化財機構 展示会別来館者数 (22～26年度)

2) 研究展示公開施設



	22年度			23年度			24年度			25年度			26年度		
	総 計	平常展のみの来館者	特別(共催)展計	総 計	平常展のみの来館者	特別(共催)展計	総 計	平常展のみの来館者	特別(共催)展計	総 計	平常展のみの来館者	特別(共催)展計	総 計	平常展のみの来館者	特別(共催)展計
計	510,931	228,260	282,671	177,745	172,879	156,501	156,501	54,922	103,579	155,745	69,710	86,035			
平城宮跡資料館	18,468		18,468												
平常展のみの来館者	18,468		18,468												
特別(共催)展計															
藤原宮跡資料館															
平常展のみの来館者	354,346	189,338	165,008	132,295	80,353	64,318	124,515	64,318	60,197	39,502	34,025	18,616	39,502	34,025	18,616
特別(共催)展計															
飛鳥資料館															
平常展のみの来館者	38,443	92,394	20,120	24,238	20,120	34,687	34,687	20,356	20,356	1,148	1,148	1,148	1,148	1,148	1,148
特別(共催)展計															
計	20,282	13,889	4,815	20,282	13,889	4,815	20,282	13,889	4,815	20,282	13,889	4,815	20,282	13,889	4,815
平城宮跡資料館															
平常展のみの来館者	4,815	4,815	4,815	2,971	2,971	2,971	2,971	2,971	2,971	2,971	2,971	2,971	2,971	2,971	2,971
特別(共催)展計															
飛鳥資料館															
平常展のみの来館者	133,312	15,649	117,663	42,479	16,283	26,196	38,854	12,853	26,001	11,425	9,406	2,633	41,736	7,551	34,185
特別(共催)展計															
計	100,307	5,435	105,742	10,670	3,047	10,454	11,425	5,385	5,743	1,537	1,537	1,537	11,425	9,406	2,633
平城宮跡資料館															
平常展のみの来館者	100,307	5,435	105,742	10,670	3,047	10,454	11,425	5,385	5,743	1,537	1,537	1,537	11,425	9,406	2,633
特別(共催)展計															
飛鳥資料館															
平常展のみの来館者	10,670	10,140	1,781	10,670	10,140	1,781	10,670	10,140	1,781	1,911	1,911	1,911	11,425	9,406	2,633
特別(共催)展計															

(23年度より東京国立博物館に含めて記載)

(24年度より東京国立博物館に含めて記載)

(25年度より東京国立博物館に含めて記載)

※1 平常展のみの来館者
 ※2 「飛鳥寺2013」と同時開催期間は同日と一休でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,648人のみ計上。
 ※3 「日光男体山のかがやき」と同時開催期間は同日と一休でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,313人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた期間の来館者数は3,359人

a-③ 入場料収入

(単位：円)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
国立文化財機構 計	891,598,757	804,337,682	814,309,524	673,986,101	1,030,664,932
東京国立博物館	268,900,600	428,268,290	375,602,560	315,141,843	531,481,636
京都国立博物館	93,829,670	71,429,440	67,028,455	39,724,945	152,807,735
奈良国立博物館	355,735,620	213,777,640	207,961,850	225,693,950	238,881,550
九州国立博物館	131,683,367	90,862,312	160,398,639	89,050,933	104,274,641
飛鳥資料館	41,449,500	4,058,960	3,318,020	4,374,430	3,219,370
東京文化財研究所 黒田作品共催展	0	0	0	0	0

a-④ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

1) 開館期間 4月1日～27年3月31日(312日間) 平常展のみの開館日数 76日間

2) 会場

- ①本館 1階、2階
- ②東洋館 1階、2階、3階、4階、5階
- ③表慶館 休館中
- ④法隆寺宝物館 1階、2階
- ⑤平成館 1階(26年12月8日より休館)
- ⑥黒田記念館(27年1月2日より開館)

3) 陳列品総件数 8,161件(うち国宝124件、重要文化財733件)

- ①本館・平成館企画展示室 3,918件(うち国宝 60件、重要文化財329件)
- ②東洋館 2,145件(うち国宝 4件、重要文化財 53件)
- ③表慶館 0件(うち国宝 0件、重要文化財 0件)
- ④法隆寺宝物館 417件(うち国宝 13件、重要文化財218件)
- ⑤平成館考古展示室 1,596件(うち国宝 47件、重要文化財128件)
- ⑥黒田記念館 85件(うち国宝 0件、重要文化財 5件)

4) 陳列替件数 5,506件 ・ 陳列替回数 延べ311回

5) 入場料金

黒田記念館以外 一般620円、大学生410円
 黒田記念館 無料

6) 特集 全22件

●国宝 ◎重要文化財 ○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
平成館1階 考古展示室	須恵器の展開—吉備の古墳時代—	26年3月11日(火)～6月29日(日)	49(0.0)
<p><主な作品> 甕 岡山県赤磐市東郷部出土、子持高坏 岡山県岡山市北区下足守 冠山古墳出土、子持装飾付脚付壺 岡山県瀬戸内市長船町小笠山出土、革袋形提瓶 岡山県久米郡美咲町錦織松ヶ峪出土、平瓶 岡山県新見市唐松出土</p> <p>吉備地方は古墳時代における中心的な須恵器生産地のひとつであり、特色ある製品も生産している。馬をはじめとする動物・人物装飾を施した須恵器はその作例のひとつである。本特集陳列では、午年にちなみ、馬の刻文や馬形の装飾を持つ作品を含めた陳列を通じて、吉備地方の須恵器の実体を描出した。あわせて、当該地域の古墳時代研究において、編年上重要な一括資料等を紹介した。上記を組み合わせた通時的な展示によって、当該地域における6世紀を中心とする須恵器の変遷も紹介した。</p>			
本館1階 14室	日本の仮面 舞楽面と行道面	26年3月12日(火)～6月9日(日)	31(1.0)
<p><主な作品> 舞楽面 崑崙八仙、舞楽面 貴徳、舞楽面 納曾利、行道面 菩薩、行道面 菩薩</p> <p>平安時代以降、寺社で行なわれた法会に際して舞楽面、行道面が用いられた。本展では奈良・手向山八幡宮、愛知・熱田神宮、愛知・真清田神社所蔵の舞楽面、高野山天野社伝来の行道面などを展示し、古代、中世の芸能の多様性と彫刻的魅力に触れていただいた。</p>			
平成館1階 企画展示室	熊めぐり	26年4月22日(火)～6月1日(日)	28(0.0)
<p><主な作品> 縄文人が土で作った熊、お酒を入れる容器、冬眠から目覚めた熊の親子、博物画家が描いた熊</p> <p>国際博物館の日記念のイベントツアー「動物めぐり」に関連した展示。「動物めぐり」は、国立科学博物館、恩賜上野動物園、当館の三館園合同のイベントで、1種類の動物について動物園で観察、科学博物館で生態を学ぶ、東京国立博物館で人との関わりを考えるという各館の特色を生かした役割分担がある。今年のテーマは「熊」。展示では、熊へ向けられた人のまなざしを作品から読み解くことを目的とした。幅広い時代の作品を展示することで、熊への人のまなざしが時を経てどのように変化していったかがわかるような構成にした。熊に対する「脅威」や「畏怖」をイメージしやすいように、国立科学博物館と恩賜上野動物園から毛皮や頭骨などの標本を借用し、あわせて展示する。</p>			
本館2階 特別2室	平成25年度新収品	26年5月20日(火)～6月1日(日)	34(0.0)
<p><主な作品> 金華山真景、書状 なほなほ不取敢云々、線刻千手観音鏡像、振袖 鶯色縮緬地桜藤菊尾長鳥模様、如意輪観音菩薩坐像、萌黄緞威胴丸具足</p> <p>25年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、34件を公開する。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義をお示しする。</p>			
東洋館3階 5室	日本人が愛した官窯青磁	26年5月27日(火)～10月13日(月・祝)	21(1.2)
<p><主な作品> ◎青磁輪花鉢、●青磁下無瓶、南宋官窯址採集陶片(郊壇下)</p> <p>2014年度は、東洋陶磁収集家の横河民輔(1864～1945)生誕150年を記念して、横河コレクションの中国陶磁を特集する。今回は5室にて同時開催される特集「日本人が愛した官窯青磁」にちなみ、「横河コレクション—中国青磁のすべて」として三国時代から清時代に至る14点の青磁作品を展示する。その他、「横河コレクション—万暦・天啓赤絵」として、茶の湯を通して日本人がとくに好んで将来し、価値を与えた明末16世紀末～17世紀初頭の景德鎮民窯の作品を展示する。</p>			
本館1階 11・14室	親と子のギャラリー 仏像のみかた 鎌倉時代編	26年6月10日(火)～8月31日(日)	29(0.22)

	<p><主な作品>◎大日如来坐像、◎大日如来坐像、◎愛染明王坐像および厨子、◎菩薩立像</p> <p>夏休みの時期に、当館収蔵の鎌倉時代仏像彫刻の名品を一挙公開し、その魅力を知ってもらおうとするもの。学校教材でとりあげられることの多い仏像彫刻だが、その指導内容は信仰や時代背景の学習が中心となっている。彫刻の背景にある物語(場面)や、貴族と武士などのテーマに焦点をあて、鎌倉時代の名品を彫刻作品として楽しむ視点を提供する。展示にあたってはパネルやパンフレットを活用し、わかりやすい解説を心がけ、関連イベントを実施する。また、この特集をテーマに教員研修を開催し、教科指導等での博物館あるいは博物館資料の利用を促す。</p>		
平成館1階 企画展示室	伊能忠敬の日本図	26年6月24日(火)～8月17日(日)	15(0.8)
	<p><主な作品>◎日本沿海輿地図(中図) 東北 伊能忠敬作、◎九州沿海図(中図) 伊能忠敬作</p> <p>伊能忠敬は下総・佐原の商家の経営者を務めて隠退した後、天文学や地理学を学び、ほとんど独力で蝦夷地を測量して、幕府の注目するところとなった。その後幕府の命を受けて生涯を全国の測量に捧げ、その成果は日本全図である「大日本沿海輿地全図」として結実した。当館には伊能忠敬とその関係者が作成に関与した各種日本図が伝来している。本展示では代表的な伊能図と忠敬以前の地図、江戸時代の測量に関連する書籍類を紹介し、忠敬の業績を明らかにする。</p>		
本館2階 特別2室	春日権現験記絵模本 I—美しき春日野の風景—	26年7月23日(水)～8月31日(日)	12(0.0)
	<p><主な作品>春日宮曼荼羅図、春日本地仏曼荼羅図、春日権現験記絵(模本) 卷第十六 冷泉為恭他模、春日鹿曼荼羅図、春日権現験記絵(模本) 卷第十九 冷泉為恭他模、春日宮曼荼羅彩繪舎利厨子</p> <p>春日権現験記絵(三の丸尚蔵館所蔵)は、藤原氏の氏神である春日明神の利益と靈験を描く全20巻の絵巻である。鎌倉時代後期、高階隆兼という絵師が描いたもので、絵巻作品の最高峰の一つに数えられている。江戸時代後期には、この春日権現験記絵の模本が紀州藩主徳川治宝の命によって制作された。浮田一蕙、冷泉為恭、岩瀬広隆といった名だたる復古やまと絵師たちによって写されたこの模本には、彼らの画技がいかに発揮されている。</p> <p>この特集は、春日権現験記絵模本の魅力とともに、春日信仰の諸相を様々な角度から探る企画の第1回目で、今回は「美しき春日野の風景」をテーマとする。春日大社の鎮座する聖地・春日野の美しい景観を、春日権現験記絵模本、および春日宮曼荼羅などの関連作品からご紹介する。</p>		
東洋館4階 8室	趙之謙の書画と北魏の書—悲愴没後130年—	26年7月29日(火)～9月28日(日)	54(0.1)
	<p><主な作品>趙之謙四十二歳肖像軸 西川寧模、蘆花芙蓉図軸 趙之謙筆、臨楊大眼造像記横披 趙之謙筆、楊大眼造像記、隸書張衡靈憲四屏 趙之謙筆、行書吳鎮詩四屏 趙之謙筆、魏靈藏造像記</p> <p>清時代の中期には、青銅器や石碑など中国古代の文字資料が一躍脚光を浴び、伝統的な書の流れとは異なる、新たな書の流れ「碑学派」が興った。趙之謙(1829～84)ははじめ伝統的な書を学ぶが、のちに北魏時代の書に触発され、北魏書とよばれる独特の表現を確立し、碑学派は全盛期を迎える。趙之謙の没後130年にちなみ、国内に現存する趙之謙の書画篆刻を、趙之謙が学んだ北魏の拓本などと共に展示し、趙之謙の魅力を紹介する。台東区立書道博物館との連携企画第12弾。</p>		
本館1階 15室	古文書の世界	26年8月5日(火)～8月31日(日)	25(3.6)
	<p><主な作品>●讃岐国司解、●延喜式 卷第二十八 紙背文書</p> <p>古文書には、差し出し人と受け取り人との関係や、伝える内容によって、その様式、手続、使用する紙の種類と寸法、封のしかたまで、いくつもの取り決めがあった。展示では、①著名な人物の文書、②家族の間で取り交わされた文書、③再利用されたために残った紙背文書、④書き替えられた外交文書などをとりあげる。書いた人物とその文字をはじめ、どのような目的で何を伝えようとしたのか、そのために用いた紙の特徴や使用法など、さまざまな様相を示す文書のあり方を紹介する。古写真コーナーでは、帝室博物館の美術課が撮影した古文書などの写真を展示する。</p>		
法隆寺宝物館 2階 6室	甕つた飛鳥・奈良染織の美—初公開の法隆寺裂—	26年8月19日(火)～9月15日(月・祝)	53(0.0)
	<p><主な作品>茶地蝶文描絵平絹(東院)銘、茶地花卉鳥文摺絵平絹、黄地平絹 銘 山部名嶋呂古連公過命時幡、淡茶地白虎文描絵綾天蓋垂飾、天寿国繡帳、赤地ホラ羅</p> <p>法隆寺伝来のガラス挟み作品について、この2年度間(24・25年度)に修理が完了したものを展示する。これらの作品はガラス内での移動やガラス自体の劣化によりガラス内面にくもりなどの問題があり、これまで展示できない状況であった。22年度より、継続してマット装に改める本格修理をおこなっており、25年度をもって完了。これらの作品には法隆寺裂を代表する錦や綾、また聖徳太子の薨去にともなって製作された天寿国繡帳の断片、絹の綾裂に描かれた絵画としては日本最古と目される天蓋垂飾など、学術的にも非常に価値の高い作品が多く含まれており、この機会にひろくお披露目したい。</p>		
平成館1階 企画展示室	キリシタン関係遺品	26年8月26日(火)～10月5日(日)	73(0.41)
	<p><主な作品>◎三聖人像、◎天正遣欧使節記、◎板踏絵 キリスト像(ピエタ)、◎聖母像(親指のマリア)、◎マリア観音像</p> <p>日本のキリスト教信仰は、天文18年(1549)イエズス会宣教師ザビエルの渡来に始まり、およそ50年ほどの間に西日本を中心に浸透し、最盛期には40万人の信徒を得た。しかし、豊臣秀吉、次いで江戸幕府はその信仰を禁じたため、江戸時代には信徒のごく一部が長崎に潜伏するのみとなった。しかし潜伏したキリシタンは厳しい監視を乗り越えて信仰を守り続けた。この展示では、主に長崎奉行所が信徒から押収した遺品を通して、禁制以前のイエズス会を中心とした布教の状況、禁制下の信仰の一面をご覧いただく。遺品の中にわずかながらあるフランシスコ会、ドミニコ会関連と見られる作品も展示する。</p>		
本館1階 14室	漆芸に見る東西交流	26年9月2日(火)～11月3日(月・祝)	23(0.2)
	<p><主な作品>楼閣山水蒔絵宝石箱、◎南蛮人蒔絵交椅、◎花樹鳥獸蒔絵螺鈿聖龕</p> <p>漆芸という東洋独特の工芸にあらわれた西洋文化の影響について、南蛮文様の作例や輸出漆器をとりあげ、文化交流の一端として紹介する。漆器における西洋の影響はポルトガル人やスペイン人が来航した安土桃山時代より見られ、当時から彼らを描いた漆器が流行した。また彼らが日本の漆器に注目したことにより、その交易が始まり、以後明治期に至るまで、わが国では西洋向けの輸出漆器が製作され続けた。輸出漆器は彼らの注文にしたがって製作されたため、国内向のものとは全く異なる文様や器種が見られる。各時代の輸出漆器を展示して、その移り変わりをご覧いただく。</p>		
平成館1階 考古展示室	西日本の埴輪 畿内・大王陵古墳の周辺	26年9月9日(火)～12月7日(日)	21(0.2)
	<p><主な作品>◎埴輪 船、◎埴輪 入母屋造家、◎円筒埴輪、埴輪 猪、埴輪 跪く男子、埴輪 入れ墨のある男子頭部、埴輪 寄棟造家、埴輪 盾</p>		

	古墳時代初めに畿内地方で出現した埴輪は葬送儀礼の中心的役割を果たしたと考えられ、中期(5世紀)には東北～九州南部地方まで伝播する。多様な形象埴輪をはじめとした大型品や中・小型品は、機能や格式の差を示すとみられる。今回の展示では、多くの大王陵古墳が所在する大阪府古市古墳群出土埴輪を中心に、畿内地方の埴輪の構成・変遷と西日本の造形の特徴を展示する。平成26年度考古相互貸借事業として実施する。	
本館2階 特別2室	唐物ってなに? 26年9月30日(火)～11月24日(月・祝) 57(0.2)	<主な作品>君台観左右帳記(模刻本)、禾目天目、青磁尊形花生、鼈甲釉天目、○鳳凰桐紋沈金経箱、◎青花魚藻文壺、○古赤絵花唐草文鉢
	わが国では古くから、中国舶来の文物に憧れを抱き、求め続けてきた。「唐物」と呼ばれるそれらは、鎌倉・室町時代に至って、将軍家や武家を中心とした会所の室礼を飾るものとして珍重される。「唐物」を取り入れたいという願いは、やがて喫茶文化の普及とともに、いわゆる「和製唐物」を生み出すこととなった。そして国内で作られる美術工芸品にも新たな価値が与えられたのである。また、陶磁器における古染付や祥瑞、呉州手にみとめられる中国への注文による作例は本国では見られない日本独特のものであり、いわば「もう一つの唐物」である。 この特集では、会場を大きく3つに分け構成する。まず、室町の会所飾りを示す『君台観左右帳記』の世界を再現することにより、将来された「唐物」を紹介する。次に、そうした「唐物」観にもとづいて国内で作られた天目や茶入、あるいは「唐物」の技術をもとに作られた鎌倉彫といった「和製唐物」を取り上げる。後半は「もう一つの唐物」をテーマに、輸入および国産の陶磁器に見られる中国趣味に焦点をあて、日本における受容の変遷や注文制作の様相、伊万里焼・京焼に与えた影響などを紹介する。	
東洋館4階 8室	中国書画精華—護り伝えられてきた名品たち— 26年9月30日(火)～12月7日(日) 42(3.8)	<主な作品>◎千手観音図、◎竹鶴図 蘿窓筆、◎離合山水図 杜貫道賛、◎雛雀図 伝宋汝志筆、◎五龍図巻 伝陳容筆、●碣石調幽蘭第五、行書王史二氏墓誌銘稿巻
	今年も、秋の中国美術の名品展として「中国書画精華」を開催する。日本には古くから中国の書画が舶載され、それらは日本美術にも大きな影響を与えてきた。特に、宋元時代の書画は、鎌倉時代以降の禅宗とともに数多く伝えられ、書院や茶室において、日本の趣味にもとづく新たな鑑賞法のもとに親しまれてきた。東山御物に代表される中国の書画の名品の中には、中国では伝わることがなく、今日、日本においてのみ伝世しているものも少なくない。また、明治以降、新たに中国本来の文人趣味を理想とする優れた収集家によって、中国伝世の歴代書画の精品が、少なからず日本に伝えられた。それらは、中国の書画の神髄を示すものといえる。この機会に、唐・宋・元・明・清の歴代の書画を、心ゆくまでお楽しみいただきたい。	
平成館1階 企画展示室	国宝再現—田中親美と模写の世界— 26年10月15日(水)～12月7日(日) 20(0.0)	<主な作品>孔雀明王像(模本) 横山大観模、平家納経 宝塔品 第十一(模本) 田中親美模、平家納経 提婆品 第十二(模本) 田中親美模、本願寺本三十六人家集 赤人集(模本) 田中親美模、本願寺本三十六人家集 伊勢集(模本) 田中親美模
	平成館で開催の特別展「日本国宝展」にあわせて、国宝の模写・模造を作った田中親美(1875～1975)に焦点をあてる。田中親美は厳島神社の依頼で「平家納経」(原本国宝)の模本を作成するなど、生涯にわたって平安時代の書画の名品の再現をしてきた。その内容は、絵画や書を写すだけでなく、装飾料紙や金具の復元まで、徹底的なものである。また、東京国立博物館でも明治5年(1872)の創立当時より模本の収集や作成を行ってきた。田中親美の模本とともに、博物館初期の模写模造活動の一端をご紹介します。	
本館1階 14室	日本の仮面 能面 創作と写し 26年11月5日(水)～1月12日(月・祝) 27(0.9)	<主な作品>◎能面 小面、能面 鼻瘤悪尉、◎能面 鷲鼻悪尉、◎能面 曲見、能面 万媚、◎能面 長霊癒見
	日本には数多くの仮面が伝来するが、能狂言面は日本で成立した能楽に用いられ、日本人の美意識が反映した独自性の高いものである。室町時代前期、世阿弥による能楽の大成期には新たな種類の創作面が盛んに作られた。江戸時代、能が武家の式楽になると面の需要が爆発的に増え、専ら古面の写しを行うようになった。ここでは創作の時代の面と写しを対比、あるいは写しどうしを比較することにより、創作面の造形の魅力と写しのあり方をご覧いただく。	
本館2階 特別1室	博物館に初もうで～ひつじと吉祥～ 27年1月2日(金)～1月12日(月・祝) 34(0.3)	<主な作品>羊頭部形垂飾、青玉筆洗、◎十二神将立像 未神、羊図扇面 森狙仙筆、○寿星図、○梅下寿老図 伝雪舟等楊筆、◎松鷹図 雪村周継筆
	27年は干支で乙未[きのとひつじ]、未年にあたるため、羊を表わした考古遺物・美術工芸品、および吉祥図様の作品を展示する。羊は紀元前より人類にとって最も身近な家畜のひとつであり、東西の別を超え、神への最適な捧げものとして考えられていた。やがて羊は「よきもの」の意を備え、古代中国では青銅器などに羊文が表わされたほか、「美」「善」「祥」といった言葉にも羊の字が使われるようになる。羊に対する吉祥イメージはアジア全域に広がり、日本でも『日本書紀』に記載があるほか、正倉院宝物にも羊文を表わした白綾や羊を描いた縹緞屏風が存在するが、羊の生息しない日本では、明治時代に実物が持ち込まれるまで半ば想像上の動物に近い存在として表現されていたことがうかがえる。今年の「博物館に初もうで」では、I「アジア各地域の羊」、II「十二支」、III「日本人と羊」、IV「吉祥」という4つの切り口から、正月にふさわしい作品の数々を紹介する。	
本館1階 14室	水滴の美—潜淵コレクションの精華— 27年1月14日(水)～4月5日(日) 138(0.0)	<主な作品>耳長兎水滴、八角瓶形八橋文水滴、桃に鹿水滴、尾長鳥水滴、鹿に寿老人水滴、重丸瓶形花文七宝水滴
	水滴は墨を摺るための水をたたえる小器で、筆墨文化圏においては欠かせぬ文房具として、造形や意匠に様々な趣向が凝らされた。材質では陶磁器に次いで、銅や金銅などの金属製が多い。平成25年、当館に一括して寄贈された「潜淵コレクション」の金属製水滴は、渡邊豊太郎(潜淵)氏とご子息の誠之氏が収集した442件から形成される。大半を占める江戸時代の作品は、動物・植物・器物・人物故事など多彩なジャンルに亘り、各々の種類もバラエティに富む。類例の少ない七宝の作品も多く含まれる。銅の蝸型鑄造を主体とする自由な表現も優れており、質・量ともに日本を代表する水滴コレクションといえる。本特集ではその中の各ジャンルから138件を展示し、金属製水滴の多彩な内容と豊かな造形表現をご覧いただく。	
本館2階 特別1室	東京国立博物館コレクションの保存と修理 27年2月17日(火)～3月15日(日) 28(1.3)	<主な作品>瑠璃地金彩唐草文仙蓋瓶 四代高橋道八作、◎四季山水図(春) 雪舟等楊筆、◎四季山水図(夏) 雪舟等楊筆、●無相居士あて尺牘 大慧宗杲筆
	本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に本格的な修理を終えた絵画、書跡、工芸、考古、歴史資料などさまざまな分野の作品に加え、応急修理を施した作品やその工程を示す資料などもあわせて展示する。	

<p>さまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、修理工程および修理過程で得られた情報をパネルなどを用いることにより、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただくことを目指す。 また、26年3月末に修理を終えた「国宝 檜図屏風(A-1069)」が同期間に本館2室(国宝室)にて展示されるのに合わせて、本特集では檜図屏風の修理工程の詳細をパネルにて紹介するとともに、新規唐紙を製作するために宮内庁京都事務所から借用した版木、また、その版木で刷った実物の唐紙、新旧の縁金具なども展示する。</p>		
東洋館4階 8室	南京の書画—仏教の聖地、文人の楽園—	27年2月24日(火)～4月12日(日) 49(0.2)
<p><主な作品>◎保寧寺賦跋 馮子振筆、○夢筠図巻 唐寅筆、臨大令帖軸 王鐸筆、漁楽図巻 李著筆、秦淮水榭図巻 馬守真筆、小倉山房図巻 袁樹筆、墨竹図 吳宏筆、金陵赤山図 張大千筆</p>		
<p>「王気の満ちる地」とされた金陵(南京)は、六朝から明、中華民国に至るまで、江南の文化都市として個性的な文化を発展させてきた。宋元時代には阿育王舎利と梅檀瑞像の故地として、また禅宗の聖地として発展し、日本からも多くの禅僧が参禅した。続く明代初期、北京に首都が移ってから後も、南京に置かれた王府のパトロンを受けた浙派の個性的な画家が活躍し、明末には南明の精神的な首都として、多くの遺民が南京に集った。清朝になると次第にその意識は薄れ、秦淮河を中心とする妓街が発達し、文人たちによる出版文化が花開くこととなる。中華民国の首都となった南京には、美術大学がおかれ、西洋や日本からの留学から帰国した画家たちが教鞭をとり、今も多くの画家や文学者を輩出する学問の都となった。北京や上海に比較すれば、今まであまり注目されることのなかった南京の、中国文化史上における重要な位置づけの全貌を示す、日本で初めての展示となる。</p>		

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：開山・栄西禅師 800年遠忌 特別展「栄西と建仁寺」

- ・会 期 26年3月25日(火)～5月18日(日) (49日間)
- ・会 場 平成館 特別展示室第1～4室
- ・主 催 東京国立博物館、建仁寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
- ・協 賛 ジェイティービー、日本写真印刷
- ・協 力 あいおいニッセイ同和損保
- ・作品件数 183件(うち、国宝4件、重要文化財37件、重要美術品3件)
- ・来館者数 252,116人(目標200,000人・達成率126.1%)
- ・入場料金 一般1,600円(1,400円/1,300円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円)
中学生以下無料 * ()内は前売り/20名以上の団体料金
- ・アンケート結果 満足度72%
- 担当研究員数：3人

展覧会の内容：

建仁寺開山・栄西の事跡と建仁寺の法脈をたどり、建仁寺に関わる文化にも注目した。

- 講演会等：「栄西と茶の歴史」講師：千 宗屋(武者小路千家 家元後嗣) 平成館大講堂 4月12日(土)
「建仁寺ゆかりの美術」講師：田澤裕賀(絵画・彫刻室長) 平成館大講堂 4月19日(土)

展覧会名：特別展「キトラ古墳壁画」

- ・会 期 26年4月22日(火)～5月18日(日) (25日間)
- ・会 場 本館 特別5室
- ・主 催 文化庁、東京国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、国土交通省近畿地方整備局、奈良県教育委員会、明日香村
- ・共 催 朝日新聞社
- ・協 賛 岡村印刷工業
- ・特別協力 情報通信研究機構、大塚オーミ陶業、日本通運
- ・作品件数 18件(そのほか、参考出品13件)
- ・来館者数 119,268人(目標87,000人・達成率137.1%)
- ・入場料金 一般900円(800円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料
* ()内は前売り・20名以上の団体料金
- ・アンケート結果 満足度63%
- 担当研究員数：4人

展覧会の内容：

キトラ古墳壁画の修理や、今後の保存活用の展開をより広く国民に紹介した。

- 講演会等：「キトラ古墳壁画保護の歩み」平成館大講堂 4月26日(土)
- ①「キトラ古墳壁画保護の歴史」講師：建石徹(文化庁文化財部古墳壁画室・古墳壁画対策調査官)
 - ②「キトラ古墳壁画の取り外しと修理」講師：川野邊渉(東京文化財研究所文化遺産国際協力センター長)
 - ③「キトラ古墳壁画の材料調査」講師：高妻洋成(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)
 - ④鼎談「キトラ古墳壁画の保護から学ぶもの」講師：建石徹・川野邊渉・高妻洋成
コーディネーター：齊藤孝正(上席研究員)
- 「キトラ古墳壁画に迫る—高松塚古墳壁画との比較から—」講師：有賀祥隆(東北大学名誉教授) 平成館大講堂
5月3日(土)

展覧会名：特別展「台北 國立故宮博物院—神品至宝—」

- ・会 期 26年6月24日(火)～9月15日(月・祝) (78日間)
- ・会 場 平成館、本館特別5室
- ・特別後援 日華議員懇談会

- ・主 催 東京国立博物館、国立故宮博物院、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社、産経新聞社、フジテレビジョン、朝日新聞社、毎日新聞社、東京新聞
- ・特別協力 TBS、テレビ朝日、日本テレビ放送網、共同通信社
- ・協 力 チャイナ エアライン（中華航空）
- ・作品件数 186件
- ・来館者数 402,241人（目標450,000人・達成率89.4%）
- ・入場料金 一般1,600円（1,400円／1,300円）、大学生1,200円（1,000円／900円）、高校生700円（600円／500円）、中学生以下無料 *（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
- ・アンケート結果 満足度63%
- 担当研究員数：7人

展覧会の内容：

台北故宮博物院の収蔵品の中から、北宋山水画、名筆、青磁・汝窯、玉器・青銅器などの名品を初めて日本で展示した。

講演会等：「故宮コレクションと「倣古」—青銅器・玉器のかたちに象徴された伝統」講師：川村佳男（展示調整室主任研究員）
平成館大講堂 6月28日（土）

- シンポジウム中国皇帝コレクションの意味—書画における復古と革新— 平成館大講堂 7月5日（土）7月6日（日）
基調講演「国立故宮博物院書画コレクションの淵源」講師：何傳馨（国立故宮博物院副院長）
- ①「王羲之と小野道風」 講師：丸山猶計（九州公立博物館）
 - ②皇帝コレクションにおける模写・模造事業—乾隆帝の書画コレクションと狩野派— 講師：塚本麿充（東洋室研究員）
 - ③徽宗と義満—日本における皇帝コレクションの意味— 講師：畑靖紀（九州国立博物館）
 - ④蘇軾「寒食帖」と米芾「草聖帖」—台北と大阪を結ぶ縁— 講師：弓野隆之（大阪市立美術館）
 - ⑤元宋四大家—文人画の確立—講師：湊信幸（客員研究員・名誉館員）
 - ⑥公主の雅集—モンゴル皇室と書画鑑蔵活動—講師：陳韻如（国立故宮博物院）
 - ⑦乾隆帝が見た江南山水画—伝巨然「蕭翼賺蘭亭図」を中心に—講師：竹浪遠（黒川古文化研究所）
 - ⑧乾隆帝と澄心堂紙講師：何炎泉（国立故宮博物院）
 - ⑨徽宗の七璽と乾隆帝の八璽について講師：富田淳（列品管理課長）
- 総合討論

「文物がつくる社会—中国書画・故宮コレクションからアジア世界へ—」講師：塚本麿充（東洋室研究員）
平成館大講堂 7月26日（土）

展席上揮毫会平成館大講堂 8月20日（水）
講師：樽本樹邨（読売書法会常任総務）星弘道（読売書法会常任総務）高木聖雨（読売書法会常任理事）

展席上揮毫会平成館大講堂 8月21日（木）
講師：石飛博光（毎日書道会常任理事）仲川恭司（毎日書道会理事）永守蒼穹（毎日書道会理事）

展覧会名：2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華 陶磁名品展」

- ・会 期 26年9月20日（土）～11月24日（月・休）（57日間）
- ・会 場 本館 特別5室
- ・主 催 東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館
- ・作品件数 45件（うち、国宝1件、重要文化財10件）
- ・来館者数 65,075人（目標34,000人・達成率191.4%）
- ・入場料金 一般620円（520円）、大学生410円（310円）総合文化展観覧料、*（ ）内は20名以上の団体料金
- ・アンケート結果 満足度 60%

担当研究員数：3人

展覧会の内容：

日中韓国立博物館の合同企画として、各館の収蔵品の中から、東アジアの陶磁器の名品を選び一堂に展示した。

講演会等：東アジアの華 陶磁名品展 記念講演会 平成館大講堂 9月27日（土）
講師：杜衛民（中国国家博物館保管一部副研究員）
具一會（韓国国立扶余博物館長、前韓国国立博物館美術部長）
伊藤嘉章（学芸企画部長）

展覧会名：「日本国宝展」

- ・会 期 26年10月15日（水）～12月7日（日）（47日間）
- ・会 場 平成館 特別展示室第1～4室
- ・主 催 東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
- ・協 賛 損保ジャパン日本興亜、大伸社、日本通運、みずほ銀行
- ・作品件数 130件（うち、国宝119件、正倉院宝物11件）
- ・来館者数 386,708人（目標350,000人・達成率110.5%）
- ・入場料金 一般1,600円（1,400円／1,300円）、大学生1,000円（1,000円／900円）、高校生900円（700円／600円）
中学生以下無料 *（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
- ・アンケート結果 満足度70%
- 担当研究員数：5人

展覧会の内容：

大切に継承されてきた「信ずるもの」の評価の結晶こそが「国宝」であると考え、国宝によって日本文化形成の精神をたどった。

講演会等：連続講座 平成館大講堂 8月8日（金）8月9日（土）8月10日（日）
 第1講「日本国宝展と工芸の国宝」講師：伊藤信二（広報室長）
 第2講「絵画の国宝1号—トーハクと国宝の絵画」講師：沖松健次郎（保存修復室主任研究員）
 第3講「国宝元興寺五重小塔を探る」講師：狭川真一（公益財団法人元興寺文化財研究所研究部長）
 第4講「指定制度と仏像・神像の国宝」講師：川瀬由照（文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官）
 第5講「国宝彫刻の修理」講師：藤本青一（公益財団法人美術院国宝修理所所長）
 第6講「発掘の成果と国宝」講師：品川欣也（考古室主任研究員）
 第7講「美と歴史を語る国宝の書」講師：田良島哲（保存修復室主任研究員）

「国宝指定制度と日本国宝展」講師：伊藤信二（広報室長）平成館大講堂 11月1日（土）
 「国宝縄文のビーナスと国宝仮面の女神誕生の地・ハケ岳山麓北山浦の縄文文化」
 講師：鶴飼幸雄（尖石縄文考古館前館長）平成館大講堂 11月22日（土）

展覧会名：特別展「みちのくの仏像」

- ・会 期 27年1月14日（水）～4月5日（日）（73日間）
- ・会 場 本館 特別5室
- ・主 催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
- ・後 援 文化庁、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- ・協 賛 大伸社
- ・協 力 あいおいニッセイ同和損害保険
- ・作品件数 19件（うち、国宝1件、重要文化財8件）
- ・来館者数 179,521人（目標140,000人・達成率128.2%）
- ・入場料金 一般1,000円（900円）、大学生700円（600円）、高校生400円（300円）、中学生以下無料
 *（ ）内は前売り・20名以上の団体料金
- ・アンケート結果 満足度79%
 担当研究員数：2人

展覧会の内容：東京において、東北の優れた仏像がまとまって展示される初めての展覧会とした。

講演会等：「みちのくの仏像」講師：丸山士郎（平常展調整室長）平成館大講堂 1月24日（土）

展覧会名：特別展「3.11大津波と文化財の再生」

- ・会 期 27年1月14日（水）～3月15日（日）（53日間）
- ・会 場 本館 特別2室・特別4室
- ・主 催 東京国立博物館、津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト
 実行委員会
- ・この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。
 参考値：78,615人（開催期間中の平常展来館者数）
- ・入場料金 一般620円（520円）、大学生410円（310円）総合文化展観覧料、*（ ）内は20名以上の団体料金
- ・アンケート結果 満足度59%
 担当研究員数：3人

展覧会の内容：東日本大震災における被災文化財の再生の取り組みの成果とその現状を紹介した。

講演会等：
 ミニ講演会&ギャラリートーク「被災現場からの報告」本館地下教育普及スペースみどりのライオン及び本館特別2室 1月31日
 講師：赤沼英男（岩手県立博物館学芸第2課長）
 前田浩士（陸上自衛隊富士学校機甲科車両生徒班長）
 熊谷賢（陸前高田市立博物館副主幹）、神庭信幸（保存修復課長）
 シンポジウム「文化財を守る絆—津波被災文化財再生への挑戦」東京文化財研究所 3月11日
 講師：熊谷賢（陸前高田市立博物館 副主幹）
 赤沼英男（岩手県立博物館 首席専門学芸員）
 前川さおり（遠野文化研究センター調査研究課 課長補佐）
 真鍋真（国立科学博物館 地学研究部 生命進化史研究グループ グループ長）
 半田昌之（日本博物館協会 専務理事）、神庭信幸（東京国立博物館 保存修復課 課長）
 オルガン演奏 本館大階段 1月31日、2月21日、3月14日
 演奏：中村由利子、相田南穂子、伊藤園子

展覧会名：海外展「伝統の再創造：東京国立博物館所蔵 日本の近代美術」

- Remaking Tradition: Modern Art of Japan from the Tokyo National Museum
- ・会 期 26年年2月16日（日）～5月11日（日）（72日間）
 - ・会 場 アメリカ・クリーブランド美術館ケルビン&エレノア・スミス財団展示ホール
 - ・主 催 クリーブランド美術館、東京国立博物館
 - ・作品件数 55件（うち、重要文化財6件）
 - ・来館者数 37,648人

担当研究員数：2人

展覧会の内容：東京国立博物館の近代美術作品により、日本近代美術を伝統の再創造という観点で紹介した。

【京都立博物館】

(1) 平常展(名品ギャラリー)

- ①開館日数：213日(名品ギャラリーのみの開館日数：164日)
- ②陳列総件数：980件

特別展示等

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
開館記念展	京へのいざない	9月13日～11月16日	397件(国宝45件、重要文化財125件)
特別展観	山陰の古刹・島根鰐淵寺の名宝	27年1月2日～2月15日	36件(重要文化財4件)
特集陳列	雛まつりと人形	2月21日～4月8日	23件
特別展観	天野山金剛寺の名宝	3月4日～3月29日	41件(国宝3件、重要文化財16件)

- ③陳列替件数：693件(3月末現在)

(2) 特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「南山城の古寺巡礼」

- ・会 期 26年4月22日～6月15日(49日間)
- ・会 場 明治古都館(特別展示館)全室
- ・主 催 京都国立博物館、朝日新聞社
- ・後 援 文化庁、京都府、木津川市、京田辺市、井手町、宇治田原町、笠置町、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー
- ・協 賛 岡村印刷工業、きんでん、京阪電気鉄道、竹中工務店、福寿園
- ・特別協力 京都南山城古寺の会、飛鳥園
- ・協 力 日本香堂
- ・作品件数 139件(うち国宝2件、重要文化財27件)
- ・来館者数 69,443人(目標来館者数50,000人・達成率138.9%)
- ・入場料金 一般1,500円、大高生900円、中小生500円
- ・アンケート結果 満足度92%

講演会：6回 参加者数合計 1,046人

・関連土曜講座

4月26日 南山城の歴史と文化

京都国立博物館企画室長 宮川 禎一
193名参加

5月10日 古代南山城の観音像

同志社大学教授 井上 一穂氏
186名参加

5月17日 一休さんと酬恩庵の絵画

京都国立博物館美術室長 山本 英男
171名参加

5月24日 浄瑠璃寺と当尾の里

浄瑠璃寺副住職 佐伯 功勝氏
165名参加

5月31日 南山城の仏像と慶派仏師

東京国立博物館学芸企画部博物館教育課講座室長 浅湊 毅
174名参加

6月7日 万葉歌にみる馬場南遺跡(神雄寺)と恭仁京のトボス

京都府教育庁文化財保護課 伊藤 太氏
157名参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」

- ・会 期 26年10月7日～11月24日(43日間)
- ・会 場 明治古都館(特別展示館)全室
- ・主 催 京都国立博物館、高山寺、朝日新聞社
- ・後 援 公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー
- ・協 賛 カネカ、京都銀行、きんでん、JR西日本、竹中工務店、凸版印刷
- ・特別協力 岡墨光堂
- ・協 力 朝日放送、日本香堂
- ・作品件数 84件(うち国宝8件、重要文化財54件)
- ・来館者数 203,900人(目標来館者数100,000人・達成率203.9%)
- ・入場料金 一般1,500円、大学生1200円、高校生900円
- ・アンケート結果 満足度 84%

講演会：5回 参加者数合計812人

・関連土曜講座

10月11日 「明恵上人と高山寺の文化財」

北海道大学名誉教授 石塚 晴通氏

193名参加

10月18日 「高山寺の仏画」

京都国立博物館 企画室主任研究員 大原 嘉豊

138名参加

10月25日 「鳥獣戯画の愉しさ—後世の画家に及ぼした影響—」

同志社大学教授 狩野 博幸氏

200名参加

11月22日 京都ミュージアムズ・フォー連携講座「高山寺の版本—宋版を中心に—」

京都国立博物館 上席研究員 赤尾 栄慶

113名参加

・特別シンポジウム

11月15日 「鳥獣戯画を語る」

サントリ—美術館学芸員 上野友愛氏、京都精華大学・マンガ学部教授ジャクリーヌ・ベルント氏、京都国立博物館 企画室主任研究員 大原嘉豊、岡墨光堂 岡岩太郎氏、京都国立博物館美術室研究員 鬼原俊枝、京都国立博物館 上席研究員 赤尾栄慶

168名参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日（名品展のみの開館日数：198日）

②陳列件数：675件

名品展

珠玉の仏たち（なら仏像館）137件

珠玉の仏教美術（西新館）281件

特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）7件

特集展示「和紙—文化財を支える日本の紙—」（西新館）13件

中国古代青銅器（青銅器館）237件

特別陳列等

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術	12月9日～27年1月18日	54件（国宝1件、重要文化財2件）
特別陳列	お水取り	27年2月7日～3月15日	62件（重要文化財16件）
特集展示	模造にみる飛鳥時代の宝冠	25年9月20日～26年9月7日	3件※
特集展示	模造にみる頭塔	25年9月20日～26年9月7日	1件※
特集展示	模造にみる伎楽面	25年9月20日～26年9月7日	2件※
特集展示	新たに修理された文化財	12月23日～27年1月18日	7件（重要文化財4件）〔再掲〕
特集展示	ユネスコ世界無形文化遺産登録記念 和紙—文化財を支える日本の紙—	27年1月27日～3月15日	13件（国宝1件、重要文化財3件）〔再掲〕
特別公開	金剛寺 降三世明王坐像	23年10月4日～26年9月7日	1件（重要文化財1件）※
特別公開	定朝様の丈六阿弥陀像	24年6月26日～26年9月7日	1件※

※「名品展 珠玉の仏像（なら仏像館）」の陳列件数（137件）に含む。

③陳列替件数：208件

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像—迫真とエキゾチシズム—」

- ・会 期 26年4月5日（土）～6月1日（日）（51日間）
- ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館
- ・主 催 奈良国立博物館、鎌倉国宝館、読売新聞社
- ・後 援 文化庁、NHK奈良放送局、奈良テレビ放送
- ・協 賛 あいおいニッセイ同和損保、岩谷産業、大伸社、大和ハウス工業、非破壊検査
- ・協 力 日本香堂、仏教美術協会
- ・作品件数 53件（うち重要文化財26件）
- ・来館者数 37,022人（目標50,000人・達成率74.0%）
- ・観覧料金 一般1,300円、高校・大学生800円、小・中学生500円
- ・アンケート結果 満足度85%
- ・公開講座：3回 参加者数合計 364人
 - 4月19日（土）「中世律宗の鎌倉進出と善派仏師」 山口隆介（研究員）/ 参加者数 106人
 - 5月10日（土）「鎌倉の仏像に見るエキゾチシズム」 清水眞澄（三井記念美術館長）/ 参加者数 111人
 - 5月31日（土）「鎌倉地方で花開いた肖像彫刻」 内藤浩之（鎌倉国宝館副館長補佐）/ 参加者数 127人
- ・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展「国宝 醍醐寺のすべて—密教のほとけと聖教—」

- ・会 期 26年7月19日（土）～9月15日（月・祝）（52日間）

- ・会場 奈良国立博物館 東新館・西新館
- ・主催 奈良国立博物館、総本山醍醐寺、日本経済新聞社
- ・共催 NHK奈良放送局
- ・後援 文化庁、奈良テレビ放送
- ・協賛 岩谷産業、オリックス、京都銀行、住友林業、ダイキン工業、大和ハウス工業
- ・協力 朝日生命保険、日本香堂、日本通運、仏教美術教会
- ・作品件数 192件（うち国宝62件、重要文化財85件）
- ・来館者数 78,476人（目標50,000人・達成率157.0%）
- ・観覧料金 一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
- ・アンケート結果 満足度84%
- ・公開講座：4回 参加者数合計 550人
 - 7月26日（土）「醍醐寺と南都の密教絵画」谷口耕生（保存修理指導室長）/ 参加者数 130人
 - 8月2日（土）「平安初期の醍醐寺の彫刻」皿井 舞（東京文化財研究所研究員）/ 参加者数 149人
 - 8月9日（土）「醍醐寺の文化財」長瀬福男（醍醐寺公室室長）/ 参加者数 77人
 - 9月6日（土）「醍醐寺の密教修法」斎木涼子（研究員）/ 参加者数 194人
- ・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：天皇皇后両陛下傘寿記念「第66回正倉院展」

- ・会期 26年10月24日（金）～11月12日（水）（20日間）
- ・会場 奈良国立博物館 東新館・西新館
- ・主催 奈良国立博物館
- ・特別協力 読売新聞社
- ・協賛 岩谷産業、NTT西日本、キャノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
- ・協力 NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
- ・作品件数 59件
- ・来館者数 269,348人（目標180,000人・達成率149.6%）
- ・観覧料金 一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
- ・アンケート結果 満足度69%
- ・公開講座：3回 参加者数合計 436人
 - 10月25日（土）「鳥毛立女屏風と唐時代絵画」板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）/ 参加者数 194人
 - 11月3日（月・祝）「正倉院宝物の科学的調査」中村力也（宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）/ 参加者数 126人
 - 11月8日（土）「正倉院の武器・武具」岩戸晶子（研究員）/ 参加者数 116人
- ・シンポジウム：1回 参加者数 192人
 - 11月2日（日）正倉院学術シンポジウム2014「正倉院宝物に日本文化の源流をみる」
 - 第1部 「正倉院宝物の性格について」北 啓太（元宮内庁正倉院事務所長）、「正倉院宝物にみる資源の有効利用について」飯田剛彦（宮内庁正倉院事務所保存課調査室長）「日本工芸の源流としての正倉院宝物」内藤 栄（学芸部長）、
 - 第2部 パネルディスカッション 北 啓太、飯田剛彦、内藤 栄
- ・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

- ①開館日数：310日（うち平常展のみ開館日数 84日）
- ②陳列替件数：1,027件
- ③陳列総件数：1,904件（うち国宝61件 重要文化財94件）
- ④入場料金：一般430円、大学生130円
- ⑤トピック展示・特別公開等：全11件

展示名称	館蔵近世絵画名品展			
開催期間	前期：26年2月25日（火）～4月6日（日） 後期：26年4月8日（火）～5月18日（日）	開催場所	文化交流展示室 関連展示室11室、基本展示室Vテーマ	陳列件数（うち指定品件数） 18件（うち重文1件、重美1件）
内容	17世紀から19世紀の絵画を中心に、当館がこれまで収集してきた作品を広く紹介した。			

展示名称	国宝 琉球王国尚家関係資料修理完成記念特別公開			
開催期間	26年4月8日（火）～ 5月18日（日）	開催場所	文化交流展示室 基本展示室Vテーマ	陳列件数（うち指定品件数） 7件（うち国宝7件）
内容	毎年度行なっている琉球国王尚家関係資料の修理成果をお披露目する特別公開企画。			

展示名称	国宝「西光寺梵鐘」特別公開			
開催期間	26年4月22日（火）～ 8月31日（日）	開催場所	文化交流展示室 基本展示室IIIテーマ	陳列件数（うち指定品件数） 1件（うち国宝1件）
内容	承和6年（839年）に制作された狐峯山西光寺（福岡市早良区）が所蔵する梵鐘を、昨年引き続き紹介した。			

展示名称	解剖書に見る東洋と西洋—ファブリカからターヘル・アナトミアへ—			
開催期間	26年5月20日（火）～ 7月13日（日）	開催場所	文化交流展示室 基本展示室Vテーマ	陳列件数（うち指定品件数） 9件（うち重文1件）
内容	近代日本にもたらされた西洋解剖書と翻訳書をあわせて展示し、解剖書を通じた近世の日本と西洋との交流を紹介した。			

展示名称	中国を旅した禅僧の足跡			
開催期間	26年5月27日（火）～	開催場所	文化交流展示室	陳列件数（うち指定品件数） 23件（うち国宝1件、重文6件）

	7月6日(日)		関連展示室 11 室	指定品件数)	
内容	14 世紀の日本僧、無夢一清の中国での旅と生涯をたどり、個性豊かな禪書の魅力と、日中禅僧による文化交流を紹介した。				
展示名称	小中学生からの考古学				
開催期間	26 年 7 月 1 日(火)～ 9 月 23 日(火・祝)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 1 室	陳列件数(うち 指定品件数)	19 件(うち国宝 1 件、重文 5 件)
内容	遺跡から出土したものが、今のくらしのどんな物につながっているのかを小中学生にも分かりやすく紹介した。3Dプリンター等で本物そっくりりに制作したレプリカを使い、みて・触って・きいて・嗅いで・感じてと五感で楽しむ展示を行った。				
展示名称	特別公開「海を越えた再会—クリーブランド美術館の仲間たち—」				
開催期間	26 年 7 月 15 日(火)～ 8 月 24 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 11 室	陳列件数(うち 指定品件数)	15 件(うち国宝 1 件、重文 1 件)
内容	特別展「クリーブランド美術館—名画でたどる日本の美—」を記念し、クリーブランド美術館所蔵の優品にゆかりの深い、日本国内に所蔵されている作品を公開した。				
展示名称	全国高等学校 考古名品展				
開催期間	26 年 7 月 15 日(火)～ 9 月 23 日(火・祝)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 3 室	陳列件数(うち 指定品件数)	55 件(うち重文 1 件)
内容	全国の高等学校に所蔵されている考古資料から選りすぐった優品を通して、日本の考古文化に光をあて、あわせて高等学校の考古学に関する研究活動を紹介した。				
展示名称	新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」				
開催期間	27 年 1 月 1 日(木・祝)～ 1 月 25 日(日)	開催場所	文化交流展示室 中央ケース	陳列件数(うち 指定品件数)	2 件(うち国宝 2 件)
内容	恒例企画。徳川美術館が所蔵する国宝「初音の調度」を公開した。				
展示名称	大涅槃展				
開催期間	27 年 1 月 14 日(火)～ 2 月 15 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 11 室、基本展示室 V テーマ	陳列件数(うち 指定品件数)	20 件(うち重文 5 件)
内容	当館が所蔵する命尊による涅槃図の修復作業完成お披露目と合わせ、様々な地域、時代の涅槃図を一堂に集め、釈迦の入滅を描いた図の多彩な世界を紹介した。				
展示名称	柿右衛門—受け継がれる技と美				
開催期間	27 年 3 月 3 日(火)～ 5 月 10 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 9 室、基本展示室 今月の名品	陳列件数(うち 指定品件数)	60 件
内容	14 代酒井田柿右衛門の功績を偲ぶとともに、歴代柿右衛門の名品の展示を通じて、柿右衛門窯が継承する技と、それに裏打ちされた美に迫った。				

(2) 特別展・共催展等

展覧会名：特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」

- ・会 期 26 年 4 月 15 日(火)～6 月 8 日(日) (49 日間)
- ・会 場 九州国立博物館 特別展示室
- ・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、公益財団法人陽明文庫
- ・作品件数 114 件(うち、国宝 18 件、重要文化財 34 件、重要美術品 13 件)
- ・来館者数 60,808 人(目標来館者数 70,000 人・達成率 86.9%)
- ・入場料金 一般 1,500 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
- ・アンケート結果 満足度 88%
- ・講演会等：5 回 参加者合計 352 人
- ・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
4月19日	「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝」	公益財団法人陽明文庫文庫長 名和修	250人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
4月25日	しつとこ九博！「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」解説講座(筑紫野市)	元展示課主任研究員 酒井芳司	24人
4月26日	リレー講座 近衛家の国宝展の魅力に迫る 「近衛家の曙光—藤原道長の登場—」 「信尹と家瀬—近衛家が生んだ桃山・江戸の文化人—」	元展示課主任研究員 酒井芳司 文化財課主任研究員 荒木和憲	68人
5月3日	関連講演会 「藤原道長『御堂関白記』と世界記憶遺産への道程」	国際日本文化研究センター教授 倉本一宏	190人
5月10日	リレー講座 近衛家の国宝展の魅力に迫る 「近衛家の成立—藤原道長以後—」 「陽明文庫の書の魅力」	博物館科学課アソシエイトフェロー 渡部史之 文化財課主任研究員 丸山猶計	70人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
5月5日	「ちはやふる」の世界—かるたクィーンに学ぶ競技かるた	150人
5月11日	上映会 源氏物語—千年の鍵—	236人

5月18日	「つづけ字しおりワークショップ」	95人
5月25日	「書の甲子園優勝！太宰府高校芸術科生徒による書道実演&つづけ字しおりワークショップ」	200人

展覧会名：特別展「クリーブランド美術館展一名画でたどる日本の美ー」

- ・会 期 26年7月8日(火)～8月31日(日) (49日間)
- ・会 場 九州国立博物館 特別展示室
- ・主 催 九州国立博物館・福岡県、クリーブランド美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送、テレビ西日本
- ・作品件数 51件
- ・来館者数 70,794人(目標来館者数 50,000人・達成率141.5%)
- ・入場料金 一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円
- ・アンケート結果 満足度 86%
- ・講演会等：5回 参加者 合計 479人
- ・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
7月13日	「アメリカ人の目利きーチャーマン・リーとクリーブランド美術館コレクション」	明治学院大学教授 山下裕二	275人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
6月28日	アクロス文化学び塾 プレ講座 「準備万端!?クリーブランド美術館展の楽しみ方」	企画課研究員 鷲頭桂	70人
7月11日	しとこ九博！「クリーブランド美術館展 名画でたどる日本の美」解説講座(筑紫野市)	企画課研究員 鷲頭桂	24人
7月16日	講演会「夏の夜の日本美術入門」 (公益財団法人 九州経済調査協会)	企画課研究員 鷲頭桂	30人
7月19日	リレー講座 「日本絵画入門：千年の歴史をたどる」	企画課主任研究員 畑靖紀 企画課研究員 鷲頭桂	80人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
7月5日～8月31日	特別展「クリーブランド美術館展一名画でたどる日本の美」紹介パネル展示	132,526人
7月15日～27日、 8月5日～17日	「雷神めり絵はがき」ワークショップ	2,600人
7月24日	親子鑑賞会「親子で楽しむ クリーブランド美術館展」((公財)福岡文化財団 招待事業)	34人
8月10日	夏休み親子工作 てづくりカメラ つくって、覗いて、描いてみよう!	27人
8月22日、23日	日本画ワークショップ「琳派の燕子花を描く」	15人

展覧会名：特別展「台北 國立故宮博物院ー神品至宝ー」

- ・会 期 26年10月7日(火)～11月30日(日) (51日間)
- ・会 場 九州国立博物館 特別展示室
- ・主 催 九州国立博物館・福岡県、東京国立博物館、國立故宮博物院、西日本新聞社、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、読売新聞社、産経新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、RKB毎日放送、TVQ九州放送
- ・作品件数 110件
- ・来館者数 256,070人(目標来館者数 150,000人・達成率170.7%)
- ・入場料金 一般1,600円、高大生900円、小中生400円
- ・アンケート結果 満足度 79%
- ・講演会等：4回 参加者合計 397人
- ・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
11月1日	特別講演会 「皇帝を魅了した名品たちー中国書跡を中心にー」	東京国立博物館列品管理課長 富田淳	150人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月25日	シンポジウム 「中国皇帝コレクションの意味ー工芸における復古と革新ー」 「乾隆帝收藏の汝窯磁器と関連する諸問題」 「日本でつくられた倣中国製彫漆器」 「乾隆帝の玉器評価基準」 「考古資料から見た徽宗の青銅器文化復興」	國立故宮博物院 器物処副所長 余佩瑾 企画課主任研究員 川畑憲子 國立故宮博物院 器物処科長 張麗端 東京国立博物館 学芸研究部長 谷豊信	150人
10月25日	しとこ九博！「台北 國立故宮博物院ー神品至宝ー」解説講座(筑紫野市)	企画課主任研究員 川畑憲子	47人
11月8日	講演会「中国における文物の意義ー皇帝たちが受け継いだ名画ー」	企画課特別展示室主任研究員 畑靖紀	50人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
9月11日	セミナー&ランチ 「台北故宮展を先取り！至高のレシピを一挙公開」(福岡市)	40人
9月14日	谷原章介×九州国立博物館学芸員トークショー 「谷原章介が現地でも出逢った！台北故宮の魅力とは？」(福岡市)	600人
10月21日～26日	台湾グルメフェア	-

展覧会名：特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」

- ・会 期 27年1月1日(木・祝)～3月1日(日) (52日間)
- ・会 場 九州国立博物館 特別展示室
- ・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送
- ・特別協力 国立公州博物館、国立扶餘文化財研究所、太宰府天満宮
- ・作品件数 74件(うち、国宝 4件、重要文化財 5件、重要美術品 2件、韓国国宝 2件、韓国宝物 1件)
- ・来館者数 59,629人(目標来館者数 30,000人・達成率 198.7%)
- ・入場料金 一般 1,400円、高大生 1,000円、小中生 600円
- ・アンケート結果 満足度 87%
- ・講演会等：5回 参加者合計 613人
- ・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
27年 1月27日	特別展記念講演会 「七支刀と百済研究の最前線」	石上神宮宮司 森 正光、韓国国立公州博物館超金鍾萬、韓国国立中央博物館学芸研究官 李炳鎬、福岡県教育庁文化財保護課長 赤司善彦	305人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
27年 1月24日	特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」展関連講演会「文化財科学は解き明かす 自然災害Ⅲ」 「1.17から3.11 - 文化財の危機管理意識 -」 「八重山諸島の巨大津波を探る」 「西日本沿岸の巨大津波痕跡から将来を考える」 「地震考古学と九州の地震災害」	館長 三輪嘉六 石垣市教育委員会文化財係長 島袋綾野 高知大学総合研究センター特任教授 岡村眞 産業技術総合研究所客員研究員 寒川旭	110人
27年 1月30日	しつとこ九博！「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」解説講座(筑紫野市)	展示課主任研究員 岸本圭	78人
27年 2月1日	リレー講座 九博研究員が語る！ 考古学を100倍楽しむ方法 「獣帯鏡の謎」 「右片袖の思想—日本の横穴式石室のはじまり」	展示課主任研究員 岸本圭 企画課文化交流展室長 河野一隆	120人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
1月11日	スペシャル・サポーター・SHU-I スペシャルコンサート	280人
1月25日	ウォーキングツアー 考古学者と行く！ 史跡探訪 てくてく水城コース	10人
2月8日	ウォーキングツアー 考古学者と行く！ 史跡探訪 健脚向き 大野城登山コース	10人
2月15日	もうすぐ九博開館10周年記念イベント 福岡発市民ミュージカル“ASUKA”	10人

同時開催展覧会：「発掘された日本列島2014」

- ・会 期 27年1月1日(木・祝)～3月1日(日) (52日間)
- ・会 場 九州国立博物館 特別展示室
- ・主 催 九州国立博物館、文化庁、東北歴史博物館、東京都江戸東京博物館、堺市博物館、長野市立博物館
- ・作品件数 960件(重要文化財47件)
- ・来館者数 59,629人(目標来館者数 30,000人・達成率 198.7%)
- ・入場料金 一般 1,400円、高大生 1,000円、小中生 600円(古代日本と百済の交流展と共通チケット)
- ・アンケート結果 満足度 87%
- ・講演会等：1回 参加者合計 90人
- ・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
27年 2月22日	リレー講座 九博研究員が語る！ 考古学を100倍楽しむ方法 「激動の7世紀を戦った兵士」 「発掘された日本列島2014の見どころ」	展示課研究員 小嶋篤 展示課主任研究員 進村真之	90人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
1月18日	なりきり考古学者体験 スペシャルバージョン	7人
2月15日	なりきり考古学者体験 スペシャルバージョン	3人

【平城宮跡資料館】

(1) 平常展

開館日数：309日(平常展のみの開館日数：124日) 陳列件数：656件 陳列替回数：1回
平常展のみの来館者数：52,221人
入場料金：無料

(2) 特別展等・共催展等

展覧会名：夏期企画展「平城京ビックリ！はくらんかい」

会 期：26年7月12日(土)～9月21日(日) (72日間)
 会 場：平城宮跡資料館 企画展示室
 主 催：奈良文化財研究所
 陳列件数(うち指定品数)：85件(0件)
 来館者数：17,712人
 入場料金：無料
 講演会等：ビックリ先生のじまん話5回・参加者数合計145人
 親子ワークショップ1回・参加者数合計35人

【**展覧会名：秋期特別展「地下の正倉院展—木簡を科学する—」**】

【**「埋蔵文化財センターの40年」**】

会 期：26年10月18日(土)～11月30日(日) (39日間)
 会 場：平城宮跡資料館 企画展示室
 主 催：奈良文化財研究所
 陳列件数(うち指定品数)：78件(6件)
 来館者数：19,281人
 入場料金：無料
 講演会等：ギャラリートーク3回・参加者数合計124人

【**展覧会名：ミニ展示「発掘速報展平城2014」**】

会 期：I期 26年12月6日(土)～27年2月1日(日) (45日間)
 II期 27年2月14日(土)～27年3月31日(日) (39日間)
 会 場：平城宮跡資料館 企画展示室
 主 催：奈良文化財研究所
 陳列件数(うち指定品数)：76件(0件)
 来館者数：19,974人
 入場料金：無料

【藤原宮跡資料室】

(1) 平常展

- ①開館日数：356日 陳列件数：7件 陳列替回数：1回
 ②特集陳列等 3件

名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
【 特集陳列 】		
震災復興調査とその支援	26年 1月23日～	パネル展示
甘樫丘東麓遺跡の調査	26年 6月30日～	土器4
藤原宮朝堂院の調査	26年 6月30日～	瓦3

入場料金：無料
 来館者数：8,461人

【飛鳥資料館】

(1) 平常展

開館日数：319日(平常展のみの開館日数：122日) 陳列件数：349件 陳列替回数：1回
 入場料金：一般270円(170円) 大学生130円(60円) 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
 ※ () は20名以上の団体
 平常展のみの来館者数：9,028人

(2) 特別展等・共催展等

【**展覧会名：春期特別展「いにしへの匠たち—ものづくりからみた飛鳥時代—」**】

会 期：26年4月25日(金)～6月15日(日) (52日間)
 会 場：飛鳥資料館 特別展示室
 主 催：奈良文化財研究所
 陳列件数(うち指定品数)：145件(0件)
 来館者数：10,597人
 入場料金：一般270円(170円) 大学生130円(60円) 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
 ※ () は20名以上の団体
 座談会：1回 参加者数合計 51人

期日	講演会名	講師(所属)
5月11日	「いにしへの技術を語る—現代の「匠」と考古学者—」	脇田宗孝(奈良教育大学名誉教授) 小泉武寛(和銅寛) 松村恵司(奈良文化財研究所長) 玉田芳英(奈良文化財研究所都城発掘調査部副部長)

【**展覧会名：夏期企画展「第5回写真コンテスト「飛鳥の壘」応募作品展」**】

会 期：26年7月25日(金)～9月7日(日) (39日間)
 会 場：飛鳥資料館 特別展示室
 主 催：奈良文化財研究所
 応募点数：213点
 来館者数：3,505人

入場料金：一般270円（170円） 大学生130円（60円） 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
 ※（ ）は20名以上の団体

展覧会名：ミニ企画展「津田洋 大和の美仏に魅せられて」

会 期：26年9月12日（金）～9月28日（日）（15日間）
 会 場：飛鳥資料館 特別展示室
 主 催：奈良文化財研究所
 陳列件数（うち指定品数）：20件（0件）
 来館者数：2,716人
 入場料金：一般270円（170円） 大学生130円（60円） 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
 ※（ ）は20名以上の団体

展覧会名：秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどりー大地にぎざまれた記憶ー」

会 期：26年10月10日（金）～11月30日（日）（52日間）
 会 場：飛鳥資料館 特別展示室
 主 催：奈良文化財研究所
 陳列件数（うち指定品数）：66件（0件）
 来館者数：9,592人
 入場料金：一般270円（170円） 大学生130円（60円） 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
 ※（ ）は20名以上の団体
 講演会：1回 参加者数合計 40人

期日	講演会名	講師（所属）
11月1日	「もう一つの遺跡保存ー土層転写と遺構切り取りー」	澤田正昭（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長）

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学2014」

会 期：27年1月16日（金）～3月1日（日）（39日間）
 会 場：飛鳥資料館 特別展示室
 主 催：奈良文化財研究所
 陳列件数（うち指定品数）：313点（0件）
 来館者数：2,658人
 入場料金：一般270円（170円） 大学生130円（60円） 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
 ※（ ）は20名以上の団体

b ボランティア受入れ実績

1 受入人数

平成27年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
989人	173人	210人	110人	352人	144人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計173人

種別 (登録人数)	概要
生涯学習ボランティア (158人)	<p>1) 各種教育普及事業の補助活動の充実を図る</p> <p>【教育普及事業の補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールプログラム「はじめての東博」実施 (通年) ・学校向けワークショップ補助 (通年) ・ファミリー向けワークショップ補助 (通年) ・一般向けワークショップ補助 (通年) ・工程見本展示鑑賞補助 (通年) ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助 (通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施 (通年) ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施 (通年) <p>【館内案内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館 1階エントランス、2階、17室 (通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導 (通年) <p>【資料印刷・作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット「日本美術の流れ」日本語版の印刷 (～11月24日) ・点字パンフレットの印刷 (通年) ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷 (通年) ・たんけんマップの作成・印刷 (通年) <p>【職場体験実施活動補助】</p> <p>受入数：19校 生徒数：63人 (中学、高校合計数)</p> <p>【障がい者対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー対応班の発足 (26人) ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成 (22冊) ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー (隔月1回、6回実施) ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用 (通年) ・触知図を使用した館内案内 (通年) ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助 (通年) <p>【各種連携事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「留学生の日」(10月11日)内プログラム ボランティアによる茶会、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、刀剣・武士の装いツアー、浮世絵ガイド、英語ガイド実施、館内案内 <p>【ボランティアデー開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、各ガイドツアー、お茶会、ワークショップの実施 (12月6・7日) <p>2) 来館者参加型ガイドツアー等の実施374回13,428人 自主企画プログラム (予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹木ツアー 28回794人参加 ・浮世絵ガイド 44回1,772人 ・本館ハイライトツアー 51回2,967人 ・法隆寺宝物館ガイド 26回1,044人 ・考古展示室ガイド 30回1,069人 ・陶磁ガイド 24回716人 ・庭園茶室ツアー 21回422人 ・お茶会 20回360人 ・彫刻ガイド 36回1,139人 ・英語ガイド 28回778人(留学生の日の定点ガイド含む) ・こどもたちのアートスタジオ 9回217人 ・たてもの散歩ツアー 19回731人 ・近代美術ガイド 12回415人 ・東洋館ツアー 15回464人 ・刀剣・武士の装いツアー 7回405人 ・ボランティア活動紹介ツアー 4回135人

種別 (登録人数)	概要
東京芸術大学大学院インターンシップ (15人)	<p>当館研究員と東京芸術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。</p> <p>【ギャラリートーク(研究発表)班] 3名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計18回、603人】 「若沖と鶏」6回、275人 「近代日本彫刻としての佐藤朝山『シャクンタラ姫とドウシャンタ王』」6回、155人 「ひび割れたうつわ」6回、173人</p> <p>【調査研究班] 12名 平成25・26年度の2カ年で活動。今年度は当館所蔵品「突起装飾坏(TJ-5401)」の工程見本の展示、パンフレットの作成、ギャラリートークとスライドトークの教育普及事業を行った。 ギャラリートーク 10回166人 スライドトーク 1回33人</p> <p>※「東京芸術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「2(2)③大学との連携」の事業である。詳細は処理番号2231を参照。</p>

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】 計80回

- ・新規ボランティア研修 3回
- ・基本活動関連研修 39回
- ・バリアフリー班研修 3回
- ・イベント班研修 1回
- ・ワークショップ班研修 4回
- ・スクールプログラム班研修 22回
- ・各種自主企画グループ研修 8回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】(以下の展示等につき実施) 計6回

- ・特別展「栄西と建仁寺」1回
- ・特別展「台北国立故宮博物館院一神品至宝一」1回
- ・特別展「東アジアの華 陶磁名品展」1回
- ・特別展「日本国宝展」1回
- ・特別展「みちのくの仏像」1回
- ・特別展「3.11大津波と文化財再生」、特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」、国宝「檜図屏風」1回

【京都国立博物館】 計210人

種別 (登録人数)	概要
京博ナビゲーター (163人)	9月13日の平成知新館オープンとともに、新規ボランティアである京博ナビゲーターの活動を開始した。京博ナビゲーターの募集・活動開始にあたっては、募集説明会(1日×6回)や基礎講座(1日×8回)を実施した。選考の結果163名が登録され、それぞれ月1回程度来館し、平成知新館内で活動している。「ミュージアム・カート」では来館者と対話しながら、文化財の魅力を発信し、さらに探究したい来館者のためには、館内の情報機器や、参考図書資料の利用案内も行っている。
調査・研究支援ボランティア(16人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(22人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師をつとめた。6月10日(醒泉小学校)、7月9日(朱雀第一小学校)、9月2日(祥豊小学校)、10月7日(烏丸中学校)、10月30日(葵小学校)、11月19日(衣笠小学校)、12月10日(伏見住吉小学校)
京都・らくご博物館学生ボランティア (9人)	年3回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】 計110人

種別 (登録人数)	概要
世界遺産グループ (38人)	<p>【世界遺産学習】(奈良市教育委員会との連携で、奈良市の公立小学校5年生の受け入れ) ・6月~7月、及び10月~12月にかけて (35校) 2,281名</p> <p>【学校団体案内】 ・小学生、中学生、高校生(外国人含む)(18校) 1,045名</p> <p>【ワークショップ】 ・特集展示「和紙-文化財を支える日本の紙-」のワークショップ(1月27日~3月15日) 45日 110名</p> <p>【ボランティア・フェスタ】の実施 ・活動紹介、ワークショップなど 36名</p> <p>【イベントの補助】 ・奈良市消防局協力「夏休み親子で学ぶ 守ろう!知ろう!文化財」受付と補助 1回</p> <p>【掃除】 ・スタッフルーム 3回</p>
解説グループ(43人)	<p>【通年の活動】 ・なら仏像館のデスクでの質問対応と解説 138日 ・青銅器館のデスクでの質問対応と解説 284日 ・西新館名品展のデスクでの質問対応と解説 80日</p> <p>【展示案内】 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の質問対応(12月9日~1月18日) 29日 65名 ・特別陳列「お水取り」質問対応(2月7日~3月15日) 35日 83名 ・特別陳列「お水取り」ミニ・ツアー解説(3月1日~3月14日) 14日 41名</p>

	<p>【その他、予約による解説実施】 28件</p> <p>【ボランティア・フェスタ】の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動紹介、展示解説、ワークショップなど 29名 <p>【掃除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフルーム 3回
サポートグループ (29人)	<p>【教育普及事業の補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座の受付 12回 ・サンデートークの受付 12回 ・親子鑑賞会の受付 1回 ・夏季講座の受付 3回 ・記念講演&座談会「和紙—文化財を支える日本の紙—」 1回 <p>【ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集展示「和紙—文化財を支える日本の紙—」のワークショップ (1月27日～3月15日) 45日 80名 <p>【イベントの補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「オリジナル散華をつくろう」受付と補助 1回 ・古展の日講演会「東大寺献物帳と光明皇后」受付と補助 1回 ・ワークショップ「カブリモノ 変心塾—仏像になってみよう—」受付と補助 1回 ・写真展「大和の仏たち」関連イベント「仏像を撮ってみよう」受付と補助 1回 ・「文化財保存修理所特別公開」受付と補助 1回 ・お水取り「講話」と「粥」の会 受付と補助 1回 ・奈良の冬キャンペーン期間中における奈良国立博物館 (新館) 夜間特別鑑賞 3回 ・奈良国立博物館なら仏像館修理工事現場特別見学会 2回 <p>【館及びボランティア室の業務の補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季講座の配布資料袋詰め作業 1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業 1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付 16回 <p>【ボランティア・フェスタ】の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合受付、活動紹介、ワークショップ、庭園茶室散策など 27名 <p>【掃除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフルーム 3回 ・庭園等 1回 <p>【交流チームの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社寺旧跡の見学会の実施 3回 164名 ・他施設ボランティアとの交流会 3回 <p>【企画チームの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶室庭園ツアーの立案と実施 2回 ・仏教美術資料研究センター見学ツアーの立案と実施 2回 ・総務課来客 (アメックス) の見学ツアー 1回 <p>【通信誌チームの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア通信誌「ぶりっじ」発行 6回

【ボランティアに対する研修の実施】 計16回

- ・名品展研修 8回
- ・特別展、特別陳列、特集展示の研修 8回

【グループ別の勉強会の実施】計32回

- ・世界遺産グループ 8回
- ・解説グループ 14回
- ・サポートグループ 10回

【各グループ共通】

- ・正倉院展講堂ボランティア解説 20日 103回
- ・「ボランティア・フェスタ」の実施 1日 92名

【九州国立博物館】 計 352人

種別 (登録人数)	概要
展示解説ボランティア (86人)	文化交流展示室での案内、及び展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。展示案内は予約団体 (一般・学校)、当日受付 (個人・グループ) に対応。
教育普及ボランティア (37人)	「あじっば」で来館者への対応。参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア (38人)	館内の概要・施設案内 (ガイド) およびバックヤードツアーの案内。館内案内は予約団体 (一般・学生)、及び当日来館者に対応。バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語案内ボランティア (94人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド、バックヤードツアーの案内。
環境ボランティア (33人)	IPM (総合的有害生物管理) 活動に関する支援。
イベントボランティア (6人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。

種 別 (登録人数)	概 要
資料整理ボランティア (25人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎやらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (24人)	ボランティア広報紙の作成や他部会のボランティアの活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (9人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ 31人が障がい者対応として、また博物館周辺の環境整備活動グループとして35人が活動。
(上記35名は、九州国立博物館を愛する会所属のため、ボランティアではない。)

(研修)全体研修 3回、部会別研修 40回、グループ研修 40回

(対応来館者数) 展示解説(8,146人)、館内案内(5,437人)、バックヤードツアー(2,184人)

【奈良文化財研究所】 計144人

種 別 (登録人数)	概 要
解説ボランティア (144人)	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等

平城宮跡資料館夏期企画展の展示研修 1回

” 秋期特別展の展示研修 1回

講演形式専門研修 1回

臨地ガイド研修 1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

平成27年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
277人	93人	47人	2人	9人	35人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	114人	38人		76人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進事業			
	35人	35人			

【東京国立博物館】47人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	何 炎泉	台湾	台北故宮博物院書画処助理研究員	当館シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味」にかかる講演のため	7月3日～7月7日
2	陳 韻如	同上	台北故宮博物院書画処副研究員	同上	7月3日～7月11日
3	何 傳馨	同上	台北故宮博物院副院長	同上	7月4日～7月7日
4	宋 紀蓉	中国	北京故宮博物院副院長	東博・北京故宮博間の情報交換および協力関係の推進のため	8月25日～8月29日
5	史 寧昌	同上	北京故宮博物院文物保存科学技術部主任	同上	同上
6	雷 勇	同上	北京故宮博物院文物保存科学技術部副主任	同上	同上
7	韋 鐘鐘	同上	北京故宮博物院基本建設弁公室副主任	同上	同上
8	王 絲滢	同上	北京故宮博物院故宮博物院公会助理編修	同上	同上
9	金 炫廷	韓国	韓国国立中央博物館学芸員	特別展「東アジアの華 陶磁名品展」にかかる展示作業のため	9月12日～9月18日
10	蘇 生文	中国	中国国家博物館展覧一部研究館員	同上	9月15日～9月19日
11	黄 振春	同上	中国国家博物館副館長	特別展「東アジアの華 陶磁名品展」にかかる開会式出席のため	9月16日～9月20日
12	黄 琛	同上	中国国家博物館社会教育宣伝部主任	同上	同上
13	耿 東升	同上	中国国家博物館芸術品鑑定センター副主任	同上	同上
14	馬 海鵬	同上	中国国家博物館文物価額技術保護部副主任	同上	同上
15	王 石	同上	中国国家博物館外事処副処長	同上	同上
16	杜 衛民	同上	中国国家博物館所蔵品保管一部副研究館員	特別展「東アジアの華 陶磁名品展」にかかる講演のため	9月25日～9月28日
17	具 一会	韓国	韓国国立扶余博物館長	同上	同上
18	サハプム・ブミティテラト	タイ	タイ文化庁芸術局国立博物館事務局長	平成26年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業のため	10月16日～10月22日
19	トッサポー・シーサーマン	同上	バンコク国立博物館長	同上	同上
20	柳 京熙	韓国	韓国国立中央博物館学芸研究室美術部学芸員	日本・韓国間の学術情報交流および研究推進のため	10月30日～11月12日
21	朴 恵元	同上	韓国国立中央博物館教育文化交流団展示課学芸員	同上	同上
22	ジョン・カーベントナー	米国	メトロポリタン美術館	米欧ミュージアム専門家交流事業参加のため	11月7日～11月15日
23	マシュー・ウェルチ	同上	ミネアポリス美術館	同上	同上
24	シネード・ヴィルパー	同上	クリーブランド美術館	同上	同上
25	ロッセラ・メネガッツォ	イタリア	ミラノ大学	同上	11月8日～11月14日
26	ロバート・ミンツ	米国	ウォルターズ美術館	同上	11月8日～11月15日
27	アン・ローズ・キタガワ	同上	ジョーダン・シュニッツラー美術館	同上	同上
28	ユーピン・チュン	英国	グラスゴー博物館	同上	同上
29	ニコル・クーリッジ・ルマニエール	同上	大英博物館	同上	11月8日～11月16日
30	ジャニス・カツ	米国	シカゴ美術館	同上	同上
31	アン・西村・モース	同上	ボストン美術館	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
32	陳 克倫	中国	上海博物館副館長	東博・上海博間の展覧会協力および学術交流の推進のため	11月23日～11月27日
33	金 炫廷	韓国	韓国国立中央博物館学芸員	特別展「東アジアの華 陶磁名品展」にかかる撤収作業のため	11月24日～11月28日
34	劉 亜楠	中国	中国国家博物館所蔵品保管一部館員	同上	同上
35	畢 勝	同上	陝西省文物交流中心副主任	特別展「始皇帝と大兵馬俑展（仮称）」にかかる視察のため	27年2月9日～2月13日
36	張 正	同上	陝西省文物交流中心プロジェクト担当	同上	同上
37	周 瑞	同上	陝西省文物交流中心情報資料中心副主任	同上	同上
38	Ms. Nita Sen Gupta	インド	インド美術館	特別展「インドの仏」にかかる事前調査のため	27年2月11日～2月14日
39	Ms. Shrabanti Sardar	同上	同上	同上	同上
40	Dr Mita Chakraborty	同上	同上	特別展「インドの仏」にかかる作品輸送のため	27年3月6日～3月16日
41	Dr Bhargaviamma Venugopal	同上	同上	特別展「インドの仏」にかかる展示作業のため	27年3月15日～3月19日
42	華 慈祥	中国	上海博物館工芸研究部研究員	東京国立博物館・上海博物館の学術調査、研究および協力関係推進のため	27年3月16日～3月25日
43	ソムチャイ・ナ・ナコンパノム	タイ	文化省芸術局上級専門調査官・タイ考古学者	2017年のタイ展開催にともなう事前調査ほかのため	27年3月21日～3月25日
44	サネー・マハーボン	同上	文化省芸術局博物館部・保存修復課長	同上	同上
45	ウィラヤー・チャムナンボン	同上	文化省芸術局コンピュータ技師専門官	同上	同上
46	ポウォーンウェート・ルンルチャー	同上	文化省芸術局長	同上	同上
47	伊 一梅	中国	北京故宫博物院研究室研究館員	東京国立博物館・北京故宫博物院の学術交流および研究推進のため	27年3月30日～4月4日

【京都国立博物館】 2人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Julia Hutt	イギリス	ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館 学芸員	漆器展示等見学、文献調査	27年1月10日～17日
2	Anne Forray-Carlier	フランス	パリ装飾美術館	国際シンポジウム講演、研究交流、調査、他	27年1月20日～31日

【奈良国立博物館】 延べ 9人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	閔 新民	中国	上海博物館副主任	当館との協定に基づく学術交流	4月14日～4月23日
2	舒 寅	同上	上海博物館エンジニア	同上	4月14日～4月23日
3	華 焦宝	同上	上海博物館副主任	同上	4月14日～4月23日
4	劉 康	同上	河南博物院主任	同上	5月12日～6月10日
5	蘭 恩強	同上	河南博物院辦公室科長	同上	5月12日～6月10日
6	申 大坤	韓国	慶州博物館学芸研究室長	同上	7月28日～8月6日
7	李 榮勳	同上	慶州博物館館長	正倉院展視察並びに当館研究員との意見交換のため	11月4日～11月6日
8	韓 英美	同上	慶州博物館館員	同上	11月4日～11月6日
9	金 庚洙	同上	慶州博物館学芸研究士	当館との協定に基づく学術交流	11月27日～12月24日

【九州国立博物館】 延べ 35人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
1	シリチャイ・ワンチャルントラクン	タイ	タイ文化省芸術局博物館事務局・保存科学専門官	文化財の保存修復に係る協議及び講演	4月13日～19日	他機関負担
2	ラクチャノック・コーチャラノン	同上	博物館推進課長	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月12日～19日	他機関負担
3	サムキット・チャイモコン	同上	博物館研究課 学芸員	同上	6月12日～19日	他機関負担
4	スッパワン・ノンヌット	同上	バンコク国立博物館学芸員	同上	6月12日～19日	他機関負担
5	ソムラック・カムトロン	同上	博物館推進課 学芸員	同上	6月12日～19日	他機関負担
6	パンヤ・スワンヌボン	同上	デザイン部職員	同上	6月12日～19日	他機関負担
7	パッチャリン・スックプラムー	同上	文化財登録課長	同上	6月25日～7月1日	他機関負担

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
8	デンダオ・シンラ パノン	同上	バンコク国立博物館 主任学芸員	同上	6月25日～7月1日	他機関負担
9	ルータイワン・マ ノーサ	同上	王室御座船博物館 学芸員	同上	6月25日～7月1日	他機関負担
10	ユッタナワラコ ーン・セーンアラ ーム	同上	バンコク国立博物館 学芸員	同上	6月25日～7月1日	他機関負担
11	ポッチャサコー ン・スリチャンカ ート	同上	デザイン部職員	同上	6月25日～7月1日	他機関負担
12	チュラット・チ ュアチン	同上	文化財登録課 学芸 員	同上	6月25日～7月1日	他機関負担
13	マーティン・レ ネ・マンダース	オランダ	オランダ政府海事プ ログラム・局長	文化庁委託事業「水中遺跡の保存活用に関する調 査研究」	7月13日～19日	他機関負担
14	ト・ティ・トウ イ・ラム	ベトナム	コミュニケーション 部長兼ボランティア クラブ責任者	文部科学省招聘事業 新世紀国際教育交流プロジ ェクト・行政官等受入事業（第1回）	9月5日～10日	他機関負担
15	グエン・ティ・カ ム・フォン	同上	公教育副部長	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	9月5日～10日	他機関負担
16	チョー・ウーリン	ミヤンマ ー	文化省 考古・国立 博物館・図書館部 長官	同上	12月18日	他機関負担
17	蔡 玫芬	台湾	國立故宮博物院 器 物処・処長	特別展「台北 國立故宮博物院-神品至宝-」開催 記念国際シンポジウム「中国皇帝コレクションの 意味-工芸における復古と革新-」における講演	10月25日	九博負担
18	余 佩瑾	同上	國立故宮博物院 器 物処・副処長	同上	10月25日	九博負担
19	張 麗端	同上	國立故宮博物院 器 物処・科長	同上	10月25日	九博負担
20	金 鍾萬	韓国	国立公州博物館・館 長	特別展記念講演会「七支刀と百済研究の最前線」 講演	27年1月14日～18日	九博負担
21	李 炳鎬	同上	国立中央博物館 研 究企画部・学芸研究 官	同上	27年1月14日～18日	九博負担
22	ユ・ソン	韓国	国立公州博物館 行政主査	同上	27年2月2日～8日	他機関負担
23	ウン・スンウ	同上	国立公州博物館 施設管理・警備	同上	27年2月2日～8日	他機関負担
24	キム・チンギョン	同上	国立公州博物館 学芸員・高句麗瓦専 門	同上	27年2月2日～13日	他機関負担
25	ディビット・ジョ ン・グレゴリー	デンマー ク	デンマーク国立博物 館	同上	27年1月24日～2月5日	他期間負担
26	ディビット・ジョ ン・グレゴリー	デンマー ク	デンマーク国立博物 館	文化庁委託事業「水中遺跡の保存活用に関する調 査研究」	27年1月24日～2月5日	他期間負担
27	ヨーエン・デンカ ー	同上	ヴァイキングシップ 博物館	同上	27年1月24日～2月5日	他機関負担
28	メノー・フィツキ ー	オランダ	アムステルダム国立 美術館 東アジア美 術部門・学芸員	国際シンポジウム「世界のアリタ-有田焼の伝統と 未来へ続く創造性-」講演のため	27年3月7日～8日	県負担
29	黄 栄光	中国	中国科学院自然科学 史研究所	中国古代青銅器の製作技法に関する調査研究の報 告書打合せ、文化財デジタルアーカイブに係る指 導・助言	27年3月7日～9日	九博負担
30	ポウオーンウェ ート・ルンルチー	タイ	文化省芸術局長	文部科学省招聘事業 新世紀国際教育交流プロジ ェクト・行政官等受入事業（第2回）	27年3月21日～25日	他機関負担
31	ソムチャイ・ナ ナコンパノム	同上	文化省芸術局・上級 専門調査官 考古学 専門	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	27年3月21日～25日	九博・東博負 担
32	サネー・マハーポ ン	同上	文化省芸術局・博物 館部・保存修復課長	同上	27年3月21日～25日	九博・東博負 担
33	ウィラヤー・ チャムナンボン	同上	コンピュータ技師専 門官兼局長秘書	同上	27年3月21日～25日	九博・東博負 担
34	ウィバラット・ブ ラディットアチ ーブ	同上	文化省芸術局・研究 員	同上	27年3月21日～25日	九博負担
35	パッタラ・サムラ ンスック	同上	文化省芸術局・デザ イナー	同上	27年3月21日～25日	九博負担

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。

※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ 38人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Bernhard Schachenhofer	オーストリア	ドイツ・サーモリグナムインター ナショナル ディレクター	日光二社一寺、日光社寺文化財保存会・日光にお ける現地視察と研究打合せ、東京文化財研究所で の打合せ	5月25日～5月30日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
2	Nikolaus Wilke	ドイツ	ドイツ・サーモリグナムインターナショナル コンサーベーター	日光二社一寺、日光社寺文化財保存会・日光における現地視察と研究打合せ、東京文化財研究所での打合せ	5月25日～5月29日
3	Jinya Mizuno	イギリス	サーモリグナム・UK オペレーションマネージャー	日光二社一寺、日光社寺文化財保存会・日光における現地視察と研究打合せ、東京文化財研究所での打合せ	5月25日～5月29日
4	Aidai Sulaimanova	キルギス	キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所 研究員	第7回ワークショップ 史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ参加	7月2日～7月15日
5	Dmitrii Luzhanskii	キルギス	キルギス・ロシア・スラブ大学博物館 考古学者	第7回ワークショップ 史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ参加	7月2日～7月15日
6	Altnai Karimzhan Kyzy	キルギス	キルギス共和国文化情報観光省 専門家	第7回ワークショップ 史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ参加	7月2日～7月15日
7		アフガニスタン		第7回ワークショップ 史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ	7月2日～7月15日
8		アフガニスタン		第7回ワークショップ 史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ	7月2日～7月15日
9		アフガニスタン		第7回ワークショップ 史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ	7月2日～7月15日
10	Daw Aye Phyu Pyar Nyo	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局 技官	歴史的建造物保存に関する研修	8月21日～8月30日
11	Thet Zaw	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局 技官	歴史的建造物保存に関する研修	8月21日～8月30日
12	Thura Bo	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局 技官	歴史的建造物保存に関する研修	8月21日～8月30日
13	Nathamon Yudee	タイ	文化省 保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
14	Hilda Perez De Penamil Rodriguez	キューバ	ハバナ歴史事務所 書物修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
15	Ludivine Emilie, Liliane, Odette LEROY-BANTI	フランス	国立公文書館科学部保存修復部門修復研究所 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
16	Pia Irene Hansen	デンマーク	オデンセ市立美術館 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
17	Ting-fu Fan	台湾	三間アートコンサベーション株式会社保存修復部 主任保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
18	Emily Jane Ramos	アメリカ	カルフォルニア大学バークレー校図書館保管部 図書館保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
19	Louise Jane Wilson	オーストラリア	ヴィクトリア国立美術館保存修復部 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
20	Jennifer Gjeneve Cauchi	ニュージーランド	ニュージーランド国立博物館 テ・パバ・トンガレワ保存修復部 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
21	Elizabeth Hepher	イギリス	スコットランド古代歴史遺跡王立委員会コレクション部 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
22	Miloš Jelenić	セルビア	ベオグラード保存修復中央研究所 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2014	8月24日～9月13日
23	Mehrdad Hejazi	イラン	イスファハン大学工学部土木工学科准教授	文化遺産国際協力拠点交流事業立案のための情報交換、技術協力内容の検討	8月27日～9月5日
24	Dmitriy Voyakin	カザフスタン	NGO考古学エキスパートイズ	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム講演	9月23日～9月30日
25	Wang Xiaofei	中国	トルファン地区文物局局長	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム講演	9月25日～10月1日
26	Alejandra Odor Chavezt	メキシコ	メキシコ国立公文書館 修復部門責任者	近代文化遺産の保存修復に関する研究会	11月15日～11月22日
27	Anne Frances Maheux	カナダ	カナダ国立図書館公文書館 紙・地図及び原稿類修復部門責任者	近代文化遺産の保存修復に関する研究会	11月15日～11月22日
28	Thomas J.K. Strang	カナダ	カナダ保存研究所 上級保存科学者	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての共同研究と打合せ	11月15日～11月21日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
29	Alfred Gottwaldt	ドイツ	ドイツ技術博物館 鉄道部門上級学芸員	鉄道遺産の保存に関する講演及び意見交換	11月4日～11月10日
30	張 文元	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	中国壁画の保護に関する日中共同研究	11月24日～12月13日
31	Joeli Veitayaki	フィジー	南太平洋大学 講師・研究者	文化遺産と持続的発展に関するワークショップ	12月14日～12月22日
32	Semi Salauca Masilomani	フィジー	南太平洋大学 地域調整役	文化遺産と持続的発展に関するワークショップ	12月14日～12月22日
33	John Laglelei Kaitu'u	フィジー	南太平洋大学 大学院生	文化遺産と持続的発展に関するワークショップ	12月14日～12月22日
34	Zar Chi Min	ミャンマー	マンダレー工科大学建築学科 准教授	ミャンマーの伝統的建造物に関する研究会	27年2月11日～2月17日
35	Raymond Myo Myint Sein	アメリカ	建築家(元ラングーン工科大学教授)	ミャンマーの伝統的建造物に関する研究会	27年2月11日～2月18日
36	Jeniffer Arlett Ponce Fernandez	メキシコ	メキシコ国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復機構 保存修復技術者	国際研修「ラテンアメリカにおける紙文化財保存修復国際研修」の準備への協力	27年3月2日～6月30日
37	Ye Win	ミャンマー	ミャンマー文化省国立博物館考古学局 修復士	日本の壁画修復の研修、技術移転	27年3月9日～3月13日
38	Chaw Su Su Hlaing	ミャンマー	ミャンマー文化省国立博物館考古学局 研究技術者	日本の壁画修復の研修、技術移転	27年3月9日～3月13日

【奈良文化財研究所】延べ76人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Benjawan Narasaj	タイ	コンケン大学	コミュニティ考古学についての意見交換	4月8日
2	黄建秋	中華人民共和国	南京大学 歴史系教授	共同研究(科研費)	4月11日～15日
3	全洪	中華人民共和国	南越王宮博物館 館長	共同研究(科研費)	4月11日～15日
4	夏晶	中華人民共和国	儀征市博物館 副館長	共同研究(科研費)	4月11日～15日
5	Enny Prihantini 他4名	インドネシア	ジャカルタ首都特別区文化財保存センター所長	ジャカルタ特別区文化財センター視察	5月14日
6	Dumrong Thongsom 他17名	タイ	タイ文化省	代表団の表敬訪問	5月16日
7	崔文禎他3名	大韓民国	韓国国立文化財文化財研究所	「古代宮園復元研究」のための試料調査	6月24日～6月26日
8	姜泰一他3名	大韓民国	韓国伝統文化大学校	視察	6月25日
9	李恩碩	大韓民国	文化財庁発掘制度課 学芸研究官	大韓民国国立文化財研究所との共同研究	7月3日～7月8日
10	アイダイ・スレイマノヴァ	キルギス	国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所	文化庁拠点交流事業による招聘研修	7月8日
11	ディミトリ・ルジャンスキー	キルギス	ロシア・スラブ大学博物館	文化庁拠点交流事業による招聘研修	7月8日
12	チナルベク・ジョルドシヨフ	キルギス	文化情報観光省	文化庁拠点交流事業による招聘研修	7月8日
13		アフガニスタン		文化庁拠点交流事業による招聘研修	7月8日
14		アフガニスタン		文化庁拠点交流事業による招聘研修	7月8日
15		アフガニスタン		文化庁拠点交流事業による招聘研修	7月8日
16	Danijela Trajkova-Krstic	マケドニア	Museum of the Macedonian Struggle ・学芸員	地震考古学に関する情報収集	7月9日
17	Othman Tawfeeq	イラク	スレマニア博物館・副館長	視察	7月18日
18	Richard Matanik Lore・	バヌアツ	バヌアツ共和国文化センター レレマ世界遺産委員会	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修(個人研修)への協力	7月31日～8月31日
19	Richard Japuneyo Shing	バヌアツ	バヌアツ共和国文化センター 国家登録局	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修(個人研修)への協力	7月31日～8月31日
20	Feng Wang	中華人民共和国	南京林業大学材料科学・工程学院・大学院修士課程	共同研究のため	8月4日～9月6日
21	丁焱	中華人民共和国	天津大学建築歴史与理論研究所・副所長	古代建築および文化財保護・修理に関する情報交換	8月15日～8月30日
22	張早	中華人民共和国	天津大学建築学院・予備教師	古代建築および文化財保護・修理に関する情報交換	8月15日～8月30日
23	耿昀	中華人民共和国	天津大学建築学院・博士生	古代建築および文化財保護・修理に関する情報交換	8月15日～8月30日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
24	李晴	中華人民共和国	天津大学建築学院・建築師	古代建築および文化財保護・修理に関する情報交換	8月15日～8月30日
25	王喆	中華人民共和国	天津大学建築学院・建築師	古代建築および文化財保護・修理に関する情報交換	8月15日～8月30日
26	John Ertl	アメリカ	金沢大学所属	文化財担当者研修制度に関する聞き取り調査	8月25日
27	宋紀蓉	中華人民共和国	故宮博物院・副院長	文化財保護技術の交流	8月28日
28	史寧昌	中華人民共和国	故宮博物院・文化財保護技術部・部長	文化財保護技術の交流	8月28日
29	雷勇	中華人民共和国	故宮博物院 文化財保護技術部・副部長	文化財保護技術の交流	8月28日
30	韦鐘鐘	中華人民共和国	故宮博物院基本建設弁公室 副主任	文化財保護技術の交流	8月28日
31	王丝滢	中華人民共和国	故宮博物院 外事処	文化財保護技術の交流	8月28日
32	Corinna Ludovica	デンマーク	デンマーク工科大学・大学院生	保存科学に関する研修	9月1日～12月1日
33	Jayed Md	バングラディッシュ	考古局	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
34	Tenzin Wangchuk	ブータン	文化省文化遺産保護部 考古局	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
35	Hour Sothorn	カンボジア	APSARA局	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
36	Katawai Sakiusa Rocky Nadakuitavuki	フィジー	フィジー博物館	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
37	Altynbekova Dana	カザフスタン	オストロフ・クリム有限会社 修復科学研究所	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
38	Akmatov Kunbolot Toktosunovich	キルギス	キルギス共和国 国家歴史博物館	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
39	Sivorravong Souksavanh Souk	ラオス	情報・文化・観光局 文化管理課	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
40	Ashraf Ismail	モルディブ	青年スポーツ省遺産局 国立博物館	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
41	Tserendorj Tsolmon	モンゴル	文化・スポーツ・観光省 文化遺産センター	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
42	Myo Sandar Oo	ミャンマー	文化省考古博物館局	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
43	Arshad Ullah	パキスタン	考古博物館局	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
44	Meyar Egan	パラオ	コロール州政府 保護・法務行局	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
45	Priyadarshani Weerakoon Mudiyansele Nirupa	スリランカ	国会遺産省考古局 北中部地域事務所	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
46	Abdulloev Umar	タジキスタン	文化省 ヒッサール歴史文化保護局	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
47	Srisomboon Puangporn	タイ	文化省芸術局 保存科学課	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
48	Kinh Dang Ngoc	ベトナム	南部社会科学研究所 考古学研究センター	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	9月2日～10月3日
49	金東烈	大韓民国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	韓国国立文化財研究所との共同研究	9月16日～11月7日
50	アレン・グリーンバーグ 他2名	アメリカ	在大阪・神戸アメリカ合衆国総領事	視察	9月17日
51	Magale Mauiliu Magele	サモア	サモア教育大臣	文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	10月2日～10月10日
52	賈連敏	中華人民共和国	河南省文物考古研究院・院長	共同研究	10月27日～10月31日
53	曹艶朋	中華人民共和国	河南省文物局・調研員	共同研究	10月27日～10月31日
54	朱樹政	中華人民共和国中国	河南省財政庁教科文処・副所長	共同研究	10月27日～10月31日
55	楊振威	中華人民共和国	河南省文物考古研究院・館員	共同研究	10月27日～10月31日
56	梁兆奎	中華人民共和国	河南省文物考古研究院・館員	共同研究	10月27日～10月31日
57	Kinley Gyeltshen	ブータン	内務文化省文化局遺産保存課・技監	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	11月11日～12月4日
58	Leki Wangchuk	ブータン	内務文化省文化局遺産保存課・上級保存技師	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	11月11日～12月4日
59	Phuntsho Wangmo	ブータン	内務文化省文化局遺産保存課・技師	ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が実施する研修 (個人研修) への協力	11月11日～12月4日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
60	Bui Min Tri	ベトナム	ベトナム都城研究センター・准教授	意見交換	11月24日～11月29日
61	Le Dinh Ngoc	ベトナム	ベトナム都城研究センター・研究員	意見交換	11月24日～11月29日
62	呉炎亮	中華人民共和国	遼寧省文物考古研究所・研究員	講演会・共同研究の打合せ	12月16日～12月19日
63	李 霞	中華人民共和国	遼寧省文物考古研究所・館員	講演会・共同研究の打合せ	12月16日～12月19日
64	高振海	中華人民共和国	遼寧省文物考古研究所・館員	講演会・共同研究の打合せ	12月16日～12月19日
65	肖俊涛	中華人民共和国	遼寧省文物考古研究所・館員	講演会・共同研究の打合せ	12月16日～12月19日
66	Ohn Mar	ミャンマー	ミャンマー連邦共和国 文化省 考古博物館部	ミャンマー文化省との拠点交流事業：文化財写真ワークショップ	27年1月18日～1月26日
67	Zaw Min Aung	ミャンマー	ミャンマー連邦共和国 文化省 考古フィールドスクール (ピイ)	ミャンマー文化省との拠点交流事業：文化財写真ワークショップ	27年1月18日～1月26日
68	Man Thit Nyein	ミャンマー	ミャンマー連邦共和国 文化省 考古フィールドスクール (ピイ)	ミャンマー文化省との拠点交流事業：文化財写真ワークショップ	27年1月18日～1月26日
69	バージ・マジョーリー	アメリカ	カルフォルニア大学パークレイ校・大学院博士課程	日韓交流の研究	2月27日
70	I Made Geria 他1名	インドネシア	インドネシア国立考古学研究所・所長	視察 (JICA 依頼)	3月6日
71	張誠允	大韓民国	国立文化財研究所・学芸研究士	保存科学分野における調査研究のための視察	3月12日
72	Carol Westrick	オランダ	ユネスコ世界遺産センター職員	文化的景観に関する調査研究	3月13日
73	罗蓓 (Luo Bei)	中華人民共和国	西南林業大学材料工程学院・講師	共同研究 (科研費)	27年3月14日～3月24日
74	Mand Vally	カンボジア	王立芸術大学卒業生	カンボジア文化遺産復興支援事業における招へい研修	3月22日～3月28日
75	Kheng Sokleng	カンボジア	王立芸術大学卒業生	カンボジア文化遺産復興支援事業における招へい研修	3月22日～3月28日
76	Tim Thida	カンボジア	王立芸術大学卒業生	カンボジア文化遺産復興支援事業における招へい研修	3月22日～3月28日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ35人

※用務先が海外である場合を含む。また国内研究者を海外に派遣したものの延べ9名を含む (用務欄に用務先を記載)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Harriet Deacon	イギリス	Archive Platform Correspondant	「コミュニティ主導の無形文化遺産記録とその活用に関するレポートの出版」専門家との会合出席 文化庁受託	26年4月20日
2	Metje Postma	オランダ	Leiden University, Lecturer	「コミュニティ主導の無形文化遺産記録とその活用に関するレポートの出版」専門家との会合出席 文化庁受託	26年4月20日
3	千葉 茂恵	インド共和国	ユネスコデリー事務所プログラムスペシャリスト	工芸技術の継承に係る実態調査に関するスリランカ政府との打合せ 文部科学省補助金	26年9月16日～9月20日
4	Ritu Sethi	インド共和国	Craft Revival Trust Chairperson	工芸技術の継承に係る実態調査に関するスリランカ政府との打合せ 文部科学省補助金	26年9月16日～9月20日
5	Timothy Curtis	タイ王国	ユネスコバンコク事務所文化ユニット・チーフ	「第三回IRCI運営理事会」出席 文化庁受託	26年9月30日～10月2日 (10月1日開催)
6	Ling Zhang	中華人民共和国	文化部対外文化連絡局国際処長	「第三回IRCI運営理事会」出席 文化庁受託	26年9月30日～10月2日 (10月1日開催)
7	Eunseon Jeong	大韓民国	文化財庁国際協力課プログラムスペシャリスト	「第三回IRCI運営理事会」出席 文化庁受託	26年9月30日～10月2日 (10月1日開催)
8	Chi Ben Nguyen	ベトナム社会主義共和国	Vietnam Institute of Culture and Arts Studies, Director	「ベトナムの危機に瀕する無形文化遺産保護 (バクニン省のドンホー木版画を事例として)」の本年度のワークショップの開催内容についての詳細打ち合わせ 文部科学省補助金	26年11月3日～11月7日
9	Hoai Son Bui	ベトナム社会主義共和国	Vietnam Institute of Culture and Arts Studies, 副所長	「Study of legal systems related to ICH in southeast Asia」第1回ワークショップ参加 文部科学省補助金	26年12月17日～21日 (12月19日開催)
10	Sypha Chanthavong	ラオス人民民主共和国	National University of Laos, Lecturer	「Study of legal systems related to ICH in southeast Asia」第1回ワークショップ参加 文部科学省補助金	26年12月17日～21日 (12月19日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
11	Irene Gonçalves dos Reis	東ティモール民主共和国	観光省文化遺産部研究広報課長	「Study of legal systems related to ICH in southeast Asia」第1回ワークショップ参加 文部科学省補助金	26年12月17日～22日 (12月19日開催)
12	Van Anh Thi Lai	ベトナム社会主義共和国	Division of International Law Dept, Ministry of Justice, Deputy Chief	「Study of legal systems related to ICH in southeast Asia」第1回ワークショップ参加 文部科学省補助金	26年12月17日～21日 (12月19日開催)
13	Kyaw Oo Lwin	ミャンマー連邦共和国	Department of Archaeology, National Museum and Library, Ministry of Culture, Director General	「Study of legal systems related to ICH in southeast Asia」第1回ワークショップ参加 文部科学省補助金	26年12月16日～23日 (12月19日開催)
14	Ade Meretui Tuvou Raturabuabua	フィジー	Pacific Heritage Hub Manager, University of the South Pacific, Fiji	「International Experts Meeting of the Project “Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”」参加 文化庁受託	27年1月24日～29日 (1月26-27日開催)
15	Gulnara Aitpaeva	キルギス	Director, Aigine Cultural Research Centre	「International Experts Meeting of the Project “Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”」参加 文化庁受託	27年1月24日～28日 (1月26-27日開催)
16	Sang Mee Bak	大韓民国	Professor, Division of International Studies, Hankuk University of Foreign Studies	「International Experts Meeting of the Project “Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”」参加	27年1月25日～28日 (1月26-27日開催)
17	愛川紀子	日本	文化庁無形文化遺産アドバイザー	「International Experts Meeting of the Project “Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”」参加 文化庁受託	27年1月25日～29日 (1月26-27日開催)
18	Thi Hien Nguyen	ベトナム社会主義共和国	Center for Cultural Heritage Data, Vietnam Institute of Arts and Studies, Director	「International Experts Meeting of the Project “Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”」参加 文化庁受託	27年1月25日～28日 (1月26-27日開催)
19	Janet Blake	イラン	Assistant Professor of International Law, University of Shahid Beheshti, Meydan Danashgah, Evin, Tehran	「International Experts Meeting of the Project “Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”」参加 文化庁受託	27年1月25日～28日 (1月26-27日開催)
20	飯田卓	日本	国立民族学博物館准教授	「International Experts Meeting of the Project “Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”」参加 文化庁受託	27年1月27日～28日 (1月26-27日開催)
21	Molly Kaushal	インド	Professor, Janapada Sdampada Division Indira Gandhi National Centre for the Arts	「International Experts Meeting of the Project “Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”」参加 文化庁受託	27年1月24日～28日 (1月26-27日開催)
22	五十嵐祐介	日本	男鹿市教育委員会生涯学習課主任	「Workshop on the Roles of the Community Centre in ICH revitalization: a case study of Dong Ho Woodblock printing」参加 文部科学省補助金	27年1月25日～30日 (1月27日-28日開催)
23	岡本健	日本	岡本健事務所代表取締役	「Workshop on the Roles of the Community Centre in ICH revitalization: a case study of Dong Ho Woodblock printing」参加 文部科学省補助金	27年1月25日～30日 (1月27日-28日開催)
24	中山周	日本	アダチ伝統木版画技術保存財団理事	「Workshop on the Roles of the Community Centre in ICH revitalization: a case study of Dong Ho Woodblock printing」参加 文部科学省補助金	27年1月26日～30日 (1月27日-28日開催)
25	原嶋亮輔	日本	Root design office	「Workshop on the Roles of the Community Centre in ICH revitalization: a case study of Dong Ho Woodblock printing」参加 文部科学省補助金	27年1月26日～30日 (1月27日-28日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
26	並木誠士	日本	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授	「Workshop on the Roles of the Community Centre in ICH revitalization: a case study of Dong Ho Woodblock printing」参加 文部科学省補助金	27年1月27日～30日 (1月27日-28日開催)
27	Steven Van Uytsel	日本	九州大学大学院法学研究院准教授	「Workshop on the Roles of the Community Centre in ICH revitalization: a case study of Dong Ho Woodblock printing」参加 文部科学省補助金	27年1月25日～30日 (1月27日-28日開催)
28	Celestino da Silva Mendes Sarmento	東ティモール民主共和国	State Secretariat for Art and Culture, Head of Culture, Manufahi District, Timor-Leste	コミュニティ主導の保護活動のためのICHドキュメンテーションについての集中ワーキングセッション	27年3月14日～19日 (3月16日-18日開催)
29	Francisco Abelda da Silva	東ティモール民主共和国	Technical Staff, State Secretariat of Arts and Culture, Directorate-general of Arts and Culture	コミュニティ主導の保護活動のためのICHドキュメンテーションについての集中ワーキングセッション	27年3月14日～19日 (3月16日-18日開催)
30	Nuno Vasco Oliveira	東ティモール民主共和国	Adviser to Cultural Heritage Policies and Management Secretaria de Estado da Arte e Cultura, Avenida de Portugal	コミュニティ主導の保護活動のためのICHドキュメンテーションについての集中ワーキングセッション	27年3月14日～17日 (3月16日-18日開催)
31	Buddhi Keerthisena	スリランカ	Chairman, National Crafts Council	コミュニティ主導の保護活動のためのICHドキュメンテーションについての集中ワーキングセッション	27年3月14日～20日 (3月16日-18日開催)
32	Himali Jinadasa	スリランカ	Chairperson, National Enterprise Development Authority (NEDA), Advisor to the Hon. Minister, Ministry of Industry and Commerce	コミュニティ主導の保護活動のためのICHドキュメンテーションについての集中ワーキングセッション	27年3月14日～19日 (3月16日-18日開催)
33	Wettasinghe Appuhamilage Sandya Dilrukshi	スリランカ	Artisan, Eastern Province, Sri Lanka	コミュニティ主導の保護活動のためのICHドキュメンテーションについての集中ワーキングセッション	27年3月14日～19日 (3月16日-18日開催)
34	Subramaniyam Selvi	スリランカ	Artisan, Northern Province, Sri Lanka	コミュニティ主導の保護活動のためのICHドキュメンテーションについての集中ワーキングセッション	27年3月14日～19日 (3月16日-18日開催)
35	Steven Van Uytsel	日本	九州大学大学院法学研究院准教授	シンガポールの無形文化遺産保護に係る情報収集・ワークショップ参加 文化庁受託経費	27年3月24日～28日

【文化財防災ネットワーク推進事業】35人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Giovanni BOCCARDI	Italy	UNESCO Chief, Emergency Preparedness and Response, Culture Sector	第3回国連防災世界会議の枠組みにおける国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」参加のため	27年3月11日～3月17日
2	Stefano De Caro	Italy	ICCROM Director	同上	27年3月11日～3月17日
3	Terry CANNON	UK	Institute of Development Studies Senior Research Fellow	同上	27年3月11日～3月17日
4	Yasmeen LARI	Pakistan	Heritage Foundation of Pakistan CEO	同上	27年3月11日～3月17日
5	Timothy CURTIS	Australia	UNESCO Bangkok	同上	27年3月11日～3月17日
6	Christopher MARRION	USA	Marrion Fire & Risk Consulting CEO	同上	27年3月11日～3月17日
7	Webber NDORO	Zimbabwe	African World Heritage Fund Director	同上	27年3月11日～3月17日
8	Randolph LANGENBACH	USA	1. Conservationtech Consulting CEO 2. Federal Emergency Management Agency (FEMA) Professor Emeritus . Senior Analyst	同上	27年3月11日～3月17日
9	Jeremy BARNS	Philippines	National Museum of the Philippines Director	同上	27年3月11日～3月17日
10	Alissandra CUMMINS	Barbados	Barbados Museum & Historical Society Director	同上	27年3月11日～3月17日
11	Paula HOLLAND	Australia	Secretariat of the Pacific Community (SPC) Manager/Acting Deputy Director	同上	27年3月11日～3月17日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
12	Erika Hedhammar	Sweden	Swedish National Heritage Board Advisor, Conservator	同上	27年3月11日～3月17日
13	Diane Douglas	UK	ICOMOS ICORP	同上	27年3月11日～3月17日
14	Gabriele WEICHART	Austria	University of Vienna Senior Lecturer	同上	27年3月11日～3月17日
15	France DESMARAIS	Canada	ICOM Director, Programmes and Partnerships	同上	27年3月11日～3月17日
16	Nagtsho Dorji	Bhutan	Ministry of Home and Cultural Affairs Director, Heritage Conservation Division, Department of Culture	同上	27年3月11日～3月17日
17	Aparna TANDON	India	ICCROM Project Specialist, Collection Unit	同上	27年3月11日～3月17日
18	Akatsuki TAKAHASHI	Japan	UNESCO APiA Programme Specialist for Culture	同上	27年3月11日～3月17日
19	Scott BRANTING	USA	American Schools of Oriental Research (ASOR) Director of Geospatial Initiatives	同上	27年3月11日～3月17日
20	Xavier ROMAO	Portugal	University of Porto Assistant Professor	同上	27年3月11日～3月17日
21	Corine WEGENER	USA	Smithsonian Institution Cultural Heritage Preservation Officer	同上	27年3月11日～3月17日
22	Peter STONE	UK	Newcastle University Head of School	同上	27年3月11日～3月17日
23	Fredrik ROSEN	Denmark	The Danish Institute for International Studies (DIIS) Senior Researcher	同上	27年3月11日～3月17日
24	Akiko UMEZU	Japan	ICCROM Project Manager, Site Unit	同上	27年3月11日～3月17日
25	Shen-Wen CHIEN	Taiwan	National Science and Technology Center for Disaster Reduction Deputy Division Manager	同上	27年3月11日～3月17日
26	M. R. Rujaya ABHAKORN	Thailand	SEAMEO SPAFA Director	同上	27年3月11日～3月17日
27	Robyn RIDDETT	Australia	ICOMOS ICORP Treasurer	同上	27年3月11日～3月17日
28	Joseph KING	USA	ICCROM Unit Director, Site Unit	同上	27年3月11日～3月17日
29	Rohit JIGYASU	India	Ritsumeikan University Professor	同上	27年3月11日～3月17日
30	Henry Tzu NG	USA	World Monuments Fund Exective Vice President	同上	27年3月11日～3月17日
31	Michael TURNER	Israel	BEZALEL Academy of Arts and Design Jerusalem Professor	同上	27年3月11日～3月17日
32	Xiaofan DU	China	Fudan University Professor	同上	27年3月11日～3月17日
33	Julio VARGAS-NEUMANN	Peru	Catholic University of Peru Professor/President's Advisor	同上	27年3月11日～3月17日
34	Galina Angarova	USA	Tebtebba	同上	27年3月11日～3月17日
35	Pierpaolo Campostrini	USA	CORILA Managing Director	同上	27年3月11日～3月17日

2) 他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

平成27年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
124人	69人	37人	11人	13人	8人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	55人	24人		31人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0人			

【東京国立博物館】延べ 37人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	法政大学	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信	ヨーゼフ・クライナー	副館長 島谷弘幸
2	金沢美術工芸大学	日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究	美術工芸学部 山崎剛	学芸企画部長 伊藤嘉章
3	九州国立博物館	タイにおける異文化の受容と変容—13世紀から18世紀の対外交物品を中心として—	原田あゆみ	企画課長 小泉恵英
4	東京藝術大学	日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開	大学院助教 宮永美知代	企画課デザイン室長 木下史青
5	筑波大学	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究	守屋正彦	企画課出版企画室長 勝木言一郎
6	大阪大学	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	藤岡穰	博物館教育課教育講座室長 浅湊毅
7	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山洋	博物館教育課教育講座室長 浅湊毅
8	東京国立近代美術館	美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発	一條彰子	博物館教育課ボランティア室主任 研究員 藤田千織
9	東京藝術大学	文化財管理における美術品用語辞典の作成	河内晋平	博物館情報課情報管理室長 村田良二
10	島根大学	山陰地方における既掘考古資料の再検討と歴史文化遺産の持続的活用（法文学部山陰研究プロジェクト）	文学部准教授 岩本崇	列品管理課主任研究員 古谷毅
11	鹿児島大学	X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的研究	総合研究博物館 准教授 橋本達也	列品管理課主任研究員 古谷毅
12	宮崎県立西都原考古博物館	西都原古墳群基礎調査における東京国立博物館との共同調査	学芸普及担当リーダー 副主任 幹 東憲章	列品管理課主任研究員 古谷毅
13	奈良県立橿原考古学研究所	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究	水野敏典	列品管理課主任研究員 古谷毅
14	国立歴史民族博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	上野祥史	列品管理課主任研究員 古谷毅
15	九州国立博物館	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発 —興福寺 国宝阿修羅像を中心に—	博物館科学課長 今津節生	列品管理課平常展調整室長 丸山士郎
16	成城大学	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	岩佐光晴	列品管理課平常展調整室長 丸山士郎
17	九州国立博物館	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究	学芸研究部長 谷豊信	列品管理課平常展調整室主任研究員 川村佳男
18	京都大学人文科学研究所	中国典籍日本古写本の研究	高田時雄	調査研究課長 田良島哲
19	東京大学東洋文化研究所	共同研究 関野貞・竹島卓一による中国史跡調査写真に関する史料学的研究	（受入研究者）平勢陸郎	調査研究課長 田良島哲
20	実践女子大学	描いた女性たちに関する研究—桃山時代から明治・大正期まで	仲町 啓子	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀
21	実践女子大学	描いた女性たちに関する研究 — 桃山時代から明治・大正期まで —	仲町啓子	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 山下善也
22	国立歴史民俗博物館	展示型共同研究「学際的研究による漆文化史の新構築」	教授 日高薫	調査研究課工芸室長 竹内奈美子
23	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究	今尾文昭	調査研究課考古室主任研究員 品川欣也
24	大阪歴史博物館	大阪歴史博物館所蔵「高島多米治と下郷コレクションについて（岩手県瀬沢貝塚出土資料）の目録など作成に伴う調査」のため	加藤俊吾	調査研究課考古室主任研究員 品川欣也
25	東京国立博物館	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	客員研究員 澤田むつ代	調査研究課工芸室 三田覚之
26	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	井手誠之輔	調査研究課東洋室 塚本磨充
27	九州国立博物館	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発 —興福寺 国宝阿修羅像を中心に—	博物館科学課長 今津節生	保存修復課長 神庭信幸
28	国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授 園田直子	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、保存修復課環境保存室長 和田浩
29	成城大学	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	岩佐光晴	保存修復課環境保存室長 和田浩
30	森林総合研究所	木彫像の樹種識別技術の高度化	安部久	保存修復課環境保存室長 和田浩
31	筑波大学	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究	松井敏也	保存修復課環境保存室長 和田浩
32	大正大学	仁寿舍利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究	加島勝	保存修復課環境保存室長 和田浩

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
33	九州国立博物館	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発—興福寺 国宝阿修羅像を中心に—	博物館科学課長 今津節生	保存修復課環境保存室長 和田浩
34	大阪大学	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	藤岡 穰	学芸研究部 浅見龍介
35	木更津市郷土博物館 金のすず、国立歴史民俗博物館	金鈴塚古墳研究(繊維等の織物資料担当)	稲葉昭智、上野祥史	客員研究員 澤田むつ代
36	上智大学	古代イスラエルの墓制と世界観に関する総合的研究	月本昭男	企画課特別展室アソシエイトフェロー 小野塚拓造
37	島根大学	山陰地方における既掘考古資料の再検討と歴史文化遺産の持続的活用(法文学部山陰研究プロジェクト)	文学部准教授 岩本崇	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 河野正訓

【京都国立博物館】延べ11人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大正大学	仁寿舍利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究	教授 加島勝	副館長 松本伸之
2	北海道大学	漢字文化圏における典籍の集積、国際伝播及びその伝承に関する実証的研究	名誉教授 石塚晴通	学芸部上席研究員 赤尾栄慶
3	成城大学	金剛寺所蔵典籍の集約的調査と研究—聖教の形成と伝播把握を基軸として	元教授 後藤昭雄	学芸部上席研究員 赤尾栄慶
4	法政大学	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信	客席所員 クライナー・ヨーゼフ	学芸部上席研究員 赤尾栄慶
5	大阪大谷大学	多面的把握に基づく新義真言宗系聖教の解明と公開促進を果たす研究	教授 宇都宮啓吾	学芸部上席研究員 赤尾栄慶
6	成城大学	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	教授 岩佐光晴	学芸部列品管理室長 浅見龍介
7	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究—図的典拠と分担製作の視点から—	学芸企画部博物館教育課教育講座室長 浅瀨 毅	学芸部列品管理室長 浅見龍介
8	九州国立博物館	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発—興福寺 国宝阿修羅像を中心に—	学芸部博物館科学課長 今津節生	学芸部列品管理室長 浅見龍介
9	大阪大谷大学	多面的把握に基づく新義真言宗系聖教の解明と公開促進を果たす研究	教授 宇都宮啓吾	学芸部列品管理室主任研究員 羽田聡
10	国際日本文化研究センター	海賊史観から交易を検討する：国際法と密貿易—海賊商品流通の学術的・文明的的研究	教授 稲賀繁美	学芸部列品管理室研究員 呉孟晋
11	九州国立博物館	タイにおける異文化の受容と変容—13世紀から18世紀の対外交易品を中心として—	学芸部文化財課主任研究員 原田あゆみ	学芸部企画室研究員 末兼俊彦

【奈良国立博物館】延べ13人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授 井手誠之輔	学芸部保存修理指導室長 谷口 耕生
2	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授 井手誠之輔	学芸部美術室研究員 北澤 菜月
3	福山市立大学	「ESD」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造	教授 田淵五十生	学芸部情報サービス室長 吉澤 悟
4	九州国立博物館	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発—興福寺 国宝阿修羅像を中心に—	博物館科学課長 今津節生	学芸部保存修理指導室主任研究員 鳥越 俊行
5	東京文化財研究所	近江の古代中世彫像の基礎的調査・研究—基礎データと画像蓄積のために—	文化形成研究室長 津田徹英	学芸部上席研究員 岩田 茂樹
6	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究—図的典拠と分担製作の視点から—	教育講座室長 浅瀨 毅	学芸部上席研究員 岩田 茂樹
7	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究—図的典拠と分担製作の視点から—	教育講座室長 浅瀨 毅	学芸部情報サービス室研究員 山口 隆介
8	大阪市立大学	東大寺史の総合的再構成—『東大寺要録』を中心に—	名誉教授 米原永遠男	学芸部情報サービス室研究員 山口 隆介
9	九州国立博物館	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究	学芸研究部長 谷 豊信	学芸部保存修理指導室主任研究員 鳥越 俊行
10	大阪大学	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授 藤岡 穰	学芸部上席研究員 岩田 茂樹
11	京都大学	東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態	准教授 稲本 泰生	学芸部保存修理指導室長 谷口 耕生
12	アジア文化交流センター	国宝桜ヶ丘銅鐙の総合診断調査と今後の保存活用—発見50年目を迎えるにあたって—	主任研究員 進村真之	学芸部保存修理指導室主任研究員 鳥越 俊行
13	北海道開拓記念館	アイヌ民族資料のX線CTによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究	学芸員 杉山智昭	学芸部保存修理指導室主任研究員 鳥越 俊行

【九州国立博物館】延べ 8人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	文学研究科教授 藤岡 穰	展示課長 楠井 隆志
2	桃山学院大学	東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7～10世紀を中心に(科学研究費助成事業 基盤研究(B))	国際教養学部教授 深見純生	企画課特別展室主任研究員 原田あゆみ
3	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費助成事業 基盤研究(A))	調査部調査課長 今尾文昭	博物館科学課長 今津節生
4	京都大学	木製文化財の非破壊材質評価とデジタルアーカイブ作成(科学研究費助成事業 基盤研究(A))	生存圏研究所教授 杉山淳司	博物館科学課長 今津節生
5	鹿児島大学	X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究(科学研究費助成事業 基盤研究(B))	総合研究博物館准教授 橋本達也	博物館科学課長 今津節生 企画課文化交流展室長 河野一隆

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
6	熊本大学	阿蘇地域を中心とした古墳時代の九州島における情報伝達・文化交流の実証的研究(科学研究費助成事業 基盤研究(B))	文学部准教授 杉井健	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史
7	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究(科学研究費助成事業 基盤研究(A))	人文科学研究院教授 井手誠之輔	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
8	北海道開拓記念館	アイヌ民族資料のX線CTによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究(科学研究費助成事業 基盤研究(C))	学芸員 杉山智昭	博物館科学課長 今津節生

【東京文化財研究所】延べ 24人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京藝術大学	迎賓館赤坂離宮天井絵画修復事業に関わる損傷と劣化原因の解明	木島 隆康	企画情報部副部長 山梨 絵美子
2	東京国立博物館	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松 健次郎	企画情報部主任研究員 小林 達朗
3	大阪大学	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	藤岡 穰	企画情報部主任研究員 皿井 舞
4	金沢美術工芸大学	日本における「美術」概念の再構築-語彙と理論にまたがる総合的研究	山崎 剛	企画情報部副部長 山梨 絵美子
5	奈良文化財研究所	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本 晋	文化遺産国際協力センター長 川野邊 渉
6	早稲田大学演劇博物館	享保以降義太夫浄瑠璃作品のデジタル・アーカイブ化に向けての研究	鳥越 文蔵	無形文化遺産部長 飯島 満
7	金沢文庫	中世都市鎌倉を中心とする宗教的ネットワークの研究	西岡 芳文	企画情報部文化形成研究室長 津田 徹英
8	大谷大学	新出土仏教遺物と文献史料の統合による13～17世紀北アジア史の再構築	松川 節	企画情報部情報システム研究室長 二神 葉子
9	桃山学院大学	東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究:7-10世紀を中心に	深見 純生	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 佐藤 桂
10	国士館大学	ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学	大沼 克彦	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 久米 正吾
11	国立民族学博物館	ミュージアムと研究機関の協働による製作者情報の統合	丸川 雄三	副所長 田中 淳
12	東京大学	観世家のアーカイブの形成と室町期能楽の新研究	松岡 心平	無形文化遺産部無形文化財研究室長 高桑 いづみ
13	東京大学	文化遺産としてのマイクロフィルム保存に関する基礎研究:実態調査からの実証的分析	小島 浩之	保存修復科学センター保存科学研究室長 佐野 千絵
14	桃山学院大学	東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究:7-10世紀を中心に	深見 純生	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 佐藤 桂
15	国立民族学博物館	ミュージアムと研究機関の協働による製作者情報の統合	丸川 雄三	副所長 田中 淳
16	愛知県立芸術大学	絵画表現における風土と技術-膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究-	北田 克己	保存修復科学センター主任研究員 早川 典子
17	東京国立博物館	ディルムン文明の起源-バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究-	後藤 健	文化遺産国際協力センター客員研究員 原田 玲
18	鹿児島大学	住吉派の事例にみる古典受容の在り方の解明-画像パターンの分析を中心に-	下原 美保	文化遺産国際協力センター主任研究員 江村 知子
19	東京大学史料編纂所	日本絵画の〈復元〉に関する基礎的研究	鷹野 佳世子	保存修復科学センター主任研究員 吉田 直人
20	東京藝術大学	バーナード・ベレンソンと矢代幸雄の往復書簡に関する研究	越川 倫明	企画情報部副部長 山梨 絵美子
21	京都工芸繊維大学	蛍光寿命測定 of 文化財材料への応用に関する基礎研究	佐々木 良子	保存修復科学センター主任研究員 吉田 直人
22	茨城大学	内生細菌を利用した糸状菌形質転換体作出技術の開発	太田 寛行	保存修復科学センター研究員 佐藤 嘉則
23	茨城大学	糸状菌エンドファイト-内生バクテリア間相互作用の解明とその利用	成澤 才彦	保存修復科学センター研究員 佐藤 嘉則
24	大谷大学	モンゴル国カラコルム博物館における歴史研究を基軸とした情報化と国際協働の推進	松川 節	企画情報部情報システム研究室長 二神 葉子

【奈良文化財研究所】延べ31人

○科学研究費補助金 延べ28人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	日本目録学の確立と古典学研究支援ツールの拡充 一天皇家・公家文庫を中心に-	教授 田島 公	都城発掘調査部主任研究員 馬場 基
2	東京大学	ポーンデジタル画像管理システムの確立に基づく歴史史料情報の高度化と構造転換の研究	教授 山家 浩樹	都城発掘調査部主任研究員 馬場 基
3	鳴門教育大学	年輪年代学の総合的研究-文化財科学における応用的展開をめざして-	教授 米延 仁志	埋蔵文化財センター年代学研究室 研究員 星野 安治
4	東京大学	正倉院文書の多角的解析支援と広領域研究資源化	准教授 山口 英男	都城発掘調査部史料研究室長 渡邊 晃宏

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
5	立命館大学	古代中世東アジアの関所と交通政策	教授 鷹取 祐司	都城発掘調査部主任研究員 馬場 基
6	名城大学	クメール帝国の空間構造と地方拠点都市遺跡に関する研究	教授 溝口 明則	企画調整部長 杉山 洋
7	東京大学	植物・土器・人骨の研究を中心とした日本列島農耕文化複合の形成に関する基礎的研究	教授 設楽 博己	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員 庄田 慎矢
8	京都工芸繊維大学	近代日本の博覧会における建築展示に関する研究	教授 石田 潤一郎	都城発掘調査部遺構研究室 研究員 松下 迪生
9	京都工芸繊維大学	近代日本の博覧会における建築展示に関する研究	教授 石田 潤一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学 研究室 高妻 洋成
10	東京大学	歴史知識情報のオープンデータ化に向けたスキームと情報利活用手法の再構築	教授 久留島 典子	都城発掘調査部主任研究員 馬場 基
11	奈良大学	文字文化からみた東アジア社会の比較研究	教授 角谷 常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邊 晃宏
12	神戸女子大学	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究	教授 大谷 節子	埋蔵文化財センター保存修復科学 研究室 高妻 洋成
13	大阪市立大学	東大寺史の再構成-『東大寺要録』を中心に-	特任教授 柴原 永遠男	文化遺産部歴史研究室長 吉川 聡
14	東京文化財研究所	西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究	所長 亀井 伸雄	企画調整部国際遺跡研究室アソ シエイトフェロー 田代 亜紀子
15	東北大学	年輪幅・年輪同位体比・DNAマーカーを用いた新たな木材産地推定法の検討	助教 大山 幹成	埋蔵文化財センター年代学研究 室 研究員 星野 安治
16	歴史民俗博物館	愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開	准教授 山田 康弘	埋蔵文化財センター環境考古学 研究室 研究員 山崎 健
17	歴史民俗博物館	愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開	准教授 山田 康弘	埋蔵文化財センター客員研究員 茂原 信生
18	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授 上野 祥史	都城発掘調査部考古第三研究室 研究員 川畑 純
19	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授 上野 祥史	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員 諫早 直人
20	大阪市立大学	密林に覆われた古代水利都市アンコール遺跡群の実像解明・保全・修復研究	准教授 原口 強	企画調整部長 杉山 洋
21	関西外国語大学	ミクロネシアにおける巨石文化の成立と社会複雑化のプロセスを探る考古学的研究	教授 片岡 修	企画調整部国際遺跡研究室 研究員 石村 智
22	元興寺文化財研究所	出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について	研究員 植田 直見	埋蔵文化財センター長 難波 洋三
23	榎原考古学研究所	古墳時代中期における甲冑生産組織の研究-「型紙」と製作工程の分析を中心として-	総括研究員 吉村 和昭	企画調整部客員研究員 小林 謙一
24	京都大学	オントロジー指向による考古遺跡情報の知識体系化-東南アジア大陸部を事例に-	研究員 柴山 守	企画調整部国際遺跡研究室長 森本 晋
25	京都大学	オントロジー指向による考古遺跡情報の知識体系化-東南アジア大陸部を事例に-	研究員 柴山 守	企画調整部国際遺跡研究室アソ シエイトフェロー 田代 亜紀子
26	京都大学	覆屋とその周辺地盤が露出展示遺構の劣化に及ぼす影響に関する検討	教授 銚井 修一	埋蔵文化財センター保存修復科学 研究室 研究員 脇谷 草一郎
27	京都大学	古代・中世東西回廊-ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態-	研究員 柴山 守	企画調整部長 杉山 洋
28	京都大学	古代・中世東西回廊-ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態-	研究員 柴山 守	企画調整部国際遺跡研究室アソ シエイトフェロー 田代 亜紀子

○学術研究助成基金助成金 延べ3人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	九州国立博物館	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究	学芸部長 谷 豊信	企画調整部展示企画室 研究員 丹羽 崇史
2	新潟県立看護大学	韓国出土古人骨への自然人類学的総合アプローチ	准教授 藤田 尚	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員 庄田 慎矢
3	立命館大学	異宗教の相剋により生じた社会現象の比較的研究-古代仏教説話に見る伝統と革新	教授 本郷 真紹	都城発掘調査部主任研究員 山本 崇

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ0人

3) 研究者海外派遣実績（延べ人数）

平成27年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
445人	127人	18人	14人	13人	82人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	291人	149人		142人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進室			
	21人	6人			

【東京国立博物館】延べ18人（科学研究費補助金、その他助成金及び先方負担を除く）

（参考：科学研究費補助金、その他助成金及び先方負担を含む合計人数は56人）

○海外交流展経費・招へい共通事業費 11人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	鬼頭 智美	ドイツ・オーストリア	5月5日～13日	国際展覧会オーガナイザー会議に出席のため	招へい共通事業費
2	川村 佳男	韓国	8月6日～14日	韓国・国立中央博物館と当館との2014年度学術交流のため	同上
3	島谷 弘幸	中国	9月3日～5日	中国上海博物館との展覧会の交流にかかる協議のため	海外交流展経費
4	三田 覚之	韓国	10月20日～30日	韓国・国立中央博物館と当館との2014年度学術交流のため	招へい共通事業費
5	小野 真由美	米国	12月1日～6日	米国・サンフランシスコアジア美術館と当館との2014年度学術交流のため	同上
6	小泉 恵英	タイ	11月23日～27日	学術シンポジウム参加・タイ特別展準備のため	海外交流展経費
7	白井 克也	中国	11月30日～12月3日	特別展「東アジアの華 陶磁名品展」にかかる中国作品返却のため	同上
8	小泉 恵英	タイ	27年1月25日～1月29日	芸術局長表敬訪問及び視察のため	海外交流展経費
9	鬼頭 智美	米国	27年2月11日～2月18日	フィラデルフィア美術館「狩野派展」開幕式出席ほかのため	同上
10	古谷 毅	中国	27年2月26日～3月7日	中国・上海博物館と当館との2014年度学術交流のため	招へい共通事業費
11	竹内 奈美子	同上	27年3月8日～3月20日	同上	同上

○職員旅費（その他）：延べ7人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	白井 克也	中国	9月8日～12日	特別展「東アジアの華 陶磁名品展」にかかる中国作品輸送のため	日中韓陶芸名品展経費
2	島谷 弘幸	台湾	9月22日～23日	特別展「台北 國立故宮博物院—神品至宝—」にかかる展覧会閉幕御礼のため	館長裁量経費
3	小山 弓弦葉	中国	10月30日～11月5日	第9回国際校会議での研究発表のため	研究奨励費
4	同上	米国	12月15日～21日	研究奨励費による染織文化財調査のため	同上
5	島谷 弘幸	タイ	27年1月25日～1月29日	タイ芸術局長表敬訪問及び視察のため	研究奨励費
6	同上	英国	27年2月24日～3月1日	研究奨励費による文化財調査のため	同上
7	富田 淳	同上	同上	同上	同上

○科学研究費補助金：延べ28人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	古谷 毅	韓国	5月2日～5日	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）武装員の集積現象と古墳時代中期社会の特質にかかる調査のため	科学研究費補助金
2	小野塚 拓造	イスラエル	8月9日～24日	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究にかかる考古学調査のため	同上
3	伊藤 信二	英国	8月12日～17日	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）東アジアにおける繻仏の基礎的研究のため	同上
4	塚本 慶充	同上	8月12日～18日	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究A）中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究のため	同上
5	土屋 貴裕	同上	8月12日～19日	同上	同上
6	高木 結美	同上	同上	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）東アジアにおける繻仏の基礎的研究のため	同上
7	松嶋 雅人	マケドニア	8月20日～27日	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）「中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察」に関する調査のため	同上
8	和田 浩	フランス	9月21日～25日	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）海外における災害への取り組みに関する情報・資料収集のため	同上
9	金井 裕子	フランス・オランダ・イギリス	10月28日～11月6日	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究のため	同上
10	瀬谷 愛	同上	同上	同上	同上
11	塚本 慶充	中国	11月15日～18日	平成26年度科学研究費補助金（若手研究B）東アジアからみた乾隆画壇の総合的研究のため	同上
12	高橋 裕次	ドイツ	11月15日～22日	平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究のため	同上
13	鬼頭 智美	同上	11月15日～22日	同上	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
14	木下 史青	韓国	12月14日～16日	平成26年度科学研究費補助金(基盤研究C)2014年日韓美術解剖学シンポジウム「顔」発表のため	同上
15	後藤 健	バーレーン	27年1月4日～2月1日	平成26年度科学研究費補助金(基盤研究(B)海外)ディルムン文明の起源-パハレーン島における古墳群の考古学的調査研究-調査のため	同上
16	田良島 哲	オーストラリア	27年1月26日～2月1日	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究のため(白井科研)	同上
17	白井 克也	同上	同上	同上	同上
18	藍原 有理子	同上	同上	同上	同上
19	鈴木 希帆	同上	同上	同上	同上
20	鬼頭 智美	マレーシア・シンガポール	27年1月31日～2月4日	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究のため(鬼頭科研)	同上
21	沖松 健次郎	インド	27年2月2日～2月7日	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相にかかる調査のため(松本科研)	同上
22	塚本 磨充	同上	27年2月2日～2月8日	同上	同上
23	丸山 士郎	同上	同上	同上	同上
24	伊藤 信二	同上	同上	同上	同上
25	和田 浩	米国	27年2月3日～2月6日	木彫像の樹種識別技術の高度化に調査のため(安部科研分担金)	同上
26	藤田 千織	韓国	27年3月2日～3月5日	美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発にかかる調査のため(一條科研分担金・基盤研究(B))	同上
27	和田 浩	韓国	27年3月6日～3月8日	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究のため(松井科研分担金・基盤研究(A))	同上
28	塚本 磨充	中国	27年3月6日～3月9日	東アジアからみた乾隆画壇の総合的研究のため(塚本科研・若手研究(B))	同上

○その他助成金：延べ10人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	小泉 恵英	スリランカ	5月14日～5月20日	スリランカ東部トリンコマリ地区における内戦後の博物館および文化遺産の現状調査のため	国際交流基金助成金
2	古谷 毅	オランダ・ドイツ	11月29日～12月5日	平成館展示ケース改修にかかる工場検査のため	施設整備費補助金
3	木下 史青	オランダ・ドイツ	11月29日～12月5日	同上	同上
4	竹内 奈美子	ドイツ	12月1日～5日	同上	同上
5	松嶋 雅人	同上	12月1日～4日	同上	同上
6	和田 浩	同上	同上	同上	同上
7	高木 結美	同上	12月1日～5日	同上	同上
8	伊藤 久美	韓国	12月29日～27年1月2日	平成26年度助成金「華嚴宗祖師絵伝」義湘絵における祖師像制作にかかる調査のため	鹿島財団助成金
9	貫井香那子	ドイツ	27年3月4日～3月8日	平成館展示ケース制作にかかる検査のため	施設整備費補助金
10	品川 欣也	同上	同上	同上	同上

【京都国立博物館】延べ14人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	赤尾栄慶	中国	7月18日～21日	「中国中古仏教研究の新資料と新方法」国際検討会に参加	復旦大学
2	末兼俊彦	タイ	8月9日～8月16日	金工工房調査、古美術品調査、収蔵品調査	科研費
3	リンネ マリサ	オーストリア	10月14日～17日	応用美術の博物館とコレクションに関する国際委員会2014年大会参加・発表	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業実行委員会
4	赤尾栄慶	中国	10月24日～27日	「仏教と文学—日本金剛寺仏教典籍研究」国際学術研討会に参加	科研費
5	リンネ マリサ	アメリカ	11月4日～9日	シンポジウム参加、展覧会観覧	プリンストン大学
6	永島明子	イギリス・フランス	11月9日～24日	漆器の調査	科研費
7	呉 孟晋	イギリス	12月10日～16日	作品調査、展覧会参観、打合せ	同上
8	赤尾栄慶	イギリス・フランス	27年1月22日～2月3日	敦煌写本の書誌学的調査研究	同上
8	呉 孟晋	台湾	12月25日～27日	展覧会参観	国立故宮博物院
9	赤尾栄慶	イギリス・フランス	27年1月22日～2月3日	敦煌写本の書誌学的調査研究	科研費
10	呉 孟晋	中国	27年2月22日～25日	展覧会参観	南京博物院
11	松本伸之	フランス	27年2月22日～27日	国際学術交流に関する協議他	ギメ美術館 他
12	植田義雄	同上	同上	同上	同上
13	植田義雄	台湾	27年3月4日～3月7日	海外の顧客獲得のための営業活動	国立歴史博物館 他
14	白石大作	同上	同上	同上	同上

【奈良国立博物館】延べ13人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	鳥越 俊行	中国	8月6日～8月15日	中国上海博物館との協定に基づく学術交流	中国上海博物館
2	原 瑛莉子	韓国	8月19日～9月12日	韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	韓国国立慶州博物館
3	山口 隆介	中国	12月18日～27年1月11日	中国河南博物院との協定に基づく学術交流	中国河南博物院

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	備考
4	清水 健	中国	4月5日～4月8日	科研費「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」に関する海外調査	雷峰塔、浙江省博物館 他（中国）
5	岩田 茂樹	フランス	5月20日～5月25日	なら仏像館展示室設計業務にかかる展示ケース及び展示施設の視察	ルーブル美術館 他（フランス）
6	山口 隆介	同上	同上a	同上	同上
7	岩戸 晶子	韓国	7月20日～7月22日	韓国国立慶州博物館における特別展開幕式参席と博物館運営に関する意見交換・交流のため	韓国国立慶州博物館
8	岩田 茂樹	アメリカ	8月30日～9月5日	科研費「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」に関する海外調査	カウンティ美術館（アメリカ）
9	岩井 共二	同上	同上	同上	同上
10	山口 隆介	同上	同上	同上	同上
11	岩戸 晶子	中国	12月15日～27年3月14日	学芸員等在外派遣研修	西北大学 他（中国）
12	谷口 耕生	インド	27年2月16日～2月22日	科研費「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」に伴う現地調査	シュラヴァスティ遺跡他（インド）
13	鳥越 俊行	中国	27年3月9日～3月11日	中国古代青銅器に関する打合せ	上海博物館（中国）

【九州国立博物館】延べ82人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	原田あゆみ	アメリカ	5月14日～20日	平成26年度科学研究費助成事業（基盤研究B）、「タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－」に係る情報収集および作品調査	科学研究費
2	三輪嘉六	中国	5月20日～24日	特別展「瀋陽故宮展」に係る協議及び事前調査	職員旅費
3	臺信祐璧	同上	5月20日～24日	同上	同上
4	市元壘	同上	5月20日～24日	同上	同上
5	志賀智史	ベトナム	6月10日～14日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流事業のうち修理事業に係る調査と打合せ	同上
6	川畑憲子	中国	6月10日～14日	科研に関わる漆器資料調査	科学研究費
7	井上洋一	韓国	6月29日～7月3日	特別展「古代日本と百済の交流」に係る調査・競技	職員旅費
8	岸本圭	同上	6月29日～7月3日	同上	県費
9	小島篤	同上	6月29日～7月3日	同上	同上
10	三輪嘉六	中国	7月27日～8月3日	基盤（B）契丹壁画墓の集成と公開	職員旅費
11	臺信祐璧	同上	7月27日～8月3日	同上	科学研究費
12	今津節生	デンマーク、スウェーデン	8月8日～14日	基盤（A）「木製文化財の非破壊材質評価とデジタルアーカイブ作成に係る調査研究及び情報収集	同上
13	三輪嘉六	デンマーク、スウェーデン	8月8日～14日	北欧における博物館での水中文化遺産活用のある方を調査	職員旅費
14	望月規史	タイ	8月10日～16日	科学研究費「タイにおける異文化の受容と変容-13世紀から18世紀の対外交易品を中心として-」に係る調査	科学研究費
15	楠井隆志	韓国	8月27日～29日	特別展「古代日本と百済の交流」に係る協議	県費
16	三輪嘉六	中国	9月2日～5日	中国文物交流中心との学術交流協定に伴う調査	職員旅費
17	今津節生	同上	同上	同上	同上
18	市元壘	同上	同上	同上	同上
19	原田あゆみ	ベトナム	9月4日～15日	科学研究費「東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7-10世紀を中心に」に係る調査	科学研究費
20	河野一隆	イギリス	9月6日～13日	特別展「大英博物館100のモノが語る世界の歴史展」（仮称）に係る現地調査	職員旅費
21	西島亜木子	同上	同上	同上	同上
22	秋山純子	イギリス	9月13日～20日	基盤研究（C）赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究に係る調査	科学研究費
23	岸本圭	韓国	9月20日～26日	韓国民国公立公州博物館特別展「武寧王時代の東アジア世界」展に係る日本国内出品作品の輸送及び展示	先方負担
24	丸山猶計	台湾	9月21日～25日	特別展「台北 國立故宮博物院-神品至宝-」に係る作品集荷のため	同上
25	畑靖紀	同上	9月21日～24日	同上	同上
26	川畑憲子	台湾	9月21日～24日	特別展「神品至宝-台北 國立故宮博物院」展に関する借用	先方負担
27	井上洋一	同上	9月29日～10月2日	同上	同上
28	志賀智史	ベトナム	9月30日～10月3日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流事業のうち修理事業に係る調査と監督業務	職員旅費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
29	渡部史之	同上	9月30日～10月3日	同上	同上
30	森貫久美子	アメリカ	10月12日～19日	基盤研究(C)「赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究」に係る調査	科学研究費
31	秋山純子	同上	10月12日～19日	アメリカの博物館における保存科学・保存修復の調査見学及び専門家との意見交換	職員旅費
32	志賀智史	ベトナム	10月14日～17日	ベトナム国立歴史博物館との学術交流事業のうち修理事業に係る調査と打合せ業務	同上
33	井上洋一	台湾	10月22日～24日	特別展「台北 国立故宮博物院-神品至宝-」に関する借用作品返却	先方負担
34	渡部史之	ベトナム	10月28日～30日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流事業のうち修理事業に係る監督業務	職員旅費
35	市元壘	中国	10月29日～31日	「瀋陽故宮展」に関する協議及び事前調査	同上
36	川畑憲子	同上	同上	同上	同上
37	川畑憲子	イギリス	11月1日～6日	科研に関わる漆器資料調査	科学研究費
38	今津節生	中国	11月3日～10日	西夏文書の保存と環境整備及び文化財保存修復調査	同上
39	臺信祐爾	中国	11月8日～11日	基盤(B)契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解-に係る調査	同上
40	市元壘	中国	11月9日～14日	科研費 基盤研究(B)契丹壁画墓の集成と公開に係る調査	同上
41	臺信祐爾	オーストラリア	11月15日～20日	特別展「アフガン美術」(仮)に係る作品調査	職員旅費
42	原田あゆみ	タイ	11月21日～27日	科学研究費「タイにおける異文化の受容と変容-13世紀から18世紀の対外交易品を中心として-」に係る調査及びシンポジウム参加	科学研究費
43	望月規史	同上	11月21日～26日	同上	同上
44	三輪嘉六	同上	11月23日～27日	2017年日タイ修好130周年特別展「タイ展(仮)」に係る協議及びタイ芸術局との共同研究の中間報告会出席のため	職員旅費
45	今津節生	同上	同上	同上	科学研究費
46	岸本圭	韓国	11月23日～26日	韓民国国立公州博物館特別展「東アジア文化交流の宝庫、武寧王陵」展に係る日本国内出品作品の撤収および輸送	先方負担
47	森貫久美子	同上	11月27日～30日	韓国・古宮博物館で開催される特別展「琉球王国の至宝」輸送同行および展示のため	同上
48	川畑憲子	台湾	12月8日～17日	特別展「台北 国立故宮博物院-神品至宝-」に係る作品返却のため、新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」に係る作品借用のため	同上
49	鷲頭桂	同上	12月9日～19日	特別展「台北国立故宮博物院-神品至宝-」作品返却、購入・寄託候補作品調査、トピック展示「八幡展」(仮称)の調査研究	先方負担、職員旅費
50	畑靖紀	同上	12月10日～16日	特別展「台北国立故宮博物院-神品至宝-」に係る作品返却のため	先方負担
51	三輪嘉六	同上	12月11日～13日	特別展「台北国立故宮博物院-神品至宝」開催終了に係る打合せのため	職員旅費
52	市元壘	韓国	12月20日～24日	特別展「古代百済と日本の交流」に関する文化財借用	職員旅費
53	小嶋篤	同上	同上	同上	県費
54	河野一隆	中国	27年1月4日～6日	基盤(B)三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究に係る調査	科学研究費
55	臺信祐爾	同上	27年1月6日～10日	成都博物院との交流事業に係る協議のため	職員旅費
56	三輪嘉六	同上	27年1月10日～14日	特別展「美の国 日本II」に係る出品交渉、交流協定館との協議	職員旅費
57	市元壘	同上	27年1月11日～14日	同上	職員旅費
58	原田あゆみ	韓国	27年1月18日～20日	貸与作品展示替え作業	職員旅費
59	原田あゆみ	タイ	27年1月25日～2月3日	日タイ修好130周年記念特別展「タイ」展に係る協議および作品調査	同上
60	池内一誠	ミャンマー	27年1月26日～2月1日	体験型展示室「あじっぱ」において展開する体験用資料、伝統文化・工芸品についての調査	県費
61	市元壘	中国	27年1月26日～31日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」作品調査	先方負担
62	畑靖紀	ポルトガル、パチカン市国、スペイン	27年1月31日～2月11日	海外交流展「特別展 大航海時代の南蛮美術(仮称)」に係る出品交渉および作品調査	職員旅費
63	鷲頭桂	同上	同上	同上	同上
64	川畑憲子	同上	同上	同上	同上
65	今津節生	タイ	27年1月31日～2月1日	タイ修好130周年記念特別展「タイ」展に係る協議および作品調査	同上
66	渡部史之	韓国	27年1月31日～2月3日	「琉球王国の至宝 沖縄の輝かしい歴史」展に係る貸与作品の撤収業務	先方負担
67	三輪嘉六	中国	27年2月11日～12日	「美の国日本」出陳交渉	職員旅費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
68	市元壘	同上	同上	同上	同上
69	西島亜木子	台湾	27年2月22日～24日	特別展「大英博物館展100のモノが語る世界の歴史」にかかる調査	同上
70	河野一誠	同上	同上	同上	同上
71	釜瀬進一郎	韓国	27年2月23日～3月1日	学術文化交流協定に基づく交流事業に係る研修	県費
72	池内一誠	同上	27年3月2日～8日	同上	同上
73	大西浩二	同上	同上	同上	職員旅費
74	市元壘	同上	27年3月5日～8日	特別展「百済展」返却業務	同上
75	岸本圭	同上	27年3月5日～10日	同上	県費
76	小嶋篤	同上	27年3月16日～22日	学術文化交流協定に基づく交流事業に係る研修	同上
77	臺信祐爾	スイス	27年3月20日～26日	特別展「ビュールレ・コレクション展（仮）」に係る作品調査	職員旅費
78	井上洋一	同上	同上	同上	同上
79	大西浩二	同上	同上	同上	同上
80	三輪嘉六	韓国	27年3月26日～28日	「美の国日本」出陳交渉	職員旅費
81	大石淳子	同上	同上	同上	同上
82	楠井隆志	同上	同上	同上	県費

【東京文化財研究所】延べ 149人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	安倍雅史	フランス	5月2日～5月29日	ユネスコ会議「To Safeguard Syria's Cultural Heritage: International Expert Meeting」への参加	運営費交付金
2	安倍雅史	キルギス	10月26日～11月5日	人材育成ワークショップの実施	運営費交付金
3	飯島満	フランス	11月23日～11月28日	第9回無形文化遺産の保護に関する政府間委員会出席	運営費交付金
4	飯島満	台湾	12月17日～12月18日	台湾師範大学との共同研究の打合せ	運営費交付金
5	井内千紗	スリランカ	5月13日～5月21日	内戦後の博物館及び文化遺産の現状調査	受託経費
6	石崎武志	韓国	5月19日～5月23日	国際シンポジウム「International Conference on Conservation of Stone and Earthen Architectural Heritage」への出席	運営費交付金
7	石崎武志	フランス	8月25日～8月29日	研究打合せおよび視察	運営費交付金
8	犬塚将英	香港	9月23日～9月26日	IIC(International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works)2014国際会議への出席	運営費交付金
9	犬塚将英	台湾	12月24日～12月26日	文化資産保存研究センター主催「Science Quest: Cultural Heritage Conservation and Environmental Changes」での講演	他機関負担
10	今城裕香	ミャンマー	9月8日～9月11日	ミャンマー協同組合省小規模産業局とのMoU調印	運営費交付金
11	江村知子	ポーランド	27年1月12日～1月23日	日本絵画作品の調査	運営費交付金
12	江村知子	アメリカ	27年3月9日～3月14日	アメリカの動産文化財保護制度の調査	運営費交付金
13	江村知子	オーストラリア	27年3月16日～3月21日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営費交付金
14	岡田健	韓国	5月26日～5月28日	日韓共同研究発表会	運営費交付金
15	岡田健	中国	8月23日～9月1日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	運営費交付金
16	岡田健	中国	10月6日～10月19日	壁画保存に関するシンポジウムへの出席他	他機関負担 運営費交付金
17	小川絢子	中国	8月23日～9月1日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	運営費交付金
18	小川絢子	タジキスタン	9月10日～10月3日	フルブック壁画断片の保存修復と展示	助成金
19	小川絢子	イタリア、ドイツ	11月26日～12月5日	西欧諸国によるユーラシア壁画の修復事例の視察と意見交換	運営費交付金
20	小川絢子	タジキスタン	27年3月1日～3月10日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の整理・記録	運営費交付金
21	加藤雅人	メキシコ	11月3日～11月15日	LATAM-JPC「紙の保存と修復」開催	運営費交付金
22	加藤雅人	ドイツ	11月30日～12月14日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップの開催	運営費交付金
23	加藤雅人	ポーランド	27年1月13日～1月17日	日本絵画作品の調査	運営費交付金
24	加藤雅人	ポーランド	27年2月1日～2月6日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営費交付金
25	加藤雅人	オーストラリア	27年3月14日～3月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営費交付金
26	狩野麻里子	ネパール	27年2月8日～2月22日	協力相手国調査	受託経費
27	亀井伸雄	アルメニア	5月25日～6月2日	アルメニア文化省との合意書締結、講演、視察及びワークショップ開催	受託経費 他機関負担
28	亀井伸雄	カタール	6月19日～6月25日	第38回世界遺産委員会に係る調査の実施	運営費交付金
29	亀井伸雄	フィジー	8月6日～8月12日	MoU調印	受託経費
30	亀井伸雄	ミャンマー	9月8日～9月11日	ミャンマー協同組合省小規模産業局とのMoU調印	運営費交付金
31	亀井伸雄	オーストリア	10月5日～10月11日	漆工芸品の保存と修復に関するワークショップの実施	運営費交付金
32	亀井伸雄	台湾	10月22日～10月24日	台湾師範大学とのMoU締結	運営費交付金
33	亀井伸雄	インドネシア	10月31日～11月4日	歴史地区復興支援ワークショップの開催	科学研究費
34	亀井伸雄	ブータン	12月20日～12月24日	協議およびワークショップの実施	受託経費
35	川野邊渉	カタール	6月14日～6月25日	第38回世界遺産委員会への出席	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
36	川野邊渉	ミャンマー	6月10日～6月13日	ミャンマー壁画保存ワークショップの実施	受託経費
37	川野邊渉	フィジー	8月6日～8月12日	MoU調印	受託経費
38	川野邊渉	ミャンマー	9月8日～9月11日	ミャンマー協同組合省小規模産業局とのMoU調印	運営費交付金
39	川野邊渉	オーストリア	10月5日～10月11日	漆工芸品の保存と修復に関するワークショップの実施	運営費交付金
40	川野邊渉	台湾	10月22日～10月24日	台湾師範大学とのMoU締結	運営費交付金
41	川野邊渉	イタリア、フランス	11月15日～11月30日	イタリア：ICCROM理事会出席 フランス：世界無形遺産政府間委員会出席	他機関負担 運営費交付金
42	川野邊渉	台湾	12月17日～12月19日	台湾師範大学との共同研究の打合せ	運営費交付金
43	菊池理予	韓国	8月18日～8月30日	無形文化遺産に関する調査	運営費交付金
44	菊池理予	台湾	12月17日～12月19日	台湾師範大学との共同研究の打合せ	運営費交付金
45	北川瑞季	台湾	10月22日～10月24日	台湾師範大学とのMoU締結	運営費交付金
46	北川瑞季	ドイツ	11月30日～12月8日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップの開催	運営費交付金
47	橋川英規	アメリカ	9月11日～9月18日	「ポスト1945日本美術ディスカッション・グループ/現代美術懇談会主催シンポジウム」での発表およびアーカイブ調査	国際交流基金
48	橋川英規	アメリカ	11月12日～11月16日	「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・古流事業」の招へい者現地ヒアリング	他機関負担
49	楠京子	ミャンマー	6月10日～6月18日	ミャンマー壁画保存ワークショップの実施	受託経費
50	楠京子	メキシコ	11月3日～11月15日	LATAM-JPC「紙の保存と修復」開催	運営費交付金
51	楠京子	ドイツ	11月30日～12月14日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップの開催	運営費交付金
52	楠京子	ミャンマー	27年1月18日～1月27日	ミャンマー国の文化遺産(美術工芸品)保護に係る現地調査および研修	受託経費
53	楠京子	ポーランド	27年2月1日～2月6日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営費交付金
54	楠京子	オーストラリア	27年3月14日～3月21日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営費交付金
55	朽津信明	韓国	5月26日～5月28日	日韓共同研究発表会	運営費交付金
56	小林公治	トルコ、イスラエル	6月1日～6月19日	トルコ：イスタンブール市内宮殿での日本由来文物調査および螺鈿調査 イスラエル：螺鈿調査	他機関負担 科学研究費
57	小林公治	イタリア、スペイン	6月28日～7月13日	イタリア、スペイン両国内に伝世する南蛮螺鈿漆器の調査	科学研究費
58	小林公治	中国	10月24日～10月30日	中国浙江省における螺鈿工房および螺鈿漆器の調査	科学研究費
59	小林公治	アメリカ	27年2月6日～2月20日	アメリカの博物館美術館に所蔵される朝鮮螺鈿漆器を中心とした研究	助成金
60	久保田裕道	フィジー	8月6日～8月12日	MoU調印	受託経費
61	久保田裕道	韓国	10月15日～10月17日	ユネスコ無形遺産諮問機構(NGO)国際シンポジウム参加	他機関負担
62	久保田裕道	ネパール	27年2月15日～2月22日	協力相手国調査	受託経費
63	久保田裕道	韓国	27年3月2日～3月14日	無形文化遺産の保護及び伝承に関する日韓研究交流	運営費交付金
64	久米正吾	キルギス	7月4日～7月26日	日本-キルギス合同発掘調査参加	科学研究費
65	久米正吾	トルコ	9月9日～9月15日	ヨーロッパ考古学者協会大会での発表	助成金 科学研究費
66	久米正吾	キルギス	10月14日～11月5日	人材育成ワークショップの実施	受託経費
67	久米正吾	キルギス	11月28日～12月9日	拠点交流の資料整理、打合せ	運営費交付金
68	久米正吾	イラン	27年1月7日～1月21日	イランにおける文化遺産視察および先方関係機関との意見交換	運営費交付金
69	境野飛鳥	カタール	6月14日～6月25日	第38回世界遺産委員会の出席	運営費交付金
70	境野飛鳥	フィジー	8月6日～8月12日	MoU調印	受託経費
71	境野飛鳥	オーストリア	10月5日～10月11日	漆工芸品の保存と修復に関するワークショップの実施	運営費交付金
72	境野飛鳥	イタリア、フランス	11月7日～11月30日	イタリア：ICOMOS総会およびICCROM理事会への参加 フランス：世界無形遺産政府間委員会出席	運営費交付金
73	境野飛鳥	アメリカ	27年1月13日～1月19日	GHQ/SCAPの史料調査	科学研究費
74	境野飛鳥	アメリカ	27年3月9日～3月14日	アメリカの動産文化財保護制度の調査	運営費交付金
75	佐藤桂	カンボジア、ミャンマー	6月3日～6月15日	カンボジア：ICC会議への参加 ミャンマー：ミャンマー建築保存ワークショップの実施	受託経費 運営費交付金
76	佐藤桂	カンボジア	7月20日～7月27日	タネイ遺跡の測量技術指導	運営費交付金
77	佐藤桂	ブータン	9月21日～9月27日	拠点ブータン事業に係る現地調査	受託経費
78	佐藤桂	ベトナム	9月4日～9月7日	チャンパ建築調査	科学研究費
79	佐藤桂	インドネシア	10月29日～11月4日	歴史地区復興支援ワークショップの開催	科学研究費
80	佐藤桂	カンボジア、フランス	12月2日～12月10日	カンボジア：ICC(アンコール遺跡救済国際調整委員会)への出席 フランス：文化財情報関連調査	運営費交付金 科学研究費
81	佐藤桂	ブータン	12月20日～12月24日	協議およびワークショップの実施	受託経費
82	佐藤桂	ミャンマー	27年1月11日～1月19日	第3回木造建造物保存研修の実施	受託経費
83	佐野千絵	香港	9月21日～9月27日	IIC(International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works)2014国際会議への出席	運営費交付金
84	皿井舞	イギリス、フランス、ドイツ	10月9日～11月3日	日本美術に関するデータベース構築のための共同研究他	他機関負担 運営費交付金
85	嶋原由美	ドイツ	11月12日～11月23日	漆工芸品の保存と修復に関するワークショップの実施	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
86	島崎正弘	フランス	8月25日～8月29日	研究打合せおよび視察	運営費交付金
87	城野誠治	タイ	27年2月22日～3月1日	螺鈿扉に関するセミナーへの参加、螺鈿扉及び日本製螺鈿製品に関する調査	助成金 運営費交付金
88	友田正彦	カンボジア	5月18日～5月21日	タネイ遺跡保存に関するAPSARA機構との協議	運営費交付金
89	友田正彦	ミャンマー	5月31日～6月11日	ミャンマー建築保存ワークショップの開催、ユネスコワークショップへの参加	他機関負担 受託経費
90	友田正彦	ミャンマー	8月17日～8月22日	バガン遺跡インベントリ更新に関するユネスコワークショップへの出席	他機関負担
91	友田正彦	中国	9月2日～9月7日	科研費による資料収集および比較研究のための海外調査	科学研究費
92	友田正彦	ブータン	9月18日～9月27日	拠点ブータン事業に係る現地調査	受託経費
93	友田正彦	インドネシア	10月29日～11月4日	歴史地区復興支援ワークショップの開催	科学研究費
94	友田正彦	中国	11月22日～11月27日	科研費による資料収集および比較研究のための海外調査	科学研究費
95	友田正彦	ミャンマー	12月2日～12月6日	バガン遺跡保存ユネスコ日本信託基金事業に係るワークショップへの参加	他機関負担
96	友田正彦	中国	12月15日～12月19日	2014年度国際会議「木造建造物の保存理念を再考する一木造建造物のある文化的景観と地域社会」への参加	他機関負担
97	友田正彦	ブータン	12月20日～12月24日	協議およびワークショップの実施	受託経費
98	友田正彦	ミャンマー	27年1月16日～1月31日	木造建造物保存研修の実施、およびバガン遺跡保存ユネスコ日本信託基金事業ワークショップへの参加	受託経費
99	友田正彦	ベトナム	27年3月1日～3月10日	科学研究費助成事業「考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究」に係る現地調査	科学研究費
100	中山俊介	ドイツ、カタール	6月10日～6月26日	ドイツ：世界遺産委員会に関連したドイツのサイト視察 カタール：第38回世界遺産委員会出席	運営費交付金
101	中山俊介	メキシコ、カナダ	9月16日～9月29日	近代文化遺産（洋紙関連）の保存状態及び修復手法に関する現地調査	運営費交付金
102	中山俊介	台湾	12月19日～12月22日	漆喰飾りの修復を主とした研修会における現地指導および講演	他機関負担
103	早川典子	韓国	8月18日～8月20日	染織文化財に使用される材料に関する調査	運営費交付金
104	早川典子	香港	9月23日～9月26日	IIC(International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works)2014国際会議への出席	運営費交付金
105	早川典子	ドイツ	11月14日～11月19日	漆工芸品の保存と修復に関するワークショップの実施	運営費交付金
106	原田玲	香港	5月13日～5月18日	Asian Academy for Heritage Management HIA Workshopへの参加	受託経費
107	平出秀文	アルメニア	5月25日～6月2日	アルメニア文化省との合意書締結及びワークショップの開催	受託経費
108	藤澤明	アルメニア	4月21日～4月28日	アルメニア歴史博物館におけるワークショップの打合せと準備	受託経費
109	藤澤明	アルメニア	5月18日～5月30日	アルメニア歴史博物館におけるワークショップ開催	受託経費
110	藤澤明	エジプト	8月8日～8月22日	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト・短期専門家(労働安全衛生2)としての講義	他機関負担
111	二神葉子	カタール	6月14日～6月26日	第38回世界遺産委員会に係る調査の実施	受託経費
112	二神葉子	モンゴル	9月4日～9月9日	国際会議「世界遺産カラコルムの10年-回顧と展望-」での発表	他機関負担 科学研究費
113	二神葉子	フランス	11月23日～11月30日	第9回無形文化遺産の保護に関する政府間委員会出席	運営費交付金
114	二神葉子	タイ	27年1月12日～1月17日	ラチャプラディット寺院螺鈿扉に関する調査及び打合せ	運営費交付金
115	二神葉子	タイ	27年2月22日～3月1日	螺鈿扉に関するセミナーへの参加、螺鈿扉及び日本製螺鈿製品に関する調査	運営費交付金
116	古澤誠	台湾	10月22日～10月24日	台湾師範大学とのMoU締結	運営費交付金
117	増淵麻里耶	イタリア、ドイツ	11月26日～12月5日	西欧諸国によるユーラシア壁画の修復事例の視察と意見交換	運営費交付金
118	増淵麻里耶	タイ、ミャンマー	27年1月12日～1月24日	タイ：ラチャプラディット寺院螺鈿扉に関する調査 ミャンマー：漆製品、壁画の材質分析および技術指導	受託経費 運営費交付金
119	森井順之	韓国	5月19日～5月23日	国際シンポジウム「International Conference on Conservation of Stone and Earthen Architectural Heritage」への参加及び発表	運営費交付金
120	森井順之	韓国	5月26日～5月28日	日韓共同研究発表会	運営費交付金
121	森井順之	メキシコ	10月14日～10月18日	歴史建造物の構造解析に関する国際会議(SAHC2014)への参加、発表	運営費交付金
122	山内和也	エジプト	4月15日～4月24日	JICA GEM-CCプロジェクト打合せ及び中間レビューへの出席	他機関負担
123	山内和也	フランス、アルメニア	5月25日～6月2日	フランス：ユネスコ会議「To Safeguard Syria's Cultural Heritage: International Expert Meeting」への参加 アルメニア：アルメニア文化省との合意書締結及びワークショップの開催	受託経費 運営費交付金
124	山内和也	フランス	7月7日～7月12日	バーミヤーン第5期事業打合せ会議	他機関負担 運営費交付金
125	山内和也	エジプト	8月15日～8月22日	JICA GEM-CCプロジェクト打合せ及び協議	他機関負担
126	山内和也	タジキスタン	9月28日～10月3日	フルブック壁画断片の保存修復と展示	運営費交付金
127	山内和也	中国	10月5日～10月11日	国際シンポジウム「Dunhuang Forum 2014」への参加	他機関負担 運営費交付金
128	山内和也	カザフスタン、キルギス	10月24日～11月3日	カザフスタン：博物館、史跡整備事業等の視察 キルギス：人材育成ワークショップの実施および博物館、史跡整備事業等の視察	運営費交付金
129	山内和也	イタリア	11月26日～12月3日	西欧諸国によるユーラシア壁画の修復事例の視察と意見交換	運営費交付金
130	山内和也	イラン	27年1月18日～1月23日	イランにおける文化遺産視察および先方関係機関との意見交換	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
131	山内和也	タジキスタン、カザフスタン、ウズベキスタン	27年2月15日～2月20日	西アジア諸国等プロジェクト（中央アジア）に関する打合せ	運営費交付金
132	山内和也	タジキスタン	27年3月4日～3月8日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の整理・記録	運営費交付金
133	山下好彦	ミャンマー	6月10日～6月20日	ミャンマー漆工芸調査	受託経費
134	山下好彦	オーストリア	10月5日～10月12日	漆工芸品の保存と修復に関するワークショップの実施	他機関負担 運営費交付金
135	山下好彦	ドイツ、オランダ	11月12日～12月5日	ドイツ：ケルン東洋美術館に於ける漆工芸品修復に関するワークショップの運営 オランダ：アムステルダム国立美術館所蔵作品の調査および助言	他機関負担 運営費交付金
136	山下好彦	タイ、ミャンマー	27年1月12日～1月24日	タイ：ラチャプラディット寺院螺鈿扉に関する調査 ミャンマー：ミャンマー国の文化遺産（美術工芸品）保護に係る現地調査	受託経費 運営費交付金
137	山下好彦	スペイン	27年1月25日～1月30日	輸出漆器の現地調査	運営費交付金
138	山下好彦	タイ	27年2月22日～3月1日	螺鈿扉に関するセミナーへの参加、螺鈿扉及び日本製螺鈿製品に関する調査	運営費交付金
139	山下好彦	イギリス	27年3月9日～3月14日	在外日本古美術品修復協力事業に係る漆工品調査	運営費交付金
140	山田大樹	カンボジア	7月24日～7月31日	タネイ遺跡の測量技術指導	運営費交付金
141	山田大樹	タジキスタン	9月10日～10月3日	フルブック壁画断片の保存修復と展示	運営費交付金
142	山田大樹	イラン	27年1月7日～1月23日	イランにおける文化遺産視察および先方関係機関との意見交換	運営費交付金
143	山田大樹	マレーシア	27年2月11日～2月19日	協力相手国調査	受託経費
144	山田祐子	ドイツ	11月30日～12月14日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップの開催	運営費交付金
145	山田祐子	ポーランド	27年1月12日～1月23日	日本絵画作品の調査	運営費交付金
146	山田祐子	オーストラリア	27年3月14日～3月21日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営費交付金
147	山梨絵美子	韓国	11月13日～11月15日	特別展覧会「東洋を蒐集する Collecting Asia: A History of Asian Art Collections in the Japanese Colonial Period」連携国際学術シンポジウムでの発表	他機関負担
148	山梨絵美子	イタリア	11月17日～11月23日	矢代幸雄、バーナード・ベレンソン往復書簡にかかる調査	科学研究費
149	山藤正敏	タジキスタン	27年3月1日～3月10日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の整理・記録	運営費交付金

【奈良文化財研究所】延べ142人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	佐藤 由似	カンボジア	4月6日～4月12日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
2	杉山 洋	カンボジア	4月8日～4月13日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
3	森山 晋	フランス	4月21日～4月28日	考古学におけるコンピューターへの応用と数量的方法学会（CAA）2014に出席のため	運営費交付金
4	田村 朋美	大韓民国	4月24日～4月29日	慶・閔交流保存科学研究会への参加。大邱国立博物館および慶州国立博物館所蔵遺物の調査・施設見学を行う	運営費交付金
5	降幡 順子	大韓民国	4月25日～4月27日	慶・閔交流保存科学研究会への参加	科学研究費
6	杉山 洋	カンボジア	4月29日～5月2日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
7	川畑 純	大韓民国	5月2日～5月4日	出土資料（韓国出土倭系甲冑）の調査	科学研究費
8	星野 安治	中国	5月9日～5月16日	科学研究課題にかかる調査・研究資料収集のため	科学研究費
9	石村 智	アメリカ	5月12日～5月18日	アジア太平洋地域水文化遺産会議にて研究発表	科学研究費
10	脇谷 草一郎	大韓民国	5月19日～5月22日	ICOMOS-ISGS Koreaにおける研究発表	運営費交付金
11	星野 安浩	中華人民共和国	5月19日～5月27日	天津市・河北省・山西省の古建築における年代学調査に対する協力・指導・助言	先方負担
12	鈴木 智大	中華人民共和国	5月19日～5月27日	天津市・河北省・山西省の古建築における建築史的調査	科学研究費
13	佐藤 由似	カンボジア	5月19日～7月25日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
14	杉山 洋	カンボジア	5月29日～5月31日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
15	石村 智	カンボジア、シンガポール	6月2日～6月8日	科研費「アンコール王朝末期の総合的歴史学建築」のための資料調査	科学研究費
16	杉山 洋	カンボジア	6月2日～6月12日	カンボジア・西トップ遺跡の調査	助成金
17	森本 晋	カンボジア	6月4日～6月10日	アンコール地域における遺跡登録情報に関する調査	科学研究費
18	丹波 崇史	モンゴル	6月5日～6月11日	SEAA 6（第6回世界東アジア考古学会）への参加	科学研究費
19	渡邊 敦子	カンボジア	6月5日～6月9日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
20	田村 朋美	モンゴル	6月9日～6月10日	SEAA 6（第6回世界東アジア考古学会）への参加・研究発表	運営費交付金
21	田代 亜紀子	カタール	6月14～6月25日	第38回世界遺産委員会出席	運営費交付金
22	恵谷 浩子	カタール	6月14日～6月25日	第38回世界遺産委員会出席	運営費交付金
23	箱崎 和久	大韓民国	6月25日～6月28日	慶州市主催シンポジウム：「慶州の東宮と月池」への出席	運営交付金
24	田代亜紀子	タイ	6月27日～7月1日	基盤（B）「古代・中世東西回廊ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態（代表：京都大学 柴山守）研究打ち合わせ	科学研究費
25	杉山洋	カンボジア	6月29日～7月3日	カンボジア・西トップ遺跡の調査	科学研究費
26	森先 一貴	ロシア連邦	7月2日～7月9日	ロシア連邦ティモフスコエ州における日露国際共同遺跡調査	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
27	石村 智	台湾・パラオ	7月11日～7月17日	パラオにおける日本統治時代遺構の調査	科学研究費
28	石橋 茂登	大韓民国	7月12日～7月18日	研究打ち合わせ、資料調査	運営費交付金 先方負担
29	庄田慎矢	大韓民国	7月12日～7月18日	研究打ち合わせ、資料調査	運営費交付金 先方負担 科学研究費
30	海野 聡	大韓民国	7月18日～7月21日	韓国古建築調査	科学研究費
31	渡邊 晃宏	大韓民国	7月23日～7月25日	日韓共同研究による木簡調査・撮影	運営費交付金 先方負担
32	山本 祥隆	大韓民国	7月23日～7月25日	日韓共同研究による木簡調査・撮影	運営費交付金 先方負担
33	諫早 直人	大韓民国	7月23日～7月25日	日韓共同研究による木簡調査・撮影	運営費交付金 先方負担
34	栗山 雅夫	大韓民国	7月23日～7月25日	日韓共同研究による木簡調査・撮影	運営費交付金
35	杉山 洋	カンボジア ベトナム	7月23日～8月7日	ベトナム・タンロン皇城遺跡の調査指導およびカンボジア・西トップ遺跡の調査	文化庁受託 科学研究費
36	石村 智	ベトナム	7月24日～7月28日	拠点交流事業ベトナム出土木製品に関する調査	文化庁受託 先方負担
37	清野 孝之	ベトナム	7月24日～7月28日	タンロン皇城遺跡出土瓦と展示方法検討支援	先方負担
38	諫早 直人	イギリス	8月2日～8月10日	大英博物館所蔵ゴランドコレクションの調査	科学研究費
39	今井 昇樹	中華人民共和国	8月5日～8月8日	国際シンポジウムでの報告	運営費交付金
40	石村 智	フィジー	8月6日～8月12日	拠点交流事業によるフィジーでの現地調査	東文研 (文化庁受託)
41	高妻 洋成	ベトナム・タイ	8月7日～8月12日	拠点交流事業ベトナム出土木製品保存事業ワークショップ開催および出土木製品調査	文化庁受託
42	和田 一之輔	ベトナム・タイ	8月7日～8月12日	拠点交流事業ベトナム出土木製品保存事業ワークショップ開催および出土木製品調査	文化庁受託
43	田代 亜紀子	ベトナム・タイ	8月7日～8月12日	拠点交流事業ベトナム出土木製品保存事業ワークショップ開催および出土木製品調査	文化庁受託
44	平澤 毅	中華民国	8月9日～8月14日	台湾の名勝地の現状に関する現地調査等	科学研究費
45	佐藤 由似	カンボジア	8月14日～9月10日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
46	庄田 慎矢	イギリス、フランス、スイス	8月18日～8月31日	研究打ち合わせ、資料調査、学会発表	科学研究費
47	廣瀬 覚	大韓民国	8月18日～10月2日	慶州国立文化財研究所との発掘調査交流	運営費交付金
48	森本 晋	カンボジア	8月23日～8月26日	アンコール地域における上智大学調査資料に関する調査	科学研究費
49	田代 亜紀子	カンボジア・タイ	8月23日～8月29日	アンコール遺跡群調査および研究打ち合わせ	科学研究費
50	菊地淑人	インドネシア・シンガポール	8月24日～8月30日	海外文化的景観（世界遺産）に関する現地調査	運営費交付金
51	玉田 芳英	中華人民共和国	8月25日～8月28日	京都大学大学院講義のための資料調査研究	他機関負担
52	難波 洋三	中華人民共和国	8月25日～8月29日	河南省文物考古研究院との協議、ならびに資料調査	運営費交付金
53	丹波 崇史	中華人民共和国	8月25日～8月28日	河南省文物考古研究院との協議、ならびに資料調査	運営費交付金
54	大澤正吾	中華人民共和国	8月25日～8月28日	河南省文物考古研究院との協議、ならびに資料調査	運営費交付金
55	杉山 洋	カンボジア	8月25日～8月31日	プレアヴィヒア遺跡の調査	科学研究費
56	森先 一貫	チェコ	8月25日～9月1日	ミクロフ国際人類学会議への参加・研究発表	助成金 運営交付金
57	渡邊 晃宏	大韓民国	8月27日～9月1日	研究分担者をつとめる科学研究費による研究の遂行のため	科学研究費
58	杉岡 奈穂子	チェコ・スイス・フランス	9月7日～9月21日	The 18th International Microscopy Congress 2014 (Plague)にて成果発表 欧州で流通したインド製唐栴布の材料調査	科学研究費
59	清野 孝之	アメリカ	9月15日～9月23日	コロンビア大学との研究協力および交流	運営費交付金
60	星野 安浩	アメリカ	9月15日～9月23日	コロンビア大学との研究協力および交流	運営費交付金
61	若杉智宏	大韓民国	9月24日～9月26日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究にかかる調査	運営費交付金
62	田代 亜紀子	イギリス	10月6日～10月19日	資料収集・庭園観光調査	科学研究費
63	佐藤由似	中華民国・中華人民共和国	10月9日～10月18日	海から見た近世カンボジアに関する調査	助成金
64	海野 聡	大韓民国	10月10日～10月13日	韓国古建築調査	科学研究費
65	前川 歩	大韓民国	10月10日～10月13日	シンポジウム「森羅の王宮 建築物 復元」への参加・発表	先方負担
66	小野健吉	イギリス	10月10日～10月19日	資料収集・庭園観光調査	科学研究費
67	脇谷 草一郎	ベルギー	10月12日～10月19日	SWBSS 2014 (Salt Weathering of Buildings and Stone Sculptures) における研究発表	運営費交付金
68	杉山 洋	カンボジア	10月16日～10月22日	西トップ遺跡の調査修復	助成金
69	加藤 真二	中華人民共和国	10月18日～10月25日	北京で開かれるシンポジウムへの出席および天津、済南で関連の調査を行う	私費 (研修規程に基づく研修)

	氏名	用務先	期間	用務	備考
70	森本 晋	中華民国	10月20日～10月24日	PNC(太平洋近隣会)2014年次大会「博物館コンピューティング」で発表	運営費交付金
71	石橋 茂登	大韓民国	10月27日～10月29日	「高松塚古墳墳丘整備の在り方に関する調査」に伴う韓国文化財庁、国立扶余文化財研究所へのヒアリング及び陵山里古墳群見学	文化庁受託
72	降幡順子	大韓民国	10月27日～10月29日	「高松塚古墳墳丘整備の在り方に関する調査」に伴う韓国文化財庁、国立扶余文化財研究所へのヒアリング及び陵山里古墳群見学	文化庁受託
73	前川 歩	大韓民国	10月27日～10月29日	「高松塚古墳墳丘整備の在り方に関する調査」に伴う韓国文化財庁、国立扶余文化財研究所へのヒアリング及び陵山里古墳群見学	文化庁受託
74	杉山 洋	カンボジア	10月27日～10月31日	西トップ遺跡の調査修復	助成金
75	田代 亜紀子	インドネシア	10月27日～11月6日	科研研究調査および文化省受託拠点交流事業ベトナム出土木製品保存事業ワークショップ準備	科学研究費 文化庁受託
76	諫早 直人	大韓民国	10月30日～11月3日	日韓交渉の考古学—古墳時代—第2回共同研究会における通訳および資料調査への参加	科学研究費
77	海野 聡	中華人民共和国	11月1日～11月3日	中国文献資料・町並み・庭園調査	科学研究費
78	伊東隆夫	中華人民共和国	11月4日～12月12日	科学研究費研究課題の研究遂行のための調査および研究資料の収集	科学研究費 先方負担
79	佐藤 由似	カンボジア	11月5日～12月31日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
80	森本 晋	タイ・カンボジア	11月11日～11月15日	アンコール関連資料の調査ならびにアンコール地域における上智大学調査資料調査打ち合わせ	科学研究費
81	加藤 真二	大韓民国	11月12日～11月16日	アジア旧石器協議会への出席、海外共同研究の成果についての発表	運営費交付金
82	石橋 茂登	アメリカ	11月12日～11月18日	在外青銅器関係資料調査	科学研究費
83	杉山 洋	カンボジア・ミャンマー	11月17日～11月25日	西トップ遺跡の調査修復およびミャンマーにおける遺跡保存と活用	科学研究費
84	石村 智	ミャンマー	11月23日～11月29日	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業の考古分野におけるワークショップでの講義	文化庁受託
85	森本 晋	ミャンマー	11月23日～11月30日	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業の考古分野におけるワークショップでの講義	文化庁受託
86	小野健吉	大韓民国	11月25日～11月28日	慶州市・森羅文化遺産研究院主催「慶州の古代宮殿遺跡の望ましい活用に関する国際シンポジウム」招聘参加	先方負担
87	石村 智	カンボジア	12月3日～12月9日	科研費「アンコール王朝末期の総合的歴史学建築」のための資料調査	科学研究費
88	杉山 洋	カンボジア	12月3日～12月9日	西トップ遺跡の調査修復	助成金
89	今井 昇樹	中華人民共和国	12月3日～12月12日	洛陽、鄴城出土資料の調査	運営費交付金
90	栗山 雅夫	中華人民共和国	12月3日～12月12日	洛陽、鄴城出土資料の調査	運営費交付金
91	森本 晋	フランス	12月7日～12月15日	ギメ美術館・フランス極東におけるアンコール関係データベースの調査	科学研究費
92	田村 朋美	中華人民共和国	12月8日～12月17日	中国南部におけるガラス製遺物の調査	科学研究費 運営費交付金
93	星野 安浩	ペルー	12月12日～12月23日	植生調査、遺跡年輪試料に関する研究打合せ、考古・歴史年代測定に関する現状調査	先方負担
94	恵谷 浩子	中華人民共和国	12月15日～12月19日	ACCU2014年度国際会議出席	先方負担
95	杉山 洋	カンボジア	12月17日～12月26日	カンボジア・アンコール・トム内の水利企画についての調査	科学研究費
96	青木 敬	大韓民国	12月27日～12月30日	新羅・朝鮮王陵の構築技術調査および現地調査	科学研究費
97	田代 亜紀子	タイ	27年1月4日～1月8日	科研「古代・中世東西回廊—ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交流網の歴史的動態」研究打ち合せ・アジア歴史地理情報学会出席	科学研究費
98	加藤 真二	バングラディッシュ	27年1月8日～1月18日	ACCU実施の「文化遺産ワークショップ2014」講師	先方負担
99	佐藤 由似	カンボジア	1月14日～1月27日	海から見た近世カンボジアに関する調査	助成金
100	高妻 洋成	インドネシア	27年1月15日～1月21日	拠点交流事業ベトナム出土木製品保存事業国際研究会参加とインドネシア出土木製品調査	文化庁受託
101	田村朋美	インドネシア	27年1月15日～1月21日	拠点交流事業ベトナム出土木製品保存事業国際研究会参加とインドネシア出土木製品調査	文化庁受託
102	松村 恵司	カンボジア	27年1月17日～1月21日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
103	上田浩司	カンボジア	27年1月17日～1月21日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力にかかる西トップ遺跡の調査研究ならびに監査・視察	運営費交付金
104	田中 康成	カンボジア	27年1月17日～1月21日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力にかかる西トップ遺跡の調査研究ならびに監査・視察	運営費交付金
105	高梨 泰裕	カンボジア	27年1月17日～1月21日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力にかかる現状確認	運営費交付金
106	杉山 洋	カンボジア	1月17日～1月24日	カンボジア・西トップ遺跡の調査修復	運営費交付金
107	高田 祐一	カンボジア	1月19日～1月24日	アンコール遺跡群における砂岩材の調査	助成金
108	飯田 ゆりあ	カンボジア	1月19日～1月24日	カンボジア出土資料の写真撮影	科学研究費
109	井上 直夫	カンボジア	1月19日～1月24日	カンボジア出土資料の写真撮影	科学研究費
110	田村 朋美	大韓民国	1月28日～2月3日	大韓文化財研究院2015国際学術大会に参加、および光州出土ガラス製品の調査	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
111	加藤 真二	中華人民共和国	2月4日～2月7日	平城宮跡展示館の基本設計修正のための資料調査	国交省受託
112	諫早 直人	モンゴル	2月8日～2月16日	匈奴・突厥墓出土金属製品の調査	科学研究費
113	森本 晋	カンボジア ラオス	2月10日～2月15日	アンコール期の遺構・遺物の記録方法に関する調査	科学研究費
114	佐藤 由似	カンボジア ミャンマー	2月10日～3月14日	アンコール文化遺産の保護に関する研究協力およびミャンマーにおける文化財調査	運営費交付金
115	杉山 洋	カンボジア ミャンマー	2月13日～2月23日	カンボジアおよびミャンマーにおけるポストアンコール期遺跡の調査	科学研究費
116	森本 晋	ミャンマー	2月19日～2月25日	アンコール朝と平行する時期の遺跡・遺構・遺物の記載方法に関する現地調査	科学研究費
117	田代 亜紀子	ミャンマー	2月20日～2月24日	科研「古代・中世東西回廊ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態」現地調査	科学研究費
118	石村 智	ミャンマー	2月20日～2月26日	ミャンマーにおけるポストアンコール期関連遺跡の現地調査	科学研究費
119	森先 一貴	ロシア連邦	2月24日～3月1日	科研「北東アジア新石器時代の広領域分散型社会における相互影響の解明に向けた考古学研究」に関わる資料調査	科学研究費
120	星野 安治	グアテマラ	2月28日～3月15日	ボーリング調査、植生調査	科学研究費
121	平澤 毅	中華人民共和国	3月5日～3月11日	中国の名勝地の現状に関する現地調査等	科学研究費
122	馬場 基	中華民国	3月10日～3月12日	科研「古代中世東アジアの関所と交通政策」による資料見学のため	科学研究費
123	神野 恵	中華民国	3月10日～3月12日	科研「古代中世東アジアの関所と交通政策」による資料見学のため	科学研究費
124	浦 蓉子	中華民国	3月10日～3月12日	科研「古代中世東アジアの関所と交通政策」による資料見学のため	科学研究費
125	諫早 直人	大韓民国	3月11日～3月16日	国立歴史民俗博物館共同研究に係る資料調査、第2回研究会および全羅南北道西南海岸地域の墳墓踏査	先方負担
126	杉山 洋	カンボジア	3月17日～3月20日	カンボジアにおけるポストアンコール遺跡の調査	科学研究費
127	小池 伸彦	中華人民共和国	3月17日～3月21日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
128	清野 孝之	中華人民共和国	3月17日～3月21日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
129	今井 晃樹	中華人民共和国	3月17日～3月21日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
130	廣瀬 覚	中華人民共和国	3月17日～3月21日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
131	石田 由紀子	中華人民共和国	3月17日～3月21日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
132	栗山 雅夫	中華人民共和国	3月17日～3月21日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
133	高妻 洋成	オーストリア	3月18日～3月23日	漆喰資料の調査（ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷模型の漆喰壁）	科学研究費
134	鈴木 智大	大韓民国	3月20日～3月22日	韓国慶州の古建築および遺跡の建築史的調査	科学研究費
135	玉田 芳英	大韓民国	3月25日～3月27日	京都大学大学院講義のための資料調査研究および発掘現場の視察	他機関負担
136	清野 孝之	韓国	3月25日～3月27日	韓国国立文化財研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
137	廣瀬 覚	韓国	3月25日～3月27日	韓国国立文化財研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
138	小田 裕樹	韓国	3月25日～3月27日	韓国国立文化財研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
139	諫早 直人	韓国	3月25日～3月27日	韓国国立文化財研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
140	若杉 智宏	韓国	3月25日～3月27日	韓国国立文化財研究所との国際共同研究（研究計画の協議および調査）	運営費交付金
141	今井 晃樹	中国	3月27日～3月30日	北京大学で開催される学会への参加	運営費交付金
142	森本 晋	イタリア	3月28日～4月6日	国際学会「考古学におけるコンピューターへの応用と数量的方法（CA A）」出席	運営費交付金

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ21人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	大貫 美佐子	オランダ（ライデン・アムステルダム）	26年4月17日～22日	「コミュニティ主導の無形文化遺産記録とその活用に関するレポートの出版」専門家との会合	文化庁受託経費
2	荒田 明夫	中華人民共和国（北京）	26年5月27日～29日	中国C2センター（CRIHAP）の第3回運営理事会出席	文化庁受託経費
3	三島 貴雄	中華人民共和国（北京）	26年5月27日～29日	中国C2センター（CRIHAP）の第3回運営理事会出席	文化庁受託経費
4	荒田 明夫	フランス共和国（パリ）	26年5月31日～6月8日	第5回ユネスコ無形文化遺産総会及びカテゴリー I I I センター会議出席	文化庁受託経費
5	辻 修次	マレーシア（クアラルンプール）	26年6月20日～6月22日	東南アジア島嶼部におけるICH研究動向に係る情報収集	文化庁受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
6	荒田 明夫	サモア (アピア)	26年8月31日～9月5日	"The parallel event on safeguarding ICH for sustainable development in SIDS"出席	文化庁補助金(防災)
7	大貫 美佐子	スリランカ (コロンボ)	26年9月15日～20日	「工芸技術の継承に係る実態調査」(平成26年度文科省政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業)に関するスリランカ政府との打合せ	文部科学省補助金
8	児玉 茂昭	スリランカ (コロンボ)	26年9月16日～19日	「工芸技術の継承に係る実態調査」(平成26年度文科省政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業)に関するスリランカ政府との打合せ	文部科学省補助金
9	荒田 明夫	大韓民国 (杭州)	26年11月3日～11月5日	韓国C2センター(ICHCAP)の第5回運営理事会出席	文化庁受託経費
10	児玉 茂昭	マレーシア (クアラルンプール)	27年1月25日～28日	「International Experts Meeting of the Project "Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region"」参加	文化庁受託経費
11	三島 貴雄	マレーシア (クアラルンプール)	27年1月24日～27日	「International Experts Meeting of the Project "Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region"」参加	文化庁受託経費
12	サンドロヴィッチ ティムール	マレーシア (クアラルンプール)	27年1月24日～29日	「International Experts Meeting of the Project "Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region"」参加	文化庁受託経費
13	荒田 明夫	マレーシア (クアラルンプール)	27年1月24日～29日	「International Experts Meeting of the Project "Mapping Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region"」参加	文化庁受託経費
14	大貫 美佐子	ベトナム (ハノイ)	27年1月26日～29日	「Workshop on the Roles of the Community Centre in ICH revitalization: a case study of Dong Ho Woodblock printing」参加	文部科学省補助金
15	児玉 茂昭	ベトナム (ハノイ)	27年1月28日～31日	「Workshop on the Roles of the Community Centre in ICH revitalization: a case study of Dong Ho Woodblock printing」参加	文部科学省補助金
16	野嶋 洋子	ミャンマー (ヤンゴン)	27年2月8日～12日	ヤンゴン大学とのネットワーク構築	文化庁受託経費
17	大貫 美佐子	シンガポール (シンガポール)	27年3月24日～28日	「Conference on Geographical Indications at the Crossroad of Trade, Development, and Culture in Asia-Pacific」出席及び現地調査	文化庁受託経費
18	児玉 茂昭	シンガポール (シンガポール)	27年3月25日～28日	「Conference on Geographical Indications at the Crossroad of Trade, Development, and Culture in Asia-Pacific」出席及び現地調査	文化庁受託経費
19	荒田 明夫	ベトナム (ハノイ)	27年3月23日～26日	「The closing meeting on the integration of intangible cultural heritage in education for sustainable development」出席	文化庁受託経費
20	サンドロヴィッチ ティムール	ベトナム (ハノイ)	27年3月25日～28日	「無形文化遺産の保護に関する研究のマッピング」事業における専門家との打ち合わせ及び現地調査	文化庁受託経費
21	荒田 明夫	中華人民共和国 (北京・曲阜)	27年3月30日～4月2日	中国C2センター(CRIHAP)の第4回運営理事会出席	

【文化財防災ネットワーク推進室】延べ6人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	栗原 祐司	スウェーデン	8月1日～11日	ICOM-CAMOC Conference2014 参加他	美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業補助金
2	益田 兼房	ポルトガル	10月2日～11日	イコモス文化遺産防災国際学術委員会会議参加及び大地震被災復旧状況調査	同上
3	岩田 侑利子	韓国	10月6日～10日	Museums and the Web Asia2014会議出席	同上
4	栗原 祐司	エジプト	10月9日～14日	ICOM-UMAC/CECA年次大会への出席及びポスター発表・文化財現況調査	同上
5	益田 兼房	イタリア	11月3日～15日	イタリアの文化遺産防災マップ調査及びイコモス防災部会出席	同上
6	栗原 祐司	スイス	27年2月17日～22日	国連防災世界会議打合せ及び関連施設視察	同上

c-② 調査研究テーマ一覧

平成27年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
202 件	145 件	71 件	18 件	18 件	38 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	56 件	25 件	31 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】 計71件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	收藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長 田良島哲
2	特別調査「法隆寺献納宝物」（第36次）「書跡」「聖徳太子伝私記（古今目録抄）」（第1年度）	学芸研究部	調査研究課長 田良島哲
3	特別調査「書跡」第12回	学芸研究部	調査研究課長 田良島哲
4	特別調査「工芸」第6回	学芸研究部	調査研究課工芸室長 竹内奈美子
5	特別調査「彫刻」第4回	学芸研究部	列品管理課平常展調整室長 丸山 士郎
6	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課長 神庭信幸
7	漆塗籠棺残片の保存に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課長 神庭信幸
8	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀
9	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸研究部	調査研究課長 田良島哲
10	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀
11	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	保存修復課保存修復室主任研究員 沖松健次郎
12	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室客員研究員 恵美千鶴子
13	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	調査研究課考古室長 白井克也
14	宮崎県西都原古墳群出土資料基礎調査（共同調査）	学芸研究部	列品管理課主任研究員 古谷毅
15	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	列品管理課主任研究員 古谷毅
16	縄文時代における浅鉢形土器の研究（学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	調査研究課考古室研究員 井出浩正
17	博物館における文化財の情報資源化に関する研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	博物館情報課長 高橋裕次
18	古墳時代の農具研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 河野正訓
19	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究（学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	客員研究員 澤田むつ代
20	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	調査研究課工芸室研究員 三田寛之
21	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課教育講座室長 浅湊毅
22	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	学芸企画部企画課国際交流室長 鬼頭智美
23	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	学芸企画部付 浅見龍介
24	日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究（科学研究補助金）	学芸研究部	学芸企画部長 伊藤嘉章
25	描いた女性たちに関する研究—桃山時代から明治・大正期まで（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 山下善也
26	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	列品管理課主任研究員 古谷毅
27	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獸鏡の総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課主任研究員 古谷毅
28	木彫像の樹種識別技術の高度化（科学研究費補助金）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長 和田浩
29	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員 塚本慶充
30	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信（科学研究費補助金）	学芸研究部	副館長 島谷弘幸
31	特別展「台北 國立故宮博物院—神品至宝—」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課長 富田 淳
32	2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華 陶磁名品展」に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室研究員 横山 梓
33	特別展「日本国宝展」に関する調査研究	学芸企画部	広報室長 伊藤信二
34	特別展「みちのくの仏像」に関する調査研究	学芸企画部	列品管理課平常展調整室長 丸山 士郎
35	特別展「3.11大津波と文化財の再生」に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長 神庭信幸
36	特別展「鳥獣戯画—京都 高山寺の至宝—」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員 土屋貴裕
37	特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏—仏教美術の源流」に関する調査研究	学芸企画部	企画課長 小泉惠英
38	特別展「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部調査研究課考古室主任研究員 品川欣也
39	特別展「始皇帝と大兵馬俑展」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課主任研究員 川村佳男
40	特別展「生誕150年 黒田清輝」（仮称）に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長 松嶋雅人
41	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	博物館情報課長 高橋裕次
42	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	平常展調整室主任研究員 川村佳男
43	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	学芸研究部	保存修復課長 神庭信幸
44	絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員 土屋貴裕
45	神像表現における物語性に関する研究（学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	学芸研究部平常展調整室長 丸山士郎
46	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究（学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員 小野真由美
47	刀装具—一派後藤家の鑑定 極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸研究部	保存修復課保存修復室研究員 酒井元樹
48	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察に関する研究（科学研究費補助金・学術	学芸研究部	学芸企画部企画課特別展室長 松嶋雅人

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
	研究助成基金助成金)		
49	東アジアにおける繡仏の基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	広報室長 伊藤信二
50	極薄青銅器の製作技術解明-中国金属工芸史を再構築するための基盤研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員 川村佳男
51	ディルムン文明の起源-パハレーン島における古墳群の考古学的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	特任研究員 後藤 健
52	東アジアからみた乾隆画壇の総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員 塚本磨充
53	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相(科学研究費補助金)	学芸研究部	学芸企画部付 松本伸之
54	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	学芸企画部企画課特別展室アソシエイトフェロー 小野塚拓造
55	中国典籍日本古写本の研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課長 田良島哲
56	5~9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課講座室長 浅湊 毅
57	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長 和田浩
58	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	学芸企画部企画課出版企画室長 勝木言一郎
59	博物館の環境保存に関する研究	学芸研究部	保存修復課長 神庭信幸
60	被災博物館等汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長 和田浩
61	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長 木下史青
62	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長 小林 牧
63	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長 村田良二
64	凸版印刷と共同で、ミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する	学芸研究部	学芸企画部長 伊藤嘉章
65	聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築(学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー 川岸瀨里
66	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸企画部	教育講座室 神辺知加
67	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究: 新来館者の定着に向けた実証的調査分析(科学研究費補助金)	学芸企画部	総務部総務課渉外開発担当主任 関谷泰弘
68	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸企画部	学芸研究部調査研究課考古室主任研究員 品川欣也
69	日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開(科学研究費補助金)	学芸企画部	企画課デザイン室長 木下史青
70	文化財管理における美術用語事典の作成(科学研究費補助金)	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長 村田良二
71	美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発(科学研究費補助金)	学芸企画部	博物館教育課教育普及室主任研究員 藤田千織

【京都国立博物館】 計18件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	收藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	学芸部長 松本伸之
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
3	特別調査「彫刻」	学芸部	列品管理室長 浅見龍介
4	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員 降志哲男
5	特別調査「漆工」(科学研究費補助金)	学芸部	列品管理室主任研究員 永島明子
6	特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」に関する調査研究	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
7	特別展覧会「桃山時代の狩野派」に関する調査研究	学芸部	上席研究員 山本英男
8	特別展覧会「琳派(仮称)」に関する調査研究	学芸部	教育室長 山川 暁
9	特別展覧会「山陰の古刹 鳥根鰐淵寺の名宝」に関する調査研究	学芸部	企画室研究員 末兼俊彦
10	特別展覧会「天野山金剛寺の名宝」に関する調査研究	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
11	近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金)	学芸部	企画室長 宮川禎一
12	近世絵画に関する調査研究	学芸部	上席研究員 山本英男
13	近畿旧家伝来財総合調査	学芸部	企画室研究員 末兼俊彦
14	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
15	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
16	文化財情報に関する調査研究	学芸部	列品管理室長 浅見龍介
17	平成知新館における教育ツールの開発	学芸部	教育室長 山川 暁
18	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究	学芸部	教育室長 山川 暁

【奈良国立博物館】 計18件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	收藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	学芸部長 内藤 栄
2	復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究	学芸部	保存修理指導室長 谷口耕生
3	平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての情報資源化を図る(学術研究助成基金助成金)	学芸部	企画室長 野尻 忠
4	仏教工芸の総合的調査	学芸部	部長 内藤 栄
5	古墳・古墓出土品の調査と研究	学芸部	情報サービス室長 吉澤 悟
6	醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展「国宝 醍醐寺のすべて-密教のほとけと聖教-」に関する調査研究	学芸部	教育室員 斎木涼子
7	特別展「天皇后両陛下傘寿記念 第66回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	学芸部長 内藤 栄
8	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究	学芸部	情報サービス室長 吉澤 悟
9	特別陳列「お水取り」に関する調査研究	学芸部	教育室員 斎木涼子
10	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」に関する調査研究	学芸部	企画室長 野尻 忠
11	開館120年記念特別展「白鳳」に関する調査研究	学芸部	部長 内藤 栄
12	南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究	学芸部	上席研究員 岩田茂樹
13	綴織當麻曼荼羅(當麻寺蔵)、信貴山縁起絵巻(朝護孫子寺蔵)の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	学芸部	保存修理指導室長 谷口耕生

14	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	学芸部	保存修理指導室長 谷口耕生
15	収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	学芸部	保存修理指導室長 谷口耕生
16	収蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	学芸部	保存修理指導室長 谷口耕生
17	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	学芸部	教育室長 岩井共二
18	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	学芸部	資料室長 宮崎幹子

【九州国立博物館】 計 38件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	学芸部長 井上洋一
2	X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析	学芸部博物館科学課	博物館科学課長 今津節生
3	日本中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究	展示課	研究員 遠藤啓介
4	日本中世における仏涅槃図の基礎的研究	学芸部企画課	研究員 森實久美子
5	特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」に関する調査研究	展示課	主任研究員 岸本圭
6	特別展「発掘された日本列島2014」に関する調査研究	展示課	主任研究員 進村真之
7	特別展「戦国大名—九州の群雄とアジアの波濤—」に関する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員 荒木和憲
8	特別展「大英博物館 世界の歴史展（仮称）」に関する調査研究	学芸部企画課	文化交流展室長 河野一隆
9	特別展「美の国日本partⅡ」展に関する調査研究	展示課	展示課長 楠井隆志
10	特別展「アフガニスタン美術展」に関する調査研究	学芸部企画課	企画課長 臺信祐爾
11	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	学芸部企画課	企画課長 臺信祐爾
12	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金）	学芸部付	研究員 伊藤嘉章
13	中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱（高麗経箱）に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）	学芸部企画課	文化交流展室主任研究員 川畑憲子
14	タイにおける異文化の受容と変容—13世紀から18世紀の対外交易品を中心として—（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸部企画課	特別展室主任研究員 原田あゆみ
15	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員 荒木和憲
16	契丹壁画墓の集成と公開 —唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解—（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸部企画課	企画課長 臺信祐爾
17	水中遺跡の保存活用に関する調査研究（文化庁受託事業）	学芸部博物館科学課	博物館科学課長 今津節生
18	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	企画課	文化交流展室長 河野一隆
19	VR技術を活用した装飾古墳アーカイブに関する調査研究	学芸部企画課	文化交流展室長 河野一隆
20	平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究	学芸部	学芸部長 井上洋一
21	和泉市久保記念美術館の収蔵品の調査研究	学芸部博物館科学課	博物館科学課長 今津節生
22	中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究	学芸部博物館科学課	博物館科学課長 今津節生
23	九州南島の交流史に関する調査研究	展示課	保存修復室主任研究員 志賀智史
24	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	博物館科学課長 今津節生
25	博物館における文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室主任研究員 志賀智史
26	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎的研究	学芸部	特任研究員 本田光子
27	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究（学術研究助成基金助成金）	学芸部博物館科学課	環境保全室研究員 秋山純子
28	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発 —興福寺 国宝阿修羅像を中心に—（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸部博物館科学課	博物館科学課長 今津節生
29	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸部付	研究員 谷豊信
30	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	学芸部博物館科学課	保存修復室主任研究員 志賀智史
31	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究（学術研究助成基金助成金）	学芸部博物館科学課	環境保全室アシエイトフェロー 赤田昌倫
32	みんなでまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）	学芸部	特任研究員 本田光子
33	NHKと協同で高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた研究	展示課	特別展室主任研究員 市元壘
34	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	学芸部企画課	企画課長 臺信祐爾
35	学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きょうばっく」の研究・開発	交流課	教育普及室主任研究員 釜瀬進一郎
36	平成27年度を迎える開館10周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討	展示課	展示課長 楠井隆志
37	高等学校所蔵考古資料の調査研究	学芸部企画課	特別展室主任研究員 市元壘
38	文化財管理及び画像情報データベースの効率的な運用についての調査研究	学芸部文化財課	文化財課長 富坂賢

【東京文化財研究所】 計25件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	企画情報部	副所長（部長・文化財アーカイブズ研究室長兼務）田中 淳
2	文化財の資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長 津田徹英
3	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部	近・現代視覚芸術研究室長 塩谷 純
4	美術の表現・技法・材料に関する多角的な研究	企画情報部	広領域研究室長 小林公治
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長 飯島 満
6	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長 飯島 満
7	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長 飯島 満

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 (1件)

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部	広領域研究室長 小林公治

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 (9件)

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター	生物科学研究室長 木川りか
2 文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存科学研究室長 佐野千絵
3 文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター	分析化学研究室長 早川泰弘
4 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長 朽津信明
5 文化財の防災計画に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長 朽津信明
6 文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	保存修復科学センター	伝統技術研究室長 北野信彦
7 文化財修復材料の適用に関する調査研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長 朽津信明
8 近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長 中山俊介
9 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター	保存修復科学センター長 岡田 健

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備 (1件)

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	主任研究員 江村知子

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進 (7件)

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長 岡田 健 地域環境研究室長 山内和也
2 韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長 朽津信明
3 東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長 友田正彦
4 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	地域環境研究室長 山内和也
5 ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長 岡田 健 地域環境研究室長 山内和也
6 国際研修「紙の保存と修復」	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長 川野邊 渉
7 在外日本古美術保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長 川野邊 渉

【奈良文化財研究所】計31件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 (19件)

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長 吉川 聡
2 我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部	文化遺産部長 林 良彦
3 我が国の記念物に関する調査・研究 (遺跡等整備)	文化遺産部	文化遺産部長 林 良彦
4 我が国の記念物に関する調査・研究 (庭園)	文化遺産部	文化遺産部長 林 良彦
5 我が国の記念物に関する調査・研究 (国際研究交流)	文化遺産部	文化遺産部長 林 良彦
6 平城京右京一条二坊一坪・二条二坊四坪・一条南大路の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副所長 小野健吉
7 古代官衙・集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部 平城地区	副所長 小野健吉
8 古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部 平城地区	副所長 小野健吉
9 藤原宮跡の発掘調査 (大極殿院)	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 玉田芳英
10 藤原宮跡の発掘調査 (東方官衙北地区)	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 玉田芳英
11 飛鳥地域発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 玉田芳英
12 平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等	都城発掘調査部 平城地区	副所長 小野健吉
13 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 玉田芳英
14 東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	飛鳥資料館学芸室長 石橋茂登
15 アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	都城発掘調査部 平城地区	副所長 小野健吉
16 文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長 平澤 毅
17 遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦
18 出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 高妻洋成
19 遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 高妻洋成

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 (3件)

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 文化財の測量・探査等に関する研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦
2 年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 難波洋三
3 動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 難波洋三

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進 (1件)

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 高妻洋成

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施 (6件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 玉田芳英
2	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 玉田芳英
3	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力	都城発掘調査部 平城地区	副所長 小野健吉
4	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	飛鳥資料館	飛鳥資料館学芸室長 石橋茂登
5	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	企画調整部	企画調整部長 杉山 洋
6	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 玉田芳英

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部	企画調整部長 杉山 洋
2	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長 森本 晋

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長 荒田明夫

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
66件	21件	44件	1件

【東京文化財研究所】計21件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「ツバル・キリバス・フィジーの文化遺産保護に関する技術的調査」（受託）	無形文化遺産部
2	文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業（受託）	保存修復科学センター
3	絵金屏風の保存修理に関する調査研究（受託）	保存修復科学センター
4	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）	保存修復科学センター
5	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）	保存修復科学センター
6	高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査（受託）	保存修復科学センター
7	小石川後楽園得仁堂収蔵物の保存修復科学的な調査委託（受託）	保存修復科学センター
8	日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討（受託）	保存修復科学センター
9	万世特攻平和祈念館所蔵品調査事業（受託）	保存修復科学センター
10	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）	文化遺産国際協力センター
11	第39回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成（受託）	文化遺産国際協力センター
12	第38回世界遺産委員会審議調査研究事業（受託）	文化遺産国際協力センター
13	ラチャプラディット寺院螺鈿扉修復計画策定のための調査研究（受託）	文化遺産国際協力センター
14	文化遺産国際協力拠点交流事業（ブータン）（受託）	文化遺産国際協力センター
15	文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマー）（受託）	文化遺産国際協力センター
16	文化遺産国際協力拠点交流事業（アルメニア及びコーカサス諸国等）（受託）	文化遺産国際協力センター
17	文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス及び中央アジア諸国）（受託）	文化遺産国際協力センター
18	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務（受託）	文化遺産国際協力センター
19	2014年度エジプト国別研修「保存修復材料としての和紙(A)」に係る委託契約コースに係る委託契約（受託）	文化遺産国際協力センター
20	常磐橋鉄材試料の分析調査（受託）	文化遺産国際協力センター
21	美術工芸品修理技術者人材等に関する調査研究（受託）	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】計44件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成26年度文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業・考古分野）（受託）	企画調整部
2	平成26年度増田地区伝統的建造物詳細調査業務委託（受託）	企画調整部
3	京都市の文化的景観保存計画策定調査（受託）	文化遺産部
4	相川地区文化的景観保存計画策定調査（受託）	文化遺産部
5	宇治茶生産の文化的景観における特性調査及び全覧図作成業務委託（受託）	文化遺産部
6	道路建設及び分譲住宅新築に伴う法華寺旧境内の発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
7	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
8	平城京左京三条一坊十五坪の発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
9	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
10	興福寺旧境内・奈良町遺跡の発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
11	興福寺防災工事に伴う発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
12	興福寺西室・北円堂発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
13	分譲住宅造成・建築に伴う法華寺旧境内の発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
14	共同住宅建設に伴う法華寺旧境内の発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
15	平城宮北方遺跡の発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
16	共同住宅建設に伴う法華寺旧境内東辺部の発掘調査（受託）	都城発掘調査部 平城地区
17	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託（受託）	都城発掘調査部 平城地区

18	平城宮跡歴史公園工事関連施設造成区域発掘調査（受託）	都城発掘調査部	平城地区
19	本薬師寺跡(北村宅)発掘調査（受託）	都城発掘調査部	飛鳥・藤原地区
20	藤原京跡・田中廃寺(森田宅)発掘調査（受託）	都城発掘調査部	飛鳥・藤原地区
21	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）	都城発掘調査部	飛鳥・藤原地区
22	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）	都城発掘調査部	飛鳥・藤原地区
23	高松塚古墳墳丘整備の在り方に関する調査業務（受託）	都城発掘調査部	飛鳥・藤原地区
24	キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡重立会等調査（受託）	都城発掘調査部	飛鳥・藤原地区
25	キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査業務（受託）	都城発掘調査部	飛鳥・藤原地区
26	鳥取市青谷横木遺跡・金沢坂津口遺跡出土木簡の保存処理等の総合的研究（受託）	都城発掘調査部	飛鳥・藤原地区
27	国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う環境調査（受託）	埋蔵文化財センター	
28	三内丸山遺跡出土漆製品の分析（受託）	埋蔵文化財センター	
29	闘鶏山古墳石槨の現状把握のための画像撮影と3Dデータ化（受託）	埋蔵文化財センター	
30	喜界町出土金属製遺物の保存処理（受託）	埋蔵文化財センター	
31	群馬県金井東裏遺跡出土ガラス製遺物の材質・構造調査（受託）	埋蔵文化財センター	
32	国宝薬師寺東塔顔料等分析調査業務委託（受託）	埋蔵文化財センター	
33	元町石仏が彫刻された凝灰岩の不飽和水分移動特性に関する研究 その2（受託）	埋蔵文化財センター	
34	史跡ガランドヤ古墳1号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究（受託）	埋蔵文化財センター	
35	平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業（受託）	埋蔵文化財センター	
36	実相寺古墳群総合的探査委託業務（受託）	埋蔵文化財センター	
37	ネットワーク型遺跡調査システムの開発（受託）	埋蔵文化財センター	
38	国宝薬師寺東塔木材年代測定業務(第2回)（受託）	埋蔵文化財センター	
39	新潟県糸魚川市六反田南遺跡出土の動物骨分析（受託）	埋蔵文化財センター	
40	東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）	埋蔵文化財センター	
41	波怒楽館遺跡種度の動物遺存体の分析（受託）	埋蔵文化財センター	
42	木村定三コレクション黒漆厨子のテラヘルツイメージングによる診断調査の予備試験（受託）	埋蔵文化財センター	
43	文化遺産国際協力拠点交流事業 ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業（受託）	埋蔵文化財センター	
44	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（受託）	埋蔵文化財センター	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成26年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

平成27年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
296件	191件	104件	25件	39件	23件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	105件	60件	45件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0件			

【東京国立博物館】 104件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「書の楽しみ」	副館長 島谷弘幸	4月19日	山陽新聞社
2	同上	「高木聖鶴の書と魅力」	同上	6月7日	岡山県立美術館
3	同上	パネルディスカッション「世界的な事業：機会と起こりうる落とし穴 異文化間の共同事業における成功と挑戦についての事例研究」	同上	7月15日	サンフランシスコ・アジア・アート美術館
4	同上	「詩文書 その表現と未来」	同上	7月19日	日本詩文書作家協会
5	同上	「ゲーム美術館でのアジア美術紹介活動」（ゲーム美術館マカリウ館長と対談）	同上	7月20日	毎日書道会
6	同上	「書の鑑賞について」	同上	9月20日	熊野町筆の里工房
7	同上	「書の鑑賞と創造」	同上	10月4日	第六十六回毎日書道展北海道展
8	同上	「平安時代の書」	同上	10月9日	現代書道研究所
9	同上	「夢の実現に向けて」	同上	10月24日	高梁中学校
10	同上	「中国書法の受容と呉昌碩」	同上	10月25日	高梁市立成羽美術館
11	同上	「『大手鑑』の書」	同上	27年1月24日	陽明文庫講座
12	同上	基調講演「日本の寺院壁画をめぐる諸問題」	企画課出版企画室長 勝木言一郎	7月26日	国際シンポジウム「嶺南地域における伝統寺院の仏殿壁画研究の現状と課題」
13	同上	基調報告「大谷探検隊とパキスタン北部の仏教遺跡について」	同上	11月8日	日本・パキスタン協会 シンポジウム・パーキスターン2014「文化財」
14	同上	東京国立博物館所蔵十二月花鳥和歌巻の制作背景について ―後水尾院との関係を中心に―	企画課出版企画室 遠藤 菜子	5月17日	美術史学会全国大会
15	同上	浄瑠璃寺の九体阿弥陀と四天王をめぐる	博物館教育課教育講座室長 浅萩 毅	5月12日	仏教美術研究上野記念財団助成研究会
16	同上	南山城の鎌倉彫刻と慶派仏師	同上	5月31日	京都国立博物館
17	同上	鰐淵寺の歴史と文化財	同上	11月15日	島根県文化財愛護協会
18	同上	「Tsujiyahana Stitch-resist Dyeing in Muromachi-Momoyama Period in Japan」	博物館教育課教育普及室長 小山弓弦葉	11月1日	杭州・シルク博物館
19	同上	「辻が花にみる染織技術とその暮らし」	同上	27年3月19日	公益社団法人 京都染織文化協会
20	同上	「徽宗の古代青銅器文化復興」	学芸研究部長 谷豊信	10月25日	特別展「台北國立故宮博物院 神品至宝」記念シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味 工芸における復古と革新」（九州国立博物館）
21	同上	端午の節句 鎧と兜	上席研究員 池田宏	4月5日	東京国立博物館 月例講演会
22	同上	甲冑・絵図・文書―日御碕神社の白糸威鎧を例として―	同上	10月29日	國學院栃木短期大学
23	同上	書譜と黄州寒食詩巻	列品管理課長 富田淳	6月29日	大正大学、書道カレッジ特別公開講座
24	同上	皇帝コレクションの魅力	同上	7月4日	聖心女子学院、文化講座
25	同上	徽宗の7聖と乾隆帝の8聖について	同上	7月6日	東京国立博物館、記念シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味―書画における復古と革新―」
26	同上	台北國立故宮博物院 ―神品至宝―皇帝の愛した品々	同上	7月17日	千代田区立日比谷図書文化館、日比谷カレッジ
27	同上	台北國立故宮博物院 ―神品至宝―中国書跡の鑑賞法	同上	9月5日	大東文化大学、日中書法文化伝習塾
28	同上	趙之謙の書画と北魏の書―悲倉没後一三〇年―	同上	9月14日	東京国立博物館、連携講演会
29	同上	皇帝を魅了した名品たち―中国書跡を中心に―	同上	11月1日	九州国立博物館、特別講演会
30	同上	Collaborative Chinese Art Exhibitions at the Tokyo National Museum, 2012-14	同上	12月5日	大英博物館、2014 Forum for Curators of Chinese Art Programme
31	同上	西都原古墳群出土 重要文化財 埴輪子持家・船と国宝 金銅装馬具―その特徴と歴史的意義―	列品管理課主任研究員 古谷毅	5月11日	宮崎県立西都原考古博物館「特別展 西都原の100年 考古博の10年展」特別講演会
32	同上	古墳時代武装の性格―日本列島における武器武具の社会的役割―	同上	11月15日	埼玉県立歴史と民俗の博物館「特別展 甕の鉄剣展」記念講演会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
33	同上	三峽地区の塩竈形明器	列品管理課平常展調整室主任研究員 川村佳男	4月26日	塩業考古と古代社会国際学術研究会
34	同上	伊能忠敬の日本図	調査研究課長 田良島哲	7月19日	東京国立博物館 月例講演会
35	同上	「大名家の美術について」	絵画・彫刻室長・田沢裕賀	4月27日	弘前市立美術館リニューアルオープン記念展 記念講演会
36	同上	「木を描く風景-「松林図屏風」と「雪松図屏風」を中心に	同上	10月11日	仙台市博物館特別展 記念講演会
37	同上	狩野山楽・山雪についての新知見	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 山下善也	4月12日	美術史学会東支部例会(東京大学)
38	同上	狩野探幽における富士山図制作の重要性	同上	27年3月15日	フィラデルフィア美術館「The Art of Kano」展 Study's Day (フィラデルフィア美術館)
39	同上	栄西と建仁寺展	同上	6月15日	京都工芸繊維大学芸術資料館アートマネージャー養成講座(京都工芸繊維大学)
40	同上	土居ノートと狩野山雪の老梅図襖について	同上	9月6日	大阪大学 声フェスセミナー(大阪大学)
41	同上	富士山を描いた画家たち—近世を中心に—	同上	11月29日	柳川市史編さん委員会 第21回歴史文化講演会(柳川市立図書館)
42	同上	東北地方伝来の蒔絵絵馬について	調査研究課工芸室長 竹内奈美子	12月25日	歴博・展示型共同研究「学際的研究による漆文化史の新構築」平成26年度第6回研究会
43	同上	五十嵐道甫様式の蒔絵について—細部表現と地蒔を中心に	調査研究課工芸室長 竹内奈美子	27年2月26日	歴博・展示型共同研究「学際的研究による漆文化史の新構築」平成26年度第7回研究会
44	同上	“Ichikawa Beian Collection: Transitional Period of Collecting Chinese Art in Japan”	調査研究課東洋室 塚本 磨充	5月28日	Los Angeles County Museum, “Chinese Paintings from Japanese Collections” Scholars' Day Symposium
45	同上	「皇帝コレクションにおける模写・模造事業—乾隆帝の書画コレクションと狩野派—」	同上	7月5日	「特別展シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味」—書画における復古と革新—」(於: 東京国立博物館)
46	同上	「北京・故宮博物院本「清明上河図」と中国都市図の展開」	同上	10月5日	「開館50周年記念シンポジウム「描かれた都、開封と京都」(於: 林原美術館)
47	同上	「如何展示故宮文物—東京国立博物館的挑戦」	同上	12月4日	臺北藝術大學美術學院
48	同上	「《唐繪手鑑(筆耕園)》與江戸時代中國繪畫知識的架構」	同上	12月6日	「創新與創造: 明清知識建構與文化交流」國際學術研討會(於: 中央研究院 中國文哲研究所)
49	同上	世界の博物館の中国陶磁—故宮コレクションに憧れて	保存修復課保存修復室 三笠景子	7月27日	菊池寛実記念智美術館講座
50	同上	縄文の美の発見—美術史に現れた縄文土器—	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 鈴木希帆	10月8日	船橋市飛ノ台史跡公園博物館事業「縄文大学」
51	同上	Final Shaping of Iron Objects in Kofun Period Japan	カリフォルニア大学博士課程 James Scott Lyons、調査研究課考古室アソシエイトフェロー 河野正訓	4月12日	CalDay at ARF (US Berkeley Events)
52	同上	大室古墳群の群構造	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 河野正訓	5月18日	日本考古学協会第80回総会
53	同上	染織品の展示方法における新案	米倉乙世、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、調査研究課工芸室 三田覚之、客員研究員 澤田むつ代、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課長 神庭信幸	6月7日	文化財保存修復学会第36回大会
54	同上	劣化で一部分状化したガラス挟み法隆寺裂修理方法の一例—東京国立博物館所蔵作品の事例—	客員研究員 沢田むつ代、調査研究課工芸室 三田覚之、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、米倉乙世、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、北島恭代、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、山崎真紀子	6月7日	同上
55	同上	国宝障子屏風(東京国立博物館蔵)の修理事例 —本紙裏面に遺されていた情報に着目して—	国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修	6月7日	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
			復課保存修復室主任研究員 沖松健次郎、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、米倉乙世、国宝修理装講師連盟 君嶋隆幸		
56	同上	東京国立博物館における修理技術専門職員の役割について	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、米倉乙世、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課保存修復室主任研究員 沖松健次郎	6月7、8日	同上
57	同上	大型エックス線CTスキャナーの導入	保存修復課長 神庭信幸	12月20日	エックス線CTシンポジウム
58	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	津波被災資料の安定化処理—陸前高田市立博物館の取り組み—	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、米倉乙世、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、陸前高田市立博物館長 本多文人、陸前高田市立博物館副主幹 熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長 赤沼英男、盛岡第一高等学校教諭 目時和哉	6月7日	同上
59	同上	Stabilization processing of cultural assets damaged by the tsunami of 11 March 2011	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、陸前高田市立博物館副主幹 熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長 赤沼英男	9月17日	ICOM-CC, 17th Triennial Conference, 2014 Melbourne
60	同上	被災文化財等救援活動における保存修理—カンバス作品の脱塩の試み—	保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、米倉乙世、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、東京文化財研究所 小川絢子、保存修復課長 神庭信幸、土師広、西原紀江、池上久美	6月7日	文化財保存修復学会第36回大会
61	同上	陸前高田市立博物館染織資料修理経過報告	女子美術大学 岡田宣世、女子美術大学 大崎綾子、女子美術大学 安部みよ子、多摩美術大学 深津裕子、保存修復課長 神庭信幸、陸前高田市立博物館副主幹 熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長 赤沼英男、盛岡第一高等学校教諭 目時和哉	6月7日	同上
62	博物館環境デザインに関する調査研究	「博物館の展示照明と“顔”」	企画課デザイン室長 木下史青	12月15日	日韓美術解剖学会シンポジウム（ソウル 宮宮博物館）
63	同上	「アムステルダム国立美術館の施設改修・展示リニューアルのデザインについて」	同上	27年1月10日	「みんなのアムステルダム国立美術館へ」（於：渋谷ユーロスペース）
64	同上	「トーハクのデザイン 1999年～この15年」	同上	27年1月30日	千葉県美術館・博物館等職員研修会（於：千葉県立美術館）
65	同上	トークセッション『ミュージアムライティングの今と未来』	同上	27年3月5日	照明デザイン国際セミナー ENLIGHTEN ASIA+ライティング・フェア（於：東京ビックサイト）
66	博物館教育に関する調査研究	学校のよりよい利用形態にむけて（事例発表・ディスカッション）	博物館教育課教育普及室主任研究員 藤田千織	9月18日	文化庁 第4回ミュージアムエデュケーター研修
67	同上	シンポジウム「コレクションを活かした鑑賞教育とは」	同上	27年1月10日	上記科研成果発表・美術科教育学会共同開催
68	博物館資料・業務の情	ミュージアムアーカイブズとデータベース	博物館情報課情報管理室	6月7日	2014年度アート・ドキュメンター

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
	報処理に関する調査研究		長 村田良二		シオン学会年次大会
69	同上	インタラクティブメディアによる来館者向けデジタルアーカイブの公開	博物館情報課情報管理室 アソシエイトフェロー 和久井 暹、博物館情報課情報管理室長 村田良二	11月22日	アート・ドキュメンテーション学会2014年度秋季研究発表会
70	同上	東京国立博物館における資料のデジタル化の現状	博物館情報課情報管理室 長 村田良二	27年2月27日	みんぱくフォーラム型情報ミュージアム アーカイブズ関係研究会
71	特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」に関する調査研究	故宮コレクションと「倣古」—青銅器・玉器のかたちを象徴された伝統	列品管理課平常展調整室 主任研究員 川村佳男	6月28日	特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」記念講演
72	「日本国宝展」に関する調査研究	美と歴史を語る国宝の書	調査研究課長 田良島哲	8月10日	東京国立博物館 連続講座「国宝」
73	古墳時代の農具研究	Nature of Authority during the Kofun Period from the Standpoint of Iron Agricultural Tools	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 河野正訓	4月26日	SAA(Society For American Archaeology) 79th Annual Meeting
74	同上	古墳・三国時代における外来系農具の定着過程	同上	10月31日	「韓日交渉の考古学—三国・古墳時代—」研究会第2回共同研究会
75	同上	古墳時代前期の農工漁具の編年	同上	11月30日	中国四国前方後円墳研究会第17回研究集会
76	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	「古墳～飛鳥・奈良時代における金糸の仕様と変遷」	客員研究員 澤田むつ代	5月17日	東アジア考古学研究会
77	同上	「古墳出土の鉄刀・鉄剣の柄巻きと鞘巻き」	同上	5月24日	工芸文化研究会
78	同上	「劣化で一部粉状化したガラス挟み法隆寺裂修理方法の一例—東京国立はく物漢所蔵作品の事例」	同上	6月7日	文化財保存修復学会
79	同上	「古墳～飛鳥・奈良時代の金糸の変遷—金鈴塚古墳出土の金糸を中心に—」	同上	8月10日	千葉県木更津市郷土博物館金のすず
80	同上	「武者塚古墳出土の遺体の埋葬仕様と経緯の用途について」	同上	11月9日	重要文化財指定記念シンポジウム「武者塚古墳とその時代」
81	同上	法隆寺と正倉院の染織品—用途にみる形状の違い—	同上	12月3日	中国四川省成都・成都博物院・四川大学
82	同上	法隆寺と正倉院の染織品—さまざまな技法と文様—	同上	12月3日	同上
83	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	法隆寺献納宝物における百済系文物	調査研究課工芸室 三田 覚之	10月29日	韓国国立中央博物館
84	同上	日本・韓国 学術交流報告会—法隆寺献納宝物の源流を求めて—	同上	12月18日	東京国立博物館
85	極薄青銅器の製作技術解明 —中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究—	古代中国における極薄青銅器の製作技法 —東アジア諸地域との比較を視野に入れて—	列品管理課平常展調整室 主任研究員 川村佳男	8月8日	韓国国立中央博物館学術交流発表会
86	同上	中国青銅器をめぐる旅 4千年のものがたり	同上	10月11日	東京国立博物館10月月例講演会
87	同上	漢代青銅器にみる官宮工場の流派	同上	12月6日、7日	日本中国考古学会2014年度大会
88	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的研究	次世代型展示用照明器具の評価法に関する研究	保存修復課環境保存室長 和田浩、企画課特別展室長 松嶋雅人、企画課デザイン 室主任研究員 矢野賀一、 列品管理課平常展調整室 土屋貴裕	6月8日	文化財保存修復学会
89	タイにおける異文化の受容と変容—13世紀から18世紀の対外交易品を中心として—	An Intercultural and Comparative Study of Buddhist Art - Transformation of Narrative Art (タイの仏教説話美術の展開)	企画課長 小泉恵英、九州 国立博物館 原田あゆみ	11月25日	タイ芸術局
90	古代イスラエルの墓制と世界観に関する総合的研究	アッシリア後のパレスチナ —テル・レヘシユ第8次発掘報告—	立教大学准教授 長谷川 修一、上智大学教授 月本 昭男、古代オリエント博物 館 津本英利、企画課特別 展室アソシエイトフェロ ー 小野塚拓造	10月26日	日本オリエント学会 第56回大会
91	同上	油滴の地—聖書時代のオリーブ油生産—	企画課特別展室アソシエイトフェロー 小野塚拓造	11月15日	『聖書の世界を発掘する—聖書考古学の現在—』(上智大学キリスト教文化研究所 2014年度聖書講座)
92	同上	Multiple aspects of the 'Egypto-Canaanite system' during the Late Bronze Age and the Early Iron Age	同上	11月30日	Symposium "The Levant and Egypt in Contact" (早稲田大学エジプト学研究所主催・公開シンポジウム)
93	同上	新バビロニアの拠点遺跡を探る—イスラエル、テル・レヘシユ第8次発掘調査(2014年)	同上	27年3月22日	日本西アジア考古学会主催『平成26年度 考古学が語る古代オリエント 第22回西アジア発掘調査報告会—2014年度発掘調査の速報』
94	在欧日本仏教美術の	「海外展による日本美術の情報発信と国立	副館長 島谷弘幸	11月11日	文化庁海外専門家交流シンポジウ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
	基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信	博物館の現状			ム
95	スリランカ内線後の博物館および文化遺産に関する調査報告	スリランカ内線後の博物館および文化遺産に関する調査報告	企画課長 小泉恵英	7月23日	文化遺産国際協力コンソーシアム
96	博物館のマネジメントに関する調査研究	独立行政法人の統合問題—その経緯と問題点	総務部長 栗原祐司	6月28日	全日本博物館学会第40回研究大会
97	博物館展示に関する調査研究	日本博物館展示の最新趨勢	総務部長 栗原祐司	10月24日	Chinese International Exhibition innovation and Development Forum (中国・上海)
98	学芸員養成に関する調査研究	大学における学芸員養成を展望する	総務部長 栗原祐司	12月13日	法政大学学芸員課程設立50周年記念シンポジウム
99	我が国の博物館ネットワークに関する調査研究	Current Situation and Issues of the Human Rights Museum in Japan	総務部長 栗原祐司	5月3日	ICOM-INTERCOM & FIHRM 2014 Taipei Conference
100	同上	The Current Status and Challenges of Japan's University Museum Networks	総務部長 栗原祐司	10月10日	ICOM-CECA&UMAC 2014 Alexandria Conference
101	同上	我が国のスポーツ博物館の課題と可能性	総務部長 栗原祐司	12月7日	スポーツ史学会第28回大会
102	同上	都市博物館のあり方について—ICOM-CAMOCにおける議論から—	総務部長 栗原祐司	27年1月18日	京都文化博物館博学社連携シンポジウム
103	同上	ICOM大会招致に向けて	総務部長 栗原祐司	27年3月7日	文化遺産国際協力コンソーシアム
104	Museum Management	Challenge to Change: A Case Study of Branding of the Tokyo National Museum	Yasuhiro Sekiya Chief Officer Business Development	9月4日	MPR 2014 Taiwan Conference

【京都国立博物館】25件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	京都国立博物館の名品「人形と京都」	教育室長 山川 暁	4月12日	金沢中日文化センター 京都国立博物館の名品
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	「京都国立博物館蔵『続高僧伝』二種」	上席研究員 赤尾栄慶	7月19日	中国・復旦大学中華文明国際研究センター 国際学術検討会「仏教と中国宗教研究の新視野と新方法」
3	同上	「重要文化財「在家人布薩法巻第七」について—書誌学的観点から—」	同上	7月26日	国際仏教学大学院大学・東アジア仏教研究会「東アジア仏教写本研究拠点の形成」
4	同上	「高山寺旧蔵『安楽集』の古写本—書誌情報について—」	同上	7月27日	国際仏教学大学院大学・東アジア仏教研究会「東アジア仏教写本研究拠点の形成」
5	同上	「天野山金剛寺の文化財」	同上	10月25日	中国人民大学外国語学院「仏教と文学—日本金剛寺仏教典籍調査研究成果報告国際学術シンポジウム—」
6	同上	「つながらない手紙の謎—後深草天皇宸翰消息—」	保存修理指導室主任研究員 羽田 聡	6月14日	京都国立博物館名品は語る（金沢中日文化センター）
7	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	「茶の湯と朝鮮陶磁」	工芸室研究員 降矢哲男	4月26日	第130回高麗美術館研究講座
8	同上	「京都・堺の茶の湯文化」	同上	10月5日	大分市戦国時代館セミナー「戦国時代の庭園と茶の湯」
9	同上	「秀吉と茶の湯」	同上	12月17日	河内長野地域学講座V I <歴史編2>
10	特別展覧会「琳派」に関する調査研究	「琳派と染織」	教育室長 山川 暁	5月23日	京鹿の子紋振興協同組合総会
11	特別展覧会等の開催に伴う調査研究	「博物館における企画展・特別展の企画等について」	副館長兼学芸部長 松本伸之	9月5日	展示学会「展示論講座」（京都国立博物館講堂）
12	近世絵画に関する調査研究	「鉄斎と東坡：近代日本における文人への憧憬」	列品管理室研究員 吳 孟晋	10月5日	大和文華館・関西中国書画コレクション研究会公開研究会
13	同上	「近世京都の絵師たち—『京洛三十六家山水花鳥人物図貼交屏風』から見えるもの—」	教育室研究員 水谷亜希	10月28日	佛教学歴史学部歴史文化講座「文化財の復元・修復の世界」
14	同上	「<複製>から何をみるか」	同上	27年1月31日	シンポジウム「<複製>から何をみるか」
15	文化財の保存・修復に関する調査研究	「鳥獣戯画の修理」鼎談	美術室研究員 鬼原俊枝	11月15日	国際シンポジウム「鳥獣戯画を語る」於京都国立博物館
16	平成知新館における教育ツールの開発	国宝「風神雷神図屏風」を鑑賞する	教育室研究員 水谷亜希	6月18日	授業実践力向上講座（京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会）
17	同上	「文化財に親しむヒント～風神雷神図屏風と八橋図屏風を中心に～」	同上	7月28日	美術科夏季研修講座（京都市教育委員会・京都市立中学校教育研究会美術部会）
18	同上	「ユースを核とした、ミュージアム連携の可能性」（総合司会）	同上	27年2月1日	公開研究交流会 in KOBE 2015 ミュージアム×ユース for キッズ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
19	特別調査「漆工」	「世界史を語る日本の蒔絵—輸出漆器の名品たち—」	列品管理室主任研究員 永島明子	5月17日	金沢中日文化センター 開設40周年記念 「京都国立博物館 名品は語る」講座
20	同上	「文化財とコーパス」	同上	8月1日	京都国立博物館 夏期講座 古社寺と文化財II
21	同上	「うるしの魔法 まきえの魅力」	同上	11月30日	大阪青山歴史文学博物館2014秋季特別展 開館15周年記念「蒔絵名品展」関連講演会
22	同上	「南蛮漆器から紅毛漆器へ—海外向け特注品のプロデューサーは誰か—」	同上	12月13日	京都国立博物館 土曜講座
23	同上	「日本製蒔絵の輸出に関する基礎知識」	同上	27年1月25日	京都国立博物館 国際研究セミナー「日仏漆芸交流史を学ぶ」
24	同上	「大航海時代と日本の蒔絵」	同上	27年3月6日	明治大学大学院研究科共同研究プロジェクト(代表:理工学研究科教授宮腰哲雄)主催 平成 漆の講演会「スペインの南蛮漆器の文化と科学2015」
25	同上	「桃山の華—高台寺蒔絵と南蛮漆器—」	同上	27年3月22日	大和文華館 展覧会「花を愛でる」特別講演

【奈良国立博物館】 39件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	手紙と書札礼	館長 湯山賢一	7月26日	法隆寺夏季大学
2	同上	和紙の歴史	同上	2月28日	『特集展示 和紙 —文化財を支える日本の紙』記念講演&座談会 基調講演
3	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展 - 歴史と見どころ-	同上	10月11日	正倉院の楽しみ方〜まほろばの集い IN福岡〜 基調講演
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	平泉中尊寺の仏教美術	学芸部長 内藤 栄	2月10日	第4回歴史教室(於:平泉文化センターふれあいホール)
5	同上	密教法具の始まりを求めて	同上	4月20日	奈良国立博物館サンデートーク
6	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	飛鳥寺と日本の舎利信仰の始まり	同上	6月1日	うつき祭〜法会と公演(於:明日香村公民館)
7	同上	醍醐寺の舎利信仰と南都	同上	8月20日	奈良国立博物館夏季講座
8	同上	正倉院宝物から見えてくる聖武天皇像	同上	8月30日	奈良女子大学社会連携センター地域公開講座(於:奈良女子大学)
9	同上	基調講演「今年の正倉院展の見どころ」	同上	9月27日	正倉院フォーラム東京(於:よみうり大手町ホール)
10	同上	せいぶ正倉院講座	同上	10月28日	奈良市西部公民館
11	同上	日本工芸の源流としての正倉院宝物	同上	11月1日	正倉院学術シンポジウム2014「正倉院宝物に日本文化の源流を見る」(於:奈良県新公会堂)
12	同上	せいぶ正倉院講座	同上	11月5日	奈良市西部公民館
13	同上	正倉院宝物にみる百済文化—瑠璃坏を中心に—	同上	12月6日	第7回百済文化国際シンポジウム(於:奈良教育大学)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
14	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	仏像調査からわかること その3	上席研究員 岩田茂樹	10月5日	奈良国立博物館サンデートーク
15	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	平安時代の写経 九・十世紀篇	企画室長 野尻 忠	5月18日	奈良国立博物館サンデートーク
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	「第5回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」	情報サービス室長 吉澤 悟	9月21日	奈良国立博物館サンデートーク
17	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	考古学よりみた奈良時代の仏への祈りー正倉院宝物・鎮壇具・墳墓ー	同上	2月27日	ブレ戦略イニシアティブ「日本語日本文化発信力強化研究拠点形成」 「祈り」プロジェクト第3回ワークショップ（於：筑波大学）
18	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	仏教のく中国化>をめぐってー五・六世紀の如来像を中心にー	教育室長 岩井共二	8月17日	奈良国立博物館サンデートーク
19	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	醍醐寺と南都の密教絵画	保存修理指導室長 谷口耕生	7月26日	奈良国立博物館公開講座
20	同上	内山永久寺と南都の密教絵画	同上	1月18日	奈良国立博物館サンデートーク
21	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	文化財とアーカイブズ 奈良国立博物館の取り組みから	資料室長 宮崎幹子	3月15日	奈良国立博物館サンデートーク
22	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物——至宝にみる天平の暮らしと祈り	主任研究員 清水 健	7月20日	正倉院展の楽しみ方～まほろばの集いIN名古屋～ （於：電気文化会館イベントホール）
23	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	X線CTによる「アイヌ文化伝声の漆椀」の内部構造調査(2)	主任研究員 鳥越俊行	6月7日	文化財保存修復学会 （於：明治大学）
24	同上	沖縄県立博物館・美術館所蔵三線のCT調査	同上	6月7日	文化財保存修復学会 （於：明治大学）
25	同上	アイヌ民族資料の保存修復に向けた現況調査	同上	6月7日	文化財保存修復学会 （於：明治大学）
26	同上	沖縄県立博物館・美術館所蔵 梵鐘の科学的調査	同上	7月5日	日本文化財科学会 （於：奈良教育大学）
27	同上	ハンディ蛍光X線分析装置による琉球鐘の科学調査	同上	10月4日	鑄造遺跡研究会（於：京都橘大学）
28	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	文化財を科学する	同上	11月16日	奈良国立博物館サンデートーク
29	同上	最新の計測技術を駆使した調査の成果	同上	12月14日	国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈の謎に迫るシンポジウム（於：神戸市立王子動物園ホール）
30	同上	CT利用の現状と課題	同上	12月20日	文化財調査におけるX線CTの活用シンポジウム（於：北海道大学）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
31	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	幸せの王国 プータン Part2	研究員 岩戸晶子	6月15日	奈良国立博物館サンデートーク
32	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院の武器・武具	同上	11月8日	奈良国立博物館公開講座
33	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	醍醐寺の密教修法と聖教	研究員 斎木涼子	9月6日	奈良国立博物館公開講座
34	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	阿弥陀来迎図をめぐって	研究員 北澤菜月	2月15日	奈良国立博物館サンデートーク
35	同上	聖徳太子の伝記絵について	同上	7月13日	静岡市美術館
36	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	中世律宗の鎌倉進出と善派仏師	研究員 山口隆介	4月19日	奈良国立博物館公開講座
37	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物の魅力	研究員 田澤 梓	12月13日	平成26年度佐野市民大学 (於：佐野市中央公民館)
38	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	盛岡地方務局大船渡出張所と仙台法務局気仙沼支局の被災公文書に施す科学的保存処理	研究員 大江克己	12月7日	シンポジウム“被災地歌津と奈良を繋ぐ、そしてこれから” (於：奈良大学)
39	同上	飾られた馬具への問いー洲浜金具の機能に関する認識の客観性ー	同上	1月11日	ここまでわかった！考古学 (於：京都市考古資料館)

【九州国立博物館】 23件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	特別展「近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」に関する調査・研究	「信尹と家熙ー近衛家が生んだ桃山・江戸の文化人ー」	文化財課資料登録室主任研究員 荒木和憲	4月26日	特別展「近衛家の国宝」展開連 りレー講座 近衛家の国宝展の 魅力に迫る
2	同上	「近衛家の成立ー藤原道長以後ー」	博物館科学課保存修復室ア ソシエイトフェロー 渡部 史之	5月10日	特別展「近衛家の国宝」展開連 りレー講座 近衛家の国宝展の 魅力に迫る
3	同上	「陽明文庫の書の魅力」	文化財課資料登録室主任研 究員 丸山猶計	5月10日	特別展「近衛家の国宝」展開連 りレー講座 近衛家の国宝展の 魅力に迫る
4	博物館の環境保全に 関する研究	市民ボランティアと行うIPMワークショッ プの取り組み	学芸部特任研究員 本田光子	6月7日	第36回文化財保存修復学会大会 (会場：明治大学)
5	博物館の環境保全に 関する研究	博物館における飲食スペースのIPM活動	博物館科学課環境保全室研 究員 秋山純子	6月7日	第36回文化財保存修復学会大会 (会場：明治大学)
6	文化財の材質・構造等 に関する共同研究	「X線CTによる「アイヌ文化伝世の漆椀」 の内部構造調査(2)ー「熊図文入漆椀」と 「津軽塗(系)漆椀」に注目して」	小林幸雄、杉山智昭、九州国 立博物館博物館科学課長 今津節生、鳥越俊行、田中大 之、相山英明	6月7～8日	文化財保存修復学会36回大会
7	同上	「アイヌ民族資料の保存修復に向けた現況 調査」	杉山智昭、小林幸雄、九州国 立博物館博物館科学課長 今津節生、鳥越俊行	6月7～8日	文化財保存修復学会36回大会
8	水中遺跡の保存活用 に関する調査研究	X線CTスキャナを活用した出土木製品の 構造解析に係る基礎研究Ⅱ-保存処理後の 木製品内部における処理薬剤及び水分の分 布について-	小林啓、伊藤幸司、九州国立 博物館博物館科学課長 今 津節生	7月4日	日本文化財科学会第31回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
9	九州における対外交 流文化財の保存と活 用に向けた研究基盤 の創設／文化財の材 質・構造等に関する共 同研究	福岡県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土資料 のX線CTスキャナによる調査	小林啓、加藤和蔵、山崎悠郁 子、森下靖士、甲斐孝司、 横田義章、九州国立博物館博 物館科学課長 今津節生、輪 田慧	7月5日	日本文化財学会第31回大会
10	文化財の材質・構造に 関する共同研究	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性 に関する研究2	博物館科学課環境保全室研 究員 秋山純子 企画課研究員 森實久美子	7月5日、6日	第31回日本文化財学会、（会 場：奈良教育大学）
11	同上	「X線CTスキャナの活用による遺跡で発 見される豊富な遺物情報を得る調査 福岡 県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物の取 り上げ・構造解析から公開活用に向けて」	加藤和蔵、小林啓、山崎悠郁 子、九州国立博物館博物館科 学課長今津節生、輪田慧、森 下靖士、甲斐孝司、横田義 章	7月5日、6日	日本文化財学会31回大会
12	同上	「トレハロース含浸処理法における含浸と 結晶化のイメージ（その1）—X線CTスキ ャナによる含浸具合の可視化」	伊藤幸司、藤田浩明、小林啓、 九州国立博物館博物館科学 課長今津節生	7月5日、6日	日本文化財学会31回大会
13	石棺に塗布された赤 色顔料についての基 礎的研究	「出土ベンガラ中に含まれているパイプ状 ベンガラ粒子の認定方法について」	博物館科学課保存修復室主 任研究員 志賀智史	7月5日、6日	日本文化財学会第31回大会
14	酸化促進剤の添加に よる文化財建造物用 油性塗料の塗膜形成 に関する調査・研究	「薬師寺東塔に使用された彩色材料の分析」	金受貞、九州国立博物館博 物館科学課環境保全室アソシ エイトフェロー 赤田昌倫、 高妻洋成、鈴木智大、馬場宏 道	7月5日、6日	日本文化財学会第31回大会
15	特別展「クリーブラ ンド美術館展」につ いての調査・研究	「クリーブランド美術館展 名画でたどる 日本の美」	企画課研究員 鷲頭桂	7月11日	特別展「クリーブランド美術館展」 関連 解説講座（筑紫野市）
16	特別展「クリーブラ ンド美術館展」につ いての調査・研究	「日本絵画入門：千年の歴史をたどる」	文化財課資料管理室主任研 究員 畑靖紀 企画課研究員 鷲頭桂	7月19日	特別展「クリーブランド美術館展」 関連 リレー講座
17	特別展「台北 國立故 宮博物院—神品至宝 —展」に関する調査・ 研究	「日本でつくられた倣中国製彫漆器」	企画課文化交流展室主任研 究員 川畑憲子	10月25日	特別展「台北 國立故宮博物院— 神品至宝—」関連 シンポジウム「中国皇帝コレク ションの意味—工芸における復古と 革新—」
18	タイにおける異文化 の受容と変容	Intercultural and Comparative study of Buddhist narrative art	東京国立博物館学芸企画部 企画課長 小泉恵英、企画課 特別展室主任研究員 原田 あゆみ	11月25日	バンコク国立博物館
19	同上	A Subsequent report on investigation about Thai arts in Japan	企画課特別展室主任研究員 原田あゆみ	11月25日	バンコク国立博物館
20	同上	Acceptance and Transformation of Japanese Sword in Siam	文化財課資料登録室アソシ エイトフェロー 望月規史	11月25日	バンコク国立博物館
21	和泉市久保惣記念美 術館の収蔵品の調査 研究／X線CTスキ ャナによる青銅器・彫 刻・漆工などの構造技 法解析／X線CTに よる興福寺塑像の研 究	「X線CTを核にした三次元計測による博物 館資料の活用と連携」	博物館科学課長 今津節生	12月20日	シンポジウム 文化財調査におけるX線CTの活 用
22	特別展「古代日本と百 済の交流—大宰府・飛 鳥そして公州・扶餘 —」に関する調査研究	「激動の7世紀を戦った兵士」	展示課情報サービス室研 究員 小嶋篤	27年2月22日	特別展「古代日本と百済の交流— 大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」 関連リレー講座
23	特別展「日本発掘—発 掘された日本列島 2014」に関する調査研 究	「発掘された日本列島2014の見どころ」	展示課情報サービス室主任 研究員 進村真之	27年2月22日	特別展「古代日本と百済の交流— 大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」 関連リレー講座

【東京文化財研究所】計60件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（24件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の資料学的研究	黒田清輝宛外国人留学生書簡 影印・翻 刻・解題	客員研究員 吉田千鶴子	8月6日	企画情報部研究会
2	同上	一流相承系図（絵系図）の構想と機能	企画情報部文化形成研究室 長 津田徹英	10月31日	第48回オープンレクチャー「モノ ／イメージとの対話」
3	近現代美術に関する交 流史的研究	黒田清輝『昔語り』再考	企画情報部副部長 山梨絵 美子	9月30日	企画情報部研究会
4	同上	李王家コレクションの位置づけをめぐって	企画情報部副部長 山梨絵 美子	11月14日	韓国国立中央博物館シンポジウム 「東洋を蒐集する」
5	同上	岸田劉生と古屋芳雄—劉生の「駒沢村新町」 療養期を中心に	副所長（企画情報部長兼務） 田中淳	9月30日	企画情報部研究会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
6	同上	仙台・昭忠碑、被災から復興へ向けて	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長 塩谷純	11月1日	第48回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
7	同上	反芸術・脱主体化・匿名性—1960年前後の赤瀬川原平周辺から	企画情報部アソシエイトフェロー 河合大介	27年3月24日	企画情報部研究会
8	同上	観光芸術多摩川展パノラマ図を観る	企画情報部アソシエイトフェロー 橋川英規	27年3月24日	企画情報部研究会
9	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	琉球王国時代の螺鈿漆器製作技術を探る(ポスター発表)	企画情報部広領域研究室長 小林 公治	11月15日	第5回琉球の漆文化と科学
10	同上	トルコの螺鈿—本格調査に向けた予備的検討—(ポスター発表)	企画情報部広領域研究室長 小林 公治	11月15日	第5回琉球の漆文化と科学
11	同上	パレスチナの螺鈿—その特徴と歴史に関する予察—(ポスター発表)	企画情報部広領域研究室長 小林 公治	11月15日	第5回琉球の漆文化と科学
12	無形文化財の保存・活用にに関する調査研究	謡のフシ付けを考える	無形文化遺産部無形文化財研究室長 高桑いづみ	6月24日	観世流若手研修会講座
13	同上	放下の歌と能・狂言	無形文化遺産部無形文化財研究室長 高桑いづみ	10月18日	第9回無形文化遺産部公開学術講座
14	同上	ヨワ吟・ツヨ吟 現在に至る変遷	無形文化遺産部無形文化財研究室長 高桑いづみ	12月8日	観世流若手研修会講座
15	同上	山崎家旧蔵伝書の概要	無形文化遺産部無形文化財研究室長 高桑いづみ	27年2月27日	『よみがえる音色—幸流名家山崎家旧蔵伝書と鼓胴』法政大学能楽研究所
16	同上	染織技術の伝承における道具の役割—熊谷染を事例として—	無形文化遺産部研究員 菊池理予	11月4日	平成26年度第2回総合研究会
17	同上	日本伝統染織技術の継承と発展	無形文化遺産部研究員 菊池理予	27年1月26日	文化学園大学特別講義
18	同上	無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会「染織技術をささえる人と道具」趣旨説明とパネルディスカッションコーディネーター	無形文化遺産部研究員 菊池理予	27年2月3日	文化学園大学
19	無形民俗文化財の保存・活用にに関する調査研究	伝統技術を伝えていくということ—『長良川の鵜飼漁の技術』の保存・活用	無形文化遺産部研究員 今石みぎわ	27年1月25日	岐阜市
20	同上	暮らしの記憶を記録する ごいし民俗誌その後	無形文化遺産部研究員 今石みぎわ	27年2月15日	岩手県大船渡市碁石地区
21	同上	菅笠作りは福岡の宝	無形文化遺産部研究員 今石みぎわ	27年3月29日	ふくおか文化総合センター
22	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	染織技術に関わる原材料と道具の現状	無形文化遺産部研究員 菊池理予	9月4日	韓国国立無形遺産院
23	同上	日本における風流芸能の伝承と保存	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	27年10月16日	韓国文化財保護財団
24	同上	日韓の正月儀礼を中心とした比較研究	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	27年3月13日	韓国国立無形遺産院

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 (0件)

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 (20件)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	歴史的木造建造物を加害するオオナガシバムシ幼虫のセルラーゼ活性について	保存修復科学センター生物科学研究室長 木川りか、研究員 佐藤嘉則、客員研究員 小峰幸夫	6月7日~8日	文化財保存修復学会第36回大会
2	文化財の保存環境の研究	Estimation of acetic acid and ammonia gases concentration in museum display cases using emission rate of construction materials	保存修復科学センター保存科学研究室長 佐野千絵、客員研究員 呂俊民、客員研究員 古田嶋智子	4月13日~16日	11th International Conference - Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments
3	同上	気流解析と実測によるLED照明を用いた展示ケース内の温湿度分布の調査	保存修復科学センター主任研究員 大塚将英、客員研究員 間淵創	6月8日	文化財保存修復学会第36回大会
4	同上	気密性を有する展示ケースのガス濃度推移	保存修復科学センター保存科学研究室長 佐野千絵、客員研究員 呂俊民、客員研究員 古田嶋智子	12月5日~6日	室内環境学会
5	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	平等院の国宝鳳凰・梵鐘・装飾金物の材料調査	保存修復科学センター分析科学研究室長 早川泰弘、企画情報部専門職員 城野誠治	7月5日~6日	日本文化財科学会第31回大会
6	同上	蛍光寿命測定のための文化財材料への応用に関する基礎研究1	保存修復科学センター主任研究員 吉田直人	同上	同上
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	臼杵市・下藤キリシタン墓地における遺構の凍結防止策(2)	保存修復科学センター修復材料研究室長 朽津信明	6月7日	文化財保存修復学会第36回大会
8	同上	冬場の臼杵石仏における覆屋の有効性評価のためのリアルタイム環境観測システム	保存修復科学センター主任研究員 森井順之	7月5日~6日	日本文化財科学会第31回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
9	同上	長崎市出島で見られる砂岩石材の風化現象について	保存修復科学センター修復材料研究室長 朽津信明、主任研究員 森井順之、研究補佐員 佐藤円香	10月29日～30日	日本応用地質学会平成26年度研究発表会
10	同上	臼杵磨崖仏における保存環境調査と次期保存修理計画	保存修復科学センター主任研究員 森井順之	27年1月23日	保存科学研究集会2014「石造文化財の劣化と保存に関する新たな展開」
11	文化財の防災計画に関する研究	石巻市仮収蔵施設の保存環境	保存修復科学センター主任研究員 森井順之	11月20日	平成26年度宮城県被災文化財等保全連絡会議研修会
12	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	日光東照宮陽明門側面大羽目絵画の彩色に関する調査	保存修復科学センター伝統技術研究室長 北野信彦、主任研究員 犬塚将英、主任研究員 吉田直人、客員研究員 本多貴之	6月8日	文化財保存修復学会第36回大会
13	同上	日光桃山文化期欄間彩色の保存と資料活用に関する基礎的調査	保存修復科学センター伝統技術研究室長 北野信彦、客員研究員 本多貴之	7月5日～6日	日本文化財科学会第31回大会
14	文化財修復材料の適用に関する調査研究	Characterization of Funori as a conservation material	保存修復科学センター主任研究員 早川典子、文化遺産国際協力センター長 川野邊渉、アソシエイトフェロー 楠京子、学振特別研究員 貴田啓子	9月24日	IIC-HongKong Influence of seaweed species and extraction temperature
15	同上	典籍類に使用された「豆粕」に関する赤外分光分析	保存修復科学センター主任研究員 早川典子	6月8日	文化財保存修復学会第36回大会
16	同上	日本画の修復および制作に用いる膠の基礎的特性に関する報告	保存修復科学センター主任研究員 早川典子、客員研究員 大河原典子	同上	同上
17	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	洋紙の保存と修復	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長 中山俊介	11月21日	洋紙の保存と修復に関する研究会
18	同上	保存科学による文化遺産の修復—建造物を中心に—	同上	12月20日	台湾総督府鉄道部の保存修復活動における講演会
19	同上	近代文化遺産の保存と動態保存に関して	同上	27年2月22日	中部産業遺産研究会第33回シンポジウム「日本の技術史を見る眼」
20	同上	史跡・葦山反射炉の保存環境について	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長 中山俊介、修復材料研究室長 朽津信明、主任研究員 森井順之	10月10日	地盤工学会「土木史跡の地盤工学的分析・評価に関するシンポジウム」

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	日本の文化財保護	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 境野飛鳥	7月3日	史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ
2	同上	第38回世界遺産委員会	企画情報部情報システム研究室長 二神葉子	27年3月2日	第16回文化遺産コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向」

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（12件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係	保存修復科学センター長 岡田健、	6月21日	日本建築学会平成26年度近畿支部研究発表会
2	同上	敦煌莫高窟第285窟壁画の劣化要因の検討	保存修復科学センター長 岡田健、客員研究員 渡辺真樹子、客員研究員 高林弘実	6月22日	同上
3	同上	敦煌莫高窟第285窟に描かれたパルメット文様の彩色材料および技法	保存修復科学センター長 岡田健、客員研究員 高林弘実	7月5日～6日	日本文化財科学会第31回大会
4	同上	敦煌莫高窟第285窟西壁の供養菩薩群の制作工程	同上	同上	同上
5	同上	壁画の“保存”とは、何を意味するのか—莫高窟第285窟壁画調査を通して	保存修復科学センター長 岡田健	10月8日	敦煌研究院設立70年国際シンポジウム「2014年シルクロード古代遺跡保護国際学術検討会」
6	同上	ユーラシア大陸壁画の研究と保護—国際協力の意義	同上	10月16日	2014年陝西歴史博物館壁画論壇「全地球的視野のもとでの中国古代壁画の予防的保護研究に関する国際学術検討会」
7	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	アンコール・タネイ遺跡の伽藍配置に見られる特徴について(2)	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 佐藤桂	9月12日	日本建築学会大会
8	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	アルメニア共和国ルチャシェン遺跡から出土した考古金属資料の科学的調査	文化遺産国際協力センター地域環境研究室長 山内和也、前アソシエイトフェロー 藤澤明、客員研究員	6月8日	文化財保存修復学会第36回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
			邊牟木尚美、		
9	同上	アク・ベシム遺跡出土の羊距骨とキルギス伝統遊戯チュコ	前文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 安倍雅史	6月15日	日本西アジア考古学会第19回総会・大会
10	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	Conservation of the Bamiyan Mural Paintings, Afghanistan	文化遺産国際協力センター地域環境研究室長 山内和也	10月8日～9日	Dunhuang Forum
11	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化財修復材料として使用する除去可能な色材の検討	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長 加藤雅人、アソシエイトフェロー 山田祐子、アソシエイトフェロー 楠京子	6月7日～8日	文化財保存修復学会第36回大会
12	同上	絵画用絹の加工方法と照明角度による見え方の相違について	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長 加藤雅人、アソシエイトフェロー 山田祐子	11月14日～15日	日本色彩学会第2回大会

○地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	美術館・博物館照明による文化財劣化の評価方法に関する研究－積算照度と有効放射露光量－	保存修復科学センター保存科学研究室長 佐野千絵、主任研究員 吉田直人、客員研究員 古田嶋智子	6月7日	文化財保存修復学会第36回大会
2	同上	美術館・博物館の資料保護に向けた光曝露量評価の研究－積算照度と有効放射露光量－	同上	9月4日～6日	照明学会

【奈良文化財研究所】計45件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（22件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	近世の伊賀街道と古代恭仁宮	歴史研究室長 吉川 聡	27年1月25日	木津川市ふれあい文化講座第77回
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	平出集落の価値－伝統的建造物群保存対策調査から－	文化遺産部長 林良彦	9月30日	塩尻市平出伝統的建造物群保存対策調査現地説明会
3	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	長谷川家住宅の建築の価値	文化遺産部長 林良彦	10月26日	松阪長谷川家住宅文化財シンポジウム
4	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	関宿のこれまでとこれから	文化遺産部長 林良彦	12月13日	亀山市関宿重伝建30周年シンポジウム
5	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	平安貴族の遊覧と文芸 一道長と桂、宇治	文化遺産部研究員 高橋知奈津	8月29日	京都造形大学 日本庭園・歴史遺産研究センター 庭園学講座2 1
6	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	戦国城館の庭園遺構	文化遺産部研究員 高橋知奈津	10月25日	奈良文化財研究所「平成26年度庭園に関する研究会 戦国時代の城館の庭園」
7	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	庭園と八景	文化遺産部研究員 高橋知奈津	27年3月21日	文化講演会「大乘院庭園文化サロン」
8	我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）	Ideal management of historic parks : From past to present to future	都城発掘調査部考古第三研究室長 清野孝之	9月17日	Inquiry HP (Columbia University, U. S. A.)
9	我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）	A review of the Application of Dendrochronology to Japanese Cultural Heritage	埋蔵文化財センター研究員 星野安治	9月17日	Inquiry HP (Columbia University, U. S. A.)
10	古代官衙・集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	平城宮とその周辺の土器様相	都城発掘調査部主任研究員 森川 実	12月12日	「第18回古代官衙・集落研究集会 宮都・官衙と土器(官衙・集落と土器I)」
11	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	平城宮の6282-6721型式軒瓦	都城発掘調査部研究員 川畑 純	27年2月14日	「8世紀の瓦づくりIV－平城宮式軒瓦の展開2 6282-6721系－」第15回シンポジウム
12	平城宮・京跡出土遺物と検出遺構の調査研究等	平城宮・京出土鞆羽口の製作技法と皮革	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦	7月19日	学際的共同研究体制に基づくタンパク質考古学創生事業主催シンポジウム「皮と膠」
13	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	藤原宮・京跡出土土瓦の胎土分析	都城発掘調査部主任研究員 降幡順子、都城発掘調査部研究員 森先一貴、都城発掘調査部考古第三研究室長 清野孝之	7月6日	日本文化財科学会第31回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
14	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	平城京の造営規格	都城発掘調査部主任研究員 今井晃樹	8月6日-7日	「都城国際シンポジウム」
15	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	諸戸家の遺産の価値	景観研究室長 平澤毅	6月1日	新桑名市誕生10周年記念シンポジウム「近代桑名を考える」
16	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化財庭園の保護と景観	景観研究室長 平澤毅	6月22日	文化財庭園の保存継承シンポジウム～登録記念物 盛合氏庭園～
17	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	フィリピンとインドネシアの文化的景観－農業に関する文化的景観を中心に	文化遺産部アソシエイトフェロー 菊地淑人	9月20日	文化的景観講演会
18	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的景観の味わい方	文化遺産部研究員 惠谷浩子	10月4日	奈良文化財研究所第115回公開講演会
19	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	宇治の文化的景観の調査研究からみえる宇治の魅力	文化遺産部研究員 惠谷浩子	10月23日	第42回歴史的景観都市協議会総会トークセッション
20	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	四万十川流域における沈下橋の意味－変化の連鎖	文化遺産部研究員 惠谷浩子	27年1月24日	研究会はたのおと2015
21	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	京都岡崎の文化的景観と六勝寺跡の近代	文化遺産部研究員 惠谷浩子	27年1月25日	第4回オカシル連続講座2014「営みは水の流れに導かれて－京都岡崎の文化的景観①」
22	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	京都岡崎の文化的景観と南禅寺界隈のアカマツ文化	文化遺産部研究員 惠谷浩子	27年3月22日	第5回オカシル連続講座2014「緑が語る、地域の本来と将来－京都岡崎の文化的景観②」

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（19件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の測量・探査等に関する研究	S f mによる近接写真計測の遺跡への応用	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	7月5日-6日	日本文化財科学会第31回大会
2	文化財の測量・探査等に関する研究	S f m各手法による三次元計測の比較	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	7月5日-6日	日本文化財科学会第31回大会
3	文化財の測量・探査等に関する研究	U A VとS f mによる遺跡の三次元計測	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	7月5日-6日	日本文化財科学会第31回大会
4	文化財の測量・探査等に関する研究	九十九里地域における古墳のレーダ探査	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	7月5日-6日	日本文化財科学会第31回大会
5	文化財の測量・探査等に関する研究	可見市大萱古窯跡における探査と発掘の連携	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	7月5日-6日	日本文化財科学会第31回大会
6	文化財の測量・探査等に関する研究	古代の土器研究と年代論への希望	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	10月10日	総合地球環境学研究所 気候適応史プロジェクト先史・古代史グループ研究会
7	文化財の測量・探査等に関する研究	遺跡をみる、まもる沢山の目	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	11月8日	けいはんな情報通信フェア2014
8	年輪年代学研究	宮城県追戸横穴墓出土斑点紋トンボ玉の自然科学的研究	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美、星野安治	7月5日	日本文化財科学会第31回大会
9	年輪年代学研究	富山県小竹貝塚から出土した鯛の歯を象嵌した漆製品片	埋蔵文化財センター研究員 山崎健、田村朋美、星野安治、主任研究員 大河内隆之、客員研究員 丸山真史、菊地大樹、赤田昌倫、鈴木三男、小林和貴	7月5日	日本文化財科学会第31回大会
10	年輪年代学研究	木の年輪で作った年代を測るものさし－年輪年代学の成果－	埋蔵文化財センター研究員 星野安治	10月25日	奈良文化財研究所特別講演会「遺跡の年代を測るものさしと奈文研」
11	動植物遺存体による環境考古学的研究	私たちは何を語るべきか？－環境考古学の活用と社会還元－	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	4月26日	近江貝塚研究会第246回例会
12	動植物遺存体による環境考古学的研究	小竹貝塚の動物遺存体	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	5月18日	日本考古学協会第80回総会
13	動植物遺存体による環境考古学的研究	富山県小竹貝塚から出土した「鯛の歯を象嵌した漆製品片」	埋蔵文化財センター研究員 山崎健、客員研究員 丸山真史、客員研究員 菊地大樹ほか	7月5日-6日	日本文化財科学会第31回大会
14	動植物遺存体による環境考古学的研究	3D laser scanningの動物考古学への応用	客員研究員 菊地大樹、客員研究員 松井章	7月5日-6日	日本文化財科学会第31回大会
15	動植物遺存体による環境考古学的研究	都城における多様な動物利用	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	8月3日	平成26年度みはま土曜歴史講座
16	動植物遺存体による環境考古学的研究	縄文時代におけるイノシシやニホンジカの生息環境	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	9月5日	日本ほ乳類学会2014年度大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
17	動植物遺存体による環境考古学的研究	自然史標本と文化財	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	9月19日	日本学術会議公開シンポジウム 『自然史標本の継承—人類の財産を失わないために今なすべきこと—』
18	動植物遺存体による環境考古学的研究	小竹貝塚における動物資源利用	埋蔵文化財センター研究員 山崎健 客員研究員 丸山真史、 客員研究員 菊地大樹ほか	11月29日-30日	日本動物考古学会第2回大会
19	動植物遺存体による環境考古学的研究	佐賀市東名遺跡群出土の耳石の種同定と、その動物考古学的意義について	客員研究員 松井章、客員研究員 大江文雄、客員研究員 丸山真史ほか	11月29日-30日	日本動物考古学会第2回大会

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 (0件)

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施 (4件)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画	土が報せるさまざまな出来事～減災に向けて考古学の新たな挑戦～	遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年1月30日	奈良文化財研究所総合研究会(第25回)
2	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画	考古資料および分研資料から見た過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦	27年3月2日	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」平成26年度成果報告シンポジウム
3	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画	考古資料および分研資料から見た過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年3月2日	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」平成26年度成果報告シンポジウム
4	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画	考古資料から抽出される災害情報とそのデータ化	遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年3月28日	人文科学における災害情報の共有化に関する研究会(大学共同利用機関法人人間文化研究機構・研究資源共有化事業委員会)

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進 (0件)

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計0件

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成27年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
12件	9件	2件	1件	1件	5件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	0件	0件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進室			
	0件	3件			

【東京国立博物館】

○特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」開催記念シンポジウム 『中国皇帝コレクションの意味—書画における復古と革新—』

開催日 26年7月5/6日
 開催場所 東京国立博物館平成館大講堂
 主催 東京国立博物館
 参加人数 233/189人
 事業内容 世界で活躍する第一線の研究者を招き、中国皇帝コレクションについて語るシンポジウムを開催。

○特別展「3・11大津波と文化財の再生」シンポジウム「文化財を守る絆—津波被災文化財再生への挑戦—」

開催日 27年3月11日
 開催場所 東京文化財研究所
 主催 東京国立博物館 日本博物館協会
 参加人数 98人
 事業内容 陸前高田市立博物館、岩手県立博物館、遠野文化研究センターの方を招き、被災現場での文化財保護の取り組みについて語るシンポジウムを開催。

【京都国立博物館】

○特別シンポジウム『鳥獣戯画を語る』

開催日 11月15日
 開催場所 京都国立博物館
 主催 京都国立博物館
 参加人数 168人
 事業内容 特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」にあわせて開催し、2部構成のうち、第1部には日英同時通訳をつけた。3名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。

【奈良国立博物館】

○正倉院学術シンポジウム2014「正倉院宝物に日本文化の源流をみる」

開催日 11月2日
 開催場所 奈良県新公会堂 レセプションホール
 主催 奈良国立博物館
 後援 読売新聞社
 参加人数 192名
 事業内容 本シンポジウムが10回目という大きな節目を迎えるにあたり、千数百年の歳月を経て伝来した正倉院宝物のすばらしさを内外に発信し、わが国の文化財保護活動に対する理解を広く共有することを目的とし、3名の研究者による研究発表と、パネルディスカッションをおこなった

【九州国立博物館】

○フォーラム 全国高等学校考古学フォーラム in 九州国立博物館 2014（トピック展示「高等学校所蔵考古名品展」関連）

開催日 8月16日
 開催場所 ミュージアムホール
 主催 九州国立博物館
 参加者数 93人
 事業内容 現役高校生による考古学活動の研究発表を行った。

○国際シンポジウム 「中国皇帝コレクションの意味—工芸における復古と革新—」（特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」展関連）

開催日 10月25日
 開催場所 ミュージアムホール
 主催 九州国立博物館
 参加者数 150人
 事業内容 「国立故宮博物院の名品から見た清朝皇帝コレクション」、「乾隆帝収蔵の汝窯磁器と関連する諸問題」、「日本でつくられた倣中国製彫漆器」、「乾隆帝の玉器評価基準」、「考古資料から見た徽宗の青銅器文化復興」の講演が行われた。

○公開シンポジウム 日本文化財科学会公開講演会シリーズ『文化遺産と科学』文化財が解き明かす自然災害Ⅲ

開催日 27年1月24日
 開催場所 ミュージアムホール
 主催 日本文化財科学会・九州国立博物館
 参加者数 110人
 事業内容 「1.17 から3.11 —文化財の危機管理意識—」、「八重山諸島の巨大津波を探る」、「西日本沿岸の巨大津波痕跡から将来を考える」、「地震考古学と九州の地震災害」の講演が行われた。

○国際シンポジウム 「世界のアrita —有田焼の伝統と未来へ続く創造性—」（トピック展示「柿右衛門 受け継がれる技と美」関連）

開催日 27年3月8日
 開催場所 ミュージアムホール
 主催 九州国立博物館
 参加者数 253人
 事業内容 特別講演「陶片から読み解く柿右衛門」、講演「世界を魅了した有田焼」、パネルディスカッション「有田焼の伝統と未来へと続く創造性」が行われた。

○特別シンポジウム 進化する博物館Ⅲ「装飾古墳がやってくる ～e-Heritageへの招待～」

開催日 27年3月14日
 開催場所 ミュージアムホール
 主催 九州国立博物館
 参加者数 90人

事業内容 第1部「九州装飾古墳群」、第2部「VR作品特別上演会」、VR作品「アンコール遺跡バイヨン寺院」特別上演解説、VR作品「百舌鳥古墳群」特別上演、映像作品「装飾古墳バーチャルシアター作品上映」が行われた。

【東京文化財研究所】

該当なし

【奈良文化財研究所】

該当なし

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

該当なし

【文化財防災ネットワーク推進室】

- 国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」東京シンポジウム
 - 開催日 27年3月13日
 - 開催場所 品川プリンスホテル
 - 主催 独立行政法人国立文化財機構、文化庁、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）、ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）
 - 参加人数 151人
 - 事業内容 国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」の一部として東日本大震災に関する経験について講演と報告。

- 国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」テーマ別会合
 - 開催日 27年3月15日
 - 開催場所 仙台国際センター展示棟展示室1
 - 主催 独立行政法人国立文化財機構、文化庁、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）、ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）
 - 参加人数 250人
 - 事業内容 第3回国連防災世界会議の一部として開催。

- 国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」仙台シンポジウム
 - 開催日 27年3月16日
 - 開催場所 仙台市情報・産業プラザ AER（アエル）
 - 主催 独立行政法人国立文化財機構、文化庁、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）、ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）
 - 参加人数 142人
 - 事業内容 国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」の成果を広く伝えるために開催。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

平成 27 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
341 件	206 件	126 件	34 件	22 件	24 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	134 件	40 件	94 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	1 件			

【東京国立博物館】126件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフエ リー 有無
1	收藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究	副館長 島谷弘幸	「浦上玉堂の書」	『玉堂片影』	浦上家史編纂委員会	6 月	無
2	同上	同上	「書の鑑賞と楽しみ」	『日本の書と筆の宇宙』	筆の里工房	9 月	無
3	同上	同上	「書の至宝 金剛場陀羅尼経」ほか（連載）	『書写書道』	日本武道館	4 月～27 年 3 月	無
4	同上	同上	「書の美」（連載）	『毎日新聞 日曜版』	毎日新聞社	4 月～27 年 3 月	無
5	同上	学芸企画部長 伊藤嘉章	桃山の茶陶	『楽一茶碗の中の宇宙』図録	国際交流基金・ロサンゼルスカウンティ美術館, エルミタージュ美術館, プーシキン美術館	27 年 3 月 29 日	無
6	同上	企画課特別展室長 松嶋雅人	(名宝細見) 焔 東京国立博物館から	朝日新聞	朝日新聞社	5 月 3 日	無
7	同上	同上	同上	同上	同上	12 月 20 日	無
8	同上	同上	Japanese paintings of Chinese historical figures	Ink and Gold: Art of the Kano	Philadelphia Museum of Art	27 年 2 月 16 日	無
9	同上	企画課出版企画室長 勝木言一郎	敦煌壁画の阿弥陀浄土変相に描かれた鳥類の図像, p. 204-219	図像学Ⅱ —イメージの成立と伝承(浄土教・説話画)(仏教美術論集第3巻)	竹林舎	5 月 15 日	無
10	同上	同上	敦煌の薬師経変相に描かれた浄土景観に関する一考察	『東京国立博物館紀要』50号	東京国立博物館	27 年 3 月 31 日	無
11	同上	博物館教育課 小林牧	東京国立博物館のマーケティング—来館者調査から 140 周年事業まで	東京国立博物館紀要	東京国立博物館	27 年 3 月	無
12	同上	博物館教育課教育講座室長 浅湫毅	興福寺等金堂の維摩居士・文殊菩薩像をめぐって	仏教美術論集3 図像学Ⅱ —イメージの成立と伝承(浄土教・説話画)	竹林舎	5 月	有
13	同上	同上	須磨家旧蔵の木造菩薩坐像と像内納入品	学叢 36	京都国立博物館	5 月 25 日	無
14	同上	同上	南山城古仏巡礼	南山城の古寺巡礼	京都国立博物館	4 月 20 日	無
15	同上	博物館教育課教育普及室長 小山弓弦葉	「染織で表された「絵画」—中国絵画、知られざる伝統—	『台北 國立故宮博物院 神品至宝』図録	東京国立博物館	6 月 24 日	無
16	同上	同上	「織繡珍品選」	『典藏古美術』第 263 期』	典藏雑誌社	8 月	無
17	同上	同上	「帯 銀地花卉段文様モール錦」	『國華』第 1428 号	國華編輯委員会	10 月 20 日	有
18	同上	同上	「Tsujiyahana Stitch-resist Dyeing in Muromachi-Momoyama Period in Japan」	『第 9 回国際校会議』報告書	国際校会議	10 月	無
19	同上	同上	「辻が花」の通説と実像」	『染織情報 α』2015 年 3 月号	染織と生活社	27 年 3 月	無
20	同上	学芸研究部長 谷豊信	青銅器の銘文	『台北 國立故宮博物院 神品至宝』図録	東京国立博物館	6 月 24 日	無
21	同上	特任研究員 後藤健	アラビア湾岸古代文明の「王墓」	アジア考古学四学会編 『アジアの王墓』161～189 頁	高志書院	11 月 15 日	無
22	同上	列品管理課長 富田淳	中国士大夫の精神—宋元時代の書画	『台北 國立故宮博物院 神品至宝』図録	東京国立博物館	6 月 24 日	無
23	同上	同上	孫過庭の草書書譜卷	同上	同上	同上	無
24	同上	同上	蘇軾の行書黄州寒食詩卷	同上	同上	同上	無
25	同上	同上	乾隆帝の書画コレクション	同上	同上	同上	無
26	同上	同上	四庫全書	同上	同上	同上	無
27	同上	同上	唐宋書法風流 600 年	『典藏古美術』第 261 期	典藏雑誌社	6 月	無
28	同上	同上	悲盒問詰—趙之謙の生涯—	『趙之謙の書画と北魏の書—悲盒没後一三〇年—』図録	東京国立博物館・公益財団法人台東区芸術文化財団	7 月 29 日	無
29	同上	同上	売芸捐官—代筆ものがたり—	同上	同上	同上	無
30	同上	同上	趙之謙藝術在日本の傳布	『典藏古美術』第 264 期	典藏雑誌社	9 月	無
31	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員 川村佳男	(名宝細見) 緑釉犬 東京国立博物館から	朝日新聞	朝日新聞社	10 月 11 日	無
32	同上	調査研究課長 田良島哲	東京国立博物館所蔵『古賀穀堂遺稿』と森鷗外	MUSEUM 650	東京国立博物館	6 月	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフエ リー有 無
33	同上	同上	文化財としての写真原板が含む 情報	平成 26 年度文化庁「文化関 係資料のアーカイブの構築 に関する調査研究」報告書	公益社団法人日 本写真家協会 日本写真保存セ ンター	27 年 3 月	無
34	同上	同上	三越・ブラングイン・鷗外	文京区立森鷗外記念館 NEWS 10	文京区立森鷗外 記念館	27 年 3 月	無
35	同上	同上	明治後期における逓信省から帝 室博物館への切手類の寄贈	郵政博物館研究紀要 6	公益財団法人通 信文化協会博物 館部	27 年 3 月	無
36	同上	同上(平勢隆郎、三輪紫都 香と共編)	東洋学研究情報センター叢刊第 18 輯 東京国立博物館所蔵 竹島 卓一旧蔵『中国史跡写真』目録	東洋学研究情報センター叢 刊第 18 輯 東京国立博物館 所蔵 竹島卓一旧蔵『中国史 跡写真』目録	東京大学東洋文 化研究所	27 年 3 月	無
37	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀	絶海中津賛 開山明庵栄西頂相 について	『禅文化』232 号	禅文化研究所	4 月 25 日	無
38	同上	同上	狩野永徳と「檜図屏風」	MUSEUM 第 654 号	東京国立博物館	27 年 2 月 15 日	有
39	同上	調査研究課絵画・彫刻室主 任研究員 山下善也	(名宝細見) 納涼図屏風 東京国 立博物館から	朝日新聞	朝日新聞社	6 月 28 日	無
40	同上	調査研究課工芸室長 竹 内奈美子	色彩と彫技の豊穡—明代漆芸の 魅力	特別展「台北 國立故宮博物 院—神品至宝—」図録	東京国立博物館 ほか	6 月 24 日	無
41	同上	調査研究課東洋室 塚本 麿充	「北宋文物の受容とその場—宋、 高麗、日本の比較から—」	『日本美術全集 東アジア のなかの日本美術』	小学館	27 年 2 月	無
42	同上	同上	「中国絵画史における「人格」と 「かたち」—呉彬「山陰道上回巻」 と価値評価の構造」	『「かたち」再考 開かれた語 りのために』	平凡社	12 月	無
43	同上	同上	《唐繪手鑑(筆耕園)》與江戸時 代中國繪畫知識的架構	『創新與創造: 明清知識建構 與文化交流』國際學術研討會 論文集』	中央研究院中國 文哲研究所	同上	無
44	同上	同上	「中国伝統文化の再編—清朝皇 帝の世界—」	『台北 國立故宮博物院—神 品至宝—』図録	東京国立博物館	6 月	無
45	同上	同上	「唐代から五代・北宋山水への発 展」	同上	同上	同上	無
46	同上	同上	「徽宗のコレクション」	同上	同上	同上	無
47	同上	同上	「趙孟頫と元末四大家—反俗・友 人・故郷へのまなざしと筆墨文化 —」	同上	同上	同上	無
48	同上	同上	「國立故宮博物院開院の以前と 以後」	同上	同上	同上	無
49	同上	同上	「千年企盼 日本人の中國繪畫 新解—台北「國立故宮博物院— 神品至寶」繪畫精品選介」	『典藏 古美術』6 月号、第 261 期	典藏美術出版社	8 月	無
50	同上	同上	「赴日中國畫家: 來船清人及其交 流活動」	同上	典藏美術出版社	同上	無
51	同上	同上	「台北 國立故宮博物院—神品至 宝—今を生きる文物たち」	『趣味の水墨画』	日本美術教育セ ンター	6 月	無
52	同上	保存修復課保存修復室 三笠景子	珠玉の中国陶磁—特別展「台北 國立故宮博物院—神品至宝—」・ 横河コレクション—	陶説第 735 号	日本陶磁協会	6 月 1 日	無
53	同上	同上	図版口絵解説「台北 國立故宮博 物院—神品至宝—」	同上	同上	同上	無
54	同上	同上	天と人との競合—宋・元・明・清 の工芸品	特別展「台北 國立故宮博物 院—神品至宝—」図録	東京国立博物館 ほか	6 月 24 日	無
55	同上	同上	コラム 皇帝が愛したやきもの —汝窯青磁	同上	同上	同上	無
56	同上	同上	コラム 南宋官窯とは—東京国 立博物館所蔵品との比較にみる	同上	同上	同上	無
57	同上	同上	コラム 粉彩・珺瑯彩	同上	同上	同上	無
58	同上	同上	中国青磁研究史ノート—横河コ レクションの意義について	MUSEUM 第 651 号	東京国立博物館	8 月 15 日	有
59	同上	同上	稀代の中国陶磁コレクション— 欧米に向けた横河民輔の眼	陶説第 743 号	日本陶磁協会	27 年 2 月 1 日	無
60	同上	同上	図版口絵解説「東京国立博物館・ 横河コレクション」	陶説第 743 号	同上	同上	無
61	同上	列品管理課登録室アソシ エイトフェロー 鈴木希 帆	スウェーデン皇太子に贈られた 縄文土器—紀州徳川コレクショ ンの調査を兼ねて—	武蔵野美術大学研究紀要 第 45 号	武蔵野美術大学	27 年 3 月 1 日	有
62	同上	調査研究課考古室アソシ エイトフェロー 河野正 訓	大室古墳群の群構造	日本考古学協会第 80 回総会 研究発表要旨	日本考古学協会	5 月 17 日	有
63	同上	カリフォルニア大学博士 課程 James Scott Lyons、 調査研究課考古室アソシ エイトフェロー 河野正 訓	加工痕からみた鉄製品製作に関 する試論	信濃大室積石塚古墳群の研 究IV	明治大学文学部 考古学研究室	27 年 3 月 31 日	無
64	同上	調査研究課考古室アソシ エイトフェロー 河野正 訓	大室古墳群の群構造とその変遷	同上	同上	同上	無
65	同上	客員研究員 恵美千鶴子	「上野・西郷隆盛銅像」	『國華』1426 号	國華社	8 月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフエ リー 有無
66	同上	学芸企画部長 伊藤嘉章	桃山茶陶—美濃窯という視点から—	聚美 12 号	株式会社 展望社	7 月 1 日	無
67	同上	同上	織部様式の誕生 その展開と意味について	『古田織部四〇〇年忌 大織部展』図録	岐阜県現代陶芸美術館	9 月 6 日	無
68	同上	広報室長 伊藤信二	日本国宝展—「折り、信じる力」の造形	『日本国宝展』図録	東京国立博物館	10 月 15 日	無
69	同上	保存修復課長 神庭信幸	『博物館資料の臨床保存学』	『博物館資料の臨床保存学』	武蔵野美術大学出版局	4 月 1 日	無
70	同上	米倉乙世、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、調査研究課工芸室 三田覚之、客員研究員 澤田むつ代、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課長 神庭信幸	染織品の展示方法における新案	文化財保存修復学会第 36 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会第 36 回大会	6 月 7 日	有
71	同上	客員研究員 沢田むつ代、調査研究課工芸室 三田覚之、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、米倉乙世、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、北島恭代、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、山崎真紀子	劣化で一部粉状化したガラス挟み法隆寺裂修理方法の一例—東京国立博物館所蔵作品の事例—	同上	同上	同上	有
72	同上	国宝国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課主任研究員 沖松健次郎、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、米倉乙世、国宝修理装講師連盟 君嶋隆幸	繪図屏風（東京国立博物館蔵）の修理事例 —本紙裏面に遺されていた情報に着目して—	同上	同上	同上	有
73	同上	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、米倉乙世、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課保存修復室主任研究員 沖松健次郎	東京国立博物館における修理技術専門職員の役割について	同上	同上	6 月 8 日	有
74	同上	保存修復課長 神庭信幸	人文系資料のヘルスケア	博物館研究、第 49 巻第 10 号	日本博物館協会	9 月	有
75	同上	同上	国宝繪図屏風修理を巡る諸課題と保存修理環境の構築	MUSEUM 第 654 号 2 月発行	東京国立博物館	27 年 2 月	有
76	同上	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー 西木政統	定印薬師考—覚園寺蔵薬師如来坐像を中心に—	林温編集『仏教美術論集』3、図像学Ⅱ—イメージの成立と伝承（浄土教・説話画）	竹林舎	5 月 10 日	無
77	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、米倉乙世、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、陸前高田市立博物館長 本多文人、陸前高田市立博物館副主幹 熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長 赤沼英男、盛岡第一高等学校教諭 目時和哉	津波被災資料の安定化処理—陸前高田市立博物館の取り組み—	文化財保存修復学会第 36 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会第 36 回大会	6 月 7 日	有
78	同上	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、国宝修理装講師連盟 鈴木晴彦、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、陸前高田市立博物館副主幹 熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長 赤沼英男	Stabilization processing of cultural assets damaged by the tsunami of 11 March 2011	Preprints of the ICOM-CC, 17 th Triennial Conference, 2014 Melbourne	ICOM-CC, 17 th Triennial Conference, 2014 Melbourne	9 月 17 日	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
79	同上	保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課環境 保存室長 和田浩、保存修 復課調査分析室長 荒木 臣紀、鈴木晴彦、米倉乙世、 保存修復課保存修復室ア ソシエイトフェロー 平 河智恵、東京文化財研究所 小川絢子、保存修復課長 神庭信幸、土師広、西原紀 江、池上久美	文化財等救援活動における保存 修理—キャンバス作品の脱塩の試 み—	文化財保存修復学会第36回 大会研究発表要旨集	文化財保存修復 学会第36回大会	6月7日	有
80	同上	女子美術大学 岡田宣世、 女子美術大学 大崎綾子、 女子美術大学 安部みよ 子、多摩美術大学 深津裕 子、保存修復課長 神庭信 幸、陸前高田市立博物館副 主幹 熊谷賢、岩手県立博 物館学芸第二課長 赤沼 英男、盛岡第一高等学校教 諭 目時和哉	陸前高田市立博物館染織資料修 理経過報告	同上	同上	同上	有
81	同上	保存修復課長 神庭信幸、 保存修復課環境保存室長 和田浩	救出した資料の保管	安定化处理	大津波被災文化 財保存修復技術 連携プロジェクト 実行委員会	12月26日	無
82	博物館資料・業務 の情報処理に関 する調査研究	長野大学 田中法博、信州 大学大学院 望月宏祐、長 野大学 宮下朋也、東京国 立博物館 村田良二、国立 歴史民俗博物館 鈴木卓 治	分光情報に基づいた文化財展示 システムの開発	国立歴史民俗博物館研究報 告、第189集	国立歴史民俗博 物館	27年1月	有
83	特別展「キトラ古 墳壁画」に関する 調査研究	調査研究課考古室長 白 井克也、文化庁 宇田川滋 正、東京文化財研究所 川 野邊渉	東京国立博物館における特別展 「キトラ古墳壁画」	『月刊文化財』613号	第一法規	10月1日	無
84	特別展「台北 國 立故宮博物院— 神品至宝—」に関 する調査研究	列品管理課平常展調整室 主任研究員 川村佳男	従上古重器到帝王收藏、名品俱現	『典藏 古美術』No.261	典藏・古美術	6月1日	無
85	同上	同上	「散氏盤」他作品解説19点	『台北 國立故宮博物院—神 品至宝—』	東京国立博物 館・九州国立博物 館・NHK・NH Kプロモーション・読売新聞社・ 産経新聞社・フジ テレビジョン・朝 日新聞社・毎日新 聞社	6月24日	無
86	同上	同上	中国皇帝コレクションの淵源— 青銅器・玉器と祭礼	同上	同上	同上	無
87	同上	同上	「倣古」とは何か—古代青銅器・ 玉器がもつ「第二の歴史」	同上	同上	同上	無
88	同上	同上	多宝格	同上	同上	同上	無
89	同上	同上	翠玉白菜	同上	東京国立博物 館・九州国立博物 館・NHK・NH Kプロモーション・読売新聞社・ 産経新聞	同上	無
90	特別展「3.11 大 津波と文化財の 再生」に関する調 査研究	保存修復課長 神庭信幸、 保存修復課環境保存室長 和田浩	環境および施設整備の考え方	『大津波被災文化財保存修 復技術連携プロジェクト 安定化处理』	津波により被災 した文化財の保 存修復技術の構 築と専門機関の 連携に関するプ ロジェクト、日本 博物館協会、ICOM 日本委員会	12月26日	無
91	同上	同上	環境および施設整備の実態	同上	同上	同上	無
92	同上	同上	環境モニタリング	同上	同上	同上	無
93	「コルカタ・イン ド博物館所蔵 インドの仏—仏 教美術の源流」に 関する調査研究	企画課長 小泉恵英	パールフットー インド古代仏教 美術のあけぼの	特別展 コルカタ・インド博 物館所蔵 インドの仏 仏 教美術の源流	日本経済新聞社	27年3月 17日	無
94	同上	同上	作品解説49件	同上	同上	同上	無
95	絵巻の〈伝来〉を めぐる総合的研 究	列品管理課平常展調整室 土屋貴裕	「続稀蹟雑纂—ポルトランド美 術館所蔵作品簡解」(綿田稔・江 村知子と共著)	『美術研究』414号	東京文化財研 究所	27年2月1 日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフエ リー有 無
96	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	同上	太子絵伝のある空間—法隆寺伝来の二つの聖徳太子絵伝—	『明日香風』131号	公益財団法人 古都飛鳥保存財団	7月1日	無
97	古墳時代の農具研究	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 河野正訓	『古墳時代の農具研究—鉄製刃先の基礎的検討をもとに—』	『古墳時代の農具研究—鉄製刃先の基礎的検討をもとに—』	雄山閣	8月25日	無
98	同上	同上	古墳・三国時代における外来系農具の定着過程	武器・武具の農具・漁具—韓日三国・古墳時代資料—	「韓日交渉の考古学—三国・古墳時代—」研究会第2回共同研究会	10月30日	無
99	同上	同上	古墳時代前期の農工漁具の編年	前期古墳編年を再考する—広域編年再構築の試み—発表要旨集・資料集	中国四国前方後円墳研究会	11月29日	無
100	模写資料における書の内容・鑑賞に関する基礎的研究	客員研究員 恵美千鶴子	「後西天皇と書 装飾料紙の粋『本願寺本三十六人家集』」	『ピオ・シティ』59号	ブックエンド	7月	無
101	同上	同上	「博物館制作『厳島神社蔵経模本』—明治の人々が見た『平家納経』」	『MUSEUM』第651号	東京国立博物館	8月	有
102	同上	同上	「国宝再現—田中親美と模写の世界」	特集リーフレット	同上	10月	無
103	同上	同上	「藤原行成の尊重 直筆の発見『九層断簡』」	『ピオ・シティ』61号	ブックエンド	27年1月	無
104	同上	同上	「藤原行成筆『陣定文案』の書誌・伝来」	『禁裏・公家文庫研究』第5輯	思文閣出版	27年3月	無
105	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	客員研究員 澤田むつ代	「原始古代の織物からみた金鈴塚古墳出土の金糸と織物等」	『金鈴塚古墳研究』第3号	木更津市郷土博物館金のすず	27年3月	無
106	同上	同上	「武者塚古墳出土の遺体の埋葬仕様について」	『特別展 武者塚古墳とその時代展』	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	10月	無
107	同上	同上	「甕った飛鳥・奈良染織の美—初公開の法隆寺裂—」	東京国立博物館特集陳列リーフレット	東京国立博物館	8月19日	無
108	同上	同上	「劣化で一部粉状化したガラス挟み法隆寺裂修理方法の一例—東京国立博物館所蔵作品の事例」	『文化財保存修復学会』第36回大会 研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月	有
109	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	調査研究課工芸室 三田覚之	玉虫厨子本尊変遷考	『仏教美術論集3 図像学Ⅱ—イメージの成立と伝承(浄土教・説話画)』	竹林舎	5月1日	無
110	同上	同上	聖徳太子ゆかりの宝物—天寿国繚帳と呉竹形の塵尾—	『季刊 明日香風』131号	公益財団法人 古都飛鳥保存財団	7月1日	無
111	同上	同上	甕った飛鳥・奈良染織の美—初公開の法隆寺裂—	東京国立博物館特集陳列リーフレット	東京国立博物館	8月19日	無
112	同上	同上	武者塚古墳出土の銀帯状金具と宝珠形中心飾の源流	『上高津貝塚ふるさと歴史の広場 第13回特別展 武者塚古墳とその時代』	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	10月15日	無
113	同上	同上	仏教美術を中心とする上代工芸作品から見た金鈴塚古墳出土金具	『金鈴塚古墳研究』第3号	木更津市郷土博物館金のすず	27年3月	無
114	江戸幕府による自然科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員 小野真由美	予楽院の庭—陽明文庫所蔵「花木真写」考—	『國華』1429号	國華社	11月20日	無
115	同上	同上	異国趣味と博物図—若冲の夢見た楽園	『別冊太陽』227号	平凡社	27年3月24日	無
116	極薄青銅器の製作技術解明—中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究—	列品管理課平常展調整室主任研究員 川村佳男	漢代青銅器にみる官営工房の流派	『日本中国考古学会2014年度大会 発表資料集』	日本中国考古学会	12月6日	無
117	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的研究	保存修復課環境保存室長 和田浩、企画課特別展室長 松嶋雅人、企画課デザイン室主任研究員 矢野賀一、列品管理課平常展調整室 土屋貴裕	OLED光源を用いた面発光照明器具による伝統的な屋内光環境効果の復元	『展示学』52号	日本展示学会	3月	有
118	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究	企画課特別展アソシエイトフェロー 小野塚拓造	考古資料に見るフェニキア人による最初の交易活動	高梨学術奨励基金年報(平成18年度)	高梨学術奨励基金	11月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
119	同上	企画課特別展室アソシエイトフェロー 小野塚拓造、天理大学文学部教授 桑原久男、天理大学文学部准教授 橋本英将	新パピロニアの拠点遺跡を探る—イスラエル、テル・レヘシュ第8次発掘調査 (2014年)	考古学が語る古代オリエント—第22回西アジア発掘調査報告会報告集	日本西アジア考古学会	27年3月	無
120	スリランカ北部ジャフナにおける内戦後の博物館および文化遺産の現状調査	企画課長 小泉恵英、福山泰子、井内千紗、原本知実	スリランカ北部、東北部における文化財保存と活用	スリランカ北部、東北部における文化財保存と活用調査報告書 (Survey Report on the Protection and Utilization of Cultural Property in the Northern and Northeastern Provinces of Sri Lanka) (和英別冊)	文化遺産国際協力コンソーシアム	27年3月	無
121	博物館のマネージメントに関する調査研究	総務部長 栗原祐司	我が国の博物館法制度の現状と課題	『國學院雑誌』8月号	國學院大學	8月	無
122	同上	総務部長 栗原祐司	独立行政法人の統合問題—その経緯と問題点	全日本博物館学会第40回研究大会発表予稿集	全日本博物館学会	6月28日	有
123	我が国の博物館ネットワークに関する調査研究	総務部長 栗原祐司	Current Situation and Issues of the Human Rights Museum in Japan	Preprints of the ICOM-INTERCOM & FIHRM 2014 Taipei Conference	ICOM-INTERCOM & FIHRM 2014 Taipei Conference	5月3日	有
124	同上	総務部長 栗原祐司	The Current Status and Challenges of Japan's University Museum Networks	Preprints of the ICOM-CECA & UMAC 2014 Alexandria Conference	ICOM-CECA&UMAC 2014 Alexandria Conference	10月10日	有
125	同上	総務部長 栗原祐司	我が国のスポーツ博物館の課題と可能性	スポーツ史学会第28回大会発表抄録集	スポーツ史学会	12月7日	有
126	ミュージアム・マネージメント	総務課渉外開発担当係長・関谷 泰弘	若者はなぜミュージアムに来ないのか? : 我が国ミュージアムと東京国立博物館を事例とした非来館動機に関する研究	文化経済学 第11巻 第2号 19-34 ページ	文化経済学会	9月	有

【京都国立博物館】34件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	赤尾栄慶 (上席研究員)、山本英男 (上席研究員)、宮川禎一 (企画室長)、浅見龍介 (列品管理室長)、山川暁 (教育室長)、永島明子 (列品管理室主任研究員)、大原嘉豊 (企画室主任研究員)、羽田聡 (保存修復指導室主任研究員)、呉孟晋 (列品管理課主任研究員)、降矢哲男 (工芸室研究員)、福土雄也 (美術室研究員)、末兼俊彦 (企画室研究員)、水谷亜希 (教育室研究員)、鬼原俊枝 (学芸部研究員)	「京都国立博物館名品手帳」354回シリーズ	京都新聞 (朝刊に毎日掲載)	京都新聞社	4月1日~27年3月31日	無
2	同上	企画室主任研究員 大原嘉豊	「流転の仏画—南山城地域伝存仏画から見える歴史の断片—」	『南山城の古寺巡礼』京都国立博物館特別展覧会図録	京都国立博物館	4月22日	無
3	同上	同上	「五代宋初に至る仏画における呉道玄様式の展開」	佐藤文子他編『仏教がつなぐアジア—王権・信仰・美術—』	勉誠出版	6月3日	無
4	同上	同上	「国宝 鳥獣戯画—その歴史と作者—」	京都国立博物館編『京博が新しくなります—至宝の数々、語ります—』	クバプロ	8月20日	無
5	同上	教育室長 山川 暁	表紙解説「紋縮緬地熨斗文友禅染振袖」	『Beauty Science』3	ビューティーサイエンス学会	4月25日	無
6	同上	同上	「日本禅宗における袈裟—東福寺伝法衣を一例として—」	『学芸』第36号	京都国立博物館	5月25日	無
7	同上	同上	「東アジア染織の宝蔵・日本」	『京博が新しくなります 至宝の数々、語ります』	クバプロ	8月20日	無
8	同上	同上	「京の底力」	『美しいキモノ』249	ハースト婦人画報社	8月20日	無
9	同上	同上	「名物裂の故郷」	『京都支部たより』71	表千家同門会京都支部	9月1日	無
10	同上	同上	植物が登場するアートたち「菊に棕櫚文様帷子」	『小原流挿花』766	財団法人小原流	9月1日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
11	同上	同上	博物館案内「京都国立博物館 平成知新館」	『服飾美学』59	服飾美学会	9月30日	無
12	同上	同上	名宝細見「小葵文様直衣」	『朝日新聞』	朝日新聞社	10月31日	無
13	訓点資料としての典 籍に関する調査研究	上席研究員 赤尾栄慶	「隋経『阿難見水光瑞経』の出現」	『高田時雄教授退職記念 東方 学研究論集 [日英文分冊]』	東方学研究論集 刊行会	6月	無
14	同上	保存修理指導室主任 研究員 羽田 聡	「京都国立博物館の歴史と収蔵 品」	『月刊文化財』610号	第一法規	7月1日	無
15	同上	同上	「名宝細見 古今和歌集巻第十 二残巻(本阿弥切)」	「be on Saturday」	朝日新聞社	9月20日	無
16	特別調査「彫刻」	列品管理室長 浅見龍介	能面 創作と写し	「日本の仮面能面創作と写し」図 録	東京国立博物館	11月5日	無
17	同上	同上	「蘭溪道隆の頂相—建仁寺西来 院調査報告を中心に—」	『東アジアの中の建長寺』	勉誠出版	11月18日	無
18	出土・伝世古陶磁に関 する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	「最近出土の陶磁トピックス (平成25年) 近畿地方」	『東洋陶磁学会会報』第80号	東洋陶磁学会		無
19	同上	同上	「茶道資料館開館35周年秋季 特別展「茶の湯の名碗」展につ いて」	『淡交』68(11)	淡交社	10月28日	無
20	特別調査「漆工」(科 学研究費補助金)	列品管理室主任研究 員 永島明子	「ルーヴル美術館蔵アドルフ・ ティエール(一七九七〜一八七 七) 蒔絵コレクション」	『学叢』第36号	京都国立博物館	5月25日	無
21	特別展覧会「南山城の 古寺巡礼」に関する調 査研究	企画室長 宮川禎一	「南山城の古寺巡礼」	『南山城の古寺巡礼』展覧会図録	京都国立博物 館・朝日新聞社	4月22日	無
22	同上	企画室主任研究員 大原嘉豊	「流転の仏画—南山城地域伝存 仏画から見える歴史の断片—」	『南山城の古寺巡礼』展覧会図録	同上	4月22日	無
23	同上	学芸部研究員 浅瀨 毅	「南山城古仏巡礼」	『南山城の古寺巡礼』展覧会図録	同上	4月22日	無
24	特別展覧会等の開催 に伴う調査研究	副館長兼学芸部長 松本伸之	「博物館における企画展・特別 展の企画等について」	『展示論講座』	展示学会	9月4日	無
25	近世絵画に関する調 査研究	美術室研究員 鬼原俊枝	海北友雪筆「徒然草絵巻」の魅力	『徒然草 美術で楽しむ古典文 学』展覧会目録	サントリ美術 館	6月11日	無
26	同上	列品管理室研究員 吳 孟晋	(動向) 美術	『中国年鑑2014』	中国研究所	5月31日	無
27	同上	同上	「弥勒菩薩像・目連尊者像 独 湛性瑩筆」「阿弥陀如来像 独 湛性瑩筆」「地藏面然大士像 独 湛性瑩筆」「文殊菩薩像 独湛 性瑩筆」「負米図 独湛性瑩筆」 「老松寿石図 独湛性瑩筆」「倣 呉彬観音図 独湛性瑩筆」「独 湛性瑩像 喜多元規筆」「近藤 貞用夫妻像 喜多元規筆」(作 品解説)	『浜松にもたらされた黄檗文化』 展覧会図録	浜松市博物館	11月1日	無
28	同上	同上	中華民国期の絵画における「風 俗」へのまなざし	『風俗絵画の文化学3：瞬時をう つすフィロソフィー』	思文閣出版	12月9日	無
29	同上	同上	(コラム) 石濤への憧れとその 実際：大正後期の「解衣社」の 画家たちをめぐって	『日本美術全集 東アジアのな かの日本美術』(テーマ巻1)	小学館	27年2月25 日	無
30	同上	同上	「黄山八勝画冊 石濤筆」「松 竹梅図 呉昌碩筆」「凍雲危棧 図 橋本閑雪筆」「前赤壁図 富 岡鉄斎筆」(作品解説)	『日本美術全集 東アジアのな かの日本美術』(テーマ巻1)	小学館	27年2月25 日	無
31	同上	同上	(釈文、作品紹介)「論語集註 草稿 朱熹筆」「論語集註草稿 残稿 朱熹筆」「遠浦帰帆図 牧 谿筆」	『関西九館所蔵中国書画録Ⅱ』	関西中国書画コ レクション研究 会	27年3月31 日	無
32	同上	美術室研究員 福土雄也	「拓版画の技法と系譜」	『別冊太陽 若冲100図』	平凡社	27年2月20 日	無
33	同上	教育室研究員 水谷垂希	「京洛三十六家 山水花鳥人物 図貼交屏風」(佛教大学附属図 書館蔵)	『学叢』第36号	京都国立博物館	5月25日	無
34	文化財の保存・修復に 関する調査研究	美術室研究員 鬼原俊枝	「鳥獣人物戯画の保存修理につ いて」	『国宝鳥獣戯画と高山寺』展覧会 図録	京都国立博物 館・朝日新聞社	10月7日	無

【奈良国立博物館】22件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
1	館藏品・寄託品等の調 査研究を文化財修理 の観点から実施し、文 化財の活用及び後世 への継承に資する。	館長 湯山賢一	古文書が語る、歴史その瞬間 平清盛請文	『歴史読本』4月号	株式会社KAD OKAWA 中 経出版	4月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフエ リー有 無
2	同上	同上	法隆寺と聖徳太子信仰の美術	『法隆寺展 — 聖徳太子と平和への祈り—』	読売新聞社	4月	無
3	同上	同上	第66回正倉院展 天平という時代の文・治・乱	『目の眼』12月号	株式会社目の眼	12月	無
4	同上	同上	料紙の変遷	ユネスコ無形文化遺産登録記念『特集展示 和紙 — 文化財を支える日本の紙』	奈良国立博物館	1月	無
5	同上	同上	対談 醍醐寺と紙の文化	『書物学4』	勉誠出版株式会社	2月	無
6	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	学芸部長 内藤 栄	醍醐寺の舍利・宝珠信仰	醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展『国宝 醍醐寺のすべて 密教のほとけと聖教』	奈良国立博物館	7月	無
7	同上	同上	古密教の三鉢杵について	天皇后兩陛下傘寿記念 第六十六回『正倉院展』目録	奈良国立博物館	10月	無
8	同上	同上	唐招提寺金亀舍利塔と戒律	ザ・グレートブッダ・シンポジウム論集第12号『中世東大寺の華嚴世界—戒律・禪・浄土』	東大寺	11月	無
9	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	上席研究員 岩田茂樹	中世彫刻史上の奈良と鎌倉	特別展『武家のみやこ 鎌倉の仏像 迫真とエキゾチシズム』	奈良国立博物館	4月	無
10	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	保存修理指導室長 谷口耕生	醍醐寺聖教としての白描図	醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展『国宝 醍醐寺のすべて 密教のほとけと聖教』	奈良国立博物館	7月	無
11	同上	同上	鳥毛立女屏風と唐墓壁画樹下人物図屏風	天皇后兩陛下傘寿記念 第六十六回『正倉院展』目録	奈良国立博物館	10月	無
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	主任研究員 清水 健	垂迹美術	日本美術史	美術出版社	4月	無
13	同上	同上	鎌倉・南北朝時代の工芸	日本美術史	美術出版社	4月	無
14	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	主任研究員 鳥越俊行	X-ray tomographic analysis of the initial structure of the royal chamber and the nest-founding behavior of the drywood termite	Journal of Wood Science	Springer	9月	有
15	同上	同上	アイヌ民族文化財のX線CTによる現況調査(Ⅰ)	北海道開拓記念館研究紀要	北海道開拓記念館	3月	無
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員 北澤菜月	林庭珪と周季常、二人の画家とその傾向について	大徳寺伝来五百羅漢図	思文閣出版	5月	無
17	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	研究員 斎木涼子	醍醐寺のすべて—密教のほとけと聖教—	醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展『国宝 醍醐寺のすべて 密教のほとけと聖教』	奈良国立博物館	7月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフエ リー 有無
18	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	研究員 山口隆介	中世律宗の鎌倉進出と善派仏師一神奈川・浄光寺両脇侍像を中心に	特別展『武家のみやこ 鎌倉の仏像 迫真とエキゾチシズム』	奈良国立博物館	4月	無
19	同上	同上	醍醐寺三寶院弥勒菩薩像と仏師快慶一後白河院追善像としての側面に注目して	醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展『国宝 醍醐寺のすべて 密教のほとけと聖教』	奈良国立博物館	7月	無
20	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	研究員 原瑛莉子	五重塔壁画の両界曼荼羅諸尊一金胎同等の均斉配置	醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展『国宝 醍醐寺のすべて 密教のほとけと聖教』	奈良国立博物館	7月	無
21	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	研究員 大江克己	盛岡地方事務局大船渡出張所と仙台法務局気仙沼支局の被災公文書に施す科学的保存処理	歌津と奈良を繋ぐー奈良大学保存科学研究所の東日本大震災津波被災文書等保存の活動ー	奈良大学保存科学研究所	12月	無
22	同上	同上	飾られた馬具への問い	合同企画展展示図録『ここまでわかる！考古学』	京都市考古資料館	12月	無

【九州国立博物館】24件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフエ リー 有無
1	特別展「近衛家の国宝」に関する調査研究	文化財課資料登録室主任研究員 荒木和憲	近衛信尹と九州	特別展「近衛家の国宝」図録	九州国立博物館	4月8日	無
2	日本中世における仏涅槃図の基礎的研究	企画課研究員 森實久美子	命尊筆仏涅槃図試論	図像Ⅱーイメージの成立と伝承(浄土教・説話画)ー(仏教美術論集3)	竹林舎	5月10日	無
3	高等学校所蔵考古資料の調査研究	企画課特別展室主任研究員 市元壘	「夢中」に出会うー真夏のトピック展示「全国高等学校考古名品展」ー	文化庁広報誌ぶんかる	文化庁	5月14日	無
4	同上	同上	高等学校と考古学	真夏のトピック展示「全国高等学校考古名品展」図録	九州国立博物館	7月15日	無
5	同上	交流課教育普及室主任研究員 池内一誠	高等学校と考古学の新時代に向けて	真夏のトピック展示「全国高等学校考古名品展」図録	同上	7月15日	無
6	特別展クリーブランド美術館展に関する調査研究	企画課特別展室研究員 鷲頭桂	クリーブランド美術館の仲間たち(リーフレット)	関連展示「海を越えた再会ークリーブランド美術館の仲間たち」	同上	7月15日	無
7	高等学校所蔵考古資料の調査研究	企画課特別展室主任研究員 市元壘	考古学と高校教育	西日本文化 470号	西日本文化協会	8月1日	無
8	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	同上	鎮墓獣の進化論	獅子と狛犬 神獣が来たはるかな道	青幻舎	26年9月	無
9	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究	文化財課資料登録室主任研究員 荒木和憲	応永の外寇	高橋典幸編『戦争と平和』	竹林舎	10月9日	無
10	日本絵画に関する調査研究	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀	山水画の伝統と雪舟ー北京と山口で描いた大作ー	『日本美術全集』第9巻『室町時代 水墨画とやまと絵』	小学館	10月29日	無
11	同上	企画課特別展室研究員 鷲頭桂	「四季花木図屏風」ほか6件(作品解説)	『日本美術全集9 水墨画とやまと絵』	小学館	10月29日	無
12	高等学校所蔵考古資料の調査研究	企画課特別展室主任研究員 市元壘	高校考古の企画、調査、展示	花園大学考古学研究室たより』66号	花園大学考古学研究室	11月1日	無
13	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究	文化財課資料登録室主任研究員 荒木和憲	中世対馬における朝鮮綿布の流通と利用	佐伯弘次編『中世の対馬』	勉誠出版	12月8日	無
14	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課長 今津節生	X線CTを核とした三次元計測による博物館資料の活用と連携	文化財調査におけるX線CTの活用	北海道開拓記念館	12月20日	無
15	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 赤田昌倫	平取町所蔵耳飾り(ニンカリ)のCT調査	文化財調査におけるX線CTの活用	北海道開拓記念館	12月20日	無
16	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	元展示課長 赤司善彦	古代日本と百済の交流ー大宰府・飛鳥そして公州・扶餘ー	特別展図録「古代日本と百済の交流ー大宰府・飛鳥そして公州・扶餘ー」	九州国立博物館	27年1月1日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
17	和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究／X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析／三次元デジタル計測技法を活用した中国古代青銅器の制作技法の研究	博物館科学課長 今津節生	X線CTスキャナと3Dデータを応用した文化財調査・研究・展示への活用	三次元デジタル計測技法を活用した中国古代青銅器の制作技法の研究	九州国立博物館 泉谷博古館	27年 3月31日	無
18	三次元デジタル計測技法を活用した中国古代青銅器の制作技法の研究	博物館科学課長 今津節生 他2名	X線CTによる殷周青銅器の構造解析	同上	同上	27年 3月31日	無
19	同上	企画課特別展室主任研究員 市元壘 交流課教育普及室主任研究員 池内一誠	高校考古資料の調査—学校現場での活用を視野に—	「東風西声」九州国立博物館紀要第10号	九州国立博物館	27年 3月31日	無
20	大航海時代の美術に関する調査研究	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀	ピオンボ序説—大航海時代の日本美術に関する覚書—	「東風西声」九州国立博物館紀要第10号	同上	27年 3月31日	無
21	同上	同上	メキシコのピオンボ—副王宮殿図屏風をめぐる諸問題—	「東風西声」九州国立博物館紀要第10号	同上	27年 3月31日	無
22	大航海時代の美術に関する調査研究	企画課特別展室研究員 鷲頭桂	伝マカオ製キリスト教主題の屏風について	「東風西声」九州国立博物館紀要第10号	同上	27年 3月31日	無
23	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	企画課アソシエイトフェロー 西島亜木子、企画課研究補佐員 山下久美子、企画課研究補佐員 鮫島由佳	展示理解を深める体験型プログラム	「東風西声」九州国立博物館紀要第10号	同上	27年 3月31日	無
24	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発	博物館科学課長 今津節生	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発—X線CTによる興福寺聖像の研究—	平成24～26年度 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 研究成果報告書	九州国立博物館	27年 3月31日	無

【東京文化財研究所】40件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 (18件)

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	企画情報部文化形成研究室長 津田徹英、客員研究員 丸川雄三、客員研究員 中村佳史、客員研究員 吉崎真弓、企画情報部アソシエイトフェロー 橋川英規	研究ノート ウェブ版『みづゑ』の研究—美術史料のデジタル公開と美術アーカイブズへの展望—	『美術研究』414号	東京文化財研究所	27年2月	無
2	同上	企画情報部アソシエイトフェロー 橋川英規、	アートアーカイブの諸相	『美術研究』414号	東京文化財研究所	27年2月	無
3	文化財の資料学的研究	文化遺産国際協力センター 主任研究員 江村知子	研究資料 続稀蹟雑纂—ポートランド美術館所蔵作品簡介(一)—	『美術研究』414号	東京文化財研究所	27年2月	無
4	同上	同上	研究資料 続稀蹟雑纂—ポートランド美術館所蔵作品簡介(二)—	『美術研究』415号	同上	27年3月	無
5	同上	客員研究員 吉田千鶴子	研究資料 黒田清輝宛外国人留学生書簡影印・翻刻・解題	『美術研究』414号	同上	27年2月	無
6	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長 塩谷 純	明治期やまと絵断章	『美術フォーラム21』29	一般社団法人美術フォーラム21	5月	無
7	同上	同上	春草と“金銀体”	『菱田春草』展図録	東京国立近代美術館	9月	無
8	同上	同上	開国から1920年代プロローグとしての日本近代美術史	東京美術倶楽部編『日本の20世紀芸術』	平凡社	11月	無
9	美術の表現・技法・材料に関する多角的な研究	企画情報部 広領域研究室長 小林公治	2013年開催の南蛮漆器に関する展示会から	『美術研究』413号	東京文化財研究所	10月24日	無
10	同上	企画情報部 主任研究員 小林達郎	美麗の術—国宝千手観音の場合	『「かたち」再考』	東京文化財研究所	12月17日	無
11	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化財研究室長 高桑いづみ	返シを謡うということ—[上げ歌]形成の一過程とその応用—	『能と狂言』12	能楽学会	8月	無
12	同上	同上	『四季祝言』『敷島』の謡復元	『能と狂言』12	能楽学会	8月	無
13	同上	同上	上げ歌の「放下僧」と「海道下り」放下の歌	『花もよ』第15号	ぶんがく社	9月1日	無

14	同上	同上	『能と狂言 謡の変遷』	『能と狂言 謡の変遷』	檜書店	27年2月	無
15	同上	無形文化遺産部長 飯島満	フィルモン音帯関連資料	『無形文化遺産研究報告』第9号	東京文化財研究所	27年3月	無
16	同上	無形文化遺産部研究員 菊池理予	染織技法書に見られる豆汁の役割-寛文6年刊『紺屋染口伝書』を中心として-	『無形文化遺産報告報告』第9号	東京文化財研究所	27年3月	無
17	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部研究員 今石みぎわ	『花とイナウ—世界の中のアイヌ文化』	『花とイナウ—世界の中のアイヌ文化』	北海道大学アイヌ民族文化センター	27年3月	無
18	無形文化遺産保護に関する研究 交流・情報収集	企画情報部情報システム研究室長 二神葉子	無形遺産保護の保護に関する第9回府間委員会における議論の概要と今後の課題	『無形文化遺産研究報告』第9号	東京文化財研究所	27年3月	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部専門職員 城野誠治	「大徳寺伝来五百羅漢図」銘文可視画像化について	『大徳寺伝来五百羅漢図』	奈良国立博物館・東京文化財研究所編	5月20日	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（18件）

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター研究員 佐藤嘉則、主任研究員 犬塚将英、主任研究員 森井順之、生物科学研究室長 木川りか	虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移	『保存科学』54	東京文化財研究所	27年3月	有
2	同上	保存修復科学センター研究補佐員 小野寺裕子、客員研究員 小峰幸夫、生物科学研究室長 木川りか	低酸素濃度殺虫法-25℃、27.5℃、30℃における処理期間の検討-	『保存科学』54	同上	27年3月	有
3	同上	保存修復科学センター学研究室長 木川りか、研究員 佐藤嘉則、客員研究員 小峰幸夫	歴史的木造建造物を加害するオオナガシバムシ幼虫のセルラーゼ活性について	『保存科学』54	同上	27年3月	有
4	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター主任研究員 犬塚将英	“Modelling temperature and humidity in storage spaces used for cultural property in Japan”	『Studies in Conservation vol.59 supplement 1』	International Institution for Conservation of Historic and Artistic Works	26年9月	有
5	同上	保存修復科学センター客員研究員 古田嶋智子、客員研究員 呂俊民、保存科学研究室長 佐野千絵	試験用実大展示ケースを用いたケース内ガス濃度の解析	『保存科学』54	東京文化財研究所	27年3月	有
6	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター分析科学研究室長 早川泰弘	平等院鳳凰堂の金属部材の材料調査、	『鳳翔学叢』11	平等院	27年3月	無
7	同上	保存修復科学センター主任研究員 吉田直人	膠の主成分ゼラチンの蛍光特性変化について -濃度依存性と硫酸アルミニウムカリウムの影響-	『保存科学』54	東京文化財研究所	27年3月	有
8	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター修復材料研究室長 朽津信明、主任研究員 森井順之、研究補佐員 佐藤円香	鳥取県・花見瀧墓地赤碓塔に見られるハニカム状風化	『保存科学』54	東京文化財研究所	27年3月	有
9	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター修復材料研究室長 朽津信明	日本における横穴墓の保存	『日韓共同研究成果報告会報告書 2014』	韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所	5月	無
10	同上	保存修復科学センター主任研究員 森井順之	屋外文化財の保存と公開のための覆屋について	第44回熱シンポジウム『役に立つ湿気研究』	日本建築学会	10月	無
11	文化財の防災計画に関する研究	保存修復科学センター主任研究員 森井順之、保存修復科学センター修復材料研究室長 朽津信明、研究補佐員 佐藤円香	Fundamental research about vibration of stone lantern (ishi-toro) by earthquake	『Proceedings of the international conference on conservation of stone and earthen architectural heritage』	ICOMOS IASCStone, Kongju National University	5月	有
12	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	保存修復科学センター伝統技術研究室長 北野信彦、客員研究員 本多貴之	日光東照宮唐門および透塀の塗装彩色材料に関する調査	『保存科学』54	東京文化財研究所	27年3月	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
13	同上	保存修復科学センター 伝統技術研究室長 北野信彦	出土装飾部材の漆塗装に関する調査	『東京都千代田区有楽町一丁目遺跡』	武蔵文化財研究所	27年3月	無
14	文化財修復材料の適用に関する調査研究	保存修復科学センター 主任研究員 早川典子	増裏打ち作業における古糊と打刷毛の接着効果について	『保存科学』54	東京文化財研究所	27年3月	有
15	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター 森井順之、朽津信明、中山俊介	史跡・葦山反射炉の保存環境について	『土木史跡の地盤工学的分析・評価に関するシンポジウム』	地盤工学会	10月	無
16	同上	保存修復科学センター 中山俊介	近代テキスタイルの保存と修復	『近代テキスタイルの保存と修復』	東京文化財研究所	27年3月	無
17	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター研究員 佐藤嘉則、生物科学研究室長 木川りか	パイロシーケンス法によるキトラ古墳石室内の微生物群集構造解析	『保存科学』54	東京文化財研究所	27年3月	有
18	同上	保存修復科学センター生物科学研究室長 木川りか、研究員 佐藤嘉則、保存科学研究室長 佐野千絵	キトラ古墳の微生物調査報告(2012年~2013年)および2004年から2013年までの微生物調査結果概要	『保存科学』54	東京文化財研究所	27年3月	有

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備 (3件)

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 佐藤桂	タ・ネイ遺跡に見られる建造途中の改変について	『世界建築史論集 中川武先生退任記念論文集(西アジア・西洋・南アジア・カンボジア・ベトナム篇)』	中央公論美術出版	27年3月	有
2	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	前文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 安倍雅史	アク・ベシム遺跡出土の羊距骨とキルギス伝統遊戯チュコ	『西アジア考古学』16	日本西アジア考古学会	27年3月	有
3	同上	前文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 安倍雅史	Results of the Archaeological Project at Ak Beshim (Suyab), Kyrgyz Republic from 2011 to 2013 and a Note on the Site's Abandonment.	『Intercultural Understanding 4: 11-16』	Mukogawa Women's University	4月	無

【奈良文化財研究所】94件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 (64件)

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	歴史研究室長 吉川聡ほか	三徳山三佛寺所蔵木造勝手権現像について	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	都城発掘調査部研究員 大林潤	法隆寺所蔵古材調査4-昭和の大修理と古材の整理-	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
3	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	都城発掘調査部研究員 鈴木智大	大兵庫における伝統的展開-兵庫県近代和風建築総合調査4-	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
4	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	前都城発掘調査部主任研究員 黒坂貴裕	集落町並みの保存活用-日中韓建築文化遺産保存学術会議から-	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
5	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 松下迪生	長野県塩尻市平出集落の特質-伝統的建造物群保存対策調査から-	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
6	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	都城発掘調査部研究員 鈴木智大	黄檗様建築における中国建築の穿插枋	2014年度大会(関西)学術講演梗概集F-2	日本建築学会	9月12日	無
7	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部長 林良彦	長谷川家住宅の建築の評価	松阪長谷川家住宅文化財シンポジウム予稿集	松阪市教育委員会	10月26日	無
8	我が国の記念物に関する調査・研究(遺跡等整備)	景観研究室長 平澤毅 文化遺産研究室主任研究員 中島義晴	計画の意義と方法	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
9	我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	文化遺産部主任研究員 中島義晴	室町時代の将軍の庭園	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
10	我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	文化遺産部主任研究員 中島義晴、前アソシエ トフェロー 大平和弘	奈良市における庭園の悉皆的調査－ 宗教法人の庭園－	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
11	我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	副所長 小野健吉	『法然上人行状絵図』に描かれた月輪 殿の庭園	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
12	我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	文化遺産部研究員 高橋知奈津	平安貴族の遊覧と文芸－道長と桂、宇 治	庭園学講座21『日 本庭園と文芸』	京都造形芸術大 学 日本庭園・歴 史遺産研究セン ター	8月29日	無
13	我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	文化遺産部研究員 高橋知奈津	戦国城館の庭園遺構	戦国時代の城館の 庭園	奈良文化財研究 所	27年3月31 日	無
14	平城京左京二条二坊十五坪の発掘調査	都城発掘調査部主任研 究員 神野 恵 他	平城京左京二条二坊十五坪の発掘調 査 平城第514次	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
15	興福寺西室の発掘調査	都城発掘調査部研究員 番 光 他	興福寺西室の発掘調査 平城第516次	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
16	薬師寺十字廊跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員 庄田慎矢 他	薬師寺十字廊跡の発掘調査 平城第 519次	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
17	古代官衙、集落遺跡等に 関する研究集会の実施、 報告書の刊行	都城発掘調査部研究員 大林 潤	長舎の構造的検討	第17回古代官 衙・集落研究会報 告書 長舎と官衙 の建物配置	奈良文化財研究 所	12月11日	有
18	古代官衙、集落遺跡等に 関する研究集会の実施、 報告書の刊行	都城発掘調査部研究員 小田裕樹	饗宴施設の構造と長舎	第17回古代官 衙・集落研究会報 告書 長舎と官衙 の建物配置	奈良文化財研究 所	12月11日	有
19	平城宮・京跡の出土遺物 と検出遺構の調査研究 等	都城発掘調査部研究員 芝 康次郎 他	薬師寺食堂と西大寺旧境内における 放射性炭素年代測定 第500次・第 505次	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
20	平城宮・京跡の出土遺物 と検出遺構の調査研究 等	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦、元興寺文化財 研究所 木沢直子、元興 寺文化財研究所 小村 眞理	平城宮・京出土土器の製法技法と皮 革	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
21	平城宮・京跡の出土遺物 と検出遺構の調査研究 等	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦	平城京左京三条一坊一坪の組織的鉄 鍛冶工房について	たたら研究 No. 53	たたら研究会	8月31日	無
22	飛鳥・藤原京跡出土遺 物・遺構に関する調査研 究等	都城発掘調査部主任研 究員 降幡順子、 都城発掘調査部研究員 森先一貴	藤原宮・京出土土瓦の胎土分析	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
23	飛鳥・藤原京跡出土遺 物・遺構に関する調査研 究等	都城発掘調査部主任研 究員 今井晃樹	藤原宮出土の鬼瓦と面戸瓦	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
24	飛鳥・藤原京跡出土遺 物・遺構に関する調査研 究等	都城発掘調査部主任研 究員 降幡順子	キトラ古墳出土ガラス小玉	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
25	飛鳥・藤原京跡出土遺 物・遺構に関する調査研 究等	都城発掘調査部研究員 庄田慎矢、埋蔵文化財セ ンター研究員 星野安 治、都城発掘調査部主任 研究員 降幡順子、パレ オラボAMS年代測定 グループ	C14年代ウイグルマッチングによ る甘樫丘東麓遺跡の年代学的検討	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
26	東アジアにおける工芸 技術及び飛鳥時代の建 築遺物等の研究	飛鳥資料館長 松村恵 司、学芸室長 石橋茂 登、飛鳥資料館研究員 西田紀子、飛鳥資料館研 究員 丹羽崇史	鏡に関する研究雑感	飛鳥資料館研究図 録第18冊『鏡に關 する研究雑感』	飛鳥資料館	27年3月27 日	無
27	アジアにおける古代都 城遺跡、生産遺跡、墓制 及び陶磁器に関する中 国、韓国との共同研究 及びカザフスタンへの研 究協力	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦、都城発掘調 査部研究員 川端 純、都 城発掘調査部研究員 諫早直人	遼寧省北票市金嶺寺遺跡および大板 営子遺跡出土遺物の調査	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
28	文化的景観及びその保 存・活用に関する調査研 究	景観研究室長 平澤毅、 文化遺産部主任研究員 中島義晴	計画の意義と方法	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
29	文化的景観及びその保 存・活用に関する調査研 究	文化遺産部アソシエ トフェロー 菊地淑人	文化的景観の価値と保存計画の運動 性－佐渡相川の鉱山都市景観にお ける模索－	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
30	文化的景観及びその保 存・活用に関する調査研 究	文化遺産部研究員 恵谷浩子	生産と製造が結びついた農業景観の 保護手法－日仏の比較－	奈良文化財研究所 紀要2014	奈良文化財研究 所	6月27日	無
31	文化的景観及びその保 存・活用に関する調査研 究	文化遺産部アソシエ トフェロー 菊地淑人 ほか	Local Visions of the landscape : Participatory Photographic Survey of the World Heritage Site, the Rice Terraces of the Philippine	Landscape Research39(4)	Routledge	7月3日	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
			Cordilleras				
32	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部研究員 恵谷浩子	文化的景観という取組の有効性と課題	農村計画学会誌 32巻22号	農村計画学会	9月30日	無
33	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	景観研究室差長 平澤毅	公園に生きる歴史文化資産	公園緑地75(2)	日本公園緑地協会	10月17日	無
34	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部研究員 恵谷浩子ほか	第38回世界遺産委員会(ドーハ)報告	遺跡学研究第11号	日本遺跡学会	11月20日	無
35	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	古墳の周辺および内部環境が遺物の劣化に与える影響に関する研究(その1) 模擬古墳を用いた土中空間の環境計測とその性状の把握	日本建築学会近畿支部研究報告集	日本建築学会近畿支部	6月22日	無
36	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美 埋蔵文化財センター研究員 星野安治	宮城県追戸横穴墓出土トンボ玉の自然科学的研究	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
37	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美 埋蔵文化財センター客員研究員 大賀克彦 埋蔵文化財センター客員研究員 赤田昌倫	エジプト・カラニス遺跡出土ガラスの考古学的研究	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
38	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	宮城県追戸横穴墓出土の斑点紋トンボ玉の自然科学的研究	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
39	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	XRF, ESR法による芝ヶ原古墳出土土玉類の産地分析	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
40	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美 埋蔵文化財センター客員研究員 赤田昌倫	富山県小竹貝塚から出土した「鯛の歯を象眼した漆製品片」	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
41	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	出土木製遺物の屋外水中保管環境における溶存酸素の分布と挙動	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
42	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	海洋環境における鉄製遺物の腐食過程の研究 - 国史跡鹿島神崎遺跡における埋蔵環境の季節変動と堆積物の状態 -	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
43	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	田熊石畑遺跡における青銅器埋蔵環境に関する実測調査	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
44	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究(その1) 模擬古墳を用いた土中空間の環境計測とその性状の把握	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
45	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究(その2) 埋葬主体内部の環境が金属製遺物の腐食速度に及ぼす影響	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
46	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター客員研究員 赤田昌倫 保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター主任研究員 降幡順子、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎、埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	高松塚古墳壁画の材料調査 - 西壁女子群像の赤衣像青色裳に使用された色料について -	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
47	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター主任研究員 降幡順子 保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎、埋蔵文化財センター研究員 田村朋美 埋蔵文化財センター客員研究員 赤田昌倫	高松塚古墳壁画の赤色・黄色色料に関する調査	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
48	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター客員研究員 赤田昌倫 保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財セ	観察手法によるキトラ古墳壁画表面の調査結果報告	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
		センター主任研究員 降幡順子、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎、埋蔵文化財センター研究員 田村朋美					
49	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター客員研究員 赤田昌倫 保存修復科学研究室長 高妻洋成	薬師寺東塔に使用された塗装材料の分析	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
50	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	芝ヶ原古墳出土土玉類	埼玉大学紀要第50巻第1号	埼玉大学	9月	無
51	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美 埋蔵文化財センター客員研究員 大賀克彦	Distribution of lead-barium glasses in ancient Ja-pan	CrossRoad vol.9	OSTASIEN Verlag	27年3月	無
52	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美 埋蔵文化財センター客員研究員 大賀克彦	佐賀県内出土ガラス製玉類の考古学的研究	佐賀県立博物館・美術館調査研究書第39号	佐賀県立博物館・美術館	27年3月	無
53	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美 埋蔵文化財センター客員研究員 大賀克彦	目梨泊遺跡出土ガラス小玉の考古学的検討	枝幸研究 No. 6	オホーツクミュージアムえさし	27年3月	無
54	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	免ヶ平古墳出土ガラス製遺物の考古学的研究	大分県立歴史博物館研究紀要 No. 16	大分県立歴史博物館	27年3月	無
55	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美 埋蔵文化財センター客員研究員 大賀克彦	古墳時代前期のナトロンガラス	古代学 第6号	奈良女子大学古代学学術研究センター	27年3月	有
56	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	引き伸ばし法によるガラス小玉の系譜と伝播	物質文化 No. 95	物質文化研究会	27年3月	有
57	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	Study on Preservation Methods of Imperial Citadel of Thang Long Based on Heat and Moisture Movement in the Remains	Proceedings of the International Conference on Conservation of Stone and Earthen Architectural Heritage	ICOMOS-ISCS	5月21日	有
58	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	日本建築学会近畿支部研究報告集	日本建築学会近畿支部	6月22日	無
59	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	史跡ガランドヤ古墳の保存に関する研究2—結露抑制の手法に関する検討—	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
60	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	史跡ガランドヤ古墳の保存に関する研究—結露の抑制方法に関する検討—	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
61	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	保存修復科学研究室長 高妻洋成、埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔、埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	墳丘の被覆条件が石室内の温熱環境に与える影響に関する検討	日本文化財科学会第31回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月6日	無
62	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	Measurement of sorption isotherm of porous materials influenced by salt	Proceedings of SWBSS 2014	Third International Conference on Salt Weathering of Buildings and Stone Sculptures	10月15日	有
63	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	Measurement of salt solution uptake by ceramic brick using γ -ray projection	Proceedings of SWBSS 2014	Third International Conference on Salt Weathering of Buildings and Stone Sculptures	10月15日	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
64	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター研究員 脇谷草一郎	土遺構の露出展示保存における保存施設の環境設計	第44回熱シンポジウム論文集	日本建築学会	10月25日	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 (20件)

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
1	文化財の測量・探査等に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	Structure from Motionによる遺構計測の試行	奈良文化財研究所紀要2014	日本文化財科学会	6月27日	無
2	文化財の測量・探査等に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	S f mによる近接写真計測の遺跡への応用	日本文化財科学会第31回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月5日	有
3	文化財の測量・探査等に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	S f m各手法による三次元計測の比較	日本文化財科学会第31回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月5日	有
4	文化財の測量・探査等に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	U A VとS f mによる三次元計測	日本文化財科学会第31回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月5日	有
5	文化財の測量・探査等に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	九十九里地域における古墳のレーダ探査	日本文化財科学会第31回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月5日	有
6	文化財の測量・探査等に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	可児市大萱古窯跡における探査と発掘の連携	日本文化財科学会第31回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月5日	有
7	文化財の測量・探査等に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	奈良山Ⅱ	奈良文化財研究所学報	奈良文化財研究所	10月8日	無
8	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター主任研究員 大河内隆之、埋蔵文化財センター研究員 星野安治、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 高妻洋成、都城発掘調査部研究員 芝康次郎	平城京二条大路出土画板のマイクロフォーカスX線CTを用いた非破壊年輪年代調査	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
9	年輪年代学研究	都城発掘調査部研究員 庄田慎矢、埋蔵文化財センター研究員 星野安治、都城発掘調査部主任研究員 降幡順子	¹⁴ Cウイグルマッチングによる甘樫丘東麓遺跡の年代学的検討	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
10	年輪年代学研究	都城発掘調査部研究員 芝康次郎、諫早直人、埋蔵文化財センター研究員 星野安治	薬師寺食堂と西大寺旧境内における放射性炭素年代測定	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
11	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	藤原宮造営の運河から出土した小児骨	奈良文化財研究所紀要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無
12	動植物遺存体による環境考古学的研究	葛飾区郷土と天文の博物館 谷口榮、埋蔵文化財センター研究員 山崎健、客員研究員 丸山真史	歴史考古学における水産資源の研究	季刊考古学 128	雄山閣	8月1日	無
13	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	近現代の貝卸	季刊考古学 128	雄山閣	8月1日	無
14	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健、埋蔵文化財センター主任研究員 大河内隆之	X線CT投影データを用いた複製品の製作—愛知県朝日遺跡から出土した石鏃の刺さった動物骨を事例として—	文化財の壺 3	文化財方法論研究会	12月31日	有
15	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	東日本大震災に伴う復興調査の支援	奈良分会研究所総合研究会(第25回)資料集	奈良文化財研究所	27年1月30日	無
16	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	木曾田遺跡から出土した火葬骨	木曾田遺跡	鈴鹿市考古博物館	27年3月31日	無
17	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	動物遺存体	南鴻沼遺跡	さいたま市遺跡調査会	27年3月31日	無
18	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	丸山B遺跡から出土した焼骨	丸山B遺跡	三鷹市教育委員会	27年3月31日	無
19	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	神谷地遺跡から出土した動物遺存体	神谷地遺跡	横手市教育委員会	27年3月31日	無
20	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	若狭の漁撈と製塩—浜瀾遺跡における酒誌報告(1966)の再検討—	若狭の塩、再考	美浜町教育委員会	27年3月31日	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 (3件)

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	保存修復科学研究室長 高妻洋成	壁画の下の漆喰が見たい！	特別展「キトラ古墳壁画」図録	朝日新聞社	4月22日	無
2	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	保存修復科学研究室長 高妻洋成	科学の目で観る古代壁画	O PLUS E	(株)アドコム・メディア	7月	無
3	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	保存修復科学研究室長 高妻洋成	高松塚古墳壁画とキトラ古墳壁画の材料調査	大塚薬報 No. 695	(株)大塚ホールディングス	5月10日	無

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（3件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」への参画	『奈文研ニュース』No. 54	奈良文化財研究所	9月	無
2	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 村田泰輔	平城第530次発掘調査で発見された巨大地震の痕跡	『奈文研ニュース』No. 55	奈良文化財研究所	12月	無
3	他機関等との共同研究及び受託研究を実施	都城調査部部主任研究員 山本崇、客員研究員 藤井裕之、鳥取県教育文化財団 高尾浩司	鳥取県良田平田遺跡の出土文字資料	奈良文化財研究所概要2014	奈良文化財研究所	6月27日	無

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（0件）

○平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館における調査・研究成果（4件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	飛鳥資料館における展示公開	飛鳥資料館館長 松村恵司、学芸室長 石橋茂登、飛鳥資料館研究員 西田紀子、飛鳥資料館研究員 丹羽崇史	春期特別展「いにしへの匠たちーものづくりからみた飛鳥時代ー」	飛鳥資料館図録第60冊『いにしへの匠たちーものづくりからみた飛鳥時代ー』	飛鳥資料館	4月25日	無
2	飛鳥資料館における展示公開	飛鳥資料館館長 松村恵司、学芸室長 石橋茂登、飛鳥資料館研究員 西田紀子、飛鳥資料館研究員 丹羽崇史	企画展「大和の美仏に魅せられて」	飛鳥資料館カタログ第31冊『大和の美仏に魅せられて』	飛鳥資料館	9月12日	無
3	飛鳥資料館における展示公開	飛鳥資料館館長 松村恵司、学芸室長 石橋茂登、飛鳥資料館研究員 西田紀子、飛鳥資料館研究員 丹羽崇史	秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどりー大地にきざまれた記憶ー」	飛鳥資料館図録第61冊『はぎとり・きりとり・かたどりー大地にきざまれた記憶ー』	飛鳥資料館	10月10日	無
4	飛鳥資料館における展示公開	飛鳥資料館館長 松村恵司、学芸室長 石橋茂登、飛鳥資料館研究員 丹羽崇史	冬期企画展「飛鳥の考古学2014」	飛鳥資料館カタログ第32冊『飛鳥の考古学2014』	飛鳥資料館	27年1月16日	無

○地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（0件）

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】1件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	副所長 大貫美佐子	Documentation of ICH in danger of disappearing as a tool for community-led safeguarding activities: Analysis of the case studies conducted in 5 communities in Asia	Safeguarding and revitalizing intangible cultural heritage 2012-2014	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	27年3月31日	無

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

平成27年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊行物名	発行部数	配布先
「MUSEUM」649～654号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,796件 (各466件×6)
「東京国立博物館紀要」50号	700	美術館・博物館・大学・研究所等 368件
「東京国立博物館文化財修理報告」XV	700	美術館・博物館・大学・研究所等 94件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」XXV 古今目録抄1	1,000	美術館・博物館・大学・研究所等 198件
「東京国立博物館図版目録 東洋彫刻篇」	800	美術館・博物館・大学・研究所等 163件

○展覧会図録等

刊行物名	発行部数	配布先
特別展 『キトラ古墳壁画』	—	美術館・博物館・大学等 111件
『台北 國立故宮博物院—神品至宝—』	—	美術館・博物館・大学等 111件
『東アジアの華 陶磁名品展』	3,000	美術館・博物館・大学等 111件
『日本国宝展』	—	美術館・博物館・大学等 111件
『みちのくの仏像』	—	美術館・博物館・大学等 111件
『コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流』	—	美術館・博物館・大学等 111件
特別展印刷物（リーフレット） 「3.11大津波と文化財の再生」	10,000	
特集図録 『能面 創作と写し』	2,000	
特集印刷物（リーフレット） 「古文書の世界」	5,000	
「甦った飛鳥・奈良染織の美—初公開の法隆寺裂—」	3,000	
「国宝再現—田中親美と模写の世界—」	4,000	
「東京国立博物館コレクションの保存と修理」	8,000	
「国宝 檜図屏風」	10,000	
その他 「3.11 大津波と文化財の再生」	10,000	
「The Great Tsunami of March 11, 2011 and Restoration of Cultural Properties」	10,000	
『文化財の“臨床保存” —東京国立博物館の挑戦—』	10,000	
『東京国立博物館所蔵 重要考古資料学術調査報告書(第4冊) — 国宝埴輪掛甲武人・重要文化財埴輪盛装女子・重要文化財埴輪猪附埴輪男子—』	800	
『東京国立博物館ハンドブック』（日本語改訂版）	3,000	
『東京国立博物館ハンドブック』（英語改訂版）	3,000	
『自在置物』増刷	1,000	
『根付 高円宮コレクション』増刷	2,000	
「東京国立博物館コレクションの保存と修理」平成21年度版増刷	1,000	
「東京国立博物館コレクションの保存と修理」平成22年度版増刷	1,000	
「東京国立博物館コレクションの保存と修理」平成23年度版増刷	1,000	
「東京国立博物館コレクションの保存と修理」平成24年度版増刷	1,000	

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊行物名	発行部数	配布先
研究紀要「学叢」第36号	850	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所 修理報告書12	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等

刊行物名	発行部数	配布先
特別展覧会『南山城の古寺巡礼』	—	美術館・博物館・大学等
特別展覧会『国宝 鳥獣戯画と高山寺』	—	美術館・博物館・大学等
『京都国立博物館所蔵名品120選 京（みやこ）へのいざない』	16,000	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物

刊行物名	発行部数	配布先
奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第15号・16号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録

刊行物名	発行部数	配布先
特別展 特別展『武家のみやこ 鎌倉の仏像 迫真とエキゾチシズム』	6,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展『国宝 醍醐寺のすべて —密教のほとけと聖教—』	8,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
天皇后両陛下傘寿記念 『第66回正倉院展』	35,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
Commemorating the 80th Birthdays of their Majesties the Emperor and Empress 『The 66th Annual Exhibiton of Shoso-in Treasures』	3,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列 『おん祭と春日信仰の美術』	1,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列 『お水取り』	1,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
その他 〔復刻版〕正倉院展特別展観目録（第1回正倉院展）	5,000	—
『正倉院展ポスター 昭和22—昭和63』	10,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

『大和の仏たち —奈良博写真技師の眼—』	3,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
ユネスコ無形文化遺産登録記念 特集展示「和紙—文化財を支える日本の紙—」	3,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物

刊行物名	発行部数	配布先
九州国立博物館紀要『東風西声』 第10号	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
平成26年度 文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなでまもるミュージアム」報告書	500	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等

○展覧会図録等

	発行部数	配布先
特別展		
「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝—京都・陽明文庫展」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
「台北 國立故宮博物院—神品至宝— 記念図録」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」	1,550	美術館・博物館・大学・研究機関等
トピック展示		
「館蔵近世絵画名品展」	1,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
「中国を旅した禅僧の足跡」	2,100	美術館・博物館・大学・研究機関等
「真夏のトピック展示・全国高等学校 考古名品展」	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
「大涅槃展」	1,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
「柿右衛門 - 受け継がれる技と美 -」	1,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
文化交流展印刷物（パンフレット）		
「特別公開 海を越えた再会—クリーブランド美術館の仲間たち」	2,200	展示室内等で配布（非売品）
その他		
文化交流展示室公式ガイドブック「ビジュアルガイドブック Asiage（アジアージュ）」（17年10月15日発行）	増刷1,000	館内ミュージアムショップにて販売

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊行物名	発行部数	配布先
『東京文化財研究所年報』2013年度版	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東京文化財研究所概要』2014年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東文研ニュース』55、56、57号	55号 2,500 56、57号 1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
『平成25年版 日本美術年鑑』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
『美術研究』413号～415号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『無形文化遺産研究報告』第9号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
第9回無形民俗文化財研究協議会報告書	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
『大徳寺伝来五百羅漢図』	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
『保存科学』54号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
『文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 「かたち」再考—開かれた語りのために』	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『大洋州島嶼国調査報告書』	300	文化庁・関係機関
『洋人奏楽図屏風光学調査報告書』	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『泰西王侯騎馬図屏風光学調査報告書』	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書 2014年度』	100	文化庁・関係機関
『文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用』	300	文化庁・関係機関
『近代テキスタイルの保存と修復』	500	文化庁・関係機関
『各国の文化財保護法令シリーズ[19]シリア』	300	文化庁・関係機関
『国際資料室蔵書目録』	200	文化庁・関係機関
『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2014』	100	中国側機関・大学・研究機関等
『2014年度韓日文化財保存環境成果報告書—文化財環境の保存管理技術研究』	100	関係機関
『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成26年度成果報告書』	100	文化庁・関係機関
『ミャンマーの木造建築文化 Traditional Wooden Building in Myanmar』	100	文化庁・関係機関
『バーミヤーン遺跡保存事業概報：2013年度（第11次ミッション）』	250	文化庁・関係機関
『NRICP Final Report of the 2011-2013 UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project』	200	文化庁・関係機関
『Indo-Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Heritage, Series 4, Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings Conservation and Scientific Investigation of the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9』	200	文化庁・関係機関
『シリア復興と文化遺産』	400	各所蔵館、各修理工房、その他関係者機関
『Conservation and Scientific Investigation of the Archaeological Metal Object at the History Museum of Armenia 2011-2015』	200	関係研究機関・国内外図書館
文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「アルメニアおよびコーカサス諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」アルメニア歴史博物館所蔵の考古金属資料の保存修復・調査研究事業及びそれに係わる人材育成・技術移転のための協力 平成26年度 業務報告書	50	文化庁・関係機関
文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「アルメニアおよびコーカサス諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」アルメニア歴史博物館における考古青銅遺物保存修復ワークショップ」平成26年度 資料集	50	文化庁・関係機関
文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業『キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業』平成26年度 業務報告書	30	文化庁・関係機関
文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業『キルギス共和国および中央アジア諸国にお	30	文化庁・関係機関

る文化遺産保護に関する拠点交流事業』 講義資料集		
『ユーラシア壁画保存修復に関する比較調査報告書』	40	文化庁・関係機関
『ユーラシア壁画の調査研究と保存修復に関する研究会報告書』	40	文化庁・関係機関
『ケルン東洋美術館所蔵「伊藤若冲筆 寒山拾得図」修復報告書』	200	各所蔵館、各修理工房、その他関係者機関
『ケルン東洋美術館所蔵「賢江祥啓筆 山水図」修復報告書』	200	各所蔵館、各修理工房、その他関係者機関
『ケルン東洋美術館所蔵「仲安真康筆 出山釈迦図」修復報告書』	200	各所蔵館、各修理工房、その他関係者機関
『ケルン東洋美術館所蔵「豊照女図」修復報告書』	200	文化庁・関係機関
『古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査事業報告書』 27年3月	200	文化庁・関係機関
調査報告書『スリランカ北部、東北部における文化財保存と活用 日本語』	300	コンソーシアム会員・研究会協力機関
調査報告書『スリランカ北部、東北部における文化財保存と活用 英語』	200	コンソーシアム会員・研究会協力機関
平成26年度協力相手国調査『マレーシア調査報告書』	150	コンソーシアム会員・研究会協力機関
平成26年度協力相手国調査『ネパール調査報告書』	150	コンソーシアム会員・研究会協力機関
『文化遺産国際協力事業紹介 2014年度』	1500	コンソーシアム会員・研究会協力機関
『文化遺産国際協力事業紹介 2014年度 英語』	1000	コンソーシアム会員・研究会協力機関
『平成26年度文化庁委託 第38回世界遺産委員会審議調査研究事業』	300	文化庁・地方自治体
文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 『ブータン王国の版築造建造物保存に関する調査研究』 (日本語版)	150	文化庁・関係機関
文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 『ブータン王国の版築造建造物保存に関する調査研究』 (英語版)	150	文化庁・関係機関
『Conservation and Scientific Investigation of the Archeological Metal Object at the History Museum of Armenia 2011-2015』	200	文化庁・関係機関

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊行物名	発行部数	配布先
奈良文化財研究所概要2014	2,700	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所紀要2014	3,000	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュースNo.53~56	各3,000	大学、研究機関等
埋蔵文化財ニュースNo.158~161	158 : 2,500 159 : 2,500 160 : 2,500 161 : 2,200	教育委員会、図書館、博物館等
奈良文化財研究所特別講演 (東京会場) 『〈歴史の証人〉木簡を究める』講演録	200	関係機関、協力機関等
『いにしへの匠たちーものづくりからみた飛鳥時代ー』飛鳥資料館図録第60冊	1,600	関係機関、協力機関等
『はぎとり・きりととり・かどりー大地にきざまれた記憶ー』飛鳥資料館図録第61冊	1,600	関係機関、協力機関等
『大和の美仏に魅せられて』飛鳥資料館カタログ第31冊	1,600	関係機関、協力機関等
『飛鳥の考古学2014』飛鳥資料館カタログ第32冊	1,600	関係機関、協力機関等
第5回写真コンテスト展リーフレット『飛鳥の葦マップ』	10,000	館内観覧者
東アジア金属工芸史の研究『鏡に関する研究雑感』	550	関係機関、協力機関等
『平城京ビックリ! はくらんかい』リーフレット	5,000	館内観覧者
『地下の正倉院展ー木簡を科学するー』リーフレット	7,000	館内観覧者
ミニ展示『発掘速報展平城2014 I期』リーフレット	1,500	館内観覧者
ミニ展示『発掘速報展平城2014 II期』リーフレット	1,500	館内観覧者
『仁和寺史料 目録編〔稿〕二』	600	大学、研究機関等
『ベトナム カイベイ市集落調査報告書』	700	大学、研究機関等
『Village Surver Report in Cai Be Tien Giang Province Socialist Republic of Viet Nam』	700	大学、研究機関等
『奈良山発掘調査報告Ⅱー歌姫西須恵器窯の調査ー』奈良文化財研究所学報第93冊	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『計画の意義と方法』平成25年度遺跡等マネジメント研究会 (第3回) 報告書	1,000	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『戦国時代の城館の庭園』平成26年度庭園の歴史に関する研究会報告書	300	大学、研究機関等
『世界遺産の文化的景観 保全・管理のためのハンドブック』	1,000	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『8世紀の瓦づくりIVー平城宮式肆伍の展開2ー6282-6721系ー』第15回シンポジウム予稿集	300	関係者・協力者等
第17回古代官衙・集落研究会研究報告書『長舎と官衙の建物配置』 (報告編)	600	関係者・協力者等
第17回古代官衙・集落研究会研究報告書『長舎と官衙の建物配置』 (資料編)	600	関係者・協力者等
第18回古代官衙・集落研究会研究会『宮都・官衙と土器 (官衙・集落と土器1) 研究報告資料』	260	関係者・協力者等
『第一次大極殿院復原検討会記録』9 (内部資料)	200	関係機関・協力機関等
『第一次大極殿院復原検討会記録』10 (内部資料)	200	関係機関・協力機関等
『第一次大極殿院復原検討会記録』11 (内部資料)	200	関係機関・協力機関等
『第一次大極殿院復原検討会記録』12 (内部資料)	200	関係機関・協力機関等
『現場のための環境考古学 (携帯版)』	1,000	関係機関・協力機関等
『西トップ遺跡の調査修復に関する年次報告書 南祠堂解体編2』	500	関係機関・協力機関等
『Annual Report on the Research and Restoration Work of the Western Prasat Top Dismantling Process of the Southern Sanctuary II』	300	関係機関・協力機関等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
IRC1リーフレット（日本語1,000部・英語500部・越語100部）（英語改訂版200部）	1,800	関係機関、協力機関等
Towards Safeguarding Endangered Traditional Crafts in Post-Conflict Areas of Sri Lanka	100	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2013 Study Tour Report: Toward Safeguarding the Intangible Cultural Heritage for the Promotion of Cultural Identity and Community Resilience in Timor-Leste（改訂版）	100	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

平成27年3月31日現在

件数	国立文化財 機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋 無形文化遺産 研究センター
		計	東京国立 博物館	京都国立 博物館	奈良国立 博物館	九州国立 博物館	計	東京文化 財研究所	奈良文化 財研究所	
合計	107	41	26	3	2	10	66	23	43	0
科学研究費 補助金のみ	20	11	6	3	1	1	9	2	7	0
学術研究助成基金 助成金のみ	57	16	10	0	1	5	41	16	25	0
科学研究費補助金と 学術研究助成基金助 成金の両方からの交 付を受けた調査研究	30	14	10	0	0	4	16	5	11	0

※平成22年度までの科学研究費補助金事業は、平成23年度より「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」による科学研究費助成事業として取り扱うこととなった。

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）

【東京国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 6件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額 (千円)
1	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	田沢 裕賀	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究 (A)	5,720
2	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松 健次郎	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員	基盤研究 (A)	5,590
3	博物館における文化財の情報資源化に関する研究	高橋 裕次	学芸企画部博物館情報課長	基盤研究 (A)	7,150
4	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究	神辺 知加	学芸企画部博物館教育課教育講座室主任研究員	基盤研究 (C)	390
5	絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究	土屋 貴裕	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	若手研究 (A)	3,640
6	古墳時代の農具研究	河野 正訓	学芸研究部調査研究課考古室アソシエイトフェロー	研究成果公開促進費(学術図書)	900

2) 学術研究助成基金助成金のみ 10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) 〈研究期間〉
1	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究	古谷 毅	学芸研究部列品管理課主任研究員	基盤研究 (C)	0	※1 4,680 〈当初:平成23~25年度〉 〈変更後:平成23~26年度〉
2	浅鉢形土器の型式学的検討を通じた縄文社会構造の研究	井出 浩正	学芸研究部調査研究課考古室研究員	若手研究 (B)	0	※1 2,340 〈当初:平成24~25年度〉 〈変更後:平成24~26年度〉
3	神像表現における物語性の研究	丸山 士郎	学芸研究部列品管理課平常展調整室長	基盤研究 (C)	780	4,810 〈平成25~28年度〉
4	模写資料における書の内容・鑑賞に関する基礎的研究	恵美 千鶴子	客員研究員	基盤研究 (C)	1,300	4,550 〈平成25~27年度〉
5	江戸幕府による自然科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究	小野 真由美	学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室主任研究員	基盤研究 (C)	1,430	4,290 〈平成25~27年度〉
6	聴力障害を持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築	川岸 瀬里	学芸企画部博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー	若手研究 (B)	1,300	4,160 〈平成25~27年度〉
7	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術学的研究	澤田 むつ代	客員研究員	基盤研究 (C)	910	4,680 〈平成26~28年度〉
8	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	三田 覚之	学芸研究部調査研究課工芸室研究員	若手研究 (B)	1,300	3,380 〈平成26~28年度〉
9	東アジアからみた乾隆画壇の総合的研究	塚本 磨充	学芸研究部調査研究課東洋室研究員	若手研究 (B)	1,300	3,640 〈平成26~29年度〉
10	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究; 新来館者の定着に向けた実証的調査分析	関谷 泰弘	総務部総務課渉外開発担当主任	若手研究 (B)	2,340	3,900 〈平成26~28年度〉

※1 補助事業の延長により、当初の研究期間に変更があったものである。

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額(千円)	当年度の交付決定額(採択時)(千円)	全研究期間での交付決定額(千円)<研究期間>
1	刀装具一派後藤家の鑑定 極帳(鑑定控)の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察	酒井 元樹	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究(A)	130	1,430	6,500<平成24~27年度>
2	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究-図像的典拠と分担製作の視点から-	浅湫 毅	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究(B)	2,730	2,080	6,500<平成24~27年度>
3	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察	松嶋 雅人	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(B)	2,210	0	6,500<平成25~27年度>
4	東アジアにおける繡仏の基礎的研究	伊藤 信二	学芸企画部広報室長	基盤研究(B)	3,640	780	6,500<平成25~28年度>
5	極薄青銅器の製作技術解明-中国金属工芸史を再構築するための基盤研究-	川村 佳男	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	基盤研究(B)	3,380	2,080	6,500<平成25~27年度>
6	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	白井 克也	学芸研究部調査研究課考古室長	基盤研究(B)	4,160	1,430	6,500<平成25~27年度>
7	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究	鬼頭 智美	学芸企画部企画課国際交流室長	基盤研究(B)	1,560	2,600	6,500<平成26~28年度>
8	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	松本 伸之	学芸企画部付	基盤研究(B)	2,600	4,290	6,500<平成26~29年度>
9	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	浅見 龍介	学芸研究部付	基盤研究(B)	2,470	4,030	6,500<平成26~28年度>
10	ディルムン文明の起源-バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究-	後藤 健	特任研究員	基盤研究(B)海外学術調査	1,170	2,080	6,500<平成26~30年度>

【京都国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都製蒔絵の歴史的研究	永島 明子	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究(A)	1,170
2	中近世染織品の基礎的研究	山川 暁	学芸部教育室長	研究成果公開促進費(学術図書)	1,200
3	南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木 丞平	館長	基盤研究(B)	※ 0

※平成25年度完了予定であったが、繰越制度を利用し補助事業期間を平成26年度まで延長した。

2) 学術研究助成基金助成金のみ 0件

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【奈良国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	湯山 賢一	館長	基盤研究(A)	13,000

2) 学術研究助成基金助成金のみ 1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額(採択時)(千円)	全研究期間での交付決定額(千円)<研究期間>
1	平安時代の「大般若波羅蜜多經」遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資源化	野尻 忠	学芸部企画室長	基盤研究(C)	910	5,070<平成25~27年度>

【九州国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設	伊藤 嘉章	学芸部付	基盤研究 (A)	7,930

2) 学術研究助成基金助成金のみ 5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額(採択時)(千円)	全研究期間での交付決定額(千円)〈研究期間〉
1	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究	秋山 純子	学芸部博物館科学課環境保全室 研究員	基盤研究 (C)	1,040	5,200 〈平成24～26年度〉
2	中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱(高麗経箱)に関する調査研究	川畑 憲子	学芸部企画課文化交流展室主任研究員	若手研究 (B)	650	4,550 〈平成24～26年度〉
3	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	志賀 智史	学芸部博物館科学課保存修復室 主任研究員	基盤研究 (C)	1,300	5,200 〈平成25～28年度〉
4	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究	荒木 和憲	学芸部文化財課資料登録室主任研究員	若手研究 (B)	1,170	2,730 〈平成25～27年度〉
5	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究	赤田 昌倫	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー	若手研究 (B)	1,820	2,600 〈平成26～27年度〉

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額(千円)	当年度の交付決定額(採択時)(千円)	全研究期間での交付決定額(千円)〈研究期間〉
1	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究	谷 豊信	学芸部付	基盤研究 (B)	3,250	2,340	6,500 〈平成24～26年度〉
2	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発—興福寺 国宝阿修羅像を中心に—	今津 節生	学芸部博物館科学課長	基盤研究 (B)	4,420	1,300	6,500 〈平成24～26年度〉
3	タイにおける異文化の受容と変容—13世紀から18世紀の対外交易品を中心として—	原田 あゆみ	学芸部企画課特別展室主任研究員	基盤研究 (B) 海外学術調査	4,420	1,690	6,500 〈平成24～26年度〉
4	契丹壁画墓の集成と公開—唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解—	臺信 祐爾	学芸部企画課長	基盤研究 (B) 海外学術調査	2,600	1,690	6,500 〈平成25～27年度〉

【東京文化財研究所】

1) 科学研究費補助金のみ 2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	文化財展示収蔵施設の実状に即したカビ調査技術と制御に関する研究	木川 りか	保存修復科学センター生物科学研究室長	基盤研究 (B)	2,470
2	能・狂言 謡の変遷	高桑 いづみ	無形文化遺産部無形文化財研究室長	学術図書	1,300

2) 学術研究助成基金助成金のみ 16件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額(採択時)(千円)	全研究期間での交付決定額(千円)〈研究期間〉
1	インド・アジャンター石窟壁画消失メカニズムの解明に向けた微生物生態学的調査	佐藤 嘉則	保存修復科学センター研究員	基盤研究 (C)	1,430	5,200 〈平成24～26年度〉
2	中世・近世日本絵画における白色顔料の利用に関する科学的調査研究	早川 泰弘	保存修復科学センター分析科学研究室長	基盤研究 (C)	1,430	5,070 〈平成24～26年度〉
3	螺鈿のアジア史—技術史と交流史を中心に—	小林 公治	企画情報部広領域研究室長	基盤研究 (C)	1,430	5,070 〈平成24～26年度〉
4	自然共生型博物館における野外由来微生物の浮遊真菌濃度予測に関する研究	間瀬 創	保存修復科学センター客員研究員	若手研究 (B)	650	4,420 〈平成24～26年度〉
5	文化財保護法の成立過程に関する研究—日本における文化財概念と史跡名勝天然記念物—	境野 飛鳥	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究 (B)	1,300	4,160 〈平成24～26年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
6	絵画修復と絵画制作に使用される膠の物性にに関する基礎的研究	楠 京子	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究 (B)	390	2,210 (平成24~26年度)
7	黒海周辺地域における中世組積造 建築遺産の系譜と保存継承に關 する研究	鈴木 環	文化遺産国際協力センター 客員研究員	若手研究 (B)	910	3,510 (平成24~26年度)
8	GISを用いた古代クメール都市発 展史の復元的研究	佐藤 桂	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究 (B)	1,560	4,550 (平成24~26年度)
9	古代メソポタミアの葬送儀礼に關 する多角的な研究	久米 正吾	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究 (B)	1,300	2,210 (平成25~26年度)
10	空間情報データベースによる文化 財の災害被害予測の高度化及び防 災計画策定への応用	二神 葉子	企画情報部 情報システム研究室長	基盤研究 (C)	2,210	4,030 (平成26~28年度)
11	平安仏画の技法に関する画像情報 による調査研究	小林 達朗	企画情報部 主任研究員	基盤研究 (C)	1,430	4,940 (平成26~28年度)
12	平安時代前期における神仏習合の 展開とその彫刻に関する研究	皿井 舞	企画情報部 主任研究員	基盤研究 (C)	1,820	4,680 (平成26~28年度)
13	文化財の材質調査のための2次元 イメージング検出器の開発	犬塚 将英	保存修復科学センター 主任研究員	挑戦的萌芽	2,080	2,990 (平成26~27年度)
14	実演用能装束の保存継承に關する 研究-能楽の包括的継承の一指針 として-	菊池 理予	無形文化遺産部 研究員	挑戦的萌芽	1,820	3,640 (平成26~28年度)
15	塑像・乾漆像の部材構造を考慮し たより高精度な地震時応答解析手 法の開発	森井 順之	保存修復科学センター 主任研究員	若手研究 (B)	2,340	3,640 (平成26~27年度)
16	パネル保存型壁画における劣化の 検証と保存管理環境の確立	前川 佳文	文化遺産国際協力センター 客員研究員	若手研究 (B)	1,560	3,900 (平成26~27年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額 (千円)	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
1	近江の古代中世彫像の 基礎的調査・研究—基礎 データと画像蓄積のた めに—	津田 徹英	企画情報部 文化形成研究室長	基盤研究 (B)	2,340	1,430	6,500 (平成24~26年度)
2	西スマトラ州パダン歴 史地区における文化遺 産復興に関する総合的 研究	亀井 伸雄	東京文化財研究所 所長	基盤研究 (B) 海外学術調査	3,120	1,560	6,500 (平成24~26年度)
3	考古遺物等を通じたベ トナム木造建築様式の 形成過程に関する研究	友田 正彦	文化遺産国際協力 センター 保存計画研究室長	基盤研究 (B) 海外学術調査	2,340	1,690	6,800 (平成25~27年度)
4	酵素を利用した文化財 の新規クリーニング方 法の開発-旧修理材料や 微生物痕の除去-	早川 典子	保存修復科学セン ター 主任研究員	基盤研究 (B)	3,510	5,850	8,840 (平成26~30年度)
5	文化財建造物の伝統的 な塗装彩色材料の再評 価と保存・修理・資料活 用に関する研究	北野 信彦	保存修復科学セン ター 伝統技術研究室長	基盤研究 (B)	3,120	5,070	6,500 (平成26~30年度)

【奈良文化財研究所】

1) 科学研究費補助金のみ 7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結 集	渡邊 晃宏	都城発掘調査部史料研究 室長	基盤研究 (S)	46,540
2	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発	金田 明大	埋蔵文化財センター主任 研究員	基盤研究 (A)	7,800
3	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本 晋	企画調整部国際遺跡研究 室長	基盤研究 (A)	17,160
4	中国新石器時代における家畜・家禽の起源と、東アジアへの拡散 の動物考古学的研究	松井 章	埋蔵文化財センター客員 研究員	基盤研究 (A)	11,960
5	歴史的な文字に関する経験知の共有資源化と多元的分析のための人 文・情報学融合研究	馬場 基	都城発掘調査部主任研究 員	基盤研究 (A)	4,290
6	東北アジアにおける金属器の拡散と在地社会の変化に関する考古 学的研究	庄田 慎矢	都城発掘調査部考古第一 研究室研究員	若手研究 (A)	1,820
7	近世における石材生産と運搬に関する広領域域的情報の資源化と 実証的研究	高田 祐一	研究支援推進部連携推進 課アソシエイトフェロー	研究活動スタ ート支援	910

2) 学術研究助成基金助成金のみ 25件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) <研究期間>
1	「鎖国」下の日本における清朝陶磁の受容とその影響に関する調査研究	尾野 善裕	都城発掘調査部考古第二研究室長	基盤研究 (C)	1,040	4,160 <平成23～26年度>
2	三次元計測による飛鳥時代の石工技術の復元的研究	廣瀬 覚	都城発掘調査部考古第一研究室主任研究員	若手研究 (B)	780	3,770 <平成23～26年度>
3	古代東アジアにおける土木技術系譜の復元的研究	青木 敬	都城発掘調査部考古第二研究室主任研究員	基盤研究 (C)	1,170	5,200 <平成24～27年度>
4	中世日本と東アジアの木造建築における架構システムに関する比較研究	鈴木 智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	基盤研究 (C)	1,300	5,460 <平成24～27年度>
5	南洋群島の戦争遺跡の保存と活用：特に水中文化遺産に重点を置いて	石村 智	企画調整部国際遺跡研究室主任研究員	若手研究 (B)	910	4,550 <平成24～26年度>
6	弥生時代の地域間関係と青銅器の受容	石橋 茂登	飛鳥資料館学芸室長	若手研究 (B)	780	2,730 <平成24～26年度>
7	甲冑編年の再構築に基づくモノの履歴と扱いの研究	川畑 純	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究 (B)	650	2,600 <平成24～27年度>
8	東アジアにおける鉛釉陶器の原料とその時間的・地域的特徴に関する研究	降幡 順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究 (C)	1,300	4,030 <平成25～27年度>
9	平安時代出土文字資料の動態的歴史分析-<荷札の終焉>にみえる木簡の機能	山本 崇	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究 (C)	1,300	4,160 <平成25～27年度>
10	ツガ年輪による近世以降の建造物の年代測定および用材産地推定手法の確立	藤井 裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究 (C)	910	3,120 <平成25～27年度>
11	装飾古墳を安定に保存するための環境制御法の開発に関する研究	脇谷 草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究 (B)	650	2,210 <平成25～27年度>
12	古代東アジアにおける食器構成と食事作法の変化に関する比較研究	小田 裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究 (B)	650	3,640 <平成25～28年度>
13	古代日本の宮都、寺院出土磚の基礎的研究	中川 二美	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	若手研究 (B)	650	3,380 <平成25～28年度>
14	大工道具とその加工痕跡から見た建築技術史の研究	番 光	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究 (B)	1,430	3,380 <平成25～27年度>
15	重要文化的景観の評価方法と保護手法における現状と課題	恵谷 浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究 (B)	780	3,770 <平成25～28年度>
16	近世庭園の様式と地域性に関する基礎的研究-重森編年への検証として	高橋 知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究 (B)	1,430	3,120 <平成25～28年度>
17	中国由来の木彫像の用材観	伊東 隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究 (C)	1,690	4,680 <平成26～28年度>
18	「復元学」構築のための基礎的研究	海野 聡	文化遺産部建造物研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,560	3,900 <平成26～28年度>
19	古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造にかんする考古学的研究	諫早 直人	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究 (B)	1,040	3,640 <平成26～29年度>
20	七世紀土器編年からみた古代宮都の変遷に関する考古学的研究	若杉 智宏	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究 (B)	1,040	2,730 <平成26～29年度>
21	九州旧石器編年の再構築と集団関係の研究-中九州石器群の再検討	芝 康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究 (B)	1,040	3,770 <平成26～29年度>
22	古代都城造営における造瓦体制の復元的研究	石田 由紀子	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究 (B)	1,560	3,640 <平成26～29年度>
23	荘厳化を目的とした建築装飾に関する研究	大林 潤	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究 (B)	1,300	2,600 <平成26～30年度>
24	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎 健	埋蔵文化財センター環境考古研究室研究員	若手研究 (B)	1,040	3,900 <平成26～29年度>
25	中近世における標準年輪曲線の広域ネットワーク整備による木材産地推定	星野 安治	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員	若手研究 (B)	1,170	3,900 <平成26～29年度>

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 11件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額 (千円)	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) <研究期間>
1	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村 恵司	所長	基盤研究 (B)	2,340	1,690	6,500 <平成24～27年度>
2	中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義	光谷 拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究 (B)	2,340	910	6,500 <平成25～29年度>
3	弥生時代における青銅器生産の総合的研究	難波 洋三	埋蔵文化財センター長	基盤研究 (B)	2,600	1,170	6,500 <平成25～29年度>
4	文化財および美術工芸材料のナノ構造と物性・機能の解明	北田 正弘	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究 (B)	2,600	2,340	6,500 <平成25～27年度>
5	東アジアを中心とした名勝地の保護に関する	平澤 毅	文化遺産部景観研究室長	基盤研究 (B)	2,990	1,170	6,500 <平成25～28年度>

	研究						
6	歴史と現状からみた庭園の観光資源としての可能性に関する研究－欧州との比較から	小野 健吉	副所長	基盤研究（B）	1,300	2,340	6,500 〈平成26～29年度〉
7	東大寺を中心とする南都の未整理文書聖教の復元的調査研究	吉川 聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（B）	1,170	1,820	6,500 〈平成26～30年度〉
8	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山 洋	企画調整部長	基盤研究（B）	1,560	2,730	6,500 〈平成26～29年度〉
9	19世紀の東西文化交流でもたらされた染色・絵画材料のナノ構造解明	杉岡 奈穂子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究（A）	130	2,340	6,500 〈平成24～26年度〉
10	東アジアにおける「西のガラス」の流通からみた古代の物流に関する考古学的研究	田村 朋美	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（A）	130	1,560	6,500 〈平成25～28年度〉
11	古代東アジアにおける建築技術の重層性と日本建築の特質	海野 聡	文化遺産部建造物研究室研究員	若手研究（A）	2,600	1,820	6,500 〈平成26～29年度〉

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 0件

c-⑧ 客員研究員一覧

平成27年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
124人	38人	28人	5人	5人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	86人	48人		38人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0人			

【東京国立博物館】 28人

	氏名(所属)	研究課題
1	松原 茂 (財団法人根津美術館学芸部長)	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎 均史 (たばこと塩の博物館主席学芸員)	当館所蔵の大小絵巻に関する研究
3	松田 清 (京都外国語大学教授)	当館所蔵の江戸幕府旧蔵の洋書、シーボルト献納本などの古洋書に関する研究
4	宮永 美知代 (東京藝術大学美術学部助教)	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
5	東野 治之 (奈良大学文学部教授)	法隆寺献納宝物の資料の研究
6	田辺 龍太 (財団法人切手の博物館主任)	当館所蔵の切手に関する調査研究
7	水上 嘉代子 (財団法人遠山記念館学芸員)	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
8	小笠原 小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
9	大脇 潔 (近畿大学文芸学部教授)	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
10	金子 浩昌 (日本考古学協会会員)	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
11	宮下 佐江子 (古代オリエント博物館学芸部長)	西アジア古代ガラスの研究
12	丸山 清志 (城西国際大学物質文化研究センター研究員・助手)	東洋民族オセアニア採集品の調査研究
13	湊 信幸 (元東京国立博物館副館長)	当館所蔵の絵画に関する研究
14	鍋島 稲子 (台東区立書道博物館主任研究員)	中国書跡の調査研究
15	西岡 康宏 (元東京国立博物館副館長)	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
16	小野 博 (美術刀剣研磨技師)	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
17	保坂 裕興 (学習院大学大学院人文科学研究科教授)	館史資料アーカイブズ学的研究
18	田中 淑江 (共立女子大学家政学部准教授)	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
19	佐々木 利和 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター特任教授)	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
20	望月 幹夫 (元東京国立博物館上席研究員)	当館所蔵の考古資料(原史・有史)に関する調査研究
21	歌田 眞介 (東京藝術大学名誉教授)	東京国立博物館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
22	松井 敏也 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)	考古出土遺物に関する保存科学的研究
23	稲本 泰生 (京都大学人文科学研究所准教授)	東洋彫刻及び大谷探検隊将来西域美術の調査研究
24	澤田 むつ代 (元東京国立博物館上席研究員)	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
25	恵美 千鶴子 (東京大学史料編纂所)	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究
26	クライナー・ヨゼフ	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信
27	佐藤 サアラ (公益財団法人常盤山文庫上席研究員)	東洋陶磁(宋・元代)に関する研究
28	木本 諒 (東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター特任助教)	芸術機関におけるデジタルアーカイブズと文化財

【京都国立博物館】 5人

	氏名(所属)	研究課題
1	井上一稔 (同志社大学文学部教授)	南山城の彫刻に関する調査研究
2	宇都宮啓吾 (大阪大谷大学文学部教授)	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	奥平俊六 (大阪大学大学院文学研究科教授)	京狩野に関する調査研究
4	狩野博幸 (同志社大学文化情報学部教授)	近世絵画に関する調査研究
5	後藤 真 (人間文化研究機構本部特任助教)	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】 5人

	氏名(所属)	研究課題
1	井出誠之輔 (九州大学大学院人文科学研究院教授)	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光 (元宮内庁正倉院事務所保存課長)	漆工品の調査及び研究
3	清水 昭博 (帝塚山大学人文学部准教授)	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介 (京都大学大学院文学研究科教授)	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲 (東京大学東洋文化研究所教授)	中国・朝鮮絵画の調査及び整理

【九州国立博物館】 0人

【東京文化財研究所】 48人

	氏名(所属)	研究課題
1	吉田千鶴子 (東京藝術大学非常勤講師)	近代美術資料群の調査・研究
2	三上 豊 (和光大学表現学部教授)	現代美術に関する調査研究
3	中村佳史 (国立情報学研究所研究員)	デジタル資料学の研究
4	丸川雄三 (国立民族学博物館准教授)	近代美術に関する調査研究
5	中野照男 (成城大学特任教授)	美術の表現・技法・材料に関する多角的な研究
6	津村宏臣 (同志社大学文化情報学部文化情報学科准教授)	東京文化財研究所アーカイブズ構築に関する調査研究

	氏名(所属)	研究課題
7	吉崎真弓(国立情報学研究所特任研究員)	文化財情報の発信に関する調査研究
8	近松鴻二(国士館大学非常勤講師ほか)	黒田清輝宛書簡ならびに記事珠等の明治期文書資料に基づく調査研究
9	永井美和子(早稲田大学非常勤嘱託(演劇博物館))	無形文化財の記録作成
10	今岡謙太郎(武蔵野美術大学造形学部教授)	無形文化財の記録作成
11	齋藤裕嗣	無形民俗文化財の調査研究
12	原田一敏(東京藝術大学大学美術館教授)	無形文化財工芸技術(金工分野)の調査研究
13	荒川正明(学習院大学文学部哲学科(美術史専攻)教授)	無形文化財工芸技術(陶芸分野)の調査研究
14	山崎 剛(金沢美術工芸大学准教授)	無形文化財工芸技術(漆工分野)の調査研究
15	俵木 悟(成城大学文学部准教授)	無形民俗文化財の調査研究
16	星野厚子(東京藝術大学助手)	無形文化財(芸能)に関する調査研究
17	大西秀樹(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師)	音声映像記録に関する調査研究
18	松山直子	アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護活動の調査研究
19	三浦定俊(公益財団法人文化財虫害研究所理事長)	X線透過画像調査データ等に関する整理およびアーカイブ業務等
20	藤井義久(京都大学農学部教授)	文化財の生物劣化対策の研究
21	呂 俊民	文化財の保存環境の研究
22	小峰幸夫(公益財団法人文化財虫害研究所研究員)	文化財の生物劣化対策の研究
23	北原博幸(トータルシステム研究所代表)	環境制御および環境解析に関する研究
24	宇高 健太郎	文化財の伝統修復に関する調査研究
25	古田嶋 智子(東京藝術大学助手)非常勤	文化財の保存環境に関する調査研究
26	間瀬 創(三重県立博物館学芸員)	文化財保存収蔵環境におけるカビの付着菌、浮遊菌の調査
27	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
28	長島宏行(一般財団法人日本航空協会)	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
29	小堀信幸(公益財団法人日本海事科学振興財団船の科学館)	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
30	本多真之(明治大学理工学部専任講師)	伝統的修復材料に関する調査研究
31	高林弘実(京都市立芸術大学美術部講師)	中国壁画の保護に関する調査研究
32	渡邊真樹子(絵画修復家)	中国壁画の保護に関する調査研究
33	酒井清文	伝統的修復材料に関する調査研究
34	堤 一郎(中央大学理工学部非常勤講師)	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
35	谷口陽子(筑波大学大学院人文社会学研究科歴史・人類准教授)	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
36	石崎 武志(東北芸術工科大学教授)	材料の基本物性の計測に関する調査研究
37	松田泰典(JICA大エジプト博物館保存修復センター専門家)	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」人材育成と技術移転事業
38	大河原典子(日本画家)	古墳壁画の修復に関する調査研究
39	石井美恵(染織品保存修復士)	在外日本文化財保存修復協力事業に関する調査研究
40	前川佳文(壁画保存修復士)	古墳壁画の修復に関する調査研究
41	成田朱美(愛知県立美術大学研究員)	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
42	間舎裕生(慶応大学文学部講師)	キルギス等文化遺産国際協力拠点交流に係る調査研究
43	邊牟木尚美(ローマ・ゲルマン中央博物館研修員)	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
44	鈴木 環(国士館大学アジア日本研究センター研究員)	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
45	釘屋奈都子(東京藝術大学大学院専門研究員)	アルメニア及びコーカサス諸国等における文化遺産保護に関する調査研究
46	原本 知実	文化財保護に関する調査研究及び世界遺産委員会における資産調査
47	原田 怜(JICA専門家)	西アジア諸国等の文化財保護に関する調査研究
48	藤澤 明(帝京大学文化財研究所講師)	アルメニア及びコーカサス諸国等における文化遺産保護に関する調査研究

【奈良文化財研究所】 38人

	氏名(所属)	研究課題
1	小原 嘉記(中京大学国際教養学部准教授)	日本古代・中世の地方支配制度及び中性寺院の研究
2	小浦 久子(大阪大学大学院工学研究科准教授)	都市計画、環境デザインの研究
3	廣田 純一(岩手大学農学部教授)	農業土木学及び農村計画学
4	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	考古学、文化人類学の研究
5	巽 淳一郎(京都橘大学文学部教授)	歴史考古学の研究
6	松井 章(元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長)	動物考古学の研究
7	水野 裕史(熊本大学教育学部講師)	文化財情報学・美術史学の研究
8	小林 謙一(財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修事業部長)	遺物及びその調査技術、文化財情報に関する研究
9	Carl Gellert(カリフォルニア大学バークレー校博士後期課程)	日本美術史の研究
10	登谷 伸宏(京都橘大学文学部助教)	日本建築・都市史の研究
11	MARES Emmanuel Bernard(総合地球環境学研究所事務補佐員)	日本庭園史に関する研究
12	窪寺 茂(建築装飾技術史研究所)	第一次大極殿院復原のための建築塗装・彩色の研究
13	谷本 啓(奈良大学通信教育部非常勤講師)	日本古代史の研究
14	深澤 芳樹(元奈良文化財研究所副所長)	歴史考古学の研究
15	黒羽 亮太(日本学術振興会特別研究員)	日本古代史の研究
16	肥塚 隆保(元奈良文化財研究所副所長)	文化財科学、保存修復科学の研究
17	佐藤 昌憲(元京都工芸繊維大学名誉教授)	文化財科学、分析化学の研究
18	北田 正弘(元(独)物質・材料研究機構特別研究員)	金属材料工学、文化財科学の研究
19	辻本 與志一(株式会社文化財保存)	保存修復科学、精密工学の研究
20	赤田 昌倫	文化財建造物における塗料材料の劣化研究
21	澤田 正昭(国士館大学アジア・日本研究センター客員研究員)	保存修復科学の研究
22	小椋 大輔(京都大学大学院工学研究科准教授)	建築環境工学、保存科学の研究
23	大賀 克彦(奈良女子大学古代学学術センター特任講師)	古代における玉類の生産と流通についての研究
24	丸山 真史	動物考古学の研究

	氏名(所属)	研究課題
25	芹原 信生(元京都大学霊長類研究所教授)	自然人類学、動物考古学の研究
26	渡辺 伸行(神戸市立上野児童館長)	日本考古学(弥生時代~古代)及び自然災害と考古学の研究
27	大江 文雄	古生物学(魚類系統進化)の研究
28	菊地 大樹(元奈良文化財研究所任期付研究員)	中国考古学、動物考古学の研究
29	上中 央子	花粉分析、文化財科学、環境考古学、古環境の研究
30	光谷 拓実	年輪年代学及び木材解剖学の研究
31	伊東 隆夫(南京林業大学(中国)特別招聘教授)	木材組織学の研究
32	藤井 裕之	年輪年代学の研究
33	児島 大輔(大阪市立美術館学芸員)	美術史(仏教美術・東洋美術)及び年輪年代学の研究
34	山中 敏史(元奈良文化財研究所文化遺産部長)	遺跡及びその調査技術の研究
35	西村 康(財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長)	遺跡探査及び測量の研究
36	西口 和彦(元兵庫県立考古博物館調査専門員)	遺跡探査の研究
37	狭川 真一(財団法人元興寺文化財研究所研究部長)	遺跡及びその調査技術の研究
38	小澤 毅(三重大学人文学部教授)	遺跡及びその調査技術と測量の研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成27年3月31日現在

	H22	H23	H24	H25	H26
国立博物館計	9,202,862	6,480,930	7,743,323	6,564,190	10,236,963
東京国立博物館	4,971,306	2,772,633	2,982,729	2,898,885	4,248,437
京都国立博物館	2,077,562	1,835,640	1,837,113	1,562,480	2,964,705
奈良国立博物館	769,293	722,249	845,202	893,553	1,196,669
九州国立博物館	1,384,701	1,150,408	2,078,279	1,209,272	1,827,152
文化財研究所計	2,130,786	1,771,695	1,655,762	1,857,638	2,128,972
東京文化財研究所	1,489,091	1,314,541	(*1)1,230,718	1,410,075	1,603,086
奈良文化財研究所	641,695 (参考:4,977,076)	457,154	425,044	447,563	525,886
アジア太平洋無形文化遺産 研究センター		1,838 (H23.12.16サイト開 設)	5,289	5,454	6,200
機構本部	270,913	208,982	260,558	283,412	325,132
e国宝	659,056	1,139,318	1,420,662	1,676,762	1,515,442

※アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。

*1 参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24年10月～25年2月のアクセスログが消失したことから、年間アクセス件数は不明である。ログが保存されている7ヵ月間のアクセス件数717,919件の月平均を12倍した値を、参考値として記載している。

e 平成 26 年度平常展・特別展アンケート結果

<平常展>

東京国立博物館総合文化展	220
京都国立博物館名品ギャラリー	221
奈良国立博物館名品展	222
九州国立博物館文化交流展	223

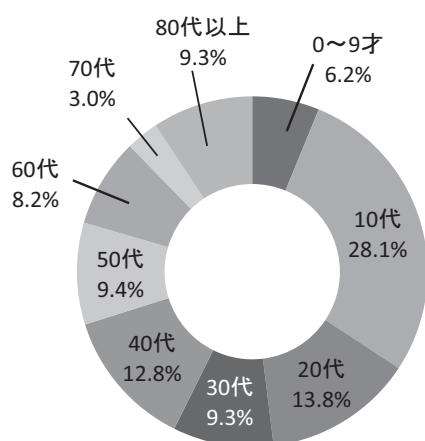
<特別展>

東京国立博物館	224
特別展「栄西と建仁寺」	
特別展「キトラ古墳壁画」	
特別展「台北 国立故宮博物院「神品至宝」	
特別展「東アジアの華 陶磁名品展」	
「日本国宝展」	
特別展「3.11 大津波と文化財の再生」	
特別展「みちのくの仏像」	
京都国立博物館	231
特別展覧会「南山城の古寺巡礼」	
特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」	
奈良国立博物館	233
特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 —迫真とエキゾチシズム—」	
特別展「国宝 醍醐寺のすべて —密教のほとけと聖教—」	
天皇皇后両陛下傘寿記念「第 66 回正倉院展」	
九州国立博物館	236
特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」	
特別展「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美—」	
特別展「台北 国立故宮博物院「神品至宝」	
特別展「古代日本と百済の交流 —大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」	
同時開催「発掘された日本列島 2014」	

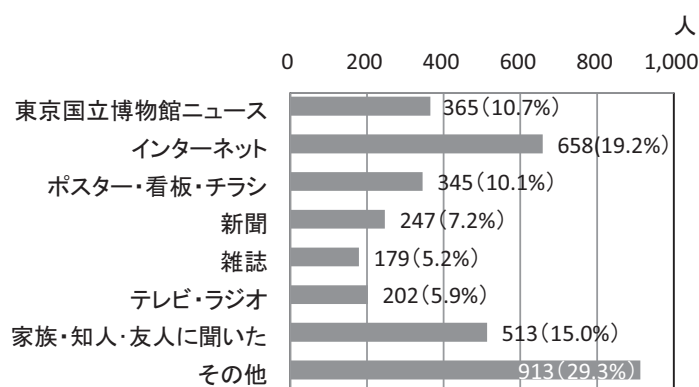
平常展（総合文化展） アンケート集計結果

開催期間：平成26年4月1日（火）～平成27年3月31日（火） 開館日数：312日間
 回答者数：4,561人（うちタッチパネルアンケート回答者数：4,211人＜92.3%＞）
 来館者数：587,528人
 アンケート回収率：0.78%

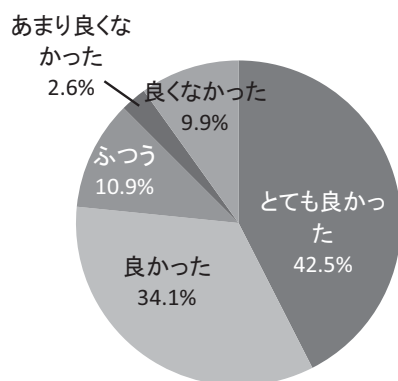
①アンケート回答年齢層



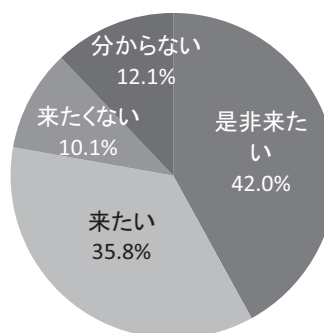
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

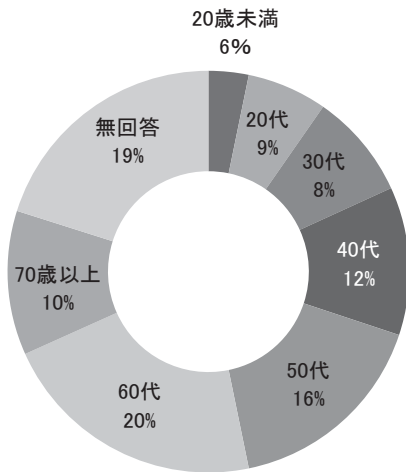
- ・良かった、楽しかった、面白かった、素晴らしかった。
- ・～の展示が良かった（埴輪、青磁、上村松園の「焰」等多岐にわたる）。
- ・展示替えがあるので楽しい。飽きない。
- ・近代美術の部屋が以前よりも明るくなっていて良かった。
- ・展示の仕方が良くない。見えにくい。
- ・外国語の説明を増やしてほしい。
- ・分かりやすい案内表示をしてほしい。
- ・もっと広報活動に力を入れたほうが良い。
- ・～の展示を見たい（国宝・三日月宗近 等）

京都国立博物館

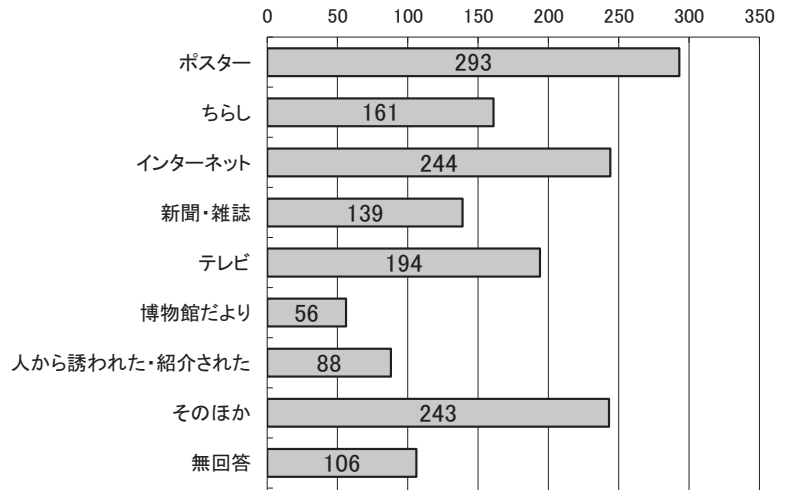
平常展（名品ギャラリー） アンケート集計結果

開催期間：平成26年9月13日(土)～平成27年3月31日(火) 開館日数：164日間
 回答者数：1,233人
 来館者数：265,791人
 アンケート回収率：0.46%

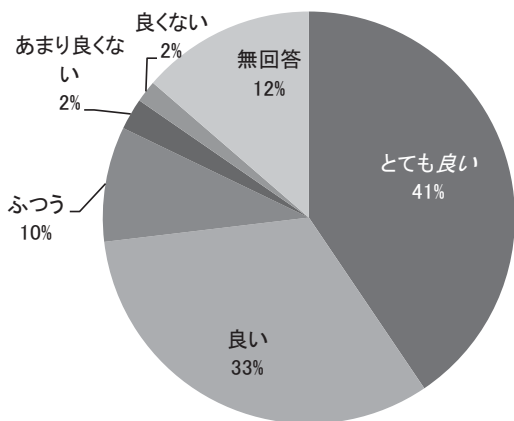
①アンケート回答年齢層



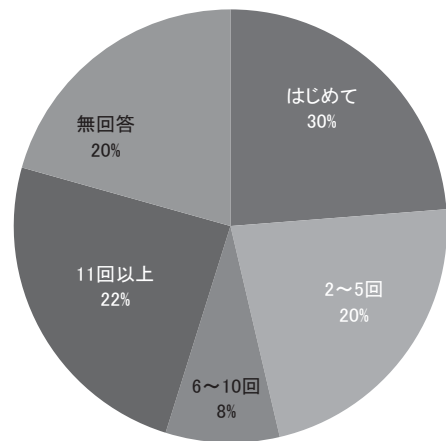
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



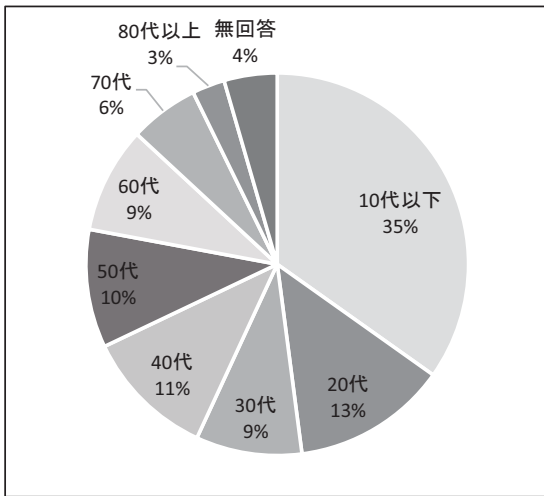
⑤主な意見・感想

- ・良かった、素晴らしかった、面白かった、楽しかった
- ・展示品の質が高い 展示が素晴らしい
- ・展示替えが多く、何度来ても楽しめる
- ・建物が新しく美しい、洗練されている 景観も素晴らしい
- ・展示品の解説文が小さくて読みづらい 少ない 英語の解説が少なすぎる
- ・展示館は綺麗だが、順路やトイレなどの場所がわかりづらい

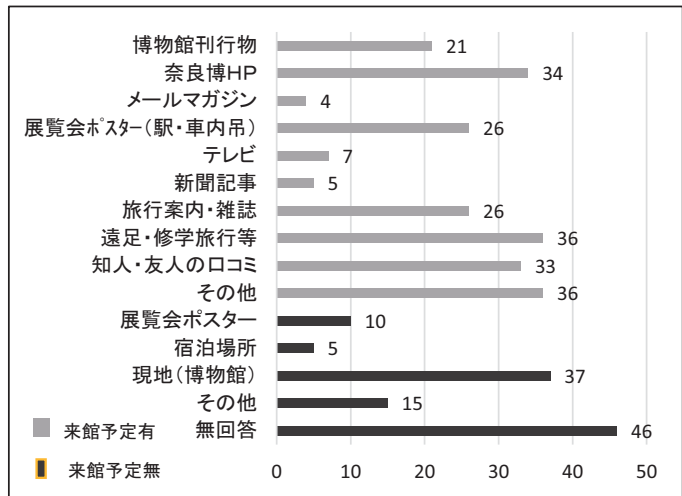
平常展（名品展） アンケート集計結果

開催期間：平成26年4月1日（火）～平成27年3月31日（火） 開館日数：321日間
 （ただし9月8日よりなら仏像館休館のため、9月9日～10月22日および11月13日～12月7日は青銅器館のみ開館）
 回答者数：290人（来館者数：92,147人 アンケート回収率：0.31%）

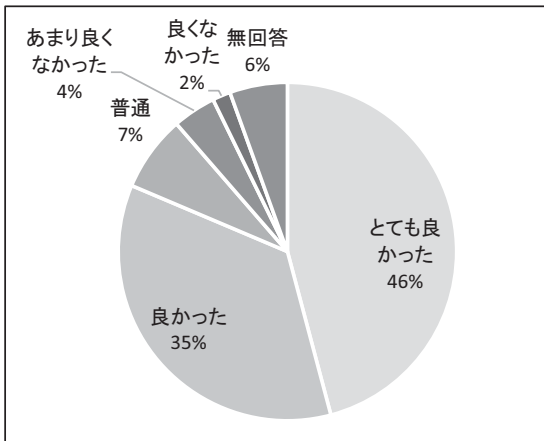
①年齢層



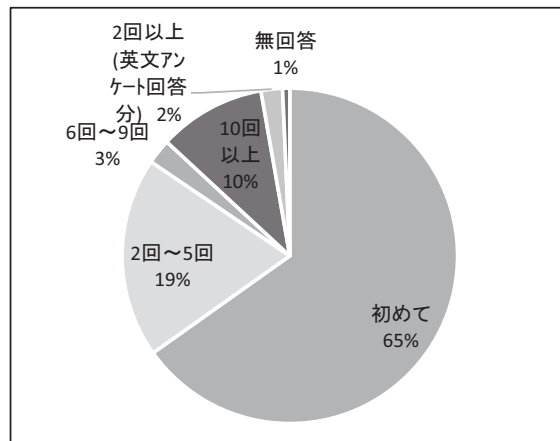
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

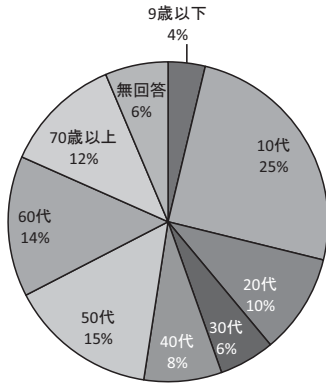
- ・たくさんの仏像を一度に見ることができてよかった。スペースも広く静かで見やすかった。
- ・全体的に見やすく、展示されている仏像の説明書きも分かりやすかった。
- ・授業で習った青銅器や仏像が見られてよかった。
- ・実物の大きさを実感できた。
- ・間近で仏像を見れて良かったが、順路があった方が進みやすいと思った。
- ・小さい仏像の照明に工夫を。上からの光で、顔の表情がはっきり見えないことがある。

九州国立博物館

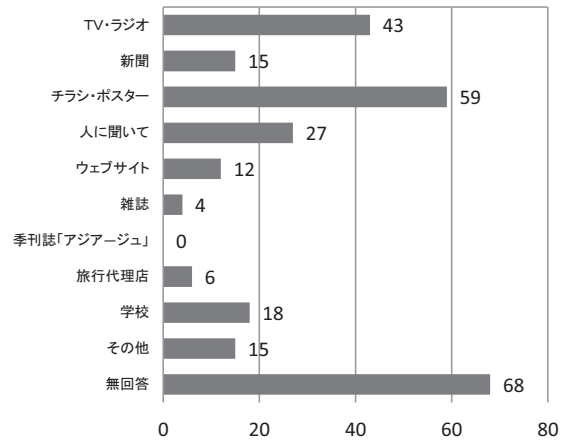
文化交流展 アンケート集計結果

開催期間：平成26年4月1日(火)～平成27年3月31日(火) 開館日数：310日間
 総回答者数：267人（総来館者数：357,362人 アンケート回収率：0.07%）

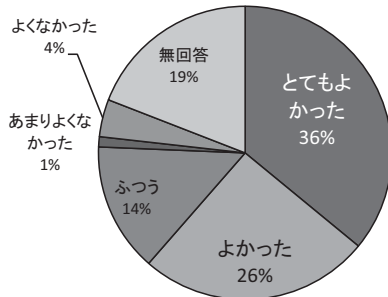
①年齢層



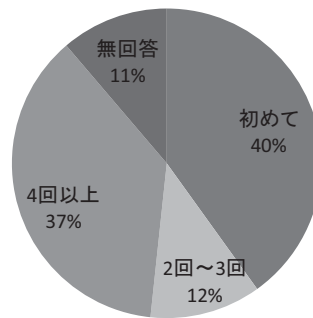
②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④再来館率



④主な意見・感想

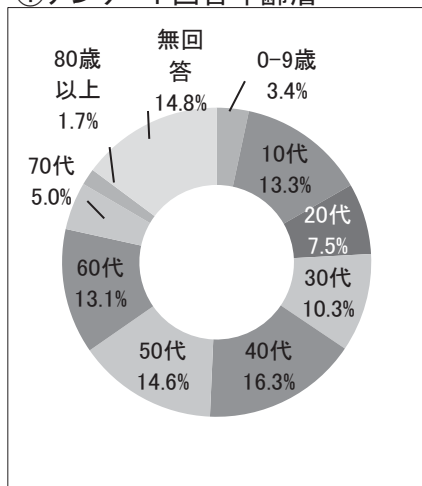
- ・歴史を感じられてとにかく良かった。
- ・背もたれがある椅子を増やして、ゆっくり休めるようにしてほしい。
- ・随所に直接触れるコーナーがあり、良かった。
- ・内容も豊富で見応えがあった。
- ・車椅子の人には展示品が見えにくい高さや角度だった。可能であれば改善をお願いしたい。
- ・高校考古学展やアジアの文化についての展示はとても興味を湧いた。
- ・すごく良かったが、もう少しオーディオ解説を増やしてほしい。
- ・解説の文字が小さすぎるのもっと大きくしてほしい。
- ・展示室内でお茶を飲めるスペースがあるといい。

特別展「栄西と建仁寺」 アンケート集計結果

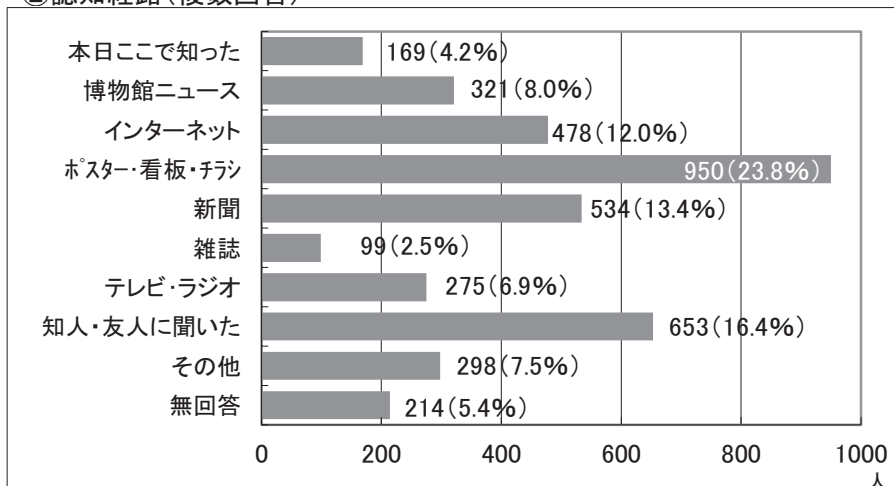
開催期間：平成26年3月25日（火）～ 5月18日（日）（49日間）

回答者数：3,462人（総入館者数：252,116人 アンケート回収率：1.37%）

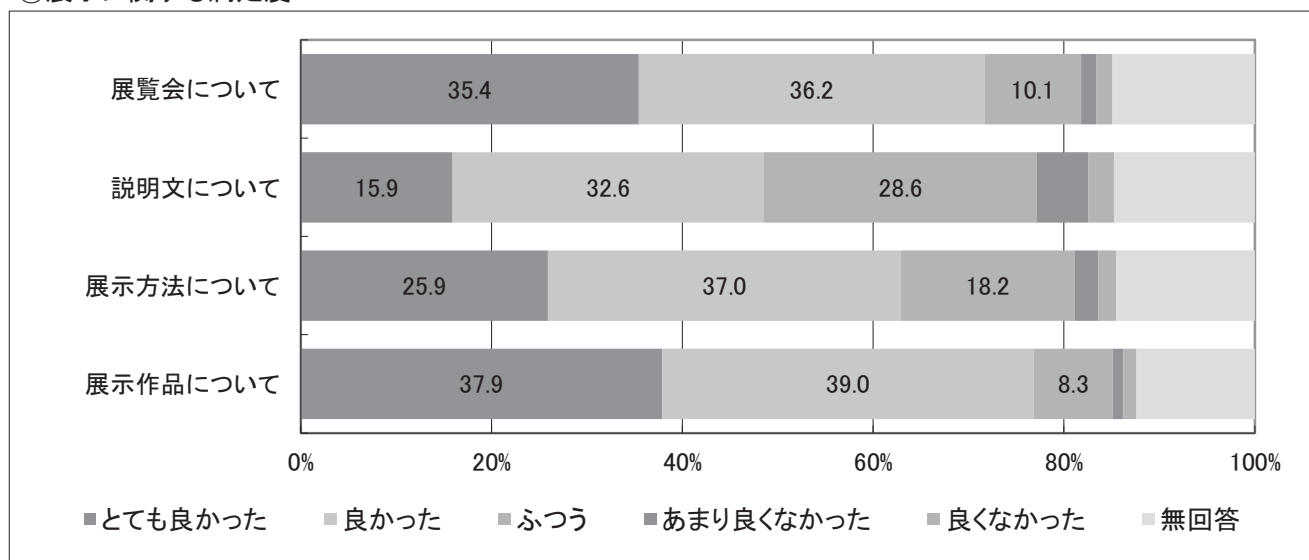
①アンケート回答年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・風神雷神図屏風、四頭茶会の再現がすばらしかった。
- ・小野篁像の目が光るライティングは迫力があって良かった。
- ・禅宗や喫茶のはじまりなどを知り、大変勉強になった。
- ・展示位置が高い作品があり、見づらかった。
- ・もう少し文字を大きくしてほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展覧会	1.6	1.7	14.9
説明文	5.4	2.7	14.7
展示方法	2.5	1.9	14.5
展示作品	1.1	1.4	12.4

(%)

本展覧会は、日本に禅宗(臨済宗)を広め、京都最古の禅寺「建仁寺」を開創した栄西禅師(ようさいぜんじ、1141～1215)の800年遠忌にあたる本年、栄西ならびに建仁寺にゆかりの宝物を一堂に集めて開催いたしました。建仁寺の至宝・琳派の美を象徴する俵屋宗達の最高傑作、国宝「風神雷神図屏風」を筆頭に、海北友松筆の重文「雲龍図」など建仁寺本坊方丈障壁画、山内の塔頭に伝わる工芸や絵画の名品、栄西をはじめとした建仁寺歴代の書蹟、全国の建仁寺派寺院が所蔵する宝物を展示し、また日本で最初の茶書である『喫茶養生記』を著した栄西にちなみ、茶道の原形とされる「四頭茶会」を再現しました。

本展には、25万人を超えるお客様にご来場いただきました。アンケートの結果、71%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「もっと詳しい説明がほしい」「一連の作品を前期と後期で分割して展示しないでほしい」といったご意見もいただきました。

今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

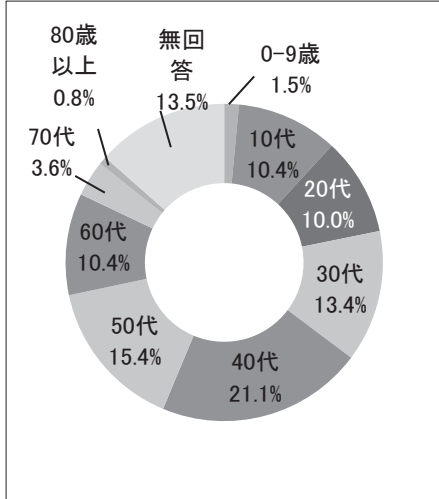
東京国立博物館

特別展「キトラ古墳壁画」 アンケート集計結果

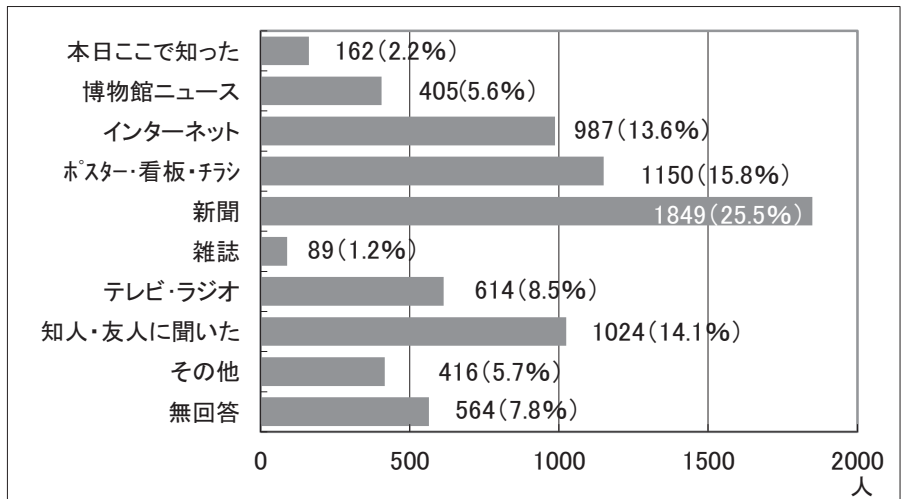
開催期間：平成26年4月22日（火）～ 5月18日（日）（25日間）

回答者数：6,238人（総入館者数：119,268人 アンケート回収率：5.23%）

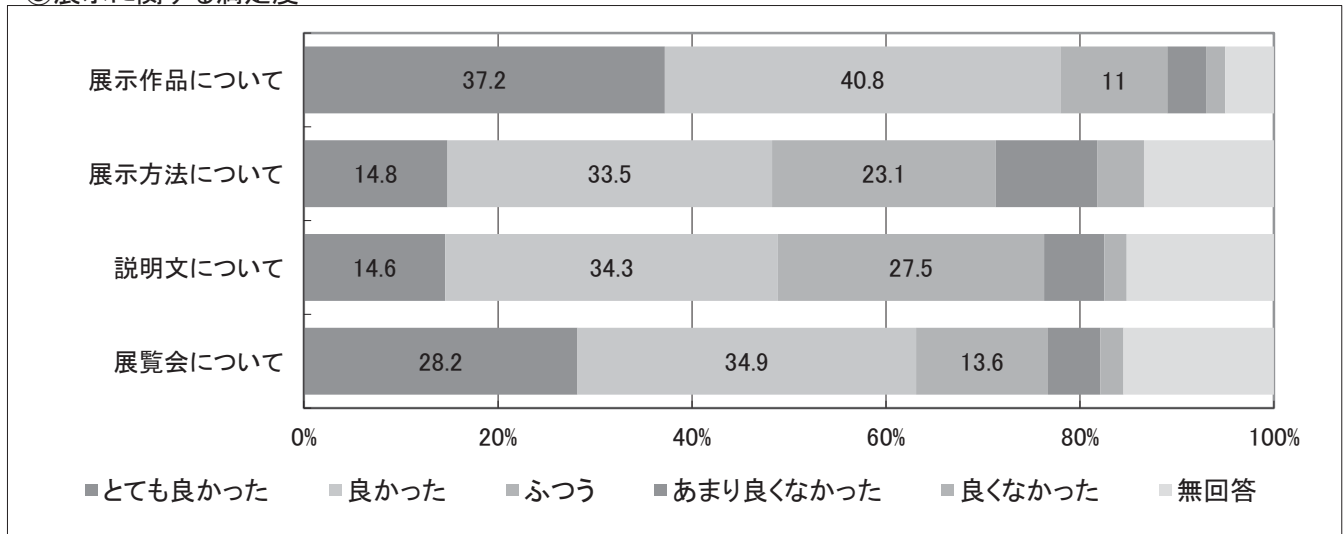
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展示作品	4.0	2.0	5.0
展示方法	10.5	4.8	13.4
説明文	6.2	2.3	15.2
展覧会	5.4	2.4	15.5

(%)

④主な意見・感想

- ・東京で見られて嬉しかった。
- ・また、このような企画が見たい。
- ・表慶館でやっていた展示が良かった。
- ・展示の仕方が悪く、見にくかった。
- ・整理券方式にする等、何か対策をとってほしい。

本展覧会では、奈良県明日香村のキトラ古墳の極彩色壁画を、村外で初めて特別公開いたしました。国内で発見された極彩色壁画は高松塚古墳に続き2例目ですが、盗掘の被害を免れ、ほぼ完全な姿を残す「四神」や、四神の周りに描かれる獸頭人身の「十二支」など、高松塚古墳とはまた違った魅力があります。「四神」から朱雀・白虎・玄武を、「十二支」から子と丑を展示した本展には約12万人のお客様にご来場いただきました。

アンケートの結果、63.1%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「作品が少なく、物足りない」「何回も急かされて不快だった」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見もいただきました。

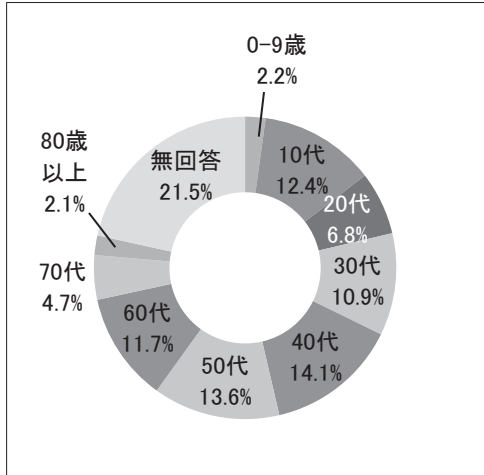
今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」 アンケート集計結果

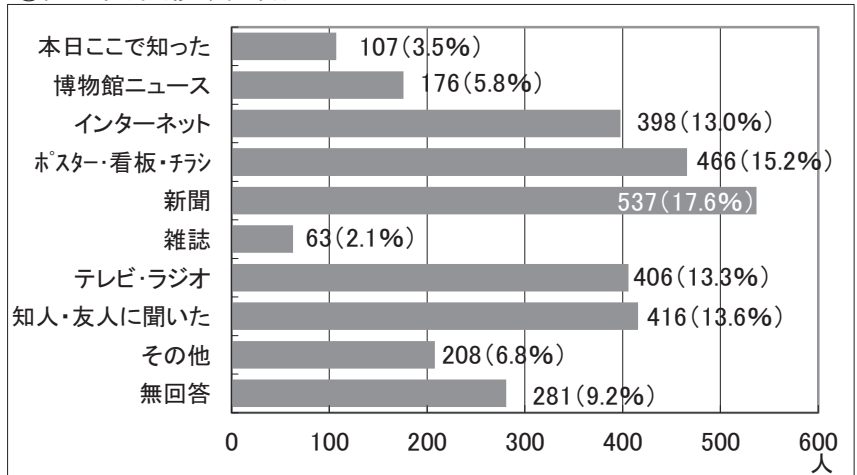
開催期間：平成26年6月24日（火）～ 9月15日（月・祝）（78日間）

回答者数：2,571人（総入館者数：402,241人 アンケート回収率：0.64%）

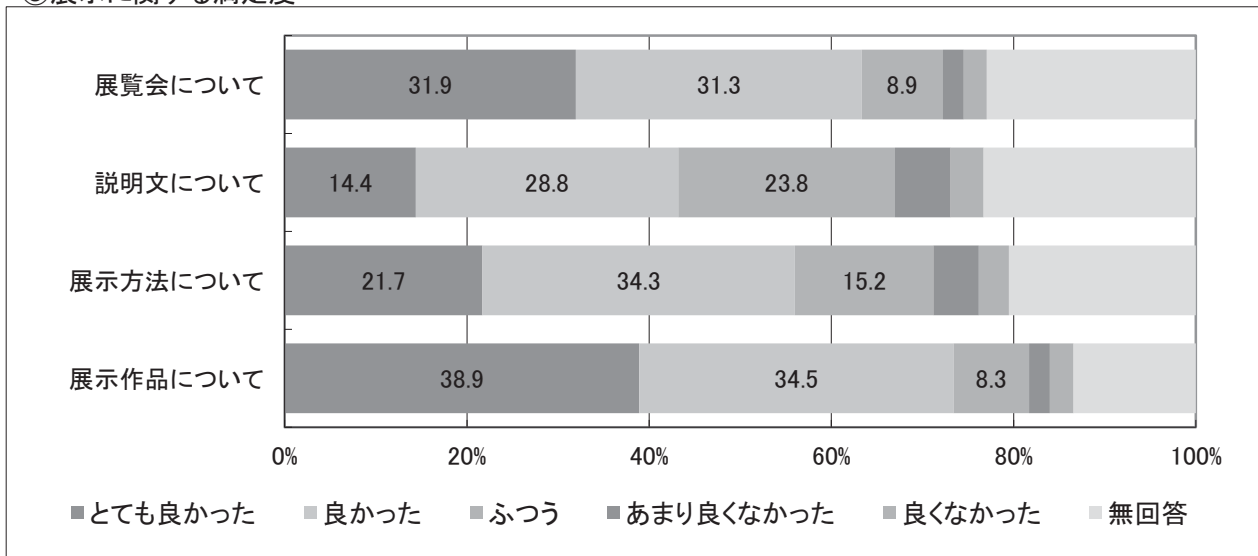
①アンケート回答年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・説明文やキャプションにユーモアがあり、分かりやすかった。
- ・貴重な品が多く、見応えがあった。
- ・もう一度見に来たい。またこのような企画が見たい。
- ・展示方法に工夫が欲しい。
- ・「翠玉白菜」が限定公開とは知らなかった。展示期間が短すぎる。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展覧会	2.3	2.5	22.9
説明文	6.1	3.6	23.3
展示方法	5.0	3.3	20.5
展示作品	2.3	2.6	13.4

(%)

本展は、世界4大博物館とも称される台北 国立故宮博物院が収蔵するひととき優れた中国の文化財から、特に代表的な作品を厳選してご紹介する日本初の展覧会です。美しい翡翠と至高の技が織り成す門外不出の神品『翠玉白菜』が海外初公開となり、そのほかにも故宮で大変人気のある『人と熊』、〈皇帝の玩具箱〉とも呼ばれている『紫檀多宝格方匣』、刺繍で表された吉祥画『刺繍九羊啓泰図』など、歴代皇帝の至宝186件が集まった本展には、40万人を超えるお客様にご来場いただきました。

アンケートの結果、63%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「説明が足りない。もっと詳しい説明がほしい」「『翠玉白菜』の公開対方法に不満。行列を予測し、予約制や整理券など混雑緩和の努力をしてほしかった」といったご意見もいただきました。

今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

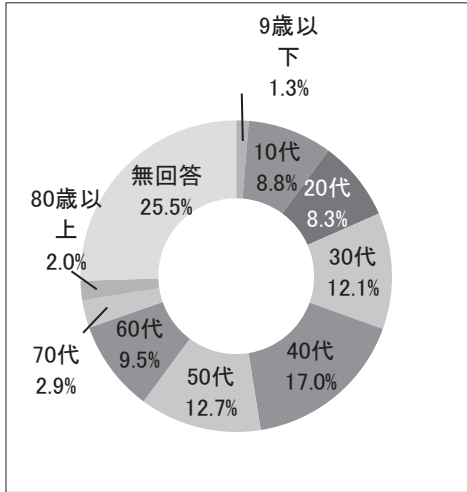
東京国立博物館

2014年日中韓国立博物館合同企画特別展 「東アジアの華 陶磁名品展」アンケート集計結果

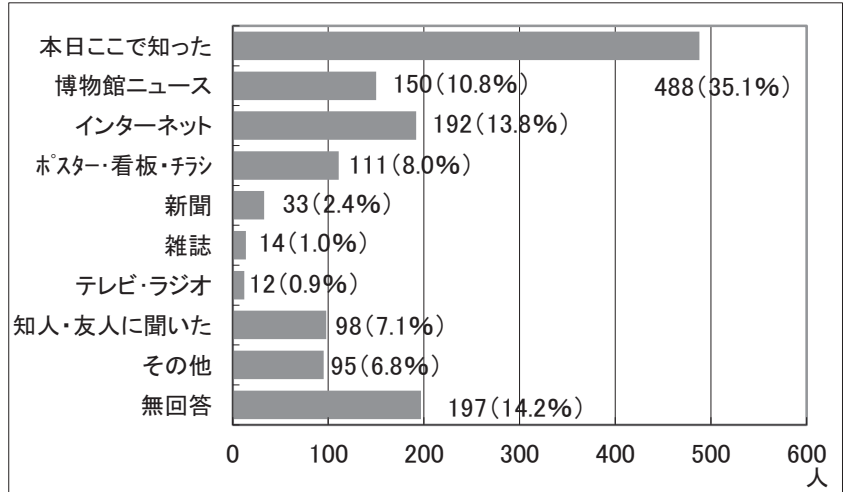
開催期間：平成26年9月20日（土）～ 11月24日（月・休）（57日間）

回答者数：1,390人（総入館者数：65,075人 アンケート回収率：2.14%）

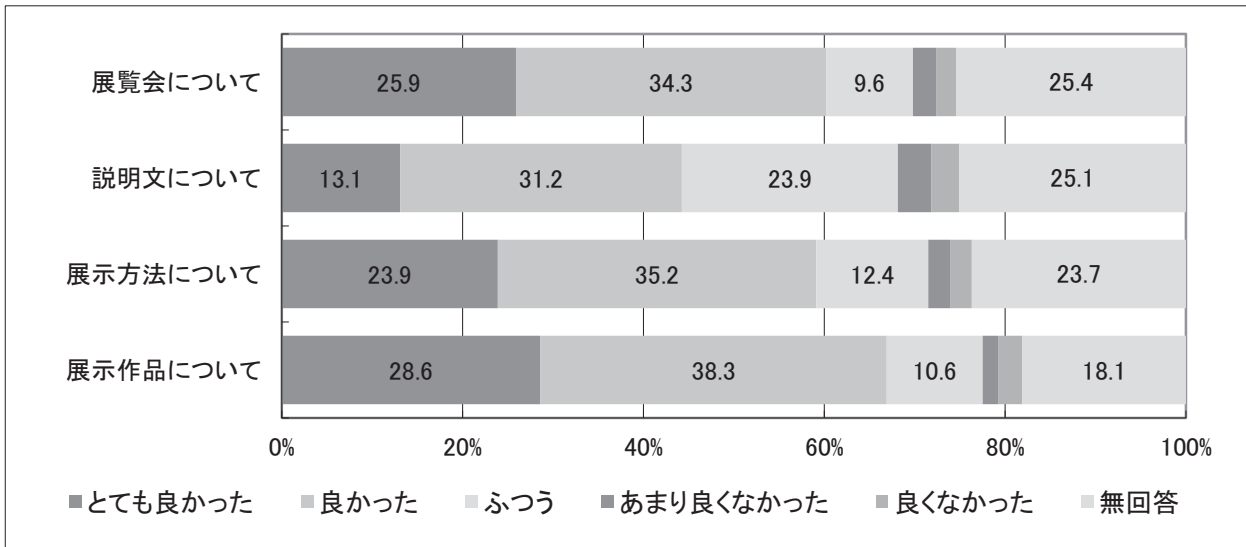
①アンケート回答年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・3カ国の陶磁を比較して見られるという展示テーマがよかった。
- ・「黒楽茶碗 銘ムキ栗」「火焰型土器」「三彩馬」「家形容器」がよかった。
- ・もう一度見に来たい。またこのような企画が見たい。
- ・陶磁器をとおして3カ国の文化・歴史に触れ、大変勉強になった。
- ・名品ぞろいで見応えがあった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	2.6	2.2
説明文	3.7	3.1
展示方法	2.4	2.4
展示作品	1.7	2.7

(%)

本展覧会は、日本、中国、韓国の3カ国を代表する国立博物館の館長会議において、3カ国の文化財を通じた連携強化を図る取り組みの一つです。この度、3カ国による初めての国際合同で実施する初めての国際共同企画展を東京国立博物館で開催いたしました。中国は中国国家博物館、韓国は韓国国立中央博物館の所蔵品、日本からは東京国立博物館の所蔵・寄託品と文化庁の所蔵品を各国15件ずつ、あわせて45件が出品されました。各館の陶磁器コレクションの特徴をふまえて厳選された名品が一堂に会した本展には、6万人を超えるお客様にご来場いただきました。

アンケートの結果、60%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「3カ国の歴史的背景や比較についての説明が足りない」「関連作品が展示されている東洋館への案内が足りない」といったご意見もいただきました。

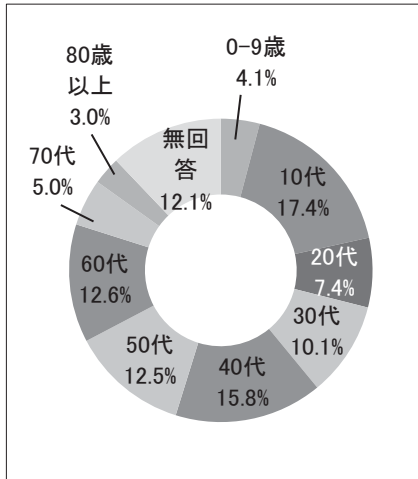
今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

「日本国宝展」アンケート集計結果

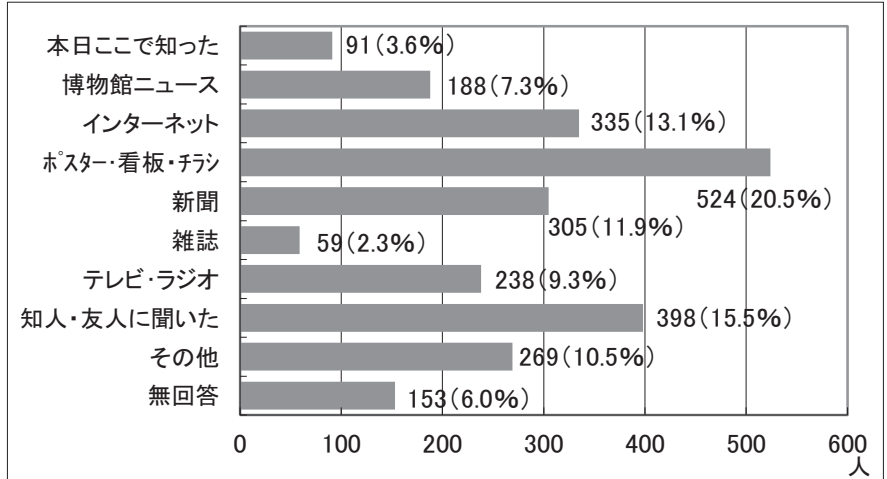
開催期間：平成26年10月15日（水）～ 12月7日（日）（47日間）

回答者数：2,080人（総入館者数：386,708人 アンケート回収率：0.54%）

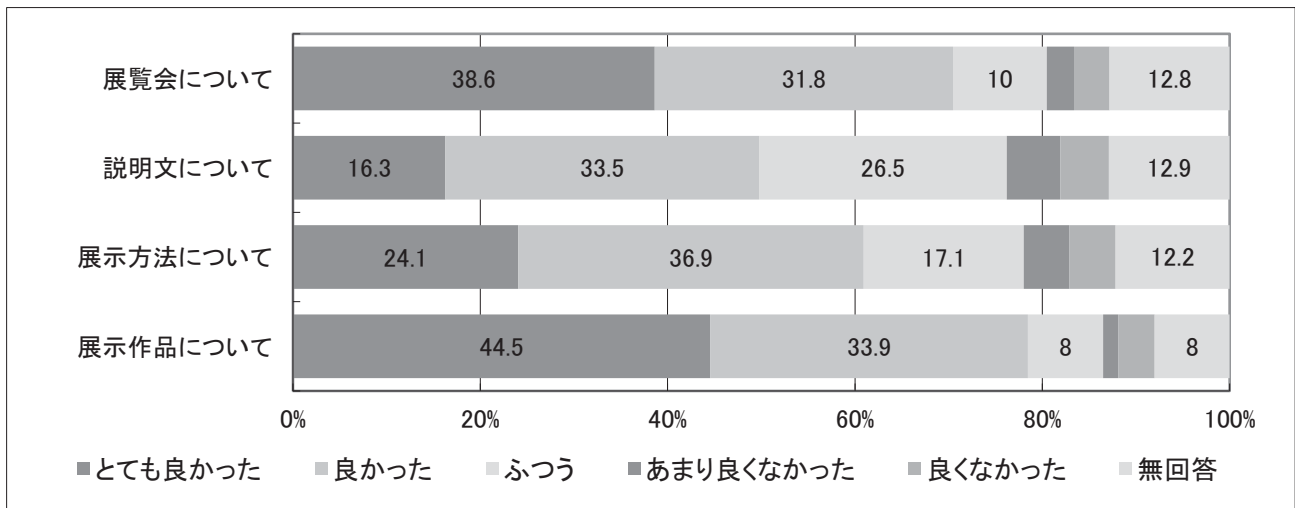
①アンケート回答年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・貴重な国宝が勢揃いで、見応えがあった。
- ・「金印」「土偶」「元興寺極楽坊五重小塔」「玉虫厨子」がよかった。
- ・信仰に根ざした日本文化に触れて、大変勉強になった。
- ・展示の仕方が良かった。工夫されている。
- ・説明文が理解の助けになった。

注:上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	2.9	3.8
説明文	5.7	5.2
展示方法	4.9	4.9
展示作品	1.6	3.9

(%)

日本には、美術的、歴史的に貴重な意義を有する文化財が数多くあり、中でも世界文化の見地から、高い価値をもつものを、類い稀な国の宝として、「国宝」に指定しています。本展覧会は、これら国宝の中で、人々の篤い信仰心が結実した文化的遺産を集め、日本文化形成の精神を見つめ直すことを試みた壮大な展覧会です。今回は、正倉院宝物から11件が特別出品されるなど、平成時代に入り3回目の「日本国宝展」の開催となりました。

本展覧会は、天皇陛下の傘寿を記念する年にあたり、国宝約120件が集結し、38万人を超える方々にご来館いただきました。アンケートの結果、展覧会に対して約70%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「照明が暗い」「会場が混雑していて作品が見え難い」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

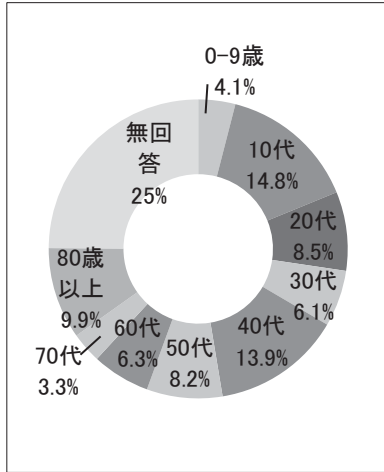
東京国立博物館

特別展「3.11 大津波と文化財の再生」アンケート集計結果

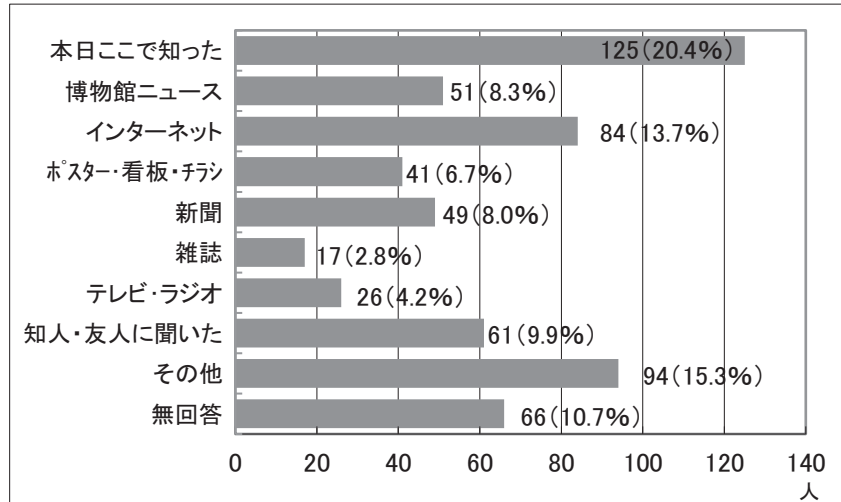
開催期間：平成27年1月14日（水）～ 3月15日（日）（53日間）

回答者数：574人（総入館者数：78,615人 アンケート回収率：0.73%）

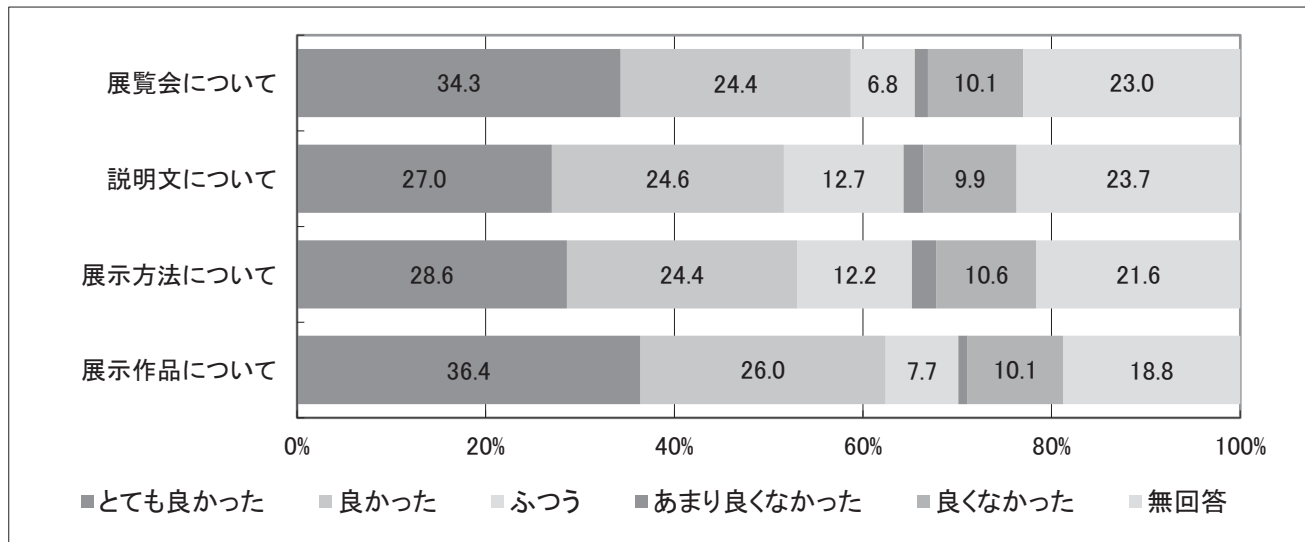
①アンケート回答年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・文化財レスキューの活動を初めて知った。
- ・再生のために尽力している方々の存在を知って、感動した。
- ・東北の震災の様子や関わりが興味深く、心に残った。
- ・展示場所が分かれていて分かり難い。
- ・陸前高田市に限定されているのが残念だった。

注:上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった
展覧会	1.4
説明文	2.1
展示方法	2.6
展示作品	1.0

(%)

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震が引き起こした大津波は、地域の文化を支えてきた文化財にも甚大な被害をもたらしました。

救出された文化財は、海底のヘドロ、生活雑排水に含まれる様々な雑菌類などが原因となり、変色や腐敗腐食といった劣化が急激に進む恐れがあります。そのため、「安定化处理」と呼ばれる劣化の原因を取り除く作業が必要となりますが、すべてを終えるには今後10年はかかるといわれています。

本展では、これまでの4年にわたる修復作業の過程および現状を紹介し、7万8千人にご来館いただきました。アンケートの結果、展覧会に対して約60%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「会場が分かれていて分かり難い」「地域が陸前高田市に限定されているのが残念だ」などのご意見も寄せられました。

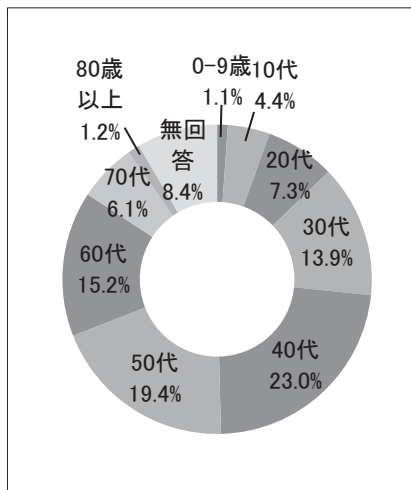
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

特別展「みちのくの仏像」アンケート集計結果

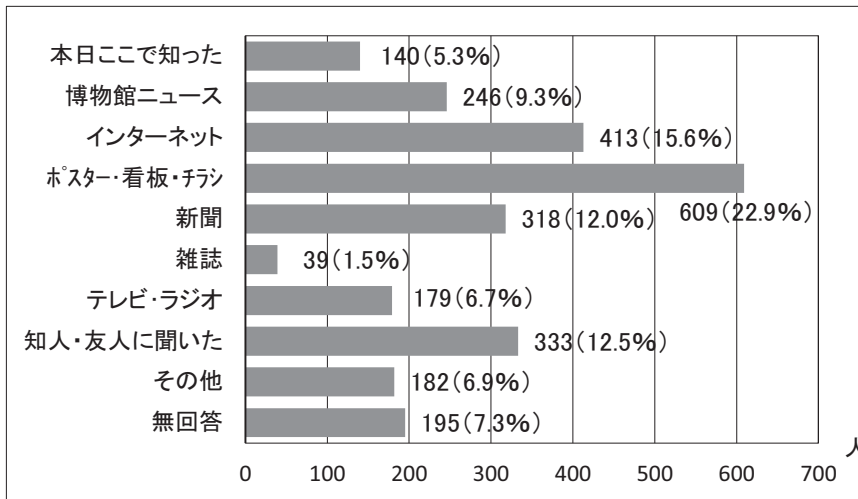
開催期間：平成27年1月14日（水）～ 4月5日（日）〔73日間〕

回答者数：2,252人（総入館者数：179,521人 アンケート回収率：1.25%）

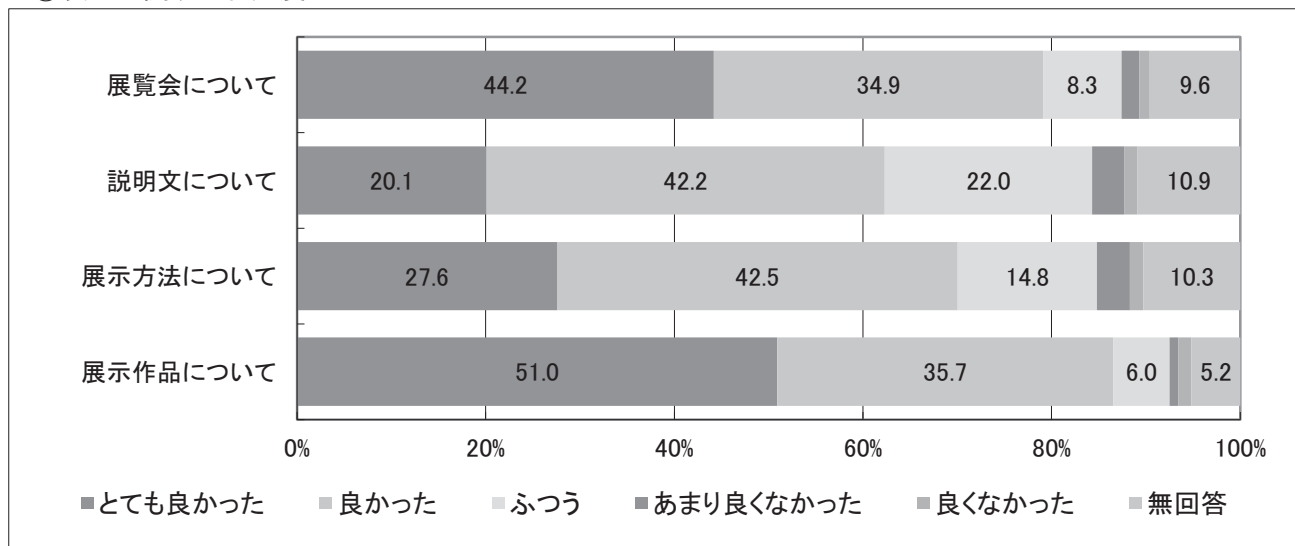
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・素朴で力強く、素晴らしい仏像ばかりだった。
- ・「薬師如来坐像（勝常寺蔵）」「十一面観音菩薩立像」「十二神将」がよかった。
- ・全ての寺社を実際にお参りに周るのは難しいため、このように一度に全て見られてよかった。
- ・音声ガイドの薬師丸ひろ子さんのナレーションがとてもよかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	1.9	1.1
説明文	3.4	1.4
展示方法	3.5	1.4
展示作品	0.9	1.4

(%)

本展覧会は、東北の三大薬師と称される、黒石寺(岩手県)、勝常寺(福島県)、双林寺(宮城県)の薬師如来をはじめ、東北各県を代表する仏像が一堂に会する展覧会です。東北地方の仏像は、一木造、素地仕上げなど、独特の手法で制作され、その力強い表現と特有の人間味あふれる雰囲気知られています。会期中に東日本大震災から4年を迎え、そのような「みちのくの仏像」とおして東北の魅力にふれていただく機会とさせていただいた本展には、18万人近い方々にご来場いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約80%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見を賜りました。一方で、「出品数が少ない」「会場が狭い」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

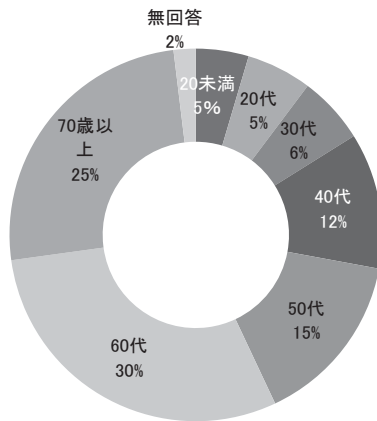
京都国立博物館

特別展覧会「南山城の古寺巡礼」

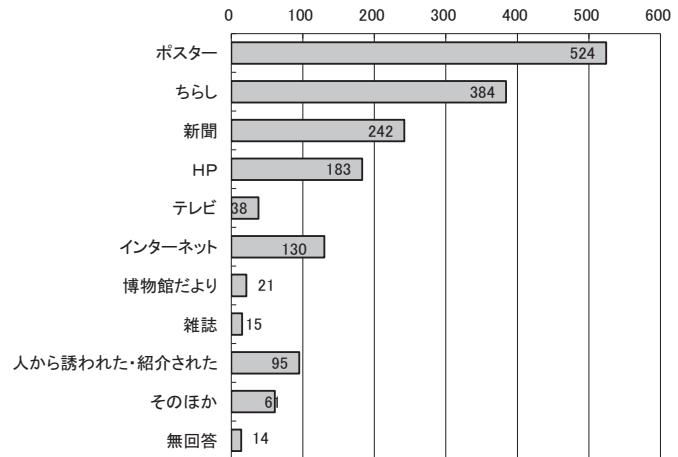
アンケート集計結果

開催期間：平成26年4月22日（火）～ 6月15日（日）（49日間）
 回答者数：1,093人（総来館者数 69,443人 アンケート回収率1.6%）

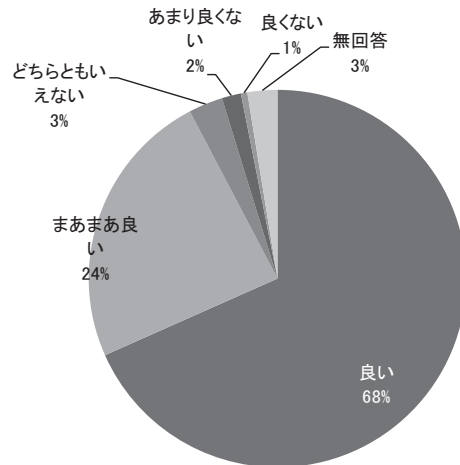
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

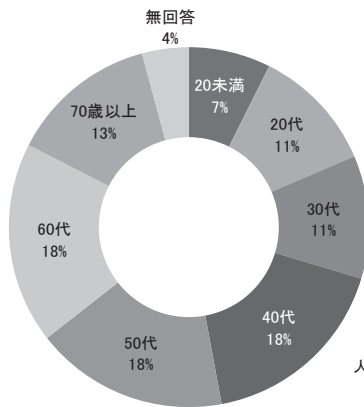
- ・良かった、面白かった、素晴らしかった、感動した
- ・今後も充実した展覧会を期待している
- ・見ごたえがあった、充実した内容だった
- ・実際巡るのは大変なお寺の作品を拝見できて、よかった

特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」

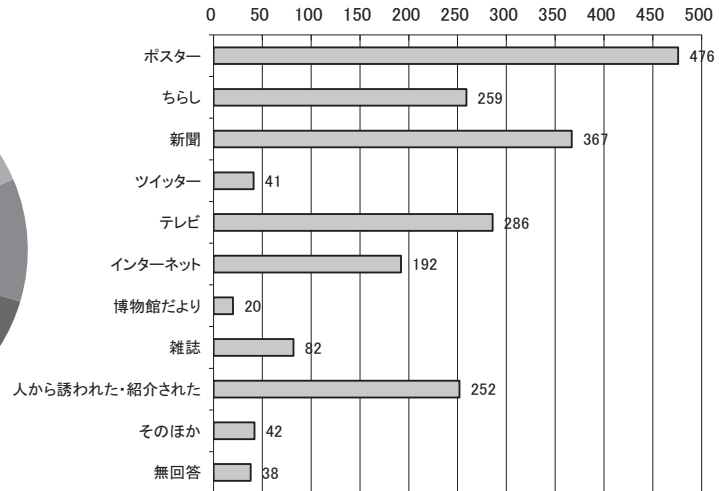
アンケート集計結果

開催期間：平成26年10月7日（火）～ 11月24日（月）（43日間）
 回答者数：2,171人（総来館者数 203,900人 アンケート回収率 1.1%）

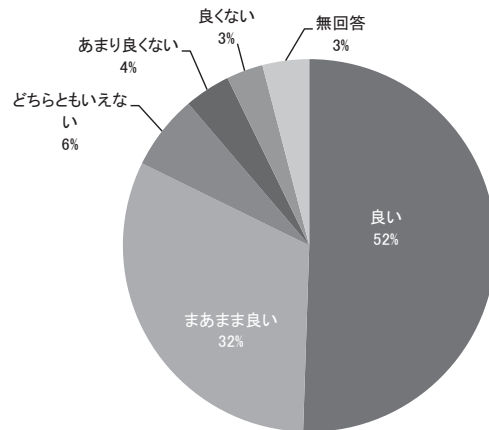
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



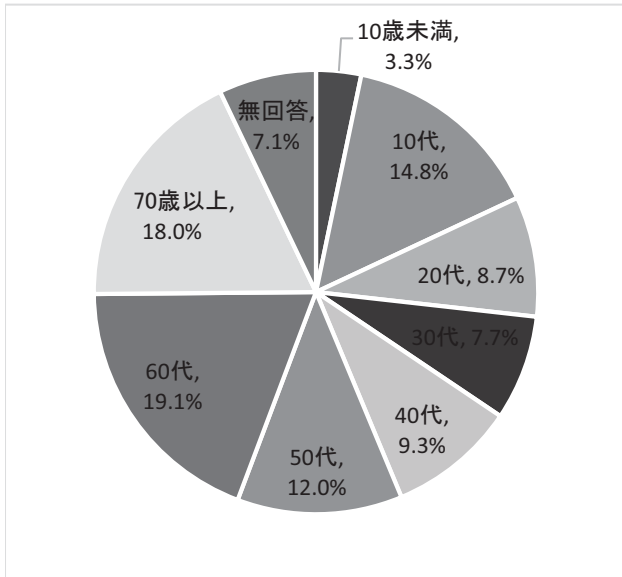
④主な意見・感想

- ・良かった、面白かった、素晴らしかった、感動した
- ・見ごたえがあった、充実した内容だった
- ・見やすい、わかりやすい展示だった
- ・本物を間近で見ることが出来て、よかった
- ・長時間並んだのに、ゆっくり見られなかった・待ち時間が長すぎた

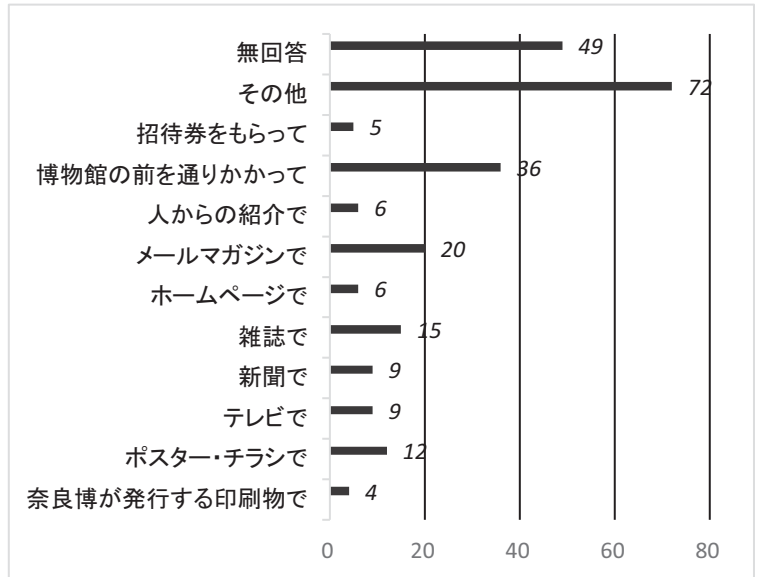
特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 迫真とエキゾチシズム」 アンケート集計結果

開催期間: 平成26年4月5日～6月1日(51日間)
回答者数: 183人 入場者数37,022人 回収率 0.49%

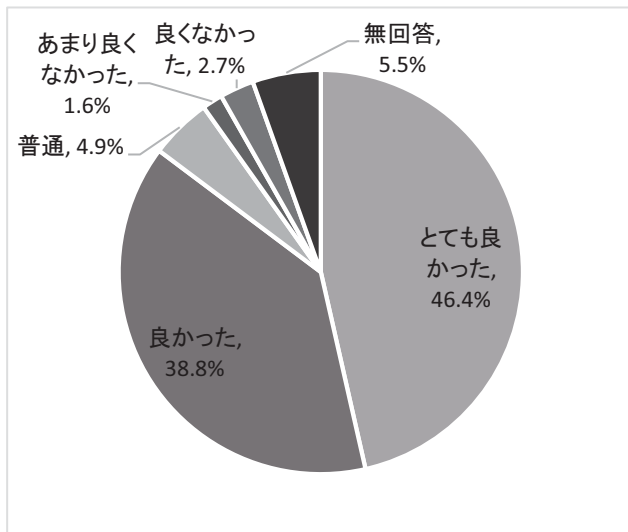
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

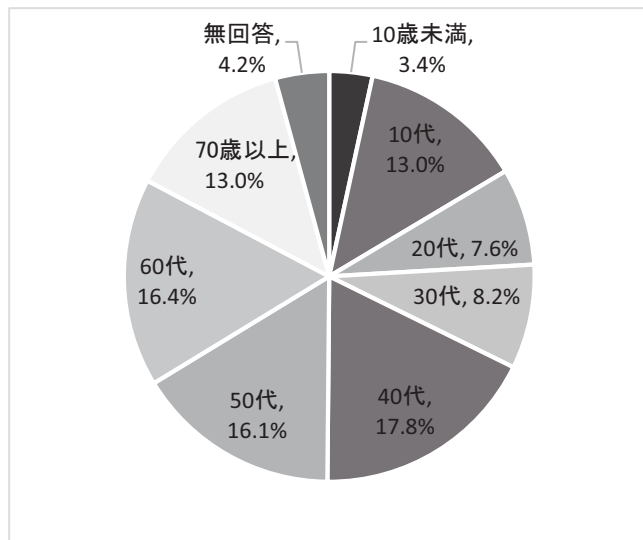
- ・京都・奈良の仏像とはまた一味異なり、鎌倉で発展した仏像を見る事ができた。
- ・エキゾチックな雰囲気が非常に印象的。
- ・質の高い作品が多くて良し。いつ来ても仏像展示が秀逸。
- ・ポスターにひかれて来た。エキゾチシズムというだけあって、京都、奈良と一風違った仏様が多くおもしろかった。
- ・鎌倉時代の仏像が一堂に見られてよい企画でした。
- ・館内が暗すぎ、文字が読みづらい。仏像の細部、頭部も見えづらく、残念です。

特別展「国宝 醍醐寺のすべて 密教のほとけと聖教」

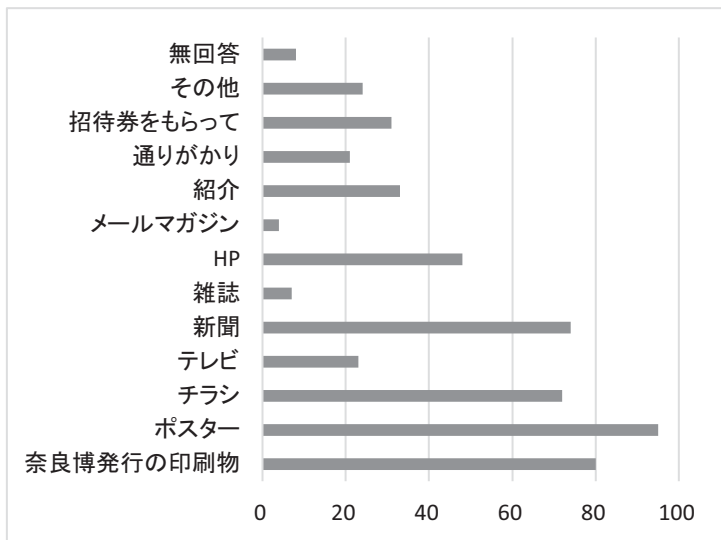
アンケート集計結果

開催期間：平成26年7月19日～9月15日(52日間)
 回答者数：353人 入場者数：78,376人 回収率：0.45%

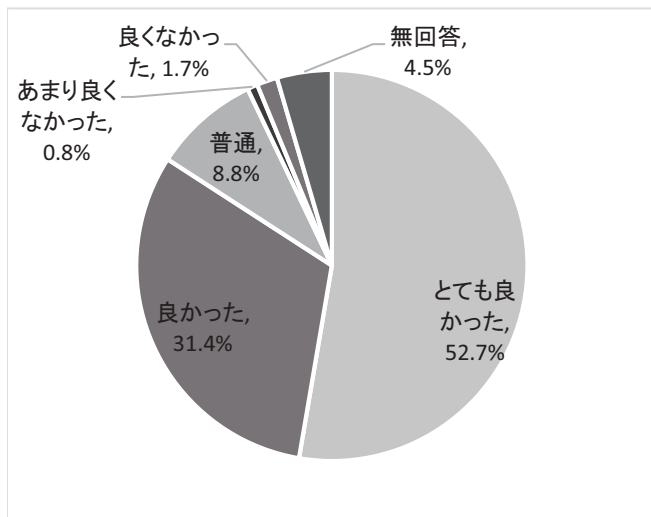
①年齢層



②認知経路(複数回答あり)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

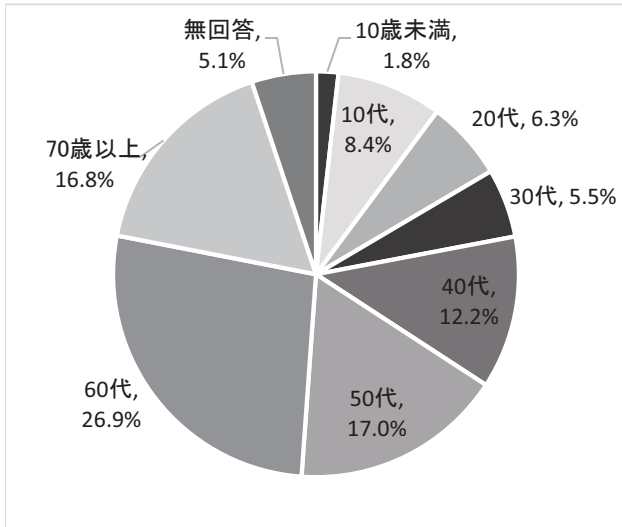
- ・醍醐寺の開山から近世に至る歴史を良く理解できました。素晴らしさに感動のひと言に尽きます。
- ・ふだんお寺では見ることができないものまで見ることができたのがよかった。
- ・五大明王五体をそろえて迫力があつた。
- ・仏像が好きなので間近で見ることが出来、とても良かったです。
- ・古文書の展示は出来れば全文訳を併記して欲しかった。
- ・通路の幅が広く、ゆったり歩きやすかった。
- ・文書が予想以上に良かった。

天皇皇后両陛下傘寿記念 第66回正倉院展

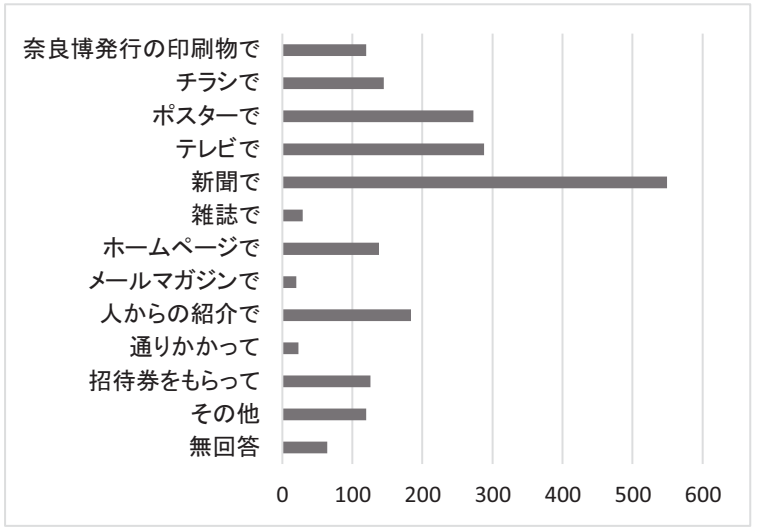
アンケート集計結果

開催期間:平成26年10月24日～11月12日(20日間)
 回答者数:1,404人 入場者数:269,348人 回収率: 0.52%

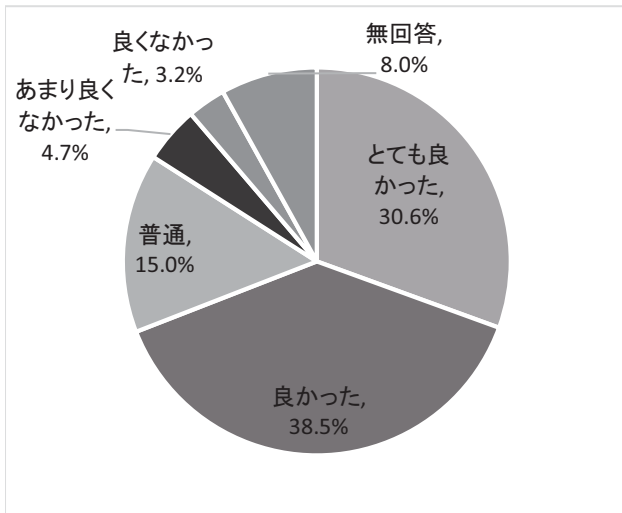
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



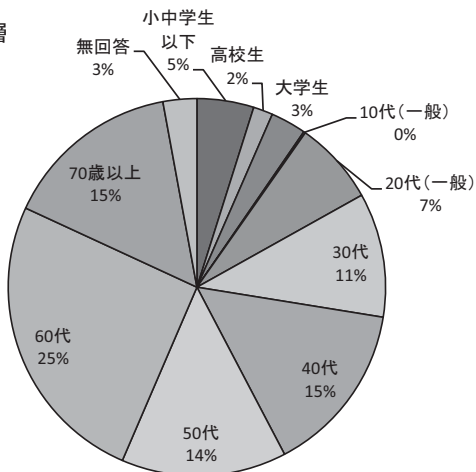
④主な意見・感想

- ・正倉院の様々な種類の宝物が、まんべんなく展示され概要がつかみやすかった。
- ・1300年近く前のものをていねいに大事に美しく保存し、見せてくださって感激です。
- ・見づらい細かな文様をパネル展示することで、宝物の詳細がよくわかった。
- ・古文書に細かく注が付してあり、わかりやすい。展示解説は年々わかりやすく工夫されていると思う。
- ・人多すぎてゆっくりと見られなかったのが残念。
- ・展示室内の人の流れが悪かった。順路等工夫できる余地があると思う。

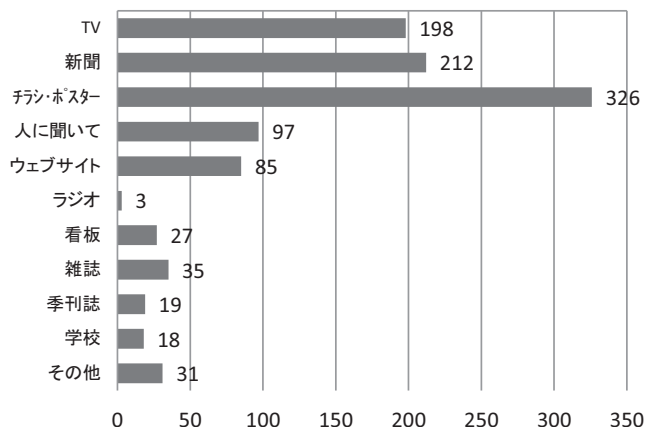
特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」 アンケート集計結果

開催期間：平成26年4月15日(火)～6月8日(日) (49日間)
 総回答者数：657人 (総来館者数：60,808人 アンケート回収率：1.08%)

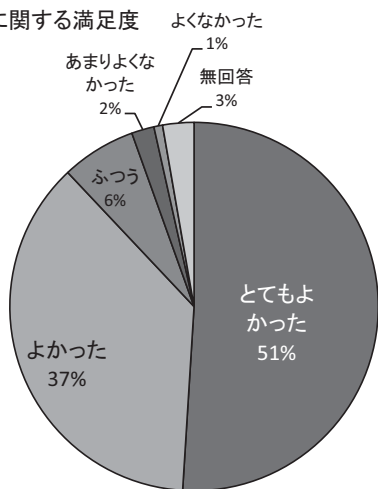
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・展示室が広すぎず、見やすかった。・体験コーナーが良かった。
- ・音声ガイドが大変良かったです。・天井からかな文字を吊り下げてライティングしているのが美しく良かった。
- ・レイアウトは見やすく良かったが、もう少し屏風や絵画も展示して欲しい。・車椅子では見えづらいレイアウトだった。
- ・全体的に暗いので良く見えない。・靴音が気になるので、何か対策をして欲しい。
- ・講演会等が良かった。
- ・観覧態度の悪い人たちをきちんと注意して欲しい。
- ・図録がとても良かった。

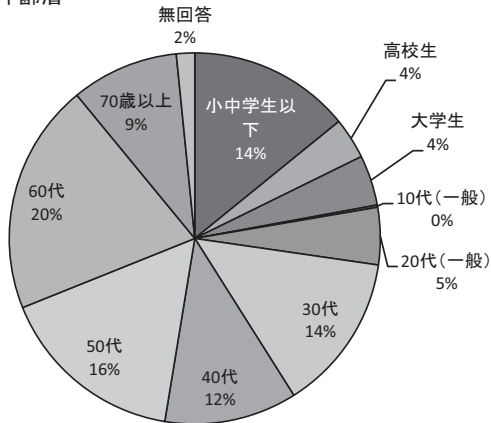
九州国立博物館

特別展「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美—」 アンケート集計結果

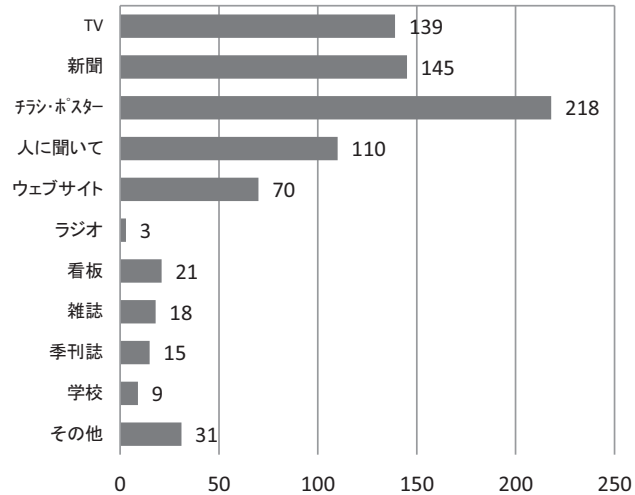
開催期間：平成26年7月8日(火)～8月31日(日) (49日間)

総回答者数：502人 (総来館者数：70,794人 アンケート回収率：0.7%)

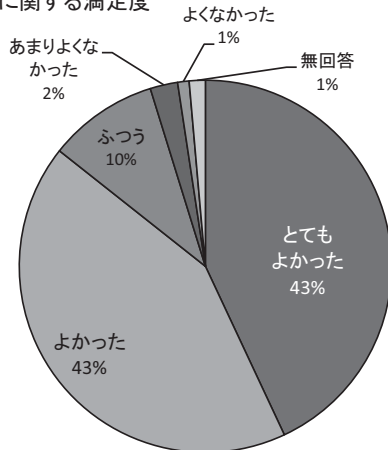
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

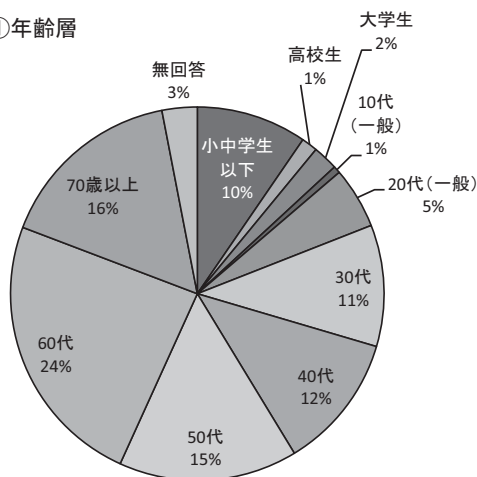
- ・レイアウトや作品の説明が分かりやすく、見やすかった。
- ・ただ観覧だけでなく、体感することが出来る展示でとても楽しめた。
- ・巻物や屏風絵は基本的に右から見るものと思いますが、進行方向の流れで左から見ざるを得ず、何となく気持ち悪かったです。
- ・もっと多くの作品があれば良かった。
- ・作品に鑑賞のポイントのコメントがあり、分かりやすくて良かった。
- ・会場内の靴の音が響き、大変気になった。
- ・観覧態度の悪い人をきちんと注意して欲しい。
- ・再入場出来る様にして欲しい。
- ・展示品解説文を作品の両側に置いてもらえるともっと見やすいのでは。
- ・見るもの全てが良かった。感動的でした。
- ・遠くから見たい作品は離れて見る事が出来る配置にあり、良かった。

特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」 アンケート集計結果

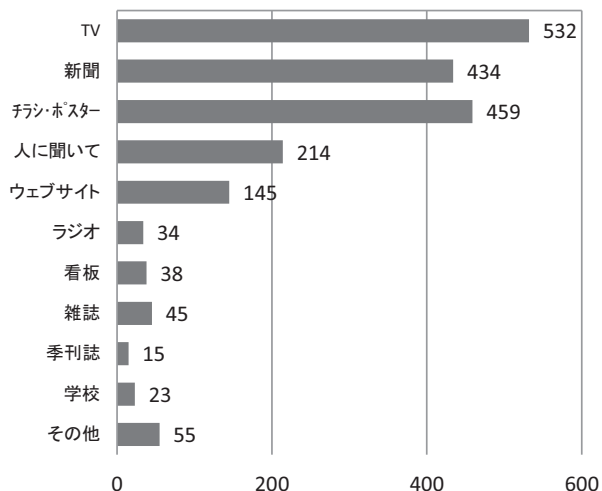
開催期間：平成26年10月7日(火)～11月30日(日) (51日間)

総回答者数：1,150人 (総来館者数：256,070人 アンケート回収率：0.4%)

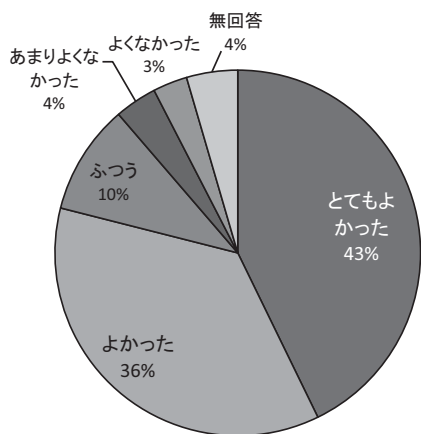
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・混雑はしていたが観覧しやすかった。・係員の誘導が適切だった。
- ・以前、谷原さんのトークショーに参加し、展覧会へ行きました。ただ観覧するよりも予習していったので、より一層理解が深まりました。
- ・時代を越えた空間に一時入り込むことでリフレッシュ出来た。
- ・会場内のレイアウトはもう少し人が流れるようにして欲しい。
- ・展示品の裏(底)が見たいので鏡等の設置をして欲しい。
- ・車椅子の人にはケースが高すぎて見えない。鏡を利用し、正面からだけではなく他の角度からも見られるようにして欲しい。
- ・解説文は展示品のケースの四面に付ければ、混雑時でも見えやすいのでは。
- ・ミュージアムホールを使い映像を流す。大変良いアイデアだと思った。
- ・バーコードリーダー機能のタブレットを貸し出して、外国の人が作品の説明を作品ごとに添えたバーコードリーダーを読み込むことで、自国の言語で読めるようにしてはどうでしょうか。
- ・ガラスについての指紋をもっと頻繁に拭いてほしい。

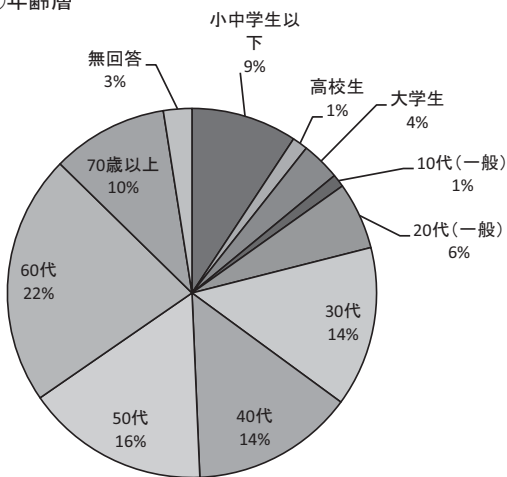
九州国立博物館

特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」 同時開催「発掘された日本列島2014」 アンケート集計結果

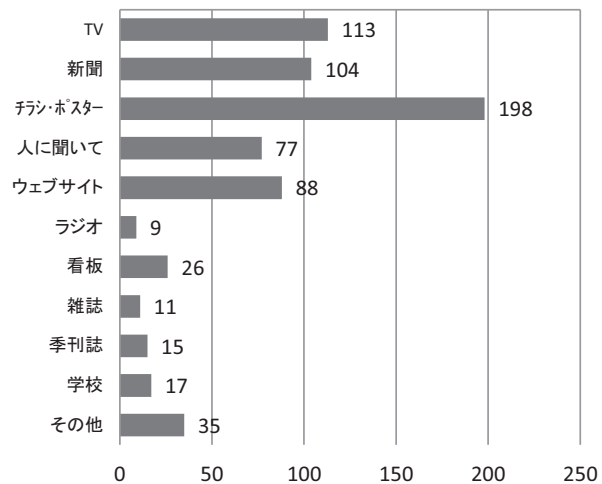
開催期間：平成27年1月1日(木)～3月1日(日) (52日間)

総回答者数：442人 (総来館者数：59,629人 アンケート回収率：0.7%)

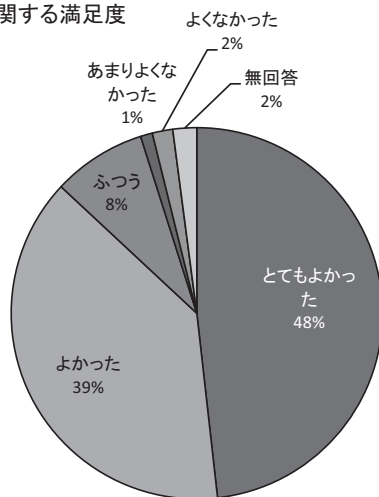
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・毎回丁寧な展示内容に感心している。特に若い方にもっと来て見てもらえたら良いと思う。
- ・日本発掘が予想以上に良かった。
- ・発掘作業、考古学者の仕事の貴重さと大変さがよく伝わった。
- ・会場のレイアウトが良かった。
- ・子供が資料にメモを取る時、展示ケースを下敷き替わりに使用し、ガラスが汚れている。バインダー等の使用を促して欲しい。
- ・韓国の方もみえてるので、ハングルの説明もつけてはどうでしょう。
- ・暗すぎず明るすぎず、天上も高くすっきりしていて良かった。
- ・最後の映像の音が小さかった。出口付近なので人の出入りがあり、聞き取りにくかったので字幕をつけて欲しい。